

世間の落ち着きと共にわが国の文化活動も徐々に復活し、新しい民主化の一環として「教育刷新委員会」が設けられ（昭和二十一年八月九日）学制改革が行われることになった。二十三年（一九四八）秋には東京音楽学校も美術学校と合併して、東京芸術大学に昇格することが決定した。ちょうどこの年は創立および音楽教育創始七十周年目（音楽取調掛設置年から起算）に当り、十月二十六日から二十八日まで帝国劇場を借り切って記念祭を催した。翌二十四年三月の奏楽堂における記念演奏会（創立七十周年）には天皇（昭和天皇）・皇后両陛下の行幸啓を仰ぐことができた。この一連の行事は、まさに東京音楽学校の最後を飾るにふさわしい祭典であった。同年五月、東京芸術大学音楽学部が発足し、制度上、東京音楽学校は幕を降ろした。だが東京音楽学校はその前年の四月に最後の生徒を入学させ、彼らが卒業する昭和二十七年三月まで、事実上存続した。

(1) シュヴィーガーは辞任せざるを得ない心境を昭和十二年十一月八日付け書翰で乗杉校長宛に述べている（『外国人教師関係綴』昭和十二年〜十三年、一八三〜四丁）。当時、この件に端を発し、新聞・雑誌等で東京音楽学校批判が多く行われた。なお、シュヴィーガーは昭和四十九年客員教授として再来校、音楽学部オーケストラを三年間にわたって指導した。

(2) フェルマーはドレスデンの出身。ザクセン国立管弦楽学校を一九二八年に卒業、同年より三年までヴァイマルのドイツ国民劇場副指揮者、この間イエーナ大学で音楽学、哲学、芸術史学を修める。三年同劇場の楽長となる。同年チューリングンのオルテンブルク市立劇場指揮者に転ずる。また作曲家、ピアニスト、伴奏者としても活躍。三八年（昭和十三年）東京音楽学校教師として来日、管弦楽と合唱の指揮ならびに作曲の指導に当った。昭和二十一年三月三十一日まで在職。帰国後はハンブルク国立歌劇場の合唱指揮者を務めた。一九七七年三月二十日（六十八歳）没。

(3) 日本政府で組織されていた「内閣紀元二千六百年祝典事務局」は欧米六カ国に祝典の交響的作品を依頼した『音楽評論』第九卷第九号・十号、昭和十五年九月号・十月号。その中でアメリカを除く五カ国より次の五曲が贈られてきた。

Richard Strauss: Festmusik zur Feier des 2600 jährigen Bestehens des

Kaisereiches Japan, Op. 84 [「レイン」]
 Jacques Ibert: Overture de fête (1940) [「フランス」]
 Ildebrando Pizzetti: Sinfonia in la (1940) [「イタリア」]
 Sándor Veress: Szmifonia (1940) [「ハンガリー」]
 Benjamin Britten: Sinfonia da requiem for full orchestra, Op. 20 (1940) [「イギリス」]（この曲は当日演奏されなかったが、自筆譜は東京芸術大学附属図書館に保管されている。）

昭和十三年一月二十九日 研究科生徒ピアノ演奏会

昭和十三年一月二十九日（土曜日）午後二時開場
 二時卅分開演

於 本校奏楽堂

ワインガルトン教師 担当研究科生徒 ピアノ演奏曲目

東京音楽学校

1. バツ ハ作… パルティータ・ハ短調… 角倉美彌子
 2. ベートーヴェン作…

(a) ロンド・ト長調・作品五一 } 井川都
 (b) ポロネーズ・作品八九 }

3. ヨーゼフ・マルクス作… プレリユードとフーゲ・

變ホ短調… 志賀登喜

4. ラクマニノフ作… 第二協奏曲・ハ短調・

第一樂章… 永井進

——(休憩)——

5. シューマン作… 交響的練習曲・作品一三… 大澤ハル

6. ショパン作：ポロネーズ・ファンタジー・
作品六一……………岩田 禮子
7. ラヴェル作：ソナタイネ……………内藤 輝子
(モビーレーメヌエット樂章—アニメ)
8. リスト作：「ヴェニスとナポリ」より…内藤喜久子
ユンドリエラとタランテラ
〔原資料横組〕

Sanstag, den 29. Januar, um 2 Uhr 30,
im Konzertsaal der kaiserlichen

Musikakademie zu Tokio.

Konzert der Schüler

der

unter der Leitung von Prof. P. Weingarten

Programm

1. Bach: Partita, c-moll ……………Mineko Suminokura
2. Beethoven: Rondo, Op. 51. G-dur } ……Miyako Ikawa
Polonaise, Op. 89. }
3. Joseph Marx: Präludium und Fuge, es-moll
……………Tokiko Shiga
4. S. Rachmaninoff: Konzert Nr. 2. c-moll. I. Satz.
……………Susumu Nagai
——(Pause)——
5. Schumann: Symphonische Etüden, Op. 13
……………Haru Ohsawa
6. Chopin: Polonaise-Fantasie, Op. 61 ……Reiko Iwata

7. M. Ravel: Sonatine……………Teruko Naito
Moderé—Mouvement de Menuet—Animé
8. Liszt: Gondoliera und Tarantella……………Kikuko Naito
aus "Venezia e Napoli!"

上野音楽学校の意義深き演奏會

×…上野音楽學校に招聘されたウイーン名教授ワインガルテン氏が滿二年の任期が完了して今春歸國されるにつき、同氏擔當の同校研究科生徒八氏の成績發表演奏會が行はれた(一月廿九日、同校奏樂堂)。これは上野における近來意義深き催しであつた。

×…歐洲における洋琴演奏法の一頂點にあるウイーン、ザウアー系統の精緻を極めた傳統的奏法を僅に二年の短日月で完全に本邦に移植しようとするのは無理なことである。従つて、生徒諸氏の内には同流になり切つてゐぬ人もないではなかつたが、中には見事にそれを體得してゐた人達もあつた。女性の内藤喜久子嬢、志賀登喜子嬢等その傾向の著しい人達だが、殊に男性の永井進氏の進境には目覺ましい驚異的なものがあつた。

×…これ等の人々は上野が嘗て示した最も音樂的に達成されたものであつたと思はれる。これをもつて見ても今日のわが洋琴教育界が現在世界第一流の教師を必要とすることが歴然であらう。ワインガルテン氏の辭任は惜しまれてならない。(野村光一)
(「東京日日新聞」昭和十三年二月三日)

昭和十三年二月十二日 第一〇五回學友會演奏會

東京音楽學校學友會

第一〇五回學友會演奏會

昭和十三年二月十二日(土)午後一時三十分

曲 目

トロンボーン 獨奏

山本 正人

吹奏樂伴奏

指揮 山口 正男

イ、インドの歌：「サドコ」より……………リムスキー・コルサコフ

ロ、故郷の人達（變奏曲）……………フオスター・カメロン編

ソプラノ 獨唱

藤島 晴子

伴奏 森 鼻 とし

遂に、おゝ我が最愛の愛人よ……………グルツク

ヴァイオリン 獨奏

朴 敏 鍾

伴奏 大島 正泰

ソナタ イ長調……………ヘンデル

アンダンテ—アルレグロ

アダージョ—アルレグロ

ソプラノ 獨唱

石場 ハル

伴奏 日原 満珠子

歌劇「フィガロの結婚」より……………モツアルト

イ、遂に時は来りぬ…スザンナの詠唱

ロ、新しき喜び、新しき悲しみ…小姓の詠唱

ピアノ 二重奏

第一ピアノ 佐藤 英子

第二ピアノ 山 田 操

交響詩 ハンガリア……………リスト

F・リストの編曲

休 憩

ピアノ 三重奏

ピアノ 今井 治郎

ヴァイオリン 清田 金吾

セ ロ 赤 松 稔

ピアノ 三重奏曲 變ロ長調 作品一一……………ベートーヴェン

アルレグロ コンブリヲ

アダージョ

アルレグレット（主題と變奏曲）

ソプラノ 獨唱

藤島 紀久子

伴奏 末元 悦子

歌劇「フィガロの結婚」より 伯爵夫人の詠唱……………モツアルト

ヴァイオリン 獨奏

今井 仁

伴奏 川口 輕六

コンツェルト ニ短調 作品三一……………ヴュータン

イントロダクシオン

アンダンテ—モデラート

アダージョ レリチオーソ

ピアノ 獨奏

外狩 伸一

第二ピアノ シロタ 教師

コンツェルト ト長調 作品五八……………ベートーヴェン

第一樂章 アルレグロ モデラート

（カデンツァはベートーヴェンに依る）

テノール 獨唱

柴田 睦 陸

伴奏 川口 輕六

歌劇「アイダ」より ラダメスのロマンツェ……………ヴェルディ

ピアノ 獨奏

田中 立江

第二ピアノ シロタ 教師

コンツェルト 第一番 變ホ長調……………リスト

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonnabend, den 12. Feb. 1938 nachmittags 1½ Uhr.
 105. SCHÜLER-KONZERT
 DER MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Posaune Solo M. Yamamoto
 Blasorchester
Dirigent. M. Yamaguchi
 a. A Song of India (from "Sadko").....Rimsky-Korsakow
 b. Old folks at home (Arie Varié).....Foster—Cameron
 Sopran Solo H. Fujishima
Begl. T. Morihana
 O del mio dolce ardorGluck
 Violine Solo B. Boku
Begl. M. Oshima
 Sonate A-dur.....Händel
Andante—Allegro
Adagio—Allegro
 Sopran Solo H. Ishiba
Begl. M. Hinohara
 Aus der Oper "Figaro"Mozart
 a. Arie der Susanne: naht sich die Stunde.
 b. Arie des Pagen: neue Freuden, neue Schmerzen
 Zwei Klaviere *I Klavier* H. Sato
II Klavier M. Yamada
 Hungaria (Symphonische Dichtung)Liszt
 bearbeitet von F. Liszt
 Pause
 Klavier Trio *Klavier* J. Imai

Violine K. Seita
Cello M. Akamatsu
 Klaviertrio Op. 11 B-dur.....Beethoven
Allegro con brio
Adagio
Allegretto. (Tema con Variazioni)
 Sopran Solo K. Fujishima
Begl. E. Suemoto
 Arie der Gräfin.....Mozart
 aus der Oper "Figaro"
 Violine Solo S. Imai
Begl. K. Kawaguchi
 Konzert d-moll Op. 31.....Vieuxtemps
Introduction
Andante-moderato
Adagio religioso
 Klavier Solo C. Togari
II Klavier Prof. Sirota
 Konzert G-dur Op. 58.....Beethoven
Allegro moderato
(nach Kadenz von Beethoven)
 Tenor Solo M. Shibata
Begl. K. Kawaguchi
 Romanze des Radames.....Verdi
 aus der Oper "Aida"
 Klavier Solo T. Tanaka
II Klavier Prof. Sirota
 Konzert Nr. 1 Es-durLiszt

昭和十三年二月十三日 第一〇六回学友会演奏会

東京音楽学校学友会

第一〇六回学友会演奏会

昭和十三年二月十三日(日)午後二時三十分

曲 目

作品發表

混聲合唱曲

櫻田へ 高市黑人詩……………津久井 昇
はためき 木下李太郎詩……………丸山 和雄

合唱指揮 木下助教

アルト 獨唱

伴奏 渡部 澄子

オラトリオ「パウロ」より

詠唱「神よ我に恵みを垂れ給へ」……………メンデルスゾーン

三 重 奏

フリユート 鈴木 正三
オーボエ 山 本 力
ピアノ 貫名 教授

ソナタ(トリオ)ト長調……………バッハ

ヴァイオリン 獨奏

ヴァイオリン 清野 保子
伴奏 會澤 幸子

ソナタト短調……………タルティーニ

クワジ アンダンテイノー

プレスト ノン トロツポ

ピアノ 獨奏

井尻 櫻子

コンツェルト 第一番 變ホ長調……………リスト

第二ピアノ 井口助教

休 憩

ソプラノ 獨唱

井上フミ

歌劇「セヴィラの理髮師」より ロディーナの詠唱……………ロッシニー

伴奏 田中立江

ピアノ 獨奏

川口 輕六

コンツェルトステュック 作品七八 へ短調……………ウエーバー

第二ピアノ シロタ 教師

ソプラノ 獨唱

松田 トシ

歌劇「夢遊病者」より アミナの宣敎唱及び詠唱……………ベリーニ

伴奏 堀 直子

ヴァイオリン 獨奏

田中富貴子

シヤコンヌ ニ短調(無伴奏)……………バッハ

ピアノ 獨奏

江戸 弘子

コンツェルト 第二番 ト短調……………サンサーン

第二ピアノ シロタ 教師

アンダンテ ソステヌート

アルレグロ スケルツァンド

プレスト

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonntag, den 13. Feb. 1938 nachmittags 1½ Uhr.

106. SCHÜLER-KONZERT

DER MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Komposition (Gemischtenchor)

Sakurada e.....N. Tsukui

Hataneki.....K. Maruyama

Dirigent Prof. T. Kinoshita

Alt Solo H. Hotta

Arie „Gott sei mir gnädig“Mendelssohn

Trio Flöte S. Suzuki

Oboe C. Yamamoto

Klavier Prof. M. Nukina

Sonate G-dur.....Bach

Violine Solo Y. Kiyono

Begl. Y. Aizawa

Sonate g-moll.....Tartini

Quasi andantino

Klavier Solo S. Ijiri

II Klavier Prof. M. Iguchi

Konzert Nr. 1 Es-durLiszt

Pause

Sopran Solo F. Inoue

Begl. T. Tanaka

“Una voce poco fa” Cavatina di Rosina

aus der Oper “Barbieri di Siviglia”Rossini

Klavier Solo K. Kawaguchi

II Klavier Prof. Sirota

Konzertstück f-moll Op. 79.....Weber

Begl. T. Matsuda

Sopran Solo N. Hori

Recit und Arie von Amina

aus der Oper “La Sonnambula”Bellini

Violine Solo (Violine allein) F. Tanaka

Chaconne d-mollBach

Partita II

Klavier Solo H. Edo

Konzert Nr. 2 g-mollSaint-Saëns

Andante sostenuto

Allegro Scherzando

Presto

昭和十三年二月二十六日 出征軍人家族慰問演奏会

昭和十三年二月二十六日 (土曜日) 午後六時開場

於 日比谷公會堂

出征軍人家族慰問演奏曲目

東京音樂學校

I. 管 絃 樂.....指揮橋本國彦

トビユッシイ作：小組曲

小舟に上

行列

メヌエット

ハレ

II. ソプラノ獨唱.....長坂好子

ピアノ伴奏 今井治郎

ヴェルディ作：歌劇「ラ・トラヴィアータ」第一幕中

ヴィオレッタの詠唱「あゝ、そはかのひとか」

Ⅲ. ピアノ獨奏・管絃樂……………獨奏 井口基成

伴奏指揮 橋本國彦

リスト作…ハンガリー幻想曲

—休憩—

Ⅳ. ヴィオロンチェロ獨奏・

管絃樂伴奏……………獨奏 ローマン・ドゥクソン

伴奏指揮 橋本國彦

ボツケリーニ作…協奏曲・變ロ長調

アレグロ・モデラート

アダージェオ

ロンド(アレグロ)

V. 獨唱・合唱・管絃樂……………指揮 木下保

ベートーヴェン作…彌撒曲・ハ長調・作品八六

1. 主憐み給へ

2. 榮光

愛國行進曲・四部合唱……………指揮 澤崎定之

(内閣情報部撰・橋本國彦演奏會用編曲)

國歌 君が代

合唱 東京音樂學校生徒

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

[原資料横組]

昭和十三年三月十九日 第三回上野兒童音樂學園卒業式

上野兒童音樂學園

卒業證書授與式順序

(昭和十三年三月十九日午後一時三十分開始)

一、國歌「君が代」奉唱

二、卒業證書授與

三、學園長告辭

四、卒業生總代謝辭

五、唱歌「螢の光」合唱

六、演 奏

曲 目

一、ピアノ獨奏 久保田民子

ソナタ作品十ト短調……………デュセツク

第二樂章 ヴィヴァーチェ コンスピリト

二、ヴァイオリン獨奏 三浦富士子

協奏曲樂曲第二番 作品七十七……………ダンクラ

アレグロ プリランテ

三、ピアノ獨奏 荒木富士子

即興曲風ワルツ 變ロ長調……………ラツフ

四、三重奏 ピアノ別府淑夫

ヴァイオリン 眞山壽子

セロ 渡邊善吉

ピアノ三重奏 第六番 二長調……………ハイドウン

第一樂章 アレグロ

五、唱 歌 尋常科卒業生一同

仰げば尊し(二部合唱)

昭和十三年三月二十二日 卒業式

昭和十三年三月二十二日(火曜日)午後一時開始

卒業證書授與式順序

東京音楽學校

- 一、国歌「君が代」奉唱
- 二、卒業證書並賞品授與
- 三、學校長告辭
- 四、文部大臣祝辭
- 五、卒業生總代謝辭
- 六、合唱「仰げば尊し」
- 七、卒業演奏

曲目

- 一、オルガン獨奏……………本科卒業 奥田耕天
 バッハ作・フーゲ「聖アン」・變ホ長調
- 二、ピアノ獨奏……………本科卒業 武田信
 シヨパン作・スケルツォ・嬰ハ短調・作品卅九
- 三、バリトン獨唱……………本科卒業 磯谷威
 マスネ作・歌劇「エロディアド」中のエロードの詠唱
- 四、ピアノ獨奏……………本科卒業 外狩仲一
 バッハ・ブーゾニ作・オルガン・トッカータとフーゲ・ニ短調
- 五、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 清野保子
 タルティーニ作・ソナタ・ト短調・第一、第二樂章

- 六、ピアノ獨奏……………本科卒業 有元延
 サン・サーン作・協奏曲・第四・ハ短調・作品四四・第一樂章
- 七、ソプラノ獨唱……………本科卒業 加古三枝子
 ヴェルディ作・歌劇「運命の力」中のレオノーレの詠唱
- 八、ピアノ獨奏……………本科卒業 田中立江
 バッハ・ブーゾニ作・シャコンヌ・ニ短調
 ——休憩・十分——
- 九、ピアノ獨奏……………本科卒業 森瑤子
 シヨパン作・船唄・嬰ハ長調・作品六〇
- 十、ソプラノ獨唱……………本科卒業 藤島紀久子
 ロルツィング作・歌劇「ウンディネ」中の水の精の詠唱
- 十一、ピアノ獨奏……………本科卒業 井上千賀子
 リスト作・パガニーニ練習曲・第六・イ短調
- 十二、テノール獨唱……………本科卒業 柴田陸
 プッチーニ作・歌劇「ラ・ボエーム」第一幕・ロドルフォの詠唱
- 十三、ピアノ獨奏……………本科卒業 太田綾
 シューマン作・交響的練習曲・作品一三
- 十四、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 山内妙子
 モーツァルト作・協奏曲・第三・ト長調・第一樂章
- 十五、ピアノ獨奏……………本科卒業 末元悦子
 シヨパン作・グラント・ポロネーズ・變ホ長調・作品二二

昭和十三年三月二十五日 文部省製作映画と音楽の夕

昭和十三年三月二十五日(金)午後六時

會場 日比谷公會堂

文部省製作 映画と音楽の夕

主催 文部省

映畫教育中央會

番組

第一部

一、国歌「君が代」奉唱

會衆一同

伴奏 東京音樂學校生徒吹奏樂部

二、合唱

上野兒童音樂學園兒童

百五十名

指揮 城多又兵衛

伴奏 黒澤愛子

イ、二宮金次郎

尋常小學唱歌(文部省)

ロ、飛行機

〃

ハ、秋の山

〃

ニ、橘中佐

〃

ホ、月と蛙

(二部合唱)

飯田龜代司作詩
下總皖一作曲

三、吹奏樂

東京音樂學校生徒吹奏樂部

指揮 山口正男

四、映畫

イ、アイダー行進曲

ヴェルデイ作曲

ロ、ハイスクール行進曲

スーザー作曲

イ、飛行機の發達 二卷

ロ、國民皆泳 二卷

ハ、二宮尊徳先生 三卷

休憩(十分)

第二部

一、齊唱

會衆一同

伴奏 東京音樂學校生徒吹奏樂部

愛國行進曲

内閣情報部撰定

二、映畫

イ、國民精神總動員大演說會 二卷

ロ、支那事變 三卷

ハ、秋の山野 一卷

三、邦樂

東京音樂學校教授

宮城道雄
外職員生徒二十五名

生田流箏曲

イ、古戦場の月

葛原 幽作詞
宮城道雄作曲

東京音樂學校

選科長唄科研究修了生二十名

囃子 望月太左吉外

長 唄
口、鞍 馬 山

作詞者不明
初代杵屋勝三郎作曲

東京音楽学校教授

宮 城 道 雄
外 職 員 生 徒 二 十 五 名

生田流箏曲

ハ、打てやつづみ

島崎藤村作詞
宮城道雄作曲

東京音楽学校

選科長唄科研究修了生二十名
囃子 望月太左吉 外

長 唄
ニ、皇 軍 必 勝

乗杉嘉壽作詞
吉住小三郎
稀音家六四郎 作曲

昭和十三年四月十六日 第三回上野児童音楽学園卒業生音楽演奏
会

第三回卒業生

音楽演奏會曲目

上野児童音楽学園尋常科

昭和十三年四月十六日(土曜日)午後一時半開演

會場 東京音楽学校奏樂堂

下谷區上野公園

1. ピアノ獨奏 荒木 稔 子

ソナータ・イ短調 第一樂章……………モーツァルト作曲
Sonate A-moll 1. Satz Mozart

2. ピアノ獨奏 原 田 穎 子

即興曲 變イ長調……………シュューベルト作曲
Impromptu As-dur Schubert

3. ピアノ獨奏 大 江 輝 子

ソナータ・變ロ長調 第三樂章……………モーツァルト作曲
Sonate B-dur 3. Satz Mozart

4. ヴァイオリン獨奏 三 浦 葉 子

コンツェルト イ短調 第一樂章……………ヴィヴァルディ作曲
Konzert A-moll 1. Satz Vivaldi

5. ピアノ獨奏 吉 岡 加 奈 子

ソナータ作品三十一ノ一・ト長調 第一樂章……………ベートーヴェン作曲
Sonate op. 31, Nr. 1. G-dur 1. Satz Beethoven

6. ピアノ獨奏 畠 山 澄 子

ロンディネット中より三曲……………ニーマン作曲
Rondinetto Niemann

7. ピアノ獨奏 加 宮 未 麻 子

ソナータ・ト長調 第一樂章……………モーツァルト作曲
Sonate G-dur 1. Satz Mozart

8. ピアノ獨奏 名 越 史 子

ロンド カプリチオーゾ 作品十四……………メンデルスゾーン作曲
Rondo capriccioso op. 14 Mendelssohn

——(休 憩)——

9. ピアノ獨奏	久本 成夫
ソナータ・イ短調 第一樂章	モーツァルト作曲
Sonate A-moll 1. Satz	Mozart
10. ピアノ獨奏	前島 幸代
即興曲 變ホ長調	シューベルト作曲
Impromptu Es-dur	Schubert
11. ピアノ獨奏	山崎 美佐子
パガニーニ練習曲 ホ長調	シューマン作曲
Paganini-Studie E-dur	Schumann
12. ピアノ獨奏	正清 三子雄
ソナータ・ト長調 第一樂章	ハイドゥン作曲
Sonate G-dur 1. Satz	Haydn
13. セロ獨奏	紺谷 眞史
コンセルティーン 作品四十一 ト長調 第一樂章	クレンゲル作曲
Koncertino op. 41 G-dur 1. Satz	Kriegel
14. ピアノ獨奏	杉本 喜生子
ソナータ・變ホ長調 第一樂章	ハイドゥン作曲
Sonate Es-dur 1. Satz	Haydn
15. ピアノ獨奏	安井 照代
春の囁き	ズインディング作曲
Frühlingsrauschen	Sinding
16. ピアノ獨奏	富田 美致子
ソナータ・作品十四ノ一・ホ長調 第二・三樂章	ベートーヴェン作曲
Sonate op. 14, Nr. 1. E-dur 2, 3 Satz	Beethoven

[原資料横組]

昭和十三年四月二十三日 總裁宮奉戴式奉祝音樂會

昭和十三年四月二十三日(土曜日)午後〔六時開場 七時開演〕

於 横濱開港記念館

總裁宮奉戴式奉祝音樂會

主 催 紀元二千六百年記念日本萬國博覽會

横 濱 濱 市

曲 目

一、合 唱	第一部 洋 樂	指揮 木 下 保
イ、愛國行進曲(無伴奏)	<small>内閣情報部撰 演奏會用編作 橋本國彦</small>	
ロ、大島 節(民謡に據る)	<small>信時 潔作曲</small>	
ハ、さくら 下總皖一作曲		ピアノ伴奏 渡邊 千世
二、管 絃 樂	序曲「フィデリオ」第三	ベートーヴェン作 指揮 山 口 正 男
三、合 唱	イ、海ゆかば(古歌)	<small>信時 潔作曲</small> 指揮 木 下 保
	ロ、萬博行進曲	<small>日本萬國博覽會撰歌 東京音樂學校作曲</small> 指揮 木 下 保
	「萬博行進曲」唱和	指導 木 下 保
四、箏 曲	山田 流	第二部 邦 樂
花 三 題(古今集より)		中 能 島 欣 一
	<small>中能島欣一作曲</small>	外
五、長 唄		

櫻 咲く 國

長 唄 科 生 徒

長唄研精會撰歌
吉住小三郎作曲
稀音家六四郎作曲

六、箏曲 生田流

う て や 鼓

宮 城 道 雄

宮島崎藤村作歌
城道雄作曲

出 演 東京音樂學校職員生徒

昭和十三年四月二十四日 伊澤修二先生建碑記念演奏會

昭和十三年四月二十四日(日曜日)午後一時開會

會場 長野縣高遠町高遠閣

伊澤修二先生
建碑記念 音樂演奏會曲目

東京音樂學校同聲會

一 唱 歌 山内 秀子 君

伊澤修二先生作品拔萃(伊澤先生著小學唱歌六卷より)

イ 紀 元 節 高崎 正風 作歌

ロ 天長節(今日は十一月三日の朝よ)..... 伊澤 修二 作歌

ハ 天長節(天津日影はかはらねど)..... 高崎 正風 作歌

ニ 花 咲く 春 伊澤 修二 作歌

二 唱 歌 高木 清君

伊澤修二先生作品拔萃(伊澤先生著小學唱歌六卷より)

イ 皇 御 國 加藤 部 嚴 司 夫 書 作歌

三 ピアノ獨奏 内藤 輝子 君

イメヌエツト ラヴェル 作曲

ロソナータ 作品一〇九 ホ長調 ベートーフェン 作曲

第一・二樂章

四 バリトン獨唱 高木 清君

イ 父 と 子 濱田 廣吉 作曲

ロ 泊 り 舟 北原 秋輔 作曲

ハ 日本青年の歌 乗杉 嘉彦 作曲

五 ヴァイオリン獨奏 兎束 龍夫 君

イ 瞑 想 曲 マスネー 作曲

ロ ガ ボ ッ ト ゴセツク 作曲

ハ ロ マ ン ス ヴイニャフスキ 作曲

ニ ゴ パ ッ ク ムソルグスキ 作曲

六 ソプラノ獨唱 山内 秀子 君

イ 歌劇「ボエーム」中のミミーの歌 プッチーニ 作曲

ロ お菓子と娘 西條 八十彦 作曲

ハ 唄 三木 露風 作曲

伴 奏 内藤 輝子 君

昭和十三年四月三十日 研究科修了演奏会

昭和十三年四月三十日(土曜日)午後一時半開演

於 本校奏樂堂

研究科修了演奏曲目

東京音樂學校

一、作曲科作品演奏……………指揮 山口正男

柏木俊夫作 絃樂合奏曲「古式による絃樂組曲」

序曲・ロンド・サラバンデ・ブーレ・ガボット・ジューグ

二、ピアノ獨奏……………山崎イク

ブラームス作 ハンガリー歌曲を主題とせる變奏曲・

ニ長調・作品廿一ノ二

三、ソプラノ獨唱……………手塚瑞枝

a. シュトラウス作「ひそかなる誘ひ」・作品廿七ノ三

b. 〃 「萬靈節」・作品十ノ八

四、ピアノ獨奏……………千葉八千代

ブラームス作 スケルツォ・變ホ短調・作品四

五、メッツォソプラノ獨奏……………竹内幸

シューベルト作「魔王」

六、ヴァイオリン獨奏……………細谷正秋

ウイニアウスキー作 華かなるポロネイズ・作品廿一

——(休憩)——

七、作曲科作品演奏

渡 鏡子作 絃樂四重奏曲「ドッペル・フーグ」

演奏 岡田二郎、田村五郎、喜田遷吉、小澤弘

八、ピアノ獨奏……………會澤幸子

ブラームス作 シューマンの主題による變奏曲・作品九

九、ソプラノ獨唱……………松田トシ

メイヤール作 歌劇「隱者の小鐘」中のローズの詠唱

十、ピアノ獨奏……………高橋喜美

シューマン作 アベグ變奏曲・作品一

十一、管絃樂指揮……………山口正男

ベートーヴェン作 序曲「フィデリオ」・作品七二

昭和十三年五月十四日 第一〇七回學友會演奏會

第一百七回學友會演奏會

昭和十三年五月十四日(土)午後一時三十分

吹奏樂……………指揮 山口正男

「魔笛」序曲……………モツアルト

「アイーダ」凱旋行進曲……………ブエルデイー

バリトン獨唱……………中山悌一

我が宿……………伴奏 木下助教

我が影……………伴奏 シューベルト

セロ獨奏……………伴奏 赤松稔

七、作曲科作品演奏……………伴奏 高田信一

交響的變奏曲 作品23……………ボーリマン
 フリユート獨奏 鈴木正三

ソナタ 第二番 ニ短調……………伴奏 山田和男
 アンダンテアレマンド(アルレグロ) — ブラーヴェ(1700—1768)

ガボット(トランクキロ) — サラバンド(ラルゴ) — 終曲(アルレグロ)

作品發表表

混聲合唱曲

ぬばたまの山部赤人詩……………津久井 昇
 門田に立ちて 島崎藤村詩……………今井慶明
 入り 日ヴェルレーヌ詩……………今井慶明

合唱 師範科三年生徒
 指揮 木下助教

「冬の嵐」より……………シユーベルト

溢るゝ涙

春の夢

鳥

嵐の朝

辻音樂師

ヴァイオリン獨奏

清田金吾
 伴奏 伊達純

協奏曲 第四番 ニ長調……………モーツァルト

第一樂章 アルレグロ

ピアノ獨奏

第二ピアノ シロタ教師
 村瀬由紀子

コンツ「エ」ルトシユトウツクへ短調 作品79…ウエーバー
 (『音樂』學友會、第十九号、昭和十三年十二月、一三〇—一三二頁)

昭和十三年五月二十日 華北婦女訪日団歡迎演奏會

(曲目等不明)

(『東京音樂學校一覽』自昭和十三年至昭和十四年、一〇九頁)

昭和十三年五月二十一日 選科邦樂修了演奏會

昭和十三年五月二十一日(土曜日)午後一時開場
 一時半開演

於 本校奏樂堂

選科邦樂修了演奏曲目

東京音樂學校

能樂觀世流 連吟

一 櫻 川

千葉信子
 中村フミ
 小林ハナ
 新村由紀子

本村富子
 中見潤子
 大江美和
 服部登和

二 俊 寛
能樂 觀世流 連吟

成經 康頼 安藤光二 佐藤俊彦 田中好作
ワシテ 齋藤季夫 福島茂彦 小田道政
綾部英猪 小池正雄 小島芳正

三 岡 康 砧
箏曲 山田流
岡康小三郎原曲

箏 三宅富美子 筆低音 中島夏子
高橋つや 大網静子 三絃 教務囀託 古澤正三

四 四季の山姥
長 唄
文久二年 杵屋勘五郎作曲

唄 岡本松子 三味線 渡邊絹子
高居玖美子 神田智恵子 小本孝子 坂林忍子
増田今子 片柳澄子 關谷幾代 坂田紀子

— 休 憩 —

五 けしの花(古曲)
箏曲 生田流

箏 山下相子 三味線 塚越清子
木藤キミ子 本間すみ子 網野操子 鈴木嘉代子
丸山和子 神戶光く 中村睦子

六 三國妖狐物語 那須野の巻
長 唄
初代 杵屋六四郎作曲

唄 片山静子 三味線 中山あつ子
片柳澄子 鈴木家壽子 山口あつ子 保坂マサ

七 古戦場の月
箏曲 生田流

教授 宮城道雄 外 職員及邦樂科、選科生徒 約五拾名

八 櫻 咲く 國
長 唄
洗 鯉 樓 作詞
吉住小三郎作曲
稀音家六四郎作曲

教授 吉住小三郎 補導 邦樂科、選科生徒 約百名

昭和十三年五月二十八日(六月一日) 演奏旅行(宇治山田—大阪)

昭和十三年五月二十九日午後一時開會

新築落成記念

皇軍慰問音樂會プログラム

主催 宇治山田高等女學校々友會

國歌『君か代』奉唱 無伴奏四部合唱

『愛國行進曲』 内閣情報部撰定 演奏會用編作 橋本國彦 無伴奏四部合唱

一、ピアノノ獨奏……………内 藤 輝 子

譚詩曲・ト短調・作品二三 シヨパン作

二、ソプラノ獨唱……………山 内 秀 子 伴奏 内 藤 輝 子

(イ) 歌劇「聯隊の娘」中の別れの歌 ドニゼッティ作

(ロ) からたちの花 山田耕筰作

(ハ) お菓子和娘 橋本國彦作

(ニ) おお六 娘 橋本國彦作

三、四部合唱 (イ) 海行 かば 信時 潔作 無伴奏

(萬葉集大伴氏言立)

(ロ) 春 の 雪 下總 皖 一作 無伴奏

(ハ) さくら(古歌) 下總 皖 一作 ピアノ伴奏

四、ヴァイオリン獨奏 ピアノ伴奏……………清 田 金 吾
ヴァイオリン協奏曲第二・ニ短調 ウイニアウスキー作

ロマンス…………アレグロ・コン・フオコ

五、四部唱・合唱・ピアノ伴奏附

ハ長調ミサ曲中「榮光」

ベートーヴェン作

演奏 東京音楽學校職員生徒
指揮 助教授 木下 保

東京音楽學校學生 百餘名が大コーラス

宇治山田高女の校舎落成祝ひ

宇治山田高等女學校は既報の如く二十六日新校舎落成式を舉行するが同校では記念事業として同日から三日間生徒製作品展覽會と活動寫眞や物理化學の實驗などの動的展覽會を開催し二十六日は來賓、二十七日は一般市民と父兄、二十八日は卒業生を招待するが、そのほか二十九日には皇軍將士慰問金造成のため大音樂會を新築講堂で開催することになった、これに東京音楽學校を明年三月卒業する男女學生百餘名を乗杉同校長はじめ教授が引率して出演、大合唱や獨唱その他があるはずである、縣下では聞く機會の少い豪華な最初の催しで多大の期待をかけられてゐる

〔大阪朝日新聞（三重版）昭和十三年五月十九日〕

旅行記

東京——宇治山田

地主 忠雄

伊勢參りを兼ねた今回の旅行は事變下の演奏旅行として極めて意義深きものと云はなければならぬ。

支那事變の勃發に依り四國方面に計畫された昨年の演奏旅行は其後戦局の擴大に伴ひ當然中止されるの止むなきに至つた。

そして引續く事變の進展は當分の間殊に今年度の演奏旅行は絶対に不可能であらうとさえ豫想されたのである。斯うして我々は學校生活中に一度の旅行も無く卒業しなければならぬであらう事に對して、云ひ知れない淋しさ物足りなさを感じてゐたのである。

上野の生活に演奏旅行を切り離して考へる事は出来ない。演奏旅行は音樂學校獨特の物であり、上野に育つ幾多學徒達の最も豊かな楽しい思ひ出となり、尊い試練になるのである。

五月廿八日、鳥羽行の夜行が今回旅行のスタートである。豫期しなかつた旅行實現を眼前に控えて集ふ者誰一人として満面喜びを湛えぬ者はない。殆んど昨日と今日の區別を覺えずに山田に着いたのは朝の九時前である。

宇治山田に於ては二つの目的があつた。

一は云ふまでもなく皇太神宮參拜であり、一は音樂會である。驛からバスに分乘、直に外宮（豐受大神）、内宮（皇太神宮）に詣つ。

尊き神域に入り清らかな五十鈴川に口を漱ぎ手を清め、老杉の翠色も神らしい參道を登る時は自ら云ひ知れない敬虔な畏を感じずにはゐられない。

改つた氣持で皇室の彌榮えまする事を祈り奉り、日本國に生れた仕合せに對して感謝の念を深くした次第であつた。又特に今回事變の戦勝を祈願申し上げ尊い神域を下つたのである。

音樂會場である山田高等女學校では準備全く成つて迎へて呉れた。

新築落成記念と云ふだけあつて校舎が新しく綺麗で大變に感じが良い。

午前中の演奏は聴衆が全部女學校生徒である。

東京に住んでゐるせいか歌ひながらも邊りの空氣がとても清く澄んでゐるやうに感じられた。

演奏に聴き入る乙女達の何と幸福さうな感激に満ちた表情だつたらう。

強い感激をもつた眞剣な演奏は午前、午後共に全く聴衆を興奮の坩堝の中に投げ込んでしまつたのである。

昨夜の不眠に加へ今日の猛暑は一同を相等に疲労させたのであつたが、それにも不拘午前の演奏に引續き殆んど晝食が落着く間もなく開始された午後の部に於ても一同非常な緊張裡に演奏を行ひ前後共に極めて立派な出來栄を見る事が出來たのである。

〔音樂〕學友會、第十九号、昭和十三年十二月、八六〜九一頁

昭和十三年六月四日 春季選科洋樂演奏會
 昭和十三年六月四日(土曜日)午後一時開場
 一時半開演

會場 本校奏樂堂

春季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

- 一、オルガン 獨奏……………木村 寛子
 パルティータ・ト短調……………パ ッ ハ 作
- 二、ヴァイオリン 獨奏……………毛利 富士子
 ソナタ・ト短調・第一、二樂章……………タルティエーニ作
- 三、ピアノ ノ 獨 奏……………小 池 正子
 ロンド・作品一……………フンメル 作
- 四、セ ロ 獨 奏……………仁 科 常 雄
 コール ニードライ……………ブルッフ 作
- 五、ピアノ ノ 獨 奏……………吉 岡 俊 子
 ソナタ・作品四二・イ短調・第一樂章……………シューベルト 作
- 六、ヴァイオリン 獨奏……………河 野 俊 達
 協奏曲・第二十三番・ト長調・第一樂章……………ヴィオッテイ 作
- 七、ピアノ ノ 獨 奏……………岡 本 悦 子
 協奏曲・ハ短調・第一樂章……………ベートーヴェン 作
- (休 憩)
- 八、ピアノ ノ 獨 奏……………渡 邊 壽 子
 ソナタ・作品二の三番・終樂章……………ベートーヴェン 作
- 九、ヴァイオリン 獨奏……………石 橋 茂 子

- 十、セ ロ 獨 奏……………中 山 勳
 協奏曲・ニ長調・第一樂章……………モーツァルト 作
- 十一、ピアノ ノ 獨 奏……………原 幸 子
 主題と變奏曲・作品一六……………パデレウスキー 作
- 十二、ヴァイオリン 獨奏……………秋 葉 きよ
 バラーデ ポロネーズ……………ヴェーターン 作
- 十三、ピアノ ノ 獨 奏……………太 田 秀
 ソナタ・作品五三・第一樂章……………ベートーヴェン 作

昭和十三年六月十八日 第一〇八回學友會演奏會

東京音樂學校學友會

第一〇八回學友會演奏會

昭和十三年六月十八日(土)午後一時三十分

- 曲 目
- テノール 獨唱……………富 田 政 牧
 伴奏 木下助教授
 - コンチエルトアリア……………モーツァルト
 伴奏 益 子 愛 子
 - ピアノ ノ 獨 奏……………第二ピアノ 宇佐美教授
 協奏曲 二短調……………モーツァルト
 アルレグロ(カデンツ、フンメルに依る)
 - ソプラノ 獨唱……………永田みや子

鶯に寄す 伴奏 御宿好枝
 使 プラームス
 //

バリトン 獨唱

藤井典明
 伴奏 永井進

歌劇「ドン・カルロス」よりロドリゴの詠唱 ヴェルデイ

休憩

作品發表

ピアノ 曲

石黒脩三
 演奏者 永井進

シヨパン風即興曲

ソプラノ 獨唱

富永治子
 伴奏 丸田克子

フルート 助奏 山口正男

みそぎざい

ピアノ 獨奏

瀬崎美登利
 第二ピアノ シロタ 教師

協奏曲 イ短調 作品五四

アルレグロ アフエトーン

シニエマン

管 絃 樂

生徒管絃樂部
 指揮 橋本助教

交響曲 第九四番「驚愕」ト長調

アダージオ カンタビレー ヴィヴァーチェ アツサイ
 ハイドン

アンダンテ

メヌエット(アルレグロ モルト)

アルレグロ デイ モルト

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonnabend, den 18. Juni, 1938 nachmittags 1½ Uhr.

108. SCHÜLER-KONZERT

OPER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Tenor-Solo

M. Tomita

Konzert Arie

Begl. Prof. T. Kinoshita
 Mozart

Klavier-Solo

A. Masiko

Konzert d-moll K. V. 466

Mozart

Allegro (Kadenz von Hummel)

M. Nagata

Sopran-Solo

Begl. Y. Misyuku

An die Nachtigall, Op. 46 No. 4

Brahms

Botschaft, Op. 47 No. 1

//

Bariton-Solo

N. Hujii

Aus der Oper „Don Carlos“

Verdi

Arie von Rodrigo

Pause

Komposition

S. Isiguro

Impromptu alla Chopin

Klavier Solo S. Nagai

Sopran-Solo

H. Tominaga

Begl. K. Maruta

Flöte M. Yamaguti

J. Benedict

La Capinera

M. Sezaki

Klavier-Solo

II. Klavier Prof. Sirota

Konzert, a-moll. Op. 54.....Schumann

Allegro Affettuoso

Orchester *Leitung Prof. K. Hasimoto*

Symphonie Nr. 94. „Paukenschlag“ G dur.....Haydn

Adagio cantabile—Vivace assai

Andante

Menuetto (Allegro molto)

Allegro di molto

昭和十三年六月十九日 第一〇九回学友会演奏会

東京音楽学校学友会

第一〇九回学友会演奏会

昭和十三年六月十九日(日)午後一時三十分

曲 目

メソソプラノ獨唱

野田 先
伴奏 佐伯貞子

くちづけ

ピアノ獨奏

北村 和子
第二ピアノ 高折 教授
伴奏 アルディティ

協奏曲 第三番 ハ短調 作品三七

アルレグロ コンブリオ(カデンツライネツケに依る)

テノール獨唱

金子 一雄
伴奏 永井 進
シュールベルト

汝が像

堅琴に寄す

鳩だより.....シュールベルト

ピアノ獨奏

伊達 純
第二ピアノ 高折 教授

協奏曲 ト短調 作品二五

アンダンテ

プレスト

モルト アルレグロ ヴィヴァアーチェ

メソソプラノ獨唱

白尾 容子
伴奏 丸田 克子

アデライデ.....ベートーヴェン

休憩

テノール獨唱

酒井 弘
伴奏 大島 正泰

「詩人の戀」より 作品四八.....シューマン

1. 美はしの五月に

2. 汝が眼に見入る時

3. 輝ける夏の朝に

4. 夜毎夢に

ピアノ獨奏

日原満珠子
第二ピアノ 井口助 教授
フランク

交響的變奏曲

二重唱

ソプラノ 加古三枝子
テノール 柴田 睦 陸

伴奏 田中 立江

歌劇「ファウスト」より.....グノオ

既に日暮れぬ...マルガレーテ、ファウストの二重唱

管 絃 樂

生徒管絃樂部

指揮 橋本助教 授

交響曲 第九番「驚愕」ト長調ハイドン

アダージオ カンタビレレーヴァアーチエ アツサイ

アンダンテ

メヌエット (アルレグロ モルト)

アルレグロ デイ モルト

[原資料構組]

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonntag, den 19. Juni, 1938 nachmittags 1½ Uhr.

109. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Mezzosopran-Solo

S. Noda

Begl. T. Saeki

Il BacioL. Arditi

Klavier-Solo

K. Kitamura

II. Klavier Prof. M. Takaori

Konzert III. c-moll. Op. 37.....Beethoven

Allegro con brio (Kadenz von Reinecke)

Tenor-Solo

K. Kaneko

Begl. S. Nagai

1. Ihr BildSchubert

2. An die Leier //

3. Die Taubenpost..... //

Klavier-Solo

J. Date

II. Klavier Prof. M. Takaori

Konzert g-moll. Op. 25..... Mendelssohn

Andante

Presto

Molto allegro e vivace

Mezzosopran-Solo

Y. Sirao

Begl. K. Maruta

Adelaide.....Beethoven

Pause

Tenor-Solo

H. Sakai

Begl. M. Osima

Aus der "Dichterliebe" Op. 48.....Schumann

1. Im wunderschönen Monat Mai.

2. Wenn ich in deine Augen seh.

3. Am leuchtenden Sommermorgen.

4. Allnächtlich im Traume.

Klavier-Solo

M. Hinohara

II. Klavier Prof. M. Iguti

Symphonische Variationen..... César Franck

Duett

Sopran: M. Kako

Tenor: M. Sibata

Begl. T. Tanaka

Aus der Oper „Faust“Gounod

Duett: Margarete und Faust

Orchester

Leitung Prof. K. Hasimoto

Symphonie Nr. 94. „Paukenschlag“ G dur.....Haydn

Adagio cantabile—Vivace assai

Andante

Menuetto (Allegro molto)

Allegro di molto

昭和十三年六月二十五日 第八十四回定期演奏会

〔第八十四回定期演奏会は、昭和十二年十月二十三日の第一〇〇回学友会演奏会プログラム（横組）で次のように予告されていたが中止となり、約半年後、フェルマニ指揮により新たなプログラムで行われた。〕

十二月十八日

第八十四回定期演奏会

管絃樂附獨唱・合唱

オラトリオ「四季」全曲

本邦初演

ハイドン 作

指揮

ハンス・シュヴァイガー

合唱

東京音楽学校生徒

管絃樂

東京音楽学校管絃樂部

獨唱者 未定

昭和十三年六月二十五日（土曜日）午後六時開場
七時十分開演

会場 日比谷公會堂

音樂演奏曲目



東京音楽學校

I. 管絃樂

序曲『ロザムンデ』

（メロドラマ「魔のハープ」序曲）……………シューベルト作

II. 混聲合唱・管絃樂附

カンターテ『海の静けさと楽しき舟行』
作品一・二……………ベートーヴェン作

—（休憩）—

III. アルト獨唱・絃樂合奏附

マリア古譚……………アルミン・クナップ作

1. 碑文 2. マリアと舟人 3. 渡り鳥

（本邦初演）

IV. アルト獨唱・男聲合唱・管絃樂

ラプソディー 作品五三……………ブラームス作

—（休憩）—

V. 管絃樂

交響曲・ニ長調・作品三六……………ベートーヴェン作

アダチオ・モルト—アルレグロ・コン・プリオ

ラルヂェット

スケルツォ

アルレグロ・モルト

アルト獨唱… リア・フォン・ヘッセルト

指揮… ヘルムート・フェルメル

合唱 東京音楽學校生徒

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

〔原資料横組〕

Program

I. Orchester

Ouverture "Rosamunde" (Zauberharfe) …………… Schubert

II. Gemischter Chor mit Orchester

Kantate "Meeresstille und glückliche Fahrt" Op. 112 Beethoven

——(Pause)——

III. Alt-Solo mit Streichorchester

Drei Marienlegenden..... Armin Knab

1. Inschrift

2. Maria und der Schiffer

3. Zugvögel

(Zum erstemal in Japan)

IV. Alt-Solo, Männerchor und Orchester

Rhapsodie, Op. 53 Brahms

——(Pause)——

V. Orchester

Symphonie, D-dur, Nr. 2, Op. 36 Beethoven

Adagio molto—Allegro con brio

Larghetto

Scherzo

Allegro molto

Alt-Solo: Ria von Hessert

Leitung: Helmut Fellner

Chor und Orchester der Staatlichen Musikakademie

zu Tokio

曲目並に解説

I. 序曲「ロザムンデ」作品二六 シューベルト (一七九七—一八二八)

シューベルトは一八二〇年頃から劇的音楽をも作曲した。此序曲は本来はメロドラマ「魔のハーブ」の序曲(一八二〇年作)であったのを、一八二五年ウィーンのカッピから歌劇「ロザムンデ」の序曲として出版されて

以来此名稱がある。且シューベルト自身も亦「ロザムンデ」の爲めに此序曲を選んだ。ハ短調のアンダンテに始まり、ハ長調の急速調に移る。

II. 混聲合唱・管絃樂附・カンターテ「海の静けさ」

樂しき舟行」作品一二二 ベートーヴェン (一七七〇—一八二七)

——(Pause)——

ベートーヴェンの合唱曲中では短かいものであるが、すつきりとした手ぎのいゝ曲である。作曲は一八一五年、その年の十二月二十五日の演奏會で初演された。歌詞はゲーテの作——

深き静かさは海を支配し、波立たず水の面たゞふ

風はなく舟人は不安にたゞ眺む、死の静かき、波はなし。

.....

霧は晴れ、天は輝き、風はそよぎ出で來り、

舟は波をけたてゝはやくはやく走る、遠きかの地は近づき、

陸は見えたり、陸は近づけり。

——(休憩)——

III. アルト獨唱・絃樂合奏附

「マリア古譚」三曲(初演) アルミン・クナップ (一八八一—)

クナップは現獨逸作曲家の一人で、歌曲の多くを作曲してゐる。この絃

樂合奏附アルト獨唱曲は、マリアに關する古謠に作曲した澁味のある、しかも氣のきいた歌曲であつて、ヘッセルト女史日本赴任に際し、作曲家から贈られたものである。獨語歌詞譯——

1. 碑 文(古謠集「子供の魔の角笛」より)

「順禮のあはれな女よ、この像のほとりに立寄つて

つかれた足を休めませんか、もしもお前が善い人ならば

やさしい母のマリアはここに、靜かに立つて待つてあます」

2. マリアと舟人(ラインの古謠)

マリアはみ寺に行かうとして、深い湖のほとりに出た。
そこに若い船頭が立つてゐた。

「お、船頭さん、わたしを舟で送るなら、何んでもすきなものをあげ
ませう」

「もしもわたしの妻となるならば、わたしは舟で送りませう」

「あなたの妻となるよりは、わたしは泳いで渡りませう」

既に泳いで来た時に、あらゆる鐘がなり出して、

マリアは磯にひざまづく。舟人の心ははり裂けた。

3. 渡り鳥 (古謡集「子供の魔の角笛」より)

お、何んと美しい潔らかな足どりで、

マリアは小さな靴であちらへど、

何にかお考へになりながら、なぜお急ぎでございませう？

「おき、なさい善い女よ、純潔なこの身と心とに、

永遠の言葉(クリスト)をもつてゐます。わたしを苦しめず助けなさい。

渡鳥の翼のそのやうに、絶えずひそかにたゞひとり、

神の御子をわたくしが、おはこび申してゐますのです。」

IV. アルト獨唱・男聲合唱・管絃樂

「ラプソディー」 作品五三……………ブラームス

(一八三三—一九七)

管絃樂附アルト獨唱・男聲合唱のこの曲はブラームスの傑作の一つである。歌詞はゲーテの「ハルツの旅」の一部である。一八六八年の夏ポーン
の町でゲーテと同時代の作曲家ライヒアルトの歌曲集にラプソディーとして、この歌詞が作曲されてあるのを見出した。この同じ歌詞にブラームスは作曲して、イエナで一八七〇年に初演し、有名なヴィアルドー・ガルチアが獨唱したと云ふ。この曲の樂想は沈靜な滋味であり、荒涼たる感じを與へる。

(獨唱)

離れて彼方へ行くものは誰か？ 草叢のその足跡は絶え

荒野に草木は亂れる。バルザムの香に毒せられ、

愛の飲みものに人生の、にがみを味へるものは、

誰かその苦惱を癒されん！

あなどられしもの、あざ笑ふものとなり、

ひそかにもかひなきわれに生きんとす。(反覆)

(獨唱合唱)

手琴にひびくその調べに、お、愛の父よ、なが心浮きた、せ、

雲れるまなざしみひらきて、荒野に索める無限の泉をみよ！

V. 交響曲第二・ニ長調・作品三六……………ベートーヴェン

アダージオ・モルト—アルレグロ・コンブリオ

ラルゼット

スケルツォ

アルレグロ・モルト

此交響曲は一八〇二年の作、全樂章を通じて快活新鮮、若さの輝きを見せてゐる。第一交響曲よりは更にベートーヴェンの獨自性が表現されてゐる。即ち序奏部(アダージオ)の長い事と藝術味の豊富さ、第一樂章の發展部及コーダの獨特な手法、第二樂章の美しい無限の歌調、第三樂章の純スケルツォの藝術的獨創性の確立、第四樂章のすばらしい樂想の展開等無數に此交響曲のよさを感じさせる。

學 校 長	乘 杉 嘉 壽	大 岡 運 英
指 揮 者	ヘルムート・フエルメル	福 井 巖
海軍々樂隊樂長	内 藤 清 五	岡 見 温 彦
關係管絃樂部員		桂 平 太
第一ヴァイオリン	井 上 武 雄	西 川 滿 枝
	林 良 輝	松 田 十 藏
	栗 原 大 治	松 浦 き み よ

第二ヴァイオリン

小澤弘	平井保三	杉田夏子	梅谷興次	喜田遷吉	松村重利	伊藤純三	平井保喜	北川庸二	榎本長四郎	増田尙一郎	岡田次郎	藤田經秋	朴敏鐘	近藤泉	清野保子	荒木幹枝	山内妙子	岩本政藏	小谷芳朗	水口幸麿	渡邊曉雄	小宮山繁	田村五郎	多田久興	兎束龍夫	清田金吾	田中富貴子	細谷正秋
ポザウネ																												
(海)小田切芳雄																												

(海) 洞口賢一 解説及譯詞 遠藤宏
 テインバーニ 西川潤一

〔原資料横組〕

上野の新任外人教師紹介演奏會

野村光一

今度の上野音楽學校演奏會は、新任外人教師二人の披露として期待され
 たが失望に終った。シュウイーガー氏の後任指揮者フェルメル氏は未だ經
 験が浅いやうだ。勿論、音楽的感性に缺けてはゐないが、しかし、經驗の
 未熟さは、氏が管絃團に働き掛ければ掛ける程その統率に手拔かりを起
 させ、樂曲に眞摯であればあるほどその本筋を見失はせる結果になつ
 た。

結局、ベートーヴェン第二交響曲における問題是要領である。海軍から
 の援助を斷つて、一本立ちとなつた管絃團も未だ若い。しかし漸次に正し
 く基礎づけられて來たことは看過出來ない。

新任聲樂教師ヘッセルト女史は發聲と音程が「健實」だが、聲質は柔軟性に
 乏しく、また、アルトの音色にも缺けてゐる。ブラームスの「アルト・ラ
 プンデイ」の獨唱は情味に涵濁したものだった。どうも純ドイツ人の演奏
 は、一般にリリシズムに不足するところがある。

(『東京日日新聞』昭和十三年七月一日)

昭和十三年七月六日 日本劇場音楽実演並解説

日本劇場音楽實演並解説(昭和十三年七月六日)

解説 教授 杉本金太郎
 教授 吉住小三郎
 演奏主任 教務囑託 杵家安彦
 (杵屋六左衛門)

三味線 同 鈴木利治

三味線 教務囑託 杉本茂 (稀音家四郎吉)

笛 同 望月長之助 (稀音家三郎助)

打楽器 同 望月吉三郎

他 望月吉三郎

唄 同 石村義一 (吉住小三八)

學校長挨拶

演奏番組

一、一番太鼓 (芝居開演前) 大太鼓

二、着當 (座頭入座の知らせ) 大太鼓

三、琴唄の幕明き (二上り) 三味線及唄

四、社殿の合方 笛、大拍子、三味線

五、大太鼓打形種々 (山おろし、雨音、浪音、水音、ドロく)

六、忍び三重 三味線、どら

七、竹笛入合方 笛、三味線

八、世話だんまり 三味線、桶胴、太鼓

九、驛路「箱根八里」 三味線唄入

十、木魚合方入 木魚、三味線

(古びた破れ寺の場) 早木魚台方入

十一、修羅囃子 小鼓、大鼓、三味線

十二、セリ上り合方 大太鼓、樂太鼓、釣鐘、大拍子、木魚、どら

(立派なる寺の樓門などの迫上りの場) キン、双盤等、三味線

十三、打出シ 大太鼓

(『東京音楽學校一覽』自昭和十三年至昭和十四年、一二一頁)

昭和十三年七月十四日 蒙疆教育視察団歓迎演奏会

(曲目等不明)

(『東京音楽學校一覽』自昭和十三年至昭和十四年、一〇九頁)

昭和十三年七月十五日 海軍戦傷病将士並海兵团将士慰問演奏会

昭和十三年七月十五日 (金) 午後一時 於横須賀海軍病院

同 三時 於横須賀海兵团音楽堂

海軍戦傷病将士並海兵团将士慰問 演奏曲目

一、能楽觀世流仕舞

八 島 生徒四名

二、長唄 皇軍必勝 生徒二十五名

乘杉嘉壽詞 吉住小三郎曲 稀音家六四郎曲

三、箏曲山田流 岡康砧 教授 中能島欣一

岡康砧 生徒二名

四、長唄 小 鍛冶 生徒五名

杵屋勝五郎曲

五、箏曲生田流

い、うてや 鼓

教授 宮城道雄

島崎藤村詞
宮城道雄曲

外職員生徒十九名

ろ、愛國行進曲

内閣情報部撰
宮城道雄編曲

六、長唄

越後獅子

囃子付 生徒二十五名

九代目杵屋六左衛門曲

〔手書き〕

昭和十三年九月二十七日 ヒットラーユーゲント歓迎演奏会

昭和十三年九月二十七日(火曜日)

於 本校奏樂堂

ヒットラーユーゲント 歓迎演奏曲目

東京音樂學校

能樂 觀世流 舞囃子

船 辨慶

教授 觀世清久
外職員

箏曲 生田流

うてや 鼓 (島崎藤村作詞
宮城道雄作曲)

教授 宮城道雄
外生徒

長唄

越後獅子

教授 吉住小三郎
杉本金太郎 補導
生徒

齊唱・合唱・吹奏樂伴奏

獨逸國歌

ナチス黨の歌

ヒットラーユーゲント歓迎の歌

(土井晚翠作詞
東京音樂學校作曲)

指揮 教授 澤崎定之

合唱・無伴奏

愛國行進曲 (内閣情報部選
橋本國彦編曲)

指揮 教授 澤崎定之

獨唱・合唱・管絃樂

ミサ曲・ハ長調 (ベートーヴェン作)

キリー・エレイン

グロリア

指揮 助教授 木下保

國歌『君が代』

指揮 教授 澤崎定之

合唱 東京音樂學校生徒

管絃樂 東京音樂學校生徒管絃樂團

吹奏樂 東京音樂學校生徒吹奏樂團

Konzert zu Ehren der Hitler-Jugend

den 27. September 1938

nachmittags um 3 Uhr

Im Saale der Staatl. Musikakademie

zu Tokio

Die Staatliche Musikakademie

zu Tokio

PROGRAMM

1. Nô-Spiel : Prof. Kanze-Sakon
u. a.
“Huna Benkei”
2. Koto-Musik : Prof. Miyagi-Mitio
u. a.
“Ute ya Tuzumi”
Komponiert von Prof. Miyagi-Mitio
3. Naga-Uta-Musik : Schüler u. Schülerinnen
“Etigo Jisi” Leitung: Prof. Yosizumi-Kosaburo
Prof. Kineya-Rokusiro
- Pause —
- Deutschland, Deutschland über alles.
Die Fahne hoch!
“Willkommen! Willkommen! Hitler-Jugend”
Komponiert in der Staatl. Musikakademie
“Aikoku Kosinkyoku”
Vaterländischer Marsch a cappella Chor
Bearb. von Prof. Qunihico Hasimoto
- Soli, Chor und Orchester :
Kyrie eleison—Gloria.
aus der Messe, C-dur.....Beethoven
- “Kimigayo”
Chor, Schüler-Orchester und Bläserorchester
der Staatl. Musikakademie zu Tokio
Leitung: Prof. Sadayuki Sawasaki
Prof. Tamotu Kinoshita

Willkommensgruss vom Direktor.

Meine liebe Hitler-Jugend, ich muss Ihnen zuerst meine

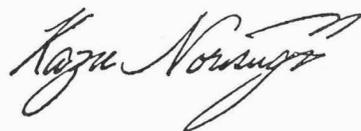
grosse Freude aussprechen, dass die Freundschaft zwischen der in Vaterlandsliebe brennenden japanischen und der deutschen Jugend so stark gefördert wurde, dadurch dass wir Sie als junge Volkssendboten aus dem mit uns eng verbündeten Deutschland in Japan begrüssen können.

Es war vor 60 Jahren, dass unsere Akademie gegründet wurde. Damals stand unser Japan der grossen Aufgabe gegenüber, ein neues Erziehungswesen aufzubauen. Auch in der Musikerziehung führten wir die Organisation und das System europäischer Länder ein, um eine neue Unterrichtsorganisation zu schaffen; besonders war es das grosse Ideal bei der Gründung unserer Akademie, eine grosse Neu-Nationalmusik hervorzubringen. Und seitdem haben wir Jahrzehnte eifrig diesem Ziele entgegengestrebt. Wir haben jetzt 200 Lehrer, 2200 Schüler und Schülerinnen und 500 Kinder unserer Kindermusikschule. Während der ganzen Zeit waren auch viele europäische Musiker als Lehrer an unserer Akademie tätig, die meist Deutsche waren. Wir müssen dafür dankbar sein, dass nicht wenige dieser Deutschen uns gute Lehrer mit grossen Fähigkeiten waren, deren Taten wir uns immer wieder erinnern. Auch studierten unsere Musiker, die als Abiturienten unserer Akademie, Professoren an unserer Akademie oder berühmte Musiker in der japanischen musikalischen Welt jetzt tätig sind, fast ohne Ausnahme einst in Deutschland. Daran zurückdenkend kann man sagen, dass der grosse Geist der Freundschaft zwischen Deutschland und Japan schon seit 60 Jahren durch die schöne Musik zwischen uns zwei Völkern ineinander strömte und pulsierte.

Es freut uns, Professoren und Schüler, alle sehr, dass Sie trotz Ihrer Inanspruchnahme unsere Akademie besucht haben. Wir stellen Ihnen jetzt in dieser kurzen Zeit einige Aufführungen der japanischen Musik, unserer eigenen, und der europäischen Musik vor, die neu von Europa, besonders von Ihrem Lande, nach Japan gebracht wurde.

Schliesslich spreche ich, meine liebe Hitler-Jugend, meine

herzliche Hoffnung aus, dass die freundschaftlichen Bindungen unserer beiden Länder immer enger werden, und dass dadurch ewiger Frieden in der Welt herbeigeführt werden möge.



Direktor d. Staatlichen
Musikakademie zu Tokio.

Erläuterungen zur japanischen Musik.

I. Nô-Spiel.

Nô-Spiel ist das ungefähr im 15ten Jahrhundert im Samurai-Stand vollendete, klassische Schauspiel, von dem es 200 Stücke gibt, deren Darstellungskunst stilgemäss bewahrt wird und deren Aufbau dem griechischen Drama sehr ähnlich ist.

Nô-Spiel hat in der Regel eine Hauptrolle (auf jap. "Site"), eine Nebenrolle (auf jap. "Waki") und eventuell noch einige kleinere Rollen. Ausserdem wirkt ein Chor (auf jap. "Ziutai") mit.

Die Begleitungsinstrumente sind nur kleine Handtrommel (Tuzumi), grosse Handtrommel und Bambusflöte.

Die Musik ist mehr rezitativisch als melodisch.

Es bringt den religiös gebildeten samuraischen (ritterlichen) Gedanken zum Ausdruck und sein Stil ist klassisch und die Stimmung ist ernst und pathetisch.

Wenn ein Fragment von Nô-Spiel ohne Kostüme gespielt wird, nennt man es "Simai". Heute wird "Simai" aus "Huna Benkei" gespielt, dessen Handlung folgende ist.

Im Mittelalter befährt Samurai (Ritter) Yositone, der sich seinem ältesten Bruder, Syogun (eine Art Statthalter, der die Regierungsgewalt über das ganze Land im Namen des Kaisers ausübte) Yoritomo verfeindet hatte, das Meer, um von der Hauptstadt nach den westlichen Provinzen zu entfliehen.

Dann erscheinen die Samurai-geister von dem "Heike" Geschlecht, welche Yositone einst auf den Befehl seines Bruders zugrunde richtete, und der tapferste Geist von Samurai Tomomori bedrängt, sein langes Schwert schwingend, Yositone.

Aber durch das Gebet von Benkei, der einer der Untertanen von Yositone ist, und früher ein buddistischer Priester war, verschwinden die Geister, ohne ihnen Schaden getan zu haben.

II. Koto-Musik.

Koto ist ein Saiteninstrument, welches ungefähr im 10. Jahrhundert vom asiatischen Kontinent hierher gebracht wurde, und 13 Saiten hat, und es wird für Ensemble, für Solo und für Liederbegleitung gebraucht.

Am Anfang der modernen Zeit ist eine neue Solomusik für dieses Instrument entstanden, welches schon ein wenig seine Form geändert hat, und es ist üblich geworden, auch moderne Kunstlieder zu begleiten, und beim Samurai- und Bürgerstand ist dieses Instrument sehr beliebt.

Bis jetzt entwickelte sich die Technik dieses Instrumentes in den letzten 300 Jahren immer weiter, und viele neue Stücke wurden dafür komponiert.

Das heute zu spielende Stück heisst "Ute ya Tuzumi" (d. h. "Schlag Handtrommel!" oder "Im Frühling"), dessen Text von dem in der Gegenwart berühmten Dichter, Simazaki-Tōson ist, und die Musik ist vom Professor Miyagi-Mitio, der die heutige Aufführung leitet.

III. Naga-Uta.

Naga-Uta ist die Bühnenmusik für das in der modernen Zeit in den bürgerlichen Schichten entwickelte Drama (sogenannt "Kabuki"), und Tänze von Schauspielern.

In der modernen Zeit wird sie, getrennt vom Theater, auch als Konzertmusik gespielt. Der Text ist mehr lyrisch als dramatisch und das Hauptinstrument ist Syamisen (Instrument von 3 Saiten) und ausserdem werden die zum Nô-Spiel verwendeten Begleitungsinstrumente gelegentlich hinzugenommen, d. h. kleine

Handtrommel, grosse Handtrommel, Trommel und Bambusflöte.
 Das heute zu spielende Stück ist ganz populär "Efigo Zisi"
 (d. h. fahrende Artisten aus Efigo-Provinz). Es bringt das
 Heimweh von einem fahrenden Artisten ("Kakubei-Zisi" genannt)
 zum Ausdruck, der im Löwenkostüm tanzt.

昭和十三年十月一日 慰安演奏会

昭和十三年十月一日(土曜日)午後一時四十分開演

於 本校奏樂堂

臨時東京第三陸軍病院在院戰傷軍人

慰安演奏曲目

東京音樂學校

第一 部 (洋 樂)

一、混聲合唱 (無伴奏)
 指揮 助教授 伊藤 武
 合唱 生 藤 徒

い、海ゆかば (大伴氏言立)
 (信時 潔曲)

ろ、大島節 (日本民謡)
 (信時 潔曲)

は、愛國行進曲 (内閣情報部撰)
 (橋本國彦編曲)

二、ヴァイオリン獨奏

ヴァイオリン協奏曲・ニ短調 (ウイニアウスキー曲)
 伴奏 伊達 純

ロマンスエーアレグロコンフォコ

三、テノール獨唱

い、山のあなた (上田敏譯詞)
 (下田皖一詞)

ろ、からたちの花 (北原白秋詞)
 (山田耕筰曲)

伴奏 柴田 陸
 伊達 純

は、假裝舞踏會 (アルゼンチン民謡)

四、ソプラノ獨唱

い、椰子の實 (島崎藤村詞)
 (服部良一曲)

ろ、箱根八里は (日本古謡・馬子唄)

は、荒城の月 (土井晚翠詞)
 (瀧廉太郎曲)

に、ラ・スバニョラ (スペイン舞踊歌)

五、吹 奏 樂

い、行進曲 雙頭の鷲の「旗の」下に (ワグナー曲)

ろ、同 勝利の旗 (フォンプロン曲)

第二 部 (邦 樂)

一、能樂 寶生流謠曲

橋 辨 慶

二、能樂 觀世流仕舞

田 村

三、箏曲 山田流

ひぐらし (中能島欣一曲)

四、長 唄

皇 軍 必 勝 (乘杉嘉壽詞)
 (吉住小三郎曲)
 (稀音家六四郎曲)

五、箏曲 生田流

い、春の海 (宮城道雄曲)

ろ、秋 (あきのひびき) 韻 (宮城道雄詞)

伴奏 奥田智恵子
 渡邊千世

指揮 囑託 山口正男
 生徒吹奏樂團

生 徒

丸山生里 徒子

生 徒 中能島欣一
 外職員生徒

尺八 教授 宮城道雄
 教授 吉田晴風

教授 宮城道雄
 外職員生徒

昭和十三年十月十五日 第五回上野兒童音樂學園演奏會

第五回 上野兒童音樂學園演奏會曲目

尋常科

昭和十三年十月十五日(土曜日)午後二時三十分開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

東京下谷區上野公園

- | | | | |
|---------------------------------|-------------------|---|---|
| 1. 合 | 唱 | 一 | 年 |
| イ. 煤 掃(輪唱)..... | 新訂高等小學唱歌 | | |
| ロ. 廣瀬中佐..... | 新訂尋常小學唱歌 | | |
| 2. ピアノ 獨奏 | 三年 大堀敦子 | | |
| ファンタジーニ短調..... | モーツァルト | | |
| Fantasia D-moll | Mozart | | |
| 3. ピアノ 獨奏 | 三年 二瓶ゆり子 | | |
| シユヴァルツヴァルトの水車 作品五十二..... | アイレンベルグ | | |
| Die Mühle im Schwarzwald Op. 52 | Eilenberg | | |
| 4. ヴァイオリン 獨奏 | 三年 井上延子 | | |
| 小協奏曲 ホ短調 第一樂章..... | シット | | |
| Concertino e-moll I. Satz | Sitt | | |
| 5. ピアノ 獨奏 | 三年 鈴木英子 | | |
| ソナタ ハ短調 作品十ノ一 第一樂章..... | ベートーフェン | | |
| Sonate c-moll Op. 10, 1 I. Satz | Beethoven | | |
| 6. ピアノ 獨奏 | 三年 岡野宏子 | | |
| ソナタ ハ長調 第一樂章..... | モーツァルト | | |
| Sonate C-dur I. Satz | Mozart | | |
| 7. ヴァイオリン 獨奏 | 三年 加宮令一郎 | | |
| ソナタ ハ長調 第一・第二樂章..... | ヘンデル | | |
| Sonate F-dur I. II. Satz | Händel | | |
| 8. ピアノ 二重奏 | 三年 土屋清子 | | |
| ソナタ ニ長調 第一樂章..... | モーツァルト | | |
| Sonate D-dur I. Satz | Mozart | | |
| 9. 合 | 唱 | 二 | 年 |
| 兒島高德(二部)..... | 上野兒童音樂學園樂譜二部合唱編曲集 | | |
| 月と蛙(二部)..... | 上野兒童音樂學園樂譜 | | |
| —— 憩 —— | | | |
| 10. ピアノ 二重奏 | 三年 大藏わか子 | | |
| ソナタ 第二變ロ長調..... | クレメンティ | | |
| Sonate Nr. 2 B-dur | Clementi | | |
| 11. ピアノ 獨奏 | 三年 岡村澄子 | | |
| ソナタ 變ホ長調 第一樂章..... | ハイドゥン | | |
| Sonate Es-dur I. Satz | Haydn | | |
| 12. ピアノ 獨奏 | 三年 石川治子 | | |
| 狩の歌..... | メンデルスゾーン | | |
| Jägerlied | Mendelssohn | | |
| 13. ピアノ、ヴァイオリン、セロ三重奏 | 三年 安藤しづ子 | | |
| ヴァイオリン | 小藤百子 | | |
| セロ | 血脇和子 | | |
| ピアノ三重奏 ハ長調 第二樂章..... | ハイドゥン | | |
| Trio C-dur II. Satz | Haydn | | |

14. ピアノ 獨奏	三年 岡部 照代
ロンド カプリチオーゾ	……………メンデルスゾーン
Rondo Capriccioso	Mendelssohn
15. ピアノ 獨奏	三年 上代 知夫
ロンド ハ長調 作品五十一ノ一	……………ベートーヴェン
Rondo C-dur Op. 51 Nr. 1	Bethoven
16. ヴァイオリン 獨奏	三年 石井 薫子
協奏曲 ロ短調 第二樂章	……………ベリオリオ
Concerto h-moll II. Satz	Berlioz
17. ピアノ 獨奏	三年 小林 玲子
ワルツ 變ニ長調 作品六十四ノ一	……………ショパン
Valse Des-dur Op. 64, 1	Chopin
18. ピアノ 獨奏	三年 貴島 和子
協奏曲 イ長調 第一樂章	……………モーツァルト
Konzert A-dur I. Satz	Mozart
19. 合唱	三年 三
秋 (二部)	……………上野兒童音樂學園樂譜二部合唱曲集
遠 足 (二部)	……………〃

〔原資料横組〕

ピアノ 獨奏	曲 目
協奏曲 第一番 ハ長調	……………第二ピアノ 高橋千枝子
第一樂章 アルレグロ コンブリオ	……………ベートーヴェン
ソプラノ 獨唱	……………伴奏 尾高泰子
歌劇「ノルマ」より ノルマの詠唱	……………ベリオリオ
ピアノ 獨奏	……………第二ピアノ 村折 教 授
協奏曲 第二番 ニ短調 作品四〇	……………メンデルスゾーン
ヴァイオリン 獨奏	……………伴奏 荻葉スズマ
コールニドライ 作品四七	……………ブルツフ
メソソプラノ 獨唱	……………伴奏 佐々木 成
静けき信頼	……………フランツ
憂愁の喜び	……………シユーベルト
豎琴に寄す	……………〃
ピアノ 獨奏	……………第二ピアノ 都筑富美子
協奏曲 イ短調 作品十六	……………グリーヒ
第一樂章 アルレグロ モルト モデラート	……………
アルト 獨唱	……………伴奏 千葉 靖子
歌劇「ドン・カルロス」より エボリーの詠唱	……………ヴェルディ
おゝ不幸なる天賦よ	……………
ピアノ 獨奏	……………第二ピアノ 浅原暉久子
さすらひ人幻想曲 作品十五	……………シユーベルト リスト

昭和十三年十月二十二日 第一一〇回學友會演奏會

東京音樂學校學友會

第一一〇回學友會演奏會

昭和十三年十月二十二日(土)午後一時

休憩

ピアノ 獨奏	左右田 五十鈴
夜想曲 作品四八の一	シヨパン
侏儒の踊り	リスト
メツオソプラノ 獨唱	相田悦子
	伴奏 末元
歌劇「サムソンとダリラ」より 私が心臓の花と開く…サンサーン	サンサーン
ピアノ 獨奏	星野すみ
	第二ピアノ シロタ教
幻想曲「アフリカ」作品八九	サンサーン
メツオソプラノ 獨唱	菊池てい
	伴奏 木下助教
「冬の旅」より	シニューベルト
溢るゝ涙	
春の夢	
鳥	
嵐の朝	
辻音楽師	
ヴァイオリン 獨奏	清田金吾
	伴奏 伊達
協奏曲 第四番 ニ長調	モーツァルト
第一樂章 アルレグロ	
ピアノ 獨奏	村瀬由紀子
	第二ピアノ シロタ教
コンツ「エ」ルトシユトウツク	ヘ短調 作品七九…ウエーバー
	【原資料横組】

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
Sonnabend, den 22. Okt. 1938 nachmittags 1 Uhr.
110. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO
PROGRAMM

Klavier-Solo	C. Takahasi
	II. Klavier Prof. M. Takaori
Konzert Nr. 1 C-dur Op. 15	Beethoven
I. Satz : <i>Allegro con brio</i>	
Sopran-Solo	Y. Odaka
	Begl. Y. Asakura
Arie von Norma	Bellini
aus der Oper "Norma"	
Klavier-Solo	S. Murata
	II. Klavier Prof. M. Takaori
Konzert Nr. 2 d-moll Op. 40	Mendelssohn
I. Satz : <i>Allegro appassionato</i>	
Violine-Solo	M. Asiba
	Begl. I. Sôda
Kol Nidrei Op. 47	Bruch
Mezzosopran-Solo	S. Sasaki
	Begl. Y. Asakura
Stille Sicherheit Op. 10 Nr. 2	Franz
Wonne der Wehmuth Op. 33 Nr. 1	Schubert
An die Leier Op. 56	Schubert
Klavier-Solo	F. Tuzuki
	II. Klavier Prof. N. Fukui
Konzert a-moll Op. 16	Grieg
I. Satz : <i>Allegro molto moderato</i>	
Alt-Solo	S. Tiba
	Begl. Y. Asakura

昭和十三年十月二十三日 第一一一回学友会演奏会

東京音楽学校学友会

第一一一回学友会演奏会

昭和十三年十月二十三日(日)午後一時

“O don fatale” Arie von Ebli aus der Oper “Don Carlos”	Verdi
Klavier-Solo	K. Asahara
Wanderer-Fantasie C-dur Op. 15.....	II. Klavier Prof. M. Iguti
Pause	Schubert-Liszt
Klavier-Solo	I. Soda
Nocturne Op. 48, Nr. 1	Chopin
Gnommen-Reigen	Liszt
Mezzosopran-Solo	N. Aida
“Mon cœur s'ouvre à ta voix” Arie von Dalila aus der “Samson et Dalila”	Begl. E. Suemoto
Klavier-Solo	S. Hosino
II. Klavier Prof. Sirota	Sirota
Fantasie: “Africa” Op. 89	Saint-Saëns
Mezzosopran-Solo	T. Kikuti
Begl. Prof. T. Kinoshita	T. Kinoshita
aus der “Winterreise”	Schubert
Wasserflut	
Flüchlingsstraum	
Die Krähe	
Der stürmische Morgen	
Der Leiermann	
Violine-Solo	K. Seita
Begl. J. Date	J. Date
Konzert Nr. 4 D-dur	Mozart
I. Satz: Allegro	
(Kadenz von Joachim)	
Klavier-Solo	Y. Murase
II. Klavier Prof. Sirota	Sirota
Konzertstück f-moll Op. 79	Weber

曲 目

テノール 獨唱	音楽に寄せて 作品八八の四	伴奏	木渡 邊高之助
	夕映の中に 遺作二〇		シユーベルト
	春の信仰 作品二〇の二		”
ピアノ 獨奏	協奏曲 第五番 變ホ長調 作品七三	第二ピアノ	梅谷 洋子
	ソプラノ 獨唱	伴奏	安西 悦子
	聖譚曲「天地創造」より ガブリエルの詠唱		ハイドン
ピアノ 獨奏	協奏曲 イ短調 作品十六	第二ピアノ	佐伯 貞子
	第一樂章 アルレグロ モルト モデラート		井口 教授
テノール 獨唱	「美しき水車小屋の娘」より	伴奏	波平 惠弘
	何處へ		木下 助教
	杖を止めて		シユーベルト
	小川への感謝		
	疎ましの道		
トロンボーン 獨奏			山本 正人

ロマンスエ トーメ作・トバニ編 伴奏 伊達純
 セレナーデ テイトウル作・トバニ編

休憩

五重奏

ピアノボエノ 金子登
 ホーリントン 中津井
 クラリネット 大石
 フアゴット 北爪利一
 ベートーヴェン 中田次

五重奏曲 變ホ長調 作品十六 ベートーヴェン

ピアノ 獨奏

相浦清子

プレリユード・コラール及びフーゲ フランシク

アルト 獨唱

進藤梅子
 富永瑠璃子

我がまどろみは愈々かすかに 作品百五ノ二 プラームス
 堅琴に寄す 作品五六ノ二 シューベルト

ヴァイオリン 獨奏

清野保子
 會澤幸子

協奏曲 第四番 ニ長調 モーツァルト
 第一樂章 アルレグロ

ソプラノ 獨唱

豊田春恵
 富永瑠璃子

アレルヤ モーツァルト
 歌劇「トスカ」より トスカの詠唱 プツチーニ

歌に生き 戀に生き

ピアノ 獨奏

鹽崎佳子
 シロタ教師

協奏曲 ト短調 作品廿五 メンデルスゾーン

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonntag, den 23. Okt. 1938 nachmittags 1 Uhr.
 111. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Tenor-Solo

K. Watanabe
 T. Kinoshita

An die Musik Op. 88, Nr. 4 Schubert
 Im Abendrot Nachlass Lfg. 20..... //

Frühlingsglaube Op. 20, Nr. 2..... //

Klavier-Solo

H. Umetani
 H. Inamura

Konzert Nr. 5 Es-dur Op. 73..... Beethoven

Sopran-Solo

A. Anzai
 E. Suemoto

Arie von Gabriel Haydn
 aus der Oratorio "Schöpfung"

Klavier-Solo

S. Saeki
 M. Iguti

Konzert a-moll Op. 16..... Grieg
 I. Satz: Allegro molto moderato

Tenor-Solo

E. Namihira
 T. Kinoshita

Aus "Die schöne Müllerin" Op. 25..... Schubert

Wohin?
 Halt!

Danksagung an den Bach
 Die böse Farbe

Posaune-Solo

M. Yamamoto
 J. Date

Romanze Thome-Tobani
Serenade Tiel-Tobani

Pause
Quintett
Klavier N. Kaneko
Oboe M. Nakatui
Horn N. Ooisi
Klarinett T. Kitazume
Fagott K. Nakata

Quintett Es-dur Op. 16 Beethoven

Grave, Allegro ma non troppo
Andante cantabile

Rondo, Allegro ma non troppo

Klavier-Solo K. Aiura
Präludium, Choral und Fuge Franck
Alt-Solo U. Sindô
Begl. R. Tominaga

Immer leiser wird mein Schlummer
Op. 105, Nr. 2 Brahms
An die Leier Op. 56, Nr. 2 Schubert

Violine-Solo Y. Kiyono
Begl. Y. Aizawa

Konzert Nr. 4 D-dur Mozart

I. Satz: Allegro
(Kadenz von Joachim)

Sopran-Solo H. Toyoda
Begl. R. Tominaga

Alleluja! Mozart
"Vissi d'arte, vissi d'amore" Arie von Tosca
aus der Oper "Tosca" Puccini
Klavier-Solo Y. Siozaki

II. Klavier Prof. Sirota
Konzert Nr. 1 g-moll Op. 25 Mendelssohn

Andante
Presto

昭和十三年十月二十九日 第八十五回定期演奏会

昭和十三年十月二十九日(土曜日)午後六時開演
六時四十五分開演

會場 日比谷公會堂

音樂演奏曲目

東京音樂學校

I. 絃 樂

ブランデンブルグ協奏曲・第三・ト長調 バッハ作

II. ピアノ獨奏・管絃樂伴奏

協奏曲・ニ短調・(ケツヘル番號四六六) モーツァルト作

アレグロ・ロマン・スーロン

——(休憩)——

III. バリトン獨唱・管絃樂伴奏

マチルデ・ウエーゼンドルク夫人の五歌より ワーグネル作

(a) 天 使

(b) 傷 心

(c) 夢

歌劇「タンホイゼ」中 ウオルフラムの詠唱 ワーグネル作

(d) 歌合戦の序唱「見まはせば」

(e) 夕星の歌

IV. 管 絃 樂

交響曲・第四・ホ短調・作品九八 ブラームス作

アレグロ・ノン・トロツポ
アンダンテ・モデラート
アレグロ・チオローン

アレグロ・エネルヂコ・エ・パッシヨナート

ピアノ獨奏 高折宮次
バリトン獨唱 伊藤武雄

指揮 ヘルムート・フェルメル

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

〔原資料横組〕

Program

I. Streichorchester

Brandenburgisches Konzert Nr. 3 G-dur J. S. Bach

II. Klavierkonzert

Konzert, d-moll (K. V. 466) W. A. Mozart

Allegro—Romanza—Rondo

——(Pause)——

III. Bariton-Solo mit Orchester

Aus fünf Gedichte von Mathilde Wesendonck... R. Wagner

a) Der Engel

b) Schmerzen

c) Träume

Aus der "Tannhäuser" R. Wagner

d) Wolfram: Blick ich umher

e) // O du mein holder Abendstern

IV. Orchester

Symphonie Nr. IV, e moll, Op. 98 J. Brahms

Allegro non troppo

Andante moderato

Allegro giocoso

Allegro energico e passionato

Klavier-Solo: Miyaji Takaori

Bariton-Solo: Takeo Ito

Leitung: Helmut Fellner

Orchester der Staatlichen Musikakademie

zu Tokio

曲目並解説

I. 絃樂・ブランデンブルク協奏曲・第三・ト長調…バッハ作
バッハがワイマール時代(一七〇八—一七一年)に音楽の保護者であった
Christian Ludwig von Brandenburg 侯の知遇を受けた頃、彼の小オー
ケストラの爲めに幾つかの協奏曲を書いて演奏した。次の時代即ちケーテ
ン公に奉仕してゐた時代(一七二一—二三年)にその六協奏曲を完成して
ブランデンブルク侯に献呈した。その第三が即ち今回の演奏曲である。剛
健な感じの二樂章からなる變つた形式のもので、續けて演奏される。第一
樂章は二分の二拍子、第二樂章は八分の十二拍子、共にト長調のアレグロ
である。この協奏曲はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロが各々三部に分
れ、それにバスとチェムバロが加はる。チェムバロはピアノで奏される
が、指揮者フェルマーが新しく書き加へた。

II. ピアノ獨奏・管絃樂伴奏 ……獨奏 高折宮次
ピアノ協奏曲・ニ短調・(ケツヘル番號四六六)

アレグロ・ロマンサー・ロンド(プレスティシモ)

一七六四年四月初めてロンドンへ行つたモーツアルトは、バッハの子ヨ
ハン・クリスチアン・バッハと初めて會ひ、彼から多大の影響を受けた。
コンチェルトも彼の様式にならひ、最初の全奏部で主要主題、副主題の提
示をなし、獨奏部と全奏部との區別をはかり、近世古典協奏曲の形式を確
立した。彼の作曲した二十七曲の協奏曲中、短調のものは甚だ少數であつ
て、この曲は特に優れた晩年の作である。第一樂章—ニ短調・四分の四拍

子、全奏部のたへず繰りかへすシンクペーションとバスの重い足どりに對して獨奏部は美しく歌ふのが特色である。形式はソナタ形式。第二樂章―變ロ長調・四分の四拍子、ロマンスの形式であつて、獨奏部と全奏部が交互に美しく奏されるアンダンテの歌謠形式である。第三樂章―ニ短調・二分の二拍子、最急速調でロンドの形式である。因にカデンツはライネツケの作である。

— 休 憩 —

III. バリトン獨唱・管絃樂伴奏……………獨唱 伊藤 武雄

ヴェーゼンドンク夫人の五歌より……………ワグネル作

(a) 天使、(b) 傷心、(c) 夢

ワグネルのチューリヒ亡命期の作である。富商ヴェーゼンドンク夫妻は當時ワグネルに多大の厚意をよせた人であり、思索と劇詩とに没頭する彼のよき友であつた。この三曲「天使」と「傷心」と「夢」とは一八五七年十二月の作曲であり、他の二曲「靜に立て」と「温室」とは翌年の作である。本来前の三曲が連作の形式をとつてゐると考へられる。尙此等は本来ピアノ伴奏であるが、單なるリードではなく、詩と音樂の融合一致の表現を理想として樂劇「トリスタンとイゾルデ」を作つてゐた頃と同じ傾向の作である。

歌劇「タンホイゼ」中 ウオルフラムの詠唱……………ワグネル作

(d) 歌合戦の序唱「見廻せば」、(e) 夕星の歌

共に有名な詠唱で、前者は第二幕ワルトブルグ城内歌合戦の場面で、最初に歌はれるウオルフラムの愛の讚歌である。ハープは獨唱者の手琴をあらはす。

「夕星の歌」は第三幕谷間の場で、夕闇迫り星が輝き出す頃、ウオルフラムが淨い夕星の美しさを歌ひ、エリザベート姫の光明の爲めに祈るのである。

IV. 交響曲・第四・ホ短調・作品九八……………ブラームス作

アレグロ・マ・ノン・トロツポ

アンダンテ・モデラート

アレグロ・デヨコーゾ

アレグロ・エネルヂコ・エ・パツシヨナート

「秋の大自然の表現、靜寂と憂愁を思はせるメランコリーな樂曲である」とリーマンは言ふ。澁みのある盡きぬ詩情に溢れた傑作であらう。此曲は一八八五年完成し、マイニンゲンとヴァインで初演した後出版した。

第一樂章―ホ短調・二分の二拍子、序奏なく、絃で最初に長い主要主題を奏す。副主題は管の強音で奏される。この二主題を主要なものとした自由なソナタ形式で書かれてゐる。第二樂章―ホ長調・八分の六拍子、最初のホルンの主要主題を基礎としたロマンスの形式である。第三樂章―スケルツォの形式であつて、ハ長調・四分の二拍子、この樂章でピッコロ、コントラファゴット、トリアングルが参加する。第四樂章―ホ短調・四分の三拍子、トロムボーンが参加する。總譜には書いてないが、パッサカリア或はシャコンヌの形式で書かれてゐる。主題は八小節からなり、單純な *es g a a i s h H e* のメロディーであり、これを基礎として八小節づゝの三十二變奏曲が書かれ、それに大きなコーダがついてゐる。

學 校 長	指 揮 者	海軍々樂隊樂長	關係管絃樂部員	第一ヴァイオリン	第二ヴァイオリン
乗 杉 嘉 壽	ヘルムート・フエルメル	内 藤 清 五		井 上 武 雄	岡 見 温 彦
				兎 東 龍 夫	西 川 滿 枝
				栗 原 大 治	松 浦 き み よ
				林 良 輝	松 田 十 藏
				福 井 巖	田 中 富 貴 子
				大 岡 運 英	細 谷 正 秋
				桂 平 太	伊 藤 光
					清 田 金 吾
					岡 田 次 郎
					多 久 興
					田 村 五 郎

セ
ロ

小宮山 繁
渡邊 曉雄
水口 幸麿
小谷 芳朗
岩本 政藏
山内 妙子
荒木 幹枝
清野 保子
近藤 泉
河鱈 美恵子
三浦 二郎
朴 敏鐘
藤田 經秋
増田 尙一郎
榎本 長四郎
北川 庸二郎
平井 保喜
伊藤 純三
松村 重利
喜田 遷吉
梅谷 興次
杉田 夏子
平井 保三
小澤 弘
酒井 悌
沖 不可止
盛口 悦知
安部 幸明
黒羽 亘

コントラバス
細井 琢磨
赤松 稔
深海 善次
城多又兵衛
今村 清一
川崎 敏雄
塚本 高
小原 政治
常松 秀衛
山田 和男
山口 正男
福家 軍平
鈴木 正三
中津井 實
山本 力
中藪 皓應
北爪 利世
金子 登
中田 一次
藤富 雄
永田 晴
大石 昇
尾形 良治
築田 甚市
中山 富士雄
井上 直二
山本 正人
小田 桐芳雄
洞口 賢一

トウバー 友利 明長
ティンパニ 西川 潤一
解 伊達 純
説 遠藤 宏
〔原資料横組〕

東京音楽学校演奏會
誤れる指導に低下する技術

去る廿九日東京音楽学校の秋の演奏會が日比谷公會堂で開かれた。これには先般上海戦線で負傷した同校教授伊藤武雄がワーグナーの「五つの詩」からの三曲とタンホイザー中の二曲を歌つて各方面の注目を惹いたのである。その他の曲目には高折宮次獨奏のモーツァルトのピアノ協奏曲ニ短調、フェルマーの指揮によるバツハの第三ブランデンブルク協奏曲とブラームスの第四交響曲である。伊藤武雄は相當期間の空隙にも拘らず殆ど技術の低下を示さず、部分的に向上の跡さへも窺へるのはまことに喜ばしい。喉が引緊らず無定形の纏まりなさに陥る傾向が幾分改善されたやうだ。タンホイザーではその缺點が未だ残つてゐるが、「五つの詩」の「夢」は立派な歌ひ方であつた。

高折教授の獨奏はベートーヴェンが熱愛したといはれるこの人間的情感の濃厚な協奏曲を甚だ風格の小さなものにしてつた。音量が貧弱で音強の度合も不足してをり技術的に何等卓越したものを示さなかつた。ブランデンブルク協奏曲とブラームスの第四では聴衆は聴きづらい思ひをするだけであつた。殊に前者の第一樂章と後者の終樂章は聴衆の音楽的感性を愚弄してゐるやうなものだ。これは主として管絃樂自體の宿命的弱さから來てゐる。經驗の未だ浅い若年の指揮者がこの結果だから無能視されては少々氣の毒だし、彼の才能をこの管絃樂の上で判定する事は誰にも出來ないであらう。

ともあれ、このやうな音楽會は東京音楽学校の一般的頹廢を公開する以外のものであり得ぬ。一とかどの技術的誇示は勿論のこと鴉の毛ほどの藝術的抱負もなく、單に寄せ集めの時間ふさはぎは音楽會としても時代遅れで

あることを申し添へておきたい。東京音楽學校は乗杉校長の誤れる指導によつてその徳性においても技術においても既に樂界の水準から遙に遅れた低地にさ迷ひつゝあることを、この音樂會が明瞭過ぎるほど明瞭に物語つてゐる。(山根銀二)

〔東京日日新聞〕昭和十三年十一月四日

昭和十三年十一月十二日 邦楽演奏会

昭和十三年十一月十二日(土曜日) 午後一時開場

會場 東京音楽學校奏樂堂

邦楽演奏曲目

東京音楽學校

寶生流謠曲連吟

- 一 甲、枕 慈 童 選科一、二年女生徒五名
- 乙、小袖曾我 選科一、二年男生徒十名

觀世流謠曲連吟

- 二 甲、紅葉狩 選科二、三、四、五年女生徒十二名
- 乙、小鍛冶 選科二、三、四、五年男生徒廿四名

山田流箏曲

- 三 きりぎりす 中能島教授 外職員

島崎藤村作詞
中能島欣一作曲

長 唄

- 四 秋 色 種 選科生徒十一名

生田流箏曲

- 五 地唄四季の眺 邦楽科生徒十六名

—— 休憩 ——

山田流箏曲

- 六 行 ぐ 秋 中能島教授 外

永井荷風作詞
中能島欣一作曲

長 唄(囃子付)

- 七 時 雨 西 行 邦楽科生徒十三名

生田流箏曲

イ、曉の海

- 八 葛原しげる作詞
宮城道雄作曲 宮城教授 外職員
- ロ、漢口陥落を祝して 邦楽科、選科生徒四十五名

宮城道雄作曲

長 唄

- 九 楠 の 薫 邦楽科、選科生徒全員

高野辰之作詞
吉住小三郎作曲
稀音家六四郎作曲

昭和十三年十一月二十六日 秋季選科洋楽演奏会

昭和十三年十一月二十六日(土曜日) 午後一時開場

會場 本校奏樂堂

秋季選科洋楽演奏曲目

東京音楽學校

- 一、女聲三部合唱……………選科生徒
- い、アプシード……………エッセル作

ろ、皇國の少女……………	〔西條八十〕 下總皖一作曲
二、ピアノノ獨奏……………	佐伯祐子
ポラツカ・プリランテ・作品七二……………	ウエーバー作
三、オルガン獨奏……………	木村寛子
スケルツォ……………	ギルマン作
四、ピアノノ獨奏……………	渡邊聰子
い、子守唄・作品五七……………	シヨパン作
ろ、ワルツ・作品六四ノ一……………	シヨパン作
五、ソプラノ獨唱……………	澤井悦子
い、私の信仰心……………	バツハ作
ろ、歌劇椿姫中の「乾杯の歌」……………	ヴェルディ作
六、ピアノノ獨奏……………	河原島子
ロンド・カプリチオソ・作品一四……………	メンデルスゾーン作
七、ヴァイオリン獨奏……………	皆川百合子
ローマンズ・ヘ長調・作品五〇……………	ベートーヴェン作
八、ピアノノ獨奏……………	新海むめ子
コンツェルト・變ロ長調・作品一九・ 第一樂章……………	ベートーヴェン作

休憩 (十分)

九、ピアノノ獨奏……………	小杉ミチ
ソナタ・ト短調・作品二二……………	シューマン作
一〇、ヴァイオリン獨奏……………	戸澤彌生
コンツェルト・イ短調・第九・第一樂章……………	ベリオオ作
一一、ピアノノ獨奏……………	澤田和子
ラ・フィロイゼ・作品一五七・第二……………	ラフ作

一二、アルト獨唱……………	山本久里子
い、音楽に寄す……………	シューベルト作
ろ、覺醒……………	ヘンデル作
は、あゝ今一度……………	ロッテイ作
一三、ピアノノ獨奏……………	武内久子
ソナタ・作品一〇・第三樂章……………	ベートーヴェン作
一四、ヴァイオリン獨奏……………	河野俊達
コンツェルト・ホ短調・第一樂章……………	ローデ <small>〔マ〕</small> 作
一五、ピアノノ獨奏……………	松本房江
コンツェルト・シュトウツク・ へ短調・作品七九……………	ウエーバー作

昭和十三年十二月三日 統後奉仕演奏会

昭和十三年十二月三日 (土) 〔午後五時半開場
午後六時半開演〕

會場 共立講堂
(市電―神田・一ツ橋下車)

統後奉仕演奏會曲目

東京音樂學校

第一部

1. 兒童合唱 (ホルン及ピアノ伴奏)……………	指揮 澤崎定之
(a) 清流 (Der Gärter) 作品一七ノ三……………	ブラームス作
(b) 母の歌 (Gesang auf Fingal) 作品一七ノ四……………	〃
2. ヴァイオリンとピアノ……………	ヴァイオリン Willy Frey ピアノ フラレイ

ソナタ・イ長調……………セザール・フランク作
César Franck: Sonate, La majeur

アレグレット・ベン・モテラート

アレグロ

レチタティーヴォオーファンタジア

アレグレット・ポロ・モツン

3. ソプラノ獨唱

……………Ria von Hesselt
ヘッセルト

ピアノ伴奏 Helmut Fellner フェルマー

(a) 森の寂寞 (M. Reger: Waldensamkeit) ……マクス・レーガー作

(b) マリアの子守歌 (M. Reger: Maria Wiegenlied) ……

……………

(c) あくれば (R. Strauss: Morgen) ……リヒアルト・シユトラウス作

(d) なつかしき幻影 (R. Strauss: Freundliche Vision) ……

(e) 秘めたるくちなす (R. Strauss: Heimliche Aufforderung) ……

4. 混聲合唱

……………指揮 木下保

ピアノ伴奏 水谷達夫

(a) 祈り (Fr. Schubert: Gebet) ……シユーベルト作

(b) 嵐 (Fr. Schubert: Ungewitter) ……

——休憩——

第二部

5. 合唱並管絃樂

……………指揮 橋本國彦

君が代合奏曲……………信時潔作

ヴァイオリン Alexander Mogulilevsky

モギレフスキー

6. 室内樂

……………ヴァイオラ 井上武雄

チエロ Roman Dukson
フェウクソン

ピアノ四重奏曲・ト短調・作品二五……………ブラームス作
Brahms: Klavier-Quartett, g-moll, Op. 25

アレグロ

間奏曲・アレグロ・マ・ノン・トゥロツポ

チンガラ風ロンゾ・プレスト

7. 獨唱並二重唱

……………バス Hermann Wucherpfennig
ウーハープエニヒ

バリトン 伊藤武雄

(a) バス獨唱 歌劇「ウインザーの陽気な女房達」より
フアルスタフの歌……………ニコライ作

Nicolai: Lied des Falstaff aus der Oper

「Lustige Weiber von Windsor」

(b) 二重唱「ウインザーの陽気な女房達」より……………

Nicolai: Duett aus der Oper

「Lustige Weiber von Windsor」

ピアノ伴奏 黒澤愛子

8. 管絃樂

……………指揮 Helmut Fellner フェルマー

序曲「リエンヂ」……………ワーグナー作

Wagner: Overture "Rienzi"

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

合唱 東京音楽學校生徒
上野兒童音楽學校兒童

〔原資料横組〕

昭和十三年十二月十日 第一一二回学友会演奏会

東京音楽學校學友會

第一一二回學友會演奏會

昭和十三年十二月十日(土)午後一時

曲 目

ソプラノ 獨唱

高橋 理子
伴奏 益子 愛子

歌劇「ロメオとジュリエット」より「ジュリエットの詠唱」グノー

夢にあらん!

ピアノ 獨奏

高橋 睦子
第二ピアノ 福井 教授

協奏曲 イ短調 作品八五

第一樂章 アルレグロ モデラート

バリトン 獨唱

水谷 俊夫
伴奏 水谷 達夫

靈魂祭 作品十の八

あくれば 作品二七の四

獻呈 作品十の一

ピアノ 獨奏

田邊 まち子
第二ピアノ 福井 教授

協奏曲 第三番 ハ短調 作品三七

第一樂章 アルレグロ コン プリオ

ヴァイオリン 獨奏

梅谷 興次
伴奏 水谷 達夫

ロマンス ヘ長調 作品五十

ピアノ 獨奏

ベートーヴェン
瀬下 宮子

スペイン狂詩曲……………リスト

休 憩

オルガン 獨奏

木岡 梅子

幻想曲と遁走曲 イ短調……………

バツハ

ピアノ 獨奏

森鼻 とし

狂詩曲 變ホ長調 作品百十九の四……………

ブラームス

テノール 獨唱

渡邊 高之助
伴奏 木下 教授

シルヴィアに寄せて 作品百六の四……………

シユーベルト

ミニヨンの歌 作品六二の四……………

〃

ガニメード 作品十九の三……………

〃

ピアノ 獨奏

今泉 みち
第二ピアノ シロタ 教授

協奏曲 第五番 變ホ長調 作品七三……………

第一樂章 アルレグロ

ヴァイオリン 獨奏

渡邊 曉雄
伴奏 今井 治郎

協奏曲 第十一番 ト長調 作品七十……………

第一樂章 アルレグロ ヴィヴァーチェ

ピアノ 獨奏

佐藤 英子
第二ピアノ シロタ 教師

協奏曲 第一番 變ホ長調……………

アルレグロ マエストロソークワツシ アダーチオー

アルレグレット ヴィヴァーチェ

アルレグロ マルチアーレ アニマート

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonnabend den 10. Dez. 1938 nachmittags 1 Uhr.

112. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Sopran-Solo	A. Takahasi
	<i>Begl.</i> A. Masiko
“Ah! Je veux vivre” Arietta von Juliette aus der Oper “Romeo et Juliette”.....	Gounod
Klavier-Solo	M. Takahasi
	<i>II. Klavier Prof.</i> N. Fukui
Konzert, a-moll, Op. 85	Hummel
<i>I. Satz: Allegro moderato</i>	
Bariton-Solo	T. Mizutani
	<i>Begl.</i> T. Mizutani
Allerseelen Op. 10 Nr. 8	Strauss
Morgen! Op. 27 Nr. 4	“
Zueignung Op. 10 Nr. 1	“
Klavier-Solo	M. Tanabe
	<i>II. Klavier Prof.</i> N. Fukui
Konzert Nr. 3. c-moll, Op. 37.....	Beethoven
<i>I. Satz: Allegro con brio</i>	
Violine-Solo	O. Umetani
	<i>Begl.</i> T. Mizutani
Romanze, F-dur, Op. 50	Beethoven
Klavier-Solo	M. Sesimo
Rhapsodie-Espagnole	Liszt
Pause	
Orgel-Solo	U. Kioka
Fantaisie und Fuge, a-moll.....	Bach
Klavier-Solo	T. Morihana
Rhapsodie, Es-dur, Op. 119 Nr. 4	Brahms
Tenor-Solo	K. Watanabe
	<i>Begl. Prof.</i> T. Kinosita
An Silvia, Op. 106 Nr. 4	Schubert

Lied der Mignon, Op. 62 Nr. 4.....	Schubert
Ganymed, Op. 19 Nr. 3	“
Klavier-Solo	M. Imaizumi
	<i>II. Klavier Prof.</i> Sirota
Konzert Nr. 5. Es-dur, Op. 73	Beethoven
<i>I. Satz: Allegro</i>	
Violine-Solo	A. Watanabe
	<i>Begl.</i> J. Imai
Konzert Nr. 11. G-dur, Op. 70.....	Spohr
<i>I. Satz: Allegro vivace</i>	
Klavier-Solo	E. Sato
	<i>II. Klavier Prof.</i> Sirota
Konzert Nr. 1. Es-dur	Liszt
<i>Allegro maestoso—Quasi Adagio—</i>	
<i>Allegretto vivace—Allegro marziale animato</i>	

昭和十三年十二月十一日 第一一三回学友会演奏会

東京音楽学校学友会

第一一三回学友会演奏会

昭和十三年十二月十一日(日)午後一時

	曲	目	
ピアノ	独奏		御宿好枝
譯詩曲	ト短調	作品二三	シヨパン
バス	独唱		栗本 次正
			伴奏 中田 一
「四季」の中の冬の部より	シモンの詠唱		ハイドン
心弱き者愚かなる者よ			

歌劇「シモン ボツカネグラ」より「フィエスコの詠唱」……ヴェルデー
痛められたる我が心

ピアノ 獨奏 神吉百合子

ピアノの爲のソナチネ ……ラヴェル

ソプラノ 獨唱 磯村澄
伴奏 都筑富美子

聖譚曲「エリアス」よりソプラノの詠唱 作品七十 ……メンデルスゾーン
聴け！イスラエルの民よ

ピアノ 獨奏 土屋徳藏
第二ピアノ 今井治郎

協奏曲 第二番 變ロ長調 作品十九 ……ベートーヴェン
第一樂章 アルレグロ コン プリオ

セロ 二重奏 赤松稔
第二セロ ドウックソン教師

二つのセロの爲の組曲 作品十六 ……ボツパー

第三番 スケルツォ クワッシ プレスト

第四番 ラルゴ エスプレツシーヴォ

休憩

ピアノ 獨奏 大島正泰
第二ピアノ 今井治郎

協奏曲 イ短調 作品五四 ……シニューマン

第一樂章 アルレグロ アフテユオーソ

フルート 獨奏 鈴木正三
伴奏 貫名教授

協奏曲 第二番 ニ長調

第一樂章 アルレグロ アツペルト

ピアノ 獨奏 野村幸子
第二ピアノ シロタ教師

協奏曲 嬰ハ短調 作品三十 ……リムスキー・コルサコフ

第一樂章 モデラート アンダンテ モツソールレグロ

テノール 獨唱

アンゼルモの墓にて 作品六の三 ……シニューベルト

我 妹 子 作品三十二の九 ……ブラームス

汝が黒髪を 作品十九の二 ……シユトラウス

ヴァイオリン 獨奏 近藤江泉
伴奏 田中立

ソナタ ト短調 ……タルティーニ

クワッシ アンダンテ

プレスト マノン トウロツポ

ラルゴ アルレグロ コモード

ピアノ 獨奏 丸田克子
第二ピアノ シロタ教師

協奏曲 イ短調 作品十六 ……グリーク

第二樂章 アダチオ

第三樂章 アルレグロ モデラート モルト エ マルカート

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonntag, den 11. Dez. 1938 nachmittags 1 Uhr.

113. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Solo Y. Misyuku

Ballade, g-moll, Op. 23 ……Chopin

Bass-Solo T. Kurimoto

Eegl. K. Nakata

“Erblicke hier, betörter Mensch” Arie von Simmon

aus dem Oratorium “Die Jahreszeiten”…Haydn

Romanza: “Il lacerato spirito” Arie von Fiesco

aus der Oper "Simon Boccanegra"Verdi
 Klavier-Solo Y. Kanki
 Sonatine pour le pianoRavel
 Sopran-Solo S. Isomura
 Begl. F. Tuzuki
 "Höre Israel, Höre Stimme" Op. 70Mendelssohn
 aus dem Oratorium "Elias"
 Klavier-Solo T. Tutiya
 II. Klavier Z. Imai
 Konzert Nr. 2, B-dur, Op. 19.....Beethoven
 I. Satz: *Allegro con brio*
 Violoncello-Duett I. *Violoncello* M. Akamatu
 II. *Violoncello Prof.* R. Dukson
 Suite für 2 Violoncellos, Op. 16Popper
 Nr. 3 Scherzo quasi Presto
 Nr. 4 Largo espressivo
 Pause
 Klavier-Solo M. Osima
 II. Klavier Z. Imai
 Konzert, a-moll, Op. 54Schumann
 I. Satz: *Allegro affetuoso*
 Flöte-Solo S. Suzuki
 Begl. Prof. M. Nukina
 Konzert Nr. 2, D-durMozart
 I. Satz: *Allegro apperto*
 Klavier-Solo S. Nomura
 II. Klavier Prof. Sirota
 Konzert, cis-moll, Op. 30Rimsky-Korsakow
 In I. Satz: *Moderato—Andante mosso—Allegro*
 Tenor-Solo H. Sakai
 Begl. K. Kawaguti

Am Grabe Anselmos Op. 6, Nr. 3Schubert
 Wie bist du, meine Königin, Op. 32, Nr. 9...Brahms
 Breit über meine Haupt Op. 19, Nr. 2.....Strauss
 Violine-Solo S. Kondo
 Begl. T. Tanaka
 Sonate, g-mollTartini
Quasi Andante
Presto ma non troppo
Largo, Allegro con moto
 Klavier-Solo K. Maruta
 II. Klavier Prof. Sirota
 Konzert, a-moll, Op. 16Grieg
 II. Satz: *Adagio*
 III. Satz: *Allegro moderato molto e marcato*

昭和十三年十二月十七日 第八十六回定期演奏会

昭和十三年十二月十七日(土曜日)午後六時開場
 七時開演

會場 日比谷公會堂

音楽演奏曲目

東京音楽学校

I. 管絃樂 交響曲・ニ長調(ケツクル番號五〇四).....モーツァルト作

(メヌエット無シ)

アダージョーアレグロ

アンダンテ

フィナーレ・プレスト

一休 聽

II. 獨唱・合唱・管絃樂

鎮魂曲 (レクイエム)、ニ短調 ケツヘル番號六二二六

モーツァルト作

永遠の安息 (入祭誦) とキユリエ

怒の日—怒の日、奇しき喇叭の音、恐る可き王よ、

思ひ出させ給へ、狼狽して、涙ながらの日よ

奉獻—主なるイエズよ、オステイアス

聖なる哉と祝せられ給へ

神羔誦と永遠の光明

ソプラノ 山内秀子
アルト 徳末義子
テノール 木下保
バス 村尾護郎

指揮 ヘルムート・フェルマー

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

合唱 東京音楽学校生徒

〔原資料横組〕

Programm

I. Orchester

Symphonie, D-dur. (K. V. 504) Mozart

(ohne Menuett)

Adagio—Allegro

Andante

Finale: Presto

—(Pause)—

II. Soli, Chor und Orchester

Requiem, d-moll. (K. V. 626) Mozart

1. Requiem aeternam (Introitus) et Kyrie eleison.

Dies irae:

2. Dies irae—3. Tuba mirum—4. Rex tremendae

5. Recordare—6. Confutatis—7. Lacrimosa.

Offertorium:

8. Domine Jesu Christe—9. Hosias

10. Sanctus—11. Benedictus

12. Agnus Dei et Lux aeterna

Sopran: Hideko Yamanouti

Soli Alt: Noriko Tokusue

Tenor: Tamotu Kinoshita

Bass: Goro Murao

Leitung: Helmut Fellner

Chor und Orchester der Staatlichen Musikakademie

zu Tokio

曲目解説

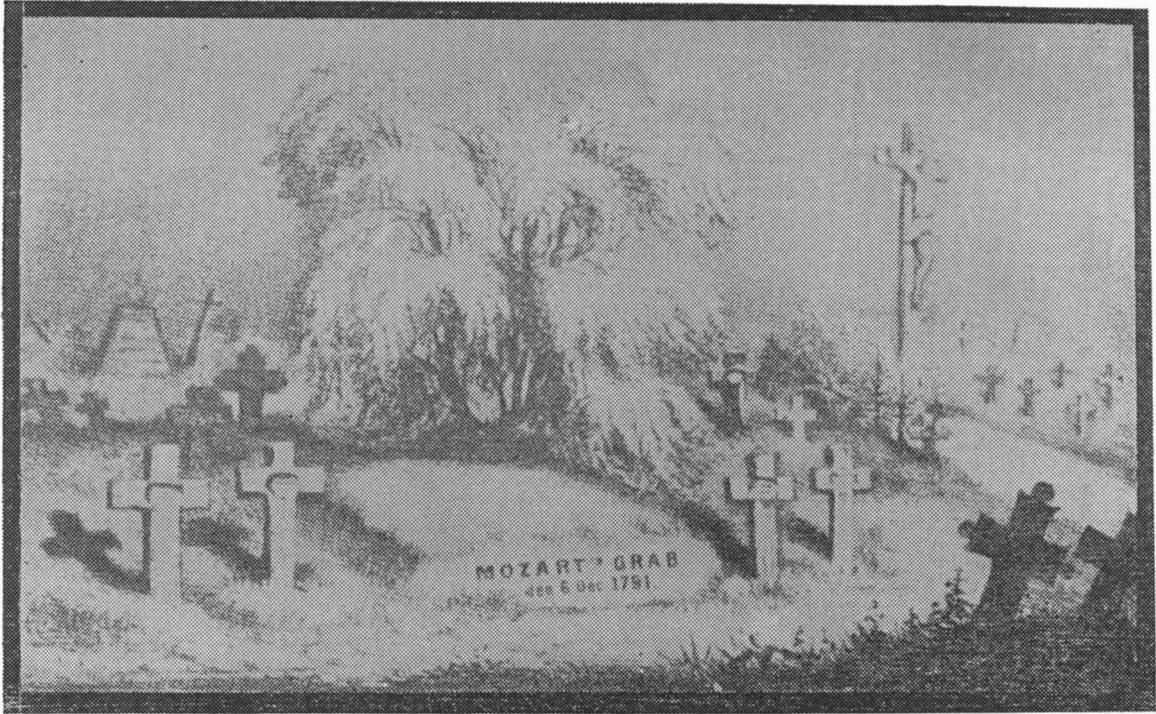
I. 交響曲・ニ短調 (ケツヘル番號五〇四)

モーツァルト作曲

この交響曲は第三樂章 Menuett が無く、三樂章から成立してゐるので ohne Menuett 「メヌエット無し」の標語で呼ばれてゐる。而も晩年の作で、すべたものである。

作曲年代——歌劇フィガロとドン・ファンを作曲してゐた頃の作で、一七八六年十二月にウィーンで完成して、初演は翌年一月十九日ブラーハで行はれた。

形式と内容——第一樂章は先づアダージョ四分の四拍子の堂々たる三十二小節の長い序奏部に始まり、提示部の本體に入つて急速調になる。主副主題 (樂譜参照) を骨子として、通常のソナタ形式をなしてゐる。第二樂章はアンダンテ八分の六拍子・ト長調で書かれ、美しい歌謠調旋律が流れ



昭和13年12月17日演奏会解説の表紙「1850年頃のMozartの墓」

(主題・楽譜参照) しかし形式はソナタ形式を以て出来上つてゐる。第三章即終樂章は最急速調・四分の二拍子・ニ長調に戻り、軽快にして而も氣品がある。形式はロンド風を思はせるが、ソナタ形式を整備してゐる。

II. 鎮魂曲(レクイエム)

モーツアルト作曲

レクイエムは通常鎮魂曲と譯してゐるが、死者の爲めの彌撒、追禱彌撒のことであつて、死者の靈魂の安息(Requiem)を祈る爲めに行はれる天主教の聖祭のことである。葬儀、法事等にもレクイエムは行はれる。この聖祭の爲めの音楽が鎮魂曲である。

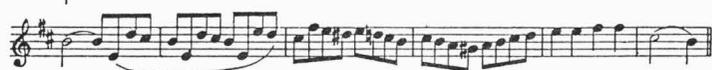
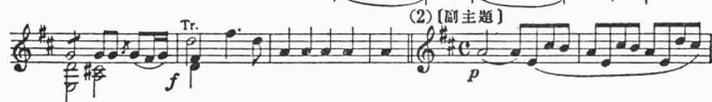
作曲に就いて——この作はモーツアルトの死(一七九一年十二月五日)直前まで作曲してゐたので、未完成のまゝで遺された。この作の眞偽に就いては種々の論議があり、一八二〇年頃まで作曲に關する事情が明かにならなかつた。それは丁度「魔笛」の完成と「ティトウス」の作曲に多忙だつたその年の七月頃の或日、匿名の男がレクイエムの作曲を依頼して來た。謝金も二百ドゥカーテン置いて行つた。當時貧しかつたモーツアルトはこれが作曲を引受けたが、上記歌劇の作曲に多忙だつたのでレクイエムの作曲は十月に入つてから始めた。しかし彼の心身は共に衰へ、「このレクイエムは自分の爲めに書いてゐるのだ。自分の感じではもう長く續かないと思ふ」と妻コンスタンツェに言つた。十一月末には病は重く再起の望みなく、死の前日の午後友人達とレクイエムの試奏を病床で聞いた。自分もアルトのパートを歌ひ、「涙ながらの日よ、Lacrimosa」の初節に達して流涕して譜を置いてしまつたと云ふ。その夜死期の迫つたことを語り、弟子Süssmayerに未完成のレクイエムに關する指圖を與へたと近親の遺した記録にある。

モーツアルトの未亡人は、ジュースマイエルに取りあへずその完成を托し二ヶ月後に依頼者に手渡した。この依頼者は Franz von Walsegg 伯の家令であつて、伯は大家の作曲を買ひ取つては自作として自邸で演奏して

Symphonie, D-dur

第一樂章 (Allegro)

(1) (主要主題)



第二樂章 (Andante)

(3) 主要主題



(4) 副主題



第三樂章 (Presto)

(5) 主要主題



(6) 副主題



Requiem

(No.1)

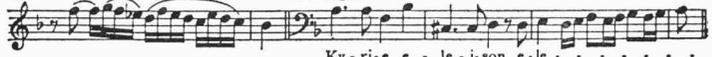
a. Requiem (Adagio)



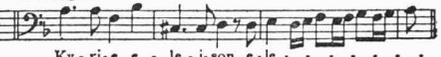
b.



c.



d. Allegro



Ky-ri-e e - le - i - son e - le -

e.



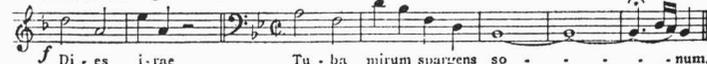
Chri-ste e - le

No.2

Dies irae (Allegro assai)

No.3

Tuba mirum (Andante)



Di - es i - rae

Tu - ba mirum spargens so - - - - num.

No.4 Rex tramendae (Grave)



Rex tre - men - dae maje - sta - tis

No.5 Recordare (Andante)



Re - - - cor da - - re, Je - su - pi - - e,

No.6 Confutatis (Andante)



Con-fu-ta-tis Vo - ca, vo - ca me,

No.7 Lacrimosa (Larghetto)



La - cri-mo-sa

No.8 Domine Jesu (Andante)



Do-mi-ne Jesu Chri - ste, Rex glo-ri-ae, Rex glo-ri-ae

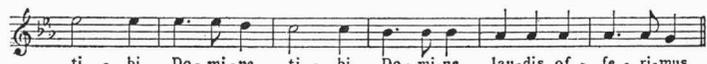
Fuga

quam o-lim A-bra-hae

No.9 Hostias (Andante)



pro-mi-si - sti et se-mi-ni e - jus Ho - sti-as et pre ces



ti - bi, Do - mi - ne, ti - bi, Do - mi - ne, lau - dis of - fe - ri - mus,

No.10 Sanctus (Adagio)



San - ctus, San - ctus, San - ctus, O - san - na in - ex - cel -

Allegro

No.11 Benedictus (Andante)



- sis.

No.12 Agnus Dei (Larghetto)



A - gnus De - i qui tol - lis pec - ca - ta mun - di

Adagio



Do - na e - is re - qui - em! Lux ae - ter - na lu - ce - at e - is Do - mi - ne

みた。所がモーツアルトの未亡人はその後、原稿断片を指揮者 Joseph Eybler に托したが少々編曲したのみで、其後ジュースマイエルが完成して、公に演奏されるやうになつたので、この秘密は暴露されるに至つたのである。モーツアルトが瞑目した時は、完全に書き上げてあつたのは、第一番の Requiem の Kyrie eleison だけで、第二番から第九番即ち Dies irae から Hostias までは聲音部と數字付低音が書かれ、所々に前奏、間奏等樂器の部分が書かれてあつたに過ぎない。特に第七番「涙ながらの日よ」は最初の八小節のみが作曲されてゐる。尙最後の三曲即ち Sanctus, Benedictus, Agnus Dei はジュースマイエルが師の樂想に従ひ、師の作曲手法に於て書き加つたのである。

形式と内容——モーツアルトのレクイエムは No. 1 から No. 12 まづに分れてゐるが、次のやうに大別出来るし、又通常ミサと形式を比較して置く。

通常ミサ

- I. Kyrie eleison レクイエム (死者の爲めのミサ)
- Requiem-Kyrie
- II. Gloria Sequenz: Dies irae
- III. Credo Offertorium: Domine Jesu, Hostias
- IV. Sanctus-Benedictus Sanctus-Benedictus
- V. Agnus Dei Agnus Dei-Lux aeterna

I. (1) 永遠の安息 Requiem aeterna を與へ給へと靜かに祈るのがこの入祭誦アダーチオの部分、合唱である。主憐み給へ Kyrie eleison はアレグロで、合唱はフーゲの形で歌はれる。(以下樂譜参照のこと)

II. セクエンツ Dies irae は (2) 7 までであつて、レクイエムの本體をなすものである。公審判の意味で、世の終局と判官の出現を叙しこの世の罪人が神の裁きを受けんとする情景を描き、アッシジの聖フランシスコの盟友トーマスの作詞である。恐怖、激動、哀願の宗教感情を表現し、作曲家は劇的表現をなし易し。(2) 怒の日 Dies irae は強音四部合唱 (アレグロ) で公審判の開始を歌ふ。(3) 奇しきラッパの音 Tuba mirum は死者の靈を呼びさまし、墓から引出すことを告げる。この樂節は四人の獨唱 (ア

ンダンテ) である。(4) 恐ろしき王よ Rex tremendae に於ては再度合唱 (グラウヴェ) となり、クリストにすがらうとして、救ひ給へ、慈悲の泉よ Salva me, fons pietatis」と歌ふ。(5) 思ひ出させ給へ Recordare はアンドンテの四重唱であり、この世に降り給ひ、世の罪を一身に贖ひたるを思ひ出させ給へと歌ふのである。(6) 狼狽して Confutatis、四部合唱 (アンダンテ) で、煉獄に投せられる前に救ひ給へと祈る。「我心は悔恨により灰の如し」と有名な句を歌ふ。(7) 涙ながらの日よ Lacrimosa、このラルドエントの合唱は特に優れた作である。この樂節で「怒の日」を終る。最後に永遠の安息を彼に與へ給へと歌ふ。

III. 奉献 Offertorium は (8) 主よ、クリスト Domine Jesu と (9) 供物 Hostias とから成立する。死せる凡ての信者の靈魂を地獄の刑罰から救ひ給へと歌ふ。このアンダンテの (8) (9) の部分は合唱と獨唱とから出來てゐる。合唱はフーゲを巧みに歌ひ込んでゐる。奉献誦の歌はれるようになつたのは、第四世紀アウグスティヌスの命による。

IV. 聖なる哉 Sanctus (10) と祝せられ給へ Benedictus (11) から成りたつ。神の無限聖を讚美するのがこの聖句である。合唱と重唱とで歌はれる。Hosanna in excelsis! 「いと高き所にオザンナ」はフーゲで歌はれる。オザンナとは「我等を救ひ給へ」と云ふヘブライ語である。

V. 神羔誦 Agnus Dei と永遠の光明 Lux aeterna から成立し、神聖な感で充滿してゐる。神の羔は世の罪を除くのである。彼等に永遠の安息を與へ給へと合唱は祈る。最後の樂節「主よ永遠の光明を彼等の上に照し給へ」は先づソプラノ獨唱で歌はれ、合唱がこれに續いて「永遠に汝の衆聖と共に彼等を照さんことを」と祈つて曲が終る。

〔歌詞省略〕

學校長 乗杉嘉壽
指揮者 ヘルムート・フエルメル
海軍々楽隊長 内藤清五

關係管絃樂部員

第一ヴァイオリン 井上武雄

兎束龍夫

栗原大治

林良輝

福井巖

大岡運英

桂平太

岡見温彦

西川滿枝

松浦きみよ

松田十藏

田中富貴子

細谷正秋

伊藤光

清田金吾

岡田次郎

多田久興

田村五郎

小宮山繁

渡邊曉雄

水口幸麿

小谷芳朗

岩本政藏

山内妙子

荒木幹枝

ヴァイオリン

清野保子

近藤泉

河鱒美恵子

朴敏鐘

藤田經秋

増田尙一郎

榎本長四郎

北川庸二郎

平井保喜

伊藤純三

松村重利

喜田遷吉

梅谷興次

杉田夏子

長澤正治

平井保三

小澤弘

酒井悌

沖不可止

盛口悦知

安部幸明

黒羽亘

細井琢磨

赤松稔

深海善次

城多又兵衛

今村清一

川崎敏雄

(海)小原政治

コントラバス

(海)小原政治

上野のモーツァルト

野村光一

オルガン	(海)常松秀衛	ホルン	中田一次
フリユート	(〃)梶谷宗之助	トランペート	永田晴
オーボエ	奥田耕天	井上直二	伊藤善十郎
クラリネット	鈴木正三	山本正人	中山富士雄
ファゴット	中津井實	ボザウネ	山本正人
	山本力	(海)小田桐芳雄	
	北爪利世	(〃)洞口賢一	
	金子登	西川潤一	
		遠藤宏	
		解説並譯詞	

〔原資料横組〕

第二ヴァイオリン

セロ

◆十二月十七日夜、日比谷公會堂、東京音樂學校の公開演奏會は近頃でもやはり評判が芳ばしくないやうである。管絃團のメンバーも随分古參が整理され新顔が加はつて再組織されたし、指揮者も前任のシユウイーガー氏ほどではないが、少くともプリングスハイム氏とは比較にならぬ、若い管絃團統率能力のあるフェルマー氏が代つたのだから以前とは相違した成績を擧げてゐなければならぬ筈である。

◆果敢、今度のモーツァルトの「鎮魂曲」は從來の杞憂を打破する演奏となつた。こんなことは珍しい。私自身音楽として樂しめる演奏をこゝの演奏會から聴いたのは全く久振りのことである。勿論今般の好成績の大部分は傳統的に優秀な合唱團とこれもまた稀に揃つた山内、徳末、木下、村尾四氏の獨唱によるところ多々あつたが、それをあれだけ確實な演奏に纏め上げたフェルマー氏の指揮振りにも負はねばならぬと思ふ。殊に、氏のリズムミツクな部分における健全なアクセントは、多少ドイツ風の訛りはあるが快いものである。上野は今後、この若い、正直な指揮者とともに立直りさうな氣がした。

〔東京日日新聞〕昭和十三年十二月二十一日

昭和十四年一月二十一日 学友会第一回邦楽演奏会
 昭和十四年一月二十一日(第三土曜日)午後一時半始
 東京音楽学校学友会
 第一回邦楽演奏會
 於本校奏樂堂

一、觀世流謠曲	鉢	木(後シテより)	シテ ワキテ (地謠) (地謠) 謠	服見部 浅西信 大信重 清郁三
二、生田流箏曲	地 唄	新 娘 道 成 寺	三 絃 (本手) (替手)	鈴木嘉代子 中村清子 塚越清子 網野操子
三、長 唄	新 曲	胡 蝶	唄	梶 菊 江 藤 江 多 恵 遠 山 美 津 子 横 山 芳 枝 原 澤 百 合 子
四、山田流箏曲	花 の 雲	三世 山勢松韻作曲	箏	中 島 泰 子 東 條 夏 子 中 能 島 教 授
五、觀世流仕舞	休 憩	八 嶋	三 絃	大 西 信 辨

笠 之 段

清 水 郁 三

六、生田流箏曲

古 曲

箏(雲井調子) 松 尾 清 二
 (平調子) 古 川 太 郎

七、長 唄

春 調 娘 七 種

唄 線
 三 味 線
 西 原 恒 勇 藏
 橋 本 百 合 子
 横 山 芳 枝

學友會邦楽演奏會の誕生

昭和十一年七月の本校に於ける邦楽科設置の實施により現在一回の卒業生を出し、此所に四年の歲月を経た。昨年度當初より第一期生の間に學友會邦楽演奏會希望の氣運起りしも種々困難事ありて其の實現を見ず。昨年十二月に於ける理事改選直前に、前理事古川君と自分の手によつて此の誕生を見たのである。併し其の當時に於ては全々雲を掴む如くあつたのは當然であり其の實現は危い物であつた。とは云へ其の以前より諸先生の間に全々姐上の物とならなかつた。話ではなかつた併し乍ら此の計畫が實現した今日一筆止めて置き度い事は我々が之を起した動機である。

一、我々邦楽科生徒の演奏會は別に無く、唯年二回ある邦楽選科定期演奏會に補助出演するのみであつた事。

一、今迄の演奏會その物が非常に大衆的であり場受のする曲目の多くあつた事。

一、邦楽科として能樂、箏曲、長唄三科が纏つてはゐるものゝ各科生徒は御互ひを理解する事無く徒らに我田引水の夢より覺めざりし事。

一、演奏そのものゝ經驗としては今迄或る固定の人材のみ用ひられた爲一般にその體驗に乏しき者多き事。

以上の四箇條は我々が日頃から痛感してゐる所で又此の時機を選んだのは邦楽科生徒の充實と共に第一期生の卒業前に第一回演奏會開催を志した事に依るのである。

斯くして十二月七日(水)會長並びに理事長、五教授承認を以つて誕生し、之より各科第一回演奏會の曲目選定、引き續き練習に取り掛り明けて昭和十四年一月二十一日(土)に第一回を開く事が出来た。

此所に我々の學友會演奏會に對する趣旨を述べる。

一、飽迄學生らしく眞面目に演奏する事。之は云ふ迄も無い事であるが、併し肝心な事で故觀世教授、吉住教授の御言葉にも「人に見せる、聞かせると云ふのでなく人の前で自己の藝を練り修行の一課程として見るべきが至當であらう」と云はれてゐる。

一、演奏曲目、演奏方法並びに演奏態度は純本格的に爲す事。

一、目的は觀客になく正しく教へられた通りを發表する事。

年三回の制度に依つて五月二十七日(日)に第二回を十月二十八日(土)に第三回を無事に開催出来た事は、會長を始め諸先生の御後援によりし事は勿論であるが、我々邦楽科生徒も演奏はもとより事務に到る迄、各員揃つて良く働いてくれた事は將來にも影響して良い結果を得る事と信ずる。

凡そ新創の事業は一直線に無難に進行し得べきものではない。或は躓き或は悩み種々の艱難を経、辛苦を嘗めてこそ始めて成功を見るのである。將來の人達の爲に言つて置くが、斯る事業をなすには第一に志操の堅實。第二に知識の豊富。第三に勉強心の旺盛。第四に忍耐力の鞏固である。以上四つの要件を具備し將來此の邦楽演奏會を健全に育て、行つてほしいと思ふ。

併し始めの中は成る可く合議制に依る事を計劃したが反省して見ると殆んど行はれず自分一人の狭い考へで事務の處理を行つた事は、仕方が無かつたとは言へ實に遺憾な事である。

(『音楽』學友會、第二十号、昭和十五年一月、一三七〜一三八頁)
(服部榮次)

昭和十四年一月二十八日 銃後奉仕邦楽演奏會

昭和十四年一月二十八日(土曜日) 午後五時開場
六時開演

會場 神田一ツ橋 共立講堂

銃後 奉仕 邦楽演奏會曲目

東京音楽學校

一 清 經 シテ 觀世左近 小笛 寺井政
大鼓 高安道 喜朗數

二 鶴 龜 シテ 寶生重英 小笛 一噌鏝
大鼓 金川森重 吉朗二
太鼓 春利右衛門

三 根引の松 地謡 松岸本水 惠雄 加寶徳 藤生秀 治雄久

四 神田祭 長 根 吟 外職員生徒約百名 外助

幸堂得知歌 稀音家六四郎曲 吉住小三郎

——休憩——

五 綱 館 曲舞之段
稀音家照海曲

長 唄
吉住小太郎
吉住小三郎
吉住小三郎
吉住小三郎

三味線
稀音家四郎
稀音家四郎
稀音家四郎
稀音家四郎
望月孝三郎
望月孝三郎
望月孝三郎
望月孝三郎

六 連 獅 子
正治郎曲

長 唄
中村六之助
中村六之助
中村六之助
中村六之助

三味線
杵屋六衛門
杵屋六衛門
杵屋六衛門
杵屋六衛門
望月久門
望月久門
望月久門
望月久門

——休憩——

七 聖 戰 讚 歌
乘杉嘉壽歌
中能島欣一曲

中能島欣
古澤正一
外生徒

八 東 亞 の 黎 明
乘杉嘉壽歌
宮城道雄曲

宮城道雄
牧瀬喜代
高草幹數
上野草幹數
外川愛生

音樂學校の邦樂科が銃後奉仕で街頭進出

東京音樂學校では傳統の殻を破つて銃後奉仕のため最近街頭進出公演を敢行してゐるが、今度同校邦樂部をあげて廿八日午後六時から神田一つ橋の共立會館に進出が決定、全講師出演の銃後奉仕邦樂大演奏會を催すこととなつた、番組は「中略」、収益は全部國防獻金にあてるといふ
(「報知新聞」昭和十四年一月十六日)

昭和十四年二月四日 学友会第一一四回洋樂演奏會

東京音樂學校學友會

第一一四回洋樂演奏會

昭和十四年二月四日(土)午後一時三十分

曲 目

ソプラノ 獨 唱

都田千枝子
伴奏 都筑富美子

作 品 發 表

高田信一
演奏

糸車によるグレッツェン Op.2 シューベルト
ピアノ奏鳴曲 變ホ長調 第一章
アダチオーアルレグロ モルト

ソプラノ 獨 唱

杉浦文子
伴奏 都筑富美子

歌劇「ラ・ボエーム」より ミの詠唱

誰でもミのと

ピ ア ノ 獨 奏

奏鳴曲へ短調 作品五

下山智子
ブラームス

諧謔曲 アルレグロ エネルジーコ

間奏曲 アンダンテ モルト

終曲 アルレグロ モテラート マルベート

吹奏楽 指揮 山口助教 教授

音詩 フィンランディア シェリウス

休憩

バリトン 獨唱 伴奏 車田 謁 也

アダライデ 作品四十六 ベートーヴェン

ヴァイオリン 獨奏 伴奏 朴 敏 鐘

ファンタジア アパシヨナータ 作品三五 ヴェーグター

二重唱 ソプラノ 進 豊 田 春 恵
アルト 藤 梅 子

歌劇「ウインザーの陽気な女房達」より ニコロライ

フルートとライヒの二重唱

ドツペルコンツェルト 第一ピアノ 中 村 康 子
第二ピアノ 谷 康 子

二臺のピアノの爲の小協奏曲 變ホ長調 モーツァルト

アルレグロ

アンダンテ

ロンド アルレグロ

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonnabend, den 4. Feb. 1939 nachmittags 1.30 Uhr.

114. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Sopran-Solo T. Miyakoda

Gretchen am Spinnrade Op. 2 F. Schubert

Komposition S. Takata

Klavier Solo //

Klavier Sonate, Es-dur, Satz 1.

Adagio—Allegro molto

Sopran-Solo F. Sugiyura

Begl. F. Tuzuki

Arie von Mimi, "mi chiamano Mimi"

G. Puccini

Klavier-Solo T. Simoyama

Sonate, f-moll, Op. 5 J. Brahms

Scherzo: Allegro energico

Intermezzo: Andante molto

Finale: Allegro moderato ma rubato

Blasorchester Dirigent: Prof. M. Yamaguti

Tondichtung: Finlandia Sibelius

Pause

Bariton-Solo E. Kurumada

Begl. K. Kawaguti

Adelaide Op. 46 L. v. Beethoven

Violin-Solo

B. Boku

Begl. M. Osima

Fantasia appassionata, Op. 35.....H. Viouxtemps

Duett

Soprano H. Toyoda

Alt U. Sindo

Begl. R. Tominaga

Frau Flut und Frau Reich

aus der Oper "Die lustige Weiber von Windsor"

.....O. Nicolai

2 Klaviere

I. H. Nakamura

II. Y. Tani

Begl. Prof. I. Sirota

Doppel-Konzert für Klaviere, Es dur.....W. A. Mozart

Allegro

Andante

Rondo Allegro

歌劇「フアウスト」より.....グーノー

カヴァティナ

作品発表

ピアノの爲の三つの前奏曲

1. へ短調 アジタート

2. 變ホ長調 レント カルマート

3. ハ長調 アルレグロ

五重奏

ピアノ 永井進

ヴァイオリン 岡田二郎

ヴァイオリン 松浦きみ

セロ 小澤弘

コントラバス 今村清一

歌曲「鱒」による五重奏曲 作品一一四.....シューベルト

アルレグロ ヴィヴァーチェ

アンダンテ

プレスト(スケルツォ)

アンダンテ(主題と變奏曲)

アルレグロ チュスト(フィナーレ)

休憩

メッツオソプラノ獨唱

白尾容子

伴奏 丸田克子

歌劇「カルメン」より.....ビゼー

ハミネラの歌

ヴァイオリン獨奏

河鱒美恵子

伴奏 野村幸子

協奏曲 ホ短調.....ナルデイーニ

アンダンテ カンタビレ

昭和十四年二月五日 学友会第一一五回洋楽演奏会

東京音楽學校學友會

第一一五回洋楽演奏會

昭和十四年二月五日(日)午後一時三十分

曲目

ピアノ獨奏

福澤光世

譚詩曲 第二番 へ長調 作品三八.....シヨパン

テノール獨唱

榊原昌

伴奏 伊達純

アルレグロ チオコーン

二重唱

ソプラノ 金子用子
ソプラノ 富永治子

歌劇「自由射手」第二幕より

アガータとエンヒエンの二重唱

歌劇「ファイガロの結婚」より

スザンナと伯爵夫人の二重唱

ピアノ 獨奏

ハンガリアン狂詩曲 第十五

(ラコッツイマーチ)

ソプラノ 獨唱

若槻文子
藤田文子
伴奏 黒澤愛子

歌劇「トスカ」より

トスカの詠唱

歌劇「お蝶夫人」より

お蝶夫人の詠唱 或る晴れた日に

ピアノ 獨奏

山田操
第二ピアノ シロタ教師

協奏曲 第二番 短調 第一章

メヒストーン

〔原資料横組〕

PROGRAMM

Klavier-Solo

Ballade, F-dur, Op. 38

Tenor-Solo

Cavatine

aus der Oper "Faust"

Komposition

Die Päludien für Klavier

1. Agitato, f-moll

2. Lento calmato, Es-dur

3. Allegro, C-dur

Klavierquintett

Forellen-Quintett

Allegro vivace

Andante

Scherzo: Presto

Andante (Tema con Variazioni)

Finale: Allegro giusto

Pause

Mezzosopran-Solo

Arie von Carmen, Habanera

aus der Oper "Carmen"

Violin-Solo

Violin-Solo

Violin-Solo

Violin-Solo

aus der Oper "Carmen"

aus der Oper "Carmen"

aus der Oper "Carmen"

T. Hukuzaawa

F. Chopin

S. Sakakibara

Begl. J. Date

Gounod

K. Nakada

"

Klavier Solo

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

"

Kozert, e-moll.....P. Nardini
Andante cantabile
Allegro giocoso

Duett

Sopran Y. Kin
Sopran H. Tomimaga
Begl. K. Maruta

Agathe und Ännchen
 aus der Oper "Der Freischütz"C. M. v. Weber
 Susanna und Gräfin
 aus der Oper "Die Hochzeit des Figaro" ...W. A. Mozart

Klavier-Solo

Ungarische Rhapsodie Nr. 15 (Rákóczy Marsch)

F. Liszt

Sopran-Solo

Arie von Tosca

aus der Oper "Tosca"G. Puccini

Arie von Butterfly

aus der Oper "Madama Butterfly"

Klavier-Solo

Konzert Nr. 2 f-moll, Op. 21F. Chopin

Satz 1. Maestoso

M. Yamada

ベートーヴェン・アーベント

一、管絃樂並獨唱

ゲーテ悲劇「エグモント」の音楽(作品八四)より

a. 序 曲

b. クレルヘンの歌二曲

1. 太鼓は響き

2. 嬉しくもまた悲しみて

c. クレルヘンの死(管絃樂)

d. 勝利の音楽(//)

二、ヴァイオリン獨奏・管絃樂伴奏

獨奏 アレキサンダー・モギレフスキー

ヴァイオリン協奏曲・ニ長調・作品六一

アレグロ・マ・ノン・トロツポ

ラルヂェット

ロンド

——休憩——

三、管 絃 樂

第四交響曲・變ロ長調・作品六〇

アダージェオーアレグロ・ヴィヴァーチェ

アダージェ

アレグロ・ヴィヴァーチェ

アレグロ・マ・ノン・トロツポ

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

指揮 ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

昭和十四年二月二十五日 第八十七回定期演奏会

昭和十四年二月二十五日(土曜日)午後六時半開場

會場 日比谷公會堂

定期演奏曲目

東京音楽學校

Programm

Beethoven-Abend

I. Musik zu Goethes „Egmont“ Op. 84

a) Ouvertüre

b) 2 Lieder von Clärchen

1. Die Trommel gerührt

2. Freudvoll und leidvoll

c) Clärchens Tod (Orch.)

d) Siegesymphonie

II. Violinkonzert, D-dur, Op. 61

Allegro ma non troppo

Larghetto

Rondo

—Pause—

III. Symphonie Nr. 4, B-dur, Op. 60

Adagio—Allegro vivace

Adagio

Allegro vivace

Allegro ma non troppo

Sopran : Mieko Kako

Violine : Alexander Mogilewsky

Leitung : Helmut Fellmer

Orchester der Staatlichen Akademie zu Tokio

悲しい演奏

上野音楽学校のベートーヴェンの夕

◇…半年振りまで演奏会に行ったので批評よりも楽しみたい気持ちが多かつた。

しかし段々聞いて行く内に、その最初の気持は消えて、管絃樂の中の、互の協和が容易に得られないやうな管の群や、また管樂器の量が貧弱で絃の壓倒的な大人數に對抗し得ない事や、そこから起るテュティの力無さや、歌の伴奏の管絃樂の無遠慮な大きさや、またその爲か知らないが獨唱者の負けまい／＼とする努力や、管絃樂員に休止符が来ると體を休めるのに余りに急であることや、その態度がこの演奏會全體を兎に角片付ければいゝのだと思つてゐるのではないかと疑はせ、私の心はすっかり沈んでしまつた。

◇…モギレフスキーの弾いた協奏曲もその第一樂章の味も素つ氣もない片付け方が妙に私の心につかへて、第二樂章の美しい歌ひ方や、時々ホツとさせるやうな彼のG線の歌の美しさも、何だか十分に楽しめなかつたやうな後口の悪さが残つた。

◇…指揮者のヘルムート・フェルマーは、この前、去年の春聴いた時に比べると遙にいゝ印象を受けた、私はこの眞面目さが好きだ。それは曲の解釋に出てる。

しかし、もつと場内の氣と機を掴んでもらひたい意味で、この人に世阿彌の「申樂談義」のやうなものを讀ませてやりたい、曲目、「エグモン」(序曲、歌その他)提琴協奏曲ニ長調、「第四交響曲」(長谷川千秋) (『東京朝日新聞』昭和十四年二月二十八日)

ベートーヴェンの夕

東京音楽學校定期演奏

山根 銀二

二月廿五日日比谷公會堂で東京音楽學校の定期演奏が行はれた。

曲目は全部ベートーヴェンでエグモントの音楽、提琴協奏曲、第四交響曲の三つ。獨唱者は加古三枝子、提琴はモギレフスキーであつた。エグモントの二つの歌はよく勉強されたものだったが、聲量に不足した表情に乏しいのが缺點であつた。「美しく悲しく物想はしく」と歌詞の冒頭にあるやうに歌つてほしいものだ。

モギレフスキーは提琴協奏曲の第二樂章を妙にやにこく持つて廻つたが、それだけならまだしも、長つたらしい自作の節奏を終りにつけて全く原曲の味を殺して了つた。

此處のカデンツは無くもがなもので強ひてつけるとすれば第三樂章へ滑り込むための滑油であり弾み車であるやうに(さうでなければ兩樂章の對照が生きぬ)工夫されるべきだ。モ氏のやうな幻想は此處ではいらぬ。

終樂章の主題までがその延長にされて腑抜けとなり管絃樂に受繼がれてはじめて正しい表情に訂正されるやうな遣り方は正當なものではない。第四交響曲は例によつて荒つぽいものだったが、スケルツォでシンコペーションが生きざごたごたしたのは一等いけない。

(『東京日日新聞』昭和十四年三月二日)

昭和十四年三月二十二日、二十三日 卒業式

昭和十四年三月二十二日(水曜日)午後一時開始

卒業證書授與式順序

東京音楽學校

第一日(三月二十二日午後一時開始)

- 一、國歌「君が代」奉唱
- 二、卒業證書並賞品授與
- 三、學校長告辭
- 四、文部大臣祝辭
- 五、卒業生總代謝辭
- 六、合唱「仰げば尊し」
- 七、卒業演奏

演奏曲目

洋樂 第一部

- 一、ピアノノ獨奏……………甲種師範科卒業 高橋千枝子
ショパン作・スケルツォ・嬰ハ短調・作品三九
 - 二、ソプラノ獨唱……………甲種師範科卒業 塚本智子
ブラームス作・永遠の愛・作品四三・第一
 - 三、ピアノノ獨奏……………本科卒業 丸田克子
ショパン作・譚詩曲・ト短調
 - 四、アルト獨唱……………本科卒業 登坂嘉代子
ワーグネル作・樂劇「ラインの黄金」中
女神の詠唱
 - 五、ピアノノ獨奏……………本科卒業 今泉みち
ショパン作・ソナタ・ロ短調・第四樂章
 - 六、コントラバス獨奏……………本科卒業 今村清一
グスターフ・ラスカ作・愛の詩・作品一七
 - 七、ソプラノ獨唱……………本科卒業 富永治子
ロッシーニ作・歌劇「セヴィラの理髮師」中
ロジーナの詠唱
 - 八、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 近藤泉
ゴダール^(Godeau)下作・協奏曲・ト短調・作品一三一・
第一樂章
 - 九、ピアノノ獨奏……………本科卒業 佐藤英子
リスト作・フュネレイユ
- 休憩 ——
- 洋樂 第二部
- 一〇、テノール獨唱……………甲種師範科卒業 榊原昌

- a. シューベルト作・何處へ「美しき水車小屋の乙女より」・作品二五ノ二
- b. シューベルト作・焦燥「」・作品二五ノ七

一一、ピアノノ獨奏……………本科卒業大橋恒子

リスト作・リゴレット・パラフレーズ

一二、トロンボーン獨奏……………本科卒業山本正人

自作・小協奏曲

一三、アルト獨唱……………本科卒業藤梅子

a. トーマ作・歌劇「ミニヨン」中ミニヨンの詠唱

b. マイエルベル作・歌劇「豫言者」中ファイデスの詠唱

一四、ピアノノ獨奏……………本科卒業山田操

リスト作・ファウスト・ワルツェル

一五、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業清田金吾

シンディング作・組曲・イ短調・作品一〇

一六、ソプラノ獨唱……………本科卒業豊田春恵

a. ニコライ作・歌劇「ウインザーの陽気な女房達」中フルート夫人の詠唱

b. プッチーニ作・歌劇「トスカ」中トスカの詠唱

一七、ピアノノ獨奏……………本科卒業富永瑠璃子

ブラームス作・協奏曲・第一・ニ短調・作品十五・第一樂章

第二日(三月二十三日午後一時開演)

邦樂

一、觀世流 能樂 小袖 曾我

二、山田流箏曲

岡康 砧(岡康小三郎作曲)

箏 邦樂科卒業中島泰子
同 邦樂科卒業東條夏子

三、長唄

韮 猿(二世杵屋勝三郎作曲)

唄 邦樂科卒業梶菊江
同 邦樂科卒業藤江多恵子
同 同 遠山美津子

四、生田流箏曲

八重衣

同 上調子 同 原澤百合子
同 三味線 同 横山芳枝
同 同 遠山美津子

五、長唄

土 蜘蛛(稀音家照海作曲)

唄 邦樂科卒業西垣勇藏
同 三味線 同 原澤百合子
同 同 横山芳枝
同 同 橋本ふけ子

洋樂 休息

洋樂 第三部

本校職員

- 一八、パイプオルガン獨奏……………本科卒業木岡梅子
 バッハ作・フーゲ・變ホ長調
- 一九、バリトン獨唱……………本科卒業酒井弘
 a. ヘンデル作・聖譚曲「サムソン」中
 サムソンの詠唱
 b. シュトラウス作・愛するものよ、いざ別れん・
 作品二一ノ第三
- 二〇、ピアノ獨奏……………本科卒業野村幸子
 パデレウスキー作・變奏曲・イ短調
- 二一、ソプラノ獨唱……………本科卒業津田豐子
 ヘンデル作・歌劇「ガリアのアマデーヂ」中
 メリツサの詠唱
- 二二、ピアノ獨奏……………本科卒業鹽崎佳子
 バッハ・ブゾーニ作・トッカータとフーゲ
- 二三、フリユート獨奏……………本科卒業鈴木正三
 シヤミナード作・小協奏曲・作品一〇七
- 二四、ピアノ獨奏……………本科卒業井尻櫻子
 ブラームス作・ソナタ・ヘ短調・作品五・第一樂章
- 二五、ソプラノ獨唱……………本科卒業藤田文子
 マスカーニ作・歌劇「カヴァレリア・ルステイカナ」中
 サントウツツアアの詠唱
- 二六、ピアノ獨奏……………本科卒業星野すみれ
 バッハ・ブゾーニ作・シヤコンヌ

能樂の傳統を破る “女性のシテ” 登場

音樂學校 邦樂科初の卒業生

昭和十一年六月故松田源治氏が文相時代の置き土産として東京音樂學校

に設置した邦樂科は觀世左近(能)稀音家六四郎、吉住小三郎(長唄)中能島欣一、宮城道雄(箏曲)の諸氏を斯界から教授に招いて大きな話題を提供したが、それから三年、松田元文相の遺志はここに實を結んで今度初めて卒業生を送り出すことになり廿三日午後一時から同校で卒業演奏會を舉行する運びとなつた〔中略〕

いづれも成績良好だが、なかでも能樂の三君はその道でいふ職分の位置にまで達してゐる堂々たる専門家であるとのことである、卒業生は大體研究科に残つてあと二年間研鑽を積むが、早くも箏曲の松尾君は千葉縣市川の關東學園で教鞭をとることにきまり、また長唄の原澤百合子さんはお師匠さんとして市井に出るといふ

卒業演奏會の演奏種目は觀世流能樂「小袖曾我」山田流箏曲「岡康砧」長唄「靱猿」生田流箏曲「八重衣」長唄「土蜘蛛」で長唄組は十八日午後三時から神田分教場で最後の練習を行つた

また本年の邦樂科入學志望者のうち能を志望してゐる女性が三人あるが、能樂界多年の傳統は女性がシテを演ずることを許さなかつたのに對し乗杉校長、觀世教授の努力によつて成績さへよければ入學せしめる方針に決定、能が始つて以來初めての「女のシテ」が養成され得ることになつた

乗杉校長談「松田さんによつて邦樂科が新設された當時とやかくいはれたものだが、やつてみれば順調にいつてこの通り卒業生が出ることになつた、志望者もだん／＼増えてきてをり素質もいゝ、今度の卒業生がどの方面に進むか、研究科へ行くのが大部分だからもうしばらく様子を見なければわかるまい」

(『東京日日新聞』昭和十四年三月十九日)

昭和十四年四月二十七日 研究生徒ピアノ演奏會

昭和十四年四月二十七日(木曜日)午後二時十五分開演

於 本校奏樂堂

クロイツァー教師 ピアノ演奏曲目
 擔當研究生徒

東京音樂學校

Donnerstag, den 27. April, um 2 Uhr 15,
im Konzertsaal der Staatlichen
Musikakademie zu Tokio.

Konzert der Schüler
der
unter der Leitung von Prof. L. Kreutzer
stehenden Meisterklasse

PROGRAMM

- I. Orgel-Toccat, C-dur.....Bach-Busoni
Prélude—Intermezzo—Fuga
井上千賀子
- II. Sonate, As-dur, Op. 110.....Beethoven
Moderato cantabile molto espressivo
Allegro molto
Adagio-Arioso I-Fuga I-Arioso II-Fuga II
市川秀子
- III. “Konzert ohne Orchester,” Op. 14Schumann
(Sonate f-moll)
Allegro
Scherzo
Andante con variazioni
Prestissimo
外狩伸一
- IV. Sonate, b-moll, Op. 74Glazunoff
Allegro moderato
Andante
Allegro scherzando
末元悦子

- V. “Images” 1.....Debussy
a) Reflets dans l'eau
b) Hommage à Rameau
c) Mouvement

有元延

- VI. 24 Préludes, Op. 28Chopin
1) C-dur, Agitato
2) a-moll, Lento
3) G-dur, Vivace
4) e-moll, Largo
5) D-dur, Molto allegro
6) h-moll, Assai lento
7) A-dur, Andantino
8) fis-moll, Molto agitato
9) E-dur, Maestoso
10) cis-moll, Molto allegro
11) H-dur, Vivace
12) gis-moll, Presto
13) Fis-dur, Lento
14) es-moll, Allegro
15) Des-dur, Sostenuto
16) b-moll, Rubato
17) As-dur, Allegro
18) f-moll, Molto allegro
19) Es-dur, Vivace
20) c-moll, Largo
21) B-dur, Cantabile
22) g-moll, Molto agitato
23) F-dur, Moderato
24) d-moll, Allegro appassionato

田中立江

昭和十四年五月六日 研究科修了演奏会

昭和十四年五月六日(土曜日)午後一時半開演

於本校奏樂堂

研究科修了演奏曲目

東京音樂學校

1. ノール獨唱.....鷺崎良三

「マイエール」作 歌劇「アフリカの女」中
「おゝ我樂園」

- 二、ピアノノ獨奏……………瀨崎美登利
リスト作 メンデルスゾーンの「眞夏の夜の夢」中の
結婚行進曲と妖精の輪舞
- 三、ソプラノ獨唱……………奥田智重子
ヴェルディ作 歌劇「トラヴィアータ」中
「おゝそは彼の人か」
- 四、ピアノノ獨奏……………堀直子
リスト作 ハンガリー幻想曲
- 五、アルト獨唱……………徳末義子
ワーグネル作 歌劇「リエンチ」中
アドリアーノの詠唱
- 六、ピアノノ獨奏……………三上とみ
シヨパン作 スケルツォ・ホ長調・作品五四
——(休 憩)——
- 七、バリトン獨唱……………高木清
シューマン作 「詩人の愛」より四曲
- 八、ソプラノ獨唱……………中尾規子
ブラームス作 a. 祕 密・作品七一・第三
b. 五月の夜・作品四三・第二
c. 甲斐なき小夜曲・作品八四・第四
- 九、ピアノノ獨奏……………三宅洋一郎
フランク作 交響的變奏曲
- 十、ヴァイオリン獨奏……………田村五郎
モーツアルト作 第四協奏曲・ニ長調・第一樂章
- 十一、ソプラノ獨唱……………山内秀子
ヴェルディ作 歌劇「アイーダ」中
アイーダの詠唱「おゝ祖國」

十二、ピアノノ獨奏……………渡邊千世
リアプーノフ作 エチュード第十「レスギンカ」

昭和十四年五月二十日 学友会第一一六回洋楽演奏會
東京音楽學校學友會
第一一六回洋楽演奏會
昭和十四年五月二十日(土)午後一時三十分

曲 目

- ソプラノ獨唱……………石神以代子
す み れ……………スカラツティー
歌劇「女天下」より セルピナの詠唱……………パイシエルロ
- ピアノノ獨奏……………瀧田靜子
譚詩曲 變イ長調 作品四十七……………シヨパン
- テノール獨唱……………渡邊高之助
歌劇「カルメン」より ホセの詠唱……………ビゼー
- クラリネット獨奏……………北爪利世
君が投げし此の花……………
- 協奏曲 イ長調 第一樂章……………モーツアルト
- バリトン獨唱……………中山悌一
歌劇「タンホイザー」より ヴォルフラムの詠唱……………ヴァグナー
- 夕星の歌……………伴奏 伊達純

混 聲 合 唱 休 憩

師範科第三學年生徒

指揮 澤崎 教授
伴奏 末元 悦子

民 謠 プラームス

1. 三つの薔薇が咲いてゐた
2. 私は天に向つて嘆きたい
3. 雪色の鳥がとまつてた
4. 昔々一人の大工があつた
5. 或時聖母マリアが歩いてた
6. 夜鶯よ云つてお呉れ
7. ひそやかに月は昇る

ソプラノ 獨唱 衛藤 美津代

伴奏 井上千賀子
歌劇「リゴレット」より 慕はしき御名 ヴェルテイ

祭毎寺に

ヴァイオリン 獨奏 河 鱒 美 恵 子

伴奏 永井 囑託
タランテラ 作品二十二ノ五 ヴェーターン

テノール 獨唱 波 平 恵 弘

伴奏 伊達 純
歌劇「真珠採り」より 夢の如く聴く歌聲 ビゼー

歌劇「トスカ」より 星は燦きぬ プッチーニ

ピアノ 獨奏 佐 竹 和 子

伴奏 シロタ 教師
協奏曲 第四番 ト長調 作品五十八 ベートーヴェン

第一樂章 アルレグロ モデラート

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
Sonnabend, den 20. Mai. 1939 nachmittags 1.30 Uhr.
116. SCHÜLER-KONZERT
DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Sopran-Solo I. Isigami

Beagl. E. Suemoto

Le Violette A. Scarlatti

Arie von Serpina aus der Oper

“La Serva Padrona” G. Paisiello

Klavier-Solo S. Takita

Ballade As dur Op. 47 F. Chopin

Tenor-Solo K. Watanabe

Beagl. J. Date

Arie von Don José, “Il fior che avevi a me tu dato”

aus der Oper “Carmen” G. Bizet

Klarinette-Solo R. Kitazume

Beagl. S. Takata

Konzert, A dur, 1. Satz Mozart

Bariton-Solo T. Nakayama

Beagl. J. Date

“Wolfram's Address”

“Abendstern” R. Wagner

aus der Oper “Tannhäuser”

Pause

Gemischtenchor Die 3. Klasse des Normalkurses

Volkslied J. Brahms

1. Es stunden drei Rosen

2. Den Himmel will ich klagen

3. Es sass ein schneeweiss Vögelein

昭和十四年六月三日 習志野陸軍病院在院戦傷軍人慰問演奏会

習志野陸軍病院
在院戦傷軍人 慰問演奏

六月三日 於本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔東京音樂學校一覽〕自昭和十四年至昭和十五年、一二二頁

昭和十四年六月三日 選科邦樂修了演奏会

昭和十四年六月三日(土曜日)午後二時開場
二時半開演

於本校奏樂堂

選科邦樂修了演奏曲目

東京音樂學校

能樂 寶生流 連吟

一、田 村

能樂 寶生流 連吟

一、竹 生 島

箏曲 山田流

一、松 風

山木太賀作曲
中能島松聲

長 唄

一、勸 進 帳

天保十一年 杵屋六翁作曲

選科 女生徒 六名

選科 男生徒 十四名

職員及邦樂科・選科生徒十三名

唄

増田今子 三味線 大久保タケ
野口俊文子 山口八代子
高居政美子 西鶴八代子
東眞世 三橋サイ
荒島本枝 岩淵多美
高島安江 上調子
西村代子 大北千代子
庄司絹子

—— 休 憩 ——

能樂 觀世流 連吟

一、源 氏 供 養

池田靜枝
丸山里子
平松きぬを

能樂 觀世流 連吟

一、藤 戸

シテ 榎本誠一 堀切眞一郎 小林善兵衛
ワキテ 和田 饒 茨勝行 窪田義之
松井庄太郎

箏曲 生田流

一、茶 音 頭

職員及選科生徒六名

長 唄

一、若 菜 摘

教授 吉住小三郎 補導 杉本金太郎
選科修了生及邦樂科・選科生徒 約七十名

天保十一年 杵屋勝五郎作曲

昭和十四年六月十日 春季選科洋樂演奏会

昭和十四年六月十日(土曜日)午後二時開場
二時半開演

於本校奏樂堂

春季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

一、ピアノ 獨奏……………齋藤晃子

六ツの變奏曲・作品三四・へ長調……………ベートーヴェン作曲

二、バリトン 獨唱……………渡邊清忠

い、神を讀ふ(オラトリオ……………メンデルスゾーン作曲
「パウルス」中より)

ろ、少女と夫人(歌劇「魔笛」中より)……………モーツァルト作曲

三、ピアノ 獨奏……………中山卯郎

ロ、い、エチュード・作品二五ノ一・變イ長調……………ショパン作曲

ろ、エチュード・作品一〇ノ二・ハ短調……シヨパン作曲
四、セロ独奏……長森一利

ハンガリー幻想曲……グリツツマツヘル作曲
五、バリトン独唱……後藤昌人

い、好奇心……シューベルト作曲
ろ、セレナーデ
(歌劇「ドンジュアン」中より)……モーツァルト作曲

六、ピアノ二重奏……第一ピアノ 田地米子
第二ピアノ 佐藤雅子

協奏曲・ハ長調……パツハ作曲

——休憩——

七、ピアノ独奏……鷺尾八重子

ソナタ・作品五三・ハ長調・第一樂章……ベートーヴェン作曲
八、テナー独唱……三好日出夫

い、セントネルコレ……スカラツテイ作曲
ろ、カローミオベン……ジョルダーニ作曲

九、ヴァイオリン独奏……石橋茂子
バレエの音楽……ベリオ作曲

一〇、ピアノ独奏……山野仁子
舞踏への勧誘……ウエーベル作曲

一一、ソプラノ独唱……萩原久子
『シミの唄』(歌劇「ラ・ボエーム」中より)……プッチーニ作曲

一二、ピアノ独奏……第二ピアノ 戸澤慰子
協奏曲・作品三二・變ホ長調……ウエーベル作曲

第二、三樂章

昭和十四年六月十七日 学友会第一一七回洋楽演奏会

東京音楽學校學友會

第一一七回洋楽演奏會

昭和十四年六月十七日(土) 午後一時三十分

曲目

ピアノ独奏 井上芳子

ソナタハ長調・作品五十三(ヴァルドシュタイン)……ベートーヴェン
第一樂章 アルレグロ コンプリオ

ピアノ独奏 堀野壽美子

協奏曲 變ホ長調(ケツヘル番號二七一)……モーツァルト
第一樂章 アルレグロ

二重唱 多田光子
朝倉春子

秋の歌……伴奏 石井京

聖母哀悼歌より 肉體の滅ぶ時……メンデルスゾーン
歌劇「フィガロの結婚」より 手紙の歌……モーツァルト

ピアノ独奏 朝倉靖子

協奏曲 第三番・ハ短調・作品三十七……ベートーヴェン
第一樂章 アルレグロ コンプリオ

バリトン独唱 水谷俊夫

歌劇「ドン・ファン」より 小夜曲 窓邊に出でてよ……モーツァルト
伴奏 水谷達夫

歌劇「ファウスト」より バレンチノの詠唱
さらば心の故郷よ……………グノ

ピアノ 獨奏 上遠野 喜久子

協奏曲 第二番・へ短調・作品二十一
第二ピアノ 井口助教 授
第一樂章 マエストロズ ……………シヨパン

管 絃 合 奏 指揮 井口助教 授

コンツェルト・グロツソ 第六番・作品三の六……………ヘンデル
アルレグロ モデラート

アルレグロ

休 憩

ピアノ 獨奏 西 泰 子

協奏曲 イ短調・作品八十五
第二ピアノ 高折 教授
第一樂章 アルレグロ モデラート ……………フンメル

テノール 獨唱 金子 一 雄

我が心など斯くも痛める……………バイシヘルロ
歌劇「愛の妙藥」より ひそかに頬を傳ふ涙……………トニゼンテイー

ピアノ 獨奏 莊 良 江

カプリチオ・ブリランテ 作品二十二
第二ピアノ 高折 教授
……………メンデルスゾーン

バリトン 獨唱 藤 井 典 明

萬靈節に君を憶ひて 作品十の八
……………R・シユトラウス

黄昏の夢 作品二十九の一
……………
祕めし誘ひ 作品二十七の三
……………
獻 呈 作品十の一……………

ピアノ 獨奏 田邊 ま ち 子
リゴレット・パラフレーズ……………リ ス ト

管 絃 樂 指揮 橋 本 助 教 授

交響曲 第四十一番(シニピター) ハ長調
(ケツヘル番號五五二)……………モーツァルト

第一樂章 アルレグロ ヴイヴァアーチエ

ラロツツィー行進曲……………ベルリオーズ

〔原資料横組〕

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonnabend, den 17. Juni. 1939 nachmittags 1.30 Uhr.

117. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Solo: Y. Inoue

Sonate, C-dur, Op. 53 (Waldstein)……………Beethoven

I. Satz; Allegro con brio

Klavier-Solo: S. Horino

II. Klavier: Prof. M. Iguti

Konzert, Es-dur, (K.-V. 271)……………Mozart

I. Satz; Allegro

Duett: M. Tada

H. Asakura

Begl. K. Isii

Herbstlied……………Mendelssohn

Quando Corpus morietur.
aus der "Stabat Mater"……………Pergolesi

Che soave zeffiletto. aus der Oper
 “Die Hochzeit des Figaro”Mozart
 Klavier-Solo : Y. Asakura
 II. Klavier : Prof. M. Takaori
 Konzert, Nr. 3. c-moll, Op. 37.....Beethoven
 I. Satz ; *Allegro con brio*
 Bariton-Solo : Tosio Mizutani
 Begl. Tatu Mizutani
 Serenade “Deh vieni alla finestra”
 aus der Oper “Don Giovanni”.....Mozart
 Aria von Varentino “Dio posen te dio d’amor”
 aus der Oper “Faust”.....Gounod
 Klavier-Solo : K. Kadono
 II. Klavier : Prof. M. Iguti
 Konzert, Nr. 2. f-moll, Op. 21.....Fr. Chopin
 I. Satz ; *Maestoso*
 Kammermusik : Leitung : Prof. M. Iguti
 Concerto grosso No. 6, Op. 3 Nr. 6Händel
 Allegro moderato
 Allegro
 Pause
 Klavier-Solo : Y. Nisi
 II. Klavier : Prof. M. Takaori
 Konzert, a-moll, Op. 85Hummel
 I. Satz ; *Allegro moderato*
 Tenor-Solo : K. Kaneko
 Begl. S. Nagai
 Nel cor più non mi sento.....G. Paisiello
 Romanze des Nemorino.
 aus der Oper “Der Liebestrank”.....Donizetti
 Klavier-Solo : Y. Shō
 II. Klavier : Prof. M. Takaori

Capriccio brillant, Op. 22Mendelssohn
 Bariton-Solo : N. Fujii
 Begl. S. Nagai
 Allerseelen Op. 10. Nr. 8...R. Strauss
 Traum durch die Dämmerung Op. 29. Nr. 1... //
 Heimliche Aufforderung Op. 27. Nr. 3... //
 Zueignung Op. 10. Nr. 1... //
 Klavier-Solo : M. Tanabe
 Rigoletto-ParaphraseFr. Liszt
 Orchester : Leitung : Prof. K. Hasimoto
 Symphonie Nr. 41. C-dur (Jupiter), (K.-V. 551)
 Mozart
 I. Satz ; *Allegro vivace*
 Rákóczy MarchBerlioz

昭和十四年六月二十四日 第八十八回定期演奏会

昭和十四年六月二十四日(土曜日)午後(六時開演)七時開場

於 日比谷公會堂

定期演奏曲目

東京音楽学校

I. 管 絃 樂

交響曲・變ホ長調(ケツクル番號五四二)モーツァルト作
 アダーヂョーアレグロ
 アンダンテ・コン・モート
 メヌエット・トリオ
 ファイナーレ・アレグロ

II. 管 絃 樂

歌劇「ドンナ・デイアーナ」の序曲……………レツニチエック作

——休憩——

III. 獨唱・合唱・管絃樂

「薔薇の巡禮」作品一―二番……………シューマン作
(モーリツ・ホルン作童話詩に據る)

第一部及第二部

獨唱者	ローザ (ソプラノ)	豊田春恵
	ソプラノ	藤田文子
	アルト	進藤梅子
	テノール	柴田陸
	バス	藤井典明
	バリトン	中山悌一
	バス	栗本正
指揮	ヘルムート・フェルメル	
合唱	東京音樂學校生徒	
管絃樂	東京音樂學校管絃樂部	

〔原資料横組〕

Programm

I. Orchester :

Symphonie, Es-dur (K. V. 542)……………W. A. Mozart
Adagio—Allegro
Andante con moto
Menuetto—Trio
Finale: Allegro

II. Orchester :

Ouverture zur Oper „Donna Diana“…E. N. von Reznicek

——Pause——

III. Soli, Chor und Orchester :

Der Rose Pilgerfahrt Op. 112……………R. Schumann
(Märchen nach einer Dichtung von Moritz Horn)
Erster Teil—Zweiter Teil

Solisten : Rosa (Sopran)……………Hartue Toyoda

Sopran……………Fumiko Fujita
Alt……………Umeko Sindo
Tenor……………Mutumu Sibata
Totengräber (Bass) Noriaki Fujii
Bariton……………Teiti Nakayama
Bass……………Masasi Kurimoto

Leitung : Helmut Fellmer

Chor und Orchester der Staatlichen Akademie
zu Tokio

貧弱なる合唱

音樂學校定期演奏

二十四日夜、日比谷公會堂で東京音樂學校定期演奏會を聴いた。

曲目はモーツァルト作「變ホ長調交響曲」レツニチエック作、歌劇「ドンナ・デイアーナ」序曲、シューマン作獨唱合唱管絃樂「薔薇の巡禮」。

モーツァルトの作品の演奏は、音そのものの中に、洗煉(せんれん)されたもの、うま味を盛り、そこから典雅な遊びの感じが現れるところまで來なければ駄目だと思ふ。當夜の成績は遺憾ながら、その點の缺けたものがあつて、モーツァルトを樂しませるところまで行かなかつた。

レツニチエックの序曲は、やゝ成功に近いが、それでも、矢張り、諸所に、前と似た非難を加へなければならぬ部分があつた。

合唱は、何故あんなに聲が小さいのだらう。時々、群中の頭株らしい聲が、一二生々しく突き抜けて聴こえた。あとの約三分の二の頭数は、無用のものらしい。各人が、皆もつと責任を感じて、發想記號だけの聲を出したら、あんな貧弱な合唱にはならないだらう。

數人の獨唱者が、各自それぞれの極端に異つたヴィブラートの速さと幅をもつてゐた。あれは看過すべき事だらうか。

獨唱者と雖も、一つの音楽組織の中に在る。その中に存在する資格を思ふ時、これ等の極端な相違を、それは個性である、などと簡單には片付けられない。少くとも、各々が相當な合奏効果を擧げ得る範圍内に、その相違を矯正すべきではないだらうか。

(『東京朝日新聞』昭和十四年六月二十七日)

(長谷川千秋)

學究的態度を望みたい

東京音楽學校の定期演奏會

◆……廿四日日比谷公會堂に催された東京音楽學校の定期演奏會を久し振りに聴いた、同校が毎シーズン月に一回の定期演奏會を催してゐる事は周知のこと乍ら、當夜の演奏曲目や演奏技術に接して見ると、彼等の毎月の定期演奏には甚だしい危険性を感じさせるものがあつた

◆……モーツァルト曲「交響曲變ホ長調」にしても指揮者フェルマーのタクトによつて演奏される此音楽には一向に解釋の深さが感じられず、モーツァルト晩年の此作品に於ける老熟した主題の表現力が、唯齒切れの悪い樂音に綴られたものとして再現されてゐるのである、次のレツニチエーク曲「ドンナ・デイアンの序曲」が無難に演奏されたとは言へ、これは何等當夜の成績を左右するものではなかつた

彼等は言はず音楽のアカデミストである、彼等が明確にその意識を有するならば、その演奏會(曲目形式を含めて)に更に慎重な態度を取るべきであり、學藝會程度のものには恥ずべきだ

◆……第二部のシューマン曲「薔薇の巡禮」は一時間にわたる大作で此演

奏、歌唱共に努力の跡を見せたものだが、聴いた後で非音樂的な疲勞を覺えた、唱歌は豊田、藤田(ソプラノ)進藤(アルト)の女生徒の方が優れてゐたのは事實だ(『東京音楽學校は演奏會にもつと權威ある方法をとるべきだらう(お)』)

(『都新聞』昭和十四年六月二十九日)

昭和十四年六月二十八日 広東訪日婦女団歓迎演奏會

廣東訪日婦女團 歓迎演奏

六月二十八日

於本校奏樂堂

(曲目等不明)

(『東京音楽學校一覽』自昭和十四年至昭和十五年、一二頁)

昭和十四年十月十四日 上野兒童音樂學園尋常科第六回演奏會

上野兒童音樂學園 尋常科第六回演奏

十月十四日

於本校奏樂堂

(曲目等不明)

(『東京音楽學校一覽』自昭和十四年至昭和十五年、一二頁)

昭和十四年十月二十一日 芸術学会出席者招待演奏會

昭和十四年十月二十一日(土)午後二時開演

於 上野公園本校

東京音楽學校

藝術學會出席者

招待演奏會曲目

獨唱、合唱、管絃樂

一 「天地創造」より

作 獨 管 指
曲 唱、合 絃 管
ハ 奏 樂 揮
イ 生 生 木
ド 徒 徒 生
ン 管 絃 木
保 部 徒 下 樂 部 徒

三絃と室内管絃樂
二三 絃協奏曲

作編三管
曲絃樂
中下能
能島
欣一

長唄・舞踊
三越 後獅子

作指長
曲導唄
九代目
杵屋六左衛門
稀住小三
生音家淨
望月孝三
望月吉太
若柳吉三
若柳吉三
若柳吉三

箏 曲
四秋 の 曲

舞 踊
踊 子
古 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道

獨唱・箏曲
五皇 后宮御歌

謹 作
曲
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道

一 戦死者ニ賜ハリタル御歌
二 傷病兵ニ賜ハリタル御歌
三 遺家族ニ賜ハリタル御歌
劇場音楽の實演と解説

謹 奏
唱 奏
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道
宮 城 道

假名手本忠臣藏(大序より)
菅原傳授手習鑑(車引)

實 演
說 演
杵屋六左衛門
岡安喜三
岡安喜三
岡安喜三
岡安喜三

其他芝居囃子

屋臺囃子全般に就いて

昭和十四年十月二十二日 学友会第一一八回洋楽演奏會
東京音楽學校學友會

第一一八回洋楽演奏會

昭和十四年十月二十二日(日)午後一時

曲 目

ピアノ二重奏 第一ピアノ 齋藤和照
第二ピアノ 高橋

ロマンス・ワルツ 作品十五 アレンスキー

ピアノ 獨奏 北島恵美子

ポロネーズ 作品二十六ノ一 シヨパン

ソプラノ 獨唱 坂元芳子

伴奏 星野すみれ

歌劇「カヴァレリア」ルスカカーナ」より マスカーニ

ママも知る通り

ピアノ 獨奏 谷津道子

譚詩曲 ト短調 作品二十三 シヨパン

ソプラノ 獨唱 徳和子

語り給へ アルデイテイ

ピアノ 獨奏 清水トシ子

華かなる變奏曲 變ロ長調 作品十二 シヨパン

ピアノ 獨奏 武安千賀子

第二ピアノ 田中教授

華かなるポロネーズ ホ長調 作品七十二 ウェバーリスト

休 憩

作 品 發 表 草 川 啓

ピアノの爲の三つの前奏曲 演奏者 藤田仲子

ポコ アジタートグラジョーソープレスト

ピアノ 獨奏 藤田仲子

諧謔曲 嬰ハ短調 作品三十九 シヨパン

ベース 獨唱 栗本正

伴奏 中田一次

聖譚曲「天地創造」より……………ハイドン
 ラファエルの宣叙唱と詠唱
 ピアノ獨奏 吉田和子
 奏鳴曲(告別) 變ホ長調 作品八十一……………ベートーベン
 アダチオーアレグロ アンダンテ
 エスプレッシモ^[レ] ヴァイヴァチシマメンテ
 ソプラノ獨唱 藤島紀久子
 伴奏 末元悦子
 私を想つて呉れるなら……………アンナ・マグダレナ・ベツハ
 貴方が傍にゐる時……………"
 岩上の牧人……………シユールベルト
 ピアノ獨奏 大島正泰
 第二ピアノ シロタ教師
 協奏曲 第四番 ト長調……………ベートーベン
 第一樂章 アルレグロ モテラート
 [原資料横組]

TOKYO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonntag, den 22. Okt. 1939 nachmittags 1. Uhr.
 118. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Duett
 I. Klavier T. Saito
 II. Klavier K. Takahashi
 Romance.—Valse. Op. 15……………A. Arensky
 Klavier-Solo E. Kitajima
 Polonaise Op. 26 Nr. 1……………Chopin

Soprano-Solo Y. Sakamoto
 Begl. S. Hosino
 Aus der Oper "Cavalleria Rusticana."……………Mascagni
 Voi lo sapete
 Klavier-Solo M. Yatu
 Ballade g-moll Op. 23……………Chopin
 Soprano-Solo K. Toku
 Begl. S. Hosino
 Porda!……………Arditi
 Klavier-Solo T. Simizu
 Variations Brillantes B-Dur Op. 12……………Chopin
 Klavier-Solo T. Takeyasu
 Begl. Prof. K. Tanaka
 Polonaise Brillante E-dur Op. 72……………Weber—Liszt
 Pause
 Komposition K. Kusakawa
 Drei Präludien für Klavier Klavier-Solo "
 Poco Adagio—Grazioso—Presto
 Klavier-Solo N. Fujita
 Scherzo cis-moll Op. 39……………Chopin
 Bass-Solo T. Kurimoto
 Begl. K. Nakata
 Aus dem Oratorium "Schöpfung"……………J. Haydn
 Recitative und Arie des Raphael
 Klavier-Solo K. Yosida
 Sonate (Les Adieux) Es-Dur Op. 81……………Beethoven
 Adagio—Allegro
 Andante espressivo
 Vivacissimamente
 Soprano-Solo K. Fujisima
 Begl. E. Suemoto

曲 目

ピアノ 獨奏

成田 百合子
第二ピアノ 志賀 登喜

協奏曲 イ長調 ケツヘル四百八十八、
第一樂章 アルレグロ……………

モーツアルト

バリトン 獨唱

堀 二郎
伴奏 戸田 盛忠

聖譚曲「四季」より……………

ハイドゥン

シモンの詠唱

歌劇「ファウスト」より……………

グーノー

さらば故郷よ

ピアノ 獨奏

森 留奈子

聖譚曲「波を渡る聖フランシス」……………

リスト

チェロ 獨奏

劍持 富美子
伴奏 西 泰子

協奏曲 第四番 ト長調……………

ゴルターマン

アルレグロ アンダンティーノ

ピアノ 獨奏

矢島 さよ子

コンツェルト ステュック 作品七十九……………

ウエーバー

休 憩

作 品 發 表

小林 福子

ソナチネ……………

演奏 作曲 者

アニマート エ レジエーロ

アダチエット コン エスプレッショーネ

プレスト

メソソプラノ 獨唱

佐々木 成子

郷愁 作品六十三の七……………

伴奏 朝倉 靖子
ブラームス

我が幼き時花咲くを見き 作品六十三の九……………

永遠の愛 作品四十三の一……………

ピアノ 獨奏

石 井 京

奏鳴曲 嬰へ長調 作品七十八……………

ベートーヴェン

アルレグロ マノン トロツポー

アルレグロ ヴィヴァーチェ

ソプラノ 獨唱

加古 三枝子

歌劇「イルレ パストーレ」よりの詠唱……………

ヴァイオリン 助奏 田中 富貴子

ピアノ 獨奏

左右田 五十鈴

ハンガリア幻想曲……………

リスト

ピアノ 獨奏

第二ピアノ シロタ 教師

ハンガリア幻想曲……………

〔原資料横組〕

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonntag, den 29. Okt. 1939 nachmittags 1. Uhr.

119. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Solo

Y. Narita

Konzert A-Dur K. V. 488……………

Beigl. T. Siga

I. Satz Allegro

Mozart

Bariton-Solo

J. Hori

Aus den "Jahreszeiten"	Haydn	Begl. M. Toda
Arie von Simon		
Aus der Oper "Faust"	Gounod	
Da ich nun verlassen soll		
Klavier-Solo	R. Mori	
Légende "St. François de Paule marchant sur les flots"	Liszt	
Violoncell-Solo	F. Kenmotsu	Begl. Y. Nisi
Konzert Nr. 4 G-Dur	G. Goletermann	
Allegro—Andantino		
Klavier-Solo	S. Yajima	
Konzertstück Op. 79	Weber	Begl. Prof. N. Fukui
		Pause
Komposition	F. Kobayashi	
Sonatine	Klavier-Solo	"
Animato e leggiero		
Adagietto con espressione		
Presto		
Mezzosoprano-Solo	S. Sasaki	
Heimweh Op. 63 Nr. 7	Brahms	Begl. Y. Asakura
Ich sah als Knabe Blumen blühen Op. 63 Nr. 9...	"	
Von ewiger Liebe Op. 43 Nr. 1	"	
Klavier-Solo	I. Isii	
Sonate Fis-Dur Op. 78	Beethoven	
Allegro ma non troppo		
Allegro vivace		
Sopran-Solo	M. Kako	
	Begl. M. Sezaki	
	Violin obligat F. Tanaka	

Aus der Oper "Il Re pastore"	Mozart
Arie	
Klavier-Solo	I. Soda
	Begl. Prof. Sirota
Ungarische Phantasie.....	Liszt
昭和十四年十月三十一日 演奏会(邦楽)	
演奏曲目	出演 東京音楽学校
観世流舞囃子	日比谷公會堂
一、高 砂シテ 島澤啓次	小鼓 宮一
寶生流舞囃子	大鼓 安福本
一、八 島シテ 寶生重英	太鼓 春惣右衛門
箏曲山田流	笛 寺井重政
一、松 風	小鼓 森崎
二世山木大賀合作	大鼓 川崎之靖
初代中能島松聲	中 能島欣一
箏曲生田流	外 職員生徒
一、秋 韻	宮 城道雄
高野辰之作曲	外 職員生徒
宮城道雄之作詞	
長唄・舞踊	
一、越後獅子 稀音家浄觀指導	職 員 生徒
九代目 杵屋六左衛門作曲	望 望 望 望 望 望
	柳 月 月 月 月 月 月
	吉 太 太 太 太 太 太
	三 左 左 左 左 左 左
	郎 吉 助 外

「このプログラムは、曲目の印刷された頁のみが残されており、年月日と会場はそこに書きこまれている情報によった。」

昭和十四年十一月四日 第八十九回定期演奏会

昭和十四年十一月四日(土曜日)午後〔六時開場
七時開演〕

会場 共立講堂

(市電・神田・一ツ橋下車)

定期演奏曲目

東京音楽学校

I. 管 絃 樂

交響樂詩 第三 「前奏曲」……………リ ス ト 作

II. ピアノと管絃樂

ピアノ協奏曲 第一 變ホ長調……………リ ス ト 作

— 休 憩 —

III. 獨唱・合唱・管絃樂

「マリア・カンタータ」作品九九……………パウル・グレーナー作

1. ソプラノ獨唱と合唱「お告げ」

2. 合唱(無伴奏)「讃歌」

3. バス獨唱と女聲合唱「子守歌」

4. ソプラノ獨唱と合唱「ハレルヤ」

5. 間奏樂「やさしき聖母」

6. アルト獨唱と男聲合唱「恵みの泉」

7. アルト獨唱と合唱「御心のまゝに」

8. バス獨唱「おマリア、悲しみの女」

9. 合唱「悲泣の心」

10. 四重唱「おマリア、わが愛」

11. 四重唱と合唱「悦びの歌」
獨唱〔ソプラノ…山内秀子 アルト…リア・フォン・ヘッセルト
テノール…木下 保 バス…伊藤武雄

指 揮 ヘルムート・フェルマー

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部
合 唱 東京音楽学校生徒

〔原資料横組〕

Programm

I. Orchester

Symphonische Dichtung Nr. 3. Präludien……………Fr. Liszt

II. Klavier und Orchester

Klavierkonzert Nr. 1. Es-dur……………Fr. Liszt

Solist: Susumu Nagai

—(Pause)—

III. Soli, Chor und Orchester

Marien-Kantate, Op. 99……………Paul Graener

1. Sopransolo und Chor „Verkündigung“

2. Chor a cappella „Cantus“

3. Bass-solo und Frauenchor „Wiegenlied“

4. Sopransolo und Chor „Hallelujah!“

5. Orchester: Interludium „Mater dolorosa“

6. Alt solo und Chor „O Ursprung aller Brunnen“

7. Alt solo und Chor „Dein Wille, Herr, geschehe“

8. Bass-solo: Arie „O Maria, traurig Weib“

9. Chor „Allen weinenden Seelen“

10. Sologuartett „O Maria, meine Liebe“

11. Sologuartett und Chor „Freuet Euch!“

Sopran : Hideko Yamanouti. Alt : Ria von Hessert
Tenor : Tamotu Kinoshita. Bass : Takeo Ito
(Zum erstemal in Japan)

Leitung : Helmut Fellmer
Chor und Orchester der Staatlichen Musikakademie
zu Tokio

東京音楽學校定期演奏會 (四日夜共立講堂)

野村 光 一

上野の管絃團は最近完全に樂員の入替へを行ひ、純粹に同校の新進卒業生を中心としてそれを組織したらしい。これでこそ學校管絃團だ。但し、技倆は結局、再出發になつた爲、現状では、以前非難のあつた不純な時よりも未だ落ちる。「それがため、演奏は今や正に崩潰せんとする危険状態に屢々立至つたが、併し、癌を根絶するにはこの位の荒療治、犠牲は覺悟す可きだらう。リストの變ホ長調の協奏曲を演奏した永井進氏は洋琴家としての各種の條件を具備した手腕を發揮した。若し強ひて缺點を挙げれば、餘り各要素が飽和状態にまで融合し過ぎて、積極性、特異性に缺けてゐる位のものだらう。リストは第三樂章が傑出してをり、このくらの樂型が鮮明に表出された演奏も珍しい。氏は上野が誇るに足る洋琴家である。

〔東京日日新聞〕昭和十四年十一月十二日

音樂會 往來

山根 銀 二

今月位いそがしかった月はない。編輯部から音樂會評を頼まれてゐたが、どれとどれを書くのだつたか忘れた。それで聽いたのを總浚へして見ると一興だと思ふ。勢ひ短評になるかも知れない。

東京音楽學校定期演奏 十一月四日於共立講堂。共立講堂といふのは始

めてだ。行つたら既に始まつてゐて、二階から入らうと階段を登つたら一等天つへんまで行つてやつと扉がある始末にまごついた。入つて見ると一杯の人で席もとれぬ。やつと一つ見つけて腰をおろさうとしたが、此の椅子は大變狭くて私のお尻が易々とは入らないには閉口するやら氣まりが悪いやら。やつと嵌まりこんで音樂に耳を傾けたが、リストの「前奏曲」には大いに弱つた。まるで合奏になつてないのだから。上野の管絃樂がこんなに悪かつたことは私の記憶には一寸ない。おそらく二十年か三十年前にだつてどうかと思ふ。今日これを書いてる宵の口に武藏野音楽學校の管絃樂を一寸耳にして來たが、この方がまだよいと思つた。

第二には矢張りリストの變ホ長調ピアノ協奏曲。永井進獨奏であるが、この方はずつとよい。ピアノは相當に「健實」であつた。しかしどうにも感銘が薄いものであつた。尤もはるか上の席で、おそらく舞臺から百米近くあるかも知れない程の距離から聽かされてるのだから、そのハンデキツプも考へて見なければならぬ。しかし遠いなりに粗雑なところが消えることもあるから、さして不利ばかりとは云へない。いづれとしても此のピアノには結晶を見るやうな截然さ透明さはなく、又リスト張りの天馬空を行く如き爽快さも味はれず、混沌のうちに息づく情熱も感じられない點に、自分の適確なシュテールを未だ把握してゐない弱點を指摘しうる。打鍵は未だ粗である。音の冒頭が弾力的に截斷されず、可成り乾燥したものとなる。それから、音の打出しはリズムより一瞬おくれ勝になり(これは慎重を期する演奏者によくあることだ)、音の切れ目はこれに反して一瞬間早い。妙にびん／＼と音をはね上げる。これが大變軽手な印象を與へる。音量は大でなく、音色の變化陰影は不充分である。つきつめていふと如何にも音楽學校風な音がする、といったら當らう。次のグレーナーのカンタータは作品として聽いて置きたいものであつたが、どうも座席の工合が落着を失つてるので失敗した。

〔音樂評論〕第八卷第十二号、昭和十四年十二月、四二〜四三頁

昭和十四年十一月四日 上野兒童音樂學園高等科第一回演奏會

高等科 上野兒童音樂學園演奏會曲目 第一回

昭和十四年十一月四日(土曜日)午後一時三十分開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

東京下谷區上野公園

1. ピアノ 獨奏 澤野 良子
ソナタ 嬰へ長調 作品七十八 第一、二樂章……ベートーヴェン
2. ピアノ 獨奏 小森 綾子
ソナタ ハ短調 第一樂章……モーツアルト
3. ピアノ 獨奏 小河 石代
華麗なる圓舞曲(ワルツブリランテ) 變イ長調……シヨパン
4. ヴァイオリン 獨奏 岩崎 富美子
協奏曲 ト短調 第一樂章……
伴奏 堀川八千代
ヴィヴァルディ
5. ピアノ 獨奏 矢島 三保子
華麗なる大圓舞曲
(グランドワルツブリランテ) 作品十八……シヨパン
6. ピアノ 獨奏 松尾 幸子
ソナタ ニ短調 作品三十一 第三樂章……ベートーヴェン
7. ピアノ 獨奏 服部 ツユ子
ウイーンの謝肉祭の道化
(ファッティングス、シユヴァンク、アウフウイーン)……シユーマン
8. ピアノ 獨奏 原 定繼
狂詩曲(ラプソディ) ト短調……ブラームス

——休憩——

9. ピアノ 獨奏 菊地 琴子

狂想曲風の回旋曲
(ロンドカブリチアゾン) ホ短調……メンデルスゾーン

10. ピアノ 獨奏 船橋 豊子

ソナタ 嬰ハ短調 第二、三樂章……ベートーヴェン

11. ピアノ 獨奏 川島 久子

諧謔曲(スケルツォ) 變ロ短調 作品三十一……シヨパン

12. ヴァイオリン 獨奏 可兒 幸壽榮

協奏曲 イ短調 第一樂章……
伴奏 堀川八千代

13. ピアノ 獨奏 中田 喜直

ソナタ 變ホ長調 第二、三樂章……ベートーヴェン

14. ピアノ 獨奏 中野 富貴子

譚詩曲(バラード) 變イ長調……シヨパン

奉 唱(四部合唱)

やまとには(國見の歌)
舒明天皇御製 信時潔謹作

〔高等科一、二、三、四年
本校本三、師二、三男生徒
内閣紀元二千六百年
奉祝會謹撰
〔原資料横組〕

昭和十四年十一月十一日 秋季選科邦樂演奏會

昭和十四年十一月十一日(土曜日)午後二時開場
一時半開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

秋季選科邦樂演奏曲目

東京音樂學校

- 寶生流連吟
一 玉 葛 女 生 徒
- 觀世流連吟
二 吉野 天人 女 生 徒
- 生田流箏曲
三 まゝの川(地唄) 職員及女生徒
- 山田流箏曲
四 花 三 題(古今集より) 職員及女生徒
- 中能島欣一作曲
長 唄 女 生 徒
- 五 秋 色 種 女 生 徒
- 休 憩 ——
- 觀世流連吟
六 橋 辨 慶 男 生 徒
- 寶生流連吟
七 夜 討 曾 我 男 生 徒
- 生田流箏曲
八 秋 の 草 女 生 徒
- 葛原しげる作詞
宮城道雄作曲
長 唄 職員及女生徒
- 九 皇 軍 必 勝 職員及女生徒
- 乘杉嘉壽作歌
吉住小三郎作曲
三代目稀音家六四郎作曲

教授吉住小三郎補導
教授杉本金太郎

昭和十四年十一月九日～十八日 演奏旅行(広島—松山—今治—高松—徳島—高知—浜松)

演奏旅行日程		(昭和十四年十一月)	
日	曜	演奏地	演奏会場
九日	木		
十日	金		
十一日	土	広島	広島高女
十二日	日	松山	新榮座
十三日	月	高松	高松高女
十四日	火	徳島	国防婦人會館
十五日	水	高知	高知劇場
十六日	木		
十七日	金	濱松	公會堂
十八日	土		
			演奏回数
			發
			著
			備考
九日		後一〇〇〇	東京發
十日		後一〇四七	京都發
十一日		前九二九	東京發
十二日		前八三〇	松山發
十三日		前七三三	今治發
十四日		後二〇五八	高松發
十五日		後一〇〇八	高松發
十六日		前九四〇	高知發
十七日		前四四二	濱松發
十八日		前五四五	東京發
			東京驛ニテ解散
			日本樂器社工場見學
			日本樂器ホールヨリ
			途中金刀比羅參リ
			屋島見物ヲスル
			栗林公園ニテ夕食
			今治ハ途中下車
			宿泊
			廣島宇品間ハ市電道後溫泉ニ
			自由見學
			京都ハ演奏ナシ
			東京驛集合

『音楽』學友會、第二十号、昭和十五年一月、一一八頁

1. 混聲四部合唱

指揮助教 木下保氏

イ. 海行かば

大伴氏言曲立

ロ. 皇軍慰問の歌

乗杉嘉壽作曲

ハ. 愛國行進曲(無伴奏)

橋本國彦編曲

2. ピアノ獨奏

イ. 華麗なるワルツ

シヨパン作曲

ロ. 鐘(カムパネラ)

リスト作曲

3. 絃樂合奏

演奏指揮助教 井上武雄氏

小夜曲

モツアルト作曲

アレグロ

ロマンツエ(アンダンテ)

メヌエット(アレグレット)

ロンド(アレグロ)

【休憩】

4. 獨唱・合唱・管絃樂

指揮助教 木下保氏

聖譚曲「天地創造」

ハイドン作曲

獨唱

ガブリエル(ソプラノ)……山内秀子嬢
ウリエル(テノール)……柴田睦子嬢
ラファエル(バス)……村尾護郎氏

第一部 「天地自然の創造」より

1. 序 奏 天地混沌

2. ラファエル(バス)の朗唱(レタイタテイフ)と合唱「光明あれ」

3. ウリエル(テノール)の詠唱(アリア)と合唱「光明の日と陰影の夜」

4. ラファエルの朗唱「おほ空と水」

5. ガブリエル(ソプラノ)の詠唱と合唱「天地の讚歌」

14. 合唱と三重唱「天地自然の讚歌」

【休憩】

第二部 「生物の創造」より

15. ガブリエルの詠唱「空と水の生物」

16. 同上 「鷺と雲雀と鳩と鷺の歌」

20. ラファエルの朗唱「地上の動物の創造」

21. 同上 「獅子と鹿と馬と牛及昆虫と爬虫類」

22. 同上 詠唱「すべてのもの輝けり、而も尙一つ欠けたり」

23. ウリエルの朗唱「神は人間を創造し生靈を興へ給ふ」

24. 同上 詠唱「人間の讚美—アダムとエバの歌」

25. ラファエルの朗唱「神は創造を完成し天使は讚め唱ふ」

26. 合唱 「神の偉業の讚歌」と三重唱「新しき生命の讚美」

27. 序 奏「朝」とウリエルの朗唱「感謝の歌」

31. ウリエルの朗唱「幸あれ、不迷なれ、求めよ、知れよ」

32. 終唱—合唱と四重唱「感謝の頌歌と永遠の讚歌」

國歌「君が代」奉唱二回

(四部合唱、管絃樂伴奏)

管絃樂並合唱 東京音樂學校職員生徒

〔原資料横組〕

〔その他、次のような曲目が適宜差しかえられて、演奏された。〕

ソプラノ獨唱

藤田 文子

(一) 歌劇「トロバトーレ」中のレオノーレの詠唱

ヴェルデイ作曲

ピアノ伴奏 富永瑠璃子

(二) 松島音頭

北原白秋作曲

山田耕筰作曲

(三) 通りやんせ

童本居長世作曲

諸

(四) ばらの實

林柳波作曲

小松清作曲

テノール獨唱

柴田 睦陸

(一) かへれソレントへ 伊太利民謠

ピアノ伴奏 伊達 純

(二)山のあなた 上田敏 譯詩
下總皖一 作曲

(三)曼珠華 北原白秋 作曲
山田耕筰 作曲

ソプラノ獨唱

山内 秀子
伴奏 富永瑠璃子

(一)平城山 北見志保子 作曲
平井 保喜 作曲

(二)ゆりかご 同

(三)月 山村 暮鳥 作曲
平井 保喜 作曲

(四)しぐれに寄する抒情 佐藤 春夫 作曲
平井 保喜 作曲

バリトン獨唱

藤井 典明
伴奏 伊達 純

(一)はためき 木下 李太郎 作曲
丸山 和雄 作曲

(二)高札 木下 李太郎 作曲
丸山 和雄 作曲

(三)二人の精兵 妹尾 幸陽 譯詩
シニューマン 作曲

東京音楽學校 大演奏會愈迫る

傷病兵を慰問招待

縣教育會主催の東京音楽學校大演奏會は期日の迫るにつれて各方面からの申込殺到し晝間演奏會の入場者豫定三千六百名のところすでに三千八百名の申込あり夜間演奏の分も千五百名の豫定のところ殆ど賣切れに近く三百名に達してゐるので希望者は至急入場券を入手されたいと、なほ同演奏會には傷病兵と盲啞學校生徒を慰問招待することになつてゐる

(『高知新聞』昭和十四年十一月十一日)

豪華な音楽饗宴

晝夜三回公演

聴衆溢るゝ盛況

徳島女師高女同窓會並に同聲會支部主催、縣市、教育會後援の下に東京音楽學校大演奏團を迎へて十四日午後二時から國防婦人會館に於て開催した大音楽演奏會は招待せる陸軍病院の白衣勇士を始め名西、小松島、富岡、三好、香蘭高女、各私立學校生徒一千名入場、會場は割れんばかりの盛況を呈し木下保氏指揮の四部合唱の『海ゆかば』、『愛國行進曲』、『ピアノ獨奏』、『華麗なるワルツ』から獨唱、絃樂合奏、ハイドン作曲『天地創造』拔萃など豪華な高級音楽の藝術場に感激し第一回演奏を終り同三時半から女師高女校生徒一千百餘名のために同様の演奏があつた、尙午後七時から夜間の部は地方ではとても機會に恵まれる大コーラスや絃樂合奏を聴かむものと音楽に理解を持つ名士名流婦人一千名に近き入場があつた

(『徳島毎日新聞』昭和十四年十一月十五日)

東京音楽學校 濱松で演奏會

あす・出演者百二十五名

(濱松支局) 今回日本樂器製造株式會社が莫大な犠牲を拂つて東京音楽學校職員生徒からなる管絃樂團及合唱團百貳拾五名を招聘して傷病兵慰問のため濱松市公會堂において十一月十七日、音楽會を開催する事となつた、晝間は午後三時から傷病兵並に女學生のため夜間は一般のため無料で公開される、乍然座席に限りのあることだから招待券で入場者のせりをする由であるなほ當日午後〇時五分から三十分まで日本樂器製造株式會社講堂から静岡、濱松兩放送局で縣下へ中繼放送することになつてゐる

(『静岡民友新聞』昭和十四年十一月十六日)

旅行記

第三日(十一月十一日) 広島

師三 北島恵美子

三時、旅行最初の演奏が始まる。二晩の夜汽車が崇つてか、合唱の出来は餘りかんばしくない。でも聴衆は女學生が主なのでよく拍手してくれ。富永さんのピアノに此の可愛い聴手は思はず首をのぼして、その實によく動く指に驚異の眼を輝かしてゐる。又、藤田さんの歌聲にはすつかり魅了されて仕末つて、我を忘れて聴きほれてゐる。きつと女學生達の小さい頭の中には、多彩な夢が去來した事だらう。山本正人さんがこの席で故郷に錦を飾られる。奏するも聴くも感激の一色である天地創造は第一部のみを演奏したが、これも良い出来とは云へなかつた。

夜こそはと思ひつゝ、係員の方の御案内で夕食を精養軒で戴く。会場へ戻つてみると、聴衆が續々とつめかけてゐる。

七時開演。会場は一ぱい。校長先生の御挨拶も一段とお聲が高い。拍手に迎へられて木下先生が指揮台に立たれる。さあゆかうと、先生の眼が無言の中に語つてゐられる。「海行かば」前奏二小節が力強く響く、先生の手がさつと上ると、大洋に甦る潮の轟がわき起る。思はず私達の體がピンと張切る。先生のお顔を見ると、壓へ切れない喜びが溢れ去て私達の眼も輝きみちる。「皇軍慰問の歌」「大島節」上出来。愛國行進曲等、曲の終りない中から、全く豫期しなかつた程の拍手をもつて迎へられて、夢の様な氣持でステージを下りた。外へ出ると、降る様な星夜だ。冷たい夜氣が快い。窓の外までお客が溢れてゐる。

プログラムは晝間とちがつて、ソプラノ獨唱と換つてモーツアルトの小夜曲が入り、天地創造は拔萃である。

再びステージへ。オーケストラのメンバーも張切つてゐる。先生のお顔にも緊張の色が伺はれる。さつと力強いモーションが一大音響を巻き起した。天地混沌。それを支配するのは指揮棒のひらめきのみだ。私達はあらんかぎりの注意力をもつて、その指揮棒が私達めがけて突進して來るのを、今か今かと待つてゐるのだ。間もなくの中に私達の聲は呼び起こされ

る。光を呼ぶ聲なのだ。」その聲は程なくfとなりffとなつて、電雷の如く雄叫びし、或ひは天地を讃歌し、又神の偉業を頌歌し、全く私達は我を忘れて音の渦の中に沈み切つて仕末つたのだ唱。」ひ終つて、未だ感激のほとぼりの冷めぬ中に、友達と肩を並べて宿へ歸へるさ、なんだか一大奇蹟が起つた様な氣がしてならなかつた。そう云へば今夜の星は一きは近々と感じられてならない。明日もお天気だらう。今から楽しい船旅が豫想される。

第四日(十一月十二日) 松山

本三 御宿好枝

休息所にあてられた旅館に二十分と落着く間なく向ひ側の会場新榮座に入った。ナント生れて初めて入る様な舞臺裏兼樂屋である。四十疊程の場所に大道具小道具が所狭しと置かれてゐるのだ。おまけに何處からか何か匂つて來る。これも演奏旅行ならではの味はへぬ氣分である。

午後一時主催者、ついで校長先生の御挨拶の後直ちに第一回演奏開始、会場は中央に白衣の勇士をかこんで、中等學校の生徒であふれるばかりである。四國での最初の演奏だけに一同緊張、演奏は上々の出来で三時終了。聴衆を入換へる間も惜しと第二回演奏は三時半開始。藤田さん、富永さんのソロを聴衆の後で聴く。「すてきね」。「よく手が動くわね」。「もつと聴かして」。等々これは女學生の言葉。第二回終了後直ちに今日宿泊すべき道後へ向ふ。

ゆつくり夕食を認む間もなく又先程の新榮座へ、まだ開演時間まで間があるにかゝわらず會場の外は斷られた人で一ぱいだ。夜は一般聴衆なのである。我々は相變らずハリ切つて歌ひ好成绩を収めた。一日三回の演奏は相當身體にこたへるが終りまでベストを盡すつもりだ。學校の爲に、木下先生のために、そして自分達のために、木下先生がどんなに御疲れかとそれのみ心配だ。

第五日(十一月十三日) 今治・高松

本二 中田 一次

同じ客車に二人の外國婦人が乗つてゐるので、「珍らしいな」。と思つて

ある中に汽車は今治に着いた。今治は新しい都市のせいか、コンクリートの街路も、私達の演奏した公會堂も、とても清潔な感じがした。がそれにも増して九時からの演奏會は愉悅に満ちた演奏であつた。食堂の大きなガラス窓から、明るい朝の日射が流れ込んでゐる。何時も「と」逆に、最初「君が代」。すぐに「天地創造」の第三部が演奏された。序奏「朝」のフリユート三重奏が快く響くとウリエルの朗唱「感謝の歌」が高らかに唱はれる。そのこのホルン二重奏。殊に一番ホルンの高いE音は實に素晴らしい音であつた。

かくして終りの合唱と四重奏。「感謝の頌歌と永遠の讃歌」。まで、此所の朝の演奏會は私達に忘れ難い印象を與へて呉れた。そうそう、先刻の外人が二人とも中央の席で嬉しさに聴いてゐたのも喜ばしい光景だつた。一行は十時五十八分の列車で高松へ向つた。二時半、高松高女の立派な講堂で、午後の演奏會が開始された。藤田さんのソロで、「ばらの實」は又々大喝采だつた。四時半に演奏が終了すると、直ぐ栗林公園に案内され優雅な池の端で美味しい日本料理を御馳走になつた。七時になると第三回目の演奏會が始まつた。さすがに今晩は、皆疲れてゐる様子で、オーケストラの各パートが所々、思はぬ失敗を仕出かした。僕なんか、ハイドンが終つて階段を下りる時、ふらくして、樂器を持つたまゝ、尻もちをついてしまつた。

第六日(十一月十四日) 徳島

本一 松浦 光

本一 吳 秀眞

會場は周囲のゴミ／＼した中にあり樂屋は一層穢い、其上ステージは狭く聴衆はざわめきあまりいゝ氣持が致しません。けれども一回目と二回目の演奏には二階の方に白衣の勇士が大勢座を占められておましたので、出来るだけ張り切つて演奏を致しました。愛國行進曲だつたと思ひます、木下先生がタクトを正に振られんとした時聴衆の中より「ハイ」などと相の手を入れるけしからん人がゐてお蔭様でおかしいやら小癩に障るやら片腹の痛い思ひを致しました。

樂屋裏では口笛やフリユートの伴奏で井上さんや藤井さんが指揮をし聲を抑えながら皆一生懸命、徳島縣民歌を練習しました。

第七日(十一月十五日) 高知

本三 左右田五十鈴

二時より高知劇場で第一回の演奏開始、高知はさすが昔から土佐魂で知られただけあつて街の感じにも又集つた聴衆の空氣にもはつきりと感じられる。皆大いにはりきつて演奏する。第一回目は全部女學生、第二回の四時より開始の演奏は中學生と女學生が半分づつ。夕食は土佐ホテルで主催者の方々の御馳走に與る。食後「よさこい節」「土佐節」等の踊りを見せながら、名産珊瑚のネクタイピンを席上で戴き時間にせまられて急いで第三回目の演奏の爲會場に向ふ。熱心な洋樂研究者が多いとかで思ひがけぬ専門的な質問を受けたりして驚かされた事も少くない。四國の中では一番熱のある聴衆であつた。反響の少い演奏し難い劇場乍ら皆一生懸命、洋樂を心から待つてゐる様子に何か感動せずには居られなかつた。

第八日(十一月十六日) 高知發

第九日(十一月十七日) 濱 松

第十日(十一月十八日) 東京著

本三 伊達 純

師三 國藤ちか子

中繼放送 ○時五分、中繼放送。合唱とピアノソロ。

まづテスト、まだ眼が覺めきれないのか、どのパートも音程が悪い。歌つてゐてもきいてゐても何だか、頭がはつきりせず氣持が悪いが流石に本當の時は思はずハリキツて成功したらしい。

演奏 午後、濱松公會堂で演奏。床に絨氈(カウチ)の敷かれた立派なホールで、今迄芝居小屋で旅役者氣分を十分味はゞされて來た一行にとつては何だかうれしい。そして東京に近くなつた事を強く感じる。晝間の演奏には傷病兵の方が澤山見えて居られたのでプログラムの最初に『出征兵士を送る歌』を附加する。

昭和14年11月9日～18日、「旅のアルバムより」(『音楽』第20号, 昭和15年1月)



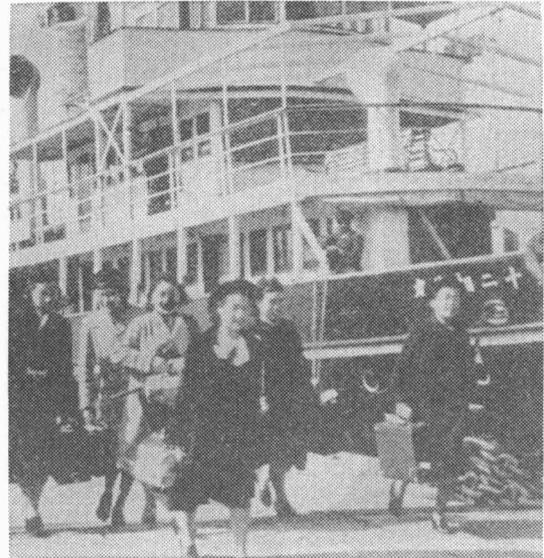
四国に向かう船の甲板にて, 乗杉校長



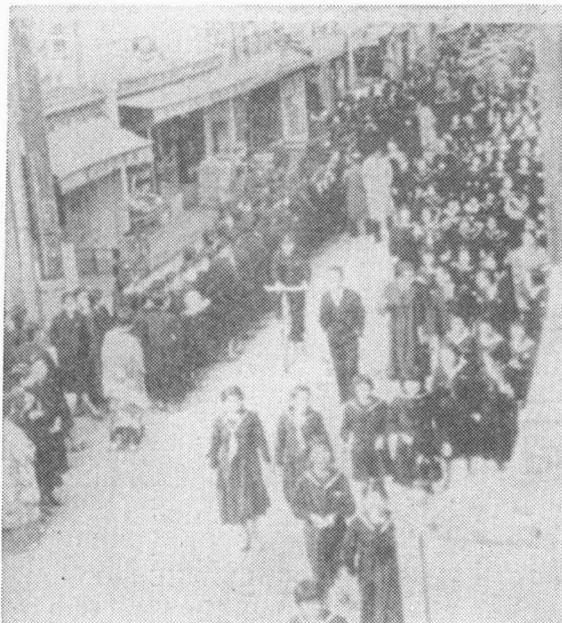
11日, 広島の朝



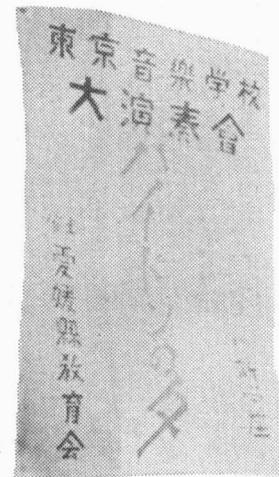
松山の中学生による歓迎の奏楽



待望の四国に第一歩を印す。12日高浜港上陸



松山市新栄座前の盛況ぶり



11月12日, 演奏会場
となった松山新栄座
前のたて看板



〈海行かば〉の合唱。指揮 木下保



演奏会に先立ち挨拶をする乗杉校長



テノール独唱 柴田陸



絃楽合奏。指揮 井上武雄



高知五台山にて



金刀比羅さん参り

夕食後いよいよ最後の演奏、十六回の演奏の後の事として、もう咽喉はガラ／＼である。一寸大きな聲を出すのとタンにひっくり返る仕末。しかし最後の華をかざる意気が誰の顔にも溢れて、出る時の柴田さんの『ハリキライぜ』の一言に皆が一樣にうなづく。『海行かば』。男聲コーラスがハリキリの皮切りで『愛國行進曲』等も今迄にない出来栄だ。『ハイドン』。先生もソリストも夢中になつていらつしやる。それをみてゐると自然興奮して来て、思はずガラ／＼聲を張り上げる。シユルツスコアは熱狂そのものだった。アーメンを目茶くちやに歌ひまくつて、たう／＼最後の幕を閉ぢる。木下先生のうれしさうなお顔。控室へ歸るや否や、バンザイの連發である。何か、何でもかまはない歡聲をあげなくてはゐられない氣持なのだ。オーケストラの控室でも栗本さんの音頭で華々しい拍手が行はれる。

これで済んだ！ 十七回の演奏が。

(『音楽』學友會、第二十号、昭和十五年一月、二二〇～二二七頁)

東京音楽學校大演奏會にのぞみての所感

高知縣師範學校二年

島崎英夫

四部合唱ソプラノ獨唱ピアノ獨奏、絃樂合奏、とプログラムの進むにつれて、流石に我國最高の音樂殿堂たる東京音楽學校だけあつて、その面目躍如たるものがあり、本格的な演奏に聴衆一同すつかり魅了されてしまひました。更にオラトリオ「天地創造」(獨唱、三重唱、合唱、管絃樂)に到つては嘗て一度も體驗し得なかつた所の、演奏者聴衆一體となつて渾然と音樂の流れの中に溶け込んだ、和やかな雰囲気醸し出されて、特殊の世界が現出した様な感じが致しました。最後の國歌「君が代」の奉唱には、祖國日本の姿をまざ／＼と眼前に見せつけられる様で自然に頭が下るのを覺えました。西洋の樂器を用ひ西洋の歌ひ方によつても、矢張日本人は日本の音樂を作りつゝあるすだ^{ウツ}と云ふ事をしみ／＼考へさせられます。

特に土佐出身平井保喜、丸山和雄兩氏の作品を眼のあたり味はひ得たのは我々非常な喜びでした。特別の御配慮の有つたものと存じ感謝に耐へません。

以前は女生徒の方なんか振袖姿でステージに立たれ絢爛たる場面が展開されたと云ふ事を伺つてゐましたが時局の反影^{アウター}が、きちつとした黒の正服だったし、男生徒の方の中には丸刈の頭も交つてゐたし、ほんとに時局下に相應しいステージだったと心からなる敬意を表して止みません。演奏せられる方々にとつては色々御不満の點も多々有られた事でせうが、唯境邊土佐に於ける、音樂研究熱と云ふか、音樂愛好熱と云ふか、そんな風なものも決して下火ではない、といふ點は、非常時局下に於ける情操教育上確に喜んでいたゞくのに足るものが有つたと信じます。此の演奏會によつて今後の土佐音樂界は更に／＼啓發され一大躍進を約された事と信じ、大いに將來に期待するものであります。

最後に不才をも顧みず感じた儘を臆面もなく、述べました事をお詫びして筆をおきます。

(昭和一四・一一・一八)

東京音楽學校演奏會を聴きて

高知縣立第一高女五年

館京子

一ヶ月以前から絶好のチャンスと許りに、大なる期待をかけて待ち侘びて居た東京音楽學校の演奏會當日がやつて來た。その日は朝から何となく胸のときめくのをどうする事も出來ず、授業の終るのを待ちかねて會場へ駆けつけた。満場立錐の餘地もない學生軍の歡喜の興奮を前にして、先づ混聲合唱から始まる。

古代大和民族の忠誠を表徴する歌詞にびつたり合致した莊重そのものゝ様な歌ひ振り、一言一句も疎かにしないといった様な熱情を以て發聲されて居た事も見逃すことが出來ず非常に感心した。純粹な日本味を有つ大島節は私達には非常に珍しく聞かれた。三味線伴奏による所謂民謡とは全然

異つて、此の様に編曲され、ば非常に立派な一つの音楽と化するものである事を教へられて、特に興味が深かつた。通俗的で私共にも馴染深い愛國行進曲は、眼も覺めん許りに齒切れよく勇壯にして、指揮に忠實な歌ひ方で有る爲耳馴れたあの歌詞が生き／＼とした生彩を放つ様に感じられた。同じ曲でも、かくも異ふものがとつく／＼感心し、次からはもう少し立派に歌へる様な氣持がした。各パートが恰も一箇の聲帯から發したかの如く、融合して進む流麗さ、光澤有る豊かな音色は、叶はぬ事とは知り乍ら眞に羨ましい極みであつた。

次のソプラノ獨唱の冴えた音色と洗練された技巧もさすがと感心する外はなかつた。何れも平井保喜先生の作曲になるもの許りで、我が高知縣からも此の様に立派な作曲家が出られた事は、私達にとつても大なる誇であり平井先生が今後益々偉大なる音楽家となられ又第二、第三の平井先生が出て我が高知縣の爲に大いに氣を吐いていただき度いものだと思ふ。

一番樂しみにして居たピアノソロの中には自分も及ばず乍ら苦心した經驗を持つワルツの一曲が加はつて居たので、一層感銘を深くした。ワルツ、カムパネラは文字通り華麗の極みを盡して豪壯に弾かれた一方、神經そのものゝ様なデリケートさを以て終始され、愁ひを帯びた典雅さと鋭さを有つシヨパン獨特のロマンチックの世界に陶然と酔つたのであつた。演奏者の侵し難い力によつて、技巧を超越した詩的境地に引き入れられたのである。

絃樂合奏も皆の氣分が自ら一致して、明快優雅なこの小夜曲の有つ意を無感覺な私達の上にも十二分に與へてくれたと思ふ。

最後の天地創造は眞に天地宇宙の創造を思はず雄大、莊重且崇高な曲であつた。レコードやラヂオで聞くのと違つて、こうした秩序井然とした熱演を眼のあたり見る事が出来たのは大なる喜びであつた木下先生の指揮。之に打たれない者があつたであらうか。先生のタクトは生あるものゝ如く、多くの人達を我が手の如く動かされるのだ。全身に藝術に對する熱情が滿ち溢れてゐるのだ。

私達は今日此の偉大な藝術に接し得た喜びを心から感謝すると同時に藝

術に對する敬虔の念を益々深くした次第である。

〔音楽〕學友會、第二十号、昭和十五年一月、一三八〜一三〇頁

昭和十四年十一月十八日 秋季選科洋樂演奏會

昭和十四年十一月十八日(土曜日)午後二時開場
二時半開演

會場 本校奏樂堂

秋季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

- | | |
|------------------------|----------|
| 一、ピアノ獨奏…………… | 城所鈴子 |
| ソナタ・ヘ長調・第一樂章…………… | モーツァルト作 |
| 二、ヴァイオリン獨奏…………… | 高島美雪 |
| ソナタ・ホ長調・第一・二樂章…………… | ヘンデル作 |
| 三、ピアノ獨奏…………… | 松尾幸子 |
| 六ツの變奏曲・作品三四…………… | ベートーヴェン作 |
| 四、ピアノ獨奏…………… | 青木三枝子 |
| ワルツ・プリラント・作品三四ノ一…………… | シヨパン作 |
| 五、ヴァイオリン獨奏…………… | 石橋茂子 |
| コンチェルト・一番・第一樂章…………… | パツハ作 |
| 六、ピアノ獨奏…………… | 小林慶子 |
| コンチェルト・シテユック・作品七八…………… | ウエーバー作 |
| 【休憩】 | |
| 七、ピアノ獨奏…………… | 稻枝京子 |
| ソナタ・作品五七・第二・三樂章…………… | ベートーヴェン作 |

八、ヴァイオリン齊奏及二重奏……………女生徒

イ、コンチエルト・イ短調……………ヴィバルディ作

ロ、三ツの小スインプオニー……………ダンクラ作

九、ピアノノ獨奏……………齋藤幸子

トツカータ・ニ短調……………バツハ作

一〇、ソプラノ獨唱……………鈴木絢子

歌劇「バタフライ」より『或る晴れた日に』……………プッチーニ作

一一、ピアノノ獨奏……………進藤富夫

ソナタ・作品二七ノ二……………ベートーヴェン作

一二、ヴァイオリン獨奏……………秋葉きよ

コンチエルト・一九番・第一樂章……………クロイツァー作

一三、ピアノノ二重奏……………第一岡木和珪子

組曲・作品一五……………アレンスキー作

ロマンス・ワルツ・ポロネーズ……………

昭和十四年十一月二十三日 創立六十周年記念式

昭和十四年十一月廿三日(木曜日)午前九時開始

創立六十周年記念式順序

東京音楽學校

一、宮城遙拜

二、國歌「君が代」奉唱

三、學校長式辭

四、文部大臣祝辭

五、「記念歌」合唱

六、音楽教育功勞者並本校永年勤續者表彰

七、記念演奏

曲目(洋樂並邦樂)

一、パイプオルガン獨奏……………奥田耕天

バツハ作 トツカータとフーガ・ニ短調

二、ソプラノ獨唱……………豊田春恵

ソナタ・作品二七ノ二……………

ソルツィング作 歌劇「ウンディーネ」中

三、ヴァイオリン獨奏……………近藤泉

ウイニアウススキー作 華麗なるポロネーズ・第二・イ長調

四、テノール獨唱……………柴田睦陸

モーツァルト作 歌劇「ドン・ファン」中の詠唱

五、ピアノ獨奏……………田中立江

リスト作 ハンガリー狂詩曲・第二

六、三絃と室内管絃樂……………三絃獨奏 教授 中能島欣一

中能島欣一作曲 三絃協奏曲 管絃樂

七、觀世流仕舞……………本校職員並生徒

下總皖一編作

一【休 憩】一

嵐山……………丸山里子

網之段……………淺見重信

地謡 助教 藤波重男

八、生田流箏曲

根引の松

外本校生徒

三絃 網野操子

九、長 唄

鞍馬山

遠山美津子

三味線 横山芳枝
上調子 原澤百合

昭和十四年十一月二十三日 創立六十周年記念洋楽演奏会

昭和十四年十一月廿三日(木曜日)午後七時開場

東京音楽学校 創立六十周年 記念演奏曲目(洋楽)

於 日比谷公會堂

記念演奏次第

國歌「君が代」奉唱

式歌 創立六拾周年記念歌

乗杉嘉壽作歌・下總皖一作曲

混聲四部合唱並クラリネット、ファゴット、トラムペート助奏

ハイドン作

聖譚曲「天地創造」獨唱・合唱・管絃樂

„Die Schöpfung“ Oratorium von Joseph Haydn

第一部 「天地自然界の創造」

1 序奏

天地混沌

2 ラファエル(バス)の朗唱(レタイタティーフ)と合唱「光明あれ」

3 ウリエル(テノール)の詠唱(アリア)と合唱「光明の日と陰影の夜」

4 ラファエルの朗唱「おほ空と水」

5 ガブリエル(ソプラノ)の詠唱と合唱「天地の讃歌」

6 ラファエルの朗唱「神は天と海とを分つ」

7 同 詠唱「海と陸」

8 ガブリエルの朗唱「神は草木を創り給ふ」

9 同 詠唱「野の青み、花の香り」

10 ウリエルの朗唱「天使よ歌へ」

11 合唱「天使の頌歌」

12 ウリエルの朗唱「晝と夜、四季、星の創造」

13 同 「太陽と月」

14 合唱と三重唱「天地自然界創造の讃歌」

第二部 「生物の創造」

15 ガブリエルの朗唱「空と水の生物」

16 同 詠唱「鷺と雲雀と鳩と鶯の歌」

17 ラファエルの朗唱「生物の繁殖」

18 同 「天使よ讃め給へ」

19 三重唱と合唱「生物のさかえと神の榮光讃歌」

20 ラファエルの朗唱「地上の動物の創造」

21 同 「獅子と鹿と馬と牛及び昆虫と爬虫類」

22 同 詠唱「すべてのもの輝けり而も尙唯一つ欠けたり」

23 ウリエルの朗唱「神は人間を創造し生靈を與へ給ふ」

24 同 詠唱「人間の讚美——アダムとエヴァの歌」

25 ラファエルの朗唱「神は創造を完成し天使は讃め歌を」

26 合唱「神の偉業の讃歌」と三重唱「新しき生命の讃美」

〔休 憩〕

第三部 「人間の創造と榮光」

27 序奏「朝」とウリエルの朗唱「感謝の歌」

28 二重唱(アダムとエヴァ)と合唱「神の恵みと祝福と永遠の讃歌」

29 アダム(バス)とエヴァ(ソプラノ)の朗唱

30 同 二重唱「人類讚美の歌」

31 ウリエルの朗唱「幸あれ、不迷なれ、求めよ、知れよ」

32 終唱・合唱と四重唱「感謝の頌歌と永遠の讃歌」

二 觀世流居囃子

シテ 寶生重英

大鼓 安福春雄 太鼓 柿本豊次
小鼓 森重朗 笛 寺井政數

石 橋

シテ 藤波順三郎

大鼓 吉見嘉樹 太鼓 金春惣右衛門
小鼓 幸悟朗 笛 一噌鏝二

三 山田流箏曲

八 幡 船

(休 憩)

箏 中能島欣一
品川正三

唄 鈴木松榮
同 鳥居登名美
同 中能島敬子
他邦 樂科生徒

四 長 唄

鉢 かつぎ 姫

唄 吉住小三郎 三味線 稀音家淨觀 笛 望月長之助
同 吉住小三藏 同 稀音家六四郎 小鼓 望月左吉
同 吉住小文郎 同 稀音家四郎作 大鼓 望月吉三郎
同 吉住小七郎 同 稀音家四郎吉 太鼓 望月太左吉

〔原資料横組〕

合唱並管絃樂 東京音樂學校職員並生徒

註「」内は便宜上附したる標題

昭和十四年十一月二十四日 創立六十周年記念邦樂演奏會

昭和十四年十一月廿四日(金曜日)午後(六時開場 七時開演)

東京音樂學校 創立六十周年 記念演奏曲目(邦樂)

五 生田流箏曲

イ 地唄尾上松

ロ 秋 韻

箏 弓 宮城道雄

三絃 牧瀬喜代子
同 高草幹子
同 牧瀬數江
他邦 樂科生徒

一 寶生流舞囃子

枕 慈 童

於 日比谷公會堂

六長 唄

相生 松

唄 杵屋六左衛門 三味線 稀音家六富佐

同 吉住小三枝 同 稀音家壽子

同 吉住小照 同 稀音家喜久子

笛 望月長之助
小鼓 望月左吉
大鼓 望月吉三郎
太鼓 望月太左吉
他邦 樂科生徒

昭和十四年十二月十六日 学友会第一二〇回洋楽演奏会

東京音楽學校學友會

第一二〇回洋楽演奏會

昭和十四年十二月十六日(土)午後一時三十分

曲 目

ソプラノ 獨唱

國藤 ちか子
伴奏 朝倉 靖子

歌劇「ラ・ボエーム」より

誰でもミント

ピアノ 獨奏

歌劇「アルセスト」の舞踏音楽による

カプリツチオ

バリトン 獨唱

岡部 道子
加藤 泰義
伴奏 大島 正泰

「冬の旅」より.....シユールベルト

旅籠屋

歌劇「ラ・トラヴィアータ」より

プロヴェンツァの海よ陸よ

ヴェルデイ

ピアノ 獨奏

澤田 茂子

協奏曲 第一番 ハ長調 作品十五

第一樂章 アルレグロ コンブリオ

メツオソプラノ 獨唱

岡部 多喜子
伴奏 横井 和子

小夜曲

戸の外で

矢橋 満

ピアノ 獨奏

協奏曲 第一番 ホ短調 作品十一

第一樂章 アルレグロ マエストロゾ

休憩

クラリネット四重奏

北爪 利世
喜田 賦
上 所
松浦 光

組曲「逝く春」

下總 皖一

1. 移ろひ行く花 (アンダンテ)

2. 或時は心軽く (モルト アルレグロ)

3. 子守唄

4. ロンド風の思ひ

ピアノ 獨奏

譚詩曲 第二番 へ長調 作品三十八

コルネット 獨奏

岡崎 政子
シヨパン
中山 富士雄
伴奏 高田 信一

三つの小品

プレリユード、アリア、アルレグロ

高田 信一

ピアノ 獨奏 山田 淑子
 第二ピアノ 小倉 教授
 コンツェルト ステエツク へ短調 作品七十九 ヴェーバー
 アルト 獨唱 千葉 静子
 伴奏 岡崎 泰子
 歌劇「假葬舞踏會」より……………ヴェルディ
 ウルリカの願ひ
 ピアノ 獨奏 下山 智子
 第二ピアノ シロタ 教授
 死の舞踏……………リスト
 [原資料構組]

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonnabend, den 16. Dez. 1939, nachmittags 1.30 Uhr.
 120. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Sopran-Solo T. Kunitō
 Begl. Y. Asakura
 Aus der Oper “La Bohème”……………Puccini
 Arie von Mimi “Mi chiamano Mimi”
 Klavier-Solo M. Okabe
 Capriccio……………Gluck—Saint-Saëns
 Thema: Ballett aus der Oper “Alceste”
 Bariton-Solo Y. Kato
 Begl. M. Osima
 Aus der “Winterreise”……………Schubert
 Das Wirtshaus

Aus der Oper “La Traviata”……………Verdi
 Di Provenza il mar il suol
 Klavier-Solo S. Sawada
 Begl. Prof. S. Ogura
 Konzert Nr. 1 C-dur Op. 15……………Beethoven
 1. Satz *Allegro con brio*
 Mezzosopran-Solo T. Okabe
 Begl. K. Yokoi
 Serenata……………P. Mascagni
 Tuori di Porta……………M. Cotoni
 Klavier-Solo M. Yabase
 Begl. Prof. M. Iguti
 Konzert Nr. 1 e-moll Op. 11……………Chopin
 1. Satz *Allegro maestoso*

Pause

Klarinetten-Quartett
 1. Klar. R. Kitazume
 2. Klar. O. Kita
 3. Klar. T. Uesyo
 Bassklar. H. Matuura
 Suite “Der scheidende Frühling”……………K. Simofusa
 1. Die verblassenden Blumen (Andante)
 2. Fröhlich (molto Allegro)
 3. Wiegenlied
 4. Rondische
 Klavier-Solo M. Okazaki
 Ballade Nr. 2 F-dur Op. 38……………Chopin
 Kornett-Solo F. Nakayama
 Begl. S. Takata
 Drei kleine Werke……………S. Takata
Präludium, Arie, Allegro.

Klavier-Solo Y. Yamada

Begl. Prof. S. Ogura

Konzertstück f-moll Op. 79.....Weber

Alt-Solo S. Tiba

Begl. Y. Okazaki

Aus der Oper "Maskenball".....Verdi

Beschwörung der Ulrika

Klavier-Solo T. Simoyama

Begl. Prof. Sirota

TotentanzLiszt

昭和十四年十二月十七日 学友会第一二二回洋楽演奏会

東京音楽學校學友會

第一二二回洋楽演奏會

昭和十四年十二月十七日(日)午後一時三十分

曲 目

ピアノ 獨奏 中根 ゆり子

ウィーンの謝肉祭 作品二十六シニューマン

1. アルレグロ

バリトン 獨唱 小澤 慎一郎

伴奏 木下助教授

歌劇「マクベス」よりヴェルディ

慈悲・尊 敬・名 譽

ピアノ 獨奏 辻 村 棠 子

第二ピアノ 福井 教授

協奏曲 イ短調 作品八十五フムメル

第一樂章 アルレグロ モデラート

メツオソプラノ 獨唱 難波 千鶴子

伴奏 横井 和子

古 歌チマール

歌劇「ラ・ヂオコンダ」よりポンキエルリ

天使の聲

ピアノ 獨奏 大谷 羊子

第二ピアノ 井口助教授

コンツェルト ステュック ヘ短調 作品七十九ウエーバー

休 憩

ピアノ 獨奏 馬 照 純

前奏曲 作品三の二ラハマニノフ

樂興の時 作品十六の四 //

チェロ 獨奏 黒 羽 亘

伴奏 伊達 純

組曲 第二番 ニ長調デルベロア

1. 前奏曲(グラウヴェ)

2. アルレグロ

3. メヌエツト(アルレグレツト)

4. 挽 歌(アンダンティーノ)

5. ナポリ風(アルレグロ)

ピアノ 獨奏 齋 藤 文 子

諧謔曲 變ロ短調 作品三十一シヨパン

ソプラノ 獨唱 井 上 フ ミ

伴奏 田 中 立 江

黄昏の夢 作品二十九の一リヒアルト・シュトラウス

獻 呈 作品十の一 //

小夜歌 作品十七の二リヒアルト・シュトラウス
 ピアノ 獨奏 岡崎 泰子
 譚詩曲 作品十九アオーレ
 ヴァイオリン 獨奏 朴 敏 鐘
 伴奏 川口 輕六
 奏鳴曲 ト短調タルテイーニ
 アダヂオ
 ノン トロツポ プレスト
 ラルゴ—アルレグロ コムモート
 ピアノ 獨奏 梅谷 洋子
 第二ピアノ シロタ 教師
 協奏曲 ト短調 作品七〇ルービンシュタイン
 第一樂章 モテラート アツサイ

[原資料横組]

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonntag, den 17. Dez. 1939, nachmittags 1.30 Uhr.
 121. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO
 PROGRAMM

Klavier-Solo Y. Nakane
 Faschingschwank aus Wien Op. 26.....Schumann
 I. Allegro
 Bariton-Solo S. Ozawa
 Begl. Prof. T. Kinoshita
 Aus der Oper "Macbeth".....Verdi
 "Pietà, rispetto, onore."
 Klavier-Solo T. Tujimura

Begl. Prof. N. Fukui
 Konzert a-moll Op. 85Hummel
 I. Satz Allegro moderato
 Mezzosoprano-Solo T. Nanba
 Begl. K. Yokoi
 StornelloP. Cimara
 Aus der Oper "La Gioconda".....A. Ponchielli
 "Voce di donna"
 Klavier-Solo Y. Ōtani
 Begl. Prof. M. Iguti
 Konzertsück f-moll Op. 79.....Weber
 Pause
 Klavier-Solo S. Mā
 Prélude Op. 3 Nr. 2Rachmaninoff
 Moments Musicaux Op. 16 Nr. 4 //
 Violoncell-Solo W. Kurobane
 Begl. J. Date
 Suite Nr. 2 D-durDe Hervoilois
 1. Prelude (Grave)
 2. Allegro
 3. Menuett (Allegretto)
 4. Plainte (Andantino)
 5. La Napolitaine (Allegro)
 Klavier-Solo F. Saitō
 Scherzo b-moll Op. 31Chopin
 Sopran-Solo F. Inoue
 Begl. T. Tanaka
 Traum durch die Dämmerung Op. 29 Nr. 1 ...R. Strauss
 Zueignung Op. 10 Nr. 1..... //
 Ständchen Op. 17 Nr. 2..... //
 Klavier-Solo Y. Okazaki

Ballade Op. 19.....Fauré

Violin-Solo B. Boku
Begl. K. Kawaguti

Sonate g-mollTartini
Adagio
Non troppo presto

Largo-Allegro comodo
Klavier-Solo Y. Umetani

Konzert g-moll Op. 70Rubinstein
I. Satz Moderato assai
Begl. Prof. Sirota

昭和十四年十二月二十三日 銃後奉仕演奏会

昭和十四年十二月二十三日 (土) (午後六時開演
午後七時開演)

會場 日比谷公會堂

銃後奉仕演奏會曲目

東京音樂學校

銃後奉仕演奏會次第

國歌「君が代」奉唱

内閣紀元二千六百年奉祝會謹撰

「やまとには」舒明天皇御製 信時 潔謹作

「海ゆかば」大伴氏言立 信時 潔作

合唱 上野兒童音樂學園高等科
東京音樂學校男生徒
指揮 澤崎 定之
ピアノ伴奏 水谷 達夫

1. ソプラノ獨唱.....平原壽恵子

ピアノ伴奏 ヘルムート・フェルマー

1. 月影にさまよはん・作品四ノ二 コルネリウス作

2. 夢に來れ リスト作

3. 我等さまよひぬ・作品九六ノ二 ブラームス作

4. 静かなる空氣・作品五七ノ八 "

5. わがまごころみは靜かに・作品一〇五ノ二 "

2. 混聲合唱(無伴奏)

マリア歌曲集・作品二二.....ブラームス作

1. 天使のあいさつ

2. マリアのみ寺詣で

3. マリアの巡禮

4. 天使の狩

5. おゝ聖母マリアよ

6. マグダレナ

7. マリアの讃歌

合唱 東京音樂學校生徒
指揮 木下 保

3. ピアノ獨奏.....Leo Sirota

1. Chopin: Nocturne, Fis-dur・夜曲・嬰々長調

2. Liszt: Ungarische Rhapsodie Nr. 6. 匈牙利狂詩曲・第六

——(休憩)——

4. 管絃樂

交響曲・第七・イ長調・作品九二.....ベートーヴェン

ポコンステヌート——ヴィヴァチェ

アレグレット

プレスト

い敦 盛
ろ羽 衣

二長 唄

春調娘七種 二代目杵屋六三郎作曲……邦楽科生徒(八名)

三箏 曲……………教授 宮城 道雄氏

い秋 韻……………宮城道雄作曲 助教授 牧瀬喜代子外

ろ打てや鼓……………邦楽科生徒(十四名)

第二部

一 紀元二千六百年……………下總皖一編曲

二 い 婦人從軍歌……………下總皖一編曲

ろ 小鳥の歌……………橋本國彦作曲

三 いろはうた……………信時 潔作曲

指揮 助教授 城多又兵衛氏
合唱 東京音樂學校生徒(五十名)

休憩

第三部

一 ヴァイオリン獨奏……………江藤 俊哉氏

④メヂテーシヨン(タイスより)……………マスネー作 伴奏 江藤玲子氏

⑤マラグイナ(スパニシユダンス)……………サラサーテ作品二十一

二 ピアノ獨奏……………江藤 玲子氏

グランドワルツブリランテ……………シヨパン作品十八

三 ヴァイオリン獨奏……………江藤 俊哉氏

④アヴェマリア……………シュューベルト ウイルヘルム作 伴奏 江藤玲子氏

⑤カプリツチエバスク……………サラサーテ作品二十四

一校 歌
一閉會之辭

[手書き]

昭和十五年二月十日 学友会第一二二回洋楽演奏会

東京音樂學校學友會

第一二二回洋楽演奏會

昭和十五年二月十日(土)午後一時三十分

曲目

テノール獨唱……………緒方 勉

愛の歡び……………マルティニー 伴奏 木下助教授

歌劇「トロヴァトーレ」より……………ヴェルディ

カヴァティナ

クラリネット獨奏……………松浦 光

協奏曲 第一番 へ短調 作品七十三……………ウェーバー 伴奏 大和哲朗

第一樂章 アルレグロ モデラート

ソプラノ獨唱……………石神以代子

フルート助奏 鈴木正三

悲 歌……………マスネー

可愛い小鳥……………ダヴィッド

チエロ獨奏……………赤松 稔

伴奏 高田信一

協奏曲 ニ短調……………ラロー

第一樂章 レント アルレグロ マエストーゾ

メツオソプラノ獨唱 相田信子

伴奏 都筑富美子

ラールゴ……………ヘンデル

秋 に 作品十七の六……………フランツ

ピアノ獨奏 横井和子

第二ピアノ 井口助教

協奏曲 イ短調 作品十六……………グリーク

第一樂章 アルレグロ モルト モデラート

ソプラノ獨唱 安西愛子

伴奏 都筑富美子

牧歌……………シューベルト

マリアの子守歌……………レーガー

眠りに……………レーガー

ヴァイオリン獨奏 細谷正秋

伴奏 金子登

協奏曲 第四番 ニ短調 作品三十一……………ヴェータン

第一樂章 アンダンテ

第二樂章 アダチオ レリヂオーゾ

テノール獨唱 波平恵弘

伴奏 中山梯一

「メリケの歌」……………ヴォルフ

女神ヴィラの歌

鼓手 眠れる幼児イエス

かちのたび

古畫に寄す

園丁

ピアノ獨奏

タランテラ ト短調……………リスト

プレスト

室内樂

クラリネット 北爪利世

ファゴット 中田一次

ホルン 岡田朗

ヴァイオリン 朴敏鐘

ヴァイオリン 小橋行雄

チェロ 黒沼俊夫

バス 今村清一

七重奏曲 變ホ長調 作品二十……………ベートーヴェン

第一樂章 アダチオーアルレグロ コンブリオ

第二樂章 アダチオ カンタビレ

第三樂章 テンポ デイメヌエット

第四樂章 主題と變奏曲

第五樂章 スケルツォ

第六樂章 アンダンテ コンモト アラマルチアプレスト

〔原資料横組〕

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonabend, den 10. Feb. 1940, nachmittags 1.30 Uhr.

122. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Tenor-Solo T. Ogata
Begl. Prof. T. Kinoshita
 Piacer d'amor.....Martini
 Aus der Oper "Il Trovatore"Verdi
 Cavatina
 Klarinette-Solo H. Matuura
Begl. T. Yamato
 Konzert Nr. I f-moll Op. 73Weber
I. Satz Allegro moderato
 Sopran-Solo I. Isigami
Begl. K. Maruta
Flöte obligat S. Suzuki
 ElégieMassenet
 Charmant OiseauDavid
 Cello-Solo M. Akamatu
Begl. S. Takata
 Konzert d-mollLalo
I. Satz Lento-Allegro maestoso
 Mezzosopran-Solo N. Aida
Begl. F. Tuzuki
 LargoHändel
 Im Herbst. Op. 17 Nr. 6.....Franz
 Klavier-Solo K. Yokoi
Begl. Prof. M. Iguti
 Konzert a-moll Op. 16.....Grieg
I. Satz Allegro molto moderato
 Pause
 Sopran-Solo A. Anzai
Begl. F. Tuzuki
 La PastorellaSchubert
 Maria WiegenliedReger

Zum Schlafen.....Reger
 Violin-Solo M. Hosoya
Begl. N. Kaneko
 Konzert Nr. 4 d-moll Op. 31.....Vieuxtemps
I. Satz Andante
II. Satz Adagio religioso
 Tenor-Solo E. Naminohira
Begl. T. Nakayama
 Mörike-Lieder.....Wolf
 Gesang Weylas
 Der Tambour
 Schlafendes Jesuskind
 Fussreise
 Auf ein altes Bild
 Der Gärtner
 Klavier-Solo U. Haraguti
 Tarantella g-mollLiszt
 Presto
 Kammermusik *Klarinette* R. Kitazume
Fagott K. Nakata
Horn A. Okada
Violin B. Boku
Viola Y. Kobasi
Cello T. Kuronuma
Bass S. Imamura
 Septett Es-dur Op. 20Beethoven
Adagio-Allegro con brio
Adagio cantabile
Tempo di Menuetto
Tema con Variazioni
Scherzo
Andante con moto alla Marcia-Presto

昭和十五年二月二十四日 第九十回定期演奏会

昭和十五年二月廿四日(土曜日)午後七時開場
〔六時開演〕

会場 日比谷公會堂

定期演奏會曲目

東京音樂學校

Programm

〔原資料横組〕

指揮 ヘルムート・フェルマー
合唱 東京音樂學校生徒
管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

I. 管絃樂

歌劇「ローエングリン」序曲……………ワーグネル作

II. 室内管絃樂

ブランデンブルグ協奏曲・第五・ニ長調……………バッハ作

アレグロ アッフエッツォ アレグロ

指揮並ピアノ マンフレードグルリット

ヴァイオリン 井上武雄

フルート 鈴木正三

——(休憩)——

III. 獨唱・合唱・管絃樂

ミサ曲・第五・變イ長調……………シューベルト作

1. 主憐み給へ

2. 榮光

3. 信經

4. 聖なる哉

5. 祝せられ給へ

6. 神羔誦

獨

唱

ソプラノ	千田豊
アルト	千葉春
テノール	柴田静
バス	栗本睦
	正陸子

III. Soli, Chor und Orchester

Fr. Schubert: Messe Nr. 5. As-dur

Kyrie (Chor u. Soli)

Gloria (Chor u. Soli)

Credo (Chor u. Soli)

Sanctus (Chor)

Benedictus (Chor, Sopran, Alt- u. Tenor-solo)

Agnus Dei (Chor u. Soli)

Sopran: Harue Toyoda

Alt: Sizuko Tiba

Tenor: Mutsumi Sibata

Bass: Tadasi Kurimoto

Leitung Prof. Helmut Fellner
Chor und Orchester der Staatlichen Musikakademie
zu Tokio

——(Pause)——

▽東京音楽學校定期演奏(廿四日夜日比谷公會堂) 歐洲各地の音楽學校に比肩し得るよい演奏であつた。

バツハの協奏曲を指揮したグルリットはテムボヤリズムに於てどこ迄も歴史的解释の中に生きようとした。これは感覺的演奏の流行を追ふ我國一部の傾向に相對峙してゐるもので深く敬意を表したい。ミサを指揮したフェルマーは管絃合唱と四つに組み上背を利用して音楽を吊り出すことと四十五分間。彼を育てる日本人のドイツ樂界に貢獻するもの大なりと云ふべきか?

ソプラノの豊田春恵は注目すべき逸材である。(有馬大五郎)

(『東京朝日新聞』昭和十五年三月二日)

昭和十五年三月二十三日 上野兒童音楽學園第五回卒業式

上野兒童音楽學園卒業證書授與式 三月二十三日 於 本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

(『東京音楽學校一覽』自昭和十五年至昭和十六年、一一八頁)

昭和十五年三月二十五日、二十六日 卒業式

昭和十五年三月 二十五日(月曜日)午後一時開始
二十六日(火曜日)午前十時開始

卒業證書授與式次第

東京音楽學校

第一日 (三月二十五日午後一時開始)

- 一、國歌「君が代」奉唱
- 二、卒業證書並賞品授與
- 三、學 校 長 式 辭

- 四、文部大臣 祝辭
- 五、卒業生總代 謝辭
- 六、合唱「仰げば尊し」
- 七、卒業 演 奏

演奏 曲目

洋 樂 第一節

- 一、ピアノ 獨 奏……………本科卒業 淺原暉久子
リスト作・第二協奏曲・イ長調
- 二、メゾソプラノ 獨 唱……………同 相田信子
ドニゼツチ作・歌劇「ラ・ファヴオリータ」中レオノーラの詠唱
- 三、ピアノ 獨 奏……………同 梅谷洋子
バツハ原作・ブーゾニ編作・シヤコンヌ・ニ短調
- 四、ソプラノ 獨 唱……………本科卒業 安西愛子
1.バツハ作・カンタータ「わが信仰厚き心」
2.ヘンデル作・歌劇「フロリダンテ」中
小詠唱「愛はこの世を支配す」
- 五、ピアノ 獨 奏……………同 大島正泰
シューマン作・交響的練習曲・作品十三
- 六、ソプラノ 獨 唱……………同 磯村澄子
マスカーニ作・歌劇「イリス」中の詠唱
- 七、ピアノ 獨 奏……………同 神吉百合子
シヨパン作・スケルツォ・ホ長調・作品五四
- 八、ヴァイオリン 獨 奏……………同 芦葉スマ
タルティーニ作・奏鳴曲・ト短調
- 九、ピアノ 獨 奏……………同 北村和子

ベートーヴェン作・第五協奏曲・變ホ長調・作品七三・第一樂章

——(休憩)——

洋 樂 第二部

一〇、ピアノノ 獨奏……………本科卒業 佐伯貞子

サン・サーンズ作・第四協奏曲・ハ短調・作品四四・終樂章

一一、テノール 獨唱……………同 金子一雄

1. マスナー作・歌劇「マノン」中騎士デー・グリユーの夢の歌

2. プッチーニ作・歌劇「お蝶夫人」中
ピンカートンの歌「さらば愛の家」

一二、ピアノノ 獨奏……………同 下山智子

グラズーノフ作・變奏曲・嬰へ短調

一三、ソプラノ 獨唱……………本科卒業 永田みや子

1. ヘンデル作・聖譚曲「救世主」中の詠唱
「歡びをもて立てよ」

2. シュトラウス作・小夜曲

一四、ピアノノ 獨奏……………同 左右田 五十鈴

リスト作・メンデルスゾーンの結婚行進曲に據る編作曲

一五、テノール 獨唱……………同 波平 恵弘

1. マイエルベル作・歌劇「アフリカの女」中
ヴァスコダガマの詠唱「おゝ樂園よ」

2. プرائمス作・歌集「マゲローネ」中
「まことなる愛は永し」

一六、ピアノノ 獨奏……………同 高橋 睦子

リスト作・第一協奏曲・變ホ長調・第二、三、四樂章

一七、ヴァイオリン 獨奏……………同 渡邊 曉雄

モーツァルト作・第三協奏曲・ト長調・第一樂章

第二日 (三月二十六日午前十時開演)

邦 樂

一、能樂 觀世流

經 政

二、箏曲 山田流

白の聲

三世山登松齡作曲

三、長唄

綱 館(曲舞之段)

三世杵屋勘五郎 作曲

四、箏曲 生田流

い、西行 櫻

菊崎 檢校 作曲

ろ、春の 曲

吉澤 檢校 作曲

替 手

本 手

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

ワシテ 邦樂科卒業 服部 榮次

囃子 後見地 諸 本校職員外

三箏唄 同 邦樂科卒業 佐々木 夏 從

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

同 同 粟原 口ふみ 子江

同 同 栗原 口ふみ 子江

同 同 野原 口ふみ 子江

ベートーヴェン作・奏鳴曲「アツパツシオナータ」
へ短調・作品五七・第一樂章

二一、メゾソプラノ獨唱……………甲種師範科卒業 橋本淑子

ブラームス作・永遠の愛・作品四三・第一

二二、ピアノノ獨奏……………本科卒業 田邊まち子

ショパン作・幻想曲・へ短調・作品四九

二三、ヴァイオリン獨奏……………同 梅谷興次

モーツァルト作・第四協奏曲・ニ長調・第一樂章

二四、ピアノノ獨奏……………同 伊達純

シューマン作・協奏曲・イ短調・作品五四・第一樂章

二五、メゾソプラノ獨唱……………同 野田先

1. エドワルド・シュット作・バラの花

2. チャイコフスキー作・舞踏會にて

3. レーガー作・森の靜寂

二六、ピアノノ獨奏……………同 都筑富美子

フランク作・交響的變奏曲

二七、ソプラノ獨唱……………同 藤島晴子

プッチーニ作・歌劇「トスカ」中トスカの詠唱「懐しの棲家」

二八、ピアノノ獨奏……………同 富本陶

バッハ作・半音階的幻想曲とフーゲ

——(休憩)——

洋 樂 第四部

二九、ピアノノ獨奏……………本科卒業 御宿好枝

ショパン作・奏鳴曲・ロ短調・作品五八・終樂章

三〇、バリトン獨唱……………同 藤井典明

1. モーツァルト作・歌劇「ドン・ファン」中小夜曲

三一、ピアノノ獨奏……………同 村田榮

シューマン作・協奏的樂曲・ト長調・作品九二

三二、ヴァイオリン獨奏……………同 朴敏鐘

ヴェラチーニ作・奏鳴曲・ホ短調

三三、ピアノノ獨奏……………同 森鼻とし

ウエーバー作・協奏的樂曲・へ短調・作品七九

三四、メゾソプラノ獨唱……………同 堀田雛子

1. ヘンデル作・歌劇「アチスとガラテア」中ガラテアの詠唱

2. ジョン・ゲー作・鳩のやうに

三五、ピアノノ獨奏……………同 若槻文子

ショパン作・譚詩曲・變イ長調・作品四七

三六、作曲部作品……………同 坂本通弘

ピアノの爲の組曲・

プレリューデ コラール フーゲ

三七、作曲部作品……………同 結城雅枝

ヴァイオリン協奏曲・ロ短調・第一樂章

(演奏者 多 久興)

昭和十五年四月二十日 上野兒童音樂学園尋常科第六回卒業演奏會

上野兒童音樂学園尋常科卒業演奏會 四月二十日 於 本校奏樂堂
(曲目等不明)

(『東京音樂學校一覽』自昭和十五年至昭和十六年、一一八頁)

昭和十五年五月四日 研究科修了演奏会

昭和十五年五月四日(土曜日)午後一時開演

於 本校奏樂堂

研究科修了演奏曲目

東京音楽學校

シューマン作・カーナバル・作品九

——休憩——

- 一、指揮法修了演奏……………山田和男
- シューベルト作「未完成交響曲」第一樂章……………青山まさ
- 二、パイプオルガン獨奏……………青山まさ
- バッハ作・フーゲ・變ホ長調……………井上千賀子
- 三、ピアノ獨奏……………井上千賀子
- シヨパン作・譚詩曲・ヘ短調・作品五二……………井上フミ
- 四、ソプラノ獨唱……………井上フミ
- 1. パスクイーニ作・小詠唱二曲……………外狩仲一
- 2. チリンデルリ作・三つの花辨……………外狩仲一
- 五、ピアノ獨奏……………外狩仲一
- シヨパン作・幻想曲・ヘ短調・作品四九……………加古三枝子
- 六、ソプラノ獨唱……………加古三枝子
- 1. モーツァルト作・歌劇「魔笛」パミーナの詠唱……………川口輕六
- 2. ヴェルディ作・歌劇「ドン・カルロス」エリザベートの詠唱……………川口輕六
- 七、ピアノ獨奏……………川口輕六
- ラクマニノフ作・第二協奏曲・ハ短調・作品一八・第一樂章……………藤島紀久子
- 八、ソプラノ獨唱……………藤島紀久子
- ウエーベル作・歌劇「魔彈射手」エンヒェンのロマンス……………田中立江
- 九、ピアノ獨奏……………田中立江
- 十、パイプオルガン獨奏……………奥田耕天
- バッハ作・パッサカリア……………津久井昇
- 十一、作曲發表……………津久井昇
- 津久井昇作・ピアノの爲のフーゲ……………(演奏者)川口輕六
- 十二、ソプラノ獨唱……………衛藤美津代
- アルディーチ作・「語り給へ」……………田中光子
- 十三、ピアノ獨奏……………田中光子
- シヨパン作・スケルツォ・嬰ハ短調・作品三九……………塩田順
- 十四、ソプラノ獨唱……………塩田順
- モーツァルト作・歌劇「トルコ後宮よりの救出」……………有元延
- コンスタンツェの詠唱……………有元延
- 十五、ピアノ獨奏……………有元延
- 1. シューマン作・ロマンス・嬰ヘ長調・作品二八の二……………有元延
- 2. 同 夜曲・ヘ長調・作品二三の四……………有元延
- 3. 同 トッカータ・ハ長調・作品七……………山内妙子
- 十六、ヴァイオリン獨奏……………山内妙子
- トール・アウリン作・第三協奏曲・作品一四・第二、第三樂章……………森瑤子
- 十七、ピアノ獨奏……………森瑤子
- シヨパン作・グラランド・ポロネーズ・ブリラント・變ホ長調・作品二二……………柴田陸
- 十八、テノール獨唱……………柴田陸
- モーツァルト作・歌劇「トルコ後宮よりの救出」……………末元悦子
- ベルモンテの詠唱……………末元悦子
- 十九、ピアノ獨奏……………末元悦子

ベートーヴェン作・ソナタ・アップパシヨナータ・
へ短調・作品五七

昭和十五年五月十八日 選科邦樂修了演奏会

昭和十五年五月十八日(土曜日)午後一時開演

於 本校奏樂堂

選科邦樂修了演奏曲目

東京音樂學校

能樂寶生流連吟

一、經 政

選科 女生徒

能樂寶生流連吟

一、田 村

選科 男生徒

一、み だ れ

箏曲 生田流

箏(雲井)小野清二

同(平)松尾清二

一、御代 萬 歳

吉丸一昌作歌
今井慶松作曲

同 同 同
大黒所
網田京
静定子

同 同 箏
三 同 同
絃 絃 絃
東小西三
條林山宅
夏糸松富
子子子美
子子子子

唄

長 唄
一、賤 機 帶

文政十一年 四代目
杵屋三郎助作曲

高居玖美子
荒島本枝子
高本安江子
塚本俊文子
野口倭文子
窪田房枝子
吉濱みほ子
山田真美子
鈴木淳子
西村代子

三味線
渡邊絹子
坂本孝子
佐伯美佐子
宮池縫き子
小谷幾子
關井紀子
細田紀子
上調子

能樂觀世流連吟
一、熊 野

内藤房子
阿波ミツ

能樂觀世流連吟
一、八 島

淺妻文之助
本多啓次郎
岡部仙太郎

箏曲 生田流

一、春 の 夜

宮城道雄作曲

箏(替手)木藤きみ子
同(同)神戶光子
同(本手)林戸光子
同(同)増田静子
同(同)岩井佳子

高津義雄
中村孝夫
石部英夫
岩井英夫

長 唄

一、小 鍛 冶

文政四年
杵屋勝五郎作曲

教授 吉住小三郎 補導
杉本金太郎
選科修了生及邦樂科・選科生徒

昭和十五年五月二十五日 学友会第一二三回洋樂演奏会

東京音樂學校學友會

第一二三回洋樂演奏會

昭和十五年五月二十五日(土)午後一時

曲 目

オルガン 獨奏

周 慶 淵

トツカータとフーガ ニ短調

バス 獨 唱

伴奏 山下教授
木下教授
モーツァルト

歌劇「魔 笛」より

サラストロの詠唱

「冬の旅」より……………シューベルト

— 休 憩 —

郵便

二重奏

クラリネット 喜田 啓
ピアノ 草川 賦

奏鳴曲 第一番 へ短調……………ブラームス

第一樂章 アルレグロ アパツシヨナート

ソプラノ 獨唱

辻野 英子
伴奏 朝倉 靖子

小夜 曲……………パッサーニ

歌劇「カヴァレリア ルステイカーナ」より……………マスカーニ

ママも知る通り

ピアノ 獨奏

室井 摩耶子
……………シヨパン

ヴァイオリン 獨奏

甘利 次郎
伴奏 大島 正泰

奏鳴曲 第四番 ニ長調……………ヘンデル

アダヂオ

アルレグロ

ラルゲット

アルレグロ

休憩

ピアノ 三重奏

クラリネット 北爪 利世
チェロ 赤松 稔

ピアノ 高田 信一

三重奏 第四番 變ロ長調 作品十一……………ベートーヴェン

アルレグロ コン プリオ

アダヂオ

アレグレット (主題と變奏曲)

アルト 獨唱

小鳥 居尊
伴奏 星野 すみれ

頌歌……………ヘンデル

永遠の愛……………ブラームス

ヴァイオリン 獨奏

小橋 行雄
伴奏 大島 正泰

奏鳴曲 イ長調……………バッハ

アンダンテ

アルレグロ アツサイ

アンダンテ ウン ポーコ

プレスト

ピアノ 獨奏

庄子 房子
……………ブラームス

狂詩曲 ロ短調 作品七十九……………アヂタート

テノール 獨唱

渡邊 高之助
伴奏 大島 正泰

歌劇「自由射手」より……………ウェーバー

マックスの詠唱

ヴァイオリン 獨奏

山口 愛子
伴奏 堀野 壽美子

協奏曲 第二番 ホ長調……………バッハ

第一樂章 アルレグロ

ピアノ 獨奏

佐藤 ちよ
第二ピアノ 福井 教授

協奏曲 イ短調 作品十六……………グリーク

第一樂章 アルレグロ モルト モデラート

〔原資料横組〕

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonnabend, den 25. Mai. 1940, nachmittags 1 Uhr.
 123. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Orgel-Solo		K. Shū
Tokkata und Fuge d-moll.....		Bach
Bass-Solo		K. Yamamoto
	<i>Begl. Prof.</i>	T. Kinoshita
Aus der Oper "Zauberflöte".....		Mozart
Arie von Sarastro		
Aus der "Winterreise"		Schubert
Die Post		
Klarinette und Klavier	<i>Klarinette</i>	O. Kita
	<i>Klavier</i>	K. Kusakawa
Sonate Nr. 1 f-moll.....		Brahms
<i>I. Satz Allegro appassionato</i>		
Sopran-Solo		H. Tujino
	<i>Begl.</i>	Y. Asakura
La Serenata		Bassani
Aus der Oper "Cavalleria Rusticana"		Mascagni
Voi lo sapeta		
Klavier-Solo		M. Muroi
Ballade As-dur Op. 47		Chopin
Violin-Solo		J. Amari
	<i>Begl.</i>	M. Osima
Sonate Nr. 4 D-dur.....		Händel
<i>Adagio, Allegro, Larghetto, Allegro</i>		

Pause

Klavier-Trio	<i>Klarinette</i>	R. Kitazume
	<i>Cello</i>	M. Akamatu
	<i>Klavier</i>	S. Takata
Trio Nr. 4 B-dur Op. 11		Beethoven
<i>Allegro con brio</i>		
<i>Adagio</i>		
<i>Allegretto (Tema con Variazioni)</i>		
Alt-Solo		T. Kotorii
	<i>Begl.</i>	S. Hosino
Dettinger Te Deum.....		Händel
Von ewiger Liebe		Brahms
Violin-Solo		Y. Kobasi
	<i>Begl.</i>	M. Osima
Sonate A-dur		Bach
<i>Andante, Allegro assai,</i>		
<i>Andante un poco, Presto</i>		
Klavier-Solo		F. Shōji
Rhapsodie h-moll Op. 79.....		Brahms
<i>Agitato</i>		
Tenor-Solo		T. Watanabe
	<i>Begl.</i>	M. Osima
Aus der Oper "Freischütz"		Weber
Arie von Max		
Violin-Solo		A. Yamaguti
	<i>Begl.</i>	S. Horino
Konzert Nr. 2 E-dur		Bach
<i>I. Satz Allegro</i>		
Klavier-Solo		T. Satō
	<i>Begl. Prof.</i>	N. Fukui
Konzert a-moll Op. 16		Grieg
<i>I. Satz Allegro molto moderato</i>		

昭和十五年五月三十日 總裁宮奉戴記念演奏會

總裁宮奉戴記念演奏會

五月三十日 午後六時開場
同六時半開演

於 大阪市中之島中央公會堂

演奏 東京音樂學校

主 催 紀元二千六百年 日本萬國博覽會
念

贊 助 大 阪 市 府
大 阪 商 工 會 議 所

總裁宮奉戴記念演奏會

次 第

開 會

國 歌「君か代」奉 唱 合唱 管絃樂

紀元二千六百年 日本萬國博覽會ニ就イテ

日本萬國博覽會 報 道 部 長 池 園 哲 太 郎

演 奏 曲 目

第 一 部

一、管 絃 樂 指 揮 山 口 正 男

序曲「フィデリオ」ベートーヴェン作

二、ソプラノ獨唱 山 内 秀 子

伴奏 内 藤 輝 子

(イ) 歌劇「聯隊の娘」中「別れの歌」ドニゼッテイ作

(ロ) お菓子と娘 橋本國彦作

三、ピアノ獨奏 内 藤 輝 子

譚詩曲、ト短調、作品二三 ショパン作

四、テノール獨唱 柴 田 睦 子

伴奏 内 藤 輝 子

(イ) 歌劇「眞珠採り」ナダイールの詠唱 ビゼー作

(ロ) 曼珠沙華 山 田 耕 筈 作

五、四部合唱 指 揮 木 下 保

(イ) 愛國行進曲(無伴奏) 内閣情報部 撰

演奏會用編作橋本國彦

(ロ) 春の雪(無伴奏) 下 總 皖 一 作

(ハ) さくら(ピアノ伴奏) 下 總 皖 一 作

——(休 憩)——

第 二 部

六、四部唱、合唱、管絃樂 指 揮 木 下 保

ハ長調 ミサ曲 ベートーヴェン作

1 主憐み給へ

2 榮 光

七、「萬博行進曲」發表

紀元二千六百年 日本萬國博覽會行進曲

指 揮 木 下 保

日本萬國博覽會撰歌

東京音樂學校作曲

合唱管絃樂下總皖一編作

「萬博行進曲」唱和 指 揮 木 下 保

以上出演
合唱 東京音楽學校生徒
管絃樂 東京音楽學校職員生徒

第三部

映畫

(イ) 總裁奉戴式實況

(ロ) 萬博ニユース

閉會

昭和十五年六月一日 春季選科洋樂演奏會

昭和十五年六月一日(土曜日) 午後一時開場
一時半開演

於 本校奏樂堂

春季選科洋樂演奏曲目

東京音楽學校

- 一、オルガン 獨奏…………… 莊田ひろ
- パストラール…………… フランク作
- 二、作品 發表…………… 作曲及演奏 坂下きく
- ピアノ・ソナタ・ロ短調・第一樂章
- 三、テノール 獨唱…………… 築山博
- イ、汝を愛す…………… ベートーヴェン作
- ロ、神の榮光…………… ベートーヴェン作
- 四、ピアノ 二重奏…………… 今村布美子
- アンダンテ・アルレグロ コン スピリット…………… 太田和子
- ニ長調…………… モーツァルト作
- 五、ソプラノ 獨唱…………… 山田紗織

- イ、薔薇に…………… ノルシューマン作
- ロ、野ばら…………… シューベルト作
- 六、ピアノ 獨奏…………… 小野治子
- 組曲ニ番プレリユード…………… バツハ作

—— 休 憩 ——

- 七、ピアノ 獨奏…………… 中山偉子
- 即興曲三番 變奏曲・作品一四二…………… シューベルト作
- 八、ソプラノ 獨唱…………… 佐藤艶子
- イ、心に感ず…………… スカラツテイ作
- ロ、早や太陽はガンジエより…………… スカラツテイ作
- 九、ヴァイオリン 獨奏…………… 桑田繁子
- ソナタ・ニ長調・四番・第一、二樂章…………… ヘンデル作
- 十、テノール 獨唱…………… 三好日出夫
- イ、汝は憩ひ…………… シューベルト作
- ロ、愛の飲みもの…………… ドニツエテイ作
- 十一、ピアノ 獨奏…………… 土方淑子
- イ、エテユード・作品一〇ノ九番…………… ショパン作
- ロ、ヴァルツ・嬰ハ短調・作品六四ノ二番…………… ショパン作

昭和十五年六月十五日 研究科ピアノ演奏會

クロイツァー講師擔當

生徒校内演奏會

昭和十五年六月十五日
午後一時半開演

プログラム

- I. Chaconne.....*Bach-Busoni*
- II. Variationen.....*Paganini-Brahms*
Heft I-Heft II
- III. Mephisto-Walzer.....*Liszt*
- IV. Sonate Nr. 4 Fis-dur op. 30.....*Scriabin*
Andante-Prestissimo volando
- V. Alt-Wien.....*Castelnuovo-Tedesco*
 - I Alt-Wien (*Walzer*)
 - II Nachtmusik (*Notturmo*)
 - III Mement mori (*For-trot tragico*)
- VI. 12 Etudes, op. 25.....*Chopin*
 - 1 As-dur, *Allegro sostenuto*
 - 2 f-moll, *Presto*
 - 3 F-dur, *Allegro*
 - 4 a-moll, *Agitato*
 - 5 e-moll, *Vivace*
 - 6 gis-moll, *Allegro*
 - 7 cis-moll, *Lento*
 - 8 Des-dur, *Vivace*
 - 9 Ges-dur, *Allegro assai*
 - 10 h-moll, *Allegro con fuoco*
 - 11 a-moll, *Allegro con brio*
 - 12 c-moll, *Allegro molto con fuoco*

渡邊 澄子

市川 秀子

井上千賀子

有元 延

外狩 伸一

昭和十五年六月十六日 学友会第一二四回洋楽演奏会

東京音楽学校學友會

第一二四回洋楽演奏會

昭和十五年六月十六日(日)午後一時三十分

目 録

- ピアノ 獨奏 曲 目
 - 華やかなる變奏曲 變ロ長調 作品十二.....シヨパン
 - メツオソプラノ 獨唱 飯塚りゑ子
 - 歌劇「アイター」より.....ヴェルデイ
 - 勝ちて歸れ
 - ソプリュート 獨奏 森 正
 - 小協奏曲 ニ長調 作品百七.....シヤミナーデ 伴奏 中田 一次
 - ソプラノ 獨唱 朝倉 春子
 - 伴奏 富永瑠璃子
 - バララ.....フオーレ
 - 秋.....
 - 月の光.....
 - ピアノ 獨奏 大和 哲朗
 - 第二ピアノ 福井 教授
 - 協奏曲 第三番 ハ短調 作品三十七.....ベートルヴエン
 - 第一樂章 アルレグロ コン プリオ
 - ソプラノ 獨唱 休憩 石神 以代子

末元 悦子
〔手書きの横書き〕

伴奏 富本 陶
 歌劇「カルメン」より ビゼー
 ミカエラの詠唱
 ピアノ独奏 前島 百代
 グランドポロネーズ アリランテ ショパン
 変ホ長調 作品二十二
 バリトン独唱 中山 佛一
 伴奏 大島 正泰
 遙なる愛人へ 作品九十八 ベートーヴェン
 ピアノ独奏 尹 琦 善
 第二ピアノ 井口 教授
 協奏曲 イ短調 作品十六 グリーク
 第一樂章 アダーヂオ
 第三樂章 アルテロ モテラート モルト エ マルカート
 [原資料横組]

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI
 Sonntag, den 16. Juni, 1940, nachmittags 1.30 Uhr.
 124. SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO
 PROGRAMM

Klavier-Solo T. Yosikawa
 Variations brillantes B-dur Op. 12.....Chopin
 Mezzosopran-Solo R. Iizuka
 Begl. S. Nakamura
 Ritorna vincitor !.....Verdi
 aus der Oper "Aida"

Flöte-Solo T. Mori
 Begl. K. Nakada
 Concertino D-dur Op. 107.....Chaminade
 Sopran-Solo H. Asakura
 Begl. R. Tominaga
 La Rose.....Fauré
 Automne "
 Clair de Lune "
 Klavier-Solo T. Yamato
 II. Klavier Prof. N. Fukui
 Konzert Nr. 3 c-moll Op. 37Beethoven
 I. Satz Allegro con brio
 Pause
 Sopran-Solo I. Isigami
 Begl. T. Tomimoto
 Arie von MichaelaBizet
 aus der Oper "Carmen"
 Klavier-Solo N. Maejima
 Grande Polonaise brillante Es-dur Op. 22.....Chopin
 Bariton-Solo T. Nakayama
 Begl. M. Osima
 An die ferne Geliebte Op. 98.....Beethoven
 Klavier-Solo K. In
 II. Klavier Prof. M. Iguti
 Konzert a-moll Op. 16..... Grieg
 II. Satz Adagio
 III. Satz Allegro moderato molto e marcato

昭和十五年六月二十二日 第九十一回定期演奏会

昭和十五年六月二十二日 (土曜日) 午後七時開演

会場 日比谷公會堂

定期演奏曲目

東京音楽學校

田舎人の踊

まつり

(本邦初演)

指揮 ヘルムート・フェルマー
合唱 東京音楽學校生徒
管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

[原資料横組]

一、管 絃 樂

交響曲(第八八番) ト長調……………ハイドン作

アダージョーアルレグロ

ラルゴ

メヌエットトリオ(アルレグレット)

終曲…アルレグロ・コン・スピリート

二、ピアノ二臺と管絃樂

協奏曲・變ホ長調(ケツヘル番號三六五)……………モーツアルト作

アルレグロ

アンダンテ

ロンド(アルレグロ)

獨 奏 第一ピアノ 市川 秀子
第二ピアノ 末元 悦子

—(休憩)—

三、合唱と管絃樂

「ネニエ」作品八二……………ブラームス作

四、管 絃 樂

組曲「シシリア」……………ディーノ・マリヌッチ

降誕の物語

移住民の唄

Programm

I. Orchester

Symphonie Nr. 88. G-dur……………J. Haydn

Adagio—Allegro

Largo

Menuetto—Trio (Allegretto)

Finale: Allegro con spirito

II. Klavier-Soli und Orchester

Konzert für zwei Klaviere, Es-dur (K. V. 365)

……………W. A. Mozart

Allegro

Andante

Rondo (Allegro)

Soli: 1. Klavier Hideko Itikawa
2. Klavier Etuko Suemoto

—(Pause)—

III. Chor und Orchester

“Nänie” Op. 82……………J. Brahms

IV. Orchester

Suite Siciliana.....Gino Marinuzzi

Leggenda di Natale (1882—)

La canzone dell' emigrante

Valzer campestra

Festa popolare

(Zum erstmal in Japan)

Leitung : Helmut Fellmer

Orchester und Chor der Staatlichen Musikakademie

zu Tokio

▽東京音楽學校定期演奏會(二十一日夜日比谷公會堂)ハイドンの交響曲ト長調は緩速度の樂章に於ける不揃ひな演奏を除けば上出來と言はねばならぬ。

聽衆にもそれから指揮者フェルマーにも本邦初演のマリヌッチ作「組曲」が最もピツタリしたものであつたらう。モーツアルト作ピアノ二台の協奏曲を弾いた市川秀子と末元悦子は、ともによく修業を積んでゐる有望な演奏家である。

只時として脂濃いモーツアルトが出現するのは、この人達の罪でなく、それを授けたものの責任である。吾々がこれらの催しから不斷に見出さうとするものは、技巧の完璧ではなく、養成されたものが一人歩きの出來るまでに様式感を自得してゐるかと言ふことである。(有馬大五郎)

(『東京朝日新聞』昭和十五年六月二十七日)

昭和十五年六月二十二日 学友会第五回邦楽演奏會

昭和十五年六月二十二日(第四土曜日)午後一時半始

東京音楽學校學友會

第五回 邦 樂 演 奏 會

於本校奏樂堂

一	能 樂(觀世流)	曲 目
二	連 吟	春日 龍 神
三	二 箏 曲(山田流)	子の日の遊び
四	三 長 新 小 鍛 治	新 小 鍛 治
五	地 吟 曲(生田流)	地 吟 け しの 花
六	仕 舞 樂(觀世流)	休 憩
七	イ 小 袖 曾 我	仕 舞 樂(觀世流)
	ハ 田 村 風	イ 小 袖 曾 我
	六 箏 曲(山田流)	ハ 田 村 風
	七 箏 曲(生田流)	六 箏 曲(山田流)
	夏 古 合 組 曲	七 箏 曲(生田流)

シテ(地謡)	ワキ(地謡)	シテ(地謡)	ワキ(地謡)	シテ(地謡)	ワキ(地謡)
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏
三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏	三 箏

八長 唄
四季の山姥

唄線 井磯川山熱岡 田田 蔭海本 孝秋 眞は松 子子敦弓な子

昭和十五年六月二十九日 学友会第一二五回洋楽演奏会

東京音楽学校学友会

第一二五回洋楽演奏會

昭和十五年六月二十九日(土)午後一時三十分開演

演奏曲目並解説

モーツァルト作曲

歌劇「魔 笛」三幕

シカネダー作詞

——演奏會形式に依る——

獨唱者

サラストロ(イジス、オジリスの神に仕へる高僧)……栗本 正(バス)
タミノ(或る國の王子)……柴田陸(テノール)
辨 者(サラストロの次に位する僧)……中山梯一(バス)
夜の女王(以前さる高僧の妻であつた闇の魔法師) 奥田智重子(ソプラノ)
パミーナ(その娘)……三宅春恵(ソプラノ)
第一の侍女(夜の女王に仕へる女)……朝倉春子(ソプラノ)
第二の侍女()……佐々木 成(ソプラノ)
第三の侍女()……千葉静子(アルト)
パ、ゲノ……藤井典明(バス)
モノスタトス(サラストロに仕へるムーア人)……酒井 弘(テノール)

僧の武装せる番僧]……渡邊高之助(テノール)
第二の武装せる番僧 ……中山梯一(バス)
第一の少年 ……永田みや子(ソプラノ)
第二の少年 ……相田信子(ソプラノ)
第三の少年 ……小島居 尊(アルト)
パ、ゲナ ……安西愛子(ソプラノ)

合 唱 聲樂部並師範科第三學年生徒
管 絃 樂 部 管 絃 樂 部
指 揮 橋 本 教 授
聲樂擔當 伊 藤 助 教 授
〔原資料横組〕

Sonnabend, den 29. Juli 1940
nachmittags 1.30 Uhr
125. SCHÜLER-KONZERT
DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

W. A. MOZART
"Die Zauberflöte"
Oper in 2 Akten
Dichtung von F. Schikaneder
——Konzertaufführung——
Leitung: Q. Hashimoto
Führung für den Gesang: T. Ito
Solisten:
Sarastro (Bass) ……T. Kurimoto
Tamino (Tenor) ……M. Sibata

Sprecher (Bass).....T. Nakayama
 Die Königin der Nacht (Sopran).....T. Okuda
 Pamina, ihre Tochter (Sopran).....H. Miyake
 Erste Dame der Königin (Sopran).....H. Asakura
 Zweite " " (").....S. Sasaki
 Dritte " " (Alt).....S. Tiba
 Papageno (Bass).....N. Fujii
 Monostatos, ein Mohr (Tenor).....H. Sakai
 Priester (Tenor).....T. Watanabe
 Erster geharnischter Mann (Tenor).....
 Zweiter " " (Bass).....T. Nakayama
 Erster Knabe (Sopran).....M. Nagata
 Zweiter " " (").....N. Aida
 Dritter " " (Alt).....T. Kotori
 Papagena (Sopran).....A. Anzai

Chor:

Schüler der Sängereileitung und 3. Klasse des Normalkurses

Orchester: Schüler-Orchester

〔解説省略〕

昭和十五年七月九日 東亜教育大会参加者参観演奏会

東亜教育大会参加者参観演奏

昭和十五年七月九日午後二時

曲目並解説

一、 箏 曲 (生田流) 六段 演奏 邦楽科生徒

三百年程前、八橋檢校が作曲した純器樂の爲めの名曲である。全曲は六段に分れ、六個の Variations の形式で出来上つてゐる。

二、 合唱 (四部混聲)

演奏 本校生徒
 指揮 澤崎教授

1 「海行かば」 日本古歌
信時 潔作曲

「海行かば水づくかばね、山行かば草むすかばね、大君のへにこそ

死なめ、かへり見はせず」と云ふ至誠盡忠の歌で合唱曲として新作されたものである。

2 愛國行進曲 内閣情報部編
 橋本國彦作曲

この歌は今事變に際し皇國日本の精神と八絃一字の大裡を表現したる歌で、この歌を四部混聲合唱曲に編曲し、三個の Variations が附加されてゐる。

3 「いろは歌」 日本古歌
信時 潔作曲

日本のアルファベットを歌ひ込んだ古歌を歌詞として、作曲されたもので、日本的曲調に基いた四部混聲の無伴奏合唱曲をなし、變奏曲風に作られてゐる。

三、 管 絃 樂

交響曲・ニ調 建國祭本部制定
 橋本國彦作曲

第二樂章 輕快調

第三樂章 「紀元節祝日歌による主題と變奏及フーガ」

この曲は紀元二千六百年紀念の爲め純日本の精神に據つて作曲された管絃樂曲で、時間の都合上第一樂章を省略して演奏される。管絃樂は大編成にて各種の樂器を使用してゐる。

昭和十五年九月二日〜七日 演奏旅行(仙台—函館—小樽—札幌)

紀元二千六百年奉祝・銃後音樂奉仕

東京音樂學校大演奏會

九月六日—於中央座

(午後七時三十分開演)

主催 讀賣新聞社

後援 北海道廳・小樽市

〔原資料横組〕



橋本國彦教授

番 組 午後七時三十分開演

◇ 国歌「君が代」奉唱

◇ 紀元二千六百年讃歌

(讀賣新聞社選定)
宮城道雄作曲、下總統一編曲

ピアノ伴奏 伊達純

◇ 大日本の歌

(管絃樂伴奏)

一、管 絃 樂

紀元二千六百年記念
建國祭本部制定 交響曲・二調 橋本國彦作曲

● 紀元節祝日歌による主題と變奏及遁走曲
● 輕快調

二、バリトン 獨唱

伴 奏 伊達純
藤井典明

イ、平城山 北見志保子作歌 平井保喜作曲
ロ、久方の紀友則作歌 信時潔作曲
ハ、田植唄 林柳波作歌 橋本國彦作曲

ニ、歌劇「カルメン」中エスカミリオの詠唱

トレアードル ビゼー作曲

三、ピアノ 獨奏 田中立江

ハンガリア狂詩曲 第十四 リスト作

四、ソプラノ 獨唱 奥田智重子

伴 奏 田中立江

イ、青蛙 三木露風作歌、山田耕筰作曲

ロ、マルーシヤの歌 山田耕筰作曲

ハ、野ばら シューベルト作曲

ニ、アレルイア モーツアルト作曲

五、ヴァイオリン 獨奏 渡邊曉雄

伴 奏 伊達純

ロンドン ト短調 モーツアルト作曲

六、合 唱

イ、海ゆかば(男聲合唱) 大伴氏言立 信時潔作曲(ピアノ伴奏)

ロ、川(女聲合唱) 橋本國彦作曲(ピアノ伴奏)

ピアノ伴奏 田中立江

ハ、天の元后(レヂナ・チェリ)(無伴奏)

アントニオ・カルダラ作曲(1670-1736)

合 唱 東京音楽學校生徒

管絃樂 東京音楽學校職員並生徒

指揮 教授 橋本國彦

[その他、次のような曲目も適宜加え、組み合わせて演奏された。]

ピアノ 獨奏 富永瑠璃子

イ、バラード「譚詞曲」變イ調 シヨパン作

ロ、練習曲作品第十五番 ショパン作

ヴァイオリン 獨奏

近藤 泉子
伴 奏 田 中立 江

イ、序曲とガボット バッハ原作 クライスラー編作

ロ、支那の太鼓 ラモー原作 クライスラー編作

ピアノ 獨奏

ソナタ「嵐」ニ短調・作品三一・第二 ベートーヴェン作

室内 樂

管絃七部奏曲 メヌエツト 主題と變奏曲 ベートーヴェン作

ヴァイオリン 井上 武雄
助教授

ヴァイオリン 兎 東 龍夫

セロ 赤 松 稔

バス 今 村 清一

クラリネット 北 爪 利世

ファゴット 中 田 一 次

ホルン 岡 田 朗

ヴァイオリン 獨奏

田 村 五郎
伴 奏 松 谷 穰

協奏曲・第四 第一・第二樂章 ヴェータン作曲

秋の樂壇を飾る 上野音楽「學」校の本道公演

秋の音楽シーズンに魁け東京（上野）音楽學校の本道巡回演奏會は九月五、六、七日の三日間函館市日活館（晝夜二回）小樽市電氣館（夜一回）札幌市公會堂（晝夜二回）三ヶ所で開かれる、乗杉校長引率のもとに職員十五名、本科、師範科、管絃樂專修生、卒業生等男女百五十名の大舉來道は實に本道音楽界にとり劃期的な催しで紀元二千六百年記念建國祭本部制定の交響曲を聴かせてくれる「」なほ札幌會場では白衣勇士を招待する

（『小樽新聞』昭和十五年八月十日）

銃後 奉仕 演奏の旅へ 音楽學校生一行出發



昭和15年9月2日，上野駅から夜行で東北地方へ銃後奉仕の演奏旅行に出發する東京音楽學校生徒（『讀賣新聞』昭和15年9月3日）

紀元二千六百年奉祝事業の一つとして上野東京音楽學校では本社協賛の下に三日から十日まで休暇を利用して乗杉校長引率の下に教職員と上級生徒百五十名の大演奏團を編成して東北、北海道の各地に演奏旅行を行ふことになり多彩な今秋奉祝演奏の意義あるトツプを切つたが、上野音楽學校はじめてのこの大規模な演奏團は二日夜上野驛發列車で最初の演奏地仙臺に向ひ華やかな出發をした

一行は乗杉校長以下職員廿五名男生徒五十五名、女生徒五十九名、見送りの級友も多くふだんは地味な上野

驛に華やかな色彩をばら撒き、「しつかりやつてきてね」の聲援裡に十時
卅五分發常磐線廻り列車は意義深い音楽報國の使命を乗せて仙臺に向
つた

乗杉校長と遠藤、橋本兩教授及び小野本社編輯企畫部長はこれより一列
車さきに十時廿分發青森行で出發した、乗杉校長は語る

「二千六百年式典にこの秋學校で行ふ事業は澤山ありますがその魁けと
してこの演奏旅行が鐵道省その他各方面の後援と讀賣新聞社協賛の下に
實現したことは近ごろの快事に思ひます、一同體力鍛錬の意味をも兼ね
て大へんな意氣込みです」

（『讀賣新聞』昭和十五年九月三日）

仙臺は超満員

上野音楽學校奉祝演奏會

【仙臺電話】二千六百年の秋を壽ぐ東京音楽學校の銃後奉仕地方演奏旅行
は本社協賛のもとに三日仙臺市文化キネマでその第一回演奏會が開かれ
た

午後三時開場、入場者の敬虔な歡迎のうちに白衣勇士二百餘名が入
場、東北一を誇る大會場も超満員となりその數三千、國歌奉唱に絢爛豪
華なプロが繰りひろげられピアノ獨奏、バリトン獨唱と純音楽の香り高
い饗宴に聴衆は陶醉した、夜は午後六時開場、遠く山形、福島兩縣から
も聴衆が殺到、爆發的人氣を呼んで二千六百年奉祝演奏の豪華プロを終
つた

（『讀賣新聞』昭和十五年九月四日）

昭和十五年十月十四日 靖国神社の頌

頰傳ふ涙に雨しとぞ

聖歌隊に 九段・敬虔な一瞬

秋雨が音もなく靖國の杜を濡らして行つたけふ十四日、秋たけし靖國神
社拜殿前から壯重な音楽の吹奏につれて「こゝ日の本のみ民等がたかき心
のふるさとぞ」と美しい男女混聲合唱が湧きあがり、明十五日から執り行
はれる臨時大祭に上京した多數の遺族たちの涙をしぼつた
秋雨に煙る木立を縫ふこの歌聲は初めて陸海軍省が英靈を偲ぶために苦
心制定した「靖國神社

の頌」で

……上野音楽學校聲
樂科男女生徒百名が
陸、海軍樂隊と共に殉
忠の英靈よ安かれと捧
げる奉仕の聖歌なので
ある、タクトを振る大
沼樂長の指揮棒に、軍
帽にも雨が降る……そ
の後に肅然と整列して
歌ふ黒背廣の男生徒、
黒絞付に紺袴の女生徒
の頰にも背にも、軍樂
隊員のラツパもドラム
にも蕭條と雨が降る……
その周圍を圍んでち
つと歌聲に聴き入る若
者男女の遺族達の顔も
肩も、胸に飾る譽の遺



昭和15年10月14日「靖国神社の頌」

族章も濡れて行く身動きもしない人々の群である、歌ふ者も奏る者も聴く者も雨と共に涙が頬を傳ふ

……終つて「海行かば」に歌詞が變れば感極まつた女生徒達の合唱の中へ突然幼ない歌聲が入つた、草むす屍と續けるこの聲は傘もさゝず老婆と共に立つ田舎の八九歳の小學生で、小倉の服ながら洗ひ淨められ、繼の當つた半ズボンは折目が正しい

眞黒な顔を天に向け雨に打たせ亡き父よ聞けと涙ため幼い聲を張り上げて歌ふ

……誰れもが泣いた、誰もがこの幼い聲に聴き入つた……やがて遺族達や一般参拜者まで涙聲で「大君の邊にこそ死なめかへり見はせず」と聲を揃へて共に合唱し出したのであつた

〔都新聞〕昭和十五年十月十五日

昭和十五年十月十九日 第七回上野兒童音樂學園尋常科演奏會

第七回 上野兒童音樂學園演奏會曲目

尋常科

昭和十五年十月十九日(土曜日)午後一時三十分開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

東京下谷區上野公園

- 1. 齊唱 一年 伴奏 松田講師
- イ、牧場の朝……………新訂尋常小學唱歌
- ロ、廣瀬中佐……………
- 2. ピアノ獨奏 脇田禮子
- ソナタ ニ長調 第一樂章……………モーツァルト

- 3. ピアノ獨奏 米澤聖子
- タランテラ……………ヘラー
- 4. ピアノ獨奏 林作恵子
- 田園調の主題による變奏曲……………モーツァルト
- 5. ピアノ獨奏 小野崎美智子
- ソナタ 作品二ノ一 第一樂章……………ベートーベン
- 6. ピアノ獨奏 廣瀬謹子
- 即興曲 作品二 變ホ長調……………シューベルト
- 7. ピアノ獨奏 西矢富子
- 緩徐調(ヘ調)……………ベートーベン
- 8. ピアノ獨奏 小榎豊子
- 幻想即興曲……………シヨパン
- 9. 唱歌 二年 伴奏 都筑講師
- イ、海(二部合唱)……………上野兒童音樂學園樂譜二部合唱編曲集
- ロ、秋の山(二部合唱)……………
- 休憩——
- 10. ピアノ獨奏 三橋絢子
- 協奏曲 ニ長調 第三樂章……………ハイドウン
- 11. ピアノ獨奏 立野サト
- 「デュポール」の主題による變奏曲……………モーツァルト
- 12. ピアノ獨奏 松浦豊明
- ソナタ 作品十四ノ二 ト長調 第一樂章……………ベートーベン

13. ピアノノ獨奏 幡生倫子

華麗なる回旋曲……………メンデルスゾーン

14. ピアノノ獨奏 藤井和子

ソナタ 作品三十一ノ二 第一樂章 ニ短調……………ベートーベン

15. ヴァイオリン獨奏 高角郁子

協奏曲 第九番 イ短調 第一樂章……………ベリオリオ

16. ピアノノ獨奏 戸澤和子

飛躍(アウフシユクア^マンダ) ニ短調……………シューマン

17. ピアノノ獨奏 西宮桂子

ソナタ 作品二ノ二 イ長調 第一樂章……………ベートーベン

18. 唱 歌 三 年

イ、國民進軍歌(齊唱)……………軍事保護院選定

ロ、アルファベット(三部合唱)……………モツアルト

ハ、ひばりの歌(三部合唱)……………下總皖一

〔原資料横組〕

昭和十五年十月二十七日 学友会第一二七回洋楽演奏会

東京音楽學校学友会

第一二七回洋楽演奏会

昭和十五年十月二十七日(日)午後一時

曲目

テノール獨唱 前田幸市郎

樂に寄す……………シューベルト

春の信仰……………

ガニメート……………

ピアノノ獨奏 川瀬喜美

オルゲルトツカータとフーガ ニ短調……………パツハータウジツヒ

ヴァイオリン獨奏 伊達良

協奏曲 第二番 ニ短調 作品四十四……………ブルツフ

第一樂章 アダチオ マノン トロツポ

ピアノノ獨奏 渡邊久子

譚詩曲 ト短調 作品二十三……………シヨパン

バリトン獨唱 岩崎常次郎

「冬の旅」より……………シユーベルト

あふるる涙、郵便、霜おく髪

ピアノノ獨奏 篠塚雅子

奏鳴曲 ヘ短調 作品五十七……………ベートーヴェン

第二樂章 アンダンテ コン モート

昭和十五年十月二十六日 学友会第一二六回洋楽演奏会

学友会第一二六回洋楽演奏会 十月二十六日 於 本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔東京音楽學校一覽〕自昭和十五年至昭和十六年、一一九頁

第三樂章 アルレグロ マノン トロツポ

ヴァイオリン 獨奏

中村 桃子

伴奏 川瀬 喜美

協奏曲 第二番 ホ短調 作品二……………シユポーア

第一樂章 アルレグロ モデラート

ピアノ 獨奏

玉木 萃子

グランドポロネーズ 變ホ長調 作品二十二…シヨパン

休憩

作品 發表 表

中田 一次

主題、變奏曲とフーガ

- 第一クラリネット 北爪 利世
- 第二クラリネット 喜田 賦
- ファゴット 作曲者

チェロ 獨奏

劍持 富美子

伴奏 吉田 和子

奏鳴曲 ト短調……………エツクルス

ラルゴ

アルレグロ コン スピリット

アダチオ

ヴィヴァーチエ

ピアノ 獨奏

矢橋 満子

夜想曲 變ニ長調 作品六十三……………フオーレ

即興曲 ヘ短調 作品三十一……………

即興曲 變イ長調 作品三十四……………

ソプラノ 獨唱

尾高 泰子

伴奏 清水 トシ子

歌劇「ミニヨン」より……………トーマ

今宵私は妖女の女王よ

ピアノ 獨奏

森 留奈子

前奏曲と遁走曲 イ短調……………バツハーリスト

ヴァイオリン 獨奏

近 藤 泉

奏鳴曲 ト短調(無伴奏)……………バツハ

アダチオ カンタービレ

フーガ アルレグロ

ピアノ 獨奏

上遠野 喜久子

圓舞曲 作品三十九……………ブラームス

- 1. ロ長調 2. ホ長調 3. 嬰ト短調 4. ホ短調
- 5. ホ長調 6. 嬰ハ長調 7. 嬰ハ短調 8. 變ロ長調
- 9. ニ短調 10. ト長調 11. 變ロ短調 12. ホ長調
- 13. ロ長調 14. 嬰ト短調 15. 變イ長調 16. 嬰ハ短調

〔原資料横組〕

TOKIO ONGAKUGAKKO GAKUYUKAI

Sonntag, den 27. Okt. 1940, nachmittags 1 Uhr.

127. SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Tenor-Solo

K. Maeda

Begl. Prof. T. Kinosta

An die Musik……………Schubert

Frühlingsglaube……………

Ganymed……………

Klavier-Solo		K. Kawase
Orgeltokkata und Fuge d-moll		Bach—Tausig
Violin-Solo		R. Date
	<i>Begl.</i>	J. Date
Konzert Nr. 2 d-moll Op. 44.....		Bruch
1. Satz Adagio ma non troppo		
Klavier-Solo		H. Watanabe
Ballade g-moll Op. 23		Chopin
Bariton-Solo		T. Iwasaki
	<i>Begl. Prof.</i>	T. Kinosita
aus der “Winterreise”		Schubert
Wasserflut		
Die Post		
Der greise Kopf		
Klavier-Solo		M. Sinozuka
Sonate f-moll Op. 57.....		Beethoven
2. Satz Andante con moto		
3. Satz Allegro ma non troppo		
Violin-Solo		M. Nakamura
	<i>Begl.</i>	K. Kawase
Konzert Nr. 2 e-moll		Spohr
1. Satz Allegro moderato		
Klavier-Solo		A. Tamaki
Grande Polonaise Es-dur Op. 22		Chopin
		Pause
Komposition		K. Nakada
Thema: Variationen und Fuge	1. Klar.	R. Kitazume
	2. Klar.	O. Kita
	Fagott	K. Nakada
Violoncell-Solo		F. Kenmoti
	<i>Begl.</i>	K. Yosida

Sonate g-moll	Eccles
Largo, Allegro con spirito, Vivace	
Klavier-Solo	M. Yabasi
Nocturne Op. 63.....	Fauré
Impromptu f-moll Op. 31.....	“
Impromptu As-dur Op. 34.....	“
Sopran-Solo	Y. Odaka
	<i>Begl.</i> T. Simizu
aus der Oper “Mignon”	Thomas
Rezitativ und Polonaise	
Klavier-Solo	R. Mori
Orgelpräludium und Fuge a-moll.....	Bach—Liszt
Violin-Solo	S. Kondō
Sonate für Solo-Violin Nr. 1 g-moll.....	Bach
Adagio cantabile	
Fuga: Allegro	
Klavier-Solo	K. Kadono
Walzer Op. 39	Brahms
1. H-dur 2. E-dur 3. gis-moll 4. e-moll	
5. E-dur 6. Cis-dur 7. cis-moll 8. B-dur	
9. d-moll 10. G-dur 11. b-moll 12. E-dur	
13. H-dur 14. gis-moll 15. As-dur 16. cis-moll	

昭和十五年十一月二日 第二回上野児童音楽学園高等科演奏会
 上野児童音楽学園演奏會 十一月二日 於 本校音楽堂
 [曲目等不明]

(『東京音楽学校一覽』自昭和十五年至昭和十六年、一九九頁)

昭和十五年十一月九日 選科邦樂演奏會

昭和十五年十一月九日(土曜日)午後一時半開場

於本校奏樂堂

選科邦樂演奏曲目

東京音樂學校

一、紅葉狩

ワシテ

能樂觀世流連吟
杉村伊勢子
藤井伊勢子
北村ハナ子
山口芳子
安武田鶴子
小山和子

新井菟子也
二宮淑子
前田美代子
矢野代子
大河原和子
三樹睦子

二、猩猩

ワシテ

能樂觀世流連吟
宮澤正雄一
茂呂正雄一
前原光年
森廣三郎
鈴木長一郎
濱田長一郎
澤井仁

野崎寛一
染谷秀雄
小村正雄
下村正雄
長貝長三郎
重瀨郁太郎
泉松十四郎

唄

箏

三、野路の梅

能樂觀世流連吟
中野みね子
大網京子
所井佳哉子
黑田定子

ワシテ

岡本智恵子
館野鶴子
小井富智子
龜井富智子
三好京子
增田サヨ子
菊谷眞佐子

四、千鳥の曲

箏(替手)

同(本手)
小野英雄
金成英雄

三味線

五、老松

西村代江子
高島安枝
荒島本枝
窪田房枝
山田貴美子
野口倭文子

大橋道枝
鈴木千枝
三谷美江子
佐伯美佐子
小池縫子
大北千代子

休憩

六、竹生島

能樂寶生流連吟

小野信子
山川彌子
榎本美枝子
吉本久枝子
竹本久枝子

七、小鍛冶

能樂寶生流連吟

藤井象次
平澤壽之介
栗本東一
大久保二衛

八、御代の祝

箏

增田綾子
岩井佳子
足立京子
開田京子
小林薫子
小井花子
中村ヤス子

雲井基子
下村幸子
松島幸子
笠原啓子
江野島房江子
忍野洋子

高瀬幹子
牧草數子
塚越清子
神戶光安子
吉松安子

長唄

皇紀二千六百年記念

教授 吉住小三郎 補導
杉本金太郎

九、八咫鳥

丘棲霞作歌

選科生徒

吉住小三郎
稀音家淨觀
作曲

昭和十五年十一月十六日 学友会第六回邦樂演奏會

第六回學友(會)邦樂演奏會 十一月十六日 於本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔東京音樂學校一覽〕自昭和十五年至昭和十六年、一一九頁

昭和十五年十一月十日、十一日 紀元二千六百年奉祝會

昂まりゆく「民族の齊唱」の奉祝歌「練習風景を報じたもの」

上野の森の午さがり、このごろ毎日のやうに木の間を通つて聞えてくる
美しい歌聲……人々は足を合はせ、呼吸を躍らせ、胸を高鳴らして歩いて

ゆく「遠すめらぎの長くも……」あゝ、あの歌、日本國民感激の旋律だ、来る十日の紀元二千六百年式典が間近に迫つて来るにつれ、街にも野にも港にも、老いも若きも幼きも、耳から心へ、魂から口へ……歩くにも働くにもこの歌にはづみ

この韻律がひとりであふれ出て、昂まりゆくその極みのかなたの祝典へとよるこびと感激は上つてゆく、その晴れの日の齊唱に心はずまず若人、乙女たち、熱誠こめた練習がいよく高潮してゆくばかり、東京音楽學校では澤崎定之教授の指揮で、既にさる八月二十九日から始められ、七日の練習では完璧の折紙がつけられた

本科、師範科、研究科、邦楽科の男女生徒四百名の練りに練つた聲々が一つに溶けて澄み渡る「」流れるがごとく莊重に、はちきれさうなよろこびに高まつて、一つの區切り一節一節の高低、速きも遅きもまるで一人で歌ふがやうに、ピタリと合つて亂れずに……そして指揮するものも歌ふものも伴奏の管絃團も聞くものも、たゞひたすらに「その日」を迎へるよろこびにをのゝきなながらの奉祝歌「紀元二千六百年」の練習である十日には音楽學校生徒たちだけで齊唱を奉仕し、十一日には三千余名の齊唱團を指導して歌ふのだ、陛下の御前に、歴史に残る民族の齊唱を高らかに歌はうとする

その感激は昂まつてゆくばかり、つゞいて来る二十九、三十兩日大阪朝日會館で催される本社社會事業團主催の奉祝音樂會に歌はれる交聲曲「海道東征」の練習が始められ、五十五分を要する大合唱曲は木下保教授の指揮でさらに絢爛たる音楽奉祝の熱誠にみちあふれる
また十一日の奉祝會に音楽學校の左に並び、榮ある大齊唱の列に加はる
東京市内小學校は（男子）番町、一橋、中之町、牛込、本所、碑、新井、桃井、學習院、高等師範（女子）京橋昭和、愛宕、湯島、忍岡、第二延山、大森第一、瀧野川、第一吾嬭、女子師範、女子學習院の各校でそれぞれ練習を積んでゐる

『東京朝日新聞』昭和十五年十一月八日

昭和十五年十一月二十日 紀元二千六百年奉祝演奏會
昭和十五年十一月廿日（水曜日）午後〔零時半開場
一時半開演〕
於 本校奏樂堂
紀元二千六百年奉祝演奏曲目
東京音樂學校

第一部

一、橋 辨 慶
觀世流舞囃子
シテ觀世鏡之丞 大鼓川崎利吉
子方觀世元正 小鼓森重朗 笛寺井政數

二、高 砂
寶生流舞囃子
シテ寶生重英 大鼓安福春雄 太鼓金春惣右衛門
小鼓幸悟朗 笛一噌鏡二

三、羽衣に寄せて
山田流
風巻景次郎 作歌 中能島欣一
中能島欣一 作曲

四、七 福 神
舞 踊
長 唄
三味線
囃子

藤間 勘十郎
杵屋 六左衛門
杵屋 六左衛門
杵屋 六左衛門
稀音家 六郎
稀音家 六郎
稀音家 六郎
望月 孝太郎
望月 孝太郎
望月 孝太郎
望月 孝太郎
望月 孝太郎
望月 孝太郎

長 唄

五、八 咫 鳥

丘 棲霞 作歌

吉住小三郎 作曲
稀音家淨觀

生田流

六、大 和 の 春

佐々木信綱 作歌

宮城道雄 作曲

吉住小三郎 補導
稀音家淨觀 徒
職員 生 徒

宮 城 道 雄

外

—(休憩)—

第二部

一、ピ ア ノ 獨 奏

ポロネーズ・變イ長調……………シヨパン作

井 口 基 成

二、ソ プ ラ ノ 獨 唱

ピアノ伴奏 川 上 きよ

浅野千鶴子

(イ) 歌劇「ファイガロの結婚」中スザンナの詠唱…モーツアルト作
(ロ) 歌劇「ファルスタフ」中ナンネッタの詠唱…ヴェルディ作
(ハ) 唄……………山田耕筰作

三、ヴ ァ イ オ リ ン 及 ピ ア ノ 合 奏

ピ ア ノ 高 折 宮 次
ヴ ァ イ オ リ ン 井 上 武 雄

奏鳴曲・イ長調……………セザール・フランク作

宣叙調と幻想曲

急速調

—(休憩)—

四、合 唱 ・ 獨 唱 ・ 管 絃 樂

交響曲「海道東征」(拔萃)

指 揮 木 下 保

紀元二千六百年記念

日本文化中央聯盟制定

高 千 穂

大 和 思 慕

速 吸 と 菟 狹

白 肩 の 津 上 陸

天 業 恢 弘

作詩 北原白秋

作曲 信時 潔

管 絃 樂 東京音楽學校管絃樂部

合 唱 東京音楽學校生徒

兒童合唱 上野兒童音楽學園

〔曲目解説は昭和十五年十一月二十九日〜十二月三日の演奏旅行の項を参照。〕

★東京音楽學校の奉祝演奏會

東京音楽學校では廿日(水)一時半から同校奏樂堂で紀元二千六百年奉祝演奏會を開催、特に日本文化中央聯盟制定交響曲「海道東征」を廿六日の同聯盟發表會に先立つて拔萃演奏する

(『國民新聞』昭和十五年十一月十七日)

舞踊科初公演 音楽學校奉祝演奏

上野音楽學校では来る廿日午後零時から紀元二千六百年奉祝秋季演奏會を開催するが、この演奏會には去る九月の新學期から新に課目に加はつた舞踊科の初公演があり當日は同科教授藤間流宗家藤間勘十郎氏が紀元二千六百年の佳き歳を壽ぐ「七福神」を舞ふことゝなつてゐる

(『都新聞』昭和十五年十一月十九日)

上野の奉
祝演奏會 閑院若宮台臨

東京音楽學校の紀元二千六百年奉祝演奏會は閑院若宮、同妃兩殿下の台臨を仰ぎ、學習院長山梨大將、安倍一高校長をはじめ名士凡そ七百名を招待して二十日午後一時半から上野の同校奏樂堂で開催された、觀世流舞臺子の「橋弁慶」から始つて豪華なプログラムを次ぎく／＼に展開、目出度い「七福神」の舞踊、神代を偲ぶ長唄「八咫鳥」の幽玄な調べなど雅趣豊かな邦樂の粹に滿堂を魅了した、ついで第二部洋樂の部に移りピアノ獨奏、ソプラノ獨唱、ヴァイオリンとピアノの合奏につゞいて、同校學生、兒童音樂學園生徒約五百名の交聲曲「海道東征」の大合唱が上野の杜を慶びの旋律にふるはせて、同四時半終了した

〔東京朝日新聞〕昭和十五年十一月二十一日

昭和十五年十一月二十六日 新日本音楽並第二回交響作品發表演奏會

新日本音楽並
第二回交響作品 發表演奏會

日時 十一月二十六日(火)午後六時半

會場 日比谷公會堂

主催 財團法人日本文化中央聯盟

入場料(税共)二圓・一圓
前賣取扱 プレイガイド各店
聯盟内藝能文化の會

演奏曲目

第一部

一 新日本音楽「祝典箏協奏曲」

宮城道雄

宮城道雄 作曲

獨奏 田邊尚雄

二 新日本音楽「寄櫻祝」

佐藤春夫 作詩

宮城道雄

宮城道雄 作曲

合唱 東京音楽學校生徒
指揮 城多又兵衛

第二部

一 管絃樂音詩「神風」

山田耕筰 作曲

指揮 橋本國彦

二 合唱・獨唱・管絃樂

交聲曲「海道東征」

指揮 木下保

北原白秋 作詩

信時潔 作曲

一 高千穂

二 大和思慕

三 御船出

四 御船謠

五 速吸と菟狹

六 海邊回顧

七 白肩の津上陸

八 天業恢弘

演奏

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部
合唱・獨唱 東京音楽學校生徒
兒童合唱 上野兒童音樂學園

祝典箏協奏曲 この曲は西洋のコンツェルト風に作曲したもので、箏の獨奏に合奏部の伴奏がついてゐる。合奏部に用ひる楽器は箏、十七絃、三絃、尺八、フリユート、胡弓、笙、打物で、特に日本楽器のみで作曲してみたのであるが、元來横笛を使ふ所を都合でフリユートを使つた。曲の形式は、はじめは稍々早い氣分のもので、中程に雅樂調のやうな節を取り入れて、緩やかな音調を奏する。最後に早い感じのものになつて終る。神武天皇の昔と今との感じを取り入れたつもりである。

寄櫻祝 前奏は神域の櫻を想像したもので箏のスクヒ爪によつて櫻の花の感じをあらはしたつもりである。歌は佐藤春夫氏の作歌で混聲のコーラスによつて一番と二番とは同じふしで繰返す。そして二番の歌の終りの「よきていみじきさくらばな、ちりてかひあるさくらばな」のことはをいろく／＼にふしを變へて幾度も繰返すやうにした。その中には日本の民謡のやうになつてゐる箏曲の中の「さくら、さくら」のふしの或部分を取り入れた。三番は詩の感じをとつて朝鮮や支那の氣分をとり入れて作曲した。この所も作曲上、三番の歌を二度繰返し「いよよつちかへさくらばな」といふことは二度目の時に音頭風に扱つたつもりである。四番の歌は最初朗詠風に一度うたつて、これも同じ歌詞を二度使つて二度目にはいろく／＼にふしを變へて終りになるのである。尙作曲家にお断りしておきたい事は同じうたことは幾度も作曲上繰返した事である。併し必ず一度は作曲家の指定通り正確にうたつてそのあとでいろく／＼に變形したのである。尙曲中には外國のフーゲ風をとり入れた所もある。

作者のことは

佐藤春夫

寄櫻祝は思を櫻に寄托した日本文化の謳歌のつもりでございませう。これだけ申し上げればあとは格別何も説くまでものことはありますまい。ごらんの如く、内容も形式も極く單純なものでございませうから、一たいわたくし

の考へではこの種のうたに説明を要するやうな内容を盛り込むことは間違ひではないかと存じます。内容はなるべくすくなくしてしらすべ、だけをおもしろく作りたいものだと思はれましたが果してどんなことでしたか知ら。形式も今様を四つ重ねたやうなものです。その氣の利かない間の抜けたところを大様など見ていただけなかつたら結局はか／＼しいだけのものと思はれても致し方ありません。同じやうな句のくりかへしもしらすべをかなでる上のたくみでしたが、歌ふ方があまり同じやうなところが多いために戸迷ひしなければいゝかと案じて居ります。何に致せ音楽の歌詞ははじめは作曲家に何かの暗示を與へた後は、曲のなかに溶け入つてしまつても獨立する資格のない程内容的には稀薄なのがいゝといふ一家の管見を討論と致して居りますから解説も何もあつたものではございませう。寧ろ宮城さんに曲の事をお聞きしたいくらいのことでございます。

むかしから悲しみの歌はやさしく、喜びの歌はむつかしいと申されて居ります、まことにそのとおりと思はれますのに、それを事もなかつた、つけてしまつて果してどんなものが出来てゐるか解説どころか皆さんの叱正を得たいだけです。

大様にゆたかに氣宇がひろく、品位悪からず出来て言外に喜びと誇あれといふわがねがひがどれ位果されてゐるかおぼつかなくもそれをたのしみに宮城さんの發表をたのしみにして居りますとだけが本當に申し上げたいところです。

曲に添へて

山田耕筈

これは神風の擬音的描寫ではない。

蓋し擬音は眞の音楽とはなり得ないからだ。それ故私は「神風」を一つの音詩とし神風の外的描寫を粗にしその内なるものをより密に表現しようとなつた。

試みに眼を蒙古襲來の當時に向けよう。それは日本にとつて正に累卵の危機であつたに相違ない。しかもあの有

史以來の國難は誠に明快に克服されてゐる。時の宰相青年相模太郎の勇斷によつて。

然し私は思ふ。よしあの時、百の相模太郎ありとしてももしわが國民が、神と共に耕し、神と共に唱ひ、神と共に生きんとする淨心の持主でなかつたとしたならばどうであつたらう。或は神風もその奇蹟を示さなかつたであらう。幸にも日本國民はいみじくもその心の所有者であり、神人一如の精神に生きてゐたのだ。そしてこの精神こそは實に世界無比のものであり、またわが國独自の尊い精神でもあるのだ。神人協和の生活、そこには超風もなく不可思議もないのだ。神風も従つて極めて必然な現象であるとさへいへる。

私はかう信じてこの曲に筆を起した。

そして信念の人相模太郎を寫し出すことによつて神風を描き、奇しき神風の祕を解くことによつて、いかなる障壁にも斷乎としてゆるがざる皇國日本の姿を刻みあげようとつとめた。

今、私は茲に「神風」最後の一言符に終止の一點を附し了へて、思はず、祖國の現情に眼を移し、瞑目時を久しくした。

私の眼底には青年時宗の英姿が浮び、憂國の至情は切なる思ひとなつて、私の胸を衝くのである。

今こそ吾々は儚なき「知」への執着を斷ち、潔く叡智の世界に進み、神人一如の生活を行することによつて、單なる考察の段階より感悟の高堂に上り、いとも崇き創造の人たるべく、必死の努力をいたすべきである。この光輝ある二千六百年をその正しい歩みの第一線として。

敢えて記して作者の言葉とする。

海道東征作曲について

信 時 潔

樂曲につきましては北原先生の御作の御精神にできるだけ副ひ得るやう努めましたことゝ、日本的な旋律の和聲化に單純平明な一方向を意圖したことを申し上げるにとゞめ、すべては公刊の樂譜と演奏とによつて大方の

御判斷と御示教を仰ぎたいと存じます。

尚この機會に際し、私の未熟な管絃編曲の仕事に貴重な御助言を下さいましたグルリット先生と此度の上演に關し一方ならぬ御力添を給はりました中央聯盟の方々、並に母校の皆様篤く御禮を申上ます。

海道東征について

北原 白 秋

この交聲曲詩篇は、皇紀二千六百年奉祝の藝能祭に際し、日本文化中央聯盟の囑に依り特に作詩したものであつて、信時潔氏によつて作曲せられた。聖代、而も此の世紀の轉換期に當り、肇國の精神と 神武天皇の偉大にわたらせられる御事蹟を顯彰しまつる光榮を擔ひ、一布衣の詩徒としてまことに恐懼措くところを知らない。作曲に於いては當代稀に見る藝術良心の持主であり高邁篤潔の信時氏を得たことは、その正大、莊重、撲茂の諸相を通じ、感謝この事に思ふ。

作詩に就いては、眼疾最悪の時に當り、ほとんど難澁した。讀みも書きもならない状態にあつたのである。で、古事記、日本書紀、祝詞、宣命等のそれらの資料は、妻や娘に、習字帳大に筆寫してもらつた。無論大方は讀ませて聞いた。作も口述が主であつた。機構が稍々大きく、歌ふものとしての整齊を節々句々或は字脚、アクセントの上に必要とし、相當に複雑してゐるので眼を瞑つてただ心頭に案配し調律することは容易でなかつた。

さて、この「海道東征」はもともと 神武天皇讚歌として日向御進發より橿原の宮に於ける御即位に至る迄の結構を初念としたが、創作中、白肩ノ津御上陸に筆が及ぶ頃は既に制限された紙数を費して了つた。實演に要する豫定の時間も超過することになり、全體の三分の一に達せずしてうち切るの止むなきに至つた。で、早めながら、天業恢弘の一章を以て、一應の締めくくりをつけた。何れは之を前篇として、中篇後篇を成すべきであり、三部作として完うしたい考であるが、今は之を獨立した一篇のものとして置く。作全體の風體に就いては、寧ろ萬葉以前の歌謠の聲調を取り

作者平生の主調を極度まで昂揚しようとした。而して變化の上から、催馬樂風の童ぶりなども織り交ぜた。

要するに、八紘一字の大精神と、同じく神武紀の勅語による養生、重暉、積慶の御遺徳を通じて、皇國の蒼古より、高千穂の宮に及び之に宏遠なる大海洋思想を配し、かの黒潮と共に發展しやまぬ大和民族の進取性をも歌ひ上げようとした。「御船謠」がこれである。神武天皇の御東征、一大天業恢弘の御盛徳についてはもとよりである。

なほかかる交聲曲詩篇の創作は、自身にとつて最初のものであり、日本に於て、その範例を見ることを得なかつたので、眼が見えぬ上に、全くの暗中摸索であつた。しかしどうにか口述を了つてみると、更に進んでこの形式に向ふ氣組もできて來たやうである。

皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定

新日本音楽・音詩・交聲曲の發表について

本聯盟主催 皇紀二千六百年奉祝藝能祭は、秋季シーズンを迎へ、去る九月三十日東京寶塚劇場に於ける現代舞踊「日本」三部曲の發表公演を行ひましたが、茲に本夕日比谷公會堂に於いて、東京音楽學校の贊助出演に依り、新日本音楽・音詩・交聲曲作品發表演奏會を開催致す運びとなり、本年一月三十一日藝能祭式典により開式され、此の光輝ある一年間に互り、音楽に舞踊に演劇に映畫に、現代日本藝術の精華を發揚した 皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定作品の有終の美を濟すこととなりました。

新日本音楽二曲は斯界の第一人者宮城道雄氏が多年に互る蘊蓄を籠めて此の千載一遇の國民的祝典の年を奉祝するため、年餘の苦心の末になるものであり、特に「寄櫻祝」は佐藤春夫氏の古調絶唱になるところのものでありまして四部合唱曲に作曲されてゐます。

又音詩「神風」は國家非常時局に際し、山田耕筰氏が音楽報國の熱情に燃え、苦心作曲されました、管絃編成百二十五名に及ぶ大編成になる一大音詩曲であります。

更に交聲曲「海道東征」は北原白秋氏作詩信時潔氏作曲になり、畏く

も神武天皇御東征の御事蹟を一大莊重調により顯彰し、演奏時間約一時間に及ぶ一大カンタータでありまして、之が發表に際しましては合唱、獨唱、兒童合唱、管絃樂合計五百餘名に依る大々的なる演奏に依ることとなりました。

此等の制定作品の創作に際しまして、本聯盟は汎く我國藝能界の熱心なる協力と参加に依り、夫々専門委員會の決定に基づいて企畫を進めたのでありまして、眞に此の光輝ある二千六百年に邁進した現代國民としての歡喜と感激を遠く後世國民に傳へるべき藝術的作品の完成を期した次第であります。

昭和十五年十一月

財團 日本文化中央聯盟
法人

昭和十五年十一月二十九日—十二月三日 演奏旅行(大阪—京都—名古屋—岐阜)

紀元二千六百年奉祝

東京音楽學校 關西大音楽會

昭和十五年十一月廿九日 午後七時

三十日 午後一時

三十日 午後七時

於大阪 朝日會館

十二月一日午後七時

於京都 朝日會館

主催 朝日新聞社會事業團

國歌『君が代』奉奏

一、宮城遙拜

管絃樂演奏

二、黙 禱

紀元二千六百年奉祝演奏曲目

一、管 絃 樂

紀元二千六百年記念

建國祭本部制定

「交 響 曲・ニ 調」

指揮 橋本國彦
橋本國彦 作曲

第一樂章 「莊嚴調」

第二樂章 「輕快調」

第三樂章 「紀元節祝日歌による主題と變奏及遁走曲目」

——(休 憩)——

二、合唱・獨唱・管絃樂

日本文化中央聯盟主催、皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定

交聲曲「海道東征」

指揮 木下保
北原白秋 作詩
信時潔 作曲

一、高 千 穂 男聲(獨唱並合唱)

二、大和思慕 女聲(獨唱並合唱)

三、御 船 出 男聲女聲(獨唱並合唱)

四、御 船 謠 男聲(獨唱並合唱)

五、速吸と菟狹 男聲獨唱、女聲合唱(童ぶり)合唱

六、海道回顧 男聲女聲(交互に唱和並合唱)

七、白肩の津上陸 男聲(獨唱並合唱)

八、天業恢弘 男聲女聲(獨唱齊唱並合唱)

獨唱 ソプラノ 山内秀子、淺倉春子

アルト 進藤梅子、千葉靜子

テノール 柴田陸

バリトン 藤井典明

バス 中山梯一、栗本正

——(休 憩)——

三、管 絃 樂

日本文化中央聯盟主催、皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定

音 詩「神 風」

指揮 橋本國彦
山田耕筰 作曲

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

〔岐阜では、「管絃樂『神風』」のかわりに、次の曲目が演奏された。〕

ソプラノ 獨唱

伴奏 山内秀子
松谷穰

(イ) 歌劇『ラ・ボエーム』中ミミの詠唱 プチーニ作

(ロ) 母 の 聲 山田耕筰作

(ハ) 茨 の 實 小松清作

(ニ) サンタルチア 伊太利民謠

ピアノ 三重奏 ピアノ 伊達純

ピアノ・トリオ・ニ短調 ヴァイオリン 清田金吾

メンデルスゾーン作 チェロ 赤松稔

第一樂章 アレグロ

交聲曲 海道東征〔解説〕

第一章 高 千 穂

天地初發の時、天の御中主の神二柱産巢日の神が高天原に成りました。次いで下界が生れ出た時、伊邪那岐・伊邪那美二柱の御神が天の瓊鋒を以て海水をかき廻して、大八洲の國土を形作された。そこで天照大神の御裔が高千穂の峰に天降られ、御榮えになつてゐたが、やがて御東征の時は迫

つてきたと、事實も言葉も古事記上巻によつて實に壯重（たけなげ）に歌ひ出してゐる。(男聲獨唱並に合唱)

第二章 大和思慕

皇軍進發の前奏曲。大和の自然の美しさと、大和への思慕の情とを、日本武尊の國思の御歌の言葉を借りて、優しく歌つてゐる。(女聲獨唱並に合唱)

第三章 御船出

その一は日向國の美津御出帆の曙の大業成就を豫言するやうな、平和で美しい情景、その二は、皇威凛々として御出帆の時の情景、その三は海路の靜かに風いだ情景を歌つて早く出でませと感激にあふれつゝ歌ふ歡呼の聲。(男聲女聲獨唱並に合唱)

第四章 御船謠

いよく艦隊の行進。その一はやがて神武天皇となり給ふべき總帥神倭磐余彦命を讃へ申す歌。その二以下は、命を上にしたゞいて、次第にたかまる全軍の意氣の高揚を、船謠の形で歌つてゐる。(男聲獨唱並に合唱)

第五章 速吸と菟狹

速吸の瀬戸に來られると、國つ神珍彦が龜の甲に乗て参り、水先案内をつとめ奉つて、稿根津日子と名を賜つた古事記・日本書紀の傳へをそのままその一に歌つてゐる「宇佐まで進まれると、宇佐津彦が足一騰宮を作つて、お迎へ申したい」といふ古事記の傳へをその二に歌つてゐる。(男聲獨唱並女聲合唱)

第六章 海道回顧

既に吉備の國高島の宮に八年間、全軍準備成つて、まさに一路難波へ進まれやうとする時、全軍の人々遙か來し方を顧みて、九州から瀬戸内海を東へと辿つた行程を歌ふ。三節に分れてゐる。(男聲女聲交互唱並に合唱)

第七章 白肩の津上陸

難波御着船、青雲の白肩の津にお着きになると、長髓彦が逆らひ奉るので、楯を並べてひた押しに敵前上陸を遊ばされよつて其處を今も日下の蓼

津と言つてゐるとの、古事記の傳へをそのままに歌つてゐる。二節に分れてゐる。(男聲獨唱並に合唱)

第八章 天業恢弘

三種神器の御神徳の讚歌。大和國の山河の讚歌。そして日嗣の御子の御稜威の讚嘆。そして八紘一字の大業を實現あそばさる爲に、いざ大和の國へと、全軍意氣に燃へて歡呼の裡に曲は終る。(男聲女聲)(以上風景景四郎解説)

この交聲曲の所要時間は一時間である。

〔批評および関連記事〕

聖紀の旋律

東京音樂學校關西大音樂會

紀元二千六百年を奉祝する本社社會事業團主催、東京音樂學校關西大音樂會は長くも李王大阪師團長殿下の台臨に輝き二十九日午後七時大阪朝日會館に初日の幕をひらいた

この日殿下には御背廣服にて兒島李王職次官、光森御附武官、林事務官らを従へさせられ午後六時五十分本社に御着、上野會長、石井事務、原田常務以下重役、幹部らのお出迎へを受けさせられて三階貴賓室に御小憩ののち會場に御成り、全員の敬禮に御會釋を賜ひつゝ二階正面中央の御席に御着席遊ばされた

堂々百二十五名にのぼる大管絃編成の旋律は光榮にひとしほの感激をこめて同校橋本國彦教授の指揮のもとにまづ莊重な「君が代」にはじまり、帝國の精神と躍動する國風を盛りあげた橋本教授奉祝記念作曲「交響曲・二調」は最初の日本の交響樂としてわが民族の崇高な喜びを謳ふ

ついで舞台を埋めた二百五十名の合唱と九十名の管絃樂員が渾然として同校木下保教授の指揮で交聲曲「海道東征」に神武天皇の御大業を讃へ奉り、最後に山田耕筰氏作曲音詩「神風」は蒙古襲來の際の神人一如の世界を再現し、満場を埋めた聴衆を感激に陶醉せしめた

殿下には乗杉同校長の御説明で御興深げに樂譜をお手に遊ばされ畏くも
曲目毎に御拍手を賜はり、最後まで御耳を傾けさせられて同九時半御歸邸
あらせられた

〔大阪朝日新聞〕昭和十五年十一月三十日

交聲曲「海道東征」演奏覺書

東京音楽学校教授

木下保

光輝ある紀元二千六百年の佳き年を奉祝して日本文化聯盟が制定された
數多藝術作品の中で、在歐の著名な作曲家から寄せられた奉祝樂曲の發表
と、交聲曲「海道東征」の初演とは熱心な音樂愛好者の關心と興味を最も
惹いたものであつたらう。いふまでもなく、この「海道東征」はわれらの
有するもつとも純粹な日本詩人の一人、北原白秋氏と、おなじ日本的作曲
家としてわれらの尊敬してやまぬ信時潔先生とが、この曠古の盛典の際會
して國民的感激の高潮を「交聲曲」の形式を借り、心血を注いでうたひあ
げられた一大傑作であると思ふ。

この曲を東京音楽学校が演奏することにきまつたのは昨年四月の頃であ
つた。指揮は不肖私に擔當を命ぜられたので、獨唱者、合唱團並に管絃樂
部の協力をえて微力ながらも非才に鞭たうと心にきめた。幸ひ、演奏者の
なみなみならぬ努力は所期の成果を結び、この作品を讃える聲にあはせて
演奏の出來も評判されたので、演奏關係者一同この上なき誇りに思つてゐ
る。

また、最近、ビクターが採算を全く度外視された文化的良心からこれの
レコード化を企てられ、これまた大過なく録音を了したので、この機會
に、求められるまゝ感想をつゞつてみるわけである。

「海道東征」は全曲を演奏するに約一時間を要する大曲であり、全曲は
第一章「高千穂」以下、八つの樂章に分れ、悠久二千六百年の建國の昔、
神武帝御東征の軍が高千穂宮から大和の國に入られるまでを扱ひ、まこと
に藝能祭作品たるにふさはしい題材である。

以下、昨年、練習開始の四月から、十一月初演に至るまで半年の練習に
關するノートを、記憶を手繰つてつゞつてみよう。

第一章「高千穂」では、旋律があまりにも簡素で、それだけに、歌詞の
一つ一つを生かすことが、かへつて技巧的に困難なので、このことがいち
ばん骨が折れた。それから、樂譜では細かい味を要求されてはゐないけれ
ども、この「味」が表現されない限り、樂譜を通じて單調に陥りやすいの
で、まとめあげるにかなりの苦心があつた。また、歌詞の母音の色が單純
だつたり明る過ぎたりすると、曲のもつ重さ、神々しさといふやうなもの
が表現されぬおそれがあるので、殊に若い學生には苦手らしく思へた。二
樂章の「大和思慕」は女の三重唱。これは各歌手が一々注文を出さなくて
も、おのづからうるはしいあこがれの如きものをうたひ出せるので、まと
めるのに骨も折れなかつた。特に管絃樂は美しいし、指揮棒とる身も屢々
うつとりしたくらゐだ。

三樂章の「御船出」 前奏で波の音があまり寫實的でなくむしろ雰圍
氣的に表現されてゐるので、管と絃のバランスには苦勞した。合唱は概し
てあかるく景氣よくうたはれるので、相當ながい樂章にもかゝらず、ま
とまりも早く、演奏の結果もよかつた。

第四樂章は「御船謠」。最初に語りもの風にうたはれるバリトン獨唱は
言葉つかひもうたひぶりもかなり理想に近い出來に行はれ、聴衆にも尠か
らぬ感銘を與へたやうにもはれた。幸ひ、この歌手は私の生徒だつたの
が好都合だつた。途中で、日本古來の舟唄の調子が出て來るが、これに若
い學生達はひどくまごついたらしい。しかし、さすがは日本人だと思つ
た。少し大仰な言ひ方をすると、大和民族の血は争へぬもので練習の回を
重ねるにつれて、この難物も見事に把握されゆくのに心強く覺えた。な
ほ、最後の節で、音程なしの掛聲があらはれるが、これにはちよつと面喰
つた。

五樂章「速吸と菟狹」では、「わらべぶり」で子供がユニゾンでうたふ
のだが、子供の聲を樂譜通りに表現するのにいささか苦心を要した。しか
も、演奏も指揮者として必ずしも充分なものとは思へなかつた。しかし、

演奏効果は案外な成果をあげたのはむしろ意外だったくらいである。

第六樂章「海道回顧」のもつ味を樂譜より直ちに理解することは學生達にとつて容易だったので、二、三言葉の表現に苦しんだほか、大体成功。

第七樂章「白肩の津上陸」男聲合唱で、しかも戰爭の場面だから、力強く、むしろ荒々しくゆかなくてはならぬので、いつもの、いはゆるきれいな音とは全く反對な發聲を要求したが、これがなかなか思ふやうにゆかず、私も練習の都度聲をからす始末だった。後奏の管絃樂は複雑な中にも或る強い明確な力を表現するに並大抵の努力ではなかつた。全曲を通じて、恐らくこの個所がいちばん骨が折れたらう。しかも、作者の意圖の何分の一を表現しえたかとおもふと、残念でならない。

第八樂章「天業恢弘」この最後の樂章では、第一樂章「高千穂」と殆ど同様の樂想で終始するので、苦心の個所といへば、なかばごろ、男聲合唱の主旋律を出すことだった。それから、一樂章と殆ど同じ旋律とリズムで終るので、クライマックスと終結の表現に努力した。

さて、この「海道東征」は、もちろん交聲曲だから、合唱あり、合唱の中に長い獨唱あり、また管絃樂に言葉なき言葉ありで、内容まことに豊富かつ複雑だから、單に合奏とか伴奏とかいふ生半可なものではない。それだけに演奏者の勞苦も並大抵ではない。もちろん、作詞、作曲の北原、信時兩先生の御意圖をはたしてどこまで演出しえたか、思へばお恥しい次第だが、獨唱、合唱、管絃樂の各演奏者が事情のゆるす限り最善を盡したところとおもへば、顧みて悔ひはない。
(談・文責在記者)

『月刊樂譜』第三十卷第三号、昭和十六年三月、五四〜五六頁

昭和十五年十二月七日 秋季選科洋樂演奏會

昭和十五年十二月七日(土曜日)午後二時開場
一時半開演

於 本校奏樂堂

秋季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

- 一、パイプオルガン獨奏……………莊田ひろ
- ファンファーレ・ト短調……………レーマン作
- 二、ピアノ獨奏……………深澤千重子
- 九ツの變奏曲……………ベートーヴェン作
- 三、バリトン獨唱……………關友隆
- い、好奇心……………シユーベルト作
- ろ、セレナーデ……………シユーベルト作
- 四、ピアノ獨奏……………一色光子
- い、マヅルカ・作品七ノ一番・變ロ長調……………シヨパン作
- ろ、ワルツ・遺作・ホ短調……………シヨパン作
- 五、ピアノ獨奏……………鏑木和子
- バラード・作品四七・變イ長調……………シヨパン作
- 六、ソプラノ獨唱……………山田紗織
- い、歌劇「ファウスト」中の花の歌……………グノー作
- ろ、野薔薇……………山田耕柞作
- 七、ピアノ獨奏……………阿部年子
- コンチエルト・作品一五ノ一番・ハ長調・第一樂章……………ベートーヴェン作
- 休——
- 憩——
- 八、作品發表……………作曲及演奏 高橋宏人
- ピアノ・ソナタ・ハ短調・第一樂章
- 九、ピアノ獨奏……………戸澤慰子
- バラード・作品五二・ハ短調……………シヨパン作

- 一〇、ソプラノ 獨唱……………栗谷朝子
- い、心に感ず……………スカラツテイ作
- ろ、若し「フロリンド」忠實ならば……………スカラツテイ作
- 一一、ピアノ 獨奏……………中澤のぶ子
- ロンド ブリランテ・變ホ長調……………ウエーバー作
- 一二、セロ 獨奏……………長森一利
- い、悲 歌……………フオーレ作
- ろ、夢の後に……………フオーレ作
- 一三、ピアノ 獨奏……………森清子
- スケルツォ・變口短調……………シヨパン作

昭和十五年十二月十二日～十六日 演奏旅行（名古屋—大阪—京都—浜松—静岡）

日時・十二月十二日（木）午後二時
 会場・於名古屋市公會堂
 主催・讀賣新聞社
 後援・愛知縣・名古屋市

紀元二千六百年奉祝・銃後奉仕
 官立東京音楽學校
 邦樂大演奏會

番 組

一、能樂 觀世流連吟
 田 村

能樂科男生徒

二、能樂 寶生流連吟
 八 嶋

三、能樂 觀世流仕舞
 玉 の 段

四、能樂 寶生流仕舞
 舟 辨 慶

五、箏曲 山田流
 岡 康 砧

中能島欣一編曲

六、長 唄 紀元二千六百年奉祝曲

八 咫 鳥

丘棲霞作詞
 吉住小三郎 稀音家淨觀作曲

七、箏曲 生田流

イ、紀元二千六百年讚歌

讀賣新聞社撰定 宮城道雄作曲

ロ、秋 あきの 韻 ひびき

高野辰之作詞 宮城道雄作曲

ハ、うてや 鼓

島崎藤村作詞 宮城道雄作曲

八、舞踊 藤間流

イ、千代見 草

能樂科男生徒

岡久雄

地 謠 服部 信次

地 謠 寶生 英雄

地 謠 外野 口祿 徒久

中能島欣一
 外箏曲科生徒

唄 補導 吉住小三郎
 三味線補導 稀音家四郎
 笛 望月三太郎
 大鼓 望月三太郎
 太鼓 望月三太郎

宮城道雄

牧瀬喜代子

高草幹子

牧瀬數江

箏曲科生徒加藤泰子外

中内蝶二作詞 吉住小三郎 稀音家浄観作曲 藤間勘十郎按舞

口、七福神

立方	立方	三味線	大小笛						
方方	方方	線	鼓鼓鼓						
舞踊科女生徒	舞踊科女生徒	間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六
藤間勘六十	藤間勘六十	藤間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六
長舞科女生徒	長舞科女生徒	間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六
立方	立方	三味線	大小笛						
方方	方方	線	鼓鼓鼓						
舞踊科女生徒	舞踊科女生徒	間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六
藤間勘六十	藤間勘六十	藤間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六
長舞科女生徒	長舞科女生徒	間勘六十	中村六六六	中村六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六	岡屋六六六

〔その他のレパートリーとしては次のような曲目があり、適宜組み合わせせて演奏された。〕

能樂 觀世流連吟

紅葉狩

箏曲 山田流

聖戰讚歌

乗杉嘉壽作詞 中能島欣一作曲

尾上の松

宮城道雄 作曲

長唄

鞞猿

越後獅子唄

稀音家浄観									
外音家浄観									
宮城道雄									
中能島欣一									
能樂科女生徒									
大小笛									
鼓鼓鼓									
望望望住									
月月月田									
吉孝左又									
三太三三									
雄郎郎郎									

長唄 秋の色種 舞踊 藤間流 賤の苧環 八島官女 岸の柳

三味線									
線	線	線	線	線	線	線	線	線	線
稀音家浄観									
外音家浄観									
宮城道雄									
中能島欣一									
能樂科女生徒									
大小笛									
鼓鼓鼓									
望望望住									
月月月田									
吉孝左又									
三太三三									
雄郎郎郎									

東京音楽學校邦樂大演奏會

東京音楽學校では佳き歳を奉祝し銃後奉仕、傷病兵慰安と地方音楽文化の振興に資するため乗杉同校長以下教職員、生徒百二十餘名をもつて邦樂大演奏團を組織して來阪、十三日午後二時と同六時の二回大阪軍人會館で「紀元二千六百年奉祝邦樂大演奏會」を催す、當日は稀音家浄観、杵屋六左衛門、藤間勘十郎、宮城道雄、寶生英雄氏ら長唄、舞踊、箏曲、謠曲の各流派家家元らが特別出演する

〔大阪朝日新聞〕昭和十五年十二月十二日

昭和十五年十二月十四日 学友会第一二八回洋楽演奏会

東京音楽学校

学友演奏會

昭和十五年十二月十四日(土)午後一時

曲目

ピアノノ獨奏 水野久美子

伴奏 宇佐美教授

協奏曲 第二番 變ロ長調 作品十九

第一樂章 アルレグロ コンプリオ

テノール獨唱 濱野政雄

伴奏 田中誠一

我が心などかくも痛める……………パイシエルロ

すみれ……………スカラルツテイ

ピアノノ獨奏 山崎和子

オルガン協奏曲 ニ短調……………Fバツハーシユトラダ

ヴァイオリン獨奏 吉武英子

伴奏 玉木華子

協奏曲 變ロ長調 作品二十二……………ウイニアウスキー

第二樂章 ロマンズ……………リース

無休曲 ト長調 作品三十四……………リース

ピアノノ獨奏 大和美智子

奏鳴曲(告別) 變ホ長調 作品八十一のa……………ベートーヴェン

アダチオーアルレグロ アンダンテ エスプレツシージュオ

ヴァイヴァーチシマメンテ

コルネット獨奏 金石幸夫

ベニスのカーナヴァル變奏曲……………アーバン

ピアノノ獨奏 原口歌

伴奏 井口教授

協奏曲 イ短調 作品五十四……………シユーマン

第二樂章 アンダンテ グラチオーソ

第三樂章 アルレグロ ヴイヴァーチエ

休憩

ピアノノ獨奏 新名博子

伴奏 井口教授

協奏曲 第二番 ヘ短調 作品二十一……………シヨパン

第一樂章 マエストロソ

室内樂 ヴァイオリン 杉原淑子

チェロ 劍持富美子

ピアノ 岡崎泰子

三重奏曲 ニ短調 作品四十九……………メンデルスゾ

第一樂章 モルト アルレグロ エド アデタート

ピアノノ獨奏 石井京

伴奏 シロタ教師

協奏曲 第一番 ホ短調 作品十一……………シヨパン

第一樂章 アルレグロ マエストロソ

バリトン獨唱 水谷俊夫

伴奏 水谷助教授

夢の佳人……………トステイ

イデアール……………トステイ

アヴェマリア……………マスカーニ

ピアノノ獨奏 岡崎政子

タランテラ……………リスト

アルト獨唱 進藤梅子

伴奏 佐竹和子

「女の愛と生涯」より……………シューマン

1. 相見てもより我れ盲目となりぬ 2. 信じ得ねど心嬉し
3. 我が指の指輪よ

ピアノ独奏 武安千賀子

伴奏 シロタ 教師

協奏曲 第一番 變ホ長調……………リスト

アルレグロ マエストロ ソークワチ アダチオ
アルレグレット ヴァイヴァーチ エー
アルレグロ マルチアーレ アニマーテ

〔原資料構組〕

Sonnabend, den 14. Dez. 1940, nachmittags 1 Uhr.

SCHÜLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Solo K. Mizuno
Begl. Prof. T. Usami
Konzert Nr. 2 B-dur Op. 19……………L. v. Beethoven
1. Satz Allegro con brio

Tenor-Solo M. Hamano
Begl. S. Tanaka
Nel cor più non mi sento……………G. Paisiello
La Violetta……………A. Scarlatti

Klavier-Solo K. Yamazaki
Orgel-Konzert d-moll……………W. F. Bach—Strada

Violin-Solo E. Yositake
Begl. A. Tamaki
Romanze……………H. Wieniawski
Perpetuum mobile……………F. Ries

Klavier-Solo M. Yamato
Sonate Es-dur Op. 81a……………L. v. Beethoven

Adagio—Allegro
Andante espressivo
Vivacissimamente

Kornett-Solo Y. Kanaisi
Begl. K. In
Le Carnaval de Venise……………J. B. Arban

Klavier-Solo U. Haraguti
Begl. Prof. M. Iguti
Konzert a-moll Op. 54……………R. Schumann
2. Satz Andantino grazioso
3. Satz Allegro vivace

Pause

Klavier-Solo H. Niina
Begl. Prof. M. Iguti
Konzert Nr. 2 f-moll Op. 21……………F. Chopin
1. Satz Maestoso

Klavier-Trio Violin Y. Sugihara
Cello F. Kenmotsu
Klavier Y. Okazaki
Trio Nr. 1 d-moll Op. 49……………F. Mendelssohn
1. Satz Molto allegro ed agitato

Klavier-Solo K. Isii
Begl. Prof. Sirota
Konzert Nr. 1 e-moll Op. 21……………F. Chopin
1. Satz Allegro maestoso

Bariton-Solo T. Mizutani
Begl. Prof. T. Mizutani
Sogno……………F. P. Tosti
Ideale……………//
Ave Maria……………Mascagni

Klavier-Solo M. Okazaki

Tarantella aus "Venezia e Napoli"F. Liszt
Alto-Solo U. Sindo

Begl. K. Satake
Frauenliebe und -leben.....R. Schumann
1. Seit ich ihn gesehen.

2. Ich kanns nicht fassen, nicht glauben.
3. Du Ring an meinem Finger.

Klavier-Solo T. Takeyasu

Begl. Prof. Sirota

Konzert Nr. 1 Es-durF. Liszt

Allegro maestoso—Quasi adagio

Allegro vivace—Allegro marziale animato

昭和十五年十二月十五日 学友会第一二九回洋楽演奏会

學友會第一二九回演奏會 十二月十五日 於 本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔『東京音樂學校一覽』自昭和十五年至昭和十六年、一一九頁〕

昭和十五年十二月二十一日 銃後奉仕演奏会

昭和十五年十二月二十一日(土)午後〔六時開場
七時開演〕

於 日比谷公會堂

銃後奉仕演奏曲目

東京音樂學校

銃後奉仕演奏會次第

國歌「君か代」奉奏

I. 管絃樂

序曲「シンヴェヌートチエリーニ」.....ベルリオース作^{〔F. L.〕}
Berlioz: Overture "Benvenuto cellini" Op. 27

II. チェロ獨奏(絃樂附) 倉田高

1. アダーチネ.....コレリ作^{〔F. C.〕}バゼレル編

Corelli-Bazelaire: Adagio

2. 協奏曲・ニ長調・作品三・第九: ヴィヴァルディ作^{〔V.〕}ダンテロー編

Vivaldi-Dandolot: Concerto en ré majeur, Op. 3. No. 9

Allegro

Larghetto

Allegro

—(休憩)—

III. ピアノ獨奏(管絃樂附) 内藤輝子

協奏曲・ハ短調・作品二一.....シヨパン作

Chopin: Klavierkonzert, f-moll, Op. 21

Maestoso

Larghetto

Allegro vivace

IV. 管絃樂

序曲「レオノーレ」第三・作品七二a.....ベートーヴェン作

Beethoven: Overture "Leonore" No. 3. Op. 72a

指揮 マンフレート・グルリット

Generalmusikdirektor Manfred Gurlitt

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

〔原資料横組〕

昭和十五年十二月七日、八日、二十三日、二十四日(東京)、二十
六日、二十七日(大阪) 紀元二千六百年奉祝樂曲発表演奏會

昭和十五年十二月二十六日午後七時
於大阪 歌 舞 伎 座

紀元二千六百年奉祝樂曲発表演奏會

主催 紀元二千六百年奉祝會
後援 朝 日 新 聞 社

演 奏 紀元二千六百年奉祝交響樂團

第一 部

1. 宮城遙拜
2. 出征將兵武運長久祈願並戰歿將兵慰靈默禱
3. 國歌「君か代」奉唱(一回)全員
4. 挨拶 紀元二千六百年奉祝會幹事長 歌田千勝
5. 挨拶 朝日新聞社々長 村山長舉

第二 部

1. 祝典序曲……………ジャック・イブール作曲(佛蘭西)
指 揮 山 田 耕 筈
2. 交 響 曲……………ヴェレッツシユ・シヤンドール作曲(洪牙利)
前奏曲：アレグロ モデラート
アンダンテ
アレグロ ヴィヴァーチェ
指 揮 橋 本 國 彦
3. 交響曲イ長調……………イルデブラント・ピツェッティ作曲(伊太利)

第三 部

アンダンテノン トロツポ ソステヌート マテーン
アンダンテ トランキエーロ
ラピド

アンダンテ ファティコーソ エペサンテ

4. 祝典音楽……………リヒアルト・シュトラウス作曲(獨逸)
指 揮 ガエタノ・コメリ
指 揮 ヘルムート・フェルマー
〔原資料横組〕

Première of Musical Compositions

in honour of

26th Centennial of the Founding of the Japanese Empire

Thursday, December 26th, 1940
Friday, December 27th, 1940

Kabukiza Theatre, Osaka
Orchestra: Kigen 2600-nen Hoshuku Kokyogakudan

1. Homage
 2. Silent Tribute to the Fallen
 3. National Anthem
 4. Greetings—Chikatu Utada,
General Secretary of the Association
 5. Greetings—Nagataka Murayama,
President of Asahishinbunsha
- II
1. Overture de Fête……………JACQUES IBERT (France)
Conductor—Kosçak Yamada

2. Szinfonia.....VERESS SANDOR (Hungary)

Preludio : Allegro moderato

Andante

Allegro vivace

Conductor—Kunihiko Hashimoto

III

3. Sinfonia in La.....ILDEBRANDO PIZZETTI (Italy)

Andante, non troppo sostenuto ma teso

Andante tranquillo

Rapido

Andante faticoso e pesante

Conductor—Gaetano Conelli

4. FestmusikRICHARD STRAUSS (Germany)

Conductor—Helmut Fellmer

大交響樂團を編成

奏祝樂
曲演奏十二月七、八兩日公演

國を擧げての大式典—二千六百年を奉祝するわが世紀の祭典も一ヶ月と旬日に迫つてゐるがこのわが奉祝式典に國民的祝辭として曩に獨逸、伊太利、佛蘭西、ハンガリーの諸國から贈られた奉祝樂曲の指揮者と演奏團の組織が決定しその第一回公開演奏日は十二月七、八の兩日と決定された

この披露演奏については音樂會の權威者を網羅した委員會を組織して研究協議を行つてゐたが獨逸から贈られたリヒアルト・シユトラウス氏の『祝典音樂』の如きは到底一樂團のメンバーでは演奏が不能なため、紀元二千六百年奉祝會で臨時的に新交響音樂團を組織することゝなつて、宮内省樂部、東京音樂學校、新交響樂團、中央交響樂團、星櫻吹奏樂團、

東京放送管絃樂團、日本放送交響樂團の各團體を網羅する優秀メンバーの中から百六十四名を選び新編成の大交響樂團を組織、又この各國からの作品の指揮者については

獨伊 兩國共自國人の手で指揮したい意向を持つてゐるので、獨逸のシユトラウス作曲『祝典音樂』は音樂學校教師の獨人ヘルムート・フェルマー氏が、伊太利ピゼッテイ作曲『イ長調交響樂』は宮内省樂部の伊人ガエタノ・コメリー氏がそれ〴〵指揮に當り、フランスのイベル作曲『祭典序曲』は山田耕筰氏、ハンガリーのヴェレツシユ作曲『交響曲』は橋本國彦氏がそれ〴〵タクトを振ふことに決定
十月十五日から練習を開始、十二月からは赤坂三會堂で一曲目十三回に亘る

本格 的綜合練習を行ふことゝなつてゐる、第一回公式發表演奏會は十二月七、八兩日午後一時半から歌舞伎座で開催、第二回一般公開演奏は十二月二十三、二十四の兩日午後六時から日比谷公會堂で舉行し世紀の年二千六百年の昭和十五年掉尾を飾ることゝなつてゐる

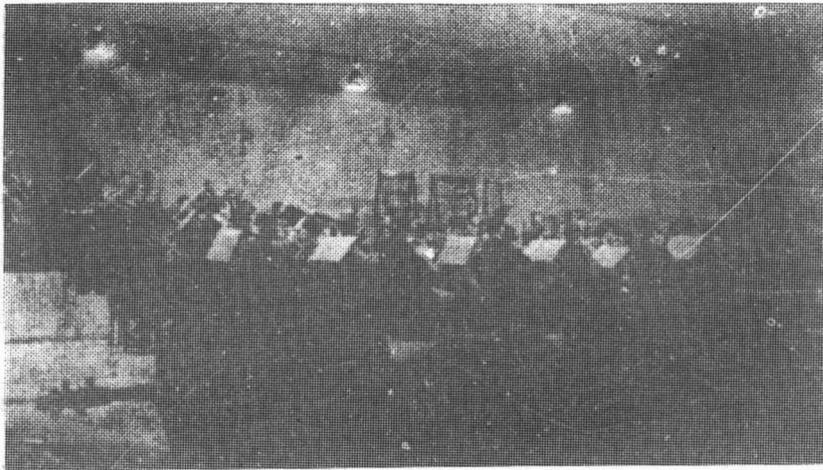
〔「やまと新聞」昭和十五年九月二十八日〕

けふぞ「完全な演奏」

奉祝曲演奏 張切る四指揮者

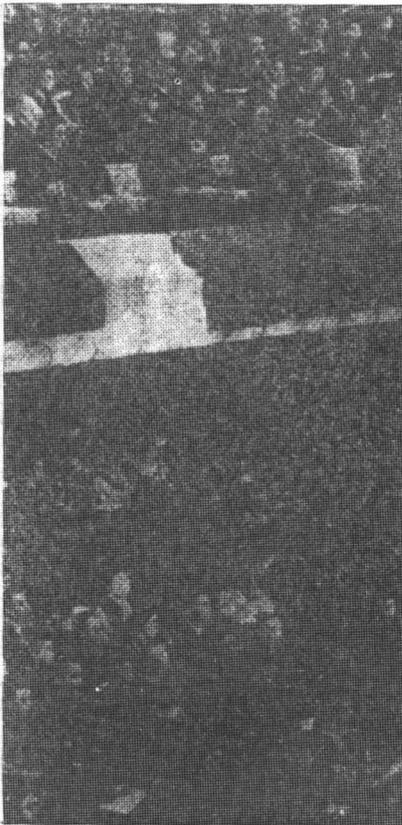
聖紀の歡喜と感激をこめてけふ二十六日とあす二十七日の二日間午後七時から大阪歌舞伎座で開催する紀元二千六百年奉祝會主催、本社後援の「紀元二千六百年奉祝樂曲發表大演奏會」で演奏する宮内省樂部をはじめ東京音樂學校管絃樂部、新交響樂團、星櫻吹奏樂團、東京放送管絃樂團、日本放送交響樂團の七大樂團精銳百七十餘名は二十五日午後四時五十分大阪驛特設二車輜を増結した特別列車で來阪、湧きたつ興奮を胸一ぱいに秘めて各宿舍に入つたが

さらに同五時同驛着特急「つばめ」では聖紀奉祝の指揮棒を揮ふ山田耕筰、橋本國彦、ガエタノ・コメリー、ヘルムート・フェルマーの四氏が

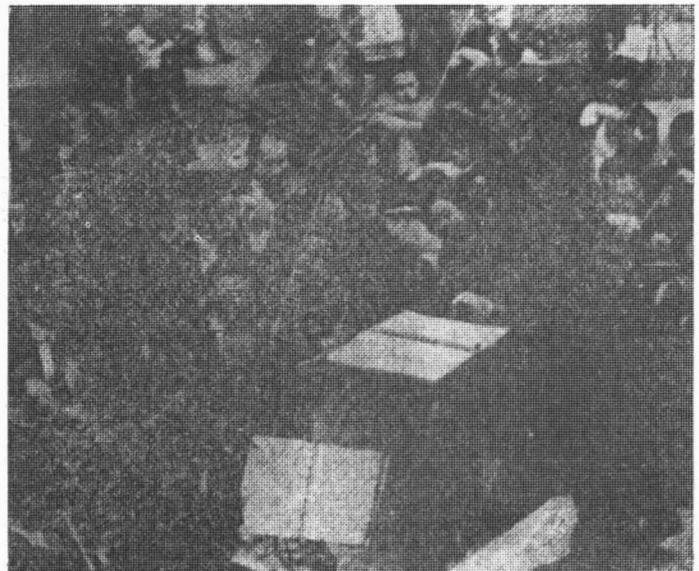


昭和15年12月26, 27日, 紀元2600年奉祝演奏会。大阪歌舞伎座にて(『大阪朝日新聞』昭和15年12月27日)

総練習



会場を埋めた聴衆



R. ショトラウス作曲〈祝典音楽〉, H. フェルマー指揮



4人の指揮者。左から、橋本國彦, H. フェルマー, 山田耕筰, ガエタノ・コメリー

颯爽と到着、新大阪ホテルに入つた、かくて全日本樂壇の粹は大阪に勢揃ひしけふ二十六日午前十一時から歌舞伎座で總稽古を行ひ、午後七時から大演奏會が開かれ雄大豪壯、絢爛の奉祝の調べが繰り展げられる新大阪ホテルに落ちついた山田耕筰氏は歌劇「夜明け」の作曲で痛めた目もすっかり快癒して潑刺たる元氣さで

「日本の樂人として、これほど名譽を感じたことはありません、汽車のなかでフェルマー、コメリー兩氏とも語りあひましたが兩氏ともこんどの名曲を指揮することにより、いままで持つてゐた日本に對する親愛さを一層犇々と感じ日本の榮光に敬意を表したといふことです、これまでに演奏四回、放送一回、練習は四十回もやり大阪の公演では「完全なる演奏」をなしとげたいと四人で語り合ひました」と感激しながら語つた

〔大阪朝日新聞〕昭和十五年十二月二十六日

聽け聖紀日本の旋律

今夜！奉祝樂曲大演奏會

盟邦ドイツ、イタリヤ、ハンガリーおよびフランスの各國から贈られた五線の旋律に「聖紀日本」を祝福する紀元二千六百年奉祝會主催、本社後援の「紀元二千六百年奉祝樂曲發表大演奏會」はいよいよけふ二十六日午後七時大阪歌舞伎座に壯麗な幕をあけるが、これにさきだち午前十一時最後の仕上げに磨きをかける總練習が同座で行はれ、早くも感激の序曲は切つて落された、宮内省樂部をはじめ東京音樂學校管絃樂部、新交響樂團、中央交響樂團、星櫻吹奏樂團、東京放送管絃樂團、日本放送交響樂團のわが國最高七樂團を總動員した大演奏は大阪でははじめてであり、歌舞伎座でも緊張して舞台には四百枚（二百坪）の高級ベニヤ板で音樂堂型の裝置を施し反響その他に水も洩らさぬ布陣、聽衆席もすつかり淨められ、玄關には清楚な紅白の幕をめぐらし、大國旗が奉祝曲演奏會らしい雰圍氣にはためいてゐる

總勢百六十五名の演奏者はますます好調、目を奪ふ金色の大ハープなど十九種の樂器が舞台に持ちこまれ三千ワットのトップライトをはじめ三万ワットの照明に浮出された大演奏團はまづ山田耕筰氏の指揮下にジャック・イベール（フランス）作曲「祝典序曲」に練習を開始、祭典の歡喜に満ちた潑刺たるリズムが満場を包み、つゞいて橋本國彦氏のタクトでヴェレツシュ・シヤンドール作曲（ハンガリー）「交響曲」が美しく新鮮な抒情の律動を奏で同夜の興奮を偲ばせる、緩急自由な絃の流れにイルデブランド・ピツエテイ（イタリヤ）作曲「交響曲（イ長調）」にガエタノ・コメリー氏の指揮もいよく冴え、ヘルムート・フェルマー氏指揮リヒアルト・シユトラウス（ドイツ）作曲「祝典音樂」が壯大な鐘の韻とともに友邦が捧げたわが民族の感激を揺り、傾聴してゐた樂團關係者らも口々に深い感動を洩らした

かくて練習は自信たつぷりに終り晴れの舞台にのぼる

〔大阪朝日新聞〕昭和十五年十二月二十七日付（二十六日発行）

胸せまる「民族の旋律」

聖紀の奉祝樂曲大演奏會第一夜

怒濤のやうに迫る力強い律動、軽いたのしい絃奏の流れ、何といふ歡喜であらう！！紀元二千六百年奉祝會主催本社後援の「紀元二千六百年奉祝樂曲演奏大會」は二十六日大阪歌舞伎座で宮内省樂部、東京音樂學校管絃樂部、新交響樂團、中央交響樂團、星櫻吹奏樂團、東京放送管絃樂團、日本放送交響樂團編成の精銳により盟邦ドイツ、イタリヤ、ハンガリーおよびフランスよりおくられた五線の旋律に壯麗きはまらないプログラムがひろげられた

これよりさき李王、同妃兩殿下、王世子李玖殿下、久邇宮改多星王妃殿下にはお揃ひにて會場に御成り、全員起立してお迎へ申上げるうちに二階中央正面の御席におつきあそばされた

樂界未曾有の協議に晴れの舞台は爛々たる照明にまばゆいばかり、三千

の聴衆席もまたくまに埋めつくされ定刻第一部に始まり宮城遙拜、黙禱、国歌合唱のち歌田紀元二千六百年奉祝會幹事長ならびに村山本社長の挨拶あり、やがて演奏はイベル（フランス）作曲「祝典序曲」にはじまり山田耕筰氏のバトンが高くあげられた、なごやかな快速調が湧き出るとみるまに全楽器が満場いっばいに鳴りひびいて祝典の昂奮が躍動してやまぬ

つづいてシヤンドール作曲「交響曲」（指揮者橋本國彦氏）はハンガリーの民謡調にわが聖紀に寄せられた作者の美しい友情が旋律となつてたかまり、清玄のイタリア音楽精神につままれたピツエツテイ作曲「交響曲イ長調」がガエタノ・コメリー氏指揮のもとに恍惚境を描き出す

百六十五名にのぼる演奏者の燕尾服の純白な胸、胸、舞台も聴衆も渾然として一つのメロディに融け込み眼のあたりにほのくとしたわが民族の幸福がふくれ上る

つづいてシユトラウス作曲「祝典音楽」がヘルムート・フェルマー氏のタクトで韻々たる鐘の音とともに逞しい日本調の祭典を謳ひ四殿下には終始御興深げに御耳を傾けさせられた、かくて聴衆の深い感銘のうちに佳き歳の掉尾を飾る本大會の第一日は午後九時過ぎ閉された、なほ第二日はけふ二十七日午後七時から開催する

〔大阪朝日新聞〕昭和十五年十二月二十七日

昭和十六年二月八日 第九十二回定期演奏会

昭和十六年二月八日（土曜日） 午後六時半開場
午後七時半開演

會場 日比谷公會堂

音楽演奏曲目

東京音楽學校

鎮魂曲

四部獨唱、合唱並管絃樂

（一八七四年五月二三日詩人マンツォーニの一週年忌の爲めに作曲）

ヴェルディ作曲

- 1 永遠の安息を與へ給へ
- 2 怒の日（神の公審判）
- 3 奉獻
- 4 聖なる哉
- 5 神羔誦
- 6 永遠の光明
- 7 永久の死より赦し給へ

指揮 ヘルムート・フェルマー

獨唱 山内秀子（ソプラノ）

千葉静子（アルト）

木下保（テノール）

中山梯一（バス）

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

合唱 東京音楽學校生徒

〔原資料横組〕

PROGRAMM

MISSA DA REQUIEM

(per l'anniversario della morte di Al. Manzoni, 22 Maggio 1874)

per quattro Soli, Coro e Orchestra

di

GIUSEPPE VERDI

1 Requiem

2 Dies irae

九、箏曲(生地田流)

揖 枕

三三 箏
絃
宮相塩重
城相田藤
よし原田君
子茂君キ
子江ミ

昭和十六年二月十六日 学友会第一三〇回洋楽演奏会

東京音楽學校

學友演奏會

昭和十六年二月十六日(日)午後一時

曲目

テノール 獨唱

横 田 勇
伴奏 田中誠一

歌劇「ミニヨン」より ロマンズ

作品 發表

菊池るり子

絃樂三重奏曲

第一樂章 アルレグロ モデラート

ヴァイオリン 小橋行雄
ヴィオラ 甘利次郎
チェロ 黒沼俊夫

第二樂章 主題と變奏曲

第三樂章 ロンド

ソプラノ 獨唱

行方千鶴子
伴奏 都筑富美子

無 限

歌劇「友人フリッツ」より わづかな花

フアトウオ
伴奏 マスカーニ

ヴァイオリン 獨奏

吳 秀 眞
伴奏 室井摩耶子

奏鳴曲 第五番 へ長調 作品二十四

アルレグロ

ベートーヴェン

メソソプラノ 獨唱

加藤晶子
伴奏 都筑富美子

小夜曲

アヴェ・マリア

ピアノ 獨奏

島津雅子
伴奏 永井助教

協奏曲 第一番 ト短調 作品二十五

モルト アルレグロ コン フオーコ アンダンテ

プレストーモルト アルレグロ エ ヴイヴァーチエ

バリトン 獨唱

見藤武義
伴奏 木下教授

忘れまし君をば

歌劇「ファウスト」より さらば心の故郷よ

ピアノ 獨奏

足立美智子
伴奏 リスト

演奏會用練習曲 第三番 變ニ長調

男聲 合唱

聲樂科生徒
伴奏 //

巡禮の合唱

夜

いざなひ

休憩

混聲 合唱

師範科三年生徒
指揮 城多助教

オルガン 眞篠教授

コントラバス 糟谷敬、佐久間活也、檜山薫

「メッセ」より キリエ

ソプラノ 獨唱

渡邊和喜

ピアノ 獨奏

横井和子

歌劇「フアウスト」より 寶石の歌……………グノー

ピアノ 獨奏

佐藤節子

練習曲 嬰ハ短調 作品二十五の七……………シヨマン

變ト長調 作品十の五……………

ホ長調 作品十の三……………

ハ短調 作品十の十二……………

バリトン 獨唱

今井正五

あすこそは 作品二十七の四……………R・シユトラウス

汝、わが心の冠 作品二十一の二……………

よき人よ、今し別れぞ 作品二十一の三……………

作品 發表

草川啓

奏鳴曲……………演奏 作曲者

アルレグロ、ラルゲットイン モード ポロラーレ(民謡風に)

アニメート アツサイ

バリトン 獨唱

水谷俊夫

伴奏 水谷助教

夢……………トステイ

理想の佳人……………

室内 樂

ピアノ 高田信一

クラリネット 北爪利世

ヴァイオラ 小橋行雄

三重奏曲 第七番 變ホ長調……………モーツァルト

第一樂章 アンダンテ 第三樂章 ロンド アルレグロ

ダヴィッド同盟舞曲 十八曲 作品六……………シユーマン

〔原資料横組〕

Sonntag, den 16. Feb. 1941, nachmittags 1 Uhr.

SCHÜLLER-KONZERT

DER STAATLICHEN MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Tenor-Solo

I. Yokota

Romance aus der Oper "Mignon"……………A. Thomas

Komposition

R. Kikuti

Streich trio

Violin Y. Kobasi

Allegro moderato

Viola J. Amari

Tema con Variazioni

Cello T. Kuronuma

Rondo

T. Namekata

Sopran-Solo

Beagl. F. Tuzuki

L'infinito……………G. Fatuo

Son pochi fiori……………P. Mascagni

Aus der Oper "L'amico Fritz"

S. Go

Violin-Solo

Beagl. M. Muroi

Sonate Nr. 5 F-dur Op. 24……………L. v. Beethoven

1. Satz Allegro

A. Kato

Mezzosopran-Solo

Beagl. F. Tuzuki

Serenata……………P. Mascagni

Ave Maria……………Luzzi

Klavier-Solo……………M. Simazuu

Beagl. Prof. S. Nagai

Konzert Nr. 1 g-moll Op. 25F. Mendelssohn
 Molto allegro con Fuoco
 Andante
 Presto—molto allegro e vivace
 Bariton-Solo T. Kento
Begl. Prof. T. Kinoshita
 Lasciar d'amartiF. Gasparini
 Dio possente dio d'amorC. Gounod
 Aus der Oper "Faust"
 Klavier-Solo M. Adati
 Konzert-Etüde Nr. 3 Des-durF. Liszt
 Gnomen-Reigen "

Männerchor Schüler der Sängereileitung
 PilgerchorR. Wagner
 Die NachtF. Schubert
 WerbungG. F. Händel

Pause

Gemischtenchor Die. 3. Klasse des Normalkursus
 Leitung; *Prof.* M. Kita
 Orgel; *Prof.* T. Masino
 Kontrabass; K. Kasuya
 K. Sakuma
 K. Hiyama
 Kyrie aus der MesseC. Frank

Sopran-Solo W. Watanabe
Begl. M. Aramaki
 Estrano aus der Oper "Faust"C. Gounod

Klavier-Solo S. Sato
 EtüdenF. Chopin
 Op. 25 Nr. 7 cis-moll Op. 10 Nr. 5 Ges-dur
 Op. 10 Nr. 3 E-dur Op. 10 Nr. 12 c-moll

Bariton-Solo S. Imai
Begl. M. Toda
 Morgen Op. 27 Nr. 4R. Strauss
 Du meines Herzens Krönelein Op. 21 Nr. 2 "
 Ach Lieb, ich muss nun Scheiden Op. 21 Nr. 3. "
 Komposition K. Kusakawa
 Klavier-Sonate D-dur [ママ]
 Allegro, Larghetto in modo polonare, Animato assai
 Bariton-Solo T. Mizutani
Begl. Prof. T. Mizutani
 SognoF. P. Tosti
 Ideale "
 Kammermusik Klavier S. Takata
 Klarinette R. Kitazume
 Viola Y. Kobasi
 Trio Nr. 7 Es-durW. A. Mozart
 1. Satz Andante
 3. Satz Rondo allegro
 Klavier-Solo K. Yokoi
 Davidsbündlertänze (18 Charakterstücke)
 Op. 6R. Schumann

昭和十六年二月十八日 銃後奉仕邦楽演奏会

昭和十六年二月十八日(火)午後五時開場
 六時開演

於 公立講堂

奉仕後 邦楽演奏番組

東京音楽学校

JOHOKYOKU

Concert

Friday, March 14, 1941

曲 目

第一部

一 (イ) 箏 獨 奏

宮城道雄教授

古 曲「六 段」

(ロ) 箏 卜 提 琴

宮城道雄教授
松浦君代嬢

「春 の 海」

宮城道雄作曲

二 三 絃 卜 室 内 樂

三絃獨奏 中能島欣一教授

「三 絃 協 奏 曲」

中能島欣一作曲
下總皖一編曲

第二部

三 獨 唱 ・ 合 唱 ・ 管 絃 樂

指 揮 木 下 保 教 授

交 聲 曲「海 道 東 征」

北原白秋作詩
信時潔作曲

高千穂、大和思慕、御船謠、速吸下菟狹、海道回顧、天業恢弘

管 絃 樂 東京音樂學校管絃樂部

合 唱 並 獨 唱 東京音樂學校生徒

兒 童 合 唱 上野兒童學園

〔原資料横組〕

Programme

Part 1

I (a) Koto-Solo

Prof. Mitio Miyagi

“Rokudan”

(b) Koto and Violin

Prof. Mitio Miyagi

“Haru no Umi”

Miss Kimiyo Matuura

Composed by Prof. Mitio Miyagi

II Concerts for Symisen-Solo and Chamber Orchestra

Composed by Prof. Kiniti Nakanosima,

arranged for Orchestra by

Prof. Kaniti Simofusa

Symisen-Solo Prof. K. Nakanosima

Part 2

III Cantata: “Proceeding Eastward by Sea”

(Kaidō-Tōsei) for Soli, Chorus and Orchestra

Composed by Kiyosi Nobutoki

Words by Hakushu Kitahara

(a) Takatho (b) Yearning After Yamato

(c) The Boat-Song (d) Hayasui and Usa

(e) Looking Back the Sea Route

(f) Renovation of the Heavenly Mission

Conductor: Prof. Tamotu Kinoshita

Orchestra: Tokyo Academy of Music

Soli and Chorus: Students, Tokyo Academy of Music

Children Chorus: Ueno Jido Gakuen

外人に邦樂を紹介

音樂を通じて日本文化の水準の高さを紹介するために伊藤情報局總裁は十四日午後四時四十五分から同局大ホールに在京の各國外交官及び家族、外國新聞、雜誌特派員、「國際文化關係者等を招待し現代日本音樂演奏會を開催す」(『都新聞』昭和十六年三月十一日)

昭和十六年三月二十五日、二十六日 卒業式
 昭和十六年三月二十五日(火曜日) 午前九時開始
 二十六日(水曜日) 午前十時開始
 卒業證書授與式次第

東京音楽學校

第一日(二十五日) 午前九時開始

- 一、國歌「君が代」奉唱
- 二、卒業證書並賞品授與
- 三、學校長式辭
- 四、文部大臣祝辭
- 五、卒業生總代謝辭
- 六、合唱「仰げば尊し」
- 七、卒業演奏

演奏曲目

第一日(二十五日) 午前之部 十時開演

- 一、パイプオルガン獨奏……………本科卒業 周 慶 淵
- バッハ作・幻想曲と通走曲・イ短調
- 二、ピアノノ獨奏……………同 西 泰 子
- シヨパン作・前奏曲・作品二八・第一、一二、一八、二一、
 二三、二四
- 三、ヴィオロンチェロ獨奏……………同 德尾千鶴子
- ゴルトマン作・第一協奏曲・イ短調・第一樂章
- 四、ピアノノ獨奏……………同 莊 良 江
- リスト作・パガニーニ練習曲・第六
- 五、アルト獨唱……………同 千葉靜子

トーマス作・歌劇「ナデシュダ」中「わが心悲し」

- 六、ピアノノ獨奏……………本科卒業 大木百合子
- シヨパン作・變奏曲・ホ長調・遺作
- 七、ソプラノ獨唱……………同 多田光子
- ヴェルディ作・歌劇「椿姫」中「あゝそは彼の人か」
- 八、ピアノノ獨奏……………同 武安千賀子
- シューマン作・奏鳴曲・嬰へ短調・作品一一・終樂章
- 九、バリトン獨唱……………同 中山悌一
- ウエーベル作・歌劇「魔彈射手」より
- イ、カスパルの詠唱 ロ、カスパルのリード
- 一〇、ピアノノ獨奏……………同 佐竹和子
- シヨパン作・幻想曲・へ短調・作品四九

第一日(二十五日) 午後之部 一時開演

- 一一、ピアノノ獨奏……………本科卒業 堀野壽美子
- バッハ作・半音階的幻想曲と通走曲
- 一二、テノール獨唱……………同 渡邊高之助
- イ、ドニゼッティ作・歌劇「愛の妙藥」中ネモリーノの詠唱
- ロ、レオンカヴァロ作・歌劇「道化師」中アレキーノの小夜曲
- 一三、ピアノノ獨奏……………同 上遠野 喜久子
- サン・サーンス作・ワルツ形式に據る練習曲
- 一四、ヴァイオリン獨奏……………同 山口愛子
- アルビノーニ作・協奏曲・イ長調・第一樂章
- 一五、ピアノノ獨奏……………同 山田淑子
- ヘンデル作・組曲第三・二短調

- 一六、ソプラノ 獨唱…………… 本科卒業 尾高 やす
 デリーベ作・歌劇「ラクメ」中「鐘の歌」
- 一七、ピアノ 獨奏…………… 同 中根 ゆり子
 ベートーヴェン作・奏鳴曲・作品八一ノa・第二、三樂章
- 一八、メゾソプラノ 獨唱…………… 同 佐々木 成
 ブルッフ作・歌劇「火の十字架」中「アヴェ・マリア」
- 一九、ピアノ 獨奏…………… 同 矢橋 満
 ショパン作・ポロネーズ・ファンタジー・作品六一
- (休憩)——
- 二〇、ピアノ 獨奏…………… 本科卒業 土屋 徳藏
 リスト作・カムパネッラ
- 二一、ピアノ 獨奏…………… 同 吉田 和
 ブラームス作・奏鳴曲・嬰へ短調・作品二・第一樂章
- 二二、ソプラノ 獨唱…………… 同 朝倉 春子
 イ、フォーレ作・夢の後に
 ロ、フォーレ作・搖籃
 ハ、ドビュッシー作・綠
- 二三、ピアノ 獨奏…………… 同 清水 トシ子
 ショパン作・スケルツォ・ロ短調・作品二〇
- 二四、ヴィオロンチェロ 獨奏(無伴奏)…………… 同 赤松 稔
 マクス・レーガー作・組曲・ニ短調・作品一三ノC
 前奏曲とガヴォット
- 二五、ピアノ 獨奏…………… 同 矢島 サヨ
 バッハ・ブゾーニ作・トッカータ・ハ長調・間奏曲と遁走曲
- 二六、クラリネット 獨奏…………… 同 北爪 利世
- 二七、ピアノ 獨奏…………… 本科卒業 石井 京
 ルシアン・マーウエ作・クラリネットとピアノの爲の抒情詩曲
 バッハ・ブゾーニ作・シャコンヌ・ニ短調
- 混聲合唱…………… 甲種師範科卒業生一同
 イ、信時 潔作・春の彌生 指揮 助教 城多又兵衛
 ロ、下總皖一作・秋の落葉
 ハ、同 春の雪
 ニ、信時 潔作・送別の歌
- 第二日(二十六日) 午前之部 十時開演
- 二八、箏曲 山田 流 山登萬和作
 須磨の嵐
- 二九、箏曲 生田 流 伊藤 良平
 松竹梅 三津橋檢校作
 箏 邦樂科卒業 重藤 キミ
 同 同 鹽田 君江
- 三〇、箏曲 山田 流 中能島松聲
 松 風 山木大賀作
 箏 邦樂科卒業 西山 松枝
 同 同 小林 糸子
- 三一、箏曲 生田 流 光崎檢校作
 五 段 碓 箏 邦樂科卒業 宮城よし子
 同 同 相原 茂子

作曲科卒業制作……………本科卒業 高田信一

管絃樂「祝典序曲」

同……………同 中田一次

管絃樂「牧歌風序曲」

昭和十六年四月三十日 報國團結成記念演奏會

東京音樂學校報國團結成記念演奏會

昭和十六年四月三十日午後七時開演

於 日比谷公會堂

東京音樂學校報國團長

挨拶 乗 杉 嘉 壽

I 管 絃 樂 指揮 橋 本 國 彦

高田信一作曲

「祝典序曲」

II 管 絃 樂 指揮 橋 本 國 彦

中田一次作曲

「牧歌風序曲」

休憩

III 獨唱・合唱・管絃樂 指揮 木 下 保

日本文化中央聯盟主催皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定

北原白秋作詩・信時潔作曲

交聲曲「海道東征」

一 高 千 穂 ソプラノ 山内秀子

二 大和思慕 ソプラノ 朝倉春子

三 御 船 出 アルト 千葉静子

四 御 船 謠 テノール 渡邊高之助

五 速吸と菟狹 テノール 藤井典明

六 海道回顧 バリトン 中山悌一

七 白肩の津上陸 パス 栗本正

八 天業恢弘

合唱 東京音樂學校生徒

上野兒童音樂學園兒童

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

東京音樂學校報國團 結成記念演奏會

三十日、日比谷公會堂で

政治も經濟も文化もあらゆるものが新體制へ、報國運動へと組織がへを行つてゐる折柄、東京音樂學校では學友會を解散し改めて東京音樂學校報國團を結成し日本國民音樂文化の昂揚に邁進、臣道實踐に邁進することゝなり來る三十日午後七時から日比谷公會堂に結成記念演奏會を開催する、演奏曲目左の通り〔曲目省略〕

〔『日本産業報國新聞』昭和十六年四月二十五日〕

昭和十六年五月三日 研究科修了演奏會

昭和十六年五月三日（土曜日）午後一時半開演

於 本校奏樂堂

研究科修了演奏曲目

- 一、ピアノノ獨奏……………鹽崎佳子
リスト作・練習曲・變ニ長調
 - 二、ソプラノ獨唱……………竹内靖子
レオンカヴァロ作・歌劇「道化師」中ネッダの「鳥の歌」
 - 三、ヴァイオリン獨奏（無伴奏）……………河緒美恵子
バッハ作・第三組曲・ホ長調より前奏曲とガボットとジーク（マイク）
 - 四、アルト獨唱……………登坂嘉代子
イ、シュトラウス作・たそがれの夢
ロ、ハンス・ピッツナー作・愛と美の女神
 - 五、ピアノノ獨奏……………渡邊澄子
ショパン作・スケルツォ・嬰ハ短調・作品三九
 - 六、テノール獨唱……………酒井弘
イ、シューベルト作・夜と夢・作品四三ノ二
ロ、ワーグネル作・樂劇「ワルキューレ」中ジークムンドの愛の歌
 - 七、ソプラノ獨唱……………津田豊子
ロッシーニ作・歌劇「セヴィリアの理髮師」中
ロジーナの詠唱「今の歌ごゑ」
 - 八、ピアノノ獨奏……………山田操
セザール・フランク作・前奏曲とコラルと遁走曲
- 休 憩 ——
- 九、作曲部修了制作……………作曲 石黒修三
（演奏 レオ・シロタ教師）
イ、ピアノの爲の小曲・ヘ長調

- 十、アルト獨唱……………進藤梅子
ロ、ピアノの爲の譚詩曲・ヘ短調
マクス・ブルッフ作「オディッソイス」中「衣を縫ふペネロプ」
 - 十一、ピアノノ獨奏……………星野すみれ
チャイコフスキー作・協奏曲・變ロ短調・第一樂章
 - 十二、ソプラノ獨唱……………富永治子
ベリーニ作・歌劇「夢遊病の女」中
アマナの詠唱「あゝ信ぜざりき」
 - 十三、ヴァイオリン獨奏……………近藤泉
モーツァルト作・第七協奏曲・ニ長調・第二、第三樂章
 - 十四、ソプラノ獨唱……………藤田文子
イ、ヴェルディ作・歌劇「アイーダ」中「勝ちて還れ」
ロ、プッチーニ作・歌劇「マノン・レスコー」中「たゞひとり淋し」
 - 十五、ピアノノ獨奏……………富永瑠璃子
リスト作・奏鳴曲・ロ短調
- 作曲部修了制作……………高田三郎
管絃樂曲・山形の子守唄の主題による
「ファンタジーと二重フーゲ」（演奏は後日行ふ）

昭和十六年五月十七日 報国団結成紀念第八回邦楽演奏会
昭和十六年五月十七日（第四土曜日）午後一時 開場
東京音楽学校報國團 午後一時半 開演
結成紀念 第八回 邦楽演奏會

上野公園
於本校奏樂堂

演奏曲目

- 一、能樂（寶生流）
鉢連吟 木
- 二、箏曲（山田流）
野路の梅
- 三、能樂（寶生流）
田仕舞 村キリ
- 四、箏遠曲（生田流）
遠 砧
- 五、長唄
岩戸開
（宮比御神樂）
- 六、能樂（觀世流）
イ、舞囃子 吉野天人
ロ、鞍馬天狗
- 七、箏曲（山田流）
松上鶴

三箏	太大小笛	地	地	地	三	三	三	三	三	地	三	三	地	ツレ	シテ
	鼓鼓鼓	謠	謠	線	線	線	線	線	線	謠	絃	絃	謠	謡	謡
鹿吉	吉渡原寺郷服淺清	内丸吉大	磯川井中酒塚	三水緒近長田	角當川菱	鹽林緒	川菱角								
山田	部田井部見水	藤山田和	田又島三井壽	川野方藤岐村	山越田	川園	山越田								
美智	榮才政太	房里敬美	安紀孝千	美恵	嘉俊清尚										
枝子	淳嗣三數郎次弘郎	子子子	子敦子代大美	と子康子子子	一道行三	江ね子	一行三								

八、長唄

土 蜘蛛

九、箏曲（生田流）

軒の雫

十、箏曲（生田流）

茶音頭

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃	絃
相宮藤山	原城田下	茂よ優相	子子子												
治藏	直富	相	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子

昭和十六年五月二十四日 選科邦樂修了演奏會

昭和十六年五月二十四日（土曜日）午後一時半開場

於 本校奏樂堂

選科邦樂修了演奏曲目

東京音樂學校

寶生流 能樂連吟	觀世流 能樂連吟	熊坂													
一、鶉 飼	二、熊 坂	三、竹 生 島	四、ながらの春												
選科三、四、五年女生徒	選科三、四、五年男生徒	選科二、三、四、五年女生徒													

五、高 砂 唄
瀧口倭文子 三味線
窪田房枝 大北千代子
山田貴美子 鈴木千枝
荒木本枝 大橋道江
佐伯美佐子

四世 半井桃水作詞
吉住小三郎作曲
三世 稀音家六四郎作曲

六、小袖 曾 我
觀世流 能樂連吟
選科二、三、四、五年男生徒

七、菊 慈 童
觀世流 能樂連吟
ワシテ 矢野美代
前田愛子

八、俊 寬
觀世流 能樂連吟
シテ 小菅長次郎
中 陸奥三

九、櫻 咲く 國
洗 鯉樓 作詞
吉住小三郎 補導
杉本金太郎 職員及邦樂科、選科生徒

一〇、千代 見 草
舞踊 長唄
唄、三味線 選科 女生 上徒

昭和十六年五月二十八日 診療報國の夕

診療報國之夕

東京音樂學校出演

第一部

1. 長 唄
「越後獅子」
九代目杵屋六左衛門作曲

2. 箏 曲 (生田流)

イ、箏とヴァイオリン
「春の海」

指導……………吉住小三郎
唄……………稀音家淨觀
三味線……………職員並生徒
囃子……………同

箏……………宮城道雄
ヴァイオリン……………松浦君代
宮城道雄作曲

ロ、「瀨音」
箏……………宮城道雄
十七絃箏……………牧瀨數江
按舞並指導……………藤間勘十郎

3. 舞 踊 (藤間流)

「千代見草」

舞踊……………吉住小三郎 作曲
稀音家淨觀
囃子……………舞踊科生徒
職員 他
唄、三味線、囃子……………他

第二部

——(休憩)——

4. ピアノ 獨奏……………岡崎泰子

イ、前奏 曲 (ドビュッシー作曲)
ロ、月の光 (ドビュッシー作曲)
ハ、土神の踊り (リスト作曲)

5. ヴァイオリン 獨奏……………岩崎吉三
伴奏……………伊達純

イ、スペイン舞曲(モスコフスキー作曲)
 ロ、メヌエット(ドビュッシー作曲)
 ハ、リゴードン(ラヴェル作曲)
 6. 獨唱、合唱、管絃樂

日本文化中央聯盟主催 皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定
 交響曲「海道東征」 北原白秋作詞 信時潔作曲

高千穂、大和思慕、御船出
 御船謠、速吸と菟狹、天業恢弘

指揮……………木下保
 管絃樂……………東京音樂學校管絃樂部
 獨唱……………同職員・生徒
 合唱……………同生徒

皇紀二六〇一年五月二十八日(水)午後六時三十分
 於 日比谷公會堂

主催 帝國女子醫學藥學專門學校 報國團 鶴風會
 〔原資料横組〕

昭和十六年五月三十一日 邦樂科卒業、同研究科修了、選科舞蹈
 科新設披露演奏會

昭和十六年五月三十一日(土曜日)午後一時半開場
 於 日比谷公會堂

邦樂科卒業
 同研究科修了披露演奏會
 選科舞蹈科新設

東京音樂學校

能樂觀世流仕舞 曲目

一、清經 熊坂

一、夏の曲 吉澤檢校作曲 松阪檢校作曲

一、松風 山田流

一、紀州道成寺 十一代目 杵屋六左衛門作曲

長唄

一、尾上の松 宮城道雄作曲

一、櫻二題 新曲

長唄

一、千代見草 吉住小三郎 稀音家淨觀 藤間勘十郎 作曲

長唄

一、千代見草 吉住小三郎 稀音家淨觀 藤間勘十郎 作曲

地謠 淺見信重 淺見重信 淺見重信 淺見重信 淺見重信

箏(替手) 宮城よし子 相原茂子 重藤君江 鹽田君江

箏 岸野ふみ 栗原松夏 小栗松夏 西山松夏 伊藤松夏 東條夏子

三味線 杉本富貴子 川部又恵子 阿部利恵子 池田紀昭子 磯田孝秋子 井田孝秋子 望月社中

箏 松尾睦子 中村睦子 鈴木睦子 塚越清子 網野操子

三絃 長唄科職員生徒

舞踊 選科舞踊科生徒 長唄 邦樂研究科生徒 囃子 望月社中

昭和十六年六月七日 第一三一回報国団演奏会

東京音楽学校

第一三一回演奏會

昭和十六年六月七日(土)午後一時三十分

曲目

絃樂合奏

生徒絃樂部

指揮 渡邊曉雄

小夜曲……………モーツアルト

ピアノ獨奏

青山光子

奏鳴曲(告別)變ホ長調 作品八十一ノa……………ベートーヴェン

第二樂章 アンダンテ エスプレツシーボ

第三樂章 ヴィヴァーチツシマメンテ

メソソツプラノ獨唱

益子万里子

伴奏 朝倉靖子

愛を抱きて……………R・シユトラウス

萬靈祭……………" "

献呈……………" "

ピアノ獨奏

林慶子

オルゲルトツカータと遁走曲 ニ短調……………バツハーブゾーニ

ヴァイオリン獨奏

河野俊達

奏鳴曲 第四番 ホ長調……………ヘンデル

アダヂオーアルレグロララルゴーアルレグロ

バリトン獨唱

岩崎常治郎

伴奏 尹 琦善

歌劇「ファウスト」より さらば故郷よ……………グノー

ピアノ獨奏

井口妙子

歌劇「マクベス」より 柔順、尊敬、熱情……………ヴェルディ

協奏曲 イ短調 作品十六……………グリーク

第一樂章 アルレグロ モルト モデラート

休憩

三重奏

トラムペット 金石幸夫

ホルン 岡田 朗

トロンボーン 白 英 俊

トラムペット、ホルン、トロンボーンの爲の奏鳴曲……………プーランク

ピアノ獨奏

野邊地 泰

協奏曲 ト短調 作品五十八……………モシエルス

第一樂章 アルレグロ モデラート

メソソツプラノ獨唱

岡部多喜子

別れ……………トステイ

抒情歌……………トステイ

伴奏 新名博子

ピアノ獨奏

吉武久子

諧謔曲 變ロ短調 作品三十一……………シヨパン

ヴァイオリン獨奏

伊達 良

協奏曲 ホ短調 作品六十四……………メンデルスゾーン

第一樂章 アルレグロ モルト アパツシヨナータ

合唱

本校生徒

指揮 澤崎教授

伴奏 尹 琦善

指揮 澤崎教授

伴奏伊達純
 ソプラノ 佐々木 成
 アルト 小島居 尊
 テノール 渡邊高之助

スハタータ 第四番 ベシハ
 (原資料横組)

Sonnabend, den 7. Juni 1941, nachmittags 1.30 Uhr.
 SCHÜLER-KONZERT
 DER STAATLICHEN MUSIKAKADMIE ZU TOIO

PROGRAMM

Streichorchester *Dirigent* A. Watanabe
 Eine kleine Nachtmusik Mozart
 Klavier-Solo M. Aoyama
 Sonate (Das Lebewohl) Es-dur Op. 81a.....Beethoven
 2. Satz Andante espressivo
 3. Satz Vivacissimamente
 Mezzosopran-Solo M. Masiko
Begl. Y. Asakura
 Ich trage meine Minne Op. 32 Nr. 1Strauss
 Allerseelen Op. 10 Nr. 8..... //
 Zueignung Op. 10 Nr. 1 //
 Klavier-Solo Y. Hayasi
 Orgeltokkata und Fuge d-mollBach-Busoni
 Violin-Solo S. Kōno
Begl. K. In
 Sonate Nr. 4 E-dur.....Händel
 Adagio—Allegro—Largo—Allegro
 Bariton-Solo T. Iwasaki
Begl. K. In

Aus der Oper “Faust”Gounod
 Dio possente, Dio d’amor
 Aus der Oper “Macbeth”.....Verdi
 Pietà, rispetto, onore
 Klavier-Solo T. Iguti
Begl. Prof. N. Fukui
 Konzert a-moll Op. 16Grieg
 1. Satz Allegro molto moderato
 Pause
 Trio für Bläser Horn A. Okada
 Trumpet Y. Kanaisi
 Trombone E. Haku
 SonatePoulenc
 1. Satz Allegro moderato
 3. Satz Rondo
 Klavier-Solo Y. Nobeji
Begl. prof. N. Fukui
 Konzert g-moll Op. 58Moscheles
 1. Satz Allegro moderato
 Mezzosopran-Solo T. Okabe
Begl. H. Niina
 Addio.....Tosti
 L’ultima canzone..... //
 Klavier-Solo H. Yositake
 Scherzo b-moll Op. 31Chopin
 Violin-Solo R. Date
Begl. J. Date
 Konzert e-moll Op. 64Mendelssohn
 1. Satz Allegro molto appassionata
 Gemischtchor *Dirigent Prof.* S. Sawazaki
Begl. J. Date

Sopran S. Sasaki
 Alt T. Kotorii
 Tenor T. Watanabe
 Kantate Nr. 4.....Bach

昭和十六年六月八日 第一三二回報國團演奏会

第一三二回報國團演奏會 六月八日 於 本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔東京音樂學校一覽〕自昭和十六年至昭和十七年、二五五頁

昭和十六年六月十三日 第九十三回定期演奏会

昭和十六年六月十三日 (金曜日) 午後六時開場
 七時開演

會場 共立講堂(神田一ツ橋)

定期演奏曲目

東京音樂學校

Figaros Hochzeit
 Oper in vier Aufzügen

von

Wolfgang Amadeus Mozart

Soli, Chor und Orchester der Staatlichen Musikakademie zu Tokio

Leitung: Generalmusikdirektor Manfred Gurlitt

モーツァルト作

歌劇「フィガロの結婚」全四幕(演奏會形式に據る)

獨唱 アルマヴィヴァ伯爵(バリトン)

中山 梯一

同 伯爵夫人(ソプラノ)

山内 秀子

序 曲
 時代 十七世紀中葉、セヴィラのアルマヴィヴァ伯爵邸の物語。
 作詞 ダ・ポンテ 原作伊語、獨譯にて演奏。

スザンナー、侍女(ソプラノ) 永田みや子
 ケルビン、小姓(ソプラノ) 平原壽恵子
 フィガロ、従僕(バス) 伊藤武雄
 マルチェリーナ、侍女頭(アルト) 千葉靜子
 バジリオ、音樂教師(テノール) 柴田陸
 ドン・クルチオ、判事(バス) 栗本 正
 バルトロ、典醫(バス) 栗本 正
 アントニオ、園丁(バス) 栗本 正
 バルバリーナ、アントニオの娘(ソプラノ) 朝倉春子
 合唱 東京音樂學校 校生徒
 管絃樂 東京音樂學校管絃樂部
 指揮 マンフレード・グルリット

第一幕(伯爵邸内半ば完成された一室)

1. 二重唱 フィガロとスザンナー
2. 同
3. カヴァティーナ フィガロ獨唱
4. 詠唱 バルトロ獨唱
5. 二重唱 マルチェリーナとスザンナー
6. 詠唱 ケルビン獨唱
7. 三重唱 伯爵とバジリオとスザンナー
8. 合唱 農民
9. 詠唱 フィガロ獨唱

第 二 幕 (伯爵夫人の居間)

10. 詠唱 伯爵夫人獨唱

11. カンツォーネ ケルビン獨唱

12. 詠唱 スザンナー獨唱

13. 三重唱 伯爵と夫人とスザンナー

15. 終唱 多勢

第 三 幕 (裝飾された結婚式の大廣間)

16. 二重唱 伯爵とスザンナー

17. レイタタイプと詠唱 伯爵

18. 六重唱 マルチェリーナ、フィガロ、バルトロ、

クルチオ、伯爵、スザンナー

19. レイタタイプと詠唱 伯爵夫人

20. 二重唱 スザンナーと伯爵夫人

21. 合唱その他

22. レイタタイプと行進曲 多勢

23. 合唱 多勢

第 四 幕 (花園)

24. カヴァティーナ バルバリーナの獨唱

26. 詠唱 バジリオの獨唱

27. レイタタイプと詠唱 フィガロの獨唱

28. 同 スザンナーの獨唱

29. 終唱 多勢

〔詠唱・重唱・合唱等の番号は当時のプログラムによった。〕

〔原資料横組〕

▽東京音楽學校演奏會 (十三日共立講堂) ブルジョア心理の機微と露骨な情痴の世界をロココ的感性でおほつた此モーツアルトの代表的作品歌劇「フィガロの結婚」は、教室授業の延長のやうな演奏では到底演じこなせるものではない。軽妙繊細な手法で歌を支持する管絃樂には微細なニュアンスをも逃がさぬ合奏の統一が要る。そして歌手には歌ふ技巧以外に歌詞を我物にしてそれに傾倒し切れる余裕がなくては歌曲の妙味は表はせない、この意味で當夜の演奏は、演奏會形式によるとは言へ、實演の舞台を想像させることはおろか歌劇らしい雰囲気さへ甚だ稀薄であつた。歌手では伊藤武雄がさすがに経験を生かし、數人の新人歌手の努力の中では千葉静子と中山悌一とが堂々と歌つて他を壓してゐた。(園部三郎)

(『東京朝日新聞』昭和十六年六月十五日)

上野の「フィガロの結婚」

久保田公平

モーツアルトの「フィガロの結婚」が演奏會形式によつて六月十三日共立講堂で演奏された。演奏は上野の東京音楽學校生徒職員卒業生、指揮はマンフレット・グルリット氏。

私はこの演奏會批評を書く前に最近讀んだスタンダールの「フィガロ」についての言葉を引用したいと思ふ。彼は次の様に云つてゐる。

「フィガロ」についてまづ考へられることは感受性そのものであつた作曲家は、ボオマルシエにあつてはアグニア・フレスカ館の貴紳士共を興ぜしめたにすぎぬ可成輕佻な色戀を、眞の情熱に變へてしまつたといふことだ。ボオマルシエではアルマヴィヴァ伯爵がスザンナに蟲を起すそれだけの話だ。アリア

——わしがかうして溜息をついてゐる間に下男奴がうまくやりをるぢやらう——

及び

——ひどい奴め、いつまで待たせる氣ぢや——

に溢れた情熱とは凡そ縁遠いものだ。たしかにこれはかのフランスの喜劇第三幕第四場で次の様に言ふ人間とは別人だ。

「こんな氣紛れにいつまでも戀々たるとはどうしたわけじや。何度思ひ切らうと思つたか知れんが……はてさてきまりがつかんといふことは奇體(curiosité)なものぢや。わしの望みがいざこざなしにすむものなら、あんな女なぞこんなに欲しうはない筈ぢや」この分別はまことに正しいがどうして音楽家がかうした考へに達することが出来ようか。

フランスの喜劇を観てもロジイヌの小姓に對する愛着はもつと眞面目になり得るのを感じる。事實モツアルトにおいては彼女の魂の状態、この甘い憂愁、運命が我々に與へる幸福の割合に關する反省などすべて、この大きな情熱の誕生に先立つ困難は、フランスの喜劇におけるよりも遙かに發展されてゐる。この魂の状態は殆んど表現すべき言葉を持たぬし、恐らく音楽が言葉より遙かによく描き得る状態の一つである。伯爵夫人の歌はだから全然新しい描寫だ。バルトロの性格についても同様である。(中略)

——伯爵様、もし御前が、お踊りになるなら——に現れたファイガロの嫉妬はフランスのファイガロの輕佻とは凡そかけ離れたものだ。この意味でモツアルトはこの喜劇をこれ以上出来ない程變形してしまつたといふことも出来よう。音楽が四幕にわたつてフランス流の都雅と輕佻を描くことが出来るかどうかは僕には知らない。しかもそれをあらゆる登場人物について描くなんて、これは難かしいだらう。幸福であれ不幸であれ兎に角音楽には明白な情熱が必要だ微妙な應答は魂には何も感じさせない。魂の瞑想に何の材料もそうした洒落は提供しない。(中略)モツアルトの歌劇は機智と憂愁との至上の混淆である。その類例はあり得ない。悲しく優しい感情は時として退屈に陥るおそれなしとしない。が、こゝではあらゆる場面にきらめくフランス喜劇の鋭い機智がこのジャンルに可能な唯一の缺點から救つてゐる……(下略)

これが小説家スタンダールが書いたモツアルトに對する文章の一部である。私はこの短評の中に何故長々しくこの様な説を引用したか、次にその

理由を書いて行く事にしよう。つまりは其れが、この上野の「ファイガロ」に對する私の批評の形を成す事になる筈なのであるから……

モツアルトの「ファイガロ」がアルマヴィヴァ伯爵達の輕佻な色戀を題材にしながら、モツアルトは其れを眞の情熱に變化させたと言ふスタンダールの見方は、彼が有名な「戀愛論」の著者であるだけに非常に興味がある。彼の言葉によれば、ファイガロの嫉妬も、他の登場人物の輕佻な戀愛遊戯も、モツアルトの眞實な愛と、熱情、そして彼の本質的な憂愁によつて、非常に高い藝術的なものに變形され、發展させられたと言ふのである。これは眞に正しい。我々はこの美しいオペラから戀のざれごとを聴くよりも、もつと本質的な音楽の美、そして人間的な美しさを聴くのである。と言ふよりこの美しい音楽の中に我々は美しい道德をさえ聴く事が出来そうに思へるのだ。

とすれば上野の音楽學校が、この戀愛遊戯を主題としたオペラの演奏を行つた事に對して、我々は道德的な異論を申立てる理由は一つも無い。その意味でなら形式主義的官立音楽學校では、ちよつと出せない「ファイガロ」の全曲演奏に、スタンダールも大いに同意する事であらうと私も思ふのである。

だがしかし其れにしては戀愛遊戯に置換へられた筈のモツアルトの情熱、巨大な愛情は何處に行つて仕舞つたのだらう。

スタンダールも言つてゐる「悲しく優しい感情は時として退屈に陥るおそれなしとしない」それを救ふのは、このオペラを貫くフランス派の鋭い機智なのである。

ところが上野の演奏は、この美しい情熱とフランス流の機智を、ごつごつしたおさらひ的演奏に變へて仕舞つた。色あせた戀、間のびのした上下を著用した洒落では、氣の抜けたビールの様なもので一向にモツアルトの情熱等感じられ無い。演奏會形式と言ふものが既にオペラの魅力の半分を消滅させるものである上に、唯長い期間の練習にだけ情熱を示したのでは、どうにも成らない。このオペラの持つ戀愛感情は、どうしても大人のものである。それも粹にくだけたと言つた風のを多分に持つてゐるのだ。

そして其れがモツアルトによつて單なる輕佻浮薄さから、より高い熱情に發展してゐるので、音樂の美しさと樂しさは、そうした二つの重大な要素から出發せねばならないのである。

眞の愛情と、鋭い機智の二つとも無い「ファイガロ」は、全く榮養價が無さ過ぎたのである。

第一マンフレット・グルリット氏の指揮が全々情熱を失つてゐる。少々なげやりな其場限りの氣持が其の指揮棒に流れてゐる。

たとへば演奏者に不満があつても、彼が本當に藝術を愛するならば、自分の音樂生活にもつと生氣があつて良いと思ふ。彼の指揮には其の様な生活力、革新して行く力、情熱が缺けてゐる。これは正にデカダンへの道なのだと思ふのだ。

「ファイガロ」には美しさは充分あるし、楽しさも充分にある。だが其れには山が無いのだ。それだけに、モツアルトの眞の情熱がその演奏の上に無くては、それは絶対に退屈する。

そればかりかフランス派の鋭い機智が無かつたならばモツアルトの美しい憂愁のアリヤから我々は退屈を感じるかも知れ無いとスタンダールは言つてゐるのだ。

三幕の有名な伯爵夫人（山内秀子）の詠唱と伯爵夫人とスザンナー（永田みや子）の二重唱の美しさは矢張り當夜一番樂しめたが、しかし此の様な美しいメロデーと純粹な愛情の音樂の外、各自の持役の性格と情熱が表出された場面は非常に少い。ファイガロの伊藤武雄も役所で無く、近頃大變聲がくたびれて居る。ケルピンの平原壽恵子も「もふ飛ぶまいぞこの蝶蝶」と言はれる様な人の歌では無い。それに講堂の爲めもあるが、あまりにも皆の聲量が少い事はどうした爲めか、わざ／＼モツアルトが伊太利語で書いたオペラを、歌ひ難い獨逸語によつて歌つた爲めか、どうも其れだけの事では無さそうに思へる。上野の聲樂教授法が、オペラに適して居なかつた爲めか。私はついこの前に聞いた美しく獨逸語をベルカントしたハルトマンの聲を思ひ出すのである。

兎も角も歌聲が聴衆に迫つたのは、發聲の正しさを言々しなければ、マ

ルチエリーナの千葉靜子唯一人であつた。

管絃樂、合唱、獨唱者、そして指揮者、いづれも熱心ではあつたのだろうが、熱心と情熱は必ずしも同居して居ないのだから仕方が無い。

少くもスタンダールがこのオペラを聴いたら、さぞかし退屈しただらうと思ふのである。

情熱も機智も無い「ファイガロ」。これは困ると思ふ。

（『音樂評論』第十卷第七号、昭和十六年七月、四六〜四八頁）

昭和十六年六月十四日 春季選科洋樂演奏會

昭和十六年六月十四日（土曜日）午後一時開場
一時半開演

於 本校奏樂堂

春季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

- 一、ピアノ獨奏……………城所鈴子
幻想即興曲・嬰ハ短調・作品六六（遺作）…………シヨパン作
- 二、ソプラノ獨唱……………佐藤艶子
イ、もしフロリンド忠實ならば…………スカラツティ作
ロ、踊れよ踊れ優しき少女…………ドウランテ作
- 三、ピアノ獨奏……………竹内順子
小幻想曲……………シューマン作
イ、デス・アーベンド……………シューマン作
ロ、アフフシユウング……………シューマン作
- 四、ヴァイオリン獨奏……………窪田靜夫
ステューデント・コンツェルト・ト長調……………窪田靜夫

作品一三ノ二……………ザイツ 作
(一ノ位置ノ爲ノ)

五、ピアノ獨奏……………岩田美子

ロンド・ブリランテ・作品六二……………ウエーバー 作

……………【休憩】……………

六、ピアノ獨奏……………土田雪子

六ツの變奏曲……………ベートーヴェン 作

七、ピアノ獨奏……………幡野百合子

華麗なる大圓舞曲……………シヨパン 作

八、ヴァイオリン獨奏……………小塚清子

コンツェルト・ト長調・二三番・第一樂章……………ヴィオッテイ 作

九、ピアノ獨奏……………福田明子

イ、ベルセーズ・作品五七……………シヨパン 作

ロ、ポロネーズ・作品二六ノ一……………シヨパン 作

昭和十六年六月十八日、十九日、七月三日～五日 シュナイダー 夫人チエンバロ独奏会

獨逸國外務省文部省派遣文化使節

エタ・ハリッヒ シュナイダー女史

クラブサン(チエムバロ)獨奏會

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部
指揮 ヘルムート・フェルマー

七月三日 午後七時 大阪朝日會館

七月四日 午後七時 京都朝日會館

七月五日 午後七時 神戸海員會館

主催 朝日新聞社會事業團

後援 外務省・文部省・情報局・獨逸大使館

日獨文化協會・日本ポリドール蓄音器會社

演奏曲目

バツハ曲

I チェンバロ協奏曲 イ長調

快速調

シシリヤ舞曲

快速調

バツハ曲

II イタリヤ協奏曲 ヘ長調

———休憩———

III 古代舞曲

シヤヴォンヌ (クプラン曲)

サラバンド (シヤムボニエル曲)

タンブラン (ラモ一曲)

ジーク (バツハ曲)

ガヴオットとドウブル (ラモ一曲)

バツハ曲

IV ブランデンブルグ協奏曲 五番 ニ長調

中庸の快速調

優雅に

快速調

管絃樂・東京音楽學校管絃樂部
指 揮・ヘルムート・フェルマー

(ヴァイオリン獨奏 岩崎吉三)
フルート獨奏 鈴木正三)

(チェンバローメンゼラー・シユトラム使用)

〔原資料横組〕

ETA HARRICH-SCHNEIDER CEMBALO-ABEND

PROGRAMM

I J. S. Bach Cembalokonzert. A dur

Allegro

Siciliano

Allegro

II J. S. Bach Italienisches Konzert. F dur

……PAUSE……

III Alte Tänze

a) Couperin Chavonne

b) Chambonnières Sarabande

c) Rameau Tambourin

d) J. S. Bach Gigue

e) Rameau Gavotte u. Doubles

IV J. S. Bach Brandenburgisches Konzert Nr. 5 D dur

Allegro molto moderato

Affetuoso

Allegro

Orchester der kaiserlichen Akademie für Musik in Tokio

unter Leitung des Herrn Prof. Helmuth Fellmer.

(Cembalo: Maendler-Schram München)

シユナイダー夫人 チェンバロ獨奏會

日獨音樂親善の使命を帯びて去る五月四日來朝した、チェンバロ奏者、伯林高等音樂學校教授ハリリツヒ・シユナイダー夫人の獨奏會は來る六月十八、十九日の兩夜日本青年館で行はれる。指揮は上野音樂學校教授ヘルムート・フェルマー氏、管絃樂は上野音樂學校管絃團。尚右音樂會は日獨文化協會、日本ポリドール蓄音器會社の共同主催で行はれる。

更にシユナイダー氏は東京公演後大阪、名古屋、京都、神戸、札幌等に地方公演をなし、七月上旬再び東京に於て獨奏會をなす豫定。

〔『音樂評論』第十卷第六号、昭和十六年六月、五四頁〕

昭和十六年十月十一日、十二日 第九十四回定期演奏會

昭和十六年十月十一日(土) 午後六時開場・六時半開演
十二月十二日(日) 午後一時開場・二時開演

會場 東京音樂學校奏樂堂(上野公園)

音樂演奏曲目

東京音樂學校

I. 管絃樂

序曲「コリオラン」・作品六二

ベートーヴェン作

II. ピアノ獨奏・管絃樂附

第一ピアノ協奏曲・ハ長調・作品一五

ベートーヴェン作

アレグロ・コン・ブリオ

ラルゴ

ロンド：アレグロスケルツァンド

獨奏 富永璃瑠子

— 憩 —

III. 管絃樂・四部獨唱合唱附

第九交響曲・ニ短調・作品一二五

ベートーヴェン作

1. アレグロ・マ・ノン・トロツポ・ウン・ポコ・マエストロゾ
2. モルト・ヴィヴァチエ
3. アダーヂョ・モルト・エ・カンタビレ
4. 終樂章・シルレル作「歡喜の頌歌」に據る四部獨唱合唱附

ソプラノ 山内 秀子
 アルト 千葉 静子
 テノール 渡邊高之助
 バリトン 中山 梯一
 管絃樂 東京音楽學校管絃樂部
 合唱 東京音楽學校生徒
 指揮 ヘルムート・フェルマー
 [原資料横組]

昭和十六年十月十一日 報國団第九回邦楽演奏會

昭和十六年十月十一日(第二土曜日) 午後零時半 開場
 午後一時 開演

東京音楽學校報國團

第九回 邦 樂 演 奏 會

上野公園
 於本校奏樂堂

演奏曲目

一、放生	寶生流連吟	僧	地	當	山	田	嘉	俊	尚	三
二、山姥	寶生流仕舞	姥	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
三、岡	山田流箏曲	砧	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
四、鞍馬山	長 唄	山	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
五、さむしろ	生田流箏曲	ろ	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
六、安宅	觀世流舞囃子	宅	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
七、高砂	觀世流舞囃子	砂	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
八、雨	山田流箏曲	後	シ	當	山	田	正	俊	尚	道
九、寒山拾得	長 唄	得	シ	當	山	田	正	俊	尚	道

(休憩十分)

生田流箏曲
十、秋の言葉

箏(替手)
〃(本手)
〃(〃)
古山下 富相子
藤田 優子

長 唄
十一、時雨西行

〃〃唄
尾本 松子
熱海 芳子
熱海 はな
三味線
〃〃
上調子
杉本 富紀子
鵜川 紀美子
池川 昭代子
井田 孝子

昭和十六年十月二十五日 第一三三回報國団演奏会

昭和十六年十月二十五日(土)午後一時

於 東京音樂學校奏樂堂
第133回報國團演奏會

東京音樂學校報國團

曲 目

ピアノ獨奏

水野久一郎

狂詩曲 ロ短調 作品七十九の一

ブラームス

ソプラノ二重唱

當別 當順子
永田 加壽

歌劇「オイリアンテ」より

伴奏 井口妙子

オイリアンテとエグランテーネの二重唱

ウエーバー

ヴァイオリン二重奏

中山 和子
佐々木 綾乃

二つのヴァイオリンの爲の奏鳴曲 第一・二樂章

伴奏 川瀬喜美子

ヘンデル

ソプラノ獨唱

米田 更子

小夜曲 トステイ

みそさどい ベネディクト

ピアノ獨奏 牧野 泰子

諧謔曲 變ロ短調 作品三十一 ショパン

プレスト

バリトン獨唱 岩崎常治郎

伴奏 松野景一

歌劇「タンホイザー」より ワグナー

見渡せば

夕の星影

ピアノ獨奏 安永美世子

伴奏 高折教授

協奏曲 イ短調 作品八十五 フムメル

第一樂章 アルレグロ モデラート

管絃樂 生徒管絃樂部

指揮 中山富士雄

「アウリスのイフィゲニア」序曲 グルツク

休 憩

メソソプラノ獨唱 飯塚りゑ子

伴奏 室井摩耶子

後で トステイ

女よ、死なまほし トステイ

戸の外で コトーニ

ピアノ獨奏 山上 雅庸

奏鳴曲 熱情 ヘ短調 作品五十七 ベートーヴェン

第一樂章 アルレグロ アツサイ

ソプラノ獨唱 鎌倉 和子

伴奏 室井摩耶子

歌劇「夢遊病者」より……………ペリーニ

あゝ！信ぜざりき

ピアノ獨奏

田中萬里子

伴奏 福井教授

協奏曲 イ短調 作品五十四……………シユーマン

第一樂章 アルレグロ アツフエテユオーソ

バリトン獨唱

堀 二郎

伴奏 尹 琦善

「詩人の戀」より……………シユーマン

わが心消えなむ

われ、君を恨まじ

花ぞ知る

夜毎、夢に見る君

古へのむくつけき歌

ピアノ獨奏

長谷川 久子

伴奏 福井教授

協奏曲 第一番 變ホ長調……………リスト

クワシ アダチオーアルレグロ ヴイヴァーチエー

アルレグロ マルチアレー アニマート

管絃樂

生徒管絃樂部

指揮 北爪利世

ロザムンデ舞踊音楽……………シユーベルト

〔原資料横組〕

昭和十六年十月三十一日～十一月三日 演奏旅行（京都—大阪—

名古屋）

昭和十六年十月卅一日午後六時半 於 京都朝日會館

東京音樂學校大演奏會

主催 朝日新聞社會事業團

十一月一・二日午後六時半 於 大阪朝日會館

曲目

1. 混聲合唱

イおもひで……………信時 有明 潔 歌作

（妻をさきだてし人のもとに）

ロ日ぐれの花……………野口 雨皖 情 歌作

ハ雉子が啼く……………野口 雨皖 情 歌作

ニ春の雪……………野口 雨皖 情 歌作

指揮 澤崎 定之

2. ピアノ獨奏・管絃樂附

第一協奏曲 ハ長調・作品一五番……………ベートーヴェン 作

アレグロ・コン・ブリオ

ラルゴー

ロンド・アレグロ スケルツアンド 獨奏 富永瑠璃子

—— 憩 ——

3. 管絃樂・獨唱及び合唱附

第九番交響曲 ニ短調・作品一二五番……………ベートーヴェン 作

シルレルの頌歌「歡喜に寄す」による終末合唱附

アレグロ・マ・ノン・トロツポ・ウン・ポコ・マエストロズ

モルト・ヴィヴァチエ

アダージオ・モルト・エ・カンタビレ

終曲

獨唱 高音 山内秀子

中高音 千葉静子

下高音 渡邊高之助

上低音 中山悌一

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

指揮 ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

豪華な旋律に陶醉

東京音樂學校大演奏會終る

大阪朝日會館における今秋の東京音樂學校大演奏會は一、二兩日とも非常な超満員で大盛況のうちに終つた

第二夜も六時半開演で第一の混聲合唱は思出、以下四曲でまづ聴衆を魅了し、第二のピアノ獨奏は富永瑠璃子嬢の力奏で第一協奏曲ハ長調作品十五番に至妙な陶醉境に導き最後は合唱隊二百人と管絃樂百人が舞台を埋める豪華なる第九番交響樂は山内秀子さん、千葉静子さん、渡邊高之助氏、中山悌一氏の獨唱が光りヘルムート・フェルマー氏の指揮のもとに終始至高なる雰囲気恍惚として午後九時散會した

〔大阪朝日新聞〕昭和十六年十一月三日

昭和十六年十一月十五日 第一三四回報國団演奏會

於 東京音樂學校奏樂堂

第134回報國團演奏會

下谷區上野公園内

東京音樂學校報國團

曲 目

管 絃 樂 (研究科卒業制作)

本校管絃樂部

山形の民謡に依る

指揮 フェルムート・フェルマー

「ファンタジーと二重フーガ」……………高田三郎作曲

ピアノ獨奏

上池 倭子

主題と變奏曲 イ長調 作品十六の三……………パデレフスキ

アンダンテ・ピウ モツソール・アルレグレット

―レントーノン トロツポ ヴイヴァオー・アンダンテ

―アルレグロ モルト ヴイヴァー・チエ

テノール獨唱

吉島喜三郎

伴奏 森田親之

歌劇「ジヨコンダ」より……………ボンキエリ

空と海の詠唱

ピアノ獨奏

田鍋宗三郎

奏鳴曲 嬰ハ短調 作品二十七の二……………ベートーヴェン

第二樂章 アルレグレット

第三樂章 プレスト アチタート

テノール獨唱

中 目 徹

伴奏 葛原 守

歌劇「カヴァレリア・ルステイカナ」より……………マスカーニ

アヴェマリア

晩 歌……………トステイ

ピアノ獨奏

竹内美枝子

シヤコンヌ ニ短調……………バツハーブゾーニ

メツオソプラノ獨唱

加藤 晶子

伴奏 井口妙子

歌劇「フアボリータ」より……………ドニツエツテイ
おゝ我がフェルナンド

ピアノ獨奏 澤井淳子

死の舞踏 ニ短調……………リスト
伴奏 井口教授

休憩

室内樂 ヴァイオリン 伊達良

ヴィオラ 河野俊達

チェロ 黒沼俊夫

コントラバス 佐久間活也

ピアノ 田村宏

五重奏曲「鱒」イ長調 作品百十四……………シューベルト

第一樂章 アルレグロ ヴィヴァーチエ

第四樂章 主題と變奏曲

アルト獨唱 内田留里子
伴奏 内田映子

聖歌……………ヘンデル
伴奏 内田映子

樂劇「ラインの黄金」より……………ワグナー

エルダのヴォータンへの警告

ヴァイオリン獨奏 津野文子
伴奏 矢橋満子

「バルテータ第三番」より……………バッハ
伴奏 矢橋満子

プレリユードとガボット……………バッハ

ピアノ獨奏 田中萬里子
伴奏 福井教授

協奏曲 イ短調 作品五十四……………シューマン
伴奏 シューマン

第一樂章 アルレグロ アフエテユオーソ
メツオソプラノ獨唱 坂元芳子

野のしづけさ 作品八十六の二……………ブラームス
知らせ 作品四十七の一…………… //

ピアノ獨奏 内田映子
伴奏 井口教授

協奏曲 第四番 ト長調 作品五十八……………ベートーヴェン

第一樂章 アルレグロ モデラート

〔原資料横組〕

昭和十六年十一月十六日 第一三五回報国団演奏会

第一三五回報国團演奏會 十一月十六日 於 本校奏樂堂

〔曲目等不明〕

〔東京音楽學校一覽〕自昭和十六年至昭和十七年、二五五頁〕

昭和十六年十一月十九日 銃後奉仕演奏会

昭和十六年十一月十九日(水) 午後五時半開場
午後六時半開演

會場 共立講堂(神田一ツ橋)

銃後奉仕

音樂演奏曲目

東京音楽學校

I. 管絃樂

序曲「コリオラン」・作品六二……………ベートーヴェン作

II. 管絃樂・四部獨唱合唱附

第九交響曲・ニ短調・作品一二五 ベートーヴェン作

1. アレグロ・マ・ノン・トロツポ・ウン・ポコ・マエストोज

2. モルト・ヴィヴァチェ

3. アダーチオ・モルト・エ・カンタビレ

4. 終樂章・シルレル作「歡喜の頌歌」に據る四部獨唱合唱附

獨唱
ソプラノ 山内秀子
アルト 千葉静子
テノール 渡邊高之助
バリトン 中山梯一

管絃樂
東京音樂學校管絃樂部

合唱
東京音樂學校生徒

指揮
ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

昭和十六年十一月二十二日 選科邦樂演奏會

昭和十六年十一月二十二日(土曜日)午後二時開場
二時半開演

於 本校奏樂堂

選科邦樂演奏曲目

東京音樂學校

一、能樂寶生流連吟

一、黒塚

竹本久枝
山川信子
小野光子
吉富彌子
榎美子

能樂寶生流連吟

二、紅葉狩

宮尾尚和
登川昌
吉川省
瀨川隆次
山崎忠
木村隆

能樂寶生流連吟

三、花三題

川上智恵子
岡本定子
菊谷眞佐子
増田佳哉
鴨井

能樂寶生流連吟

四、吾妻八景

吉濱みほ
鈴木淳子
塚本俊枝
窪房

能樂寶生流連吟

五、吉野天人

服部淳子
花見倫子

能樂寶生流連吟

六、土蜘蛛

中野清四郎
星田勝四郎
副田正勝
山内一郎
小濱長七郎
鹽原長之助
藏原之助
岡田正保
宮澤雄

能樂寶生流連吟

七、銃後の女性

葛原しげる 作詞
宮城道雄 作曲

職員及選科生徒

三崎鎮一 廣瀬珠江 多田よし子 鈴木道子 渡邊敬子 水邊サダ子 杉原喜久 大川浪都 三河和都 北村八子 山口芳子 前原光一 野崎寛太郎 長瀬敬二 白勢保太郎 鷲見三郎 田邊竹生 重松十雅 加重藤正 加藤雅正

舞踊 藤間流 舞踊 堀越昭子 高居玖美子 三味線 鈴木千枝

長 唄 馬越芳圭子 荒本江枝 佐伯美佐子

八、元祿風花見踊 中内藤和子 西村安枝 福藤芳子

三世杵屋正治郎 作曲 奥村鈴子 窪田房枝 鈴木喜美代

城田雛子 塚本俊子 大橋道江

長 唄 教授 吉住小三郎 補導 教授 杉本金太郎

九、楠の薫 選科生徒

高野辰之 作詞 四世吉住小三郎 三世稀音家六四郎 作曲

昭和十六年十一月二十九日 秋季選科洋樂演奏會

昭和十六年十一月二十九日(土曜日) 午後二時開演 一時半開場

於 本校奏樂堂

秋季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

一、ピアノノ獨奏……………菅田文子

ラ・ファイルース・作品一五七ノ二番……………ラッフ作

二、ソプラノ獨唱……………星野たづ子

い、アヴェ・マリア……………ケルビーニ作

ろ、歌劇「ルチア」より……………ドニゼッテイ作

「夜の闇あたりをこめて」……………加藤晃宜

三、フリユート獨奏……………ソナタ・五番・第一、二、三、四樂章……………ヘンデル作

四、ピアノノ獨奏……………鹽川英子

ソナタ・ロンド・作品二ノ二番……………ベートーヴェン作

五、テノール獨唱……………門永高夫

い、歌劇「リゴレット」より「女心の歌」……………ヴェルディ作

ろ、歌劇「トスカ」より「星も光りぬ」……………プッチーニ作

六、ヴァイオリン獨奏……………福田英子

コンツェルト・イ短調・第一樂章……………ヴィヴァルディ作

七、ピアノノ獨奏……………佐々木悦子

い、前奏曲「雨だれ」・變ニ長調……………シヨパン作

作品二八ノ一五番……………メンデルスゾーン作

八、ソプラノ獨唱……………住井玲

い、もはや我とわが心に感ぜず……………パイスイエツロ作

ろ、勝てり勝てりわが心よ……………カリスイーニ作

九、ヴァイオリン獨奏……………田中カヨ

ソナタ・アダジオ・アレグロ・ニ長調……………ヘンデル作

一〇、ピアノノ獨奏……………濱名満珠

舞踏への招待……………ウエーバー作

—— 休 憩 ——

一一、ピアノノ獨奏……………寺尾登

グラント・ヴァルス・プリランテ・作品一八……………シヨパン作

一二、ソプラノ獨唱……………島内良子

い、オーデル・ミオ・ドルツエ・アドール……………グルツク作

ろ、「ドン・ジヨヴァンニ」中……………モーツァルト作

ツェルリーナの詠唱……………モーツァルト作

- 一三、ピアノノ獨奏……………水野恭子
ソナタ「ワルドシユタイン」・作品五三・
第一樂章……………ベートーヴェン作
- 一四、ヴァイオリン獨奏……………平形秀子
コンツェルト・イ短調・第一樂章……………パツハ作
- 一五、ピアノノ獨奏……………飯田晴子
ソナタ「ワルドシユタイン」・作品五三・
第二、三樂章……………ベートーヴェン作
- 一六、ソプラノ獨唱……………松田偕子
い、「ファイガロの結婚」中ケルビンの詠唱……………モーツァルト作
ろ、濱邊の唄……………大中寅二作
- 一七、ピアノノ獨奏……………内田萬里子
ラプソディ・ト短調・作品七九ノ二番……………ブラームス作
- 一八、ヴァイオリン獨奏……………小坂清子
コンツェルト・作品一〇四ノ九番・
第二、三樂章……………ベリオ作
- 一九、ピアノノ獨奏……………今正子
三十二變奏曲ハ短調……………ベートーヴェン作

昭和十六年十二月二十一日 第九十五回定期演奏会

昭和十六年十二月二十一日(日曜日)午後五時半開場
六時半開演

會場 日比谷公會堂

音樂演奏曲目

東京音樂學校

I. 合唱と管絃樂

「運命の歌」作品五四……………ブラームス作

II. ピアノ獨奏(管絃樂附)

第一協奏曲・ニ短調・作品十五……………ブラームス作

マエストロゾ

アダーチオ

ロンド・アレグロ・ノン・トロツポ

獨奏者 水谷達夫

—(休憩)—

III. 管絃樂

第一交響曲・ハ短調・作品六八……………ブラームス作

ウン・ポコ・ソステヌートーアレグロ

アンダンテ・ソステヌート

ウン・ポコ・アレグレット・エ・グラチオーゾ

アダーチオーピウ・アンダンテーアレグロ・ノン・トロツポ

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

指揮 ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

Programm

I. Chor und Orchester

Schicksalslied. Op. 54……………Brahms

II. Klavier mit Orchester

Konzert Nr. 1. d-moll. Op. 15……………Brahms

Maestoso

Adagio

Rondo : Allegro non troppo
Solist : Tatzuo Mizutani

—(Pause)—

III. Orchester

Symphonie Nr. 1. c-moll. Op. 68

Un poco sostenuto—Allegro

Andante sostenuto

Un poco Allegretto e grazioso

Adagio—Più Andante—Allegro non troppo,

ma con brio

Leitung : Helmut Fellner

Orchester und Chor der Staatlichen Musikakademie

zu Tokio

上野音楽學校の定期

十二月廿一日公會堂で秋の上野音楽學校の定期大演奏會が満員の中に開催された。

最近の上野の傾向は少くも音楽會に現れた點だけから考へても、以前とは大分に變つて來た様に思はれる。

今度もブラームスによつて全曲目を満たしたアカデミックなもので、こうした企畫性に若いドイツの指揮者フェルマーの眞面目さが反影してゐる様に思へる。

フェルマーは良い意味でも悪い意味でも充分にドイツ的であり、同時に若さを持つ指揮者である。技術の不足は最近相當に克服されて來た如くである。ブラームスの「第一交響曲」の成功は、彼の眞面目な勉強の成果であり、上野としては最近の好演であつた。

「第一協奏曲」は水谷達夫の努力にもかかわらず、残念ながらブラームスの大きさを示すには、器樂的なものと構成的なものとの完全な一致に到らず、ブラームスの情熱の表出に失敗して居た。管絃樂は原曲にも缺點はあ

らうが、しかし其れにしても亂れすぎて居た様に思ふ。絃の音色の悪さ、特にチェロのパートの悪さは、何時もの事ながら將來その道の獨奏家とも成らんとする人達の集りとしては戴きかねる。

『音楽文化新聞』第一号、昭和十六年十二月、九頁

昭和十六年十二月二十四日、二十五日、二十六日 卒業式

昭和十六年十二月

二十四日(水曜日)午後一時開始(邦樂)
二十五日(木曜日)午前十時開始(洋樂)
二十六日(金曜日)午前九時開始(式並洋樂)

卒業證書授與式並演奏次第

東京音楽學校

第一日(二十四日)午後一時開演

一、實生流 能

トモ 植田正治

母 角 嘉一

五郎 菱田尚三(卒業生)

十郎 當山俊道

小袖 曾 我

渡邊榮嗣

近藤全宏

一噌鉄二

野口祿久

後見

田中幾之助

寶生重英

地謠

三川 清

佐野 巖

大坪十喜雄

二、觀世流 囃子

世阿彌作

二人 人 靜

丸山里子(卒業生)

加藤良助

大和美咲(同)

森 重朗

一噌鉄二

三、觀世流 能

頼光 清水四郎(卒業生)

トモ 金子龍雄

胡蝶 淺見重信

後シテ 淺見侑弘(卒業生)

前シテ 郷 郭太郎(同)

土 蜘蛛 蛛

寶生彌一

寶生 哲

森 茂好

唐澤時司

小倉次雄 吉田 淳
榎本孔英 三谷良馬

四、山田流 箏 曲

中能島松聲作曲

松 風

五、生田流 箏 曲

土井晚翠作曲
宮城道雄作曲

春 の 夜

六、長 唄

富士田吉次 作曲
村屋忠次郎

鷺 娘

唄

塚田 博(卒業生)

石村義一

三味線

林 邦子(卒業生)

會田英子(同)

鍋島美鳥(同)

丸山綾子(同)

地謠 藤波順三郎

島澤啓次

第二日(二十五日)午前之部 十時開演

混 聲 合 唱……………甲種師範科卒業生一同

イ、「子等を思ふ歌」(ピアノ伴奏) 指揮 教授 澤崎定之

山上憶良作歌・信時潔作曲

ロ、「一億一心」(無伴奏)

野口米次郎作歌・橋本國彦作曲

一、ピアノ 獨 奏……………本科卒業 藤岡晶子

ブラームス作・ソナタ・へ短調・作品五・第一樂章

二、バリトン 獨 唱……………同 今井正五

イ、グリーク作・白鳥・作品二五ノ二

ロ、" 姫君・作品二一ノ四

ハ、" 希望・作品二六ノ三

三、ピアノ 獨 奏……………同 庄子房子

ショパン作・バルカロール・嬰へ長調・作品六〇

四、クラリネット 獨 奏……………同 松浦光

ウエーベル作・協奏曲・變ホ長調・作品四八・第二、三樂章

五、ピアノ 獨 奏……………同 本多能子

ベートーヴェン作・ソナタ・へ短調・作品五七・第一樂章

六、ヴァイオリン 獨 奏……………同 吳秀眞

タルティーニ作・ソナタ・ト短調・第一樂章

七、ピアノ 獨 奏……………同 玉木萃子

ショパン作・バラード・ト短調・作品三三

八、メッツォソプラノ 獨 唱……………同 飯塚りゑ子

プッチーニ作・歌劇「ラ・ボエーム」中「ミミ」の歌

九、ピアノ 獨 奏……………同 永井三津子

リスト作・リゴレット・パラーフレーズ

リスト作・リゴレット・パラーフレーズ

第二日(二十五日)午後之部 一時開演

- 二〇、ピアノノ獨奏……………本科卒業 大谷羊子
 グリーク作・バラード・ト短調・作品二四
- 二一、テノール獨唱……………同 加藤泰義
 イ、シュトラウス作・田舎の女・作品十ノ四
 ロ、ヘンデル作・「救世主」中レチタティーフ
 ハ、シュトラウス作・献呈・作品十ノ一
- 二二、ピアノノ獨奏……………同 野村義恵
 フランク作・前奏曲とコラール
- 二三、ヴァイオリン獨奏……………同 甘利次郎
 ナルディーニ作・協奏曲・ホ短調・第一樂章
- 二四、ピアノノ獨奏……………同 戸田盛忠
 ショパン作・バラード・へ短調・作品五二
- 二五、ソプラノ獨唱……………同 澤野八重子
 ヴェルディ作・歌劇「運命の力」中レオノーラの詠唱
- 二六、ピアノノ獨奏……………同 川瀬喜美
 ベートーヴェン作・ソナタ・へ短調・作品五七・第一樂章
- (休憩)——
- 一七、ピアノノ獨奏……………同 渡邊久子
 ベートーヴェン作・ソナタ・ホ長調・作品一〇九・第三樂章
- 一八、ホルン獨奏……………同 岡田朗
 サン・サーンス作・協奏曲・變イ長調・作品九四
- 一九、ピアノノ獨奏……………同 吉武久子
 シューマン作・ヴァインの謝肉祭・作品二六
- 二〇、ヴァイオリン獨奏……………同 吉武英子

ナツシエー作・パッサカリア・ト長調

- 二一、ピアノノ獨奏……………本科卒業 足立美智子
 リスト作・ハンガリアン・ラプソデー・第十三
- 二二、ソプラノ獨唱……………同 鎌倉和子
 イ、シュトラウス作・子守唄・作品四一ノ一
 ロ、〃 小夜曲・作品十七ノ二
- 二三、ピアノノ獨奏……………同 山崎和子
 ショパン作・バルカロール・嬰へ長調・作品六〇
- 二四、ヴァイオリンチェロ獨奏……………同 黒沼俊夫
 ボツケリーニ作・協奏曲・變ロ長調・第一、二樂章
- 二五、ピアノノ獨奏……………同 原口歌
 リスト作・メフイスト・ワルツ
- 第三日(二十六日)午前之部
 卒業證書授與式次第 午前九時開始
- 宮城遙拜
 國歌「君が代」奉唱
 黙禱
 卒業證書並賞品授與
 學校長式辭
 文部大臣祝辭
 卒業生總代謝辭
 合唱「卒業式の歌」
- 演 奏 午前十時開演
- 二六、ピアノノ獨奏……………本科卒業 大和哲朗

ベートーヴェン作・ソナタ・へ短調・作品五七・第二、三樂章
二七、バリトン 獨唱……………本科卒業 堀 二郎

イ、レオンカヴァロ作・歌劇「ツアツア」中ロマンス
ロ、グリーンカ作・歌劇「皇帝に捧げし生命」中詠唱

二八、ピ アノ 獨奏……………同 新名 博子

ショパン作・バラード・へ短調・作品五二

二九、トラム・ペート 獨奏……………同 金石 幸夫

ハイドン作・協奏曲・變ホ長調・第三樂章

三〇、ピ アノ 獨奏……………同 室井摩耶子

ショパン作・前奏曲（ハ短調・變ロ短調・
變ホ長調・へ長調・ニ短調）

三一、ヴァイオリン 獨奏……………同 小橋 行雄

グイターリ作・シャコンヌ・ト短調

三二、ピ アノ 獨奏……………同 佐藤 ちよ

ショパン作・ポロネーズ・變イ長調・作品五三

三三、メッツォソプラノ 獨唱……………同 岡部多喜子

ドニゼッティ作・歌劇「ラ・ファヴォリータ」中レオノラの詠唱

三四、ピ アノ 獨奏……………同 横井 和子

リスト作・メフィスト・ワルツ

第三日（二十六日）午後之部 一時開演

三五、ピ アノ 獨奏……………本科卒業 篠塚 雅子

ショパン作・バラード・へ短調・作品五二

三六、ファゴット 獨奏……………同 清水 武夫

モーツァルト作・協奏曲・變ロ長調・第一樂章

三七、メッツォソプラノ 獨唱……………同 坂元 芳子

イ、ブラームス作・「我まどろみいつも靜に」
ロ、〃 「わが愛は青春」

三八、ピ アノ 獨奏……………本科卒業 島津 雅子

リスト作・バラード・ロ短調

三九、クラリネット 獨奏……………同 喜田 賦

ウエーベル作・第二協奏曲・變ホ長調・
作品七四・レタタイーフとポロネーズ

四〇、アルト 獨唱……………同 小鳥居 尊

イ、シュトラウス作「戀へわが魂」
ロ、〃 「愛をいだきて」

ハ、サン・サーンズ作・歌劇「サムソンとダリラ」中詠唱

四一、ピ アノ 獨奏……………同 中村 貞子

ブラームス作・ワルツ・作品三九

（第一、二、三、四、五、六、十一、十二、十三、十四）

——（休 憩）——

四二、ピ アノ 獨奏……………本科卒業 大和美智子

バッハ・リスト作・前奏曲と遁走曲・イ短調

四三、ホルン 獨奏……………同 藤 本 護

ゲディツケ作・協奏曲・へ短調・第二樂章

四四、ピ アノ 獨奏……………同 佐藤 節子

ショパン作・スケルツォ・變ロ短調・作品三一

四五、メッツォソプラノ 獨唱……………同 難波 千鶴子

ヴェルディ作・歌劇「ドン・カルロス」中エボリ姫の詠唱

四六、ピ アノ 獨奏……………同 前島 百代

バッハ・タウジヒ作・オルガン・トッカータと遁走曲・ニ短調

四七、ヴァイオリン 獨奏……………本科卒業 中村桃子
 モーツァルト作・協奏曲・ニ長調・第一樂章

四八、ピアノ 獨奏……………同 尹 琦 善
 ブラームス作・ソナタ・ヘ短調・作品五・第一樂章

混聲 合唱……………甲種師範科卒業生一同
 イ、「子等を思ふ歌」(ピアノ伴奏) 指揮 教授 澤崎 定之
 山上憶良作歌・信時潔作曲

ロ、「一億一心」(無伴奏)

野口米次郎作歌・橋本國彦作曲

作曲科卒業制作……………本科卒業 草 川 啓
 管絃樂曲「組曲」

昭和十七年一月二十四日 報国団第十回邦樂演奏會

昭和十七年一月二十四日(第四土曜日) 午後一時 開場
 午後一時半 開演

東京音樂學校報國團

第十回 邦樂演奏會

上野公園
 於本校奏樂堂

演奏曲目

一、能 樂(觀世流)

仕舞

蘆 刈(笠之段)

二、箏 曲(山田流)

那 須 野

シ	地	テ	詠	三	箏	三	絃
内	柳	藤	房	野	緒	林	野
房	房	伊	勢	口	形	美	い
子	子	子	子	子	子	子	子

三、長 唄 春 遊 び
 矢島 敏子
 山田 喜代子

四、箏 曲(生田流) 初 鶯
 水田 三子
 近藤 長緒
 野村 美通
 藤崎 敏子
 川崎 康子

五、能 樂(寶生流) (休憩十分)
 仕舞 高 砂
 植 當 田
 山 田
 川 田
 直 太
 治 郎

六、箏 曲(生田流) 比 良
 中島 三千代
 尾畑 芳子
 岡本 松子
 熱海 はな

七、長 唄 今 樣 竹 生 島
 三味線 三 川
 林 邦子
 井 田
 會 孝子

八、箏 曲(山田流) 四 季 の 調
 三味線 栗 原 夏江
 鹿 山 智子
 吉 田 稻子

九、長 唄 春 調 娘 七 種
 酒井 大
 塚 壽美
 熱海 はな

昭和十七年二月十七日 第九十六回定期演奏會
 昭和十七年二月十七日(火曜日) 午後五時開場
 六時開演

會場 日比谷公會堂
 音樂演奏曲目

東京音樂學校

I. 合唱・管絃樂

第四交聲曲「復活」……………バツハ作

(管絃樂 高田信一編曲)

シンフォニア(序曲)・アンダンテ

第一章・アレグロ(混聲合唱)

第二章・アンダンテ(女聲合唱)

第三章・プレスト(テノール齊唱)

第四章・アレグロ・モデラート(混聲合唱)

第五章・アンダンテ(バス齊唱)

第六章・アレグロ・エネルヂコ(ソプラノ及テノール合唱)

第七章・アダヂオ衆讚歌(混聲合唱)

II. トリオ獨奏(絃樂合奏附)

三重奏協奏曲・イ短調……………バツハ作

(マクス・レーガー編)

アレグロ・モデラート

アダヂオ・マ・ノン・タント・エ・ドルチェ

アレグロ

獨奏

ピアノ	高折宮次
ヴァイオリン	兎束龍夫
フルート	森正

——(休憩)——

III. ヴァイオリン獨奏(管絃樂附)

第七協奏曲・ニ長調……………モーツアルト作

アレグロ・マエストロゾ

アンダンテ

ロンド・アレグロ

ヴァイオリン獨奏 近藤 泉

IV. 管絃樂

協奏曲・ニ短調……………アントニオ・ヴィヴァルディ作

(管絃樂 アレキサンデル・シロテイ編曲)

マエストロゾーモデラート

ラルゴ

アレグロ

合唱 東京音楽學校 生徒

管絃樂 東京音楽學校管絃樂部

指揮 澤崎 定之

アレキサンドル・モギレフスキー

上野第九六回定期

バツハ作『第四交聲曲(復活)』合唱はなかなかよく習練されてゐた。管絃樂のヴァイオリンと聲樂のそれとの間に均衡のとれてゐないところがあつた。第三章や第五章に於いて特にその感が深かつた。

バツハ作、三重奏協奏曲イ短調(レーガー編)この形式は失敗である。かういふ風に絃樂合奏附ではソロ・ヴァイオリンがぼやけて、三重奏の意義をなさぬ。ソロ・ヴァイオリンが影が薄かつたのは、その演奏者にも責任がある。

モーツアルト作、第七協奏曲。これは一番樂しめた。管絃樂も相當こなれてゐたし、ヴァイオリン獨奏の近藤泉もよく奏いた。近藤は所謂天才型ではなく、孜孜として勉強しながら次第に練達して行く方の奏者である。

まだ時々うるほひのない音を出す、その純朴な感じは、輕薄な天才型より遙かによろしい。

ヴィヴァルディ作、協奏曲ニ短調（シロテイ編曲） いかにもイタリヤ風の流暢な音楽だ。結びの曲としては重みも深みも足りないが、これはこれなりに楽しめる。シロテイの管絃樂編曲も手際がいい。演奏もこなれてゐた。今や音楽が必須な時世となつた。音楽學校の管絃樂は大いに勉強して、もつと活躍してほしい。そして更にどつしりした曲を演奏してほしい。嘗てベルリオーズの『ファウスト墮地獄』を演奏した時評判が悪かつたが、私は、たとへ力に餘つても、演奏は下手でも、あのやうな大きな傑作に取組む勇氣を買ひ、總譜で見ることしかできなかった名曲をとにかくも聴かしてくれた事に感謝したものである。（二月十七日於日比谷公會堂）

【森本覺丹】
『音楽文化新聞』第七号、昭和十七年三月一日

昭和十七年三月二十二日 歡迎在京滿洲國人大會

昭和十七年三月廿二日

祝滿洲建國十周年

謝恩特派大使

歡迎在京滿洲國人大會

歌舞伎座

歡迎大會次第

第一部

一、國民儀禮

- 1、日滿國旗ニ對シ敬禮
- 2、宮城遙拜
- 3、宮廷遙拜

- 4、君が代齊唱（一回）（吹奏樂附）
- 5、滿洲國国歌齊唱（吹奏樂附）
- 6、默禱

二、李大使歡迎挨拶

三、特派大使挨拶

四、大日本帝國天皇陛下萬歲

五、滿洲國皇帝陛下萬歲

六、慶祝音樂演奏

合唱 東京音樂學校生徒
指揮 橋本國彦教授

- 1、滿洲國建國十周年慶祝歌（ピアノ伴奏合唱）（滿洲國政府制定）
- 2、海行かば（ピアノ伴奏合唱）（萬葉集大伴氏言立、信時潔作曲）
- 3、大日本の歌（ピアノ伴奏合唱）（東京音樂學校作曲、橋本國彦編曲）
- 4、一億一心（無伴奏合唱）（野口米次郎作詞、橋本國彦作曲）
- 5、愛國行進曲（無伴奏合唱）（橋本國彦編曲）

第二部

第一、棒しばり 第二、近江源氏先陣館

昭和十七年四月二十六日 銃後奉仕邦樂演奏會

日時 四月二十六日 正午開場
一時開演

場所 前橋市 群馬會館

銃後奉仕

邦樂大演奏會

出演 東京音樂學校生徒職員

主催 大政翼贊會群馬縣支部

（入場無料、但シ會場整理ノタメ會場入
口デ貯蓄債券購入ノ方ノミ入場セシム）

演奏曲目

國民儀禮

一、觀世流仕舞

い、網之段
ろ、鞍馬天狗

大和美 咲外
丸山里 子外

二、箏曲山田流

聖戰讚歌

乗杉嘉壽 作曲
中能島欣一 作曲

中能島欣一 外
職員 生 徒

三、箏曲生田流

うてや鼓

島崎藤村 作曲
宮城道雄 作曲

宮城道雄 外
牧瀬喜代子 外
職員 生 徒

四、長唄

譽れの若櫻

乗杉嘉壽 作曲
稀音家六治 作曲

稀音家六治 外
吉住小三八 外
職員 生 徒

特別演奏

い、軍神岩佐中佐
ろ、特別攻撃隊

一、朗 唱
二、四重奏
ソプラノ
アルト
テノール
バリトン

古川 太郎

永田みや子
千葉 静子
酒井 弘
藤井 典明

五、長唄

越後獅子變奏曲

九代目杵屋六左衛門 作曲
宮城道雄 編曲
獨 唱

吉住小三八

六、舞踊藤間流

い、さくら變奏曲

宮城道雄 作曲
藤間 紫 按舞
舞 踊 生 徒

ろ、長唄

京鹿子娘道成寺

職員 生 徒
稀音家六治
宮城道雄 外
職員 生 徒
舞 踊 生 徒
藤 間 紫
中村六 廣外
岡安喜三 郎外
望月吉三 郎外

昭和十七年五月二日 研究科聴講生修了演奏会

昭和十七年五月二日(土曜日) 午後一時開場
午後一時半開演

於 本校奏樂堂

研究科聴講生修了演奏曲目

東京音樂學校

一、ピアノ獨奏……………大島 正 泰

二、メッツォソプラノ獨唱……………相田 信 子

イ、ブラームス作・永遠の愛
ロ、シューベルト作・魔王

三、ピアノ獨奏……………村 田 榮

シューマン作・交響的練習曲・作品一三

四、ソプラノ獨唱……………安 西 愛 子

イ、ニコライ作・歌劇「ウインゾール^{ワール}の陽気な女達」中、アンナの詠唱

ロ、モーツァルト作・アレルヤ

五、ピアノ独奏……………富本陶

ブラームス作・ワルツ・作品三九

六、テノール独唱……………波平恵弘

ベートーヴェン作・六つの歌曲(ゲレルト作詞)

1、祈願、2、隣人への愛、3、死に就いて

4、大自然に現はれたる神の榮光、5、神の力と攝理

6、懺悔の歌

七、ピアノ独奏……………梅谷洋子

シューマン作・謝肉祭・作品九

八、ソプラノ独唱……………永田みや子

イ、シュトラウス作・子守歌・作品四一

ロ、モーツァルト作・歌劇「魔笛」中、夜の女王の詠唱と朗唱

九、ヴァイオリン独奏……………新井敏鐘

ブルッフ作・協奏曲・ト短調・第一、第二樂章

—〔休憩〕—

十、ピアノ独奏……………伊達純

ショパン作・幻想曲・ヘ短調・作品四九

十一、ソプラノ独唱……………三宅春恵

イ、モーツァルト作・歌劇「フィガロの結婚」中、伯爵夫人の詠唱

ロ、ヴェルディ作・歌劇「アイーダ」中アイーダの詠唱

十二、ピアノ独奏……………北村和子

シューマン作・謝肉祭・作品九

十三、ソプラノ独唱……………藤島晴子

イ、モーツァルト作・歌劇「フィガロの結婚」中、ケルビーノの詠唱

ロ、シューベルト作・紡車に倚れるグレーチェン

十四、ピアノ独奏……………佐伯貞子

リスト作・ソナタ風幻想曲(ダンテ・ソナタ)

バッハ作・シャコンヌ

十五、ヴァイオリン独奏(無伴奏)……………渡邊曉雄

ブラームス作・スケルツォ・變ホ短調・作品四

十六、ピアノ独奏……………下山智子

ドニゼッチ作・歌劇「ラムマームーアのルチア」中

ヘンリー・アシュトンの詠唱「憎悪と復讐の苦しみ我心に」

十七、バリトン独唱……………藤井典明

リスト作・ソナタ・ロ短調(二樂章より)

作曲指揮修了(演奏は後日行ふ)

シューベルト作・第三交響曲・ニ長調……………鈴木正三

ベートーヴェン作・第八交響曲・ヘ長調……………山本力

昭和十七年五月十六日 第九十七回定期演奏会

昭和十七年五月十六日(土) [午後五時半開場
午後六時開演]

會場 日比谷公會堂

定期演奏會曲目

東京音楽學校

ハイドン作・聖譚曲「四季」

Oratorium: Die Jahreszeiten……………J. Haydn

第一部 春

シモン(小作人)……………バリトン
 ハンネ(その娘)……………ソプラノ
 ルカ(若き農夫)……………テノール

1. 序曲と叙唱(冬より春へ)

2. 合唱(田舎人の春の歌)

3. 叙唱(シモン)

4. 詠唱(シモン)

5. 叙唱(ルカ)

6. 三重唱と合唱(祈願の歌)

7. 叙唱(ハンネ)

8. 重唱並に合唱(歡喜の歌)

第二部 夏

9. 序奏と叙唱(ルカとシモン) 曉

10. 詠唱(シモン)と叙唱(ハンネ)

11. 三重唱と合唱(太陽讃歌)

12. 叙唱(ルカ)

14. 叙唱(ハンネ)

15. 詠唱(〃)

16. 叙唱(シモン、ルカ、ハンネ)

17. 合唱(嵐の歌)

18. 三重唱と合唱(夕べの歌)

—(休 憩)—

第三部 秋

19. 序奏と叙唱(ハンネ)

20. 三重唱と合唱(勞作の歌)

21. 叙唱(ハンネ、シモン、ルカ)

22. 二重唱(ルカとハンネの愛の歌)

第四部 冬

29. 序奏(霧の冬來る)と叙唱(シモンとハンネ)

31. 叙唱(ルカ)

32. 詠唱(ルカ)

33. 叙唱(ルカとシモン)

34. リード(ハンネ)と合唱

37. 叙唱(シモン)

39. 三重唱と二重合唱

23. 叙唱(シモン)

25. 叙唱(ルカ)

26. 合唱(獵の歌)

27. 叙唱(ハンネ、シモン、ルカ)

28. 合唱(祝賀の歌)

獨 唱 ソプラノ 永田みや子

テノール 木 下 保

バリトン 藤 井 典 明

管 絃 樂 東京音楽學校管絃樂部

合 唱 東京音楽學校生徒

指 揮 ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

上野の演奏

ハイドンの「四季」

指揮者フェルマー氏は演奏會毎に何等かの進境を示し、管絃樂にも幾分進歩の跡が見えるが急奏の部分では依然として音色が濁り聲部の交換が円滑でない。最も人間性に溢れた「秋」の樂章などが極めて感動に乏しかったのも主として管絃樂の缺陷であるが、この日の合唱も上野としては期待

に反した拙劣さであつてこの曲特有の通俗的な感動を昂め得なかつた。

シモンを歌つた新人藤井典明氏は技術的には音色の變化といふ点で未だ不十分であるが、頭腦的には優れたひらめきをもつてゐる。(十六日、日比谷公會堂) 園部三郎

(『東京朝日新聞』昭和十七年五月二十日)

昭和十七年五月二十三日 第一三六回報國団演奏會

第百三十六回 報國團演奏會曲目

一、ピアノノ獨奏

オルゲルトツッカータとフーゲ ニ短調……………パツハ・タウジヒ

一、バス 獨唱

「冬の 旅」より 作品八十九……………シニューベルト

白髮の頭

鴉

嵐の朝

一、ピアノノ獨奏

ポロネーズ 變イ長調 作品五十三……………シヨパン

一、バリトン 獨唱

我が影……………シニューベルト

魔 王 作品一…………… //

一、ピアノノ獨奏

バラード ロ短調……………リスト

一、ピアノノ三重奏

ヴァイオリン 福元裕

ピアノ 梶原完

チ エ ロ 山 崎 孟

ピアノノ三重奏曲 ト短調 作品十五……………スメターナ

第一樂章 モデラート・アサイ

第三樂章 フィナーレ・プレスト

【休 憩】

一、バリトン 獨唱

麻生貞幸

アリオージ……………ヘンデル

アダライデ 作品四十六……………ベートーヴェン

一、ピアノノ獨奏

「ルチアとパ리지ーナ」の

二つのモテイーフに依るワルツ……………リスト

一、メツオソプラノ 獨唱

石井好子

夜……………作品十……………シニュートラウス

子守唄 作品四十二…………… //

献 呈 作品十…………… //

一、フリユート 獨奏

森 正

コンツェルトニ長調……………モーツァルト

第一樂章アレグロ…………… //

一、ソプラノ 獨唱

行方千鶴子

追 憶……………トステイ

オペラ「アドリアーナ」よりアドリアーナの詠唱…:チレア

秋の夕影……………ピツチネルリ

一、ピアノ 獨奏

馬 熙 純

協奏曲 ト短調 サン・サーンス
 第一樂章 アンダンテ システースト [原資料横組]
 第二ピアノ シロタ 教師

Sonnabend, den 23. Mai. 1942, nachmittags 1 Uhr.
 136 SCHÜLER-KONZERT
 DER MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Klavier-Solo H. Nakazono
 Orgeltokkata und Fuge d-moll.....Bach-Tausig
 Bass-Solo S. Umezu
Begl. Prof. T. Kinoshita
 Aus "Winterreise" Op. 89Schubert
 Der greise Kopf
 Die Krähe
 Der stürmische Morgen
 Klavier-Solo K. Simazaki
 Polonaise As-dur Op. 53Chopin
 Bariton-Solo T. Yokoi
Begl. T. Togari
 Der DoppelgängerSchubert
 Erbkönig Op. 1Schubert
 Klavier-Solo T. Takahasi
 Ballade h-mollLiszt
 Klavier-Trio *Klavier* H. Kajiwara
Violine Y. Fukumoto
Cello H. Yamazaki
 Klavier-Trio g-moll Op. 15.....Smetana.
 I. Satz : Moderato assai
 III. Satz : Finale—Presto

Pause

Bariton-Solo S. Asō
Begl. A. Watanabe
 AriosoHändel
 Adelaide Op. 46Beethoven
 Klavier-Solo K. Hata
 Valse de Concert
 sur deux motifs de "Lucia et Parisina"...Liszt
 Mezzosoprano-Solo Y. Isii
Begl. K. Isii
 Die Nacht Op. 10 Nr. 3Strauss
 Wiegenlied Op 41 Nr. 1Strauss
 Zueignung Op. 10 Nr. 1Strauss
 Flöte-Solo T. Mori
Begl. K. Nakada
 Flöte-Konzert Nr. II D-dur.....Mozart
 I. Satz : Allegro
 Soprano-Solo T. Namekata
Begl. T. Iguti
 PensoTosti
 Adriana LecouvreurCilea
 Tramonto d'autunnoPiccinelli
 Klavier-Solo K. Ma
2. Klarier. Prof. Sirota
 Konzert. g-mollSaint-Saëns
 I. Satz : Andante sostenuto

昭和十七年五月二十八日 海軍將士慰問演奏會

海軍將士慰問演奏曲目

出演 東京音楽学校職員生徒

國民儀禮

一、齊唱

い、海行かば

ろ、大東亞戰爭海軍の歌

は、太平洋行進曲

二、合唱

い、勇敢なる水兵

ろ、特別攻撃隊

は、軍神岩佐中佐

三、絃樂四重奏

四、箏と提琴

い、六段

ろ、春の海

(休憩)

五、朗誦と朗吟

い、軍神岩佐中佐

ろ、軍神廣瀬中佐

六、長唄新曲譽れの若櫻

七、舞踊藤間流

指揮 藤井典明

朝日新聞社選曲
東京音楽学校作曲
海軍省選定
大阪毎日東京日日新聞

橋本國彦編曲

東京音楽学校選曲

同 東京音楽学校作曲

岡上武二 弘夫 龍 東 澤

獨奏 宮城道雄

提琴 宮城道雄

井上武雄

古川太郎

古屋富藏

古屋富藏

古屋富藏

吉住小三郎

稀音家六郎

稀音家六郎

い、箏曲 さくら變奏曲
ろ、長唄 岸の柳

伴奏

舞踊科生徒
箏曲科職員生徒
藤間紫
長唄科職員生徒

昭和十七年五月三十日 選科邦樂修了演奏會

昭和十七年五月三十日(土曜日) 午後一時開場

於 本校奏樂堂

選科邦樂修了演奏曲目

東京音楽學校

寶生流 能樂連吟

一、百萬

二、高砂

三、遠碓

四、小銀治

五、花

觀世流 能樂連吟

……休憩……

……休憩……

……休憩……

……休憩……

……休憩……

小野信子 地謠 山川 知

平澤壽之 地謠 佐藤三郎

今井象次 地謠 栗本東一

岩井佳子 地謠 高草數江

下村幸子 地謠 高草數江

吉松房枝 地謠 高草數江

磯部つや子 地謠 高草數江

宮城道雄 地謠 高草數江

塚本俊子 三味線 福永徳子

吉濱みほ子 三味線 鈴木喜美代

鈴木淳江 三味線 鈴木喜美代

荒島安江 三味線 鈴木喜美代

高島安江 三味線 鈴木喜美代

……休憩……

……休憩……

……休憩……

六、忠 靈

ワシ
キテ
加藤雅雄
森見保三
田廣三郎
白邊竹生
勢敬二

七、水の變態

生田流 箏曲
宮城道雄 作曲
箏 小野 衛

長唄

八、櫻 二 題

吉住小三郎 補導
稀音家六富佐 作曲

職員及選科生徒

藤間流 舞踊

九、箏 櫻變奏曲

宮城道雄 作曲

箏 選選科科生徒

昭和十七年六月六日 報國團第十一回邦樂演奏會

昭和十七年六月六日 (第一土曜日) 午後一時開場
午後一時半開演

東京音樂學校報國團

第十一回 邦樂演奏會

上野公園
於本校奏樂堂

演奏曲目

能樂 (寶生流仕舞)

シテ 植田正治

地謠 當山俊道
菱田尙三

一、箏 箏曲 (生田流)

二、千鳥の曲

箏替手 土屋澄
" 本手 川上千恵子
" 曾根國子
" 横山泰子

三、連 獅子

山田頼子
矢島敏子
加藤美智子
山喜代子

三味線
椎野敏子
林昭子
池田英子
會田子

四、近江八景

箏曲 (山田流)
三味線
緒形美恵子
徳永静子
林美恵子
鹿山智枝

(休憩十分)

能樂 (觀世流仕舞)

五、花 筐 (クルヒ)

シテ 吉田敬子

地謠
塚田満都子
藤井伊勢子
内藤房子
柳房枝子

箏曲 (山田流)

六、ひぐらし

箏
小松枝子
山口松子
野口み江子
栗原夏江子

長唄

七、綱 館

熱海はな子
岡本芳子
尾畑芳子

三味線
川又敦子
磯田紀美子
鶴川紀美子

箏曲 (生田流)

八、虫の武藏野

箏
近藤敏子
長方康子
緒村通子
水野美恵子
三川直治
山川直治

長唄

九、譽れの若櫻

吉住小三八

三味線
稀音家六徒
職員生徒

昭和十七年六月十四日 第一三八回報國團演奏會

東京音樂學校報國團

第三百三十八回 報國團演奏會曲目

昭和十七年六月十四日 (日) 午後一時

一、バリトン 獨唱

永吉大三
伴奏 外狩 伸一

道しるべ……………シユーベルト

孤 獨…………… //

しぐれに寄する抒情…………… 平井保喜

二、ソプラノ 獨唱

山手 孝
伴奏 黒澤 愛子

戸の外で……………マリヲ・カツトーニ

歌に生き戀に生き……………ジャコモ・プツチーニ

一、ピアノ 獨奏

西岡 光夫
ポロネーズ 變イ長調 作品五三……………シヨパン

一、バリトン 獨唱

藤原 高夫
伴奏 村山 芳男

「冬の旅」より 作品八十九……………シユーベルト

菩提樹

溢るゝ涙

一、作品 發表

岡崎 政子
ベートーヴェンの主題に依る變奏曲

一、バリトン 獨唱

秋元 清一
伴奏 安藤 仁一郎

ニールンベルグの「平民歌手」より……………ワグナー

ザツクスの獨白

ザツクスの終幕の歌

【休憩】

一、絃樂 四重奏

第一ヴァイオリン 渡邊 曉雄
第二 " 伊達 良

ヴィオラ 河野 俊達
セロ 黒沼 俊夫

絃樂四重奏曲 ニ短調「死と少女」より……………シユーベルト

第一樂章 アレグロ

第二 " アンダンテ・コン・モート

第三 " スケルツァ

一、ピアノ 獨奏

田村 宏
伴奏 永井助教授

協奏曲 ト長調……………ベートーヴェン

第一樂章 アレグロ・モデラート

一、ソプラノ 獨唱

山口 和子
伴奏 井上 愛子

「聯隊の娘」より マリアのロマンツァ……………ドニゼッティ

「椿姫」より 乾盃の歌……………ヴェルディ

一、ピアノ 獨奏

松野 景一
伴奏 永井助教授

協奏曲 變ホ長調……………ベートーヴェン

第一樂章 アレグロ

一、テノール 獨唱

前田 幸市郎
伴奏 田鍋宗三郎

オ・マレナリエルロ……………ガンバルデラ

アヴェ マリア……………マスカーニ

一、ピアノ 獨奏

原 口 歌
伴奏 シロタ 教師

協奏曲 ニ短調……………ラハマニノフ

一、管 絃 樂

生徒管絃樂部
指揮 渡邊 曉雄

交響曲「驚愕」ト長調 ベートーヴェン
 第一樂章 アダダラ カンタビレ ヴァイヴァーチエ アツカイ
 第二 〃 アンダンテ
 第三 〃 メヌエット アンゲロ モテラート

[原資料横組]

Sonntag, den 14. Juni 1942, nachmittags 1 Uhr.
 138 SCHÜLER-KONZERT
 DIE MUSIKAKADEMIE ZU TOKIO

PROGRAMM

Bariton-Solo T. Nagayosi.
Begl. C. Togari.
 Der Wegweiser.....Schubert.
 Einsamkeit.....Schubert.
 Sigure ni yosuru jojō.....Y. Hirai.
 Soprano-Solo K. Yamate.
Begl. A. Kurosawa.
 Fuori di portaCotogni.
 Aus der Oper "Tosca"Puccini.
 Vissi d'arte
 Klavier-Solo M. Nisioka.
 Polonaise As-dur Op. 53.Chopin.
 Bass-Solo T. Fujiwara.
Begl. Y. Murayama.
 Aus "Winterreise" Op. 89.....Schubert.
 Der Lindenbaum
 Wasserflut
 Komposition M. Okazaki.
 Klavier-Solo. M. Okazaki.
 Variationen über Thema von Beethoven

Bariton-Solo S. Akimoto.
Begl. J. Andō.
 "Die Meistersinger von Nürnberg".....Wagner.
 Monolog von Sachs.
 Schlusslied von Sachs.

Pause

Quartett 1. Violine A. Watanabe.
 2. Violine R. Date.
 Viola S. Kono.
 Cello T. Kuronuma.
 Quartett d-moll.....Schubert.
 I. Satz : Allegro.
 II. Satz : Andante con moto.
 III. Satz : Scherzo.
 Klavier-Solo H. Tamura.
 2. Klavier. Prof. Nagai.
 Konzert No. 4. G-dur.....Beethoven.
 I. Satz : Allegro. moderato.
 Soprano-Solo K. Yamaguti.
 A. Inouwe.
 "La figlia del reggimento".....Donizetti.
 Convien partir!
 "La Traviata"Verdi
 Brindisi
 Klavier-Solo K. Matuno.
 2. Klavier. Prof. Nagai.
 Konzert No. 5. Es-dur.....Beethoven.
 I. Satz : Allegro.
 Tenor-Solo K. Maeda.
Begl. Prof. J. Imai.
 MarenarielloGambardella.

Ave Maria.....Mascagni.
Klavier-Solo U. Haraguti.

2. Klavier. Prof. Sirota.
Konzert d-moll.....Rachmanninoff.

I. Satz:

Orchester Leitung. A. Watanabe.

Symphonie No. 94. G-dur.....Haydn.

I. Satz: Adagio Cantabile, vivace assai.

II. Satz: Andante.

III. Satz: Menuetto allegro molto.

昭和十七年六月十八日～二十二日 演奏旅行(京都・大阪・名古屋)

青少年のための

東京音楽学校晝間演奏會

指揮 ヘルムート・フェルマー
ピアノ 石井 京
獨奏 東京音楽学校 管絃樂部
管絃樂 東京音楽学校 職員生徒
合唱 東京音楽学校 職員生徒

六月十九日 午後四時 京都朝日會館

六月二十・二十一日 午後二時 大阪朝日會館

六月二十二日 午後三時 名古屋市公會堂

主催 朝日新聞社會事業團

1 管絃樂 曲 目

第五交響曲 ハ短調 作品六七.....ベートーヴェン作
第一樂章 アレグロ・コン・ブリオ

2 ピアノ獨奏・管絃樂附

第五協奏曲 變ホ長調 作品七三.....ベートーヴェン作

第一樂章 アレグロ

ピアノ獨奏 石井 京

3 ヴァイオリン獨奏・管絃樂附

第七協奏曲 ニ長調.....モーツァルト作

第一樂章 アレグロ・マエストロゾ

ヴァイオリン獨奏 近藤 泉

4 合唱と管絃樂 三曲

イ、樂劇「ニユールンベルグの平民歌手」第三幕より

「ハンス・ザックス讚美の合唱」

ロ、歌劇「ローエングリン」第二幕より

「會堂への行進と合唱」

ハ、歌劇「タンホイゼ」第二幕より

「大行進曲と合唱」

〔原資料横組〕

朝日事業團が東音大演奏會

京都、大阪兩市に於いて開催

朝日新聞社會事業團では東京音楽学校大演奏會を京都及び大阪に於て開催、ヘルムート・フェルマーの指揮で左の曲目を演奏する

(1)第五交響曲(ベートーヴェン曲) (2)ピアノ協奏曲第五番(ベートーヴェン曲) (3)合唱と管絃樂ワグナー作歌劇より三曲、ピアノ獨奏者は石井京

日取りは六月十八、十九日午後七時半より京都朝日會館、廿、廿一日午後七時半より大阪朝日會館

尙十九日午後四時京都朝日會館二十、二十一日午後二時大阪朝日會館に於いて「青少年のための晝間演奏會」を開催した。

〔音楽文化新聞〕第十八号、昭和十七年六月二十日

至妙の音律に陶醉

東京音楽學校大演奏會

本社社會事業團主催東京音楽學校大演奏會第一日の十八日は午後一時から京都朝日會館で催されたが東本願寺光暢法主、智子裏方の顔も見え會場は立錐の余地もない盛況で演奏曲目はヘルムート・フェルマー氏指揮のベートーヴェン第五交響曲にはじまり石井京さんのピアノ獨彈、合唱と管絃樂三曲が見事に演奏され聴衆は至妙のオーケストラに陶醉した

〔大阪朝日新聞〕昭和十七年六月十九日

昭和十七年六月二十日 春季選科洋楽演奏會

昭和十七年六月二十日(土曜日) 午後一時開場
午後一時半開演

於 本校奏樂堂

春季選科洋楽演奏曲目

東京音楽學校

- 一、ピアノ獨奏……………犬飼 綾子
- パピリオン^{マモ}・作品二……………シユーマン作
- 一、アルト獨唱……………金綱ひろ子
- 歌劇 オルフオイスより……………グルツク作
- 「ユーリデイチェなき日に」
- 一、ピアノ獨奏……………太田 和子
- イ、ベルソース・作品五七……………シヨパン作

- ロ、ヴァルスブリルランテ・作品三四ノ一……………シヨパン作
 - 一、ソプラノ獨唱……………金坂美知子
 - イ、胸のいたみ……………スカラッテイ作
 - ロ、太陽はガンヂェス河に昇る……………スカラッテイ作
 - 一、ピアノ獨奏……………依 利子
 - ポロネーズ・作品四四……………シヨパン作
 - 一、メゾソプラノ獨唱……………木村 信子
 - イ、薔 薇 に……………クルシユマン作
 - ロ、春の信仰……………シューベルト作
 - 一、ピアノ獨奏……………大澤 良江
 - バラード・作品四七……………シヨパン作
- 〆 休 憩 〆 —
- 一、ピアノ獨奏……………田地 米子
 - 三十二ヴァリエーション……………ベートーヴェン作
 - 一、アルト獨唱……………佐藤 艶子
 - 歌劇 オルフオイスより……………グルツク作
 - 「ユーリデイチェなき日に」
 - 一、ピアノ獨奏……………小野 治子
 - アベックヴァリエーション・作品一……………シユーマン作
 - 一、ヴァイオリン獨奏……………小 坏 清子
 - コンツェルト・ト短調・第一樂章……………ヴィヴァルディ作
 - 一、ピアノ獨奏……………飯 田 晴子
 - スケルツォ・變口短調・作品三一……………シヨパン作

昭和十七年八月一日 滿洲大行進曲獻呈式

滿洲大行進曲獻呈式次第

昭和十七年八月一日(土)午後二時 於東京音樂學校

一、宮城遙拜

一、帝宮遙拜

一、日滿兩國歌奉唱

一、默 禱——海行かば——

一、滿洲大行進曲獻呈ノ辭 滿洲建國十周年慶祝會顧問
日滿文化協會副會長

一、謝 辭 駐日滿洲帝國大使 岡部長景閣下
李 紹庚閣下

一、日滿兩國萬歲三唱 引續キ演奏ヲ行フ——

1. 慶 祝 曲 滿洲建國十周年慶祝會制定

滿洲大行進曲 滿洲建國十周年慶祝會制定

愛國行進曲 東京音樂學校作曲

大東亞の黎明 乘杉嘉壽作詞 安部幸明作曲

大日本の歌 東京音樂學校作曲

2. 交 響 曲・二調 皇紀二千六百年記念 橋本國彦編曲

紀元節祝日歌による主題と變奏及遁走曲 橋本國彦作曲

輕快調

—— 休 憩 ——

3. 合 唱 曲・獨 唱・管 絃 樂

交響曲「海道東征」北原白秋作詞 信時 潔作曲

紀元二千六百年奉祝藝能祭制定

高千穂

大和思慕

御船謠

速吸と菟狹

天業恢弘

獨 唱

女聲高音 山内秀子
中音 千葉靜子
男聲高音 酒井弘
低音 藤井典明

他

以上全曲指揮教授橋本國彦

〔手書き〕

橋本國彦作曲

交 響 曲 二調〔解説〕

作曲者はこの記念曲に二ケ年の歳月を費し、努力を重ねて日本人の手に
なつた眞に日本的交響曲の最初の大作を完成したのである。

建國の精神、悠久の國風、躍動の日本、文化の精華等この一大交響曲の
内容として遺憾なく表現され、しかもその表現に我國古來の音樂文化の諸
相即ち雅樂調を、民謡調を、長唄調を巧みに編み、しかも模倣の域を脱し
て、西洋音樂を十二分に會得した作曲家橋本國彦氏が正に皇紀二千六百年
にして初めて意義深い新大作を完成したものと云ふべきである。交響曲・
二調とあつて長短両調のいづれにも指定されないのは(D)が基音である
といふ意味で雅樂調の壹越に當るものである。演奏所要時間は三樂章全曲
で五十分である。然しここでは時間の都合で第三樂章のみを演奏する。

昭和十七年八月五日～二十八日 滿洲建國十周年慶祝演奏旅行

日程 [台風が接近したため、実際の帰京は三十日となった。]

日	曜	地名	發着時刻	列車番號	演奏回数	開演時刻	演奏會場	宿泊
5	水	東京	發 20.00	大阪行急行				車中
6	木	神戸	着					
7	金	土	發	商 船				船中
8	日	大連	着					同
9	月							同
10	火				1	19.00	昭和園	大連
11	水				1	19.00	協和會館	同
12	木				2	14.00 19.00	同	同
13	金	大連	發 9.30	11 特 急				
14	土	新京	着 17.55					新京
15	日				1	19.00	記念公會堂	同
16	月				3	9.00 14.00 19.00	大同公堂	
17	火	新京	發 22.40 23.50	603 903	2	14.00 19.00	同	車中
18	水	ハルピン	着 6.32 7.40					ハルピン
19	木				1	19.00	厚生會館	同
20	金	ハルピン	發 22.00	18 (急行)	2	14.00 18.00	同	車中
21	土	奉天	着 8.00		1	19.00	記念會館	奉天
22	日		發 22.50	54	2	14.00 18.00	同	車中
23	月	平壤	着 16.33		1	19.30	公會堂	平壤
24	火		發 6.10	138				

24	月	京城	着 14.25					1	19.00	府民館講堂	京城
25	火							2	14.00 19.00	同	同
26	水		發 0.45					4 (急行) 連絡船			車中
27	木	釜山	着 8.45								
27	木	下關	發								
28	金	東京	着 15.25								

役 員

役	職 員	生 徒
總務	○ 馨 小澤 鈴木 山本 長谷川	高橋 濱田 林
演奏	○ 遠藤 鈴木 山本 藤井	合唱 中目 村山 加藤 田中 管絃樂 森 河野
樂器	○ 鈴木 小林	第三班 十日～十六日 鈴木 山本 内田 大石 第二班 十七日～二十一日 佐久間 檜山 岡本 大橋 秋葉 第一班 二十二日～二十五日 森 河野 糟谷 小島 伊達 白
指揮	○ 橋本 金子 藤井	
衛生	○ 永田 栗原 岩崎 松浦 山内	五日～九日 花輪 大西 十日～十五日 石田 手塚 十六日～二十日 須賀 横山 とも 二十二日～二十八日 藤村、嶋崎

輸送	○岡田二 岡見 渡邊 岡田朗 喜多	永吉 横井 佐野 原
旅館	○山本 新井 尹	五日—九日 桃井 中田 十日—十五日 秋元 古賀 十六日—二十一日 山田 船越 二十二日—二十八日 藤村 森岡 柏葉
食事	○松田 伊達 中田	岡本 田鍋 藤原 鹽野 杉山 佐々木
部員	○平井 酒井弘 松浦	
生徒	男生徒○井上、藤井 女生徒○兔束、酒井弘	五月—十月—十一月—十二月 九日—十五日—二十一日—二十八日 第一班 中目 田鍋 糟谷 伊達 〃〃 小方 矢野 大島 中山 〃〃 須賀 荻谷 平田 藤村 〃〃 加藤 内田 益子 井口 〃〃 中田 國保 田中 廣田 〃〃 森岡 戸田 平田 眞籠 高澤 矢野 畑中 春日 山口
記録	○遠藤	

參加者名簿

職員

乗杉團長、平井、馨、遠藤、橋本、井上、小澤、鈴木、永田、小林、酒井、栗原、岡田二、兔束、岡見、松浦、松田、金子、山内秀、山本、岩崎、酒井弘、藤井、渡邊、伊達、千葉、山内、新井、中田、劍持、馬、岡田朗、喜田、中村、山口、尹、長谷川

男生隊 五二名

第一班(二十二名)

本科三年(十名)

中目徹、石田正年、田鍋宗三郎、伊達良、河野俊達、糟谷敬、森正、小島

英二、白俊英、林威彦

本科二年(十二名)

秋元清一、鈴木重教、畑中良輔、新井段用(潔)、山田正次、田村宏、中田喜直、佐久間活也、檜山薫、大橋幸夫、岡本泰氏、秋葉良造

第二班(十六名)

師範科三年(十六名)

小方弘、岡本二郎、柏葉堅太郎、佐野日出男、高澤敏、高橋恒治、中山良通、永吉大三、花輪洋、原光、濱田久夫、藤原高夫、村山芳男、桃井邦雄、矢野文康、横井輝男

第三班(十四名)

本科一年(八名)

須賀靖和、荻谷納、平田慎一、藤村晃一、野間太郎、鈴木清三、山内幸男、山瓶錫太郎

豫科(六名)

奥田園生、萩原哲昌、内田富美彌、早川博二、戸田土雄、大石清

女生隊 四八名

第一班(十二名) 本科三年

内田列子、加藤昌子、益子萬里子、井口妙子、古賀千恵、杉山ハルエ、手塚芳枝、吉田民子、佐々木アヤノ、杉原淑子、津野文子、菊地ルリ子

第二班(二十二名) 師範科二年

岡野甲子、尾崎貴美子、大西貞子、春日千回、兼松登代子、川内澄江、北浦安子、國保文子、重松良子、鹽野克子、嶋崎清、千田滿生子、田中富子、對島カヅ子、富永淺子、中園久子、中田千鶴子、廣田郁子、船越壽美、山田カヨ子、横山とも、若樹ひさ子

第三班(十四名)

本科二年(五名)

戸田敏子、平田黎子、眞籠五三子、森岡敦子、山口和子

本科一年(七名)

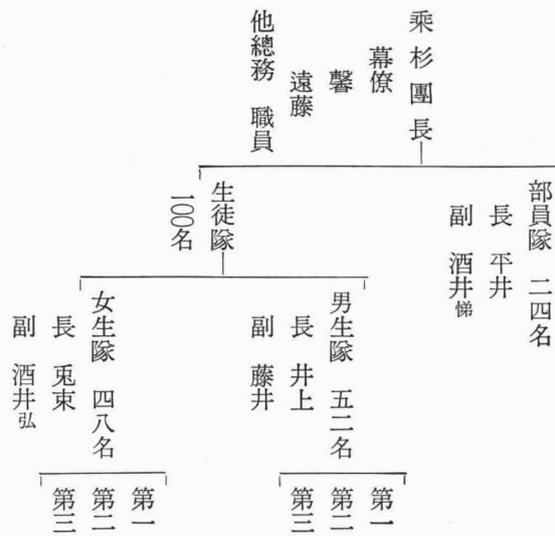
安齋彩子、岩下敏子、砂原美智子、高橋照子、根本ツネ子、平山美智子、

山本篤子、内田滋子

豫科(一名)

武田スミ子

體形編成表



東京音樂學校管絃樂部員名簿(順序不同)

井上 武雄	田村 五郎	小澤 弘
栗原 大治	石黒 碩一郎	盛口 勝三
福井 巖	近藤 泉	黒羽 亘
桂 平太	水口 幸磨	城多又 兵衛
松浦 きみよ	荒木 幹枝	鈴木 正三
岩崎 吉三	藤田 繼人	山本 力
渡邊 曉雄	増田 尙一郎	中津井 實
清野 保子	伊藤 純三	伊達 純
岡田 次郎	平田 忠	永田 晴

杉田 潤	小宮山 繁	安部 幸明
兎束 龍夫	小谷 芳朗	深海 善次
林 良輝	岩本 政藏	今村 清一
大岡 運英	河籬 美恵子	福家 軍平
岡見 温彦	朴 敏鐘	松谷 穰
松田 十藏	榎本 長四郎	金子 登
田中 富貴子	喜田 遷吉	萩原 英一
清田 金吾	松村 重利	高田 三郎
山内 妙子	平井 保三	
多 久興	酒井 悌	

注意事項

一、出發等ニ關スル事項

①八月五日 出發當日午前十時登校乗杉團長ノ訓示ヲ得ク。荷物携行ニ及バズ。出發ニ關スル詳細ヲ指示ヲ行フ。

②同日午後六時東京驛乗車口ニ集合點呼ノ上滿洲建國十週年慶祝會主催ノ壯行式ニ臨ム。ソノ際、ゲートル着用。式後乗車。

一、服裝ニ關スル事項

男生徒 制服。ズボン黒、蝶及ビ長ネクタイ。Yシャツ白。特ニ指示スル場合ノ他シャツズボンハ自由。靴黒。帽子戰鬪帽。

女生徒 規準服。別ニ夏校服及ビ袴ヲ用意、特ニ指示スル場合ノ他質素ナ服ヲ用フ。帽子白ノ運動帽。

名札。男女共名札ヲ着ケル事。男子ハ教練用ノ名札ヲ用フルモ可。白布ヲ用フル者ハ縦六糎横四糎トス。各自ピンヲ用意シ取りハズシノ出來ル様ニスル事。

一、携行スベキモノ。

リュックサックノ他鞆一個マデ可。ソノ他二日用品。スウェーター、腹巻、寢衣(浴衣)

○男生 下着、Yシャツ、カラー各四・五枚位。

○女生 制服ノ他服三・四枚位。

○共通 水筒(生水ハ絶體ニ飲用スベカラズ)。洗濯石鹼。船中ノ食料品(罐詰類)ヲ用意スルモ可。胃腸ソノ他ノ藥品類ハ學校ニ於テ用意スルモ別ニ各自用意スルヲ可トス。(梅肉エキス。クレオソート、船酔ノ藥、虫除ケ)。衣類及ビ携行品ハ各自姓名ヲ記入スル事。雨具ハ洋傘ヨリレイン・コートヲ便トス。寫眞機ハ特ニ許可シタモノ以外ニハ携行セザル事。

一、携行品ノ證明

寫眞機、望遠鏡等ノ高價品ハ歸路輸入品ト見做サレル處レガアルカラ神戸税關ニテ携行品證明ヲ受ケル事。

一、通貨兩替ノ問題ハソノ都度係員ヨリ説明ス。

一、土産物ト税關

必要ナ手廻り品以外ハ課税スルヲ原則トス(安イ珍ラシイデ買ツタガ課税サレテ高イ土産ニナツタ例ハ澤山アル)。

一、携帶品ハ左ノ區分ニ依リ税關ノ検査ヲ受ケネバナラス。

①神戸Ⅱ大連、神戸税關

②大連Ⅱ關東州外大連驛、手荷物ハ驛手小荷物検査所

○携帶品中課税品アル場合ハ同驛検査所ニ任意申告ヲ要ス。

○安東經由。安東驛 携帶品ハ車内、手荷物ハ驛ホーム検査所。

一、煙草 自用ト認メタ場合ニ限り記載量ダケ免税サレル。尙煙草ハ検査ノ認印ヲ必ず受ケネバナラス。

葉卷二十五本 一人ニ付何レカ一種ニ限ル。但シ葉卷、紙卷兩

○煙草 紙卷五十本 方ノ場合ハ各半量トス。

刻ミ十五匁

○砂糖菓子……合セテ十斤位マデ。

○ロシヤ飴……五・六罐位マデ。

○支那ノ織物 絹紬一反 一人ニ付何レカ一品ニ限ル

絹緞十尺

緞子十尺

一、撮影寫眞禁止

左ノ場所ハ要塞地帯デアルカラ寫眞撮影及模寫ハ要塞司令官ノ許可(旅順及其ノ附近ハ更ニ要港部司令官ノ許可)ヲ要ス。大連及ビ其ノ附近、旅順及其附近、鴨綠江鐵橋及其附近、圖們鐵橋及其ノ附近、但シ此ノ外ニモ鐵橋、框舎ハ一般ニ禁止サレテキル。

〔演奏旅行の全日程で演奏された曲を列挙すると次のようになる。これらの中から、各演奏会ごとに適宜組み合わせて、プログラムが構成されている。〕

國民儀禮(遙拜、君が代、默禱)

海行かば 大伴氏言立、信時 潔作曲

皇軍慰問の歌 乗杉嘉壽作詞、下總皖一作曲

大日本の歌 東京音楽學校作曲、橋本國彦編曲

滿洲大行進曲 滿洲建國十周年慶祝會および日滿文化協會制定 東京音楽學校作曲

學校作曲

大東亞の黎明 乗杉嘉壽作詞、安部幸明作曲

奉天市歌 橋本國彦作曲

一、混聲合唱(無伴奏) 吹奏樂伴奏、指揮 鈴木正三、山本力

イ、大島節、民謠 信時潔作曲

ロ、雉子がなく 下總皖一作曲

ハ、春の雪 全

ニ、愛國行進曲 内閣情報部制定 橋本國彦編曲

ホ、皇軍慰問の歌(ピアノ伴奏) 乗杉嘉壽作詞、下總皖一作曲

二、ピアノ獨奏

イ、夜曲 第三「愛の夢」變イ長調、リスト作曲

ロ、ポロネイズ 第二、ホ長調、リスト作曲

三、合唱、獨唱、管絃樂

交聲曲「海道東征」北原白秋作詩、信時 潔作曲

皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定

高千穂、大和思慕、御船謠、速吸と菟狹、白肩の津上陸、天業恢弘

指揮 金子 登

伊達 純

四、管絃樂

交響曲・ニ調 皇紀二千六百年記念建國祭本部制定

○「紀元節祝日歌による主題と變奏及遁走曲」

○「輕快調」

獨唱 女聲高音 山内秀子

中音 千葉靜子

男聲高音 酒井 弘

低音 藤井典明

八、ヴァイオリン獨奏・管絃樂附

第四協奏曲、ニ長調、第一樂章 モーツァルト作曲

獨奏 馬 熙純

獨奏 尹 琦善

獨奏 新井敏雄

指揮 渡邊曉雄

九、獨奏トロンボーンと小管絃樂

祝 宴 中田一次作曲

獨奏 白 英俊

指揮 中田一次

指揮 酒井 弘

ピアノ伴奏 中田一次

十、男聲高音獨唱

イ、城ヶ島の雨 梁田 貞作曲

ロ、荒城の月 瀧 廉太郎作曲

ハ、銚をおさめて 中山晋平作曲

ニ、砂丘の丘 小松耕輔作曲

十一、女聲高音獨唱

イ、歌劇「ラ・ボエーム」中ミミの詠唱

ロ、子守唄 山田耕筰作曲

ハ、母の聲 同

ニ、からたちの花 同

ピアノ伴奏 山内秀子

指揮 伊達 純

指揮 プッチーニ作曲

ピアノ伴奏 千葉靜子

指揮 伊達 純

十二、女聲中音獨唱

イ、小夜曲 シューベルト作曲

ロ、通りゃんせ 本居長世作曲

ハ、平城山 平井保喜作曲

ニ、九十九里濱 平井保喜作曲

ピアノ伴奏 伊達 純

指揮 伊達 純

五、獨唱・管絃樂附

イ、「母の歌」橋本國彦作曲

ロ、「田植歌」 同

高音獨唱 山内秀子

中音 千葉靜子

六、ヴァイオリン獨奏〔I〕

イ、ロンドイーノ ベートーヴェン作曲

ロ、ロマンス ウィニアウスキー作曲

ハ、スペイン舞曲 デ・フアリア作曲

獨奏 岩崎吉三

ピアノ伴奏 田村 宏

ヴァイオリン獨奏〔II〕

イ、ロマンス ウィニアウスキー作曲

ロ、華麗なるポロネーズ 同

獨奏 近藤泉水

ピアノ伴奏 伊達 純

七、ピアノ獨奏・管絃樂附

協奏樂曲 ウェーバー作曲

十三、獨唱・吹奏樂附

イ、荒城の月

ロ、スパニョーラ

ハ、サンタ・ルチア

ニ、皇軍慰問の歌

獨唱 東京音樂學校聲樂科女生徒

指揮 鈴木正三

十四、吹奏樂

イ、行進曲「希望に燃えて」 陸軍々樂隊作曲

ロ、「ロザムンデ」舞曲と間奏曲 シューベルト作曲

ハ、太平洋行進曲 陸軍々樂隊作曲

十五、絃樂四重奏

四重奏曲 ハ長調より「皇帝頌歌變奏曲」急速調 ハイドン作曲

第一ヴァイオリン 渡邊曉雄

第二ヴァイオリン 伊達 良

ヴィオラ 河野俊達

チェロ 小澤 弘

〔以上すべて手書き〕

滿洲國の音樂行事

上野の奉祝演奏旅行

三月一日滿洲建國十周年記念日を迎へ内地でも種々の慶祝行事に賑はつたが、友邦滿洲國では新京音樂院を中心として大々的な音樂企畫を練つて居り、日本作曲家への奉祝管絃樂曲依頼、東亞人に依る管絃樂曲募集等もその一つであるが、この程友邦の將來への發展と益々力強き盟約に巢立ち行くことを慶祝して、東京上野音樂學校では、今春卒業する男女各生約二百十名が大舉演奏旅行に渡滿し之に大々的の奉祝の意を表することゝなり、目下具體化を協議中である。

これは、日滿中央會の斡旋になるもので、話は極く最近に入つてからなので、曲目、引率委員等の顔觸れは未だ決定されてゐないが大體、藝能祭制定、北原白秋作詞信時潔作曲「海道東征」及び三つの管絃樂曲が準備されるものとみられてゐる。

〔音樂文化新聞〕第七号、昭和十七年三月一日

建國祝ふ音樂使節團

慶祝祭典に大舉渡滿

秋の新京樂壇を飾る 日滿協和の豪華な旋律

輝く滿洲の建國十周年を慶祝するため二つの豪華な音樂使節團が各々滿洲國新京へ派遣された。

一つは滿洲建國十周年慶祝會より派遣された東京音樂學校の乗杉校長を首班とする職員生徒百三十七名の一行であり他の一つは日本音樂文化協會が滿洲國祝典委員會からの依頼によつてこれを演奏家協會が編成した山田耕筰氏を總指揮とする四十五名の一行である。

東音慶祝使節團

目下各地で公演中

滿洲建國十周年慶祝會が派遣した東京音樂學校慶祝音樂使節團の一行は前記の如く乗杉校長以下職員、生徒百三十七名から成る交響樂團及び合唱團で、八月五日東京驛出發八月十五日より新京を始めとして目下滿洲國各地を公演中であるが。

出發に先立ち去る八月一日午後二時より上野の東京音樂學校奏樂堂で滿洲國大使を中心とする試演會が開かれた。

聴衆は李滿洲國大使をはじめとして滿洲國關係者、月島陸軍病院の白衣の勇士百五十名、慶祝會、日滿文化協會關係者等五百餘名で

まづ滿洲國に献呈するため、さきに滿洲建國十周年慶祝會と日滿文化協會が制定、東京音樂學校作曲によつて完成した『滿洲大行進曲』の樂譜が

日滿文化協會副會長岡部長景子(爵)によつて李滿洲國大使に贈呈され、同大使の謝辭があつて演奏に入り乗杉嘉壽作詞、安部幸明作曲『大東亞の黎明』東京音樂學校作曲橋本國彦編曲『大日本の歌』ほか紀元二千六百年記念の諸作品を演奏感激裡に終了した。

更に五日六時半から東京驛前廣場で盛大なる壯行會が行はれた。

一行は教授は國民服、男子生徒は黒の背廣、女子生徒は青のワンピースに白の帽子と云ふ服装で、

主催者側より慶祝會長松井陸軍中將、同中沖總務、對滿事務局高辻庶務課長等多數が出席

定刻國民儀禮、君が代を齊唱して松井中將の壯行の辭、乗杉校長の謝辭、聖壽の萬歳を奉唱して會を終り同夜八時東京驛を出發したものである。

(『音樂文化新聞』第二十三号、昭和十七年八月二十日)

滿洲に深い感銘

音樂使節團一行歸る

滿洲國建國十周年を祝して渡滿した慶祝音樂使節團の乗杉東京音樂學校長以下職員生徒等一行百四十名は約一ヶ月に亘る使命を無事果して卅日午後七時卅五分東京驛着で元氣に歸京した

驛頭には慶祝會事務局長松井中將、滿洲國大使館山梨參事官はじめ學校關係者、家族等多數が出迎へ、直ちに降車口廣間で慶祝會の歡迎式を舉行、國民儀禮のち松井中將の挨拶、乗杉校長の謝辭あつて聖壽萬歳を奉唱した

なほ解團式は九月一日午前八時から上野の同校で舉行されるが、感激の使命を果した乗杉校長は語る

すべての演奏、旅行等は非常に恵まれたもので豫定以上の成果を收め得たことは天佑神助と申すべきでせう、滿洲國にはこんな綜合音樂團ははじめてだったので大變歡迎され哈爾濱の領事は、音樂を通して日本帝國の尊さを現し五族に日本のありのまゝの姿を傳へ得たと喜んで呉れ、滿

洲國官吏も同じやうな喜びを語つて居られた、中でも新京第一回公式演奏、演奏が終るや否や來賓の張國務總理以下の方々「音樂學校萬歳」と叫ばれたときは一同思はず涙が出ました、またあちらへ差上げた「滿洲大行進曲」が多大の感銘を受けたことは甚だ喜ばしいことです、演奏回数廿七回、七都市に及び六万人の聴衆を得、放送でも二回やりました吾々の面目も大いに施し満足に思ひます

(『都新聞』昭和十七年八月三十一日)

東京音樂學校

慶祝使節團歸京

建國十周年を迎へ、國を擧げて喜びに滿る盟邦滿洲國に滿洲建國十周年慶祝會より派遣された東京音樂學校慶祝音樂使節團、乗杉校長以下職員男女學生百卅七名から成る交響樂團、合唱團の一行は既報の如く八月五日東京驛を出發、八月十五日より滿洲各地を公演中であつたが、卅日午後七時卅五分東京驛着列車でその使命を果して歸京した。

一行は降車口構内で慶祝會の主催による歡迎式に臨み約一ヶ月振りに懐しの家路についた。

(『音樂文化新聞』第二十五号、昭和十七年九月十日)

國都に芽生える

遠藤 宏

八月九日滿洲建國十周年慶祝音樂使節團の一員として大連に上陸して以來、旅順、新京、哈爾濱、奉天、平壤、京城を経て歸つて來た。

東京音樂學校の合唱と管絃樂が海を渡つたのは今回が初めてだし、それに國家的使命を帯びてゐたため各地における慶祝演奏、皇軍慰問演奏、學生、生徒のための演奏等廿數回はいづれも多大の感激と興奮をもつて迎へられた。一般公開演奏の場合でも會場外に溢れた來聴者は無數であ

つた。マイク・ロフオンを使用して場外の人々にも聴かせてあげた。黄金山下の公園の廣場の大群衆、白系露人の多かつた大連會場外の森などを思出す。文化の力を何んの説明もなく、直感的に感動せしめるには音楽が一番いい。音楽をもつて日本の光を輝かし、またその光に浴せしめ得たと私は信じてゐる。

ハル濱には音楽の好きな白系露人が十万もある。彼等は彼等のハル濱交響樂團を世界一と思つてゐると聞かされた。所が彼等も信時潔作「海道東征」、橋本國彦作「交響曲、二調」、ベートーヴェン作第五交響曲その他を熱心に聴きに來た。巴響の團員は心から親切に演奏の世話をしてくれた。

忘れ得ぬ印象は、日没時のヅンガリー河畔のヨット俱樂部で私達のために特別出演してくれた男聲合唱の数々であつた。彼等は日常実務に就き好きで歌つてゐるのださうだが、その中に一人バスのすばらしい歌手がゐた。回教寺院の鐘の音、キタイスカヤ街を馳せる馬車の鈴の音も亦思ひ出深い。昔を知る人の話では街はきたなくなつたさう

國都新京——この雄大な都市には主として希望を述べたい。巨大な文化の歩みを見せてゐる満映を初めとして、放送局も満洲蓄音器會社も音楽文化のためには非常な努力を拂つてゐる。市公署のオーケストラは今回満映の副事業に移り、内地よりも優秀な音楽家をむかへて山田耕柞氏の指揮で慶祝演奏を行ふことになり既に練習を開始してゐた。樂團の前途を祝福したい。新京では音楽學校設立案が眞面目に考へられてゐた。内地から優秀な藝術家、教育家が参加することを希望してやまぬ。うるさい樂壇の一部分たりとも渡満させてはならない。

(筆者は東京音楽學校教授)
(『東京日日新聞』昭和十七年九月十三日)

滿洲建國十週年

慶祝音樂使節團報告記

東京音楽學校本科二年 新 井 潔

こゝに長い上野の傳統に育れた、つゞましい一人の生徒として、六十

有餘年の我校の歴史の一頁を燦然として飾る、この前古未曾有の大演奏旅行の片鱗を簡潔に、喜びと名譽とを以つて報告したい。

出 發

八月五日 男生徒は黒の制服に戦帽、ゲートル、リュックサック、女生徒は水色の規準服にリュックサック、職員及び先輩の方は國民服と云つた服装で、正午後六時半、團長乗杉校長以下百三十七名の慶祝音樂使節團一行は、東京驛前廣場に於ける、滿洲建國十週年慶祝會主催の壯行會を受けて、同夜八時、學校の諸先生及び、先輩友人、家族等の見送りを受けて、感激の中に東京驛を出發した。

この度の旅行は、日本樂壇創始以來の歴史の大きな一端に違ないと思ふし、これは千載一遇の名譽であるがそれだけ責任や期待も大きい譯である。音楽を以つて盟邦の輝ける建國十週年を慶祝すると云ふ事は勿論前提條件だが、大東亞共榮圈の上に立つ我國の音楽文化の水準を教導者の立場に於て國外に宣揚すると共に、兩國の文化發展に資し、それを通して日滿親善に力を致すと云ふ、最も大きな文化的の使命があると思ふのである。奥村情報局長は過般、日本文學報國會の創立總會で「文化と政治とは世界觀の形成をめぐり、全く不可分の關係に立つものである。文化即ち高き意味での政治そのものである」と述べてゐるのは、この音樂使節團が間接的には政治的な面をも強く持つてゐると云ふ意義を裏書きしてゐる。今の日本の政治が、大東亞共榮圈の確立と云ふ大きな使命を荷つて居り、そしてこの大東亞共榮圈の確立に於て、文化工作がその政治工作の大動脈をなしてゐる事を思ひ會せる時、この度の我々一行の蹶起と努力とが、如何に期待されるべきものであり、任務が重いかと思ひ當る。この時代にめぐり會せた我々は、自分達の幸福を悟ると共に、そこには始終それに對處するところの自己の使命と任務への行動には、痛烈なる自己批判が必要であり、この名譽ある目的達成の者には、如何なる困難をも押し通し、萬全の努力と熱誠を捧るべきだと云ふ事を、校長先生から何回も聞かされ、出發の際から一同の行動が緊張してゐた事は事實であつた。

今度はソロがあるからつて、グループの四人が自重し會つたが、結局誰か一人が話出すと駄目になつて、昨夜は一睡も出来なかつた。朝七時大抵着、三宮に向ひ、神戸縣立高女で少憩、一行を乗せた「熱河丸」は正午に神戸港を出帆した。始めて船の晝食を頂くが、「御飯が少ないや」と皆大騒ぎである。瀬戸内海がもう薄暗くなつた頃、一等のデッキで作家の中河與一先生の文學論を聞いてみると、下のデッキで「朝」のコーラスが聴えて来る。自分達で一團になつて楽しんでゐるが、こうして聴くと美しいものだなと思つた。七時半頃か、二等の食堂を借りて、皆汗ぐつしよりになつてブラスの練習をやつてゐる。九時に點呼があり、波穩かでぐつすり熟睡する。

八月七日 朝六時半頃上甲板で朝禮があり、船は七時門司へ入港、十二時門司を出帆、三十分もするとさすがに玄海灘だけあつて、船は相當にゆれ、女生徒に二三人氣持の悪くなつた者が出る。四時頃になると波は穩かになり、ずつと靜かな航海が続いた。作曲の中田氏の「祝宴」を見せて貰ひ、四五人一諸になつて、デッキにもたれ、一時間位もいるんな曲をコーラスやつた。コーラスの楽しさは一員として歌ふところにあると思ふ。五時頃一等のデッキに上ると、半ズボン姿の校長先生までが一員になつて、輪投げをやりながら、ギヤツ／＼と騒いでゐる。中河先生と、先生が文學の上に唱へる、愛の精神と、大いなる浪漫主義の主張は、現在の音樂にも通じるものがあると思ひ、これから東京へ歸つたら「音樂と文學との交流」をやらうと話してゐる所へ橋本先生がゐらして、「ウォーキング・ス」をやらうとの提案に讚成してやるが、それはもう愉快なんの、皆お腹をかゝへて笑ひこけ乍らやる。夕食後演奏曲目のアカペラコーラスを藤井典明指揮でやつたが、海の上で、一種變つた味の楽しい練習であつた。船客總出で聴入り、終ると方々のデッキで拍手が起つた。夜は燈火管制となり、夜のとばりの中を、一團づつかたまつて、暗くなつた水平線を眺め乍ら「聖き夜」「埴生の宿」等を、勝手に和聲や變奏をつけて歌つた。ひとしきり郷愁にも似た、センチな感傷が流れるが、然しそれは期待に満ちた美しいものであつた。

八月八日 朝七時半、上甲板で大詔奉戴日の式がある。船の中で海を眺め乍ら奉戴日を迎へやうとは感概深いものがあつた。今日は特に暑いので少し位弱つてゐる女生徒も輕装し、白い運動帽等を被つたりしてデッキを歩いてゐる。上甲板では運動會があると云ふ。午後鈴木正三指揮の下に橋本先生の「滿洲大行進曲」のブラスの練習がある。初練習と云ふ。暑いせいか音響が不正確な事おびた／＼しい。續いて五時頃からアカペラの練習があるが、お腹もへつて疲れてもゐるので相當辛い練習であつた。今日は八時から早目に點呼があり馨先生から上陸後に關するいろ／＼の注意がある。最後の航海の夜を楽しむべく、眞暗いデッキには生徒達が喜々と語會つてゐる。森さんの吹く「ハンガリアン田園幻想曲」が、嫺々と哀切さをもつてデッキを響き渡つて來た。音樂は、何んて美しいんだらうと又思ふ。九時頃、又何時もの旅行のお定りで、畑中、秋元兩君ともう一人四人で、音樂や音樂批評に對して議論をやり、すつかり私は昂奮して仕舞つた。一寸した此様な機會に、我々はフツと自分の内心の聲を聞く場合が多い。

八月九日 朝九時頃になると、水平線の彼方に、大陸の一端がぼんやりと浮び上り、十時頃船は大連の埠頭に横つけされた。埠頭を出た所で校長先生の上陸第一歩の挨拶があり、すぐ貸切の市電で忠靈塔に向ひ、君が代、海ゆかばを齊唱、これは同時録音されて放送されるとの事であつた。星が浦海岸から旅館に歸ると三時、一同ぐつたりと疲れが出て来るが、ゆれなだけ氣持のよい陸に始めて到着く。皆馴れない手でワイシャツを洗濯したり、五時から友人一家が招待の席にクラスの方が臨む。「遙々お疲れでせう」と心から迎へて下さつたので、疲れも忘れて嬉しかつた。後少少酔ひ氣持ののんびりした氣分になつて、一同浪花通をのし歩き、本性が出て樂譜屋を漁るが何もなく、東京でどうしても見當らなかつたレコードが大分あつたので飛上り、持運びの爲大分躊躇したが、萬難を排しても各自買ひ集める。

旅 順

八月十日 午前九時半頃大連出發、旅順に着くと十一時過ぎ、宿舍の聖

地會館に於て、市長招待の午餐の席につく。羊羹や饅頭等ふんだんにあり「東京の人に氣毒みたいだね」と方々で云ひながら食べてゐる。午後は白山山頂の納骨祠に拜禮、「海行かば」を合唱、表忠塔の下で皆思ひくりに並び、旅順近邊を一目に俯瞰しながら案内氏の説明を聞く。當時の血涙ひたるが如き激戦が感じ易い我等の胸に彷彿として甦り、我等の視界に這入るすべてのこの地には、尊き勇士の血が、骨が泌込み、吹く風には永久に、此地に立つ日本人の腦裏に滔々として鳴り渡るであらう事を感じた。説明を聞く中に熱いものがこみ上げ、女生徒の中には七八人涙を流してゐる。美しい心だと思つた。「自分が日本人だと云ふ事をこんなに強く感じた事はない」と口々に云ひ會つて山を降る。そうだ、僕は一半島の學生だ。この強い感激が皆様と同じだ」と云ふのは云ふ方が嘘であり、それは同じ様で確に異つたものである。傍人的なものから、肉身的なものに生れ變らうとする、それはく悲しい位の感激であつた。

この演奏會は予定外の臨時演奏である。會場はそれこそ田舎の芝居小屋より一寸いゝ位で、音響効果はひどく悪い。女生徒の獨唱にラ・スパニョーラを歌はせるのは考へるべきだが——皆苦い顔するのも無理はなく、義憤めいたものを感じる。我々の根本問題はこれだと思ふ。最後の無伴奏合唱の「愛國行進曲」は兵隊さん感激して大喝采であつた。

橋本先生の「滿洲大行進曲」は、慶祝の意味に於て政府から學校の方へ作曲を依頼され、東京音樂學校の名の下に、滿洲建國十週年慶祝會へ獻呈された曲であり、オーボエのソロから入るトリオ部分は、その旋律が實に滿洲的で美しい。原曲は吹奏樂曲で、これを管絃樂曲化し、それに又トリオの部分だけを風巻景次郎先生の作詞でコーラスにしたのである。此曲は多分にポプユラリチーを持つてゐるので喜ばれた。會場の入口には擴聲器が備付けてあり、這入れぬ人達が散々伍々と立止つて聴入るのは、内地では遂ぞ見た事のない光景であつた。千葉さんの歌つた「通りやんせ」等は、最も解り易かつたのであらう、終ると内部の人達と一緒に感激して拍手をするのである。然し此處の聴衆はアンコールする事を知らない。宿へ歸ると、殆んど皆お腹をこわしたと云つてゐながらもお晝の時残つ

た羊羹や饅頭等を食つたりして、敷いた布團の上で夜更けまで騒いでゐる。

大 連

八月十一日 朝九時頃旅順を出發、大連に向ひ、正午よりヤマトホテルで、市長招待の歓迎午餐會あり。これから晝間演奏の「海道東征」のソロは全部生徒達が交代くで當るが、今日が最初の御目見得であり、期待と好奇心が大きかつただけ、生徒達の間に無言の話題が流れる。ソプラノの平田さんは家が大連であり、立派に歌へりやいゝのにと皆で願ひ、無難で歌ひ終ると自分の事の様によろこぶ。

夜の部は約千五百名位の收容出来る會場に、同胞の人々でぎつしりとうずまり、ステージはうだる様に暑い。一般に獨唱が喜ばれるが、山内さんの「田植歌」「母の歌」は三回もアンコールを受けた。抒情的な、一つは民謡調の高度の作品であるだけ同胞の方には胸に迫るらしい。今夜の「海道東征」は「大和思慕」でフルートが非常識極る失敗、ソロの第二ソプラノは高音が割れるし、テノールはテンポも音程も取れないと云ふ^{（マイ）}仕末、コーラスは斷然憤慨してゐる。こうなると拍手を受けてもお恥しい次第だ。演奏後五六人で、夜の町を歩いて歸るが、道歩く同胞の人々が、一回振向く人も二回振向いて「上野音樂學校の生徒」と小聲で話會ひ、懐しさうな視線を送つた。

八月十二日 午前中畑中君とスレザークのレコードを漁り、歸ると大部分の者が靴を買つて来て、いゝの悪いのと品評會である。今日は特別に午後一時から兵隊さんの爲の臨時演奏會があり無伴奏「愛國行進曲」だけが絶讃を受ける。終了後ブラス伴奏で、兵隊さん一同「愛國行進曲」を元氣な聲で合唱する。二時より晝の部があり女學生達は自分達がよく知つてゐるものだから山内さんの「からたちの花」に感歎の聲を發し、演奏が終つて出ると「海道東征」に感激したのか、憧憬か、羨望の視線だけが向けられる。後で大連音樂學校長の園山民平先生にお會ひした時のお話による

「昨夜の演奏は兎に角素晴らしい評判だよ。大連全市が湧返つてゐるからね、市長が校長先生の所へ来て頭を下げて感謝してゐた。先輩としてこんな嬉しい事はなく、昨夜は鼻が高かつたよ」

と母校の成功を喜んでゐた。今度の上野の樂演は大連市始つて以來の大演奏會であり、大連市及び關東洲廳が先に立つてやつた事等、今迄に絶對になかつたそうである。此處にも四十名位のオーケストラがあり、大連音樂學校は十八年の歴史を有してゐるが、樂壇が急速に進歩したのは二三年來の事であり、と云つても鑑賞者の方であるが、音樂會と云ふ音樂會は全部満員だとの事である。地元の演奏家には大した者はゐなく、白系露人に素晴らしいピアニストがあるし、シロタが日本に來る前に此處で活躍してゐたと云ふ事は意外であつた。夜之部は七時からであり、「愛國行進曲」は聴衆の要求とかで無伴奏變奏附きに變る。始終一同齒がゆく思つてゐた事であつたので、歌ふ僕等も張合ひがあり、一般は最も感動するのであつた。演奏が終ると、超満員の聴衆一同が起立して「音樂使節團一行への感謝と、無事使命達成の爲に」と破れる様な拍手をもつて送つて呉れた。

新 京

八月十四日 午前九時半頃、職員、先輩、上級生の方は國際列車「アジヤ」で新京に向ひ、我々は三十分後で出發する。「アジヤ」に乗れるのを随分樂しみしてゐたので、女生徒達は「口惜しいつ」と地團駄踏んでゐた。未だ東京を出で十日位しか経つてゐないのに、一月位も経つた様な氣がして、ピアノ伴奏で「ヴォルフ」か何か、リードが無性に歌ひたい。そばに坐つてゐる中田君は「ピアノが弾きたいな」と叫んで、窓際をキーにして盛んにフィンガリングをやつてゐる。夕方頃汽車が奉天を過ぎると、山と云つても線のなだらかな丘陵と云つた感じのものも見當らなく、限りない青い平原は碧い初秋の空色を憶せる空の涯に消えてゐる。ポツン／＼と點立してゐる柳が如何にも廣涼たる感じを與へ、その上を今眞赤な太陽が沈んで行く。此地には人間の感情を超越した、虚無にも等しいのんびりとした、忘我の詩情が底を流れてゐるのに相異ない。滿洲の印象がすべて

淋しく残るのはその爲であらうか。一齊に眺めてゐる。僕はマラーの「大地の歌」の節々が無意識の中に明滅するのを感じた。此曲は本質に於て、大地の虚無感の詩情をとらへてゐるのであらう。頹廢的な魅力をもつた沈痛なる美しさだ。音樂の美が、此處まで來るとどうにも行きどころがなく、ロマン派音樂の有終の美となつたのも、無理はないと思ふ。暗くなり出した頃、國都新京へいよく着いた。

八月十四日 さすが此處は温度が低い。昨夜窓を開けて寝たら寒い位で、秋元君はソロがあると云ふのに風邪をひいて仕舞つた。午前八時半全員、バスを連ねて國都各機關に挨拶に出掛る。バスの中で男生徒二つの旅館の批評が始つた。國都だけあつて、外の旅館も大分いゝらしい。建國神廟、帝宮を遙拜、建國忠靈廟に於ては「海ゆかば」を合唱する。次いで國務院に張總理及び武部長官を訪問し、すぐバスをヤマトホテルに向け、十二時より滿日文化協會會長を始め、滿洲樂壇協會、山葉洋行、田邊樂器支店、同聲會支部合同の招待午餐會に臨む。本日は慰靈日に付、演奏は全然なく、歸りに買物や市内見學に行く。新京の街の自分の想像をはるかに超えた膨大な都市計畫には驚いた。旅に出ると神經が尖つて來るのか、又そろ／＼クラス同志の感情の衝突が夜の宿を騒す。

八月十五日 晝間は演奏がないので、午前中は疲れて五六人枕を並べて讀書や晝寢、午後は隊を組んでロシヤケーキを食べ歩き、先生の所へチョコレートを送つたりする。夜七時から、張總理及び武部長官以下政府關係者、關東軍司令部要人、政府の招待者ばかりの最も意義ある國都公式演奏がある。公會堂の入口には、「歡迎日本國派遣慶祝音樂使節團」と墨書した、大きな角筒看板が四つも立つて居り、内部は奇麗で、ステージは日比谷位もある。二千人以上は這入れそうだ。演奏に先立つて、祝曲事務局長王氏の歡迎の辭、校長挨拶記念品贈呈がある。「滿洲大行進曲」は同時録音されて放送「海道東征」は八時から全滿へ中繼放送される。此の樂土は慶祝一色で湧立ち、我等一行はすべての期待と憧憬をもつて迎へられてゐるらしい。我々の責務は過重とも云へる。僕は「海道東征」を歌ひながら、去年の大阪旅行でベートルヴェンの「第九」が歌ひ終ると、前の方に

坐つてゐた一人のドイツ人の老婆が、涙をポロ／＼流し乍ら拍手してゐた、あの感極つた顔を思ひ出し、しびれる様な感激を感じた。全滿の同胞が異郷の空の下で耳を傾けるに違ひない。例へ此の曲はよく解らなくても、我が民族の血が踊り、民族の美が象徴されてゐる筈だから。これは「我が日本のものだ」と云ふ即ち身近なものを感じる筈である。せめて國都でだけでも此曲を拔萃しないで全曲歌ひたかつた。殊に六樂章の「海道回顧」は、詩の本質が抒情であり、音楽が如何に抒情を必要とし、又最高音：hをもつたピューモット、即ち此曲のクライマックスが此樂章にある以上、これは恐らく抜けれない筈だが……。歌ひ終ると軍人が一人感激して立上り「東京音楽學校萬歳！」と叫んだ。演奏會終了後「滿洲大行進曲」のニュース撮影及び同時録音があり、これは又別に満映で制作、畏きあたりへ献上するとの由である。

八月十六日 朝八時半頃バスで大同公園に向ひ、九時より、約一萬人以上を收容出来ると云ふ、盛装された大野外音楽堂で第一回畫之部がある。此處では滿洲の女學生も、軍樂隊も来てゐる。野天の休憩所へ、當地の近邊の聯隊に入營中の、バリトンの中山悌一さんが挨拶に來た。「海道東征」と云へば「中山」を思ひ出す位初演以來天下第一品になつた彼が、同じ曲を持って、此處まで來て軍服姿の彼に會へると感慨無量なものがあり、全生徒が懐しそりに取巻いて話掛けてゐる。

校長先生の漫談入りの挨拶に、兵隊さんすつかり喜び大爆笑入りの和氣藹々たる雰囲気の中に演奏が始る。何しろ野外で樂譜が風に飛ばやら、暑いやらで條件は悪かつたが、ブラスの「ロサムンデ」は眠むたい演奏であつた。「故國の味を」と校長先生の特別の御意向で「母の歌、田植歌」のソロが番外として加へられた。終つてバスで市公館に向ふ途中、今聴き了つて歸る滿洲の女學生達が「サヨウナラ」と手を振つて見送る。東京でもざらに似た様な顔々であり、ほゝえましい何か親しさを袈々と感じた。市公館の裏の廣い庭園で、市長招待の園遊會があり、饅頭、壽し、アイスクリーム、ミルク等と點在してゐる模擬店に、あつちこつちと皆食べ歩き、とつても美味しく樂しかつた。大方お腹をこわしたと云ひながらもよく食

べて居り、誰か「こんなに美味しいなら死んでもいゝです」と云つてアイスクリームを二杯も頬張つてゐたそうである。二時半より記念公會堂で畫之部であるが、人々は長い行列である。夜之部を朝九時から並んで待つて半分の人も買へないと云ふ。全滿を通じて入場は無料で、プロと整理費として五十錢取るだけである。學校當局としては、勤勞奉仕隊の覺悟で來てゐるし、出来るだけ各階級の、多くの人々に聴かせると云ふのに意義があると思ふが、客層の低下があり、多少不満もある筈だと思はれる。場内はそれこそ立錐の餘地もない超滿員であつた。橋本先生の「交響曲二調」最もミスのない洗練された演奏して大喝采であつた。終了後、新京音楽院長大塚淳先生にお會ひする。先生は我々の演奏殊にコーラスを聴いてゐると懐しただけで一杯だと仰つた。滿洲の音楽は、ブラスを主とした滿鐵の功績であり、新京音楽院は、管絃樂、合唱、教育部、滿洲樂部、養成部に研究部、作曲部を増設し、滿洲國民族音楽樹立の主者に於て、附屬養成所を設けて十六歳以下の滿系の子供を集め、すべてを官費で少國民養成に勉めてゐると云ふのは、日本の樂界、政治界に何か示唆を與へる事だと思ふ。音楽院は市公署（市廳）満映、需電株式會社の補助に依つて存立に不安はないが、何しろ住宅難で、管絃樂部員が四疊半の部屋に、親子四人で暮す位皆苦勞しながらも、滿洲國音楽建設に努力してゐると云ふ。民衆を藝術的なものをもつて向上させる意義の下に毎月一回小學校、工場、官廳へ演奏し廻り、月一回の定期演奏がある。滿洲國が建國早々音楽工作に乘出した賢明さには驚いたが、今度の我々の來演に極度に刺戟されて、國立音楽學校の創立が實現するかも知れないと仰つた。レコード會社や、放送合唱團等が出來ると、低俗なるものになる傾向があるので、今年これを統合して、資金四十萬圓の「新京音楽團」と云ふ財團法人に造り上げたところである。民間のブラス、コーラスの勃興は非常なものであり、昨年は全滿から集つた七百五十名のブラスバンドをやり、來年は恐らく百二十團體になるだらうと頼母しげに語つた。この外に、宮廷内に三十七名の小學校卒業の滿系の子供ばかりの管絃樂團があり、日本人が三人指導の任に當り、先生は週一回指導に行くとの話である。過般 秩父宮殿下が御來滿に

なつた節非常なるお褒めにあづかつたそうである。聞き終ると夜之部の時間となつた。「交響曲二調」は始めて全曲やり、段々満足な演奏となつて行くが、「海道東征」は一寸もよくならない。直接間接に受ける旅の日の昂奮や刺戟等に依つて、今迄全員の感情が全體的なものにまとまりが來なかつたのが、もうそろ／＼気分の上では今が一番諸々の感情が統合されて、一點に集中されて來るが満足な演奏が出來ないと云ふ最も大きな原因は、曲そのものに厭氣が來情熱が失せたのと、コーラスの者の不平から察すると、ソロリストと指揮者にある様に思はれる。初演當時の印象が鮮に残つてゐるだけ缺點が目立ち、ソロが一寸失敗するとコーラスにはそれが神經質な位にピン／＼と影響して來るのである。「誰も奇麗な聲で上手に歌つて呉れとは云ひやせん。リズム正しく、音程でもちゃんと取つて、その音の聲でも出して貰ひたいんだ」と誰かつぶやいてゐる。我々のソロリストに對する望みはこんな情ないものにまで變つて來た。可愛想な話だ。千葉、山内さんだけが堂々と貫祿を示すだけである。

八月十七日 朝九時半頃全員バスで満映見學に行き、講堂でドイツの音楽短篇映畫を二つ見せて頂き、スタジオ内見學、招待の午餐會席に着く。始めての純支那料理であるが、皆支那料理に對する知識がないものだから、始めからあるだけ食ひ盡したら、食べても／＼皿が出來て來る。皆食つたわ／＼、すると終りの方になるとほんとうに美味しいものが出來て來るが、お腹は一杯で皆手を重ねて口惜しがらばかりで大笑ひであつた。女つてちやつかりしてゐるらしく、女生徒の方では「お腹はこわしても癒せるけど、これはもう食べれないから」と云つて、みな食ひ盡し胃散をがぶがぶ飲んだそうである。正午から中央放送局で、山内、岩崎、酒井三氏ソロの放送があつたと云ふ。晝之部の演奏は、皆喰過ぎのせいか、演奏にもだるさが確りと現れた。夜之部は、終る後夜行で發つので、紋服に着變へる暇がなく、男生徒は長ネクタイ、女生徒は規準服のまゝで演奏やる。ピアノ獨奏の馬瀧純さんは、只一人の満洲出身であり、出演自體が日滿親善の意義がある。白い満洲服を着飾つてステージに出ると、今迄とは異つた感情が聴衆の中に起り、それは好奇心を伴つた期待の様に見受られた。會

場が一樣にざわめき立つのである。然し、早いペースは音が分離されないうですべり、フレーズを切る事に無關心だからリズムはくづれ、遺憾であつた。國都に於ける最後の演奏が終り、十一時頃ハルピンへ向けて出發する。汽車の中で先輩の方から一杯飲まされ來た山田君が「朴ちん／＼」と、うるさい位に呼掛け、二時頃迄堂々と自分の抱負を述べたりするのである。可愛いものだ。

ハルピン

八月十八日 夜行は辛いなとつく／＼思ふ。うと／＼しただけで眼が醒めると、朝ぼらけである。又何處までも茫々たる平野だけが續き、七時過ぎハルピンに着いた。朝食後、バスで、忠靈塔、志士之碑へ拜禮、熱河に次ぐと云ふ絢爛たる建造の孔子廟、立派な大理石の墓石に故人の寫眞を飾つた露人墓地や市内を見學して歸る。街を歩いてゐると生活に疲れ切つてゐる様に見受けられる白系の労働者、キタイスカヤの通り、すべてに異國情緒が漂ひ、如何にも外國へ來たと云ふ感じだ。町の至る所に大きな寺院の尖塔が見當り、母國を追れた彼等が、宗教にすべてを捧げて生活してゐるのであらう、旅のエトランゼーには悲しくうつつた。朝夕各寺院には鐘が鳴り出し、日曜日やお祭りの朝には、莊嚴なコーラスが響くと云ふ。午後ブラスは軍慰問に出掛る。皆夜行でフラフラになつてゐるが、元氣を出して行くのを見て、コーラスは濟まない氣がした。六時から、白い帆のヨットや遊覧船の浮ぶ松河江を眺めながら、江畔のヨット俱樂部で市長招待の晚餐會に臨む。キヤバレー式になつてゐるステージで、コサツク合唱團のロシア民謡を聴かして呉れたが、この合唱團は本職を持つてゐる者達が、音楽が好きで集つてやつてゐる團體で、哈響の專屬だそうである。指揮のメノトフ氏はコサツク大佐だとの由で「ステンカラージン」「ヴォルガの舟歌」外四曲を歌つたが、これには一同聊か自分達のコーラスが氣遅れする位だ。藝術的な向から云ふと大した事はないが、バスは一オクターブ下の音程で歌ひ、音量の大きいには壓倒された。此處では僕達も始めて大人扱ひを受けてウオツカーやビールも出た。酔つて來る頃、米國の輕音楽

界では相當の人氣を持つてゐると云ふヴァイオリンのカリオタの樂團がヴァグナー拔萃曲からタンゴ、ジャズに至る迄ちゃんと演奏やるので、少々皆浮かれ氣持になり、アンコール續きであつた。會が終ると最後に「愛國行進曲」を奏したので、歸りかけの者が何時の間にか歌ひ出し、至極痛快であつた。一同四列縱隊に步調も正しく、松江江畔を、異國の街を、約一哩もあるホテルへと行軍しながら、聲も高らかに速成の男聲四部で「愛國行進曲」を歌ひ續け乍ら歸つた。心から溢れ出る感興であつた。道行く異國人が一齊に立止つて眺めてゐる。形式つめ／＼ばかりの我々に、たまには此様な氣分も捨難いものだと思ふ。若者には若者らしい感激を與へ、青春時代を與へるべきだと思ふ。

八月十九日 ハルピンの樂界は随分と興味をもつてゐたので、紹介狀を持つて、哈響事務所熊谷貫一氏を朝九時頃訪問する。この樂團は約二十六年前帝政時代に創立し幾多の困難を経て五年前に現在の組織となり、メンバーの國籍は各國だそうである。專屬の吹奏樂團、混聲合唱團、コサツク合唱をなし、今のところ經濟的に獨立は不能で、政府の補助でやつてゐると云つた。此樂團の最も大きな目的は、音樂的よりも、内面的には白系の民族的の工作、外面的には對外的の宣傳と云つた様な政治的の意義が大きいらしい。定期演奏は月二回、大方の曲目はロシアものであり、會員は殆んど白系ばかりで、日系が四五人來てもそれは義理で仕方なく來るさうである。ハルピンの樂壇は全部哈響に依つて動いてゐると云ふから存在は絶對らしい。時間がないので、馬氏一家招待のヤマトホテル午餐會へ車で急ぐ。

夜之部は、舊鐵路クラブの厚生館だ。これはせい／＼千五百名位しか收容出來そうでないが、キャバレー式の廣いホール等も附隨してゐて、往時の華かさを物語つてゐる。帝政時代は此處で盛んにオペラを演つたさうである。慶祝プロは、ステージの天井が高く、コーラスは天井に筒抜けて聲が前に出ない。我々が此處の音樂の水準を知つて居り、緊張して演つたのに口惜しき限りであつた。「交響曲ニ調」は、今迄にないまとまつた演奏をやつて大きな感動を與へ、來てゐた滿洲の二三人の友人も口を揃へて感

歎してゐた。此處では滿洲の人も多少見當り、最初の挨拶は、日滿露の三ヶ國語でやると云ふ一風變つた光景であつた。馬さんのピアノソロは、自分の故郷であるだけ、すべての心的用意が此處の爲になされたのであらう。上野出の實力を示して、數回もアンコールを受けた。「海道東征」は、コーラスをオーケストラの前に出して、音響効果を計り、やつといふ成績を上げた。後で熊谷氏から哈響及び當地樂界の反響を聞くと、管絃樂も合唱も實に細い所まで繊細に、奇麗にまとまつてゐる點では皆感歎したが、大きいスケールもなければ、心から溢れるものもない。よく云へばアカデミックであり、悪く云へばチツポケだと云ふのである。ソロにはボロクソであり、ロシア人は一様に「海道東征」は解らないと云つてゐたそうである。

八月二十日 午前十一時より哈響の練習があると云ふので出掛けると、生徒が後で三四人又來た。丁度此次の定期のグリンカー「カマリンスカヤ」ブラームス「ハンガリー舞曲二番」の初練習であつたが、想像より上手なものには驚いた。新響がグリンカーを演つて、果してあれ以上の味が出せるかは疑問だ。然しシユワイコフスキーの投遣式の指揮は不満であつた。練習場が狭いと云ふハンデイキヤツプをつけても、今の中響よりかはあまり下手ではないと思はれた。半島出身である第二セロの岸本仁氏の話に依ると、東京へ行つた時と違ひ、今は非鐵時代の、上海、ジャバ等に流れて行つたメンバーを呼戻し、多少メンバーの水準が開き過ぎる者もあるが、全體としては、統一して來てゐると云ふ。個人としては、エルマンと同窓のコンサートマスターのトラフテンベルグ、ラハマニノフトリオの一名であつたセルのパゴージン、チエツコフイルハーモニーの第一を弾いてゐた、コントラバスの世界的名手ツウエンツエツキ等の素晴らしい樂員があると云ふ。この樂團の強味は、進歩し得る素質を充分に持つてゐると斷言出來る事だと思ふ。二時から晝之部だが、絃樂四重奏は曲が解易い爲か兵隊さんが喜んで拍手するのは意外な氣もした。

夜の部は厚生會館の裏庭の野外音樂堂でステージを接ぎ出してやる。音樂は實にいゝが、ヴァイオリンが全部接出した部分に乗つてゐるので音が

空間に消え、全體のバランスが些も取れない。コーラスは後方にギツシリ下つてゐるので、アカペラは氣持よい位の反響で、餘韻を残して響いた。列車輸送の關係で、慶祝演奏に續いてすぐ「海道東征」であるが、プロが變つたのを知らないソロの酒井、藤井兩氏が未だ會場に現れず、テノールを僕に、バリトンを秋元君に頼まれて来て面喰つた。人が歌ふと何とか彼とか不満を並べるが、いざ自分が歌ふと餘りにも貧弱なのに心から悲しくなつた。後で哈響指揮者のシユワイコフスキイ氏が来て褒めて呉れるが、正直の所氣恥しく、嬉しい氣持など少しも起らなかつた。馬さんのピアノは、前に出でゐるので音が一寸も聴えない。後方の管楽器ばかりがやけに大きく聴える。野外演奏は結局音楽を享受する事になつて仕舞ふと感じた。星空の下で、夏の夜風に吹れ乍ら音楽を聴くと云ふのは、如何にも異國的でいゝが、我々の折角の夢や努力は酬ひられなかつた。普通内地人の演奏家が来ると、白系は殆んど来ないと云ふが、今夜は白系が三分の一位も占めて熱心に聴いてゐる。もう顔を見憶えた哈響のメンバーが大分来てゐて、お互に頭を下げ笑ひかけ、親しさを感じて嬉しかった。十時でハルピンを發つが、汽車に乗ると全員いよく疲労の色が見えて、夜行が億劫になつて来る。

奉 天

八月二十一日 朝九時過ぎ奉天着、市長始め關係者、市長令嬢の花束等に出席へられて旅館に着くと朝御飯が用意されてゐない。がっかりして横になつてゐると「アーノネ、南京子は開夜が好きぢやそうだが、晝間から散歩と來やら」とホルンの秋葉君が頓狂な聲を出して、南京蟲が出ると云つて大騒ぎ。本格的に疲れて來たので殆んどが見學を休んだ。會場は奉天第一の映畫劇場である、約二千名以上を收容出來得る位の豪華な大陸劇場であり、ステージには市長からの花環が兩方に飾られて随分と華やかであつた。ピアノソロの尹さんは、實に緻密な演奏をやつて、ヴァルトマンの嚴格な技巧的要求を満足させて、テクニクの技達^{テクニック}は示してゐるが、此間が要求する、思想の深遠さや、宏大豊潤さは表現しきれなく、つまり云へ

ば用心深い演奏であつたが、聴衆を壓倒してアンコールを受けた。

八月二十二日 又列車輸送の關係上、晝夜之部が、午前九時半、午後三時とに變更する。中田氏作曲の、トロンボーンと小管絃樂「祝宴」は、この度の旅行の爲に、特別の名義の下に出來上つた交響詩ともいふべき作品で、ゆるやかな低音楽器からトロンボーンソロのテーマを経て、朝鮮民謡「トラテ打鈴」の旋律を取入れた輕妙な旋律が續いて現れるが、三拍子形と云ふ概念的な手法だけを取つて、朝鮮民謡獨特のリズム感が表出されてゐないのは、一足朝鮮に入ると致命的の打撃となる筈だと思ふ。近代人的の感覺が強く動いて居り、獨奏楽器としてのトロンボーンのむづかしさを知らないだけに、柔い音で素晴らしく吹いても、聴衆には感じが來ないと云ふ現象を起つたのか反響が少ない。終る後すぐ近くの奉天ビルの七階で市長招待の午餐會がある。午後之部のベートーヴェンの「第五」は斷然指揮者もメンバーも一樣に張りを見せて熱のある演奏をし、實演の聴けなかつた奉天の聴衆に大きな感銘を與へた様である。然し二樂章のセロはガシヤ〜、上野のセロには困つたものだと思つてゐる。ヴァイオリン獨奏の新井さんは、二三回の練習で、管絃樂には未だソロ者の要求が通じないものだから、拘束されて、のび〜と腕使し得ず、カデンツァに來て呆然餘裕紳々と、清澄なる音色をもつて無類に美しい境地を表現し、聴衆は此處に來て感動するのであつた。これで滿洲に於ける慶祝演奏が終ると思ふと、拍手喝采を浴びて會場を出ながらも、一同淋しい氣持に打たれた。八時四十分奉天發、平壤に向ふ。全部の人がおみやげに煙草を買ひ過ぎて税關の爲の仕末に大童であつた。

八月二十三日 心配してゐた税關も大した事なく済み、明方汽車が鴨綠江を渡ると、もう僕の心は落着かなくなつた。トヤ〜と乗込んで來る田舎の人々、これが皆様にどんなに映ずるだらうか。こゝから生れ、こゝから大きくなつた私は、自分の民族の缺點や、みにくい面だけが強く浮び、神經が疲れる位に苦しく働くのである。どうか朝鮮の印象が美しいものとして皆様に残る様に、情ない位に祈るのであつた。車窓の風物はすつかり變り、朝鮮特有の赤い肌の山々や、高く立並んでゐるポプラの樹々、稻

田には穂が頭を下げかけてゐる。誰かゞ茸みたいだと云ふ、藁葺きの崩れかけた農家が過ぎると、自分は電燈すらない僻村で育つたから、その生活を知り盡してゐるだけに、じつと見送つてゐると涙がにじんで来た。平壤の旅館に落着くと午後三時頃、待遇もよく親切で實に感じがよいので、一同子供みたいに喜んでゐた。

平 壤

公會堂は外見も立派であり、ステージも廣く、千五百名以上收容出来ると云ふ。此處では來てゐる聴衆の大半が半島人であり、色の配合や、緑のよくマッチした女の服装が、皆様には馴れない光彩を與へられ、これが會場内を華麗なる雰圍氣で包み、クラスの友達が「奇麗だわね」とか「朝鮮服のよさが始めて判つたよ」等云つて來ると、僕は無上に嬉しかった。入口には這入れぬ人達が約八百人位もぎつしり立並んで、備付けの擴声器に聴入つてゐる。さすがに朝鮮音樂の發祥地だけあると思つた。「海道東征」は全演奏旅行を通して此處が一番よかつた。コーラスはハルピンと同じく前に出るが自分の正面に來てゐる姉がしきりに涙をふいてゐるのが見える。中學一年の時から「上野」へ憧れて六年間、弟の歩いて行つた道をじつと眺めてゐただけに、今こうして上野の生徒として歌つてゐるのを見ると、萬感胸に迫るのであらう。私は心中泣きながら歌つた。

京 城

八月二十四日 朝四時半起床、半分眠り乍ら御飯を食べ、六時半平壤を出發。女生徒達は、おにぎりを不味そうに汽車の中で食べてゐる。開城では新井敏雄さんの家族が總出で果物を一包づゝ汽車に積込んで呉れた。午後二時過ぎ京城着、夜之部は七時からであるが、府民館の清楚な堂々たる建築に「これは日本一だよ」と皆叫んで驚入つてゐる。ステージの天井を張つてある關係上音響も一番効果的であつた。尹さんのピアノ獨奏は、豪大な氣魄を以つて弾きまくるが、昂奮が強過ぎてコントロールが効かなく、全體的に落着きを失つたのは事實だが、京城樂壇の期待に反せず、三

回のアンコールを受けた。「海道東征」は、京城が音樂が盛んであり、水準が高いと云ふ豫備知識を皆持つてゐたし、學校當局も一番力を入れてゐたが、氣ばかりがあせり出し、肉體の疲勞はどう仕様もなく、演奏を引上げる事は出来なかつた。残念で仕様がなかつた。

八月二十五日 「京城は今迄の様な演奏では駄目だ」との幹部の先生の命令で「海道東征」の生徒ソロ者達は、午前十時から金子先生の指導の下に、府民館で練習がある。十二時から早致吳氏招待の、朝鮮ホテル午餐會がある。巾著のおみやげを頂いて大喜びであつた。二時より晝之部、七時より夜之部であるが、新井さんが奉天より着實な演奏をして故郷に錦を飾る。これが最後の演奏だからベストを盡せと校長先生からも檄が飛び、一同張切つて演奏する。終了後ステージへ立つたまま、校長先生から先づ演奏終了の挨拶があり、「東京音樂學校萬歲」を三唱、拍手をもつて上野を祝福した。歸りに偶然作曲家の任東赫さんに會つたら「皆様お疲れで聴いてゐる方が氣毒ですね」と批評をさけてゐらした。

八月二十六日 朝九時半からバスで市内見學に出掛け昌慶で中餐の時、皆から「京城の評判は」と訊れるのが相當苦しかった。一般の友人の間の反響を綜合してみると「あまり期待し過ぎたせいか、疲れてゐるせいばかり……」と云ふのが全體であり、後日、ベルリンホツホシューレ出身の、ヘーフ教授の第一弟子を謳れてゐる、ヴァイオリンの安柄照氏のお宅で伺つたお話の内意から察すると「相當の批判力をもつた京城の聴衆には、そもそも曲目自體が不満であり、よつほど完璧な演奏をしない限り感懐は與へられない事だ」と云ふのが感想らしいが、これは大いに首肯出来ると思ふ。李王職雅樂部に向ひ、興味深く朝鮮雅樂を聴き、歸りクラス一同で級友一色君の病床を訪れ、音樂をもつて見舞つてやり、歸る時は皆淋しい氣持であつた。自分は所用の爲に京城に残るので團體と離れる事になるが、こゝに演奏旅行を振り返つてみると、京城迄の日程二十二日間、演奏回数二十四回、演奏曲目大曲だけが八曲、指揮者七人、主なる獨奏者十二名、生徒獨唱者十九名と云ふ膨大な数字に上るのである。正直の所を話せば生徒達は曲目に対しては情熱も大分失せてはゐるが、一生懸

命に演奏をやった。緊張した爲か、最も心配してゐた落伍者もなかった。各地に於て、我々の演奏はその地楽壇創始以来の大壯舉だったのである。これは上野だけが成得る仕事に違ひない。我々の演奏が、各地の文化面に對して強い刺戟と意義を與へたと云ふ事は確に認められる事である。

今一行を乗せた釜山行きの列車は靜に動き出した。馳け出して級友達の手を握り、僕は持つてゐたレインコートを振廻した。全員が窓から首を出し、戦闘帽、ハンケチ、手に手を振つて、「さやうなら」と絶叫してゐる。僕は自分の感情が、何の不純も、不安もなく大きな愛の中に解合つて行くのはつきりと感じた。たゞ一つの愛だけが流れるのである。僕は人間で奴は何んて美しいんだらうと思ふと、熱い涙が止めどもなく流れて来るのであつた。これだけでも僕は今度の旅行を悦びたい氣持なのである。

『音楽公論』第二卷第十号、昭和十七年十月、七八〇頁、第二卷第十一号、同年十一月、六六〇七四頁。

〔以下の文章は、本学元教授の大石清により、今回書きおろされたものである。〕

東京音楽学校満洲国建国十周年慶祝演奏旅行の思い出

昭和十七年、建国十年を迎えた満洲国は八月十五日に慶祝行事を行なうに当たり、東京音楽学校は政府の命により、乗杉校長以下教官、生徒、事務官一三六名が慶祝演奏のために派遣された。

昭和十七年（一九四二年）八月

五日（水） 午前十時、一度学校へ集合、今回の旅行団の団長である乗杉校長より訓示を受け、また、旅行に關しての諸注意があり一時解散。

夕刻十八時、東京駅乗車口に集合、点呼の上、満洲国建国十周年慶祝会主催の壮行会へ出席、その後、二十時発大阪行きの急行にて出発する。女生徒は学校で決められているブルーの基準服にリュックサック、男生徒は黒の背広にゲートル、戦闘帽にリュックサックという今では考えられない服装であつた。

六日（木） 朝早く大阪駅に到着、そのまま神戸駅まで行き神戸港にて大阪商船の豪華船へ乗船、団長・指揮者・教授は一等、他の教官・事務

官は二等、生徒は三等という割り当てで、われわれ生徒は船底のカーパーツト席にごろ寝、一同落ち着いたところで午後出帆。神戸港を出て瀬戸内海に入るがその頃の瀬戸内海は要塞扱いで船の窓は閉められたまま、甲板へ出て回り板が張り巡らされていて、外を見る事ができず見えるのは空ばかり。船室でしゃべるか、甲板で空をみながらしゃべるか、ただ集まってしゃべるしかない。海が静かなのが大助かり。本来ならば三等船室にいる者は上甲板には出ることが許されないのだが、われわれは特別に許可されたので、夜などは甲板に寝転んで星を見ながら星座の話に花が咲く。

七日（金） 一夜を船中で過ごし、船は一路瀬戸内海を西へ。この日も一日あちらこちらに集まっておしゃべり大会。日頃は男子生徒と女子生徒との間は厳格に制限されているが、この旅行中は制限ははずされてむしろ男子は女子を助けて行動するよういわれ、和氣あいあいに楽しく語り合うことができた。この二日間のおしゃべりは先生、先輩、上級生より日頃は聞くことのできない音楽の話や、常識的な話は貴重なものであり今でも心に残っている。

八日（土） 関門海峡を通過して玄海灘に入り東支那海を航行、その頃から敵の潜水艦が出没し攻撃を加えるとの情報が入り朝鮮半島に沿ってジグザグに進む。船中にはある緊張が漲るが何事もなく航行。

九日（日） 朝早く大連市の沖へ到着。素晴らしい天気にも恵まれ遠くモヤの中に見える美しい景色に一同歓声をあげる。接岸までに時間がかかり十時頃に上陸できる。波止場で歓迎式が行なわれ政府関係者や同声会の方々より歓迎の言葉があり、大切な仕事であるという印象を改めもつた。三日間も船に乗っていたので結構疲れ宿舎でゆっくりする。宿舎には同声会の方々や飲みものや甘いお菓子などをたくさんにくだされ、その頃の東京ではお目にかかれぬものばかりで早速頂く。しかし、水が合わなかったのか、腹の調子を崩してしまつた者が出て先が心配される。元氣のある人たちは街に繰り出して多くの情報を持ち帰り、どこそこにはウイスキーがあるぞ、とか煙草の珍しいも

のがあるぞ、とか大騒ぎしたが、なにしろ小遣いに制限があるため話だけ。次の朝が早いため早めに就寝。

十日(月) 朝の早い汽車で大連から旅順へ向かう。駅から日露戦争時代の戦跡や二〇三高地、水師營などを見学、二〇三高地へ登ると爾靈山と書かれた碑が建てられておりその前で記念撮影をする。私個人としてはその後海軍へ入隊し教育のためにこの旅順の地に再び来ることもあり、二〇三高地をも訪れその時は訓練をかねていたため匍匐前進で登らされ、大きな思い出となっている。午後からは演奏会場へ行き練習をし調子をととのえ夜の本番へ備える。十九時より今回の旅行での最初の演奏会、皆張り切ったの演奏で好評を得る。その夜は旅順へ泊まる。

十一日(火) 午前中に大連へ戻り十四時から協和会館において学生と兵隊のための慰問演奏を軽い曲を中心に行なう。夜は十九時より一般のための演奏会を行なう(プログラム等については別掲)。

十二日(水) この日も前日と同様、午後と夜の二回、演奏会を行なう。午前中や休憩の時間に街へ出ていろいろ見て歩くがしばらくお目に掛からなかったものばかり、のどから手が出るほどほしいのだが、懐に制限があり、しかも先があるので我慢する。煙草など二人で一箱買って分けたり、酒もお互いに金を出し合って買い楽しんだりした。

十三日(木) 新京へ向けて出発の日。九時三十分発の「アジア号」に乗れるということで楽しみにして駅へと向かった。しかし、人数に制限ができて全員が乗れなくなってしまい、教官と上級生だけが乗れることになり、われわれ下級生と地元出身者は、今後いつか乗れるチャンスがあるであろうということで、三十分前に出る特急「はと号」で行くことになった。しかし、一応「アジア号」も経験しておきたいというので、発車の前に乗り込み車内を見たり、椅子に座ったり感触を味わった。われわれの乗った特急「はと号」もレールが広軌のため、車内も広くしかもわれわれだけの乗車であるため座席は楽に使うことができ、トロンプーンの白さんやヴァイオリンの新井(朴)さんたちといろいろとこちらの話など聞きながら楽しく時間を過ごすことがで

きた。途中「アジア号」に抜かれ新京には二時間も遅れて着く。ただちに宿舎に入ったがもうすでに床がとってあり厚い蒲団が用意されているのにビックリ、この暑いのにと訝ったが朝方になって気温が下がり蒲団の意味がわかった。大陸性の気候について聞いてはいたがこれほど差があるとは思ってもみなかった。

十四日(金) この日は慰霊日ということで何も行事は予定されておらず、終日見学日として市内へ出て散策する。天気がよく陽の当たるところはジリジリするほど暑くて堪らないが、木陰や軒下に入るとスカッとした乾いた涼しさ、気温は四十度位なのに大陸の夏は過ごしやすい。冬は反対にとてつもない寒さとかこれまた想像がつかない。街の中では馬車(マーチョ)や人力車に乗り東京ではできない経験をした。また、万頭(高粱の実で作った饅頭)や果物などを食べたりして楽しんだ。昼は南満洲映画社の主催で昼食会が催され、中華料理のご馳走もありビックリさせられた。大陸の真中で「なまこ」が出るということに驚いたが、その料理の種類の多いのにも驚かされた。この席でかの有名な甘粕大尉に会いその実力に驚かされた。

十五日(土) いよいよ公式演奏会の日となる。午後から会場である記念公会堂にて練習を行ない、綿密に本番への準備をする。練習が済んで本番までの間に時間があつたので街へ出掛けたが、演奏会用の服装に着替えていたため女子生徒たちは袴姿のまま馬車(マーチョ)に乗ったりして愉快な思い出となった。夜、十九時より奉祝記念演奏会が開催された。当時の皇帝とされていた溥儀執政、内閣閣僚、関東軍司令長官、関係要人多数を迎え、両国歌演奏から始められ、プログラムに沿ってすすめられた。空気が乾燥しているせいかいつもの音と全く異なりきれいに響き、それに緊張も加わって大変見事な出来栄であった。演奏会では男性の教官はモーニング、生徒は黒の制服(黒背広)、女生徒は学校の紋がついたグレーの紋付きと袴を着用。会場は暑く汗だくであったが外へ出るとスーッと涼しく、その時の感触は今でも思

い出される。

十六日(日) 昨夜の疲れを癒すまもなく、朝九時より大同公園の野外演奏場にて一般市民のための演奏会が行なわれ、前半は吹奏楽と独唱、合唱、後半は「海道東征」というプログラム。合唱の内の何曲かはアカペラで演奏したが、森正さんがコーラスの中に隠れてフルートによって音を与えていたのは印象的で、今でも鮮明に記憶に残っている。昼には満洲国政府関係者の園遊会へ招待され大いにご馳走になる。たまたま新京に駐屯していた部隊に声楽の中山悌一氏がおられ、特別に外出許可を得てこれ旧交をあたためられた。終わってすぐ記念公会堂に向かい十四時からと十九時からの二回前日と同様のプログラムで演奏会を行なう。

十七日(月) この日も前日と同じように十四時と十九時の二回の演奏会を記念公会堂で行ない、終了後、すぐ駅へ行き二十二時五十分発の汽車にてハルピンへ向けて出発。演奏会が終わってから汽車に乗るまでの時間が少ないので、楽器の梱包や運搬が大変苦労する。演奏が終わるや否や、コーラスのメンバーもオーケストラのメンバーも全員、着替えもせずにまず楽譜を集め、譜面台を木箱へ入れ、大きな楽器も木の箱へ仕舞いトラックに乗せてから自分の身の回りのことにかかるという忙しき、やっと済ませてから駅へと向かった。汽車では寝台車を用意してくれたのでゆっくりと眠ることができ大いに助かった。

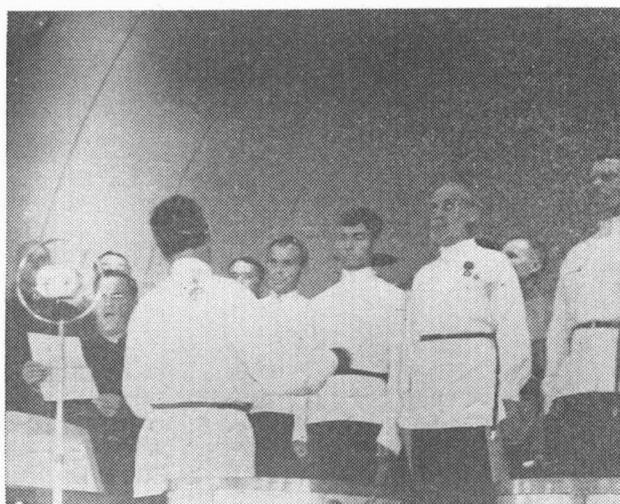
十八日(火) あまりの静かさにフツと目を覚ますと汽車は止まっている。まだ朝は早いにもう外は明るい。この辺は緯度が高い(北緯五〇度位)ので夜明けは早い。対向車がくるまでは発車しない(単線だから)というわけで車外に出て体操をしたりしてノンビリする。駅といっても小さな小屋が一軒あるだけで、遠くの村からの道が一本駅に向かつてあるだけ、見渡す限り家は一軒も見えず大陸の広さに驚く。やっと対向車の煙が遠くに小さく見えてから駅まで来るのに結構、時間がかかり改めて大陸の大きさに感心する。やっと列車の交換が済んで発車、七時四十分ハルピンの駅へ到着する。この日は何も行事がな

く、一度宿舎に入ってからバスにて市内見学。ハルピンという街はもともと白系ロシア人の多く住んでいた街であったため、建物も街並みもロシア式でロシア正教の教会・寺院などは異国情緒一杯である。教会のある道を通った際、結婚式の行列や葬式の行列などを見ることができ、よい思い出となった。午後は自由行動となったため早速、街の中へと繰り出す。キタイスカヤという東京でいえば銀座通りのような繁華街では物資も豊富、皆大感動。洒落た喫茶店に入るとケーキにコーヒー、しかもすべて本物。楽器店に行けばオペラや交響楽のスコア、貴重な楽譜など。革製品の店へゆけばカバンに靴、ジャンパー。煙草屋へ行けば日本ではすでになくなってしまったエアースリップやスリーキャッスル、ミナレットなど高級な煙草がふんだんにあり、酒屋へ行けばスコッチウイスキー、ジン、本場のウォッカ、もう堪えられなくなり懐具合も考えず手当たり次第、女性たちはロシア風の刺繍のある美しいブラウスなどを買ひ込み皆後のことなど忘れて大豪遊! 夕方、松花江の畔にあるヨット・クラブにおいて、ハルピン市長のご招待による夕食会が催された。大変なご馳走とウォッカのせいで大いに沸き上がった。その上、クラブ専属のドン・コサック合唱団の見事な演奏に刺激され、われわれもということになり、ステージに上がって日本の曲を合唱し交歓する。ドン・コサック合唱団の指揮者は右手首がなく義手を使っているのだが、なんと音叉になっていてどんな曲でも、どんな調子でも音叉のAの音から音取りをするのに感心してしまふ。すっかりと興奮してしまい帰りなどは、マーチを歌いながら宿舎まで帰る。

十九日(水) 国境の近くにチェロの小沢先生のお兄様が部隊長をされている部隊があるということで、管楽器の生徒と合唱のグループとで慰問に行くこととなり、鈴木正三先生と共に朝早く迎えのトラックに乗ってでかけた。大平原の一本道を約二時間位かけて行く。初めての慰問ということで大歓迎を受け、とっておきのサービスをして下されわれわれの方が大感激、精一杯の演奏で応えてきた。その時の話で秘密

(右) 本科2年の参加者。前列右から森岡敦子、戸田敏子、山口和子、平田黎子、眞籠五三子、後列右から檜山薫、秋元清一、新井潔、畑中良輔、秋葉良造、山田正次、中田喜直、岡本泰氏、田村宏、大橋幸夫、鈴木重教(『音楽公論』第2巻第10号、昭和17年10月、79頁)

(中右) 新京の野外演奏会で無伴奏合唱の音を出す森正氏。合唱団のうしろに座ってピアノの代りをしていた(写真提供 大石清)



歓迎会におけるドン・コサック合唱団(写真提供 大石清)



旅順白玉山頂にて(写真提供 大石清)



8月18日，ハルピン市長主催の歓迎会（写真提供 伊達純）



（上）馬車にて市中（ハルピン）見物。萩谷納，鈴木重教，野間太郎

（下）8月30日，帰京。東京駅にて『都新聞』昭和17年8月31日



8月16日，新京に駐屯している部隊から駆けつけてきた中山悌一。右は渡邊曉雄。新京園遊会にて（写真提供 大石清）

ではあったがすでに対ソ連への対応する作戦を持っているとのことでびっくりした。戦後での報告によれば終戦の前にソ連軍との戦いで全員玉碎されたというのを聞き、特別の感慨を持っている。十九時から鉄路会館において演奏会を行ない、この日からは満洲、朝鮮の出身の方の独奏を加えることになり、まず馬熙純さん（現王馬熙純さん・料理研究家）によるベートーヴェンの協奏曲を演奏した。

二十日（木） 午前中は休養にして久し振りにゆっくりする。十四時から十九時からの二回の演奏会は前日と同様のプログラムで行ない、この日も演奏終了後すぐ駅へ、何回も同じ経験をしてきたので手際よくなり、短時間で事が運ぶようになった。二十二時発の急行で奉天へと向かう。

二十一日（金） 朝、八時、奉天へ到着。一度、宿舎へ入り一休みしてからバスで市内見学へ行くとのこと、しかし、大任を果たしその上長期間の旅行とて疲労もピークに達し、参加者も少なく宿舎で休んでいる者の方が多い。しかし、出掛けた人たちはラマ教の寺院へ行き、特別の仏像を拝観したとのこと、行かなかった連中のひがむこと大であった。夜は十九時より大陸劇場にて演奏会。

二十二日（土） 十四時からの演奏会では鈴木正三先生の指揮で吹奏楽と合唱、白英俊さんのトロンボーン独奏を加えた演奏、白さんの演奏は今回のために中田一次さんが作曲したものでこの日が初演となる。夜は十九時より新井（朴）さんのヴァイオリン独奏でモーツァルトの協奏曲を加えていつもと同じのプログラムであった。ここでも演奏終了後、ただちに駅へ直行二十二時五十分発の急行で平壤へ向かう。安東を過ぎしばらくすると、満洲と朝鮮の国境を通過するので、税関の検査が行なわれることとなった。事前に注意はあったものの、煙草や酒類の持ち込み量が多く隠すのに大騒ぎ、新聞紙に包んで腰掛けの下に置いたり、洗濯物の中や楽器のケースの中に入れてたりしてどうにかごまかしてしまつた。煙草の量を少しでも減らそうと一遍に五、六本に火をつけてプカプカ、車内は煙がモーター、これで税関吏を煙に巻いてし

まつたのではないか。鴨緑江を通過する際は、ブラインドを降ろし外が見えないようにされてしまつたので、鉄橋を通過する音で今渡っていると実感し、その長い時間に河の大きさを想像するのみであった。二十三日（日） 夕刻、十六時三十三分平壤へ到着。ただちに本日の会場である平壤府公会堂へ行き、ステージを作り簡単に練習をして、十九時三十分より演奏会。長い旅行の疲れが出てきたのかだんだん元気がなくなつてきたようで、演奏に繊細さがなくなつてきた。一部の教官たちは関係者より料亭に招待を受け、朝鮮の民族舞踊を鑑賞してきたとか、後から聞いて羨ましく思った。

二十四日（月） 朝早く起こされ六時十分平壤発の急行で京城へ移動、疲れと早起きとで乗車と同時に皆バタン、グー、ほとんどの者は眠つてしまう。約八時間少々で京城へ到着。そのままバスで市内を見学しながら会場である京城府民館講堂へ、早速、ステージを作り練習。十九時から演奏会。平壤と京城での演奏会では当地出身のピアノの尹さん、トロンボーンの白さん、ヴァイオリンの朴さんの三人の独奏をプログラムに組み込み、それぞれの紹介を兼ねて披露をした。

二十五日（火） 連日、汽車に乗って着いてすぐ演奏、演奏が終わつてすぐ汽車で出発、などの強行軍でわれわれ一番若い生徒たちもついにダウン寸前、この日も午前中は宿舎でグッタリ、しかし、十二時から尹さんの御両親からの招待で朝鮮ホテルで昼食会があるというので、すっかりハリキツてしまい元気潑刺、豪華なご馳走に感激する。このところ各地での食事に飽きていたところなので、その料理の美しさとおいしさにすっかり疲れを忘れさせてくれた。中でもデザートに出たアイスクリームのおいしさは、印象に強く残っており今でもあの味は忘れることができない。その頃の東京ではすでに味わうことはできない状態であつたからおさらであつた。尹さんの姉妹をはじめ、列席された女性たちが朝鮮民族衣装のチゴリでこれれ、白や水色、ピンクの色合いが大変美しく、ソウル・オリムピック以来、現代ではチゴリ姿はたびたび、見られるようになったので珍しくはなくなつたのだが、

当時としては目を見張るほど強烈な印象であり、現在でも記憶にまざまざと残っている。このホテルの庭に「カイダ」という魔除けの置物があり、剽軽な顔であることから、誰かさんの仇名となり帰国まで呼ばれていた。ここでの演奏がこの旅行での最後の演奏であるというので、十四時からの慰問演奏、十九時からの一般への演奏会、共に大いに張り切って素晴らしい演奏をして感動的な最後を飾った。

二十六日(水) 朝から市内見学に出掛ける予定であったが、皆、疲れているというので自由行動となりそれぞれ思い思いに街へ出たり、宿舎でゴロゴロしたりで夜まで過ぎす。次の釜山への移動が夜中の午前零時四十五分というので出る気がしなかった。今となってソウル・オリムピックのニュースなどで街の様子を見るにつけ、懐かしくもあり、この日に出掛けなかったことの残念さなど複雑な心境となる。夕食後、帰国の荷物をまとめ京城駅へ集合して発車を待つ。

二十七日(木) 零時四十五分京城駅を発車、釜山へ向かい朝八時四十五分到着。午後の関釜連絡船にて下関へ向かうことになっていたが、関門、北九州方面へ台風が接近しているとの情報が入り、しばらく様子を見ていたが出港することとなる。船中はすごい混み方で船室に入ることができず、われわれ生徒たちは甲板にぐる寝となる。一度は出港したが結局航行できず途中から引き返す。甲板では風と波しづきがすごく、船室に入った人たちもギッシリとつめこまれ、まるでタタミ鯛のようにあり悲惨な一夜となってしまった。情報によれば山口県地方に台風が上陸したとのこと、出港は明日ということになりそのまま船中で待つこととなる。

二十八日(金) 台風一過の良い天気となり、改めて釜山港を出港、しかし、台風の余波で少々揺れたが午後には下関へ着く。下関市は台風の影響で市内は大荒れ、山陽線は不通で汽車に乗ることはできず、一泊することとなる。いろいろ奔走の結果、一軒の旅館で大広間が借りられ全員で雑魚寝ということになり、なんとか一夜を過ごすことができた。

二十九日(土) 朝になっても山陽線は復旧しないので、山陰線で大阪回り帰ることとなった。下関発出雲大社行き汽車にのり一度、出雲大社まで行きそこで大阪行きに乗り換えて大阪へ、そして大阪から東京へという方法になった。しかし、汽車は大変な混みようで皆、バラバラに乗車してかろうじて席がとれたが、三人掛けとなりわれわれは上級生の女性と一緒に思いがけなくいろいろと学校の裏話を聞かせてもらうことができた。大社に着いてから大阪行きの汽車まで時間があるということで、出雲大社へ参拝に行くことになり荷物を預けて出掛ける。思い掛けなく出雲大社へ行ったが皆さん方、何をお祈りしたのか、また、その後にご利益があったのでしょうか。午後大阪行きの汽車でめつたに見られない、また、予定外の山陰の海や山の景色を見ながら大阪へ。夜になって大阪に着き、すぐ東京行きの急行へ乗り換え二十五日ぶりに東海道を東京へ。

三十日(日) 朝、学校関係者、建国十周年慶祝会の関係者、家族たちに迎えられて東京駅に到着。ただちに解散式を行なって各自自宅へと向かった。約一カ月近い旅行でいろいろなハプニングもあったが、事故もなく全員無事に帰国できた、すべての行事も大成功に終わらせることができ、大変、意義のあった行事であったといえよう。この旅行に参加できたことは幸せで一生の大きな思い出となった。

あれからすでに四十七年を過ぎ、歴史も大きく変わってしまった。今では一つの思い出にしか過ぎないものになってしまったが、参加した人たちにとっては終生忘れることのない事柄であると思う。現在では訪れることも困難になってしまい、記憶も定かではなくなってしまうが、幸いに東京芸術大学の図書館に当時の記録が保存されており、それを参考にして一生懸命思い出し、その上、旅行へ参加された伊達純先生、戸田敏子先生、須賀靖元先生、友人の早川博二君他の方々にお話を伺いご協力を頂きこの思い出の記を書かせて頂きました。深く感謝をし厚く御礼を申し上げます。

平成元年(一九八九年)二月 大 石 清

(当時予科生 テューバ専攻 元東京芸術大学教授)

昭和十七年九月二十三日、二十四日、二十五日 卒業式

昭和十七年九月
二十三日(水曜日) 午後一時開始(洋樂)
二十四日(木曜日) 午後一時開始(邦樂)
二十五日(金曜日) 午前九時開始(式並洋樂)

卒業證書授與式並演奏次第

東京音楽學校

卒業演奏

第一日(二十三日) 午後一時開演

一、混聲合唱 …………… 甲種師範科卒業生一同

指揮 教授 澤崎 定之

イ、クンスト・デル・フーゲ(無伴奏)

廣田美須々作歌・信時潔作曲

ロ、神の軍(ピアノ伴奏)

佐々木信綱作歌・信時潔作曲

二、ピアノ獨奏 …………… 甲種師範科卒業 山田カヨ子

シューマン作・アベツグ變奏曲・作品一

三、バリトン獨唱 …………… 同 横井輝男

イ、山田耕筰作・曼珠沙華

ロ、同 六騎

ハ、平井保喜作・九十九里濱

四、ピアノ獨奏 …………… 本科卒業 石田正年

ブラームス作・狂詩曲・變ホ長調・作品一一九ノ第四

五、ヴァイオリン獨奏 …………… 同 吉村和子

ナルデイーニ作・協奏曲・ホ短調・第一樂章

六、テノール獨唱 …………… 本科卒業 前田幸市郎

イ、小松耕輔作・なげきたまひそ

ロ、ルツツイ作・アベ・マリア

ハ、ヘンデル作・歌劇「クセルクセス」中詠唱ラルゴ

七、ピアノ獨奏 …………… 同 畑 京子

ヘンデル作・組曲・第三・ニ短調

八、アルト獨唱 …………… 同 内田るり子

イ、平井保喜作・大き聖

ロ、バッハ作・馬太受難曲中「汝心潤きイエスよ」

九、ピアノ獨奏 …………… 同 田中万里子

ブラームス作・ソナタ・ヘ短調・作品五・第一樂章

——休憩——

一〇、ソプラノ獨唱 …………… 同 米田 更子

イ、平井保喜作・搖籃の歌

ロ、ドニゼッティ作・歌劇「ラムマームーアのルチア」詠唱

一一、ピアノ獨奏 …………… 同 竹内美江子

ベートーヴェン作・ソナタ「告別」・作品八一a・第一樂章

一二、コントラバス獨奏 …………… 同 糟 谷 敬

バッハ作・シュルツ編曲・シシリアーノ

一三、ピアノ獨奏 …………… 同 及川 恵子

ベートーヴェン作・ソナタ「告別」作品八一a・第二、三樂章

一四、作曲科卒業制作 …………… 同 三井 一郎

亡き弟に捧ぐる五つの歌

(一) 亡き弟に (二) 白粉花 (三) こゝろ (四) 青き花

(五) 風、光、木の葉

一五、ヴァイオリン獨奏 ……本科卒業中山和子

コレリ作・レオナルド編・ラ・フォリア

一六、ピアノ獨奏 ……同 牧野泰子

リスト作・パガニーニ練習曲第六・イ短調

一七、メッツォソプラノ獨唱 ……同 加藤晶子

イ、細川碧作・「カスターニエの」

ロ、サン・サーンス作・歌劇「サムソンとダリラ」中ダリラの詠唱

ハ、ヴェルディ作・歌劇「トロバトーレ」中アツチエーナの詠唱

一八、ピアノ獨奏 ……同 井口妙子

シヨパン作・スケルツォ・變ロ短調・作品三一

第二日 (二十四日) 午前十時開演

一九、觀世流

噺子

世阿彌作

二人 靜 吉田敬子(卒業生) 安福春雄 一噌鉄二

内藤房子(同) 森重朗

地

山階信弘 島澤俊一 藤波重男 坂井音次郎

二〇、山田流

箏曲

松本一太作詩 中能島欣一作曲

赤壁賦 // 緒形美恵子(卒業生) 林いね(同)

二一、生田流

箏曲

(イ) 八橋檢校作曲 亂輪舌

(ロ) さしそふ光

(ハ) 尾上の松

二二、長唄

十世杵屋六左衛門作曲

秋色種

二二、混聲合唱 ……甲種師範科卒業生一同

イ、クンスト・デル・フーゲ(無伴奏)

廣田美須々作歌・信時潔作曲

ロ、神の軍(ピアノ伴奏)

佐々木信綱作歌・信時潔作曲

二四、メッツォソプラノ獨唱 ……甲種師範科卒業 對馬かづ子

イ、信時潔作・久方の

ロ、同 ながからむ

ハ、同 淡路島

ニ、同 人はいざ

二五、ピアノ獨奏 ……本科卒業 田鍋宗三郎

リスト作・波の上を渡る聖フランシスコ

二六、ヴァイオリン獨奏 ……同 津野文子

八橋檢校作曲

三川さと子(卒業生)

緒方康子(同)

近藤敏子(同)

長岐敏子(同)

同

同

同

同

山川力也(卒業生)

三川さと子(卒業生)

緒方康子(同)

近藤敏子(同)

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

二七、ソプラノ獨唱……………本科卒業行方千鶴子

イ、平井保喜作・祕唱

ロ、プッチーニ作・歌劇「トスカ」中トスカの詠唱

ハ、マスカーニ作・歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」中

サンツツアの詠唱

二八、ピアノ獨奏……………同 堀江はる

バッハ作・伊太利協奏曲

二九、バリトン獨唱……………同 岩崎常治郎

イ、信時潔作・沙羅

ロ、モーツアルト作・歌劇「魔笛」中サラストロの詠唱

ハ、シユトラウス作・明くれば・作品二七ノ四

ニ、同 獻呈・作品一〇ノ一

三〇、ピアノ獨奏……………同 岩津章子

サン・サーンス作・圓舞曲形式に據る練習曲

——(休憩)——

三一、ピアノ獨奏……………同 杉山ハルエ

サン・サーンス作・アレグロ・アツパツシヨナート・作品七〇

三二、ソプラノ獨唱……………同 外間マサ子

イ、平井保喜作・しぐれに寄する抒情

ロ、ヴェルディ作・歌劇「ナブッコ」中アビガイレの詠唱

ハ、ロッシーニ作・「スタバートマーテル」中聖母讚歌

三三、ホルン獨奏……………同 小島英二

ゴルテルマン作・ロマンス・ホ短調

三四、作曲科卒業制作……………同 白井威彦

絃樂四重奏曲・第二樂章「幻想曲」第三樂章「スケルツォ」

三五、ピアノ獨奏……………本科卒業前田 蕨

ショパン作・譚詩曲・ト短調・作品二三

三六、ヴァイオリン獨奏……………同 佐々木アヤノ

タルティーニ作・コルティ編・協奏曲・イ短調・第一樂章

三七、ピアノ獨奏……………同 野邊地 泰

ベートーヴェン作・ヘ短調・作品五七・第一樂章

三八、メッツォソプラノ獨唱……………同 石井好子

イ、シユトラウス作・歸郷・作品一五ノ五

ロ、同 憩へ、わが心・作品二七ノ一

ハ、山田耕筰作・唄

三九、ピアノ獨奏……………同 澤井淳子

ショパン作・ソナタ・變ロ短調・作品三五・第一樂章

第三日(二十五日)

卒業證書授與式次第 午前九時開始

宮城 遙 拜

國歌「君が代」奉唱

黙 禱

卒業證書並賞品授與

學校長 式 辭

文部大臣 祝 辭

卒業生總代 謝 辭

合唱「卒業式の歌」

演 奏 午前十時開演

四〇、混聲合唱……………甲種師範科卒業生一同

指揮 教授 澤崎定之

イ、クンスト・デル・フーゲ(無伴奏)

廣田美須々作歌・信時潔作曲

ロ、神の軍(ピアノ伴奏)

佐々木信綱作歌・信時潔作曲

四一、ピアノ獨奏……………本科卒業生 慶子

シヨパン作・ポロネイズ・變イ長調

四二、テノール獨唱……………同 中目 徹

イ、小松耕輔作・砂丘の上に

ロ、サントリクイド作・「黄昏の歌」より、邂逅

ハ、ジョルダンノ作・歌劇「アンドレシエニエル」中

シエニエルの詠唱

四三、ヴァイオリン獨奏……………同 河野 俊達

ヴェラチーニ作・ソナタ・ホ短調・第一、二、三樂章

四四、ピアノ獨奏……………同 井上 澄子

リスト作・フェネライユ

四五、ソプラノ獨唱……………同 益子万里子

イ、山田耕筈作・つばめ

ロ、同 病める薔薇

ハ、ワーグネル作・歌劇「ローエングリン」中エルザの夢

四六、フルート獨奏……………同 森 正

モーツァルト作・第二協奏曲・ニ長調・第一樂章

四七、ピアノ獨奏……………同 内田 映子

リスト作・練習曲・ハ長調とヘ短調

第三日 (二十五日) 午後一時開演

四八、ピアノ獨奏……………甲種師範科卒業 兼松登代子

リスト作・ペトラルカの短詩一〇四番

四九、ソプラノ獨唱……………甲種師範科卒業 三宅 民子

イ、平井保喜作・平城山

ロ、山田耕筈作・戦後

五〇、ピアノ獨奏……………本科卒業生 塚 芳枝

ベートーヴェン作・ソナタ・變イ長調・作品一一〇・第一樂章

五一、トロムボーン獨奏……………同 白 英 俊

リーヴェ作・小協奏曲

五二、ピアノ獨奏……………同 津島 菜々枝

ブラームス作・スケルツォ・變ホ短調・作品四

五三、ヴァイオリン獨奏……………同 杉原 淑子

ナツセー作・パッサカリア

五四、ピアノ獨奏……………同 古賀千恵子

リスト作・匈牙利狂詩曲・第八

——(休憩)——

五五、バリトン獨唱……………同 麻生 貞幸

グリンカ作・歌劇「皇帝のための生命」中詠唱

五六、ピアノ獨奏……………同 吉田 民子

リスト作・演奏會用練習曲・變イ長調

五七、ソプラノ獨唱……………同 笹田 和子

イ、カタラーニ作・歌劇「ラ・ヴァリー」中ヴァリーの詠唱二曲

ロ、山田耕筈作・兵士の妻の祈り

五八、ピアノ獨奏……………同 安永美世子

シヨパン作・練習曲・ハ短調(作品一〇ノ第十二)、

ヘ短調(作品二五ノ第二)、ヘ長調(作品一〇ノ第八)

五九、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業伊達良

ヴァイオリニスト・シャルリール編・シヤコンヌ

六〇、ピアノ獨奏……………同 長谷川久子

リスト作・タランテラ

作曲科卒業制作……………同 菊池るり子

交響曲・ハ調・全三樂章(演奏は後日行ふ)

作曲科卒業制作……………同 小林福子

ピアノ協奏曲・全三樂章(同)

昭和十七年十月二十四日 第一三九回報國団演奏會

東京音楽學校報國團

第百三十九回 報國團演奏會曲目

昭和十七年十月二十四日(土) 十三時

一、オルガン獨奏 武藤かづ子

コラール前奏曲 1 是等は聖なる十誠なり……………J・S・バッハ

2 おゝ人よ汝の大なる罪を悲め……………J・S・バッハ

一、ピアノ獨奏 小河石代

協奏曲 へ短調 作品二十一……………シヨパン

第一樂章 マエストロゾ

一、クラリネット獨奏 大橋幸夫

協奏曲 第二番 作品七十四……………ウエバー

第一樂章 アレグロ

一、ピアノ獨奏 柘植織衣

ポロネーズ 變イ長調 作品五十三……………シヨパン

一、絃樂四重奏 第一ヴァイオリン 本間健三

第二ヴァイオリン 三瓶十郎

ヴァイオリン 北爪規世

ヴァイオリンセロ 山崎孟

「狩獵」變ロ長調 ケッヘル 四五八……………モーツアルト

アレグロ ヴィヴァーチェ アツサイ

メヌエット——モデラート

アダチオ

一、ピアノ獨奏 松宮さぶれ

協奏曲 スペイン狂詩曲……………リスト——ブゾーニ

【休 憩】

一、混聲合唱 師範科二年生徒

指揮 藤井囀託

伴奏 田村宏

1 いろは歌 古歌……………信時 潔

2 子等を憶ふ歌 山上憶良……………

3 麥 秋 飯田龜代司……………下總皖一

一、テノール獨唱 新井 潔

沈黙の愛 アイヒェンドルフ集三……………ヴォルフ

詩人トム 作品一三五……………レーヴェ

唄……………山田耕筰

一、ヴァイオリン獨奏

福元裕

バラードとポロネーズ 作品三十八

伴奏 梶原完

一、ピアノ獨奏

氏家久

協奏曲 イ短調 作品十六

伴奏 小倉教授

第一樂章 アレグロ モルト モデラート

グリーク

〔原資料横組〕

昭和十七年十月二十五日 第一四〇回報國団演奏会

東京音楽學校報國團

第四百十回 報國團演奏會曲目

昭和十七年十月二十五日(日) 十三時

一、混聲合唱

師範科二年生徒

指揮 藤井囁託

伴奏 田村宏

1 いろは歌 古歌

信時潔

2 子等を憶ふ歌 山上憶良

//

3 麥 秋 飯田龜代司

下總皖一

一、ピアノ獨奏

秋吉章子

諧謔曲 變ロ短調 作品三十一

シヨパン

一、バリトン獨唱

畑中良輔

アダライデ 作品四十六

伴奏 宮嶋敏

あゝ世を棄て、メリケ集十二

ベートーヴェン
ヴォルフ

一、ピアノ獨奏

柴田了一

アレグロ ロ短調 作品八

シヌーマン

一、絃樂四重奏

第一ヴァイオリン 本間健三

第二ヴァイオリン 三瓶十郎

ヴィオラ 北爪規世

ヴァイオリンセロ 山崎孟

「狩獵」變ロ長調 ケツヘル 四五八

アレグロ ヴィヴァーチェ アツサイ

メヌエット——モデラート

アダチオ

アレグロ アツサイ

一、ピアノ獨奏

藤井幸子

譚詩曲 變イ長調 作品四十七

シヨパン

【休 憩】

一、オルガン獨奏

中村アサ子

遁走曲 變ホ長調

J・S・バッハ

一、ピアノ獨奏

片岡四方

ワルツ 作品三十九

ブラームス

一、メッツォソプラノ獨唱

戸田敏子

愛を抱きて 作品三十二ノ一

伴奏 太田道子

いとしき者よ今こそ別れなん 作品二十一ノ三

R・シュトラウス

歌劇「サムソンとダリラ」より

//

君が御聲に我が心驕の花と開く

サンサイン

一、ピアノ獨奏

川島久子

エロイカ ヴァリエーション 變ホ長調 作品三十五

ベートーヴェン

一、ヴァイオリン獨奏

可兒幸壽榮

協奏曲 第四 二長調

伴奏 山本雪子
モーツァルト

第一樂章 アレグロ

一、ピアノ獨奏

永見美代子

協奏曲 ホ短調 作品十一

伴奏 井口教授
ショパン

第二樂章 ロマンズ ラルゲット

第三樂章 ロンド ヴィヴァーチェ

〔原資料横組〕

昭和十七年十月三十日 学制頒布七十年記念講演と音楽の会

学制頒布七十年記念講演と音楽の会 (文部省)

日時 十月三十日午後六時

場所 於 青山會館

一、開會の辭

一、宮城遙拜

一、「君が代」奉唱

一、祈念(海行かば合唱)

第一部

一、學制頒布七十年祝歌(合唱)

東京音樂學校作

一、「いろはうた」(無伴奏合唱)

信時潔作曲

一、愛國行進曲(無伴奏合唱)

橋本國彦編曲

——休憩——

第二部

一、挨拶

文部大臣 橋田邦彦

一、講演 「學制頒布の當時とその前後」

伯爵 林博太郎氏

一、講演 「教育塔の精神」

永田秀次郎氏

——休憩——

第三部

一、學校唱歌回顧七十年(獨唱並合唱)

解説 東京音樂學校教授 遠藤宏

一、閉會の辭

出 演 東京音樂學校生徒
上野兒童音樂學園兒童

ピアノ伴奏 東京音樂學校助教授 水谷達夫

指揮 東京音樂學校教授 澤崎定之

昭和十七年十月三十一日 学制頒布七十年記念演奏會(第九十八回定期演奏會)

昭和十七年十月三十一日(土) 十七時開場
十八時開演

於 日比谷公會堂

學制頒布七十年記念

東京音樂學校演奏會

東京音樂學校

曲 目

I. 學制頒布七十年祝歌……………東京音樂學校作



昭和17年10月30日、〈學制頒布七十年祝歌〉を演奏する東京音楽学校管絃楽部および合唱団。指揮 澤崎定之



昭和17年10月31日、演奏会形式によるグルック作曲「オルフォイスとオイリディーケ」。
独唱者、右から千葉静子（アルト）、藤田文子（ソプラノ）、津田豊子（ソプラノ）

II. 滿洲大行進曲(合唱附)……………東京音樂學校作

滿洲建國十周年慶祝會 制定 橋本國彦編曲
日滿文化協會 指揮 橋本國彦

III. 歌劇「オルフォイスとオイリディーケ」……………グルツク作

„Orpheus und Eurydice“ von Chr. Gluck

全三幕(演奏會形式に據る)

獨唱者 オルフォイス(アルト) 千葉 靜子

オイリディーケ(ソプラノ) 藤田 文子

愛の神(ソプラノ) 津田 豊子

指揮 Generalmusikdirektor Manfred Gurlitt

合唱 東京音樂學校管絃樂部

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

解説

作 曲・一七六二年ウィーンにて初演

作 詞・ギリシヤ神話より取材、伊太利詩人カルツァビージ作

本邦初演・明治三十六年、東京音樂學校奏樂堂にて上演

第一幕

オイリディーケの墓の場面。愛妻オイリディーケを亡くしたオルフォイスは悄然と立つてゐる。通常序曲は演奏せず短い序奏で直に羊飼の男女の合唱に始まり、その輓歌はオルフォイスの悲嘆の歌と交互に歌はれる。羊飼の人々は去つて、彼一人となり、亡き妻を再び己れに返すことを神に祈る。愛の神が現はれて、神々が彼の眞情に動かされたことを告げ、オイリディーケを此の世に連れ戻すまで決して顔を見ないことを條件としてゆるされるであらうと話す。

第二幕

第一場 地獄の門の場面。怨靈の舞踏、妖靈の合唱、魔犬の咆哮等地獄の恐ろしさを音楽にて描寫する。オルフォイスは手琴を奏でながら來り、亡き妻に對する愛の歌を歌ひ、地獄の門の開かれんことを願ふ。音楽の力はすべてに勝つて門は開かれた。

第二場 樂園の場面。樂園の舞踏、バレエなどあり、幸福な極樂の精靈となつたオイリディーケの歌「靜かな野は幸ある者の住居」が歌はれ、精靈の合唱樂園の歌がくりかへされる中に、オルフォイスはオイリディーケを伴つて上界に向ふ。

第三幕

黃泉の國の外に開かれる小暗い森の場面。こゝまで辿りついたが夫は自分の顔を見やうともしないので、オイリディーケは自分の顔が醜くなつたためだと思ひ、又愛が薄れたためとも言ひ、二人の二重唱は叙唱的に展開する。一目自分の顔を見ることを夫に切願するので遂に、オルフォイスは禁を破つて妻の顔を見ると同時に、妻は再び息が絶えてしまふ。オルフォイスの「あゝ再びオイリディーケを失ひぬ」の有名な詠唱が歌はれる。オルフォイスが自殺しやうとする時、愛の神が再現して、手にした杖をオイリディーケに觸れて甦らせた。羊飼の合唱は愛の神の勝利を讚美し、三重唱は愛情の徳と神々への讚歌を歌ひ、舞踏樂が續いて幕は下る。

〔原資料横組〕

昭和十七年十月三十一日 選科邦樂演奏會

昭和十七年十月三十一日(土曜日) 午後二時半開場

於 本校奏樂堂

選科邦樂演奏曲目

東京音樂學校

一、土蜘蛛
能樂觀世流連吟
佐伯可好
神田鏡子
鈴木政子
川浪志都
森田よし江

二、鶴龜
能樂觀世流連吟
磯山正孝
加藤保次
葛上富雄
嶋頭新三
土屋新三

三、富士太鼓
能樂觀世流連吟
花見淳子
服部倫子
山口芳子
山見芳子

四、高砂
能樂觀世流連吟
高橋義雄
小林智雄
保寺美智郎
山内正二
柳澤章博

五、ひぐらし
能樂觀世流連吟
中野みね子
岡本智恵子
岡本智恵子
龜井富智子
渡邊富美子
菊谷眞佐子
川上定子

六、秋の言の葉
能樂觀世流連吟
神戶光子
神戶佳子
岩井幸子
下村幸子
西山檢校作曲

七、四季の山姥
能樂觀世流連吟
中村千代子
三村千代子
富岡恵子
富岡恵子
窪田房枝
杵屋勘五郎作曲

八、紅葉狩
能樂寶生流連吟
鳥塚光雅
揖本榮子
杉本久枝
竹本久枝

茂呂正雄
宮澤光郎
前原長二
濱田郎

鈴木道子
渡邊敬一
三原サダ
多賀三栄
杉原喜代
廣瀬江

長瀬郁太郎
野崎寛一
重松十四郎
鈴木正

東條夏子
野口ふみ子
松島ふみ
笠原啓子
鈴木愛子
杉伊與子

宮田すゞ
福永徳子
鈴木喜美子
小出あき子

濱崎ハマ
岡本佐枝子
吉富千枝子

九、竹生島
能樂寶生流連吟
大久保一
堀内葉茂
堀内操
吉川正尚

十、うてや鼓
能樂觀世流連吟
笠原啓子
西郷美子
石坂愛子
高瀬和子
宮崎道雄作曲
島崎雄作詞

十一、若菜摘
能樂觀世流連吟
吉住小三郎
稀音家淨觀
職員及選科生徒

十二、雛鶴三番叟
能樂觀世流連吟
千歳鈴木喜美子
翁澁澤優子
三番三奥村房子
中村千代子

昭和十七年十一月七日、十二日 演奏旅行(新潟—富山—高岡—金沢—長野—前橋)
★十一月七日(土) 午後五時三十分開場
★十一月七日(土) 午後六時三十分開場
★於 新潟市公會堂
學制頒布七十年記念 銃後奉仕
滿洲建國十周年慶祝
東京音樂學校大演奏會

主催 讀賣新聞社
後援 新潟縣・新潟市

1. 國民儀禮
宮城遙拜

▽曲 目△



昭和17年11月8日，北陸演奏旅行，富山にて，〈君が代〉奉唱の東京音楽学校管絃楽部および合唱団



同，〈海道東征〉（北原白秋作詩，信時潔作曲）を演奏する東京音楽学校管絃楽部および合唱団。独唱 藤田文子（ソプラノⅠ），眞籠五三子（ソプラノⅡ），戸田敏子（アルト），酒井弘（テノール），秋元清一（バリトン）。指揮 藤井典明

君が代奉唱

祈念(海ゆかば)

2. 合唱(管絃樂付) 指揮 教官 藤井典明

イ『學制頒布七十年祝歌』 乗杉嘉壽作詞
下總皖一作曲

ロ『愛國行進曲』(無伴奏混聲四部) 橋本國彦編作

3. 管絃樂(合唱付) 指揮 教官 金子登

滿洲建國十周年慶祝會
日滿文化協會制定

『滿洲大行進曲』 東京音樂學校作詞・作曲

4. 管絃樂 指揮 教官 渡邊曉雄

『未完成交響曲』 口短調 シューベルト作

アレグロ・モデラート

アンダンテ・コン・モート

5. 合唱 指揮 教官 藤井典明

イ『子等を憶ふ歌』 山上憶良作詞 信時潔作曲

ロ『麥秋』 飯田龜代司作歌 下總皖一作曲

ハ『いろはうた』 古歌 信時潔作曲

6. ピアノ獨奏 室井摩耶子

イ『幻想曲』へ短調・作品四九 ショパン作

ロ『火の踊り』 デ・フアリア作

7. 女聲高音獨唱 藤田文子

ピアノ伴奏 教官 伊達純

イ『お菓子と娘』 西條八十作詩 橋本國彦作曲

ロ『歸れソレントへ』 イタリア民謠

ハ歌劇『カヴァレリア・ルステイカーナ』中

『マ、も知る通り』 プッチーニ作曲

8. 合唱・獨唱・管絃樂 指揮 教官 金子登

紀元二千六百年記念
日本文化中央聯盟制定

交聲曲『海道東征』 作詩 北原白秋
作曲 信時潔

高千穂 女聲高音 藤田文子

大和思慕 女聲中音 内田留里子

御船謠 獨唱 男聲高音 酒井弘

速吸と菟狹 他聲樂專門生徒

天業恢弘

出演 東京音樂學校

職員並生徒

〔この演奏旅行は、新潟公演を皮切りに、六カ所で六日間にわたり、演奏会が行われたが、プログラムの1、2、3および8以外は時により以下の曲目のいずれかに差し換えられた。〕

ピアノ獨奏 室井摩耶子

『幻想曲』へ短調・作品四九 ショパン作

ヴァイオリン獨奏 杉原淑子

ピアノ伴奏 室井摩耶子

イ『荒城の月』 山田耕筰作

ロ『レジェンド』 ウィニアウスキー作

ヴァイオリン獨奏 河野俊達

ピアノ伴奏 教官 渡邊曉雄

ソナタ ホ短調 ヴェラチーニ作

女聲中音獨唱

内田留里子

イ『五

月』平井保喜作

ピアノ伴奏 室井摩耶子

ロ『菩

提 樹』シユーベルト作

ハ 歌劇『オルフォイス』より『あゝ我百合姫を失ひぬ』グルツク作

フルート 獨奏

森 正

『ハンガリー田園幻想曲』 ドツプラー作

ピアノ伴奏 教官 伊達 純

音樂學校の演奏會

大東亞戰下純正な音樂の普及、健全な情操の陶冶は銃後國民の思想善導上最も必要な事であると縣音樂協會では縣と共催、縣教育會後援の下に来る十一月十二日午後一時から群馬會館大ホールに於いて東京音樂學校生徒の大演奏會を開催する事となつた、参加生徒は百六十名で晝夜二回開演、信時潔氏作詞作曲し「海道東征」の外合唱、管絃樂等が演奏される

（『上毛新聞』昭和十七年十月十六日）

地方大演奏會

東京音樂學校 銃後奉仕に

さきに滿洲建國十周年を慶祝して音樂使節として渡滿した東京音樂學校教職員生徒百五十名は同慶祝を敷衍し、さらに地方音樂文化の進運に寄與し銃後奉仕の實をあげようと本社主催で次の日割により地方大演奏會を催すことになり乗杉校長引率の下に六日夜十時卅五分と同一一時卅分の二班に分れ上野驛發新瀉に向つた

△七日新潟△八日富山△九日高岡△十日金澤△十一日長野△十二日前橋

（『讀賣報知新聞』昭和十七年十一月七日）

昭和十七年十一月二十一日 秋季選科洋樂演奏會

昭和十七年十一月二十一日（土曜日）午後二時開場

於 本校奏樂堂

秋季選科洋樂演奏曲目

東京音樂學校

- 一、オルガン獨奏……………平岩 幸子
- パルティータ・ト短調……………バツ ハ作
- 二、テノール獨唱……………鈴木喜助
- い、歸れソルレントへ……………ナポリ民謠
- ろ、歌劇「愛の妙藥」よりネモリーノの詠唱……………ドニゼッティ作
- 三、ヴァイオリン獨奏……………福田英子
- コンツェルティノ・第一樂章……………シツト作
- 四、ピアノ獨奏……………坂井敬子
- 調子のよい鍛冶屋……………ヘンデル作
- 五、バリトン獨唱……………一ノ瀬俊夫
- い、聖處女……………デュラン作
- ろ、空虚の心……………ペスイイロ作
- 六、ヴァイオリン獨奏……………岡村玲子
- ソナタ・第三番・へ長調・第一、二樂章……………ヘンデル作
- 七、ピアノ獨奏……………進藤富夫
- ポロネーズ・變イ長調・作品五三……………シヨパン作
- 八、ソプラノ獨唱……………林 せん
- い、君たとへ酷くも……………カルダラ作
- ろ、青い上衣……………山田耕筈作

九、ヴァイオリン獨奏……………王慶善

コンツェルト・第二番・ト長調・第一樂章……………ザイツ作

一〇、ピアノ二重奏……………今村布美子

宮島慶子

ベートーヴェンの旋律を主題とする變奏曲……………サンサーン作

◇休 憩◇

一一、ピアノ獨奏……………高橋三千恵

バラード・變イ長調……………シヨパン作

一二、ソプラノ獨唱……………久保田喜代子

い、愛しき者よ……………ジョルダニー作

ろ、太陽はガンジス河より……………スカラツテイ作

一三、ヴァイオリン獨奏……………水上信雄

ソナタ・第三番・ヘ長調・第一、第二樂章……………ヘンデル作

一四、ピアノ獨奏……………澤田登美枝

ロンド ブリランテ・作品六二……………ウエーベル作

一五、テノール獨唱……………門永高夫

い、アマリリ美はし……………カッチニイ作

ろ、歌劇「トスカ」より「星も光りぬ」……………プッチーニ作

一六、ヴァイオリン獨奏……………平形秀子

瞑想曲・歌劇「タイース」より……………マスネー作

一七、ソプラノ獨唱……………小林八重子

い、野ばら……………シューベルト作

ろ、汝れは憩ひなり……………

は、野茨(三木露風詩)……………梁田貞作

に、晝の夢(高安月郊詩)……………

一八、ヴァイオリン獨奏……………重松仁子

コンツェルト・第七番・第一樂章……………ベリオ作

一九、ピアノ獨奏……………三島謹子

コンツェルト(戴冠式)……………モーツアルト作

昭和十七年十一月二十八日 第一四一回報國団演奏會

東京音楽學校報國團

第四百十一回 報國團演奏會曲目

昭和十七年十一月二十八日(土) 十三時

一、オルガン獨奏……………秋元道雄

幻想曲と通走曲 ハ短調……………J・S・バッハ

一、バリトン獨唱……………藤村晃一

歌劇「フィガロ」より……………水谷助教授

フィガロの詠唱……………モーツアルト

歌劇「ドン・ジュワン」より……………

レポレロの詠唱……………

一、ヴァイオリン獨奏……………竹内千里子

協奏曲 ト短調 作品二十六……………伴奏 中野富貴子

第二樂章 アダチオ……………ブルッフ

一、テノール獨唱……………鈴木重教

夢を追ひて……………伴奏 今井助教

スペインの夜……………フォーレ

……………マスネー

漁人の歌……………フォーレ

一、ピアノノ獨奏……………松本 綏子

組曲 二短調……………ヘンデル

前奏曲

遁走曲

クーラント

アリヤと變奏曲

一、ソプラノ獨唱……………眞籠五三子

伴奏 井上愛子

もはや我と我心に感ぜず……………バイシエルロ

セレナータ……………トゼリ

歌劇「ファウスト」より……………グノー

花の歌

【休憩】

一、ピアノノ獨奏……………伊藤 彰子

ピアノの爲にホ長調……………ドゥビツシー

トツカータ

一、ソプラノ獨唱……………森岡 敦子

伴奏 川島久子

平和の魂……………モーツァルト

すみれ……………〃

歌劇「フィガロの結婚」より……………〃

スザンナの詠唱

一、ピアノノ獨奏……………太田 道子

伴奏 高折教授

協奏曲 第一番 八長調 作品十五……………ベートーヴェン

第一樂章 アレグロ コン プリオ

一、ソプラノ獨唱……………朝倉 春子

伴奏 佐伯貞子

詩人の戀より……………シューマン

一、管 絃 樂……………生徒管絃樂部

指揮 渡邊囁託

交響曲第八番 ロ短調……………シューベルト

アレグロ モデラート

〔原資料横組〕

昭和十七年十一月二十九日 第一四二回報國団演奏会

東京音楽學校報國團

第四百十二回 報國團演奏會曲目

昭和十七年十一月二十九日(日)十三時

一、バリトン獨唱……………須賀 靖和

伴奏 青山三郎

オラトリウム「デボラ」中より……………ヘンデル

吾が涙より 作品四十八ノ二……………シューマン

夜ごと夢に 作品四十八ノ十四……………〃

一、ヴァイオリン獨奏……………岩崎富美子

伴奏 永見美代子

ロマンス へ長調 作品五十……………ベートーヴェン

一、二 重 唱……………根本ツネ子

伴奏 松本房江

「アタリア」より……………メンデルスゾーン

「アタリア」より……………メンデルスゾーン

歌劇「ファイガロの結婚」より

スザンナとマルツェリーナの二重唱……………モーツァルト

スザンナと伯爵夫人の二重唱……………

一、ピアノノ獨奏

小山田 芳

奏鳴曲 ハ長調 作品五十三……………ベートーヴェン

第一樂章 アレグロ コンブリオ

一、ソプラノ獨唱

藤島 良子

水の上に歌ふ 作品七十二……………シユーベルト

ソルヴェーグの歌 作品二十三……………グリーク

姫 作品二十一ノ四……………

一、ピアノノ獨奏

中田 喜直

ユモレスク 變ロ長調 作品二十……………シユーマン

【休 憩】

一、ピアノノ獨奏

船橋 豊子

奏鳴曲 ハ長調 作品一……………ブラームス

第一樂章 アレグロ

一、バリトン獨唱

山田 正次

蓮 の 花 作品二十五……………シユーマン

幼き頃への憧れ 作品六十三……………ブラームス

憩へいとときものよ 作品三十三……………

一、ピアノノ獨奏

葛原 守

一、メッツォソプラノ

佐々木 成子

交響的變奏曲……………フランク

一、メッツォソプラノ

佐々木 成子

ジプシーの歌 作品百三……………ブラームス

一、室内樂

ヴァイオリン 渡邊 曉雄

ホルン 岡田 朗

ピアノノ田村 宏

三重奏 變ホ長調 作品四十……………ブラームス

第一樂章 アンダンテ

第二樂章 スケルツォ(アレグロ)

第三樂章 アダヂオ メスト

第四樂章 フィナーレ(アレグロ コンブリオ)

〔原資料横組〕

昭和十七年十二月七日 大東亞戦争一周年記念国民士氣昂揚大音楽会

昭和十七年十二月七日(月曜) 午後五時開場 午後六時開演

日比谷公會堂

大東亞戦争一周年記念

国民士氣昂揚大音楽會

出演 東京音楽學校
後援 情報局
主催 朝日新聞社

大東亞戦争一周年記念
国民志氣昂揚
大音楽會順序及曲目

國民儀禮

國歌奉唱



昭和17年12月7日、〈海道東征〉(北原白秋作詞，信時潔作曲)を演奏する東京音楽学校管絃楽部および合唱団。独唱 山内秀子(ソプラノⅠ)，朝倉春子(ソプラノⅡ)，千葉静子(アルト)，酒井弘(テノール)，藤井典明(バリトン)。指揮 木下保

祈念(『海ゆかば』演奏)

開會の辞 朝日新聞社企画局長 木村 東

挨拶 東京音楽学校校長 乗杉 嘉壽

第一部

一、齊唱と合唱

指揮 澤崎 定之
ピアノ伴奏 伊達 純

『大詔奉戴の歌』

『大東亞戦争 陸軍の歌』

『大東亞戦争 海軍の歌』

『愛國行進曲』

第二部

二、長 唄

『譽の若櫻』(九軍神記念)

唄 石村 義一
(吉住小三八)

三絃 山田 抄太郎
(稀音家六治)

杉本 茂一
(稀音家六四郎)

外職員 生徒

第三部 (休憩)

三、合唱、獨唱、管絃樂

交聲曲『海道東征』(皇紀二千六百年奉祝藝能祭制定)

獨唱 女聲高音 山内 秀子
女聲高音 朝倉 春子
大和 思慕

北原 白秋 作詞
信時 潔 作曲
山内 秀子 獨唱

御船出
御船謠
速吸と菟狹
海道回顧
白肩の津上陸
天業恢弘

中音千葉静子
男聲高音酒井弘
低音藤井典明
合唱東京音樂學校生徒
上野兒童音樂學園兒童
管絃樂 東京音樂學校管絃樂部
指揮 木下保

昭和十七年十二月十九日 統後奉仕演奏會

昭和十七年十二月十九日(土) [十七時半開場
十八時半開演]

會場 共立講堂(神田一ツ橋)

統後奉仕演奏會曲目

東京音樂學校

統後奉仕演奏會次第

國民儀禮

1. 管絃樂……………作曲並指揮 高田三郎

幻想曲と二重フーゲ(山形民謡による)

2. アルト獨唱・管絃樂附……………獨唱 千葉静子
作曲並指揮 高田三郎

「風のうたつた歌」三曲

——(休 憩)——

3. ピアノ獨奏・管絃樂附……………獨奏 豊増昇
指揮 橋本國彦

協奏曲・ホ短調・作品十一……………シヨパン作

アレグロ・マエストロ

ロマンツェ(ラルヂェット)

ロンド(ヴィヴァーチエ)

——(休 憩)——

4. 合唱と管絃樂……………指揮 橋本國彦

ワグネル作 樂劇より三曲

イ、「ニユールンベルグの平民歌手」第三幕より

ハンス・ザックス 讚美の合唱

ロ、「ローエングリン」第二幕より 會堂への行進と合唱

ハ、「タンホイゼル」第二幕より 大行進曲と合唱

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

〔原資料横組〕

東音の統後奉仕演奏會

十九日夜共立講堂に於て開催

東京音樂學校では昭和十二年以來毎年一回又は二回に亘り統後奉仕演奏會を催し、既に洋樂は五回邦樂三回計八回を開催、その賣上金を毎回恤兵献金をして來たが、本年度も來る十二月十九日(土)午後六時半より共立講堂に於いて、

獨唱千葉静子、ピアノ獨奏豊増昇、合唱東京音樂學校生徒、管絃樂東京音樂學校管絃樂部、指揮橋本國彦氏で開催されるが、

曲目は(一)管絃樂「幻想曲と二重フーゲ」「風が歌つた歌」高田三郎作
(二)ピアノ獨奏「協奏曲ホ短調」シヨパン作(三)合唱「樂劇タンホイゼ
ル」「ローエングリン」「マイスタージンガー」ワグネル作

〔音樂文化新聞〕第三十四号、昭和十七年十二月十日

昭和十八年二月六日 第一四三回報國団演奏會

東京音楽學校

第百四十三回 報國團演奏會

昭和十八年二月六日(土) 十三時

曲 目

一、室内樂 六重奏

- 第一ヴァイオリン 新井 囁 託
- 第二ヴァイオリン 福 元 裕
- ヴィオラ 伊 達 良
- コントラバス 檜 山 薫
- 第一ホルン 岡 田 朗
- 第二ホルン 秋 葉 良 造

「嬉遊曲」變ロ長調 ケツヘル二八七番……………モーツァルト

アレグロ

主題と變奏曲 アンダンテ グラツィオーゾ

メヌエット

アダチオ

アンダンテ—アレグロモルト—アンダンテ—

アレグロモルト

一、テノール獨唱

竹 内 光 夫

自由の想ひ 作品二五番の二……………シユーマン 伴奏 田村 宏

胡桃の樹 作品二五番の三…………… //

二人の擲弾兵 作品四九番の一…………… //

一、ヴァイオリン獨奏

福 元 裕 伴奏 梶 原 完

前奏曲とアレグロ……………プニャーニ

一、ソプラノ獨唱

澤野 八重子

甲斐の峽「ヤマメの歌」…………… 伴奏 澤野 良子

一、作品發 表

草 川 宏

「ピアノ獨奏曲」

獨奏 大島 正泰

1 スケルツォ ト長調 急速

2 ロンド 變ホ長調 稍速

——【休 憩】——

一、室内樂三重奏

フルート 森 正
ヴァイオリン 伊 達 良
ヴィオラ 河 野 俊 達

「小夜曲」ニ長調 作品二五番……………ベートーヴェン

エントラータ アレグロ

メヌエット

フィナーレ アダチオーアレグロヴィヴァーチェ

一、ソプラノ獨唱

多 田 光 子

春の聲 作品四七〇番……………J・シユトラウス 伴奏 佐伯 貞子

鶯……………ロシア民謡……………アラビヤフ

一、ピアノ獨奏

井 上 澄 子

協奏曲 第四番 二短調……………A・ルービンシユタイン

第一樂章 モデラート アッサイ

〔原資料横組〕

アンダンテ

スケルツォ (アレグロ)

フィナーレ (アンダンテ—アレグロ)

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部
指揮 ヘルムート・フェルマー

〔原資料横組〕

東京音楽学校 定期演奏會

東京音楽学校は長い傳統を持つてゐる筈だと思ふが、何時聞いてもこの管絃樂團は中途半端な無性格さを感じしめる。去る二月二十日の第九十九回は、曲目に興味があつたが、樂團の演奏としては殆ど批評するに堪えぬほどであつた。アカデミックなところも全然なく、若々しさもない。大體の走句は始めが合つてゐるだけ、トゥッテイの時には何か一つ二つの音が必ずずれてゐる。フェルマーの指揮は非常に部分的で、全體が大きくまとまらないので、ダイナミックが甚だ弱い。モーツアルトのフルート協奏曲ニ長調は綺麗な曲だが、森正氏のフルートは妙にやにっこい癖があつて、モーツアルトらしくない。シベリウスはグルリットよりはシベリウスらしかつたが、この第一交響曲のやうなシベリウスとしては比較的易しい曲をこんなに苦勞してゐては仕様がなない。(關清武)

〔音楽文化新聞〕第四十一号、昭和十八年三月一日)

昭和十八年三月二十三日、二十九日 軍機献納邦楽演奏會

昭和十八年三月二十九日 (月曜日) 午後 五時半開場
六時半開演

於 共立講堂

軍機 献納 邦楽演奏會番組

東京音楽学校

觀世流囃子

一 忠

靈

梅若万三郎

地謠

山階信弘
武田太加志

坂井音次郎
藤波順三郎
島澤啓次郎

寶生流囃子

二 舟

辨

慶

寶生重英

地謠

金井忠章
前田宏

箏 曲

三 新

さらし

—— 休 憩 ——

大鼓

川崎利吉
幸悟朗

野口祿
佐野久
野口喜雄

箏 曲

四 い

東亞の黎明

乘杉嘉壽 作詞
宮城道雄 作曲

宮城道雄

外職員 生徒

宮城道雄
瀨喜代子

ろ

蘭花の踊

宮城道雄 作曲

宮城道雄

外職員 生徒

宮城道雄
瀨喜代子

長 唄

猿

同 同

稀音家 和喜次郎

稀音家 四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

五 舞

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 舞

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

六 壽

祝

同 同

稀音家 六四郎

稀音家 六四郎

望月長一郎
望月吉三郎
望月孝三郎

昭和十八年三月三十日 研究科修了演奏会

昭和十八年三月三十日 (火曜日) 九時(式開始、式後演奏)
十三時半(演奏開始)

於 本校音楽堂

研究科修了演奏曲目

東京音楽學校

研究科修了演奏 午前の部(式後引續き行ふ)

- 一、オルガン 獨奏 周 慶 淵
 バッハ作・トッカータとフーゲ・ニ短調
- 二、ピアノ 獨奏 清水トシ子
 ショパン作・ソナタ・變ロ短調・作品三五・第一樂章
- 三、ソプラノ 獨唱 朝倉 春子
 イ、ベートーヴェン作・歌劇「フィデリオ」第一幕・
 レオノーレの詠唱
 ロ、山田耕筰作・「風に寄せてうたへる歌」より
 「讀へよ、調へよ、歌ひつれよ」
- ハ、同 逝く春
- 四、ピアノ 獨奏 森 留奈子
 シューマン作・交響的練習曲
- 五、ヴィオロンチェロ 獨奏 劍持富美子
 サン・サーンス作・協奏曲・イ短調・作品三三
- 六、ピアノ 獨奏 藤 田 仲子
 リスト作・ハンガリー狂詩曲第十
- 七、メッツォソプラノ 獨唱 佐々木 成
 イ、ウォルフ作・まどろめる子クリスト

八、ピアノ 獨奏

リスト作・メフィストワルツ

午後の部(十三時半開始)

- ロ、ベルリオース作「ファウストの劫罰」中
 マルガリーテのロマンス
- ハ、中田一次作・鈴
- 九、ピアノ 獨奏 岡崎 泰子
 ショパン作・ソナタ・ロ短調
- 十、ソプラノ 獨唱 多田 光子
 イ、トーマ作・歌劇「ミニヨン」中ポロネーズ
 ロ、信時潔作・小曲五章より「うら淋し」、「薔薇の花」
- 十一、ピアノ 獨奏 大木百合子
 ショパン作・船唄
- 十二、ソプラノ 獨唱 石神以代子
 イ、レオンカヴァロ作・歌劇「道化師」中「鳥の歌」
 ロ、市川都志春作・木屋
- 十三、ピアノ 獨奏 武安千賀子
 シューマン作・謝肉祭
- 休 憩 ——
- 十四、バス 獨唱 栗 本 正
 イ、山田耕筰作・かやの木山
 ロ、シューベルト作・凍れる涙
- ハ、同 魔王
- 十五、ピアノ 獨奏 矢橋満子
 フランク作・プレリュード・コラール・フーゲ

十六、アルト 獨唱……………千葉 静子

イ、平井保喜作・五月

ロ、サン・サーンズ作・歌劇「サムソンとダリラ」中詠唱

ハ、グリーク作・エロス

十七、ピアノ 獨奏……………朝倉 靖子

ベートーヴェン作・ソナタ・ハ短調・作品百十一

作曲科修了制作(演奏は後日行ふ)……………中田 一次

歌曲「あはれよしわれらの國は」・合唱・管絃樂附

作曲科修了制作(同)……………高田 信一

管絃樂曲「ヒュッテに寄する牧歌」

昭和十八年四月八日 第二次特別攻撃隊を讃へる会

第二次特別攻撃隊を讃へる會

日時 四月八日(木) 午后五時開場、五時半開會

會場 日比谷公會堂(入場無料)

主催 海軍省、くろがね會、日本文學報國會、讀賣新聞社

第一部

國民儀禮

宮城遙拜

君が代奉唱(四部) 東京音樂學校生徒

祈念(祈念中「海ゆかば」) 全 上

開會の辭 日本文學報國會事務局長 久米 正雄

挨拶 くろがね會々々長海軍中將 上田 良武

合唱 「特別攻撃隊」 合唱東京音樂學校生徒

指揮城多又兵衛

朗讀 「海底戰記」 山岡 莊八

詩「第二次特別攻撃隊」 福士 幸次郎

岩田豐雄作「海軍」 山本 安英

「嗚呼小さなお母さん」「仰ぎ見たり神威の士魂」

吉川 英治

聖壽萬才 くらがね會事業部長 山添 幸次郎

皇軍萬才 讀賣新聞社事業部長 橋 本 淳

第二部

映畫 「ハワイ、マレー沖海戰」

「合唱 特別攻撃隊」の次行に「第二次特別攻撃隊」くらがね會作詞 東京音樂學校作曲の書き込み、「朗讀 詩『第二次特別攻撃隊』」の次行には、「朗唱 譽の若櫻 乗杉嘉壽作詞 古川太郎 筆伴奏」の書き込みがある。

聖德太子 一千三百二十二年御忌法用

昭和十八年四月十一日 聖德太子一千三百二十二年御忌法用

聖德太子 一千三百二十二年御忌法用

法樂

一、箏 曲

夢 殿 宮城 道雄

佐々木信綱 作歌

宮城道雄 作曲

二、長 唄 九軍神讚歌

譽の若櫻

乗杉嘉壽 作歌

稀音家六治 作曲

三、舞踊・箏曲

唄 吉住 小三八

三絃 稀音家 六治

同 稀音家 六四郎

外

春の海

宮城道雄 作曲
藤間勘十郎 按舞

踊 藤間流生徒
箏 生田流生徒

四、混聲合唱

聖德太子讚仰歌

聖德太子奉讚會 撰歌
島崎赤太郎 作曲
下總皖一 和聲

五、交聲曲

聖德太子奉讚歌

乘杉嘉壽 作歌
下總皖一 作曲

- 一、太子降誕
- 二、以和爲貴
- 三、承詔必謹
- 四、國威宣揚
- 五、恩德廣大

合唱 東京音樂學校生徒
指揮 城多又兵衛

昭和十八年四月十七日 研究科邦樂修了演奏會

昭和十八年四月十七日 (土曜日) 午後一時開場
二時開演

於 本校奏樂堂

研究科邦樂修了演奏曲目

東京音樂學校

箏曲 山田流

一、紫式部

今井邦子 作歌
中能島欣一 作曲

箏 西山松枝
箏低音 小林糸子
東條夏子

長唄

二、土蜘蛛

三世 杵屋勘五郎 作曲

唄 熱海松子
川本芳子
岡本松子
磯田昭子

箏曲 生田流

三、尾上の松

古曲

箏 宮城道雄 作曲

箏 宮城よし子
三絃 相原茂子

長唄

四、常盤庭

十世 杵屋六左衛門 作曲

唄 岡本松子
尾畑芳子
熱海紀美子
池川昭秋
磯田又秋
川田敦子
上調子

昭和十八年五月八日 第一四四回報國団演奏會

東京音樂學校

第百四十四回 報國團演奏會

昭和十八年五月八日 (土) 十三時

曲目

一、ピアノ獨奏

スケルツォ 變ホ短調 作品四番

西浦智子
ブラームス

一、アルト獨唱

加藤雅子

伴奏 黒澤囃託

平城山……………平井保喜

君を見しより……………シユーマン

世の人に勝れ……………シユーマン

一、ピアノ獨奏

ソナタ「告别」變ホ長調 作品八十一のa……………ベートーヴェン

第二樂章(不在) 第三樂章(再會)

一、バリトン獨唱

伴奏 青山三郎

歌劇「ファウスト」より故郷をあとに……………グーノー

ヴァイラの歌……………ヴォルフ

歌劇「ディノラー」よりホーエルのロマンツェ……………マイヤベール

一、ピアノ獨奏

「謝肉祭」……………シユーマン

(1) 前奏曲 (2) ピエロー (3) 道化役者 (4) 高雅な圓舞曲

(5) オイゼビウス (6) フロレストン (7) コケット (8) 應答句

(9) 蝶々 (10) 踊る文字 (11) キアリーナ (12) シヨパン (13) エストレ

ーラ (14) 廻り合ひ (15) パンタロンとコロムビーンヌ (16) ドイツ風

圓舞曲……………パガニーニ……………ドイツ風圓舞曲 (17) 告白 (18) 散歩

(19) 休憩 (20) ファイリスティ派を討つダヴィッド團の行進曲

一、混聲合唱

伴奏 黒須ゆり子

(1) 救はれし者等の歌……………妹尾 幹譚詞……………ゲッツェ

ソプラノ獨唱……………平田黎子

オルガン伴奏……………秋元道雄

(2) タの歌……………大須賀 續譚詞……………ブラームス

ピアノ伴奏……………田村 宏

——【休 憩】——

一、絃樂四重奏

第一ヴァイオリン……………本間健三

第二ヴァイオリン……………三瓶十郎

ヴィオラ……………北爪規世

セ……………山崎 孟

絃樂四重奏曲 ハ短調 作品十八の四……………ベートーヴェン

アレグロ マノン トロツポ

スケルツォ(アンダンテ) スケルツォーズ

クワズイ アレグレット)

メヌエット(アレグレット)

アレグロ

一、テノール獨唱

伴奏 萩谷 納

歌劇「後宮よりの脱走」よりベルモンテの詠唱……………モーツアルト

歌劇「ドン・ジヨヴァンニ」より

オッターヴィオの詠唱……………モーツアルト

一、ピアノ獨奏

ソナタ 變イ長調 作品百十番……………ベートーヴェン

モデラート カンタビレ……………モルト エスプレツスイヴォ

モルト アレグロ

アダチオ マノン トロツポ アレグロ マノン トロツポ

一、ソプラノ獨唱

伴奏 砂原美智子

汝若し我を思はゞ……………L・デンツァ

歌劇「ラ・ボエーム」よりムゼッタの詠唱……………プッチーニ

一、絃樂合奏

伴奏 絃樂科生徒一同

「セレナーデ」……………指揮 渡邊囃託

……………チャイコフスキー

アンダンテ ノン トロツポ——アレグロ モデラート——
 アンダンテ ノン トロツポ
 ワルツァ モデラート

〔原資料横組〕

昭和十八年五月十五日 報國團第十四回邦楽演奏会
 昭和十八年五月十五日 (第三土曜日) 午後一時開場
 東京音楽學校報國團 午後一時半開演
 第十四回 邦楽演奏會

上野公園内
 於本校奏樂堂

演奏曲目

一、寶生流能樂
 イ、仕舞 母キリ
 西王 加藤高子
 箏之段 嘉一
 口、獨吟 地謠
 放 下 僧小歌 平井澄子
 二、生田流箏曲
 都踊 箏高音 中島靖子
 都踊 箏低音 坂井敏子
 高松二子
 三、山田流箏曲
 白の聲 箏 徳永静子
 名和康子
 鴨井佳哉
 鈴木静江
 三絃 金田道子

(休憩十分)

四、長唄 櫻咲く國 關原博子
 白石美和子
 龍水子
 荻野スズ子
 大塚萬智子
 五、能樂舞囃子 觀世流 小貝昂七
 吉野天人 地謠
 六、長唄 越後獅子 山田喜代子
 山田賴子
 矢島敏子
 三味線
 加藤基代子
 中川正子
 小林美知子
 七、觀世流能樂 仕舞 網之段 二宮淑子
 藤井伊勢子 地謠
 丸山和子
 大和里子
 丸山敬子
 八、生田流箏曲 山姥キリ 曾根國子
 會根國子 三絃
 横山泰子 土屋澄子
 川上千恵子
 九、長唄 吾妻八景 山田初子
 内海普子 三味線
 大國明子 小西美子
 渡邊震子 小西素子
 伊東はな子 上調子
 鞍馬天狗 植田正治 地謠
 寶生流 角山俊道
 當田尚三
 當田尚三
 五、能樂舞囃子 觀世流 小貝昂七 地謠
 吉野天人 地謠
 六、長唄 越後獅子 山田喜代子
 山田賴子
 矢島敏子
 三味線
 加藤基代子
 中川正子
 小林美知子
 七、觀世流能樂 仕舞 網之段 二宮淑子
 藤井伊勢子 地謠
 丸山和子
 大和里子
 丸山敬子
 八、生田流箏曲 山姥キリ 曾根國子
 會根國子 三絃
 横山泰子 土屋澄子
 川上千恵子
 九、長唄 吾妻八景 山田初子
 内海普子 三味線
 大國明子 小西美子
 渡邊震子 小西素子
 伊東はな子 上調子

昭和十八年五月二十二日 第百回定期演奏會

昭和十八年五月二十二日(土) [十七時半開場
十八時半開演]

會場 日比谷公會堂

第百回 定期演奏會 曲目

東京音樂學校

1. 合唱・獨唱・管絃樂

交聲曲「聖德太子奉讚歌」

乗杉嘉壽作歌
下總院一作曲

指揮 木下 保

2. 管絃樂

主題・變奏曲と遁走曲

高田信一作曲

指揮 橋本國彦

3. 管絃樂

前奏曲(定期第百回記念曲)

——(休憩)——

指揮 ヘルムート・フェルマー
フェルマー作曲

4. ピアノ獨奏・管絃樂附

協奏曲

アレグロ・レヂェロ

アンダンテ

アレグロ・モルト

小林福子作曲並獨奏

指揮 橋本國彦

5. 合唱附管絃樂

「海行かば」敷衍曲

益子九郎編作

指揮 木下 保

合唱

東京音樂學校生徒

管絃樂

東京音樂學校管絃樂部

〔原資料横組〕

學窓に響く「日本の音律」

米英の心捨てし音樂校演奏會

東京音樂學校が明治三十一年十二月に第一回定期演奏會を開いて四十六年、その第百回定期演奏會がきたる二十二日夜、日比谷公會堂で開かれる、同校創立以來約七十年の歴史をかけて、第百回演奏はすでに「西洋音樂會」ではなく、日本人のものになり切つた「西洋樂器の日本音樂會」として公開され、作曲は全部同校を中心とする作曲家の手に成る新作ぞろひ、演奏は同校全員をあげる最高の編成をもつてナチス派遣作曲教授ヘルムート・フェルマー氏の参加をもつて飾つてゐる。

曲目第一は乗杉校長作詞、下總教授作曲の交響曲「聖德太子奉讚歌」第二は同校作曲科卒業生高田信一氏(二四)作曲の管絃樂「變奏曲と遁走曲」高田氏は本年同校研究科を奠立つたばかりの新進だが、つゞく管絃樂附「ピアノ協奏曲」を獨奏する小林福子さん(二四)は、まだ同校作曲研究科一年生ながら堂々自作のピアノ協奏曲を發表する、日本女性としてピアノ協奏曲作曲はこれが最初である。

最後の曲目合唱附管絃樂「海行かば」は、あまりにも有名な信時潔氏作曲の歌曲「海行かば」を、信時氏の愛弟子益子九郎氏が敷衍曲として完成したもので、國民愛誦歌を壯大な規模に展開してゐる。
なほヘルムート・フェルマー教授は自作の前奏曲を指揮する。

〔東京朝日新聞〕昭和十八年五月十九日

東京音樂學校 第百回演奏會

〔廿二日・日比谷〕百回目に當る東京音樂學校定期演奏會は種々の観点から意義深いものであつた。第一は、多年迂余曲折の後近年同校出身者のみによつて結成し得た管絃團が、最近漸く管絃團らしい合奏力を發揮し出したことであつた。

第二は、今般時節柄特に同校關係の作曲者の新作のみを以て曲目を充たしたことであつて、殊にその中でも小林福子嬢の自作自演に據るピアノ



昭和十八年五月二十三日、ハイドン作曲聖譚曲「四季」、日比谷公会堂。独唱 藤田文子（ソプラノ）、萩谷納（テノール）、秋元清一（バリトン）。指揮 木下保

ノ協奏曲は、樂曲としてピアノスティックな手法の下に、眞に現代的な、日本の大規模な作品を創作し得たことで注目し値した。これでその第三樂章が素晴らしく日本的な第一樂章の如く完成されてゐたならば如何ばかり悦しかつたらう。それは兎に角、この作の発表は第百回定期を一層意義あらしめたといへる。

（野村光一）

（『毎日新聞』昭和十八年五月二十五日）

東京音樂學校第百回演奏會

學校出身者の作品を主題に曲目を編みうるに至つたことはさすがに百回の歴史の然らしめるものとなつられるが、その成果は残念ながら芳しくなく新人、小林福子さんの作品に注目すべき点があつたことと、合唱に傳統的な力がうかがへたに止まる、下總教授の交響曲は平板な敘情曲の並列に盡き、感動の起伏がなく、新人、高田信一、益子九郎両氏ともに教科書的まどまりに終つて個性的な力がない、小林さん自作自演の洋琴協奏曲はフランス樂派の影響もうかがへ、管絃樂法に弱点が目立つが、ピアノの部分はよく書けてゐる、洋琴手法に傾倒しすぎないで、自分の歌を大膽に流し切る必要があらう、上野の作曲もこれからであり、管絃樂員も生徒が多数を占めてゐる、この若さに將來の期待をかけたい（二十二日夜日比谷公會堂）（園部三郎）

（『東京朝日新聞』昭和十八年五月二十八日）

昭和十八年五月二十三日 第百回定期演奏記念銃後奉仕演奏會

昭和十八年五月二十三日（日）

〔十七時半開場
十八時半開演〕

會場 日比谷公會堂

第百回定期演奏記念

銃後奉仕演奏會 曲目

東京音樂學校

ハイドン作・聖譚曲「四季」(邦語歌詞)

Oratorium: Die Jahreszeiten J. Haydn

シモン(小作人).....バリトン
ハンネ(その娘).....ソプラノ
ルカス(若き農夫).....テノール

獨唱 ソプラノ 藤田文子
テノール 萩谷納
バリトン 秋元清一

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部
合唱 東京音楽学校生徒
指揮 木下保

〔原資料横組〕

初夏の薰風に乗つて 益々盛況の音楽會

五月下旬から六月上旬まで

東京音楽学校 の献納演奏會は二十三日(日)十八時より日比谷公會堂に於て東京音楽学校の軍機献納演奏會が、木下保氏指揮同校管絃樂部、合唱部等によりハイドンの聖譚「四季」を邦語歌詞で上演する。

〔音楽文化新聞〕第四十九号、昭和十八年五月)

昭和十八年五月二十九日 選科邦樂修了演奏會

昭和十八年五月二十九日(土曜日)午後二時半開場

東京音楽学校

選科邦樂修了演奏會

演奏曲目

能樂觀世流連吟

一、花 筐 (シテ)山口芳子

能樂寶生流仕舞

二、玉の段 鳥井雅子

能樂寶生流仕舞

三、田 村 岩隈儀一郎

箏曲山田流

四、都の春 (箏)野口ふみ子
三世山勢松韻作曲 岡本智恵子
川上定子
菊谷眞佐子
渡邊富美

箏曲生田流

五、比 良 (箏)伊崎浩司
宮城道雄作曲

長 唄

六、連 獅子 (唄)三樹トヨ
富岡恵子
中村千代子
窪田房枝

舞踊藤間流

七、吾妻八景 (唄)中村千代子
窪田房枝
鎌田あかし
小林富子

—— 休 ——

憩 ——

(三味線)官田すざ
小出あき子
鈴木千枝
大橋道江

(唄)中村千代子
窪田房枝
三味線)大橋道江
鈴木千枝
福永徳子
鈴木喜美代

上野公園内

於本校奏樂堂

箏曲生田流 (箏) 下村啓子 岩井佳子

八、花紅葉 鈴木愛子 岡田伊與子 藤田京子

宮城道雄作曲 五十嵐幸子

長 吉住小三郎 補導 職員及選科生徒

九、小鍛治 稀音家淨觀

昭和十八年六月十二日 山本元帥讚仰演奏會

昭和十八年六月十二日(土曜日)午後二時開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

山本元帥讚仰演奏會曲目

上野公園 東京音樂學校

- 一、靖國神社の歌 帝國軍樂隊作曲
- 二、海軍航空の歌 海軍航空本部制定
- 三、勇敢なる水兵 橋本國彦編作
- 四、大東亞戰爭海軍の歌 朝日新聞學校作曲
- 五、特別攻撃隊 東京音樂學校作曲
- 六、愛國行進曲 東京新聞學校編作
- 七、山本元帥記念歌 橋本國彦編作
- 八、山本元帥遺詠「ますらをの道」 片山宗治郎作曲
- 九、山本元帥讚仰歌 信山時潔作曲
- 一〇、海ゆかば一敷衍曲一 乘杉嘉壽彦作曲

指揮 木下保

管絃樂 橋本國彦

東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

昭和十八年六月十七日～二十一日 演奏旅行(京都—大阪—名古屋)

昭和十八年六月十七・十八日午後六時半 京都朝日會館

昭和十八年六月十九・二十日午後六時半 大阪朝日會館

昭和十八年六月二十一日午後六時半 名古屋市公會堂

軍人援護資金醸集のため

東京音樂學校大演奏會

主催 朝日新聞厚生事業團

曲目

一、合唱・獨唱・管絃樂

山本元帥讚仰歌

バリトン 藤井典明

二、ハイドン作・聖譚曲「四季」(邦語歌詞)

シモン(小作人)……………バリトン

ハンネ(その娘)……………ソプラノ

ルカス(若き農夫)……………テノール

譯詞 風卷景次 妹尾景次 藤田文子

獨唱 ソプラノ 藤田文子



昭和18年6月21日，名古屋市公会堂における東京音楽学校管絃楽部および合唱団。〈山本元帥讃仰歌〉の演奏，
独唱 藤井典明，指揮 木下保



同，ハイドン作曲聖譚曲「四季」の演奏。独唱 藤田文子（ソプラノ），萩谷納（テノール），
秋元清一（バリトン），指揮 木下保

テノール 萩谷 納
 バリトン 秋元 清一
 管絃樂 東京音樂學校管絃樂部
 合唱 東京音樂學校生徒
 指揮 木下 保

東京音樂學校大演奏會

本社厚生事業團主催、軍人援護資金醸集のための「東京音樂學校大演奏會」は聖譚曲「四季」(ハイドン)を提げて十七、十八の両日午後六時半から京都朝日會館で開催、邦語歌詞は同校風巻、妹尾兩教授共訳、独唱は藤田文子さんほか、合唱は東京音樂學校生徒、管絃樂は同校管絃樂部、指揮は木下保氏、出場二百名の大管絃樂である

(『大阪朝日新聞』昭和十八年六月十七日)

昭和十八年六月二十六日 春季選科洋樂演奏會

昭和十八年六月二十六日(土曜日)午後一時半開場

會場 東京音樂學校奏樂堂

春季選科洋樂演奏會曲目

上野公園

東京音樂學校

一、ピアノ獨奏……………朝熊由紀子
 奏鳴曲(ト長調)第一樂章……………ハイドン曲
 一、ピアノ獨奏……………榎本信子
 奏鳴曲(ト長調)第一樂章……………モーツアルト曲

一、獨唱……………海老原公子

(イ)アベマリヤ……………グノー曲

(ロ)唄……………山田耕筰曲

一、ピアノ獨奏……………市島愛

奏鳴曲(嬰ハ長調)第一樂章……………ベートーベン曲

一、獨唱……………西之園キミ

(イ)懷疑……………シユーベルト曲

(ロ)平城山……………平井保喜曲

一、ピアノ獨奏……………太田和子

スケルツォ(變ロ短調)……………シヨパン曲

一、バイオリン獨奏……………大島義子

奏鳴曲(ニ長調)第一第二樂章……………ヘンデル曲

一、ピアノ獨奏……………佐原節子

(イ)舞曲(嬰ハ短調)……………シヨパン曲

(ロ)舞曲(ホ短調)……………シヨパン曲

一、ピアノ獨奏……………橋本壽美子

競奏曲(ニ長調)第一樂章……………ハイドン曲

……………【休憩】……………

一、ピアノ獨奏……………橋本和子

競奏曲(ハ長調)第一樂章……………ベートーベン曲

一、ピアノ獨奏……………犬飼綾子

競奏曲(ホ短調)第一樂章……………シヨパン曲

一、獨唱……………金坂美知子

(イ)フィガロの結婚より「愛ノ惱ミ」……………モーツアルト曲

(ロ)舞曲……………アルデイテイ曲

一、ピアノ 獨奏 …………… 土居 敏子

(イ) 夜 曲 (ロ長調) …………… ショパン 曲

(ロ) 前奏曲と遁走曲ハ短調 (平均率より) …………… バツ ハ 曲

一、バイオリン 獨奏 …………… 三木 良平

奏鳴曲 (ヘ長調) 第一樂章 …………… ベートーベン 曲

一、ピアノ 獨奏 …………… 河原千鶴子

ウキンの謝肉祭 …………… シューマン 曲

一、獨 唱 …………… 須田 七郎

(イ) ラールゴ …………… ヘンデル 曲

(ロ) 二人の擲彈兵 …………… シューマン 曲

一、ピアノ 獨奏 …………… 渡邊三千恵

ハンガリヤ狂詩曲 (變ニ長調) …………… リスト 曲

昭和十八年七月三日 第一四五回報国団演奏会

東京音楽學校

第百四十五回 報国團演奏會

昭和十八年七月三日 (土) 十三時 於本校奏樂堂

曲 目

一、ピアノ 獨奏 …………… 小山田 八重子

ポロネーズ 作品五十三番 …………… ショパン

二、二 重 唱 …………… ソプラノ 島田 清子

アルト 中山 信枝

伴奏 黒澤 講師

歌劇「フィガロの結婚」より…………… モーツァルト

1. スザンナとマルチェリーナの二重唱

2. スザンナと伯爵夫人の二重唱

三、ピアノ 獨奏 …………… 小川 晃平

間奏曲 イ短調 作品百十八番の一 …………… ブラームス

// ホ長調 作品百十六番の六 …………… //

バラード ト短調 作品百十八番の三 …………… //

四、バリトン 獨唱 …………… 石田 純一

(イ) 生ぬるき夜我立ちて …………… 伴奏 梶原 完

(ロ) 九十九里濱 …………… ブラームス

五、ピアノ 獨奏 …………… 北島 基子

葬送曲 …………… リスト

六、ソプラノ 獨唱 …………… 石田 美津子

(イ) 野薔薇 …………… 伴奏 東 多美子

(ロ) アレリヤ …………… 山田 耕柞

(ハ) 歌劇「トスカ」歌に活き戀に活き …………… モーツァルト

七、ピアノ 獨奏 …………… プッチーニ

協奏曲 變ロ長調 作品十九番 …………… 大澤 欽治

第一樂章 アレグロ コン ブリオ …………… 伴奏 今井助教

…………… ベートーヴェン

八、ヴァイオリン 獨奏 …………… 本間 健三

協奏曲 第五番 イ長調 ケツヘル二百十九番 …………… 伴奏 梶原 完

第一樂章 アレグロ アペルト …………… モーツァルト

【休 憩】

九、管 絃 樂

管絃樂科生徒

昭和十八年七月四日(日) 十三時 於本校奏樂堂

指揮 中田囃託

(イ) セレナーデ 伊太利の印象より …… シヤルパンティエ

(ロ) 泉のほとり " …… "

(ハ) ハンガリア行進曲 ファウストの劫罰より…ベルリオーズ

十、ピアノ獨奏

武田千重

協奏曲 第四番 ハ短調 作品四十四番…サンサーンス

第二樂章

第三樂章

十一、ソプラノ獨唱

根本ツネ子

胡桃の樹 作品二十五ノ三番…シユーマン

月の夜 作品三十九ノ五番… "

角笛を吹く子 作品三十ノ一番… "

十二、ヴァイオリン獨奏

山口愛子

協奏曲 第五番 イ長調 ケッヘル二百十九番…モーツアルト

第一樂章

アレグロ

アペルト

十三、ピアノ獨奏

吉田民子

協奏曲 第二番 イ長調…リスト

アレグロ

アペルト

十四、ピアノ獨奏

伴奏 シロタ教師

〔原資料横組〕

曲 目

一、ピアノ獨奏

黒田信子

協奏曲 イ長調 ケッヘル四百八十八番…モーツアルト

第二樂章

アンダンテ

第三樂章

アレグロ

アッサイ

二、ソプラノ獨唱

澤田定子

愛の神…グリーク

希望… "

三、ピアノ獨奏

山本静治

ポロネーズ 變イ長調 作品五十三番…シヨパン

四、ヴァイオリン獨奏

渡邊文江

協奏曲 五番 イ長調…モーツアルト

第一樂章

アダチオ

アレグロ

アペルト

五、ピアノ獨奏

甲斐 尚

協奏曲「戴冠式」ニ長調 ケッヘル五百三十七番…モーツアルト

六、バリトン獨唱

國枝誠也

歌劇「ファウスト」より 故郷を後に…グノー

ヴァイラの歌…ヴォルフ

昭和十八年七月四日 第一四六回報國團演奏會

東京音樂學校

第百四十六回 報國團演奏會

七、ピアノノ獨奏
歌劇「タンホイザー」より 見渡せば……………ワグナー
公江千鶴子

協奏曲 三番 ハ短調 作品三十七番……………ベートーヴェン
伴奏 宇佐美教授
第一樂章 アレグロ コン ブリオ

八、三重奏
【休憩】
ヴァイオリン 福元 裕
チエロ山崎 孟
ピアノノ梶原 完

三重奏曲 ニ短調……………メンデルスゾーン

第一樂章 モルト アレグロ アダタート

第二樂章 アンダンテ コンモート トランクイロー

第四樂章 ファイナレ アレグロ アツサイアパシヨナート

九、ピアノノ獨奏
宮原 淳子

協奏曲 ト長調 作品五十八番……………ベートーヴェン
伴奏 福井教授
第一樂章 アレグロ モデラート

十、ヴァイオリン獨奏
徳岡恵美子

奏鳴曲 イ長調……………セザール フランク
伴奏 山本雪子
第三樂章 レチタティーヴ フアンタチア

第四樂章 アレグロ ポコ モッソ

十一、アルト獨唱
内田留里子

丹澤……………信時 潔
伴奏 野邊地泰子

歌劇「ミニヨン」より 君よ知るや南の國……………トーマ
歌劇「豫言者」より どうぞ御報謝……………マイアベール

十二、ピアノノ獨奏
足立美智子

協奏曲 五番 へ長調……………サンサーンス
伴奏 シロタ教師
第二・第三樂章 アンダンテ アレグロ

〔原資料横組〕

昭和十八年七月二十一日 出張演奏（霞浦―土浦）

霞浦土浦海軍航空隊慰問演奏記

東京音楽學校一女生徒

霞ヶ浦航空隊

學校でこの豫定が發表されたのは七月の中頃でした。私達はどんなに楽しみにして待つてゐたことせう。

七月二十一日朝八時半、荒川沖驛に着きますともう海軍さんが自動車を七臺も並べて待つてゐて下さったので、女生徒達は殊に大喜びで歡聲を擧げて乗り込むのです。爆音が聞え、ひろく飛行場が展けて練習機が幾臺となく飛んでゐました。青々とした空にみかん色をした練習機が機體を陽に輝かせて飛んでゐるのは何と美しいさだらうと思ひました。

士官さんと同じ御食事を皆満足氣に戴いてから、いよく演奏となりました。演奏場は格納庫を改造して精神訓練の道場となすと云ふ、只今工事最中の航空参考館でありましたが、定刻になりますと約千五百名位もぎつしりゐらして下さる。私達は今受けて來た刺戟や感銘等で心は湧立つてゐたし、緊張して居りました。

大日本の歌、愛國行進曲、大東亞海軍の歌がすむと航空隊の歌の指導。一人残らず譜を見乍ら一生懸命歌はれる。ステージが狭くてオーケストラの方は大分不自由なさつたやうですが、ポンと餘韻が残り音響効果は上々だった様です。母の歌、田植歌には皆様故郷を、お母さんを思ひ出された事でせう。

最後に乗杉校長先生作詞、橋本國彦先生作曲の山本元帥英靈讃歌です

が、この隊が元帥とは最も縁故が深く、且つ元帥を仰ぎ同じ道に盡される方々にはこの曲の感激は如何ばかりだったこととせう。私達もそれを身に感じ、曲の表現がすぐれてゐるだけ、熱情の限りをこめて歌ひました。後から聞いたのですが「計らずに凶報は至りぬ」と云ふあたりから聲を出されて泣かれた方々もあつたそうです。演奏を終つて外に出れば、空高く爆音が聞える。演奏も聴かないで、訓練に無中になつてゐられる方もあつたのでせう。私達はふつと空を見上げました。

〔音楽公論〕第三卷第九号、昭和十八年九月、六九七―七一頁

昭和十八年九月十二日 山本元帥讃仰東京音楽学校大演奏会（新潟）

山本元帥讃仰

東京音楽学校大演奏会

主催 新潟第一師範学校 創立七十年記念會
格

一、期日 九月十二日 午後一時
午後六時 開場

（百五十名ノ管絃樂大合唱）

一、場所 新潟市公會堂

曲目

國民儀禮

一、管絃樂

歌劇「魔彈の射手」序曲

二、ピアノ獨奏

タランテラ（ヴェネツィヤとナポリより）

三、合唱

イ、海軍航空の歌

ロ、ますらをの道（山本元帥遺詠）

ハ、小鳥の歌（女聲三部）

英靈讃歌

——山本元帥に捧ぐ——

一、聖天子 風電の御稜威いただき

艦艦 日に衛る 一萬里

將士 夜夜に固む 海と空。

海原遠く 年を経て

憩もしらぬ 防人よ。

二、麥 秋

ホ、美しき碧きドナウ

四、ヴァイオリン獨奏

イ、スペイン舞曲

ロ、舞 曲

ハ、カバティーナ

五、女聲中音獨唱

イ、みたみわれ

ロ、兵士の妻の祈り

ハ、通りやんせ

ニ、九十九里濱

六、獨唱・合唱並管絃樂

交聲曲「英靈讃歌」

山本元帥に捧ぐ

下總皖一 曲
ヨハン・シュトラウス 曲
橋本國彦 編曲

中村 桃子

中田 一 次

モスコウスキー 曲

アルベニス 曲

ラッ フ 曲

難波 千鶴 子

長谷川 久子

大政翼賛會 制定

山田 耕 笹 曲

本居 長 世 曲

平井 保 喜 曲

獨 唱 藤 井 典 明

乘杉嘉壽 作詞

橋本國彦 作曲

合 唱 東京音楽学校生徒

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

指 揮 橋 本 國 彦

乘杉嘉壽 作詞

橋本國彦 作曲

哮る嵐も 犯すなき
醜の御楯の 防人よ。

皇御民の 末ながく
語りつぎ 言ひつぎ行かむ
數限りなき 益良夫の たかき勳ぞ。

二、とりわきて 大日本帝國聯合艦隊司令長官

元帥 山本海軍大將
畏きや 詔かがふり 出でまして
年は移れり 春二つ。

東に西に北南
はた大空に 海底に

善謀勇戦

征けば 必ず勝ち

攻むれば 必ず破る。

たたへむ たたへむ

その勳功や 蓋し 神なり

たたへむ たたへむ。

三、計らざるに 凶報はいたりぬ

過ぐる 四月の激戦に

わが名將は いさましく

南の空に 散華せられたりと

まことに 青天の霹靂。

人はみな 眼血走り

息をば 呑みつ

心はおもく とざされぬ。

人はみな こぶし固めて

齒をかみならし

胸はおもひに 張りさけぬ。

四、さはさりながら われ等みな 心に問はむ

この凶事は 何をか語る
皇國の興廢 ここにかかる。

元帥の死は 何をか教ふる

國民あげて ふるひ起つ時。

さらばみな いかにあらまし

ああわれ等 誓ひて起たむ。

元帥よ 心やすかれ

われ等みな 撃ちてしまむ。

君が御靈 白き鳥

青きみ空に 天翔り 護り給へ

われ等みな 撃ちてしまむ

必ずも 撃ちてしまむ。

昭和十八年九月二十三日～二十五日 卒業式

昭和十八年九月

同	二十三日 (木曜日)	午後一時	邦樂演奏開始
同	二十四日 (金曜日)	午後一時	各科演奏開始
同	二十五日 (土曜日)	午後九時	式開始並各科演奏
同	二十五日 (土曜日)	午後一時	各科演奏開始

於東京音樂學校奏樂堂

卒業證書授與式並演奏次第

東京音樂學校

第一日 (二十三日) 午後一時開始

邦樂演奏

- 一、能樂觀世流 囃子
唐 船 二宮 淑子(卒業生) 安福 春雄 田中 允雄 金春 國雄 一噌 鉄二
- 二、能樂觀世流 囃子
玄 象 藤井伊勢子(卒業生) 同 同
- 三、能樂寶生流 能
小袖曾我 ^{トモ}菱田尙三 ^{ツレ}當山俊道 ^{五郎}植田正治 ^{十郎}角嘉一(卒業生) 渡邊 榮嗣 藤田大五郎 森重 朗
- 四、箏曲 山田流
小督曲 山田檢校作曲 三同箏 德永 靜(卒業生) 東條 欣夏 中能島 一子
- 五、地唄
楫 枕 菊岡檢校作曲 川上 千恵子(卒業生) 土屋 澄(同)
- 六、箏曲 生田流
五段 砧 光崎檢校作曲 平調子 土屋 澄(卒業生) 川上 千恵子(同) 横曾 泰子(同)
- 七、長唄
連獅子 杵屋勝三郎作曲 三味線 加藤 美智子(同) 山田 初子(同) 大田 明子(同) 内海 普子(同) 渡邊 震代(同) 加藤 正代(同) 中川 基子(同) 伊東 正代(同)

第二日(二十四日) 午前十時開始

各科演奏

八、オルガン獨奏……………本科卒業 武藤 カヅ子

- 九、次高音獨唱……………甲種師範科卒業 石田 美津子
イ、平井保喜作・秘唱
ロ、モーツァルト作・歌劇「フィガロの結婚」中スザンナの詠唱
- 一〇、ピアノ獨奏……………本科卒業 清水 智子
シヨパン作・スケルツォ・ホ長調・作品五四
- 一一、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 可兒 幸壽榮
ラロ作・スペイン交響曲・ニ短調・作品二一・第一樂章
- 一二、高音獨唱……………同 眞籠 五三子
イ、山田耕柞作・野ばら
ロ、信時潔作・青簾
ハ、トーマ作・歌劇「ミニヨン」中
「君知るやシトロンの花咲く國を」
- 一三、ピアノ獨奏……………同 伊藤 彰子
リスト作・ハンガリー狂詩曲・第十二
- 一四、下高音獨唱……………同 新井 潔
イ、中田一次作・曲浦吟
ロ、シユトラウス作・子守歌・作品四一ノ一
ハ、同 ひそやかなる誘ひ・作品二七ノ三
- 一五、ピアノ獨奏……………同 秋吉 章子
シヨパン作・スケルツォ・ホ長調・作品五四
- 一六、ホルン獨奏……………同 秋葉 良造
シユトラウス作・協奏曲・變ホ長調・第一樂章
- 一七、ピアノ獨奏……………同 柘植 織衣
サンサーンス作・交響詩「ファエトン」(作曲者編曲)

第二日 (二十四日) 午後一時開始

一八、合唱……………甲種師範科卒業生一同

イ、下總皖一作・八十島かけて

ロ、信時潔作・國に誓ふ

指揮 教授 城多又兵衛

一九、ピアノ獨奏……………甲種師範科卒業 東 多美子

パデレウスキー作・變奏曲・イ短調・作品十一

二〇、下高音獨唱……………本科卒業 鈴木重教

イ、信時潔作・あづまやの

ロ、山田耕筰作・蟹味噌

ハ、ワーグネル作・歌劇「ローエングリン」中「遙なる國に」

二一、ピアノ獨奏……………同 小山田 芳

バツハーリスト作・オルガン前奏曲と遁走曲・イ短調

二二、ヴァイオリン獨奏……………同 岩崎富美子

コレリーベルナル作・ラ・フォリア變奏曲

二三、ピアノ獨奏……………同 柴田 了一

シヨパン作・奏鳴曲・變ロ短調・作品三五・第一樂章

二四、高音獨唱……………同 森岡 敦子

イ、山田和男作・もう直き春になるだらう

ロ、ヴォルフ作・ワイラの歌

ハ、同 園 丁

二五、ピアノ獨奏……………同 片岡 四方

リスト作・パガニーニ練習曲第六・イ短調

二六、作曲科卒業制作……………同 草川 宏

奏鳴曲・イ長調・三樂章

演奏 大島 正 泰

二七、ピアノ獨奏……………同 松野 景一

ブラームス作・奏鳴曲・ヘ短調・作品五・第一樂章

——(休憩)——

二八、ピアノ獨奏……………本科卒業 奥 中時子

シューマン作・アベツグ變奏曲・作品一

二九、オルガン獨奏……………同 中村アサ子

バツハ作・幻想曲と遁走曲・イ短調

三〇、ピアノ獨奏……………同 松本 綏子

ベートーヴェン作・奏鳴曲・ハ長調・作品五三・第一樂章

三一、オーボエ獨奏……………同 岡本 泰氏

ユリウス・リーツ作・協奏樂曲・ヘ短調・作品三三・終樂章

三二、ピアノ獨奏……………同 山本 雪子

シヨパン作・奏鳴曲・ロ短調・作品五八・第四樂章

三三、高音獨唱……………同 平田 黎子

イ、信時潔作・人はいざ(百人一首より)

ロ、同 月見れば(同)

ハ、モーツァルト作・歌劇「フィガロの結婚」中伯爵夫人の詠唱

三四、ピアノ獨奏……………同 太田 道子

シヨパン作・船唄・作品六〇

三五、ヴァイオリン獨奏……………同 竹内千里子

ラロ作・協奏曲・ヘ短調・作品二〇・第一樂章

三六、ピアノ獨奏……………同 安藤仁一郎

シューマン作・幻想曲・ハ長調・作品一七・第一樂章

三七、高音獨唱……………同 山口 和子

イ、平井保喜作・秘唱

ロ、ビゼー作・歌劇「カルメン」中ミカエラの詠唱

三八、ピアノ獨奏……………本科卒業 松宮サヅレ

シヨパン作・船唄・作品六〇

第三日 (二十五日) 午前九時開始

卒業證書授與式次第

宮城遙拜

國歌「君が代」奉唱

祈念

卒業證書並賞品授與

學校長式辭

文部大臣祝辭

卒業生總代謝辭

合唱「卒業式の歌」

各科演奏 午前十時開始

三九、合唱……………甲種師範科卒業生一同

イ、下總皖一作・八十島かけて

ロ、信時潔作・國に誓ふ

四〇、ピアノ獨奏……………本科卒業 井上愛子

シヨパン作・譚詩曲・へ短調・作品五二

四一、高音獨唱……………同 藤島良子

イ、ウエーベル作・歌劇「魔彈の射手」中エンヒエンのロマンス

ロ、山田耕柞作・曼珠沙華

四二、ピアノ獨奏……………同 永見美與

ブラームス作・パガニーニ變奏曲・作品三五第一輯

四三、ヴァイオリン獨奏……………同 徳岡惠美子

バツハ作・奏鳴曲・イ短調・第一、三、四樂章(無伴奏)

四四、ピアノ獨奏……………本科卒業 葛原守

シヨパン作・幻想曲・へ短調・作品四九

四五、上低音獨唱……………同 畑中良輔

イ、ブラームス作・わが女王の如く

ロ、トウルンク作・故郷は春なりき

ハ、橋本國彦作・落葉

四六、ピアノ獨奏……………同 中野富貴子

リスト作・メフイスト・ワルツ・イ長調

第三日 (二十五日) 午後一時開始

四七、オルガン獨奏……………本科卒業 秋元道雄

セザール・フランク作・ユラール・イ短調

四八、上低音獨唱……………甲種師範科卒業 竹内光夫

イ、信時潔作・行々子

ロ、シユーベルト作・魔王

四九、ピアノ獨奏……………本科卒業 氏家久

ベートーヴエン作・奏鳴曲・作品五七・第一樂章

五〇、上低音獨唱……………同 山田正次

イ、シユトラウス作・黒き髪・作品十九ノ二

ロ、同 今こそ別れ行かん・作品二一ノ三

ハ、同 献呈・作品十ノ一

ニ、山田耕柞作・曼珠沙華

五一、ピアノ獨奏……………同 松井克之

リスト作・波の上を渡る聖フランシスコ

五二、コントラバス獨奏……………同 檜山薫

フランツ・ツェルニー作・第四協奏曲・ト長調・第三樂章
 五三、ピアノ獨奏……………本科卒業 藤井幸子

ブラームス作・スケルツォ・變ホ短調・作品四
 —(休憩)—

五四、ピアノ獨奏……………同 船橋豐子

ブラームス作・奏鳴曲・ヘ短調・作品五・終樂章

五五、次高音獨唱……………同 戸田敏子

イ、ブラームス作・わがまどろみはいよいよよかすかに
 ロ、シユトラウス作・憩へ、わが魂

ハ、信時潔作・張節婦詞(妻の言葉)

五六、ピアノ獨奏……………同 小河石代

リスト作・リゴレット・パラフレース

五七、ヴァイオリン獨奏……………同 福元裕

ウイニアウスキー作・第二協奏曲・ニ短調・第二、三樂章

五八、ピアノ獨奏……………同 中田喜直

シヨパン作・奏鳴曲・ロ短調・作品五八・第一樂章

五九、上低音獨唱……………同 秋元清一

イ、信時潔作・鴉

ロ、ワーグネル作・歌劇「さまよへる和蘭人」中「期限は過ぎて」

六〇、ピアノ獨奏……………同 田村宏

シヨパン作・前奏曲・第一、三、四、七、八、一一、一二、
 一三、一六、一九、二〇番

昭和十八年十月九日 第一四七回報国団演奏会

東京音楽學校

第四百十七回 報国團演奏會

昭和十八年十月九日(土)十三時 於本校奏樂堂

曲目

一、ホルン獨奏……………岩井直溥

誓 ひ……………伴奏 神澤哲郎
 ゴルターマン

ロマンズ……………サンサーンス

一、ピアノ獨奏……………勝村さよ

協奏曲 ハ短調 ケツヘル四九一番……………伴奏 今井助教
 モーツァルト

第一樂章 アレグロ

一、ヴァイオリン獨奏……………内田滋子

ロマンス ヘ長調 [作品]五〇番……………伴奏 名和田慶子
 ベートーヴェン

一、バリトン獨唱……………平田慎一

オラトリウム「デボラ」より……………伴奏 宮嶋敏
 ヘンデル

凍えし涙 作品八九番の三……………シユーベルト

孤獨 作品八九番の一二……………シユーベルト

一、ピアノ獨奏……………岡崎千鶴子

ピアノと管絃樂の爲めの交響詩曲「鬼神」イ長調……………伴奏 豊増教授
 フランク

アレグロ モルト

一、室内樂

オーボエ 鈴木清三
ヴァイオリン 河野俊達
ヴィオラ 北爪規世
セロ 山崎孟

四重奏 へ長調 ケツヘル三七〇番……………モーツァルト

第一樂章 アレグロ

第二樂章 アダチオ

第三樂章 ロンド アレグロ

【休憩】

一、ピアノ獨奏

青山三郎

伴奏 永井助教

協奏曲 イ短調 作品五四番……………シューマン

第一樂章 アレグロ アツフェットウオーゾ

一、ピアノ獨奏

藤枝和子

伴奏 豊増教授

協奏曲 第四番 ニ短調 作品七〇番……………ルービンシュタイン

第一樂章 モデラート アツサイ

一、絃樂合奏

生徒絃樂部

指揮 伊達良

小夜曲 卜長調……………モーツァルト

〔原資料横組〕

昭和十八年十月十日 第一四八回報國団演奏會

東京音樂學校

第百四十八回 報國團演奏會

昭和十八年十月十日(日)十三時 於本校奏樂堂

曲目

一、ピアノ獨奏

向井滋子

奏鳴曲 嬰へ短調 作品二番……………ブラームス

第一樂章 アレグロ ノン トロップ マ エネルヂコ

一、ソプラノ獨唱

安齋彩子

紡ぐグレエチエン……………シューベルト

美しの月日……………シューベルト

クレールの歌……………シューベルト

一、セロ獨奏

井上みどり

トツカータ……………フレスコバルディ

祈り……………ブルッフ

一、ソプラノ獨唱

山本篤子

小倉百人一首より……………信時 潔

月見れば、花の色は、淡路島、長からん、人はいさ

一、室内樂

松井貞子

ヴァイオリン 新井敏鐘

ホルン 岡田朗

一、ピアノ獨奏

井口教授

三重奏 作品四〇番……………ブラームス

第二樂章 スケルツォ アレグロ—モルト メノ

第三樂章 アダチオ

第四樂章 アレグロ コン ブリオ

一、ピアノ獨奏

加藤美登里

伴奏 井口教授

一、ピアノ獨奏

井口教授

協奏曲 イ短調 作品五四番……………シューマン

第二樂章 インテルメッツォ アンダンティーノ

グラツィオーゾ

第三樂章 アレグロ ヴィヴァーチェ

【休 憩】

一、ヴァイオリン獨奏

三瓶 十郎
伴奏 青山 三郎

奏鳴曲 ハ短調 作品四三番……………グリーク

第一樂章 アレグロ モルト アパシヨナート—プレスト

一、メッツォソプラノ獨唱

岩下 敏子
伴奏 宮本登美子

かやの木山……………山田 耕筈
兵士の妻の祈り……………山田 耕筈

歌劇「ローエン格林」より「エルザの夢」……………ワグナー

一、ヴァイオリン獨奏

浪江 以和
伴奏 井上 澄子

シヤコンヌ ト短調……………ヴィタリーダヴィッド

モルト モデラート

一、ピアノ獨奏

服部 つゆ
伴奏 福井 教授

協奏曲 イ短調 作品一六番……………グリーク

第二樂章 アダデオ

第三樂章 アレグロ モデラート モルト エマルカート

一、絃樂 合奏

生徒 絃樂部
指揮 伊達 良

小夜曲 ト長調……………モーツァルト

〔原資料横組〕

昭和十八年十月十六日 銃後奉仕音楽演奏会

昭和十八年十月十六日(土) 十七時半開場
十八時半開演

於 日比谷公會堂

銃後 奉仕 音楽演奏曲目

東京音楽學校

I. 管絃樂

紀元二千六百年記念 交響曲・ニ調……………橋本國彦作曲

第一樂章 壯嚴調

第二樂章 輕快調

第三樂章 紀元節祝日歌による主題と變奏及遁走曲

—(休 憩)—

II. ピアノ獨奏・管絃樂附

協奏曲・イ短調・作品五四……………シューマン作

アレグロ・アツフェトウオーゾ

アンダンテ・グラチオーゾ

ヴィヴァーチェ

獨奏 朝倉 靖子

III. 獨唱・合唱・管絃樂

交響曲「英靈讚歌」……………〔乘杉嘉壽作
橋本國彦作曲〕

山本元帥に捧ぐ

獨唱 藤井 典明

合唱 東京音楽學校 生徒

管絃樂 東京音楽學校 管絃樂部

指揮 橋本 國彦

〔原資料横組〕

ユンケル翁顯彰會中止

既報、樂會の先輩であるアウグスト・ユンケル翁の顯彰音樂會は廿三日午後二時から東京音樂學校に於いて門下生信時潔氏等及び音樂學校生徒に依つて催される事になつてゐたが、その前日ユンケル翁が腦溢血で倒れた爲に延期中のところ遂に中止される事に決定した

(『東京新聞』昭和十八年十月二十六日)

昭和十八年十月三十日 第十回上野兒童音樂學園初等科演奏會

第十回 上野兒童音樂學園演奏會曲目

初等科

昭和十八年十月三十日(土曜日)午後一時開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

- | | | | |
|----------------------|---------|-----------------------|----------|
| 1. ピアノ 獨奏 | 吉岡 竹子 | 7. ピアノ 獨奏 | 小池 藤子 |
| 七變奏曲…………… | ベートーヴェン | ソナタ 作品十四ノ二 第一樂章…………… | ベートーヴェン |
| 2. ピアノ 獨奏 | 加美山美子 | 8. ピアノ 獨奏 | 土橋 智子 |
| 即興曲 第四番…………… | シューベルト | ポロネーズ 作品四十ノ一…………… | シヨパン |
| 3. ピアノ 獨奏 | 小村 佐紀 | —— 憩 —— | |
| ジプシーロンド…………… | ハイドゥン | 9. 合唱 | 初等科三年 |
| 4. ヴァイオリン 獨奏 | 安齊 千秋 | イ 鳴 門…………… | 新訂尋常小學唱歌 |
| 小協奏曲 作品二十二 第一樂章…………… | ザイツ | ロ 兒島高德…………… | 瀧 廉太郎 歌曲 |
| 5. ピアノ 獨奏 | 瀧澤 秀子 | ハ 花…………… | 武島 羽衣 歌曲 |
| ソナタ ニ長調 第一樂章…………… | モーツァルト | 10. ピアノ 獨奏 | 西田 和美 |
| 6. ピアノ 獨奏 | 田中よし子 | ソナタ ハ長調 第三樂章…………… | モーツァルト |
| 七變奏曲…………… | ベートーヴェン | 11. ピアノ 獨奏 | 高橋千鶴子 |
| | | ソナタ 作品三十一ノ二 第三樂章…………… | ベートーヴェン |
| | | 圓舞曲 作品十八…………… | 木島瑠美子 |
| | | 12. ピアノ 獨奏 | シヨパン |
| | | 協奏曲 第一番 第三樂章…………… | 竹内久文 |
| | | 13. ヴァイオリン 獨奏 | ザイツ |
| | | ソナタ 作品二ノ一 第一樂章…………… | 高松 映子 |
| | | 14. ピアノ 獨奏 | ベートーヴェン |
| | | ソナタ 作品二ノ二 第一樂章…………… | 師岡 泰子 |
| | | 15. ピアノ 獨奏 | ベートーヴェン |
| | | ソナタ 作品二ノ三 第一樂章…………… | 佐藤 幸子 |
| | | | ベートーヴェン |
| | | | 〔原資料横組〕 |

昭和十八年十一月六日 秋季選科邦樂演奏會

昭和十八年十一月六日(土曜日)午後二時開場

會場 東京音樂學校奏樂堂

秋季選科邦樂演奏會曲目

上野公園

東京音樂學校

觀世流連吟

一 鶴 龜

一・二年男生徒

同

二 吉野天人

一・二年女生徒

寶生流連吟

三 杜 若

女生徒一同

觀世流連吟

四 東 北

三・四・五年女生徒

山田流箏曲

五 松 風

箏

山木太賀作
中能島松聲

川邊上富定
渡邊美子

三弦
東條夏子
岡本智恵子

長 唄

六 越後獅子

唄

三味線

箏(高)

(低)

生田流箏曲

七 秋の草

西郷美枝子

小倉隆子

宮城道雄作曲

長谷川洋子

關尚知子

菊田中智子

觀世流連吟

八 熊 坂

三・四・五年生徒

寶生流連吟

九 小 督

男生徒一同

新曲長唄

十 東亞の関

職員及生徒一同

白 水 郎作詞

稀音家淨觀
吉住小三郎

山田流箏曲

十一 あげぼの

東條夏子

中能島欣一作曲

生田流箏曲

十二 遠 砦

高瀬草子

宮城道雄作曲

舞踊藤間流

十三 若菜摘

高瀬草子

昭和十八年十一月十三日 第一四九回報國團演奏會

東京音樂學校

第四百九回 報國團演奏會

出陣學生出演

昭和十八年十一月十三日(土) 十三時 於本校奏樂堂

曲 目

一、バリトン 獨唱

篠原正敏

伴奏 梶原完

をみな子よ

信時 潔

二人の擲弾兵(邦譯)

シューマン

二、ホルン 獨奏

増廣卓三

伴奏 木村英作

セレナーデ

ヘーベルレーン 作品十三

小守 唄

レナルド 作品二〇

三、バリトン 獨唱

安永武一郎

伴奏 水谷助教授

子供の踊り

信時 潔

「鶯の卵」より張節婦詞

信時 潔

四、ヘリコンバス 獨奏

大石 清

伴奏 木村英作

モルソー ドゥ

サロン 變ホ長調

ペンパーレ

第一樂章 主題と變奏曲

第二樂章 エクスピレツシーボ

第三樂章 フィナーレ ボレロ

五、テノール 獨唱

朝一 庸

伴奏 神澤哲郎

行々子

信時 潔

占ふと

信時 潔

六、ヴァイオリン 獨奏

野間太郎

伴奏 梶原完

協奏曲 イ短調 第二、三樂章

ヴィヴァルディ

七、テノール 獨唱

橋本喬雄

伴奏 水谷助教授

丹澤

信時 潔

北秋の

信時 潔

國守る

平井保喜

八、作品 發表

村野弘二

伴奏 戸田敏子

アルト 獨唱

伴奏 太田道子

葛の葉の傳説による歌劇「白狐」第二幕より

白狐「こるは」の獨唱

(岡倉天心原作)

九、オーボエ 獨奏

鈴木清三

伴奏 中田囀託

サラバンドとアレグロ

グローブレ

十、バリトン 獨唱

渡邊今朝藏

伴奏 田村宏

大君に

橋本國彦

獨樂吟

信時 潔

【休憩】

十一、オルガン 獨奏

伊藤信夫

道走曲 變ホ長調

パツハ

十二、テノール 獨唱

三井 健

伴奏 今井助教

國守る……………平井保喜

五月……………平井保喜

愛の歌……………ブラームス

十三、二重 奏

クラリネット 大橋 幸夫
ピアノ 梶 原 完

クラリネットとピアノのための協奏曲的三重奏曲

變ホ長調……………ウエーバー

第二樂章 アンダンテ・コン・モト 第三樂章 ロンド・アレグロ

十四、テノール 獨唱

小田野正之

伴奏 梶 原 完

祕 唱……………平井保喜

獨樂吟……………信時 潔

國守る……………平井保喜

十五、チェロ 獨 奏

廣 田 幸 夫

伴奏 青山三郎

協奏曲 ホ短調……………リンドネル

第一樂章 アレグロ・モデラート・ポコ・ピウ・レント

母の愛を讃へる歌……………平井保喜

十六、バリトン 獨 唱

伴 奏 直 信

伴奏 梶 原 完

國 守 る……………平井保喜

平 城 山……………平井保喜

九十九里濱……………平井保喜

幻 日……………シ[ユ]ーベルト

十七、ピアノ 獨 奏

横 谷 英 次

ピアノ協奏曲 イ長調 ケツヘル四八八……………モーツァルト
第一樂章

十八、バリトン 獨 唱

國 枝 誠 也

伴奏 青山三郎

行々子……………信時 潔

九十九里濱……………平井保喜

明日こそは……………リヒアルト・シュトラウス

獻 呈……………リヒアルト・シュトラウス

十九、吹 奏 樂

生徒吹奏樂部

指揮 山本正人

行進曲「大日本の歌」……………橋本國彦

行進曲「双頭の鷲の旗の下に」……………ワグナー

行進曲「若 人 よ」……………橋本國彦

〔原資料横組〕

昭昭十八年十一月十四日 報國團第一五〇回記念演奏會

昭和十八年十一月十四日(日曜日) 十三時開演

於 東京音樂學校奏樂堂

報國團第五百五十回記念演奏會

東京音樂學校報國團

曲 目

一、合唱附管絃樂

「海行かば」敷衍曲

信 時 潔作曲

益 子 九 郎編曲

二、合唱、獨唱、管絃樂

交聲曲「海道東征」
(皇紀二千六百年
奉祝藝能祭制定)

北原白秋詩
信時 潔作曲

- | | |
|----------|----------------|
| 一、高千穂 | 獨唱 高音 山内 秀子 |
| 二、大和思慕 | 次高音 砂原美智子 |
| 三、御船出 | 中音 千葉 靜子 |
| 四、御船謠 | 下高音 萩 谷 納 |
| 五、速吸と菟狹 | 上低音 藤 井 典 明 |
| 六、海道回顧 | 低音 秋元 清一 |
| 七、白肩の津上陸 | 管絃樂 東京音樂學校管絃樂部 |
| 八、天業恢弘 | 合唱 東京音樂學校生徒 |
| | 指揮 木 下 保 |

昭和十八年十一月十五日 出陣學徒壯行演奏會

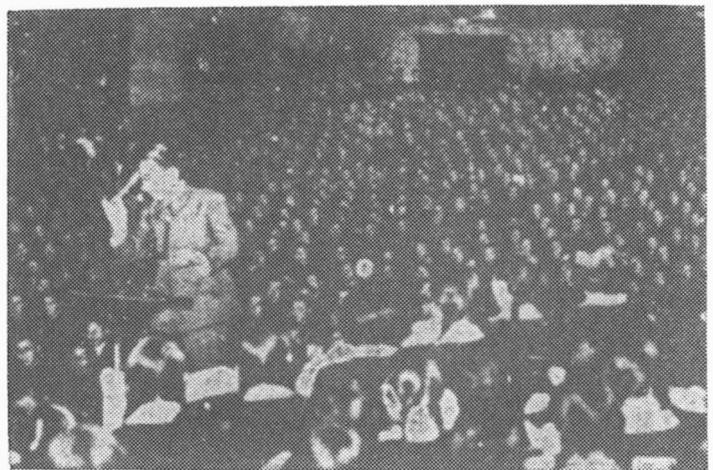
大君の任のまにまに

今ぞ征く學徒へ音樂壯行

出陣學徒の入營日もあと二十日決戦戰場を教への庭とする日も間近い、往く學徒、送る學徒もいま一丸、滅賊戦の火と燃えて銃執る日まで必勝の學業にいそしんでゐるが、往く先輩の榮ある出陣を心から祝ひ壯途を更に旺にして士氣一段と昂めやうと送る學徒の若い眞情を音樂に託した壯行會が開かれる、残る學徒の若い魂が出陣學徒に饒ける二曲の壯行譜――

第一曲〔中略〕

第二曲 東京音樂學校報國團では文部省および都下大學高専各學校報國團後援のもとに來る十五日夜六時から神田一ツ橋共立講堂で『出陣學徒壯行演奏會』を盛大に開催する、當夜は岡部文相も特に出席して壯行の辭を出陣學徒に寄せるほか過般神宮の聖域で行つた出陣學徒壯行式場での饒けるの詞を短歌で結んだ岡部文相作『學徒壯行の歌』と乗杉音樂學校長のこれ



昭和十八年十一月十五日、學徒兵へ饒ける“出陣交響樂”を演奏する東京音樂學校報國團。神田一ツ橋共立講堂にて(『東京朝日新聞』昭和十八年十一月十六日)

に對する返歌を相ついで合唱ののち故北原白秋作交響曲『海道東征』(二千六百年記念)などが男女音樂學徒によつて演ぜられるが當夜の實況は電波に乗せて全國に中繼放送される、なほ映畫『學徒出陣』を上映してその雄姿を銀幕にしのぶほか參集學徒四千の『海ゆかば』の一大齊唱を以て音樂壯行の幕を閉ぢる

(『やまと新聞』昭和十八年十一月十一日)

學徒兵へ饒ける“出陣交響樂”

學徒の臨時徵兵検査は、去る二十五日から本月五日まで施行され、近く入隊する出陣學徒もすでに決定してゐるが、士氣いよ／＼軒昂たる出陣學徒たちに饒ける“出陣學徒壯行演奏會”は、東京音樂學校主催、文部省後援で、十五日午後六時から神田一ツ橋共立講堂に開催され、東京都、神

奈川、千葉、埼玉の大學、高專、師範學校五十五校の出陣學徒代表三千人、これに送別學徒として、都下女子專門學校二十校生徒約五百名も參加、征でたつ決意と送る真心とをこめ、嚴肅の中にも華やかな交響樂を織りなした

會は乗杉音樂學校長の挨拶にはじまり、まづ『海ゆかば』敷衍曲を演奏、ついで本社撰の『大東亞戰爭海軍の歌』ほか四曲を合唱、岡部文相の挨拶のち文相作の壯行歌『海ゆかむ山また空をゆかんと』の若人のかどでををしくもあるか』これに対する乗杉校長の返歌『ををしくぞ醜の御楯と出で征かむ、かばねは水漬き草むすまでも』を合唱、さらに壯んな番組を進めて同八時すぎ散會した

(『東京朝日新聞』昭和十八年十一月十六日)

昭和十八年十一月二十日 秋季選科洋樂演奏會

昭和十八年十一月二十日(土曜日)午後二時開場
二時半開演

會場 東京音樂學校奏樂堂

秋季選科洋樂演奏會曲目

上野公園

東京音樂學校

- 一、ピアノ獨奏……………宮島慶子
- カプリチオ……………ヘラー
- 二、ヴァイオリン獨奏……………島本正男
- コンツェルト第一樂章 ホ短調……………ジツト
- 三、バリトン獨唱……………川村次郎
- イ、奥津城……………ベートーヴェン曲
- ロ、我が愛する者……………ベートーヴェン曲
- ハ、椰子の實……………大中寅二曲

- 四、ピアノ獨奏……………坂井久
- アンプロムテウ 作品一四二……………シユーベルト曲
- 五、ヴァイオリン獨奏……………吳寶章
- コンツェルト 第一樂章 作品二……………ザイツ曲
- 六、ピアノ獨奏……………藤波美登利
- アンプロムテウ 作品九〇第二番……………シユーベルト曲
- 休憩
- 七、ピアノ獨奏……………小野達治
- イ、トロイメライ……………シユーマン曲
- ロ、タランテラ……………ヘラー
- 八、テノール獨唱……………三好日出夫
- イ、泊り船……………小松耕輔曲
- ロ、沙羅……………信時潔曲
- ハ、沖のかもめ……………山田耕筈曲
- ニ、萬珠沙華……………山田耕筈曲
- 九、ピアノ獨奏……………高木光子
- バラード 作品四七……………シヨパン曲
- 一〇、フリユート獨奏……………加藤晃宣
- コンツェルト 第一樂章……………モーツァルト曲
- 一一、ピアノ獨奏……………今村布美子
- ソナタ(熱情) 第一樂章……………ベートーヴェン曲
- 一二、ヴァイオリン獨奏……………岡本鈴子
- ロマンツェ 作品二六……………スゼンセン曲
- 一三、ピアノ獨奏……………水野恭子
- パガニーニエテユード六……………リスト曲

昭和十八年十二月十八日 第一〇一回定期演奏会

昭和十八年十二月十八日(土) 十七時開場
十八時開演

會場 日比谷公會堂

定期演奏會曲目

(軍用機獻納披露)

東京音樂學校

軍用機獻納披露次第

君が代奉唱

海行かば

挨拶

海軍航空の歌

學徒進軍の歌

愛國行進曲

學校長 乘杉嘉壽

(海軍省制定)

(西條八十作詩・橋本國彦作曲)

(橋本國彦編作)

合唱 東京音樂學校
指揮 橋本國彦

演奏曲目

I. 管絃樂

序曲「コジ・ファン・トゥツテ」……………モーツァルト作曲

II. 二重奏と管絃樂

シンフォニー・コンチェルタンテ……………モーツァルト作曲

アレグロ・マエストロゾ

アンダンテ

プレスト

III. 管絃樂

—(休憩)—

獨奏

ヴァイオリン
ヴィオラ

渡邊 曉雄
兎束 龍夫

幻想的交響曲 作品一四……………ベルリオーズ作曲

1. 夢、熱情

2. 舞踏會

3. 野邊の光景

4. 刑場への行進曲

5. 妖魔狂宴の夜の夢

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部
指揮 ヘルムート・フェルマー

〔手書きの横書き〕

昭和十八年十二月二十三日 研究科邦樂修了演奏会

昭和十八年十二月二十三日(木曜日) 十三時卅分開演

於 本校奏樂堂

研究科邦樂修了演奏曲目

上野公園

東京音樂學校

一、寶生流舞囃子

八 嶋 修了生 菱田尚三 囃子 安福春雄 一噌鉄二

二、觀世流舞囃子

熊 坂 修了生 丸山里子 囃子 安福春雄 一噌鉄二
森重朗 柿本豊次

三、箏曲生田流

けしの花 菊岡檢校作曲 箏修了生 藤田優子

四、箏曲山田流

岡康 砧 岡康小三郎作曲 箏修了生 吉田稲枝子

五、箏曲生田流

秋風の曲 光崎檢校作曲 三絃 箏修了生 古土屋富藏

六、長唄外記節

石 橋 十代目 杵屋六左衛門作曲 唄 藤江囀託 三味線 修了生 林邦美代子

熱海井江囀託 三味線 修了生 川池鵜川紀美敦子

ニ、松 虫キリ

二、生田流箏曲

春の曲 箏(替手) 小坂井敏子

三、山田流箏曲

壽競べ 箏 栗原夏江

四、長唄

娘七種 唄 白石美和子

五、寶生流能樂(仕舞)

イ、山姥キリ

シテ 平井澄子

シテ 加藤高子

シテ 金井麗子

三絃 野口ふみ子

六、山田流箏曲

花の雲 箏 鳴井佳哉子

七、生田流箏曲

君がため 唄(二部) 小田園子

山のごと 唄(二部) 桂田園子

シテ 關根弘一

シテ 山階敬子

シテ 木内青

昭和十九年二月十九日 報国団第十六回邦楽演曲会

昭和十九年二月十九日(土曜日) 午後一時開場 午後一時半開演

東京音楽學校報國團

第十六回 邦楽演曲會

上野公園内

於本校奏樂堂

曲 目

一、觀世流能樂(仕舞)

イ、鞍馬天狗 シテ 山階敬子

ロ、田村クセ シテ 關根弘一

ハ、敦盛クセ シテ 木内青

八、長 唄
勸 進 帳

〃 〃 〃 〃 唄
關原博子 三味線
荻野明子 相良喜代子
大田初子 小西美喜子
山田麗子 小川麗子
加藤美智子 高木喜代子

〔また昭和十九年二月には、奏樂堂で演奏会が行われ、バツハのへ二つのヴァイオリンのための協奏曲〕(独奏 杉原淑子、徳岡恵美子) 他が演奏されたことが、杉原他複数の関係者の証言から明らかになっている。ただし、今回、プログラムを入手することはできなかった。〕

昭和十九年五月十九日 第一五一回報国団演奏会

昭和十九年五月十九日 午後一〔時〕開演
東京音楽学校報國團
第百五十一回 演奏會

本校奏樂堂

曲 目

一、二重奏

ヴァイオリンとピアノの爲の奏鳴曲
北爪規一世

第八番 ハ長調
第一樂章 アレグロ ヴィヴァーチェ
モーツァルト曲

第二樂章 アンダンテ
第三樂章 ロンド、アレグロ

二、ソプラノ獨唱

一、鶯によす

當別 當順子
伴奏 井口妙子
ブラームス曲

二、たゞへよしらべ 歌ひつれよ
三、魔彈の射手 アガーテの詠唱

三、ピアノ獨奏

二つのアラベスク

四、ソプラノ獨唱

夢
エルザの夢

五、ピアノ獨奏

練習曲

作品十番の一、二、三、十二
作品二十五番の一、六、八、十、十一

六、バリトン獨唱

一、夕星の歌

一、沙 羅

一、魔 王

七、ピアノ獨奏

協奏曲 第一番 變ホ長調

八、合唱

一、やまとには
二、あかがり
三、深山には

休 憩

山田耕筰曲
ウエーバー曲

松 本 房 江
ドビュッシー曲

山 本 信 子
伴奏 黒須ゆり子

ワグナー曲
〃

梶 原 完
シヨパン曲

石 津 憲 一
伴奏 友野秋雄

ワグナー曲
信時 潔曲

シユーベルト曲
名和田慶子

伴奏 福井教授

リスト曲
師範科三年

伴奏 梶原 完

信時 潔曲

九、ピアノ二重奏

第一ピアノ 梶原 完
第二ピアノ 青山三郎

組曲 作品十五

一、ロマンス

二、ワルツ

三、ポロネーズ

アレクスキー曲

ピアノ 青山三郎

ヴァイオリン 本間健三

ヴィオラ 内田美代民

チェロ 山崎 孟

十、ヴァイオリン獨奏

一、西班牙交響曲 二短調 第一樂章

二、無窮動

本間健三
伴奏 鈴木良一

ラロ曲

ノヴァチェック曲

國枝 誠也

伴奏 青山三郎

信時 潔曲

レオンカヴァロ曲

神澤 哲郎

伴奏 井口教授

チャイコフスキー曲

山崎 孟

伴奏 梶原 完

ハイドン曲

須賀 靖和

伴奏 水谷教授

山田耕筰曲

ベートーヴェン曲

フォーレ曲

〔手書き〕

昭和十九年五月二十九日 第一五三回報國団演奏会

〔プログラムは、第一五二回報國団演奏会と同じ。〕

昭和十九年十月十八日 勤勞学徒激励の夕

勤勞学徒激励の夕

「學徒勤勞の歌」發表會

昭和十九年十月十八日(水) 午後五時三〇分開場
於 共 立 同 六時三〇分開場
(神田一ツ橋) 講 堂

第一部

一、國民儀禮

「君が代」奉唱

「海行かば」

二、挨拶

三、文部省撰定・東京音樂學校作詞作曲

「學徒勤勞の歌」管絃樂編曲 橋本國彦

合唱並管絃樂 東京音樂學校職員及生徒

文部次官 藤野 惠

指揮 揮教授 木下 保

十五、ピアノ四重奏曲 ハ短調

ロシア人形の唄

あらたの愛あらたの生

四、歌唱指導 指 導 教授 木 下 保

同 歌 ピアノ伴奏 教授 水 谷 達 夫

五、出陣學徒壯行歌「海ゆかむ」子爵岡部長景作歌

同 返 歌「をしくぞ」東京音楽學校長 乘杉嘉壽作歌

作曲並指揮 助教授 平 井 保 喜

ピアノ伴奏 教授 永 井 進

六、合 唱 指 揮 教授 木 下 保

(イ)あかざり(古謡)無伴奏 信 時 潔作曲

(ロ)大 島 節(民謡)同

(ハ)國見の歌「大和には」(萬葉集より)ピアノ伴奏 同

(ニ)紀の國の歌(萬葉集より)女聲合唱 同

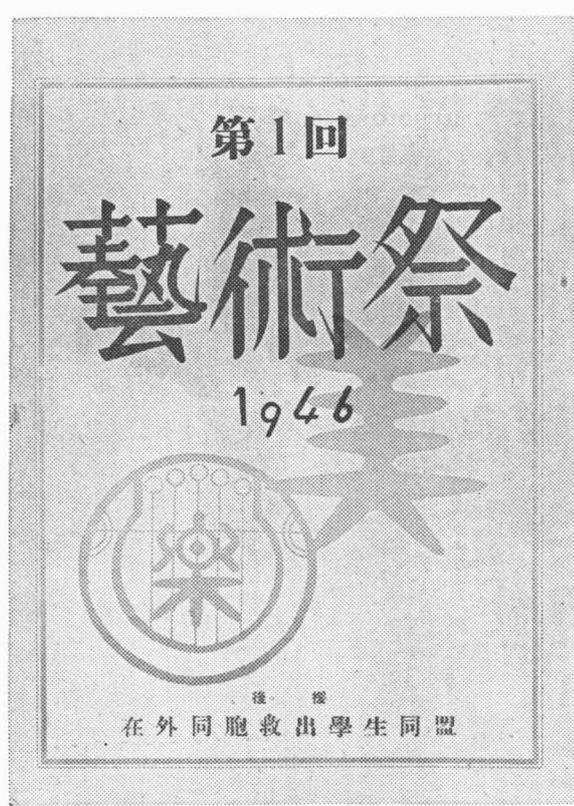
第 二 部

映 畫 (自午后七時三〇分 至同 九時)

一、學徒出陣 全二卷

二、肉彈挺身隊 全八卷

昭和二十一年十一月七日〜十二日 第一回芸術祭



在外同胞救出學生同盟

卷 頭 言

第一回上野杜藝術祭にあたりて

會長音楽學校校長 小 宮 豊 隆

藝術の使命は社會と接觸し社會に浸透し社會を高める點にある。その意味で社會と交渉のない藝術は藝術の外道である。農民が一年の沈潜を秋の收穫によつて輝やかしい區切をつけるように、上野に住い美術と音楽との學徒は、一年の沈潜を藝術祭によつて發揚し、自分達の收穫をもつて何等かの意味で社會に寄與する所あらうとする。その寄與がどれだけの價値を持ち得るかは、一に社會の批評に俟つ外はない。ただ我々の期待する所は、爾後の一年一年の沈潜が年毎に輝かしい收穫を齎らす事によつて、年毎にその寄與が輝かしいものになつて行く事である。

		日時		第一回上野杜藝術祭行事一覽						
		非公開		7	8	9	10	11	12	
		木		金	土	日	月	火	水	
會場	午前	當日午前九時より假裝オリンピック運動會・野外演奏會・假裝競技及大行進↓動物園前廣場		九時 『ゴゴリ』 米川正夫譯 『檢察官』 岩田健 演出 東京美術學校演劇部一同	十時—一時 東京音樂學校生徒演奏	十時—一時 『ゴゴリ』 米川正夫譯 『檢察官』 岩田健 演出 東京美術學校演劇部一同	十時—一時 邦樂演奏會 能(寶生流) 長唄(杵屋六左衛門) 琴曲(宮城道雄) 東京音樂學校 教官及生徒演奏	十時—一時 洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏	十時—一時 洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏	
	午後	二時—五時 邦樂演奏會 能(觀世流) 琴曲(山田流) 東京音樂學校教官生徒演奏		二時—五時 交響曲『新世界』ドボルジャルク 大合唱『天地創造』ハイドゥン 歌劇『カルメン』拔萃より 東京音樂學校生徒演奏	二時—五時 洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	二時—五時 洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	二時—五時 洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	二時—五時 洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	二時—五時 邦樂演奏會 能(觀世流) 琴曲(山田流) 東京音樂學校教官生徒演奏	
				八日ヨリ一十日迄品・職員生徒作品・生活紹介等々 東京美術學校內校 東京美術學校演劇部一同 東京音樂學校生徒演奏 東京音樂學校教官演奏 東京音樂學校生徒演奏 東京音樂學校教官演奏 邦樂演奏會 能(寶生流) 長唄(杵屋六左衛門) 琴曲(宮城道雄) 邦樂演奏會 能(觀世流) 琴曲(山田流)						

藝術祭に寄す

音校 澁谷 傳

音校と美校の生徒の間に文部省の「藝術祭」と呼應し「我等の手でもやらうぢやないか」といふ機運が高まり、その構想等に就き話が交はされたのは、一學期の末の頃であつた。長い休暇も終り、兩術の授業開始と共に此の計畫は急速に具體化し、併も今年を第一回上野藝術祭とし、これを毎年秋、上野の杜の行事としようといふ話さへ生れて來た。勿論我々は、此の行動の中に自己陶醉するの愚を演じるつもりではない。觀念の玩具いぢりに終始するつもりでもない。大地にどつかと脚をふまへ、文化運動の狼火を上野の空高く擧げそして藝術の炬火を焰々と燃え上らせ度いのである。上野藝術祭の發足に當り、その隆昌と發展を衷心より祈念するものである。

洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏會

十一月八日(金) 午前十時開演 東京音樂學校奏樂堂

1. 女聲合唱

指揮 柴田陸 陸教官
師範科二・一年女生徒

流浪の民

シューマン

美しき青きドナウ

ヨハンシユトラウス

2. ピアノ獨奏

田尾光子

ソナタ 作品二二

シューマン

出来るだけ速く

アンダンテイロー

スケルツォ

ロンド(プレスト)

3. ソプラノ獨唱

伴奏 富持登美子
野田量子

秋の夢

フォーレ

夢のあと

フォーレ

悲しき歌 デュパルク

休憩

4. チエロ 獨奏

伴奏 堀江 田高 弘泰

組曲 ニ調(古典組曲) デルベロウ

前奏 曲

メニユエツト

挽歌

ナポリ風の踊り

5. ソプラノ 獨唱

伴奏 荒牧 繁子

憩へ我が魂

獻呈

戀人よさらば

小夜曲

6. ヴァイオリン、ピアノ二重奏

ヴァイオリン 後藤 紀子
ピアノ 吉岡 加奈子

ソナタ(春) 作品四〇 ベートーヴェン

第一樂章 アレグロ

7. バリトン 獨唱

伴奏 千田 菊彌 福永 陽一郎

歌劇 タンホイザーより 夕星の歌 ワグナー

我が憩ひの地 シューベルト

洋樂演奏會 教官演奏會(第一日)

十一月九日(土) 午後二時開演

1. ピアノ 獨奏

前奏曲 作品三の二 ラフマニノフ

梶原 完

月の光 ドビツシー

交響的練習曲 作品十三 シューマン

2. バリトン 獨唱

作曲

R・シュトラウス 作品十九の二

うちかけよ 汝が黒髪 作品十の八

密やかなる誘ひ 作品二十七の三

明日こそは 作品二十七の四

獻呈 作品十の一

3. 作品發表

ピアノ獨奏 宅孝二

(イ) ソナテイヌ

アレグロモデラート

アンダンテ

(ロ) 「おとぎばなし」舞踊組曲

4. フルーツ 獨奏

ピアノ二重奏 梶原完・宅孝二

旋律

ハバネラ

ハンガリア田園幻想曲

5. アルト 獨唱

ピアノ伴奏 横田 ふみ子

牢獄にて

我に若し翼あらば

五 月

祈り

徒歩の旅

隠棲

休憩

ヴォルフ

ヴォルフ

ヴォルフ

6. ピアノ五重奏

ピアノ
オーボエ
クラリネット
ファゴット
ホルン
鈴木北
木瓜
達清
三夫
世次
朗

ピアノ五重奏曲 作品十六 ベートーヴェン

グラヴェーアレグロマノン トロツポ

アンダンテ

ロンド (アレグロマノン トロツポ)

7. ソプラノ獨唱

ピアノ伴奏
浅野千鶴子
水谷達夫

タゴールの三つの詩

夜のほのぼのと明けるころ
日毎に來りては

8. 絃樂四重奏

第一ヴァイオリン 兎東龍夫
第二ヴァイオリン 岩崎吉三
ヴァイオラ 小瓶十郎
セロ 澤弘

絃樂四重奏曲 作品十八ノ三 ベートーヴェン

アレグロ アンダンテ コン モート

アレグロ

プレスト

洋樂演奏會 教官演奏會 (第二日)

十一月十日 (日) 午後二時開演

1. オルガン獨奏

コラール イ短調
セザールフランク

秋元道雄

2. ソプラノ獨唱

歌劇「トスカ」より 懐しき棲家 プッチーニ

歌に活き戀に活き

根本ツネ子

3. ピアノ獨奏

ソナタ 作品五十七 (熱情) ベートーヴェン

アツサイ アレグロ

アンダンテ コンモート

アレグロマノン トロツポ プレスト

宮内鎮代子

4. テノール獨唱

曲目未定

柴田睦陸

休憩

5. ピアノ獨奏

謝肉祭 作品九 シューマン

遠見豊子

6. メツオソプラノ獨唱

「詩人の戀」より シューマン

田中伸枝

7. ヴァイオリンピアノ二重奏

ヴァイオリン 巖本眞理郎
ピアノ 今井治郎

ソナタ 變ロ長調 (ケツヘル三七八番) モーツァルト

アレグロ モデラート

アンダンテ イーノ ソステヌート エ カンタービレ

ロンド (アレグロ)

洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏會

十一月十一日 (月) 午前十時開演

1. 吹奏樂

指揮 北爪利世
生徒吹奏樂班

チヨコレートの兵隊

「雪娘」より踊

オスカーシュトラウス

リムスキーコルサコフ

2. 作品發表

ピアノ獨奏 坂本陽子

前奏 曲

齋藤高順曲

練習曲第一番(ハ調)
即興舞曲 第六番

奥村 一曲

3. フルート 獨奏

フルート協奏曲第二番ニ長調 モーツアルト

伴奏 久川野崎 穹優

4. ピアノ 獨奏

第一樂章 アレグロアペルト

奈良洋子

バラード 作品二三

シヨパン

5. ソプラノ 獨唱

歌劇「ラ・ボエーム」より ムゼッタのワルツ プツチーニ
歌劇「カルメン」より ミカエラの詠唱 ビゼー

伴奏 山田紗織 加藤るり子

休憩

6. ヴァイオリン 獨奏

ヴァイオリン協奏曲第二番 ニ短調 作品二二 ウイニアウスキー

伴奏 江藤玲子 江藤俊哉

アレグロモデラート

ロマンス

アラジンガーラ

7. メzzoソプラノ

伴奏 松原和子 關和子

眠り安らへど

ブラームス

五月の夜

ブラームス

歌劇「サムソンとダリラ」より サンサアンス

8. ピアノ 獨奏

藤島義勝

前奏曲コラールと遁走曲 セザールフランク

9. ソプラノ 獨唱

安部けい

10. 混聲合唱

歌劇「蝶々夫人」より 或る晴れた日 プツチーニ
歌劇「ローエングリン」より エルザの夢 ワーグナー

伴奏 鈴木よし 酒井弘教 師範科四年生徒

ハレルヤ ヘンデル
其の他

1. 絃樂四重奏

十一月七日(木) 非公開 東京音楽学校奏樂堂
十一月十一日(月) 午後二時開演

第一ヴァイオリン 江藤明俊
第二ヴァイオリン 井上令一
ヴィオラ 加宮みどり
セロ 井上みどり

ニ長調(ケツヘル五七五番) モーツアルト

アレグレット

アンダンテ

メヌエツト(アレグレット)

アレグレット

2. 重唱

唱

ミカエラ ソプラノ 久保田喜代子
フラスキータ ソプラノ 久保田喜代子
ミカエラ ソプラノ 池田綾子
メルセデス ソプラノ 池田綾子
カルメン メzzoソプラノ 岩崎弘子
ドンホセ ソプラノ 久藤野

エスカミリオ バリトール 久藤野
伴奏 久藤野

歌劇「カルメン」抜萃

休憩

3. 管絃樂

交響曲第五番(新世界より) ドボルザーク

指揮 金子登教官 生徒オーケストラ

4. 混聲合唱

- 第一樂章 アダヂオーアルレグロモルト
- 第二樂章 ラルゴ
- 第三樂章 スケルツォ(モルト・ヴィヴァーチエ)
- 第四樂章 アレグロコンフオコ

指揮 中田 一 次 教 官
 伴奏生徒オーケストラ
 獨唱 ガブリエル ソプラノ 内田 久子
 ウリエル テノール 小田 野 正 之
 ラファエル バス 日 比 野 穎 彦
 聖譚曲「天地創造」(天地創造の讃歌) ハイドン
 [原資料横組]

「天地創造」の解説

ガブリエル(ソプラノ)内田 久子
 獨唱 ウリエル(テノール)小田 野 正 之
 ラファエル(バス)日 比 野 穎 彦
 オラトリオ(聖譚曲)は従来多く宗教的題材を用い教會内で演奏したが、
 ハイドンの作は演奏會用として作られてゐる。題材は舊約聖書創世記第一
 章と第二章及ミルトンのパラダイス・ロストから得てヴァンシユヴィーテ
 ンが獨文の歌詞に作り上げた物で、作曲は一七九七年……九八年に至り初
 演はウイーン市立劇場で一七九九年三月十九日に行はれ、それ以來名大作
 として現今も尙絶えず演奏されてゐる全體は三部に分れる。
 第一部「天地自然界の創造」より

1. 合唱と三重唱「天地自然界の創造の讃歌」

歌劇「カルメン」の解説

- 作 曲 者 ビゼー Georges Bizet (1838—1875)
- 物語の原作者 メリメー Prosper Mérimée (1803—1870)
- 作 詞 者 メイラック Henri Meilhac (1831—1897)
- アレヴィー Ludovic Halévy (1854—1908)

時代 一八二〇年頃
 場所 スペイン國ゼヴィリア及近郊
 出演生徒及び配役

ドンホセ 騎兵伍長 テナー本四 岩崎 成章
 カルメン ジブシー女 メツオソプラノ本四 池 田 弘 子
 ミカエラ ホセの許婚 ソプラノ本四 池 田 綾 子
 メルセデス ジブシー女
 ミカエラ フラスキータ ジブシー女 ソプラノ本四 久保田 喜代子
 エスカミリオ 闘牛士 バリトン本四 藤 村 晃 一
 指 導 長坂好子教官
 伴 奏 生徒オーケストラ

「カルメン」は佛蘭西の文豪メリメの小説に取材したもので、登場する
 人物も又事件もすべてスペインを背景としてをり潑刺とした生氣と、情熱
 に溢れたスペイン特有の色彩をもつたものである。

作曲家ジヨルジュ・ビゼーは一八七五年(明治八年)三月三日パリーの
 オペラ・コミック座で行なはれた初演の評判が餘り良くないので失意の中
 に病氣になり、三十七歳の若さで夭折した。もつと長く彼が生きてゐたな
 らば、この様な傑作を更に數多く作つた事であらう。

このオペラの持つ獨得のメロディ、快いリズムは聞く人を魅きつけづに
 は置かない。

又管絃樂の部分が變化極りないハーモニヤ、轉調の巧妙さ等々最も秀
 れた管絃樂法で扱はれてゐると云ふ事もこの歌劇の長所であるが、今回
 は都合上、管絃樂伴奏による事が出来ず、その眞價を知る事の出来ないの
 は遺憾とする處である。

第一幕ヨリ

「ハ、ハ、ネラ」の唄—ミカエラとホセの二重唱—セギディリヤの唄
 スペインのゼヴィラの町の煙草工場。こゝには兵士が交替に監督に來
 る。煙草工女のカルメンは、この仲間に嬌名を謳はれてゐるあばずれ女
 で、警備に來てゐる伍長ドン・ホセに對して自分から誘ひをかけて有名な

「ハバナラの歌」を歌ふ。

その後ヘミカエラが来てホセとの清らかな二重唱になり、ホセの母からの便りを渡して去る。

工場で喧嘩をして朋輩を刺した爲に捕へられてホセの監視の下に置かれたカルメンは「セギデイリヤ」を歌つてホセを誘惑し縄目を解かさせて逃げてしまふ。

第二幕ヨリ

ジプシーの唄—闘牛の歌—カルメンとホセの二重唱—花の歌—カルメンとホセの二重唱

ゼヴィラの町はづれの酒場でカルメンは仲間のジプシー女フラスキータ及びメルセデスと「ジプシーの唄」を歌ふ。そこへ闘牛師の花形エスカミリオが登場し豪快な「闘牛の歌」を歌ふ。その後でカルメン、フラスキータ、メルセデスの三人と密輸入者のレメンダードとダンカイロの五人で有名な五重唱を歌ふ。

カルメンはホセを密輸入者の群につれ込まうとして誘惑し二重唱が歌はれる。

第三幕ヨリ

「カルタの唄」のトリオーミカエラの唄—ホセとエスカミリオの二重唱—カルメン、フラスキータ、メルセデスがカルタ占ひの時に歌はれる唄で、そのあと、ミカエラがホセを連れもどすために来てミカエラの唄を歌ふ。

エスカミリオがカルメンと交際してゐることをホセに喋つたことにより決闘となり花々しい二重唱が歌はれる。

第四幕ヨリ

エスカミリオとカルメンの二重唱—ホセとカルメンの二重唱

花形闘牛師エスカミリオはカルメンをつれて現れ愛情に燃えた二重唱を歌ふ。

ホセはカルメンにもう一度愛してくれる様にと頼むがカルメンは承知しない。そして彼から贈られた指輪を投げつけるので、ホセは絶望の餘り、つひにカルメンを刺してしまふ。

この凄愴な場面が息づまる様な二重唱によつて歌はれる。

交響曲 第五番 ホ短調作品九五

新世界より

ドウヴォルザーク

金子 登

解説

現在この交響曲を以つて有名なドウヴォルザークは彼の生存中むしろ八ツのオペラ或ひは他の管絃楽曲・合唱曲の作家として有名であつた。

この曲が人々の評判になつたのは今世紀になつてから國民音楽が重要視されてからである。

ブラームスと殆んど同時代に活躍した彼はブラームスのドイツ民謡を主題として取扱つたのと同じ様に彼の祖國ボヘミア(チェッコ)の音楽をその曲に反映させてゐる。一八四一年プラハで生れ、生活の爲スメターナの指揮してゐたオーケストラでヴィオラを弾いてゐた彼は、當然スメターナの國民音楽の影響を受けてゐる。併し彼自身はブラームスに興味を持つてゐた。

一八九二年—五年の間ニューヨークの國民音楽院 National Conservatory of music of New York の校長をして居る間に彼はニガラの靈歌 Spiritual に興味を持ち一八九四年(或ひは九三年とも云はれる)この曲を作曲し十二月十五日フィルハーモニック・ソサイアティーで初演した。

彼の作品中かゝるニガラのメロディを持つたものは他に作品九十六のクワルテット十七のクインテットのみである。此等の作品がニガラのメロディに取材した事は間違ひ無いが而しその底には彼の祖國をも藏してゐる。

交響曲第五番「新世界より」は普通の交響曲形式を以つて成つて居る。

第一樂章 Adagio $\frac{4}{4}$ —Allegro Molto $\frac{2}{4}$ e-moll

二十三小節の導入部「を」持つたソナタ形式によつて書かれてゐる。

先づチェロの弱い不安定なシンコペーションを持つたメロディがバス・ヴィオラを伴つて現はれる。(註一)

同じメロディをフルートがオボエ・ファゴットを「伴つて」最後に奏する。このメロディの中にあるシンコペーションは後に出てくるテーマの動

機を豫想させる。そしてこの動機は全絃のユニゾンにより突然フォルテで荒々しく奏される。次にヴィオラ・ホルン・チェロによりテーマを豫想させる樂句が二度違つた調子にて奏されアレグロ・モルトの主部分に導入される。(註一)

不安定な感じのするこの導入部は充分に次の主部分への導入をなしてゐる。

主部分はホルンの奏するテーマによつて始められる。(註二)この二ヶ所にシンコペーションを持つてゐるのがニガー・メロデイの特徴である。このテーマを受けてクラリネット・ファゴットが出て来る。(註四)この樂句が發展されつゝ第二テーマがフルート・オボーによつて奏される。(註五)このテーマが漸次變化されつゝ副主題がフルートによつて現はれる。

(註六)

此は上掲のニガースピリテュアル Swing Low Sweet Chariot から採つたものである。

以上迄の主題提示部が古い交響曲形式と同様反覆されて發展部に入る。第一・第二・副の三主題が木管・金管又は絃にその形のまゝ又は動機のみ、そして時には對旋律を伴つたりして發展されて反覆部に移る。反覆部に於いて第二テーマは短調で初に第二フルートのみで奏され副主題も變イ長調にて第二フルートによつて吹かれる。コーダは全管絃最強音の中にトロンバ及トロンボーンにより第一テーマと副主題が組合されて奏されつゝ始まり單純なカデンツを効果的に繰返しつゝ終る。

第二樂章 Largo C Des-dur

變ニ長調への尙入の爲六ヶの和音の連結が金管及びクラリネット・ファゴットによつて非常に効果的に用ひられ絃に移される。次に有名なテーマがイングリッシェホルンによつて奏される。之は現在でも聲樂曲として人に愛唱されてゐる。(Going Home) (註七)

次に又最初と同様な和音の連結が木管部に現はれ絃がそれに續き主題の短い發展をなし又イングリッシェホルンについてホルンに主題が移り後 Un poco più mosso になりフルート・オボーによる焦燥的なメロデイが

ヴァイオリン及びヴィオラのトレモロに伴奏されながら奏される。(註八)そして poco meno mosso になりクラリネットによるメランコリックなメロデイがバスのピツチカートに伴奏されながら奏される。(註九)

それをフルート・オボーが受けて後又 poco più mosso になり今度はヴァイオリンにメロデイが移り木管部が對旋律及び伴奏をなし同様な形にて又 meno となりそれが終ると又嬰ハ長調即ち原調變ニ長調となりオボーの極めて輕快なスタツカートのメロデイが始められ全管絃へと尙かれて第一樂章の第一・副の二つのテーマが第二樂章のテーマと共に現はれる。そして又最初のイングリッシェホルンの獨奏となり六ヶの和音の連結がトランプेटを除いて最初と同じ色にて奏されそれが木管の奏音部に移り靜かに終る。

第三樂章 Scherzo Molto vivace 3 e-moll

スケルツオの形式によつてゐる。最初この樂章のモチーフを持つた四小節の導入句によつて始められテーマはフルート・オボーに與へられクラリネットが一小節遅れて續けてゐる。(註一〇)

我々はこのテーマにも黒人の匂ひを感じる。次に絃に主題が移され後全管絃によつてテーマが奏される。以上が二度反覆されてハ長調の挿入句がエキゾチックなエピソード的なメロデイをフルートで「」オボーにより次にクラリネットのオクターヴにより奏され(註一一)後管樂器の細い連續管に伴奏されてチェロが受け續ぎ突然又前のテンポに歸へり漸次全管絃となり、スケルツワオの部分を終る。そしてスケルツワオのテーマを用ひつゝ第一樂章の第一テーマをチェロ、ヴィオラにて想起し巧みにトリオと云はれるべき部分に入る。このテーマは常に木管に與へられ踊る様な輕い感じを表現してゐる、スケルツワオのテーマである。(註一二)

續いて次のテーマがト長調で始まり後木管に移り、(註一三)又前のハ長調のテーマが奏され短い連續樂句を経て Da Capo してコーダに入り第一樂章のテーマとスケルツワオのテーマと交互或は一緒に奏しつゝ第三樂章を終る。

第四樂章 Allegro con fuoco 4 e-moll

この樂章は不完全な形式のソナタ形式である。

第一樂章の初めに現はれた全絃の強いユニゾンで奏されるモテイーフを先ず最初に用ひ、漸次ホルン及びトロンバにて奏される第一テーマへと導かれる。(註一四)

そのテーマは全絃合奏により受け繼がれ次に木管及びヴァイオリンにより同じテーマが奏されて後絃の三連音符によるリズムの強い性格的な荒いエピソード的樂句を経てクラリネットの奏する靜かな第二テーマが現はれる。(註一五)

之はヴァイオリンに續けられそのメロディの間に荒いチェロのモテイーフが對蹠的に這入つてくる。(註一六)

以後最後に至る迄何回か第一テーマが固執されるが第二テーマの副主題(註一七)の樂句等以上の諸樂句を發展させたと見るべき細い多數の樂句及び第一・第二・第三樂章のテーマを混合して展開させ全交響曲の最終樂章として全交響曲の性格を益々強めてゐる。

最後に比較的短い反覆部とコーダを以つて終る。

全樂章を通じてその用ひてゐるテーマは多く五音(音階)によつてゐる。彼の用ひてゐる和聲はすべてドイツ的な三和音で、ブラームスの用ひたものと同じであるが、その用法はブラームスが和聲の必然性を以つてしたのに對し彼は色彩的効果を主にしてゐる。スメターナの國民音樂の取扱ひ方は素朴に且つ直接的に(併し勿論藝術的にはあるが)國民的要素を反映してゐるのに反し彼は國民的要素も直接的ではなく一應純音樂を通して現はしてゐる。この交響曲にしても黒人のアメリカを感じてもそののみを感じるわけでは無い。即ちそれ丈各國から愛されるのである。彼の國民音樂への態度を思ふ時我が國の國民音樂の考へ方への示唆に富んで居る。

〔註は譜例と思われるが、プログラムには、もともと掲載されていない。〕

十一月十二日(火) 午前十時開演 東京音樂學校奏樂堂
指揮 城多又兵衛教官
師範科三年生徒

美しきエレン

ブルツフ

2. ソプラノ獨唱

伴奏 黒羽美都子
松川玲子

小夜曲

シユーベルト

3. 作品發表

歌劇「椿姫」より 乾杯の歌 ヴェルディ

伴奏 黛敏郎

4. アルト獨唱

休 憩

伴奏 菊池眞理子
加藤るり子

5. ヴァイオリン獨奏

レグエンデ

伴奏 矢野ヒロエ
望月勝世

6. ソプラノ獨唱

歌劇「蝶々夫人」より 或る晴れた日に プツチーニ

伴奏 田中陽枝

7. ピアノ三重奏

歌劇「トスカ」より 歌に活き戀に活き プツチーニ

伴奏 岩切博
井上みどり
加藤るり子

作品四十九

モルト アレグロ アチタート

メンデルスゾーン

アンダンテ コン

モート トランクイロー

スケルツォ

ファイナレ(アレグロ アツサイ アパシヨナート)

スケルツォ

〔原資料横組〕

邦樂演奏會 東京音樂學校邦樂科教官生徒出演

十一月十日(日)午前十時開演

東京音樂學校教官及生徒(邦樂部)

一、能樂(寶生流)

仕舞

高砂

八島

小歌

嵐山

寶生重英

能 羽衣 寶生彌一

安福春雄 金春惚一

甲斐林象 藤田大五郎

二、長唄 都鳥

唄 芳賀春子 三味線 田島佳子

菊岡米子 太田堪子

三、箏曲(生田流)

秋風の曲(拔萃曲)

虫の歌

獨奏 宮城道雄

四、長唄 靱猿

唄 杵屋六左衛門 三味線 稀音家 六四郎

加瀬恒夫 菊岡忍

若和田孝之 堀込彦雄

大島成友 井岡家壽雄

大澤善之助 上調子 須原敏雄

五、箏曲 うてや鼓(生田流)

獨奏 宮城道雄

高音 原島妙子 十七絃 牧瀬喜代子

菊池悌子 低音 坂井敏子

戸山窈子 高松二葉

上木康江 江場さと子

白井ふみ 三宮公子

土橋明 石橋範子

合唱 師範科生徒

邦樂演奏會解説

寶生流仕舞

仕舞とは一番の能の中の一部を獨立して演奏するもので、笛、太鼓、小鼓、大鼓の伴奏なしに地謡のみに合はせて装束をつけずに紋付、袴で舞ふものである。

之は伴奏、装束がないので、技術的に言へば難しいとも言へる。

能 羽衣

誰でも知つてゐる親しみ深い筋である。前段は天人の愁嘆場で後段は之に對してのどかな春の海邊に舞遊ぶ天人の舞が中心となつてゐる。

都鳥

春から夏へかけて隅田川の感じを都鳥にかりてめりやす風に唄つて短いもので、獨吟等として非りに愛好されております。都鳥とは鷗の事で業平が伊勢物語に「名にしおはゞ言問はん都鳥我が思ふ人はありやなしや」とよんで以來隅田川の名物となつたものでありますが、今は偲ぶよすがもありません。僅かにこの長唄あつて江戸の隅田川の美しさを夢のやうに想像するばかりです。安政二年六月二世杵屋勝三郎が作曲したもので、作詞者は不明であります。節がよく出来てゐるので、さらりと唄つてゐますが優しさと、色氣とそして江戸前の粹さを忘れてはいけません。聽いて居て、しつとりとした江戸情緒が味はへるべきであります。

生田流箏曲

光崎檢校作曲

秋風、作者光崎檢校が竹生島の辨天様におこもりして、その満願の明け方夢うつゝのうちに、天樂が聞えて来てこの秋風の調子を授かつたと言傳へられてゐる名曲で、形式は前奏が段物、後般が組歌でこの歌言葉は白樂天の詩の長恨歌であります。都合により前奏のみ演奏致します。

虫のうた

宮城道雄作曲

こほろぎ、かねたゞき、うまおひ、すゞむし終りの早い手の所はまつむしと、くつわむしの御話と言つた様ないろく蟲の感じを取入れた箏獨奏曲である。

うてや鼓

島崎藤村作詞
宮城道雄作曲

前段は次第に春が訪つれて草木も萌え出で花も咲き匂ふと云ふ様を寫し「うてや鼓春の音」といふ詩の歌ひ始めをテーマにしたもの、後般は花に戯れる胡蝶や春の調べを高く歌ふうぐひすをいれ、すべて詩の感じによつて作曲したものである。尙一人の獨奏と大勢の合奏とのコンチエルト風の效果を試みた曲である。

十一月十二日(火)午後二時開演

東京音楽學校邦樂科教官生徒演奏

一、能樂(觀世流)

仕舞

難波

觀世榮夫

敦盛

金春國雄

笹之段

山階敬子

天鼓

小貝昭三郎

玉之段

柴田收

春日龍神

木原康夫

獨吟

砧

藤波順三郎

武田郁三

島澤啓次

能

葵ノ上野島

信

梓ノ出

野村太良

安福春雄

三須錦吾

金春惣一

二、箏曲 松風(山田流)

唄

徳永静

三絃

中能島欣一

龜井富智子

箏

鹿山美智子

江口昭子

吉田稻子

小澤道子

和田道子

小山節子

西島三八子

阿蘇俊子

田村榮子

小山富美子

早川良一

三、長唄 鷺娘

唄

藤江囀

三味線

原澤囀

岡本和子

小西美喜子

關原博子

太田堪子

小田初子

渡邊震子

四、さらし幻想曲

箏

中能島欣一

三絃

稀音家六治

フリユート

宮城衛

五、長唄合奏 遊夜樂

獨奏

横山囀

唄	岡本 松子	三味線高音	渡邊震子	低音	林 邦子
	山田はつ子		太田堪子		小西美喜子
	關原博子		倉持妙子		山口乃武子
	菊岡よね子		三浦笑子		美鈴川よし子
	芳賀春子		齋藤美恵子		田島佳子
	岡田光以		池 昭子		鈴木喜美子
	藤江囀託		川又敦子		川島芳子
			高根泰子		瀬川ゆき子

邦楽演奏會解説

鷺娘

長唄の鷺娘には三種あります。寶曆十二年市村座の四月狂言に「柳難諸鳥囀」と云ふ名題で二代目の瀬川菊之丞が踊った「鷺娘」が一般に行はれてゐる鷺娘で他の二つは稽古に出ない。略筋 雪のちら／＼降る中に若い娘に化けた白鷺の精が悄然と立つてゐる。やがてそれが幽婉なクドキになり派手な傘踊りとなり忽に又凄絶な地獄の苦しみとなるのであります作曲者は富士田吉治と杵屋忠次郎とで三味線には近頃三代目杵屋正治郎の附けた新手が加はつてゐる。

松風

三代 山木太賀檢校
初代 中能島松声檢校 作曲

明治初年の大家初代中能島檢校三代山木檢校に依つて作られた山田曲。多少生田の影響を受けてゐる所もあり、歌詞は銘筆が出来た時に就いて作られたもので、従つて筆の名に通ふ古歌や筆の部分名稱や手法等を詠み込んでめでたく歌ひ納めてあります。

山田としては新味があり綺麗な指の手や壯重な樂の手等も充分に曲を引き立てゝゐます。

さらし幻想曲

中能島欣一作曲

「さらし」の情景を唄つた古曲「さらし」から主題をとり變奏曲風に發展させたもので、各樂器が華麗に活躍する三章から成り第一第三章は急速調。第二章は轉調された緩徐な部分となつてゐる。

昭和二十二年九月三十日 放送(シューベルト「メッセ」)

放送

於奏樂堂

昭和廿二年九月三十日 午後五時～六時

曲 目 演奏者

シューベルト「メッセ」変イ長調中ノ 指揮 金子 登

「ギリエ」及「グロリア」ノミ ソプラノ 石 田 栞

アルト 林 (路子)

テノール 岩崎(成章)

バス 石津 憲一

合唱 生徒合唱団

管絃樂 職員生徒管絃樂団

備考

當放送ハ「シューベルト」ノ作品解説(學生ノ時間)ノ爲ノ演奏ニテ、五時ヨリ津川圭一氏ノ「メッセ」ノ解説ノ後五時二十分ヨリ約二十分間中繼放送ヲナス、尙、今回ノ放送ニ於ケル本演奏ハ終戦後ノ當校ニ於ケル職員、先輩、生徒ニヨリ結成サレタル管絃樂部ノ第一回ノ演奏ナリ、

[手書き]

昭和二十二年十月十二日 水害義捐金募集音楽會

水害義捐金募集音楽會 於奏樂堂

昭和二十二年十月十二日 午後一時

曲 目 演奏者

シューベルト 指揮 渡邊 曉雄

交響曲第八番「未完成」 管絃樂 職員生徒管絃樂団

備考

本演奏ハ當演奏會ニ於テ、獨唱、獨奏等ノ最終ニ休止ノ後ニ演奏ス、

[手書き]

昭和二十二年十二月二日 東京音楽学校演奏会(シューベルト記念)

東京音楽学校演奏會

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

合唱 東京音楽学校生徒合唱

シューベルト生誕一五〇年記念曲目

一九四七年十二月二日(火)午後三時

於 日比谷公會堂

共催 東京音楽学校同聲會
朝日新聞社

Grand Concert

given by

the Tokyo Academy of Music

Memorial Programme

of

Franz Schubert

3 P.M. Tuesday

December 2, 1947

HIBIYA PUBLIC HALL

TOKYO

PROGRAM

1. 管絃樂

a 〃ロザムンデ〃序曲

Overture zur Oper "Rosamunde"

b 短調交響樂

Symphonie in H-moll (unvollendete)

第一樂章 Allegro moderato

第二樂章 Andante con moto

指揮 渡邊 曉 雄

休憩

2. 獨唱・合唱及管絃樂

四聲音と管絃樂の爲のミサ曲(變イ長調)

Messe für 4 Singstimmen und Orchester (As-dur)

I キーリエ(主よ) Kyrie

II グローリヤ(榮光) Gloria

III クレド(我は信ず) Credo

IV サンクトゥス(聖なる哉) Sanctus

V ベネディクトゥス(祝せられ給へ) Benedictus

VI アグヌス デイ(神の小羊) Agnus Dei

獨唱 ソプラノ 大熊 文子

アルト 佐々木 成子

テナー 柴田 睦 陸

バス 中山 悌 一

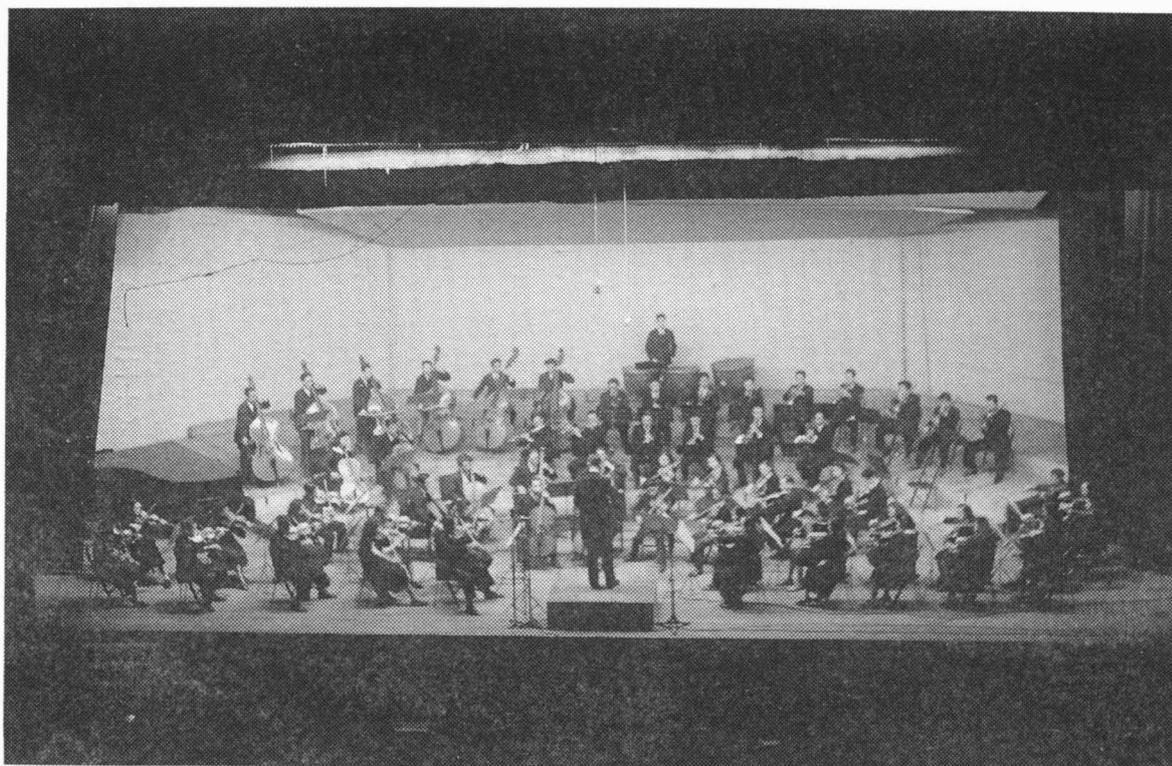
指揮 金子 登

合唱指揮 柴田 睦 陸

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

合唱 東京音楽学校生徒

〔原資料横組〕



昭和22年12月2日，東京音楽学校演奏会。シューベルト作曲「ロザムンデ」序曲，指揮 渡邊曉雄



同演奏会。シューベルト作曲〈四聲音と管絃樂の爲のミサ曲 變イ長調〉，ソプラノ 大熊文子，
アルト 佐々木成子，テナー 柴田陸陸，バス 中山悌一，指揮 金子登

曲目解説

加藤 成之

「ロザムンデ」序曲（作品二十六）

この序曲は元來ホフマンの「魔の豎琴」(Zauberharfe)と言ふメロドラマの序曲としてシューベルトが作曲したものであつたが、後にウィルヘルミーナ・チエジー (Wilhelmina von Chey) 作の劇「ロザムンデ」(Rosamunde)の音楽を作曲した時、前の序曲をそのままこの劇の序曲にもつて来たものである。

この曲は一八二〇年八月に作曲されたもので初演は一八二〇年八月十九日「魔の豎琴」が上演された時である。なほ彼は翌年ロザムンデのバレエ及幕間の音楽も作曲した。

序曲の初めの部分はアンダンテであつて殆んど總べての楽器によつてゆつくりした導入部が奏せられ、オーボエとクラリネットが靜かに美しい旋律を奏しはじめ。これが絃に移り進み最高潮に達し總べての楽器はフルティツシモとなりこのアンダンテは終る。アレグロに入るや、人々に知られてゐるこの曲の代表的の旋律が第一ヴァイオリンによつて靜かに奏せられ始め、低音の絃楽器はピチカットを奏し美しい効果をあげる。

曲は次第に高潮に達し、ヴァイオリンの斷絶的下降音がきこゑると次でクラリネットとファゴットで、なごやかな第二の旋律が奏せられる。

これはフルートとオーボエに移り、曲は色々に展開される。曲は再現部に入り再び美しき二つのメロデーがあらはれ、最後のコーダの部分ヴィヴァーチエにいり八分の六拍子となり、かがやかしい終曲をなす。この曲はロマンチックの序曲の代表的なものでウエーベルの「オベロン」やメンデルスゾーン「眞夏の夜の夢」の序曲等に通じる輕妙優美な趣をもつて居る。

口短調交響曲（未完成）

シューベルトの短生涯に於て死の六年前一八二二年十月三十日の日附で書き初められた此の交響曲は第一樂章と第二樂章のみ完成されて續く第三樂章のスケルツオの部分は僅か九小節だけ手がつけられてゐる。此の曲の

初演は一八六六年十一月四日彼の死後三十八年後ウインのレルーテンザールに於てヨハン・ヘルベック (Johann Herbeck) の指揮の下にフィルハーモニーのオルケストラで行はれた。此の曲は彼のオルケストラの代表作であつて、これ程人に愛好される曲は他にあまり無いであらう。

ベートーヴェンの器樂は規模が大きく劇的要素が多いのと好い對照をなしてゐる。清新な和聲と轉調の美は彼のリードと同様優れてゐる。全くシューベルトらしい色彩に富んだ抒情的のロマンチックな稀だ美しいものである。

第一樂章 Allegro moderato

曲はセロとバスによる美しい旋律に始まる。次いでヴァイオリンの十六分音符のさざめきを伴奏として淋しさに満ちた第一主題がオーボエとクラリネットのピアノツシモに現はれる。僅か數小節の間に口短調からト長調への轉調の妙は全くシューベルト獨特の美しさである。第二主題は始めセロに現はれヴァイオリンに移る。これも亦人の心に深く喰ひ込む魅力を持つて居る。第一部は反復されて展開部に入る。この部分は割に短かいが非常にドラマチックであつて力強い。再現部に入りコーダには最初の主題が再び現はれる。

第二樂章 Andante con moto

バスのピチカットを伴奏としてファゴットとホルンに始まるメロデーは絃に移り美しい主題を奏する。これが色々に轉調の妙を極め、絃の不思議なリズムの伴奏でクラリネットが新しい主題を奏し始める。オーボエと第二ヴァイオリン、ヴィオラの三十二分音符のさざめきの後の部分は管の楽器が魅力を發揮するが音色の變化、對照の妙、實に優れた部分と云へるであらう。オーボエからホルンに移り、フルートに轉じクラリネットに渡るその技術は驚嘆に價する。再び絃の力強い早い波が起り終りに近づく。最後は低音絃のピチカットを伴ひヴァイオリンの奏する旋律に消えるが如く煙るが如く終る。

四聲音と管絃樂の爲のミサ曲（變イ長調）

シューベルトの此ミサ曲の原稿はウインのフィルハーモニーにあるが、

之によると一八一九年の十一月に作曲を始めた事がわかる。グローヴのシューベルトの傳記に依るとシューベルトが旅行中に書いた手紙はある戀愛事件を暗示してゐる。しかし具體的な事は何も記されてゐないと言つてゐる。シューベルトは此の悲しみから逃れるために大規模のミサを作る事になつた様である。これがこの變イ長調のもので第五番目のものである。彼はミサを六曲作つてゐる。このミサは手をつけられたが、なかなか完成されずあつた。一八二七年十一月七日の日附で幼な友達シュニパウ(Joseph von Spanu) に送つた手紙があるがこの中に「私のミサは出来上つた。近い内に上演されるだらう」とある事に依つて完成の時は大體察せられる。然しこの曲はシューベルトの生きてゐる間には演奏されなかつた。只クライセルの聖アウグスト教會でプリンガー (Pringer) に依つて上演が試みられた事があつたが、シューベルトがあまり度々改作をやつたので遂に上演に到らなかつたと云ふ事である。この曲の初演は彼の死後三八年經た一八六三年一月一日にライプツヒのゲヴァントハウスの音樂會で行はれ、カール・ライネツケ (Carl Reinecke) の指揮に依つて此のミサの中の數章が初めて上演された。

I Kyrie (主) Andante con moto As-dur

二つのクラリネットとファゴットの靜かな稍東洋的な旋律に依つて始められる。此の部分は非常に簡素に作られてゐて、シューベルト特有の音に満たされてゐる。父なる神、クリストへの哀願の叫びかけは、此の種類のものとしては實に短く手際良く作られてゐる。クリステ・エレインの後の部分はしばしば同じ様な形が繰り返され、少し暗い様な氣持がする。全體として子供らしい神への信頼が良く現はされてゐる。繰り返されるクリステ・エレインの旋律は親しい氣持に満たされてゐる。

II Gloria (榮光)

(a) Allegro maestoso e vivace in E-dur

第一及第二のヴァイオリンの十六分音符の同音の力強い速い上下に依つてグローリアの崇高な合唱がフォルテイツシモで始められる。神を讃える歌はどつしりと力強く歌はれる。途中アドラムストと云ふ言葉がソロのクア

ルテットに移る部分のはさまれて再びグローリアの合唱がフォルテで奏せられて終る。

(g) Andantino in A-dur

神への感謝の部分である。此の部分は最も天才的な閃きが表はれてゐる。何か美しい香に満たされた様なソロの旋律に續き神秘的な合唱に依つて其の一段が終る。

(c) Allegro moderato in A-moll

此の部分は、極めて軟かい感謝の氣分に引き入れられる所で全くシューベルトの獨創的のものと云へるであらう。Domine Deus, Agnus Dei のアルトのソロに始まり Miserere (憐れみ給へ) の合唱になり、バスのソロに移つて行く所は尤も美しい部分の一つであらう。Qui tollis 及 Quoniam は同じ様な響の旋律を以つてゐる前の感謝の部分の續きをなし、更に神聖な深い氣持に誘ひ込まれる。さうしてこれは力強い素晴らしい結びが附いて居る。願の幽な軟かい調子からウニゾンへ移り次で獨唱の各部に進む色々な響きは願望の成就と勝利を喚ぶが如くあらゆる世界に向つて放たれる如き効果は、古來多く作られたミサの中でも類ない程の成功を収めてゐる。細部に於てもデクラマシヨンの部分にもシューベルトの精神が強く表出されてゐる。又ある部分は力強くベートーヴェンを思はせるものもある。突然に現はれる減七の和音のフォルテイツシモは、バツハのミサの Barraban を思ひ起させる様な響がある。此のグローリアの部分の終りは Cum Sancto につけられた立派なフーゲに依つて作曲されてゐる。このテーマはごく輕快な氣分のものであるがシューベルト自身は満足出来ないで度々書き直をしてやつてゐる。ベートーヴェンと同時代の有名なミサの作者である Joseph Eybler (1765—1846) が嘗てこのシューベルトのこのミサを演奏しようとした時この部分が長すぎるとの理由で上演を止めたと云ふ事がクレツチマールの書いたものの中にある。相當長いものである。

III Credo (我は信ず)

(a) Allegro maestoso e vivace C-dur

此のクレードの最初の部分は神とキリストに對する我等の信仰を寫し出

した雄大などつしりした部分である。単純な簡素の形に作曲されてゐる此の部分は極めて厳格な告白を表はしてゐる。此處に現はれるテーマは古代風のもので和聲もやはり古風であつてコーラルの形に造られてゐる。この部分はシューベルトのト長調のミサのクレードの部分と非常に良く似てゐる。オルケストラの奏するバスの四分音符と極めて巧みな對位法によつて面白い効果が出て居り、ト長調ミサの此の部分より遙かに優れてゐる。然し此の部分は多少陰鬱な色彩をもつてゐる。告白の言葉の切れ目ごとにオルケストラは力一ぱいにモーティフを奏するのは極めて効果的である。クルツチマールはこれを剣の一打の様だと評してゐる。

(b) Grave As-dur

これはキリストの人格化と受難を唱つたもので、この部分は甚だ單純に作られてゐる。

Et incarnatus est の所はコーラスと樂器編成の巧みなオルケストラに依つて嚴かな恭しい儀式的氣分を表現し十字架の場面を唱つた Crucifixus の方は最も簡單な旋律であつて人の心を打つ。要するに、この部分はシューベルトには珍らしい男性的な寡黙な作曲で、彼の作の中では最も異色を呈してゐる。此の點では古く Paestrina の音樂と同じ様な印象を受ける。

(c) Tempo I C-dur

此所は形式としては(a)の部分の繰り返しであるが、單なる繰り返しではなくより以上に偉大なものに満ちてゐる。伴奏の部分にあつても第一部(a)より活潑に動き明るい調子が出てゐる。“et iterum”の所は其のクライマックスであらう。終りの部分に出る“Et vitam”の所は全く驚異に値する。度々繰り返し返されるアーメンの部分も第一部の所とは全く異り心から宗教心を起させる。

IV Sanctus (聖なる哉)

(a) Andante F-dur

驚くべき奇蹟の象徴化とでも云ふべきであらうか。軽いリズムをもつたホルンとクラリネットの音にはじまる神秘的な氣持に誘ひこまれるゆつくりした和音の構成、それに續く驚嘆すべき合唱の喚び聲“Pleni”は第一ヴ

アイオリンの十六分音符の三連音から成る長いレガートのメロディーを伴つて度々出現し前の部分と愛すべき對照をなす。

(b) Allegro F-dur

Osanna の作り方は普通のミサと全く異つて居り幻想的の氣分に作られてゐる。キリストに向つていと靜かな軟かい禮拜をする如く進み、やがて其の前に釘づけされた様に止まる。ごく短い部分であるが特にめづらしい形に作られてゐる。此の部分はシューベルトの非常な苦心になり其の結果二通りの作曲をこころみてゐる。本演奏では第二の稿 (Zweite Fassung des Osanna) が取上げられた。

V Benedictus (祝せられ給へ)

(a) Andante con moto As-dur

此の部分は前の樂章に比べて極めて靜かに落ちついた氣持に誘ひ込み低音絃樂器のピチカットに伴はれてベネディクトスを唱ひ出すテュティの合唱に次いでソロの各聲が入り亂れる。これを繰返して靜かに終る。この樂章は特に優れたものではないが最後の章との對照として價値があるであらう。

(b) Allegro F-dur

此の部分は前のサンクトスの(b)の部分がここで再び演奏されるのである。

VI Agnus Dei

(a) Adagio As-dur

弱音を附けた絃樂器の奏する靜かな旋律に導かれるソロ・カルテットに依つて出来てゐる。構成は至つて簡單で天への憧憬と地上の倦怠を表はす旋律を展開してゐる。合唱はあたかも神にひざまづいて憐みを乞う様に miserere を唱へ、合唱の始めは靜かなプサルム風に作られ終りの部分は短い合唱で暖かい氣持がする。

(b) Allegretto in As-dur

此の部分は“Benedictus”とよく似てゐる所がある。願をきかれる事の確信をもつて歌はれるリード的な終りの形であり安息を求める歌である。

ミサについて

ミサとはカトリック教のミサ祭に唱はれる歌である。これが出来たのは古い事で紀元五九〇年に職についた法王グレゴリウス第一世(Gregorius I 540—604)の頃に出来たものでグレゴリウス聖歌(Cantus Gregorianus)に集められたものが其の始めのものである。此の聖歌集にはミサMissaが六百餘曲含まれてゐる。ミサ聖晚餐の事跡から基となりキリストの死後信徒は晩餐の禮を行ひ詩篇の聖歌を唱つた。この儀式が段々組織化されローマ教會の主なる祭典となつたのである。此の儀式は古くは二部に分れ前半の終りのCredo(我れ信ず)の合唱までは洗禮をまだ受けぬ者も列席を許されたが、この部が終ると「イテ・ミサ・エスト」(Ite, Missa est)(立てよ、解散せよ)と唱へられ未洗禮者は退場し、二部は信徒のみで行はれ、最後に又同じ語があつて式は終つたと云ふ。この言葉ミサ即ち解散と云ふ語がいつしかこの儀式及こゝで唱はれる音楽を意味する様になつた。

ミサ祭は二種あつて儀式中の凡ての文句を朗讀又朗吟によつて表はすもので、これを「低いミサ」と言ひ、文句の有る部分を聲樂で唱ひ儀式中に香をたくものを「大きなミサ」又は「高いミサ」又は「莊嚴なミサ」(Missa solennis)とも呼ばれる。その主要なる曲は次の如くなる。イントロイトゥス(Introitus)序誦。そしてキリーエ(Kyrie)主よ。グローリア(Gloria)榮光。次でグラドゥアール(Graduale)昇段誦。及之につゞくアレルヤ(Alleluia)トラクトゥス(Tractus)聯唱。クレード(Credo)我れ信ず。オフエルトリウム(Offertorium)奉獻誦。サンクトゥス(Sanctus)聖なる哉。ベネデイクトゥス(Benedictus)祝せられ給へ。アグヌス・デイ(Agnus Dei)神の小羊等である。これが段々と形をととのへ一五〇〇年頃には今日演奏されるミサの様な内容を持つものとなりパツハも又バートヴェンもこれに基いて作曲をしてゐる。

ミサ曲の歌詞大意

- 一、キリーエ 主よ憐み給へ、キリストよ憐み給へ。
- 二、グローリア

- (a) いと高き所には榮光神にあれ、地に平安、人には恩澤あれ、我等は

主を讃へん、我等は祈る。

- (b) 我等は汝神の偉大なる光榮に感謝をさづけん。
- (c) 主よ、我等の神、天の王、神の父、全能なる神よ、神の只一人の子たるイエス・キリスト、神の小羊父たる神の子よ世の罪を荷へる主よ、我等を憐み給へ、我等の哀願を聞き入れ給へ、正義の上に座す主よ、我等を憐み給へ。

汝只一人神聖なる、おゝ主よ汝只一人最高なる父なる神よ、尊嚴の中の神聖なる靈魂によりて我等の願を聞き入れ給へ。

三、クレド

- (a) 我れ信ず只一人の神を、天地の創造主なる、又あらゆる眼に見える者見えぬ者を創り給へる神を信ず、只一人の主、神の一人子として生れ給へるイエス・キリスト。神の神、光の光なる眞の神、我々の救の爲に天より降り給ひし眞の神を我れ信ず。

- (b) そうして神聖なる精靈にみちびかれ處女マリアより生れ出で人間になり給ひき。

彼キリストは我々の爲ポンテオピラトのもとに十字架にかけられ苦に耐へ地に葬られ給へり。

- (c) かくて三日目に復活し天に昇り父なる神の右に座したり。こゝに於て生けるもの死せる者にも再び歡喜は來たり、神の國は終りなかるべし。罪の赦免のため洗禮を行ひ死者の復活を待つ、我等未來永遠の生を信ず、アーメン。

四、サンクトゥス

- (a) 聖なる哉、萬軍の主なる神、天地は神の榮光に充てり。
- (b) オサンナ(神を頌讚するユダヤ人の聲)は天にあり。

五、ベネデイクトゥス

- (a) 主の名によりて來たるものは祝せられ給へ。
- (b) オサンナは天に在り。

六、アグヌス・デイ

- (a) 世の罪を荷へる神の小羊なるキリストよ、我等を憐み給へ。

(b) 我等に平和を與へ給へ。

〔戦後、管絃楽部が再結成して初の公開演奏会であった。〕

〔原資料横組〕

昭和二十二年十二月六日～八日 演奏旅行（宝塚―名古屋）シュ
ーベルト生誕一五〇年記念東京音楽学校大演奏会

東京音楽学校演奏會

一九四七年十二月六・七日午後二時半

寶塚大劇場

——曲——

(1) 管絃樂

指揮 渡邊暁雄

交響曲 ロ短調（未完成）……………シューベルト

アレグロ モデラート

アンダンテ コン モト

(2) ヴァイオリン獨奏（管絃樂伴奏） 巖本眞理

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調……………メンデルスゾーン

アレグロ モルト アツパシヨナート

アンダンテ

アレグロ モルト ヴィヴァーチエ

(番外) 合唱（ピアノ伴奏） 指揮 城多又兵衛

青きドナウ……………シュトラウス

流浪の民……………シューマン

——休—— 憩——

(3) 獨唱・合唱及び管絃樂 指揮 金子登

四聲音と管絃樂の爲のミサ曲 變イ長調…シューベルト

I キーリエ（主よ）

II グローリア（榮光）

III クレード（我は信ず）

IV サンクトゥス（聖なる哉）

V ベネディクトゥス（祝せられ給へ）

VI アグヌス デイ（神の小羊）

四重唱 s. 大熊寛文子 a. 佐々木成子

t. 柴田睦陸 b. 中山悌一

合唱指揮 柴田睦陸

管絃樂 東京音楽学校管絃樂部

（教官・部員・並びに生徒）

合唱 東京音楽学校生徒

〔原資料横組〕

地方演奏に際して

小宮 豊 隆

〔東京音楽学校校長〕

東京音楽学校管絃樂團並に合唱團の地方演奏は、昭和十八年六月をもつて中斷された。昭和十九年、二十年がどんな年であつたかは、今更練り返す必要のないほど、人人の記憶に新たな所である。この間に日本の音楽のみならず、日本のあらゆる藝術と學問とは、壓迫され統制され酷使されて、いぢけ歪み傷つけられた。終戦の結果、日本は藝術と學問とによつて世界を相手にするより外に道がない境遇に置かれたにも拘はらず、その學問と藝術とは、世界を相手に戦ひうるだけに、十分成熟してゐない現狀である。然し日本の藝術と學問とに携はる者は今、あらゆる惡條件を乗り越え、渾身の勇をふるつて、日本再建の道に立ち上がらうとしてゐる。

東京音楽学校の職員・生徒から成る管絃樂團と合唱團とは、現在の日本の學者並に藝術家の中に渦巻くこの再建の意欲に呼應して、新に組織され、新に活動を開始したものである。その第一聲として十二月二日に東京で、シューベルト誕生百五十年を記念する演奏會を開く事になつてゐるが、ほぼ同じ曲目をもつて十二月六日・七日に大阪で、音楽を愛好する地方の人達にまみえようとしてゐる。十八年六月に中斷された地方演奏は、四年半の間隔を置いて、再び始められる事になつた。

社會的、經濟的、更に藝術的惡條件の下に組織されたこの管絃樂團と合唱團とは、いくら最眞目に見ても、完璧の名を冠する事は出来ない。同時に管絃樂團・合唱團の全員の理想とする所は高く、自己の現實への反省は厳しく、従つて自分達の技術の優秀を誇る目的を以つて此所まで演奏に出て来たのではない。ただ全員の聊か恃みとしうる所は、全員が再建の意欲に燃えるとともに、その意欲が眞剣であるといふ事である。この眞摯と熱情とが、全員の絃と管と聲とを通して聴衆に働きかけ、人人の意欲を刺激し、日本再建の偉業に人人が参加する事を可能にするならば、地方演奏の意義は完成され、全員の勞は十分に酬いられるのである。

日本の今日の現實は、我々の心を暗くする。多くの人人は、漱石の言ふ

やうに、自分の事だけ、自分の今日只今の事だけしか考へない。是は事情已むを得ない所であるには相違ないが、然しこの傾向が是正されない限り、日本再建の可能性は次第に影を潜めてしまふ。人人が心を合せ手を繋ぎ、平和し一致し、寛容と犠牲との社會感覺を身につけうるのは、藝術——特に音楽の力である。この管絃樂團と合唱團とによつて纏められる管の音楽が、果してさういふ影響力を持ちうるかどうかは、考へられうるあらゆる條件に支配され勝ちなこの藝術の性質からも、實際その日の演奏となつて現はれて見ないと分らない。ただ私はこの演奏が成功して、地方の音楽的精神を勃興させる事を、切に祈るのみである。(二一・一一・一三)

東京音楽学校演奏會評

吉村 一夫

日本唯一の音楽アカデミーとしての東音演奏會はその信頼のためか驚くべき盛況に終つた。「聴衆層は些か狩出された氣味の初心の人が多く、會場でのエチケツトは感心出来ない點が多かつたが問題はこれ等の初心の人々に東音の演奏がどれ程の感銘を與え得たかということと、將來音楽への愛好をこれによつて少しでも鼓舞され得たかということである。演奏そのものは決して拙くない、最初の「未完成交響曲」における管絃樂を聞いて何処といつて拙くない管樂器、特に木管群は美しく一流である、絃は貧弱だが小さくまとまつている、渡邊曉雄の指揮も正確でキチンとしている、それでいて何か人を搏つものがない、それは文字通り「アカデミック」でありその言葉の意味する、長所と短所を具現する代表的なものを感じ、訓練のよさ、技術的水準の或る程度の高さを持ち乍ら人間的な温さ、細い明暗の表現を缺いている爲に塑像の如く美しく冷い、音楽は拙くても音楽的熱情があれば人を搏つ力を持つている、この點で初心な聴衆に満足な効果を與える事は出来なかつたと思う、

次ぎの「ミサ」は完全に退屈である、この演奏會でこれが必要ならば全体として今少し緊張感を以つて終ることが出来たと思ひ、先ず曲がよくない、教會の儀式の中では我慢が出来ても、そういう宗教的雰囲気を知ら

ない人人にとつては最初から無理な曲目であつた、合唱も独唱も拙くない、それでいて全体として發想の平板なダレ切つた演奏で全然面白くない〔2〕曲の平凡さを演奏で補うどころかそれを強調した嫌があり先ず第一に其長大さは最上の演出を以てしても「美しき倦怠」たるべきものであるのに程よき倦怠に終つた〔1〕所々独唱者の個人的なよきによつて少し救はれたのがせめてもであつた

最後の「メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲」はとにかく有終の美をなすものであつた、巖本のヴァイオリンはその美音と、感情的な表出力に魅力がある、それはアカデミックの反對である、終樂章では相當の技術的な破綻を見せ乍らも水々しく美しく聴けた、これが本當の音樂の境地である、これは簡單に巖本が上手だという事ではない、彼女の運弓の缺點から來るスピカトの技術はいつもの事乍ら致命的である、それでいて彼女が我國一流の演奏家であるのは彼女の音樂的な氣稟にある、そしてその氣稟は並々ならぬものである

当日演奏會は唯一人巖本のアカデミックでない美しさで初心の聴衆も何かしを感じ、音樂の美しさを体得したと思われ、合唱□が一つの有機物の如く微妙に息付かなくてはいい音樂は生れない、これは日本人のモラルの問題である、集團の力は、高いモラルがなければ生れない〔1〕規律は技術の裏返しから生れるものでない、独善独唱への英雄主義的な憧れが日本人の集團的音樂を低調なものにして、日本唯一の官製アカデミーはこの點を深く反省する必要がある、天才教育でない事を自ら認めてモラルの高い音樂者を育て上げて日本の音樂教育の水準を引上げるべきで優れた個人は副産物的に自然に育つものでなければならぬ

東音の合唱、合奏を聴いて各自が心から唱つてゐるのではなく規律に従つて技術的關心のみで演奏してゐる感を深くした、従つて決して拙くなく模範的な定型的な上手さを持ち乍ら音樂への深い共感が現われてない點でこの感を深くした

〓十二月六、七日宝塚大劇場〓（筆者は音樂批評家）
 （『國際新聞』〔The Cina International〕昭和二十二年〔民國三十六年〕十二月十日）

シュベルト生誕150年記念
 東京音楽学校
 大演奏会
 1947.12.8
 会場名宝劇場
 中京新聞社

曲 目
 PROGRAM

- (1) 管 絃 樂
 指揮 渡邊曉雄
 シューベルト作品
 (イ) ロザムンデ序曲
 (ロ) 短調交響曲(未完成)
 第一樂章アレグロ・モテラー
 ト
 第二樂章アンダンテ・ロン・
 モト
 Fr. Schubert:
 Overture zur Oper
 "Rosamunde"
 Symphonie in H-moll
 (Unvollendete)
 Allegro moderato
 Andante con moto
- (2) メゾ・ソプラノ獨唱

佐々木成子

シューベルト作品

(イ) か ら す

(ロ) 堅琴に寄せて

(ハ) 鱒

(ニ) 夕 映 に

(ホ) 焦 燥

(3) 女聲及び混聲合唱(ピアノ伴奏)

(イ) 美しき青きドナウ

(ロ) J・シントラウス曲

(堀内敬三作詩・津川圭一編)

(ロ) オペラ「マルタ」より

フロートウ曲

女聲合唱と二重唱

ハリエツト 志賀 朝

ナンスイ 折島かがほ

(イ) アヴェ・マリア

アルカデルト曲

(ニ) 流浪の民 シューマン曲

(石倉小二郎譯詩)

(4) ヴァイオリン獨奏(管絃樂伴奏)

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調

巖本眞理

(作品六四)

メンデルスゾーン曲

第一樂章アレグロ・モルト・

アパシヨナタ

第二樂章アンダンテ

Fr. Schubert:

Die Krähe

An die Leier

Die Forelle

Im Abendrot

Ungeduld

Schöne Blaue Donau

J. Strauss

Aus der Oper "Martha"

Flotow

Ave Maria

Arcadelt

Zigeunerleben R. Schumann

Konzert für Violine in E-

moll (Op. 64)

F. Mendelssohn-B.

Allegro molto appassionato

Andante

第三樂章アレグロ・モルト・

ヴィヴェエイス

Allegro molto vivace

管絃樂 東京音樂學校管絃樂部

合唱 東京音樂學校生徒

地方公演に當つて

|| 東京音樂學校の回顧 ||

片山 頴太郎

今度東京音樂學校在校生ならびに同校出身者の地方公演に當つて、東京音樂學校の歴史を回顧するののも一つだと思ふ。周知のことであるが、東京音樂學校は明治十二年(一八九七)文部省に音樂取調所イニテリヤムができたときに胎生したもので、今日では六十八年の歴史をもつてゐる。

この誕生に當つては伊澤修二の人格と理想とにあずかるもので彼の「いのち」を今日にもつないでゐる。ペリーが日本の戸をたゞいた嘉永六年には伊澤さんは三歳、長じて愛知師範學校に教師となつた。「蝶々々々菜のはにとまれ」は清元の歌劇であるがこれを當時の伊澤さんは西洋旋律に修めた。この革命的な試みの後アメリカに留學、ハーバード大學では理科を修めて電話機發明のベルとも親しかつたというが、音樂教育には一段と力をこめて、歸朝の後、親交のあつたメーソン氏の招へいとなり、わが國音樂教育もこゝに基礎を置いたのである。

明治二十年音樂取調所は東京音樂學校になり、伊澤さんが初代校長となつた。伊澤さんは二十四年には學校を退かれたが、伊澤さんはよく苦境時代を抜け切つて明治樂團の幸田、安藤、橋、神戸、島崎、瀧の諸氏を育て、またその育てる基礎を作つた。

x

當時はアメリカ的音楽教育であつたが、その後次第にヨーロッパの流儀になつた。これは世界の潮流でもあつた。留學生も歐洲へ出かけ、迎える教師もまた管絃樂のユンケル氏、歌劇歌謡のペツオールド夫人、近代ピアノのロイテル・シヨルツ、コハンスキー、バルダス、シロタ、クロイツァ氏などは近代ピアノ、ウエルクマイステル氏なども來朝して教へんとつた。これらの教師と若い學生とによつて、音楽取調所當時には思いもよらなかつたマーラーの交響曲が、五十年後には次々と上演されるようになった。

このようにユンケル氏に發した管絃樂と合唱とは、その後の努力によつて成長の極大にまで達した。すなわち曲目もアレクストリーナのミサ曲の古いものからバツハ、モツアルト、ベートーベンの古典、シューベルトからワグネル、ブラームス、ブルックナーに至るローマン派音楽、R・シュトラウス、ドビツシー、マーラー、ストラヴィンスキーの現代音楽の諸作に至るまで洋樂の主だつた〔た〕曲目を學んだのである。

歌劇の試演は困難な事情のもとに明治時代にはグルツクのオルフオイス、昭和にはクルトウイールのヤーザーガー（謡曲「谷行」のほん案に基く學校歌劇）が企てられたことも回想される。

その後の事變戰亂は學校にも不幸であつたが、この間指揮者が養成されたこと、また戦後には文化に具眼の校長（小宮豊隆氏）を得たことは幸いである。（筆者は音楽學校教授）

昭和二十三年三月三十日、三十一日 卒業式

昭和二十三年三月三十日（火曜日）午前十一時（卒業式）
 三十一日（水曜日）午後一時（演奏開始）
 於東京音楽學校奏樂堂

卒業證書授與式次第

東京音楽學校

第一日（三月三十日午前十時）

- 一、卒業証書、修了証書並に賞状授與
- 一、學校長告辭
- 一、文部大臣祝辭
- 一、卒業生總代謝辭
- 一、合唱「仰げば尊し」
- 一、卒業演奏

演奏曲目

- 一、オルガン獨奏（同日午前十一時演奏開始）
 ラインベルガー作・ソナタ（イ短調）作品九八より
 第一樂章 テンポ・モデラート 本科卒業 高橋 正子
- 二、ソプラノ獨唱
 ヴェルディ作・オペラ「ラ・トラヴィアタ」より
 （イ） あゝ、そは彼の人か 笠井 明子
 （ロ） 過ぎし日よさらば 同
- 三、ピアノ獨奏
 ショパン作・幻想曲（ヘ短調）作品四九 同 森田 淑子
- 四、ヴァイオリン獨奏
 J・S・バッハ作・シャコンヌ 同 井上 延子
- 五、バス獨唱
 モーツァルト作・オペラ「魔笛」より 同 佐々木 行綱
 サラストロの詠唱
- 六、ピアノ獨奏………同 藤田 桂子

ブラームス作・自作主題による變奏曲・作品二一の一

休憩 (畫食)

七、卒業 作品……………本科卒業 寄藤喜久子

絃樂四重奏曲(ト短調)より

第三樂章 アレグロ

演奏者 第一ヴァイオリン 研究生 井上明子

第二ヴァイオリン 本科卒業 宮下綾子

ヴァイオラ 同 相澤裕子

チェロ 同 八代秀夫

八、クラリネット獨奏……………同 平井哲三郎

ラボー作・クラリネットの爲のソロ・ドゥ・コンクール

九、ソプラノ獨唱……………同 近藤和子

(イ) ヴァインガルトナー作・愛の儀式

(ロ) プッチーニ作・オペラ「トスカ」より

歌に生き、戀に生き

一〇、ピアノ獨奏……………同 渡邊瑛子

ベートーヴェン作・プロメトイスよりの主題に基く

一五の變奏とフーゲ・作品三五

一一、ソプラノ獨唱……………同 志賀朝

(イ) R・シュトラウス作・歸郷

(ロ) マイエルベア作・オペラ「ユグノー」より

マルガレーテの詠唱

一二、ピアノ獨奏……………同 奈良洋子

ショパン作・ポロネイズ・ファンテーズィー・作品六一

一三、メゾソプラノ獨唱……………同 折島かがほ

(イ) グルック作・なつかしの濱邊よ

(ロ) アレヴィ作・オペラ「シャルルス」より

田舎の娘

休憩 (一〇分)

一四、チェロ獨奏……………本科卒業 堀江泰

ラロー作・コンチェルト(ニ短調)より

第二樂章 アンダンテ—アレグロ

第三樂章 イントロドゥツイオーネ—アレグロ

一五、ピアノ獨奏……………同 大堀敦子

ブラームス作・パガニーニの主題による變奏曲・作品三五(第一卷)

一六、ソプラノ獨唱……………同 松田和賀代

(イ) プッチーニ作・オペラ「ラ・ボエーム」より

私の名はミミ

(ロ) シューベルト作・泉のほとりの若者

(ハ) 夜と夢

一七、ピアノ獨奏……………同 園田高弘

リスト作・「ドン・ジュアン」變奏曲

一八、ヴァイオリン獨奏……………同 江藤俊哉

グラズノフ作・コンチェルト(イ短調) 作品八二

第二日

邦 樂 (三月三十一日午後一時演奏開始)

一九、觀世流能樂

前シテ(本科卒業)柴田 收
後シテ(同)小貝昭三郎

世阿彌 作

田 村 ワキ野島 信 大鼓 渡邊榮嗣 小鼓 三須錦吾 笛 一噌幸政

後見 郷郭太郎 地謡
 嶋澤教官 藤波重良
 藤村太良 武田四信
 野村重雄 淺見重弘
 金春國夫 淺波見重
 原康夫 藤波見重
 木原雄 淺見重弘

休憩 (三十分)

二〇、山田流箏曲

三世山勢松韻作

花の雲

箏 (本科卒業) 小澤道
 三絃 (本科卒業) 小節昭子

二一、長 唄

富士田吉次作
 杵屋忠次郎

鷺 娘

唄 (本科卒業) 芳賀春子
 三味線 (本科卒業) 田島佳子
 高橋泰子

二二、生田流箏曲

光崎檢校作

五段 砧

雲井調子 (本科卒業) 菊地梯子
 平調子 (本科卒業) 戸山窈子

二三、長 唄

九世 杵屋六左衛門作

越後獅子

唄 (本科卒業) 加瀬恒夫 三味線 (本科卒業) 須原敏雄
 大澤善之助 (研究生) 若和田邦夫

昭和二十三年五月十五日、二十二日、二十九日 同声会邦楽演奏会

法人設立基金募集

同聲会邦楽演奏會

長 唄 五月 十五日 (土)

箏 曲 五月 二十二日 (土)

能 樂 五月 二十九日 (土)

會場 東京音樂學校奏樂堂

長 唄

五月十五日 (土) 午後一時開演

1. 娘道成寺 (初世 杵屋彌三郎作曲)

唄 岡本松子 三味線 川又 敦
 加藤 美智子 山田 乃武子
 菊岡 米子 倉持 妙子
 小林 昌子 手塚 芳子
 山田 喜代子 三浦 笑子
 高橋 泰子

2. 綱 館 (三世 杵屋勘五郎作曲)

唄 太田 英一 三味線 杵家 安八郎
 新會員 加瀬 恒夫 新會員 須原 敏夫
 大澤 善之助 若和田 邦夫

3. 胡 蝶

(四世 吉住小三郎作曲)
 (三世 稀音家六四郎作曲)
 唄 菊岡 米子 三味線 椎野 敏子
 新會員 芳賀 春子 太田 堪子

4. 四季の花里 (五世 杵屋三郎助作曲)

唄 山田 初子 三味線 杵家 基代子
 加藤 美智子 中川 正子
 小林 昌子 小林 美知子
 山田 喜代子 渡邊 震子

5. 三絃主奏樂 (稀音家四郎吉作曲)

イ、春 野 三味線 原澤 百合
 口、秋 夜 ヴァイオリン 川又 敦
 中村 桃子

——(休憩)——

6. 外記節猿 (十世 杵屋六左衛門作曲)

唄 吉住 小三八 三味線 多 忠清
" 大澤 善之助 " 杵家 安八郎
" 加瀬 恒夫 上調子 若和田 邦夫

7. 山しろ路 (原澤百合作曲)

萬葉十三卷より

唄 吉住 小吉郎 三味線 稀音家四郎吉
" 藤江 多恵 " 林 邦子
" 岡本 松子 " 鶉川 季美榮
" 菊岡 米子 " 池 昭子
" 芳賀 春子 新會員 田島 佳子
" 山田 初子 " 原澤 百合

箏 曲

五月二十二日(土)午後一時開演

1. 春の夜 (宮城道雄作曲)

箏替手 池 優子
" 曾根 國子
" 本手 久保 敏子
" 重松 二葉

2. きぬた (宮城道雄作曲)

新會員 箏高音 菊地 梯子
" 箏低音 戸山 窈子

3. イ. 春やいづこ (古屋富藏作曲)

ロ. 冬 (清水 脩作曲)

4. 六つの断章 (清水 脩作曲)

ソプラノ 岡部 多喜子
箏伴奏 古屋 富藏
箏 伊藤 良平

5. 船の夢 (三絃 菊岡檢校作曲)
(箏 八重崎檢校作曲)

箏 坂井 敏子
三絃 近藤 康子

6. 櫻狩り (山田檢校作曲)

箏 西山 松枝
" 遠藤 照子
三絃 緒形 美恵子

7. 春の海 (宮城道雄作曲)

箏 宮城 道雄
尺八 宮城 衛

——(休憩)——

8. 古曲尾上の松 (宮城道雄箏編曲)

箏 松尾 清二
三絃 宮城 道雄

9. 夏の眺 (二世 山木太賀作曲)

唄 岸邊 從子
箏 野口 文子
三絃 鹿山 美智枝

10. イ. 數へ唄變奏曲 (宮城道雄作曲)

箏 田村 通子

ロ. 水の變態 (宮城道雄作曲)

箏本手 相原 茂子

11. 陽炎の踊 (中能島欣一作曲)

箏 塚越 清子

12. 赤壁の賦 (中能島欣一作曲)

箏 中能島 欣一

13. 交響曲 黎明

(葛原しげる作詩)
(中島靖子作曲)
(平井保喜合唱編曲)

指揮 須賀 靖和

箏獨奏 中島 靖子 箏高音 相原 茂子

ソプラノ 岡部 多喜子 重松 二葉

バリトン 日比野 穎彦 上木 康江

ヴァイオリン 渡邊 文江 櫻井 京子

フルニート 川崎 優 田村 道子

打楽器 古屋 富藏 坂井 敏子

合唱 東京音楽學校 江場 さと子

十七絃 菊地 梯子

1. 連吟 竹生 島 (觀世)

2. 仕舞 イ山 姥 (觀世)

口 網之段 (〃)

3. 仕舞 イ放下僧 (寶生)

口 卷絹 (〃)

4. 舞囃子 屋 島 (寶生)

口 生田敦盛 (〃)

5. 仕舞 イ花月 (寶生)

口 杜若 (〃)

ハ 玉之段 (〃)

6. 仕舞 イ嵐山 (觀世)

口 清經 (〃)

ハ 籠太鼓 (〃)

ニ 野守 (〃)

7. 獨吟 隅田川 (觀世)

8. 仕舞 笠之段 (觀世)

木原 康夫

金春 國雄

野村 太良

藤波 重滿

丸山 登喜江

吉田 敬子

山階 敬子

金春 惣一

佐野 萌

シテ 菱田 尙三

笛 一噌 幸政

小鼓 田中 允

大鼓 安福 春雄

平井 澄子

金井 麗子

加藤 高子

新會員 小貝 昭三郎

柴田 收

郷 郭太郎

淺見 重信

藤波 順三郎

嶋澤 啓次

能 樂

五月二十九日(土)午後一時開演

9. 能 小 鍛 冶 (觀世)

4 混聲合唱 管絃樂伴奏

- (イ) 來よ春 (四季より)
- (ロ) ハレルヤ (救世主より)

ハイドン曲
ヘンデル曲
〔手書きの横書き〕

前シテ 武田 四郎
後シテ 淺見 重弘
ワキ 野島 信
笛 一噌 幸政
小鼓 田中 允
大鼓 安福 春雄
太鼓 金春 國雄
後見 嶋澤 啓次
郷 郭太郎
地謠 藤波 順三郎
" 淺見 重信
" 小貝 昭三郎
" 柴田 收
" 木原 康夫
" 野村 太良
" 藤波 重滿
〔原資料横組〕

昭和二十三年六月五日 国会図書館開館記念演奏会

Program

- 出演 東京音楽學校管絃樂團・合唱團
指揮 渡邊 曉 雄・金子 登
- 1 管絃樂 序曲 アウリスのイフゲニア^(Op. 1) グルック曲
 - 2 絃樂合奏 セレナーデ モツアルト曲
 - 3 管絃樂 圓舞曲 碧きドナウ河 シュトラウス曲
- 休憩 十五分間

昭和二十三年十月二十五日 創立七十年記念式
昭和二十三年十月二十五日 (月曜日) 午前九時開始
創立七十年記念式次第

東京音楽學校

- 一、學校長式辭
- 二、來賓祝辭
- 三、本校永年勤續者表彰
- 四、記念演奏

曲目 (洋樂)

- 一、交響曲第八番 作品九三……………ベートーヴェン作
第一樂章 アレグロヴィヴァーチエエコンブリオ
 - 二、モテツト (オルガン伴奏付き、女聲合唱の爲の)
作品三九 第一番……………メンデルスゾーン作
管絃樂編曲……………池内友次郎
- ヴェニドミネーラウダーテプエルリードミニカIIポストパスカ
- 獨唱 ソプラノ 淺野千鶴子
" 平原壽恵子
アルト 横田ふみ子
" 岡部多喜子

邦 樂 (十月二十六日午前十一時開演)

上野 東京音樂學校邦樂科 職員生徒

1. 能 樂 (仕舞)

イ、玉鬘—山階敬子 清經キリ—丸山登喜江

地謡—淺見重信、淺見重弘、武田四郎、郷郭太郎

口、西王母—加藤高子 網之段—平井澄子 鞍馬天狗—須崎惠子

地謡—寶生英雄、波吉信和、前田忠茂

2. 箏 曲 "松 風"

唄—岸邊從子、小林糸子、西山松枝、緒形美惠子、小澤道、

江口昭子、小室智江

箏—野口文子、小山節子、西島三八子、田村榮子、小山富美子、

早川良一

三絃—東條夏子、鹿山美智枝

3. 長 唄 "連獅子" (山田抄太郎合奏編曲)

唄—西垣勇藏、太田英一、加瀬恒夫、大澤善之助、若和田孝之

藤江多恵、岡本松子、山田初子、菊岡米子、芳賀春子、

岡田光以、富尾瑠璃、鈴木輝子、大智伊津子

三絃—(本手一部)—若和田邦夫、杵家安八郎、堀込彦雄

(本手二部)—原澤百合、池昭子、小林美智子、高橋泰子、

鈴木喜美子、川島芳子、竹村由紀子

(本手三部)—太田堪子、山田乃武子、須原敏雄、菊岡忍、

井岡家壽雄

(高 音)—川又敦、三浦笑子、田島佳子、高橋京子、

山崎みどり

(低 音)—林邦子、鶴川喜美榮

—(休 憩)—

4. 能 樂 "羽 衣"

シテ(天人)—寶生重英 ワキ(漁夫)—松本謙三

その他ワキツレ(漁夫)

囃子 笛—藤田大五郎 小鼓—三須錦吾 大鼓—安福春雄

太鼓—金春惣一

後見—武田喜永、米倉義勝

地謡—寶生英雄、波吉信和、前田忠茂、佐野萌、一噌幸政、

菱田尙三

5. 箏 曲 "三絃協奏曲" (中能島欣一作曲)

三 絃—中能島欣一

伴奏 箏一部—吉田純三、伊藤良平 箏二部—鈴木清壽

十七絃—松尾清二

6. 長 唄 "鷺 娘"

唄—杵屋六左衛門、吉住小三八、吉住小吉郎

三絃—稀音家六治、稀音家六四郎、稀音家四郎吉

7. 箏 曲 "手 事" (宮城道雄作曲)

1. 手 事 2. 組歌風 3. 輪 舌

箏獨奏—宮城道雄

8. 能 樂 "船 辨 慶" (半 能)

シテ(平知盛の靈)—嶋澤啓次 ワキ(辨慶)—野島信

子方(源義經)—觀世元昭 間狂言(船頭)—野村太良

その他ワキツレ(義經の家來)

囃子 笛—藤田大五郎 小鼓—三須錦吾 大鼓—龜井俊雄

太鼓—金春惣一

後見—郷郭太郎、武田四郎

地謡—藤波順三郎、淺見重信、淺見重弘、金春國雄、

木原康夫、藤波重滿

9. 箏 曲 "秋 韻" (高野辰之作詩、宮城道雄作曲)

胡弓—宮城道雄
 三絃—牧瀬章代子、高草幹子
 箏高音—塚越清子、曾根國子、菊地梯子、戸山笏子
 箏低音—近藤康子、重松三葉、三宮公江、宮島こら
 十七絃—松尾清二、古屋富藏、唯是震一
 打物—山川直治
 唄高音—牧瀬敏江、都筑妙子、上木康江、土橋明、櫻井京子
 唄低音—坂井敏子、江場さと子、白井ふみ、石綿範子、大西道子、
 關民子、山内喜美子

10. 舞踊 “時雨西行”

藤間勘十郎、藤間紫
 長唄唄 — 吉住小三八、杵屋六左衛門、加瀬恒夫、吉住小吉郎
 三絃—稀音家六治、稀音家四郎吉、杵家安八郎
 上調子—稀音家六四郎
 囃子——— 望月吉三郎 他

[原資料横組]

Oct. 26th at 3:00 P.M. 10月26日 3時

Piano Recital	ピアノ獨奏
Prof. LEONID KREUTZER	レオニード クロイツァー教授
I Fantasy C-dur Op. 17	I 幻想曲 ハ長調 作品17
..... R. Schumannシューマン
Allegro Passionato	アレグロ パツシヨナート
Alla Marcia	アラ マルツイーア
Adagio	アダージョ
II Symphonic Etudes Op. 13	II 交響的練習曲 作品13
..... R. Schumannシューマン
(Variations)	(變奏曲)
III Ballade F-moll...F. Chopin	III 譚詩曲 ヘ短調.....シヨパン
IV 1) Barcarolle ... //	
2) Four Mazurcas	

.....F. Chopin
 3) Polonaise As-dur
 //

Oct 26th at 6:00 P.M.
 Oct. 27th at 3:00 P.M.
 ORCHESTRA:
 THE ORCHESTRA OF
 TOKYO ACADEMY OF
 MUSIC
 CHORUS:
 STUDENTS OF TOKYO
 ACADEMY OF MUSIC
 CONDUCTOR:
 MR. NOBORI KANEKO,
 MR. AKEO WATANABE
 —Programme—

I SYMPHONY No. 8
 F-Major Op. 93
L. van Beethoven
 Allegro Vivace e con brio
 Allegretto Scherzando
 Tempo di Menuetto
 Allegro Vivace
 II MOTETTO (for Female
 chorus with Orchestra)
F. Mendelssohn
 Veni domine—Laudate Pueri
 —Dominica II post pascha
 Soloists:
 Soprano { Miss C. Asano
 { Miss S. Hirahara
 Alto { Mrs. F. Yotsuya
 { Mrs. T. Okabe

IV 1) 舟 歌.....シヨパン
 2) 四つのマズルカ..... //
 3) ポロネーズ變イ長調 //

10月26日 午後6時
 10月27日 午後3時
 管弦樂—東京音樂學校管弦樂教
 官・生徒
 合唱—東京音樂學校生徒
 指揮—金子登、渡邊曉雄

—曲 目—

I 交響曲第八番 ヘ長調 作品93
ベートーヴェン
 アレグロ ヴィヴァチエ エ
 ユン ブリオ
 アレグレット スケルツアンド
 テンポ デイ メヌエット
 アレグロ ヴィヴァーチエ
 II 經文歌 (管弦樂附女聲合唱)
メンデルスゾーン
 我等を高め給え—イスラエルの
 子—ドミニカ
 獨唱者 { ソプラノ 浅野千鶴子
 { " 平原壽恵子
 { アルト 四家文子
 { " 岡部多喜子



昭和23年10月26日，音楽教育創始70周年記念演奏会。メンデルスゾーン作曲〈經文歌〉（管弦楽付女声合唱）。ソプラノ 浅野千鶴子・平原壽恵子，アルト 四家文子・岡部多喜子，指揮 金子登



同演奏会。ベートーヴェン作曲〈ヴァイオリン協奏曲〉，ヴァイオリン 江藤俊哉，指揮 渡邊曉雄

III VIOLIN CONCERTO
D-Major Op. 61
.....*L. van Beethoven*
Allegro ma non troppo
Larghetto—Rondo
Soloist: Mr. Toshiya Etoh
IV FANTASY for Piano,
Chorus and Orchestra,
Op. 20...*L. van Beethoven*
Piano Solo: H. Tamura

III ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
作品61.....ベートーヴェン
アレグロ マノン トロツポ
ラルゲットー ロンド
獨奏者 江藤俊哉
IV 幻想曲 (ピアノ, 合唱, 管弦楽)
作品20.....ベートーヴェン
ピアノ獨奏 田村 宏

Oct. 27th at 5:30 P.M. • 10月27日 5時30分

THE NIPPON
PHILHARMONIC ORCH.
Conductor:
Mr. KAZUO YAMADA
Soloist:
FRANCES CASSARD
(Sop.)

日本交響樂團
指揮 山田 和 男
獨唱
フランセス・カサールド嬢
曲 目

PROGRAM

I OVERTURE“LEONORE”
No. 3 Op. 72b
.....*L. van Beethoven*
II a) “Vissi d’arte” aria
from “TOSCA”...*Puccini*
b) “Ritorna Vincitor” aria
from “AIDA”...*G. Verdi*
c) “Elizabeth’s Prayer”
from “TANNHÄUSER”
.....*R. Wagner*
d) “Ho Yo To Ho Brünn-
hilde’s War cry” from

I 歌劇「レオノーレ」序曲 第三番
.....ベートーヴェン
II イ) 歌に生き, 戀に生き
.....プッチニ
(歌劇「トスカ」より)
ロ) 勝ちて還れ.....ヴェルディ
(歌劇「アイダ」より)
ハ) エリザベートの祈り
.....ワグナー
(歌劇「タンホイザー」よ
り)
ニ) ブルンヒルデの雄叫び
.....ワグナー

“WALKÜRE”
.....*R. Wagner*
e) “Love Death” from
“TRISTAN and
ISOLDE”.....*R. Wagner*
III SYMPHONY No. 1
in C minor Op. 68
.....*J. Brahms*
Un poco sostenuto—
Allegro
Andante sostenuto
Un poco allegretto e
grazioso
Adagio—Allegro
non troppo ma con
brio

(歌劇「ヴァルキューレ」
より)
ホ) イゾルデの愛の死
.....ワグナー
(歌劇「トリスタンとイン
ルデ」より)
III 交響曲 第一番 ハ短調 作品68
.....ブラームス
ウン ポコ ソステヌート—
アレグロ
アンドンテ ソステヌート
ウン ポコ アレグレット エ
グラツイオーゾ
アダジオー—アレグロ ノン
トロツポ マ コン プリオ

10月27, 28日 12時

青少年の爲の音楽鑑賞講座

講 師 東京音楽學校教授 片 山 穎 太 郎
特別演奏 ベルリン高等音楽學校教授
エタ・ハーリッヒ シュナイダー夫人
ピアノ演奏 加藤 るり子 内藤 芳枝
曲 目

I ハープシコード獨奏——エタ・ハーリッヒ シュナイダー夫人
クーブランとバツハの作品「鶯の愛の歌」「搖籠のキューピド」「パ
ントミーム」バツハ作品「サラバンド」
II ピアノ獨奏——加藤 るり子
内藤 芳枝

ベートーヴェン (幻想奏鳴曲一月光)
ショパン, リスト, ドビュッシイの作品

Oct. 28th at 3:00 P.M. • 10月28日 3時

Piano: Mrs. KAZUKO
YASUKAWA
Soprano: Miss CHIZUKO
ASANO
Piano acc: Miss KAZUKO
ABE

PROGRAM

I GABRIEL FAURE

—Soprano Solo

- 1 Lydia (Leconte de Lisle)
- 2 Hymne (Baudelaire)
- 3 Clair de lune (Verlaine)
- 4 Après un Rêve
(Romain Bussine)
- 5 Automne (Silvestre)
- 6 Soir (Albert Samain)
- 7 La Rose (Leconte de Lisle)

II CLAUDE DEBUSSY

—Piano Solo

Estampes
Pagodes
Soir dans Granade
Jardins sous la Pluie

III CLAUDE DEBUSSY

—Soprano Solo

- a) Fêtes galantes (Verlaine)
- 1 En sourdine
 - 2 Fantoche
 - 3 Clair de lune

ピアノ 安川加壽子
ソプラノ 浅野千鶴子
ピアノ伴奏 安部和子

曲 目

I ソプラノ独唱—フォーレの作品

- 1 リディア (ルコント・ド・リル)
- 2 讃歌 (ボードレール)
- 3 月の光 (ヴェルレーヌ)
- 4 夢の後 (ロマン・ビュシーヌ)
- 5 秋 (シルヴェストル)
- 6 夕暮 (アルベール・サマン)
- 7 ばら (ルコント・ド・リル)

II ピアノ独奏

—ドビュッシイの作品
版畫—パゴード グラナダの夜
雨の庭

III ソプラノ独唱

- ドビュッシイの作品
イ) 華やかなる餐宴
(ヴェルレーヌ)
- 1 ひそやかに
 - 2 操り人形
 - 3 月の光
 - 4 無邪氣

- 4 Les ingénus
- 5 La faune
- 6 Colloque sentimental

b) Trois Ballades de

François Villon

- 1 Ballade de Villon à
s'amy
- 2 Ballade que Villon fait
à la requête de sa mère
pour prier Notre-Dame
- 3 Ballade des femmes de
Paris

IV MAURICE RAVEL

—Piano solo

- Le Tombeau de Conperin
- 1 Prélude
 - 2 Fugue
 - 3 Forlane
 - 4 Rigaudon
 - 5 Menuet
 - 6 Toccata

- 5 牧羊神
 - 6 悲しき對話
- ロ) ヴィヨンの詩による三つのバ
ラッド
- 1 ヴィヨンからの戀人への譚詩
 - 2 ヴィヨンが母の願いにより書
ける聖母への祈りの歌
 - 3 パリ女の譚詩

IV ピアノ独奏—ラヴェルの作品

クープレットの墓

- 1 前奏曲
- 2 フーグ
- 3 フォルラーヌ
- 4 リゴードン
- 5 ムニユエ
- 6 トツカータ

Oct. 28th at 5:30 P.M. • 10月28日 5時30分

THE NIPPON
PHILHARMONIC ORCH.

Conductor:

Mr. HISATADA OTAKA

Soloist:

Miss MARI IWAMOTO
PROGRAM

I OVERTURE "RUSLAN
and LYUDMILA"

.....M. Glinka

II VIOLIN-CONCERTO No.

1 in G minor Op. 26

.....M. Bruch

Allegro moderato

日本交響樂團

指揮 尾高尙忠
獨奏 巖本眞理

曲 目

- I 歌曲「ルスランとリュドミラ」序曲
.....格林カ
- II ヴァイオリン協奏曲 第一番
ト短調 作品26 ...ブルツフ
アレグロ モデラート
アダージョ

Adagio

Allegro energico

III SYMPHONY No. 5 in E

minor Op. 64

.....P. I. Tchaikovsky

Andante—Allegro con

anima

Andante cantabile

WALTZ: Allegro

moderato

Andante maestoso—

Allegro vivace

アレグロ エネルジーコ

III交響曲 第五番 ホ短調 作品64

.....チャイコフスキ

アンダンテ—アレグロ コン

アニマ

アンダンテ カンタビレ

ワルツ アレグロ モデラート

アンダンテ マエストーゾ—ア

レグロ ガイガアチエ

今シーズンの演奏會評

野呂信次郎

音楽教育創始七十周年記念音楽祭—十月廿六、廿七、廿八の三日間にお
たつて、帝劇で東京音楽學校同聲會と朝日新聞社の主催で、音楽教育創始
七十周年記念の音楽祭が催された。第一日は晝から東京音楽學校邦楽科の
演奏、クロイツァー氏のピアノ演奏會、夜は同校の管絃樂と獨奏と合唱。
第二日は前夜の同校の演奏と、夜はアメリカのカッサール嬢の獨唱と日
響。第三日は安川加壽子と淺野千鶴子のジョイント・リサイタル、ついで
巖本眞理と日響の出演で華々しく行はれた。憶えば明治十二年十一月、今
回の東京音楽學校の前身である音楽取調係が設置されてから七十年、世界
の音楽のレヴェルからみれば、まだ子供時代にすぎないと思うが、その間
の成長に對して、こゝに記念音楽祭が催されたことは意義あることと云は
ざるを得ない。

第一日の邦樂はこの七十年の歴史にはなんら關係がなく、たゞ學校の祝
賀の行事に参加したものであるが、來春東京音楽學校が東京藝術大學に昇
格するにあつて、邦樂科を大學から除外してこれを音楽研究所に移つす
といふ小宮校長案をめぐつて、邦樂科の教官、卒業生、生徒等が反對の氣
勢をあげている際、こうして欣然これに参加していることはよろこばしい

ことであつた。

私は能樂には非常な關心をもつたが、率直にいつて箏曲、長うた、舞踊
等についてはそれほど興味をもつことができなかった。それは私が邦樂に
ついて殆んど知識を持たないためであつたと思うが、それにしても、この
邦樂の人々が洋樂の人々と同じ大學のコースをたどることが、可能かどう
かは疑問に思えた。音楽學校の邦樂の問題については、こゝで論ずること
はさし控えたいと思うし、演奏の批評も出来ないもので、こゝでは聴衆の雰
圍氣についで一言感想を述べた。

一言で云えば、當日の邦樂の聴衆は何か騒々しかった。演奏中にざわ
ざわした音と、落着かない空氣がみなぎつていた。こんなことは洋樂の演
奏會では感じられないことである。洋樂の演奏の場合は大いシーンと静
まりかへつてゐるのが普通である。ザワ／＼してゐたのはどうも演奏につ
いて、いろ／＼と説明をしている人が多かつたが、その知つたかぶつた輕
薄な態度が無知と教養の足りなさを露出しているようで不愉快でたまらな
かつた。また、平氣でなにかを口に入れてムシャ／＼やつてゐるのもいた
が、こんな人々が邦樂の支持者であるとしたら、邦樂界はまことに寒心に
堪えないものである。こんな調子ではどんなに邦樂の畑の人々が洋樂と肩
を並べようといつても、私は理窟なしに賛成できなくなる。

◇ ◇ ◇

同夜の東京音楽學校の管絃樂は金子登の指揮した、ベートーヴェン「交
響曲第八番」はいかにも力の弱い演奏だつた。去年の秋のシューベルト生
誕百五十年記念のときの演奏にくらべて熱が足りなくまとまっていなかつ
た。もつと潑刺とした演奏を期待していた私は失望した。つぎのメンデル
スゾーンの管絃樂附女聲合唱「經文歌」も女聲の美しさも盛り上りも感じ
られなく、ことに獨唱者の淺野千鶴子、平原壽美子、四家文子、岡部多喜
子の聲色が揃わなかつたことと、獨唱者が經文歌を知つてゐるかどうかさ
え疑われるような、無感覺な歌い方に興味はそがれてしまつた。やはり音
樂學校らしい演奏はベートーヴェンのピアノ、合唱、管絃樂附の「幻想曲」
であつた。このような演奏は音楽學校でなければ簡單に取りあげられない

ことだし、若々しい熱情と迫力を示してよかつた。

江藤俊哉のベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」は、江藤としてはそれほどよい出来ではなかつたが、三十日の渡米を前に最後のお別れ演奏として自分の母校の記念音楽會に出演したことは偶然とはいえ、満堂の聴衆は感慨深いものがあつたであらう。私もまたこんなにまで喜びと感慨をもつて拍手をおくつた音楽會は少い。心から江藤の將來を祈つて眼の熱くなるのを感じた。

(『音楽』アポロ出版 第三卷第十一号、昭和二十三年十二月)

昭和二十三年十一月二十三日 出張演奏(横浜)(第二回市民音楽會東京音楽学校演奏会)

第二回市民音楽會

東京音楽学校演奏會 曲目

日時 昭和二十三年十一月二十三日午後一時三十分

會場 オープンエアシエター【舊横濱公園音楽堂】

主催 横濱市横濱音楽協會

1. 管 絃 樂

樂劇「マイスタージンガー」前奏曲

ワグナー作

2. フルート 獨奏

協奏曲(ニ長調)

モーツァルト作

アレグロ アペルト——アンダンテ マノン トロツポ

——アレグロ

3. 混 聲 合 唱

イ、「天地創造」より 神はのたもう

ヘンデル作

ロ、「四季」來れ春

ハ、「救世主」ハレルヤ

4. 合唱 幻想曲 作品八〇

ベートーヴェン作

ピアノ獨奏

大堀敦子

番 外

ソプラノ獨唱

松田和賀代

(横濱市出身)

ピアノ伴奏

奈良洋子

イ、夢

トステイ作

ロ、アヴェエマリア

マスカニー作

ハ、歌劇「トスカ」中より

プチニー作

ニ、歌劇「椿姫」より

ヴェルデイー作

指揮

渡邊 曉 雄

管絃樂

東京音楽学校管絃樂部

合唱

東京音楽学校生徒

(原資料横組)

昭和二十四年二月二十五日、二十六日 卒業式

昭和二十四年二月 二十五日(金曜日) 午前十一時(卒業式)
二十六日(土曜日) 午前十一時(演奏開始(邦樂))

於東京音楽学校演奏堂

卒業證書授與式次第

東京音楽學校

第一日 (二月二十五日午前十時)

一、卒業證書並に修了證書授與

一、賞状授與

一、學校長告辭

一、文部大臣祝辭

一、合唱「仰げば尊し」

一、卒業演奏

演奏曲目

洋樂 (同日午前十一時演奏開始)

一、オルガン獨奏……………本科卒業 林 佑子

二、ソプラノ獨唱……………同 池田智恵子

イ、R・シュトラウス作・獻呈

ロ、ベルリオーズ作・オペラ「ファウストの劫罰」より

マルガレーテのロマンス

三、トロンボーン獨奏……………同 石辻桂一

A・バッシエレ作・トロンボーンの爲のコンクール課題曲

四、バリトン獨唱……………同 齋藤達雄

モーツァルト作

イ、オペラ「フィガロの結婚」より もう準備が出来た

ロ、オペラ「ドンジョヴァンニ」より セレナーデ

五、ピアノ獨奏……………同 江藤玲子

ショパン作・ソナタ(變ロ短調) 作品三五

六、ソプラノ獨唱……………同 大川房子

七、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 山田和子

ベートーヴェン作・コンチェルト(ニ長調) 作品六一

第一樂章 アレグロ モデラート

休 憩 (晝食)

八、ソプラノ獨唱……………同 矢野 滋

デリーベ作・オペラ「ラクメ」より 鐘の歌

九、フルート獨奏……………同 山口平八郎

モーツァルト作・コンチェルト 第二番(ニ長調)

第一樂章 アレグロ アペルト

一〇、アルト獨唱……………同 中野陽子

ブラームス作

イ、そは悲しみなりや 喜びなりや

ロ、「マゲローネ」より 眞實の愛は永遠なり

一一、ピアノ獨奏……………同 關原和子

ショパン作・ソナタ(ロ短調) 作品五八

一二、卒業作品……………同 矢代秋雄

三重奏曲(ロ短調)

第一樂章 アレグロ モデラート エ アダタート

第二樂章 スケルツォ モルト ヴィヴァーチェ

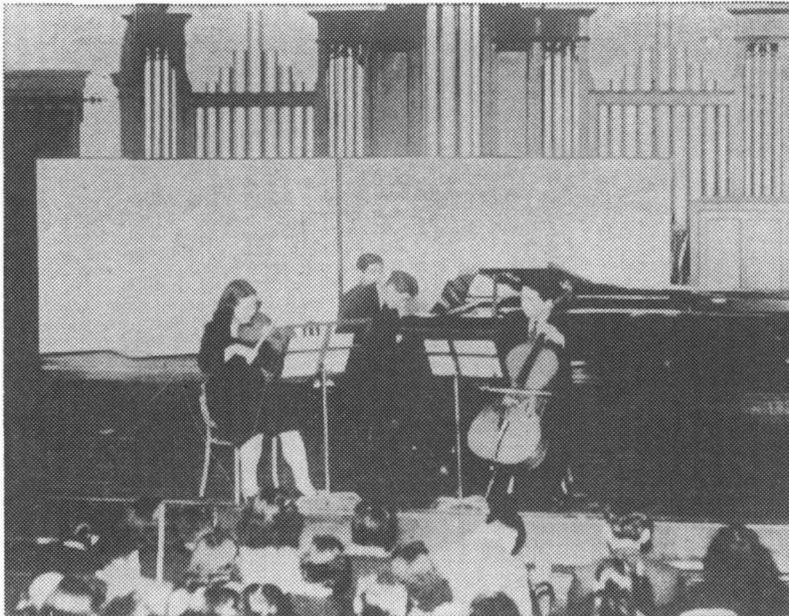
第三樂章 アダヂオ ファンタステイコ

第四樂章 フィナーレ アレグロモルト エ コンフォーコ

演奏者 ヴァイオリン 島根育子

セ ロ 堀内靜雄

ピアノ 作曲者



昭和24年2月25日，卒業演奏会より。矢代秋雄作曲〈三重奏曲ロ短調〉，ヴァイオリン 島根育子，チェロ 堀内静雄，ピアノ 矢代秋雄

一三、ヴァイオリン獨奏……………本科卒業 高角郁子

サンサーンス作・第三コンチェルト(ロ短調) 作品六一

第二樂章 アンダンテイノ クワジ アレグレツト

第三樂章 モルト モデラート エ マエストロソ

—アレグロ ノン トロツポ

一四、ピアノ獨奏……………同 小林昭子

ラヴェル作・夜のギヤスパール

一五、ソプラノ獨唱……………同 毛利順子

ヴェルディ作・オペラ「アイーダ」より

勝ちて歸れ

一六、ピアノ獨奏……………同 長松純子

リスト作・ソナタ(ロ短調)

一七、卒業作品……………同 黛敏郎

拾箇の獨奏樂器のためのディヴェルティメント

第一樂章 アレグロ 第二樂章 アダチオ

第三樂章 アレグレツト 第四樂章 ヴィヴァーチェ プレスト

演奏者

フルート (教官) 森 正 オーボエ (教官) 鈴木清三

クラリネット(教官) 北爪利世 ファゴット (教官) 中田一次

ホルン 千葉 馨 トラムベツト(教官) 中山富士雄

トロンボーン 石辻桂一 ヴァイオリン 山田和子

コントラバス 窪田 基 ピアノ 作曲者

第二日

邦 樂 (二月二十六日午前十一時演奏開始)

一八、能樂仕舞

笠 之 段 本科卒業 金 春 國 雄

天 鼓 同 木 原 康 夫

一九、能樂獨吟

田 村 同 一 噌 幸 政

二〇、箏 曲

松本一太 作曲 西島三八子

中能島欣一 作曲 田村榮八子

赤 壁 賦 同 同 同

二一、長 唄

ば二日でも三日でもかけてよいと思う。但しそのときに、次のようなやり方が必要だ。それは出演者の名前と曲目のほか、その出演時間をあらかじめ公示することである。誰のなにがしは何日の何時から何を弾く、ということが皆に示されれば、それに關心をもつ人はその時間を目がけて会場にくればよいわけであり、又それをききたくない人は避けてくれればよい。こうすれば、自分の見たい繪だけを見て歸ることの出来る展覽會式なゆき方が音楽の場合でもとれるわけである。卒業生は自分の勉強したものを學校の仲介で社會に向つて披歴し、その價値を問う權利がある。學校はそれをとりはからう義務がある。というのがぼくの考えだ。學校は學生を教育するだけで卒業免狀を渡して了えば音楽會なんかやる必要はない、というのは通用しない考であつて、それなら今やつている程度の演奏會も出来ないことになるだろう。やるならやるでつまらないもん着や競争のおこらぬよう、誰がみても公正以外にはありえないような仕組のもとにやるべきではないだろうか。現在のように紙一重の差で當落がきまり、しかも出れない連中は卒業演奏會の定義が高められているだけに、大きなハンディキャップを負わされるのは不公平であり、またそのため無用のごたぐが起きがちなのも面白くないことである。戰爭中に全員出演ということになつて二日間にわたつて上野に通つたことがあるように記憶するが、時刻を公示することで一般の人々の不便は十分救われるだろう。たゞわれ／＼のようになんて人を皆きかなければならない連中は、そういうことになるの大變であるが、それは仕事と觀念して辨當もちで二日でも三日でも通いつめるべきなのだ。〔以下略〕

『音楽藝術』第七卷第五号、昭和二十四年五月

昭和二十四年三月二十八日 創立七十周年記念演奏會

昭和二十四年三月二十八日

創立七十周年記念演奏會曲目並解説

東京音楽學校

第一部 邦樂

一、能樂舞囃子

舞 嶋 澤 俊 一
太 鼓 金 春 惣 一
大 鼓 安 福 春 一
小 鼓 三 須 錦 吾
笛 藤 田 大 五
地 謠 淺 波 重 重
同 郷 見 郭 太 郎

二、能樂舞囃子

船辨慶

舞 寶 生 九 郎
太 鼓 金 春 惣 一
大 鼓 安 福 春 一
小 鼓 三 須 錦 吾
笛 藤 田 大 五
地 謠 淺 波 重 重
同 郷 見 郭 太 郎

三、箏 獨奏

陽炎の踊り(中能島欣一作曲)

箏 中能島欣一
同 同 同 同 同
地 謠 寶 田 英 雄
同 波 吉 信 和
同 前 田 忠 茂
同 寶 生 英 雄
同 藤 田 大 五
同 淺 波 重 重
同 郷 見 郭 太 郎

四、長 鞍馬山

長 鞍馬山

唄 杵 家 安 彦
同 同 同 同 同
三味線 山 溝 落 村 義 一
同 鈴 田 抄 太 郎
同 鈴 田 抄 太 郎
同(上調子) 杉 本 茂 一

五、箏・尺八二重奏

春の海(宮城道雄作曲)

箏 宮城道雄
尺八 宮城道雄

第二部 洋楽

一、管弦楽

歌劇「魔弾の射手」より序曲

指揮 金子登
管弦楽 東京音楽学校職員生徒

二、四重唱

愛の歌(二台のピアノの爲の圓舞曲)
作品五二

ソプラノ 大熊文子
アルト 横田文子
テノール 柴田陸
バス 中山梯一

伴奏
第一ピアノ 朝倉靖子
第二ピアノ 谷川加壽子

三、ピアノ獨奏

(イ) 月光

亞麻色の髪的少女

雨の庭

(ロ) 圓舞曲 作品六四の一(小犬)

練習曲 作品一〇の三(別れ)

練習曲 作品一〇の五(黒鍵)

四、ピアノ合唱 管弦楽

幻想曲 作品二〇

ベートーヴェン作曲

ピアノ獨奏 田村宏
指揮 渡邊曉雄
合唱 東京音楽学校生徒
管弦楽 東京音楽学校職員生徒

解説

第一部 邦楽

一、高砂

〔内容〕 高砂と住吉の松の精が老夫婦の姿で現われ、九州の阿蘇の宮から来た神官と相生の松のいわれに就ての間答をするのが前段で、住吉の明神が現われて歌いつゝ舞う神樂の舞が後段となつて居る。

君民の和、夫婦の愛と長命、人と自然の融合を謳歌した、愛と平和の讚美歌であつて、日本音楽中最も芽出度い曲の一つとして、結婚式や祝宴にその一部が謡われ此の曲の名を有名にした。

〔能樂に於ける位置〕 能樂は普通五種類に分類され、一日の演能の順序により、一番目物、二番目物、三番目物、四番目物、五番目物と呼ばれるが、高砂は此の一番目物に屬する、又此の曲は武士や狂女を主人公とせず、神を主人公とするから、「神能」とも言い、普通はシテに對する添物の役でしかないワキの役が重要視されるから「脇能」とも言う。

〔演出形式〕 今日「舞囃子」と言う形式で演出されるが、「舞囃子」とは、能の省略形式の一つで、一曲の中の定められたる部分をシテが舞い、それに謡と囃子とを附けるものである、この場合、面、装束、作物などは用いない、今日演じられるのは(後シテ)の部分即ち住吉明神の舞う神樂の部分である。

二、船辨慶

〔内容〕 義經が靜御前を同伴し都を落ちて大物の浦まで来たが、辨慶に諫められて靜をこゝから歸えすことになり、靜が悲しみの中に名残の舞を舞う迄が前段で、後段は壇の浦で義經に滅ぼされた平知盛の幽霊が現わ

れて辨慶に祈り伏せられる勇壯で華やかな場面である。前段の靜的に對する後段の動的、前ジテの美しき女性に配するに後ジテの物凄き幽靈、この對照の妙が此の曲を名曲の一つにして居る大きな原因であらう。

〔能樂に於ける位置〕 この曲は一日の演能の最後に演じられる「五番目物」に屬する。この「五番目物」には「鬼物」「祝言物」又は華やかな動きある物が含まれるが、船辨慶はその最後の意味に於て、即ち知盛の幽靈と辨慶との劇しい争いの場面を持つが故に入れられる。然し幽靈が出て來る曲ではあるが、惡靈退散と言う意味で、目出度い曲とされ、春の能初めなどにも演じられる。

〔演出形式〕 この曲も「舞囃子」の形式で演ずるが、同じく「後ジテ」の部分即ち知盛の幽靈が辨慶に祈り伏せられる部分に當る、この所は、謡曲の「ツヨ吟」と言う謡い方で謡われる極めて強く勇ましい部分で、ツヨ吟の特色が最も良く味わられる曲の一つである。尚、舞囃子では扇以外の小道具を持たずに舞うが、この曲では長刀を持って舞うことが普通である。

三、陽炎の踊り

〔内容〕 春の野邊に立つ陽炎の印象を幻想曲風に表現した純器樂。

〔箏曲に於ける位置〕 從來の箏曲の型を破つた新傾向のもの。この作曲者の作品には古典的な手法を守つたものもあるが、この曲は最も新しい傾向を狙つた作品に屬する。作曲者の傑作の一つである。

四、鞍馬山

〔内容〕 鞍馬山で牛若丸が天狗と立廻りを演ずる勇壯な場面。牛若丸の述懐を中心としてある。

〔長唄に於ける位置〕 この曲は「大薩摩もの」と言う長唄の中では特殊な部類に屬する。「大薩摩」とは元來淨瑠璃の一種であつたが、後に長唄の中に寄寓することになった。勇壯な内容と表現とがその特色である。

〔演出形式〕 この曲は安政三年江戸市村座で興行された歌舞伎の所作事の一場面として演奏された謂はゞ伴奏音樂であつた。本來はこの前に常磐

津の「宗清」があり、牛若丸が此の宗清の情で命を助けられたことを夢に見て居る所から此の大薩摩の「鞍馬山」は始まる。

三味線には上調子と言う調子の高い三味線を加え、賑かに演奏される。

五、春の海

〔内容〕 昭和五年の勅題「海邊の巖」に因んで作曲されたもので、「春の海ひねもすのたりのたり哉」の情趣を骨とし、船端を打つ波の音、櫓拍子、海鳥の啼聲などを織り混ぜた描寫音樂。

〔箏曲における位置〕 この曲は新日本音樂の代表曲であつて、「箏のため」の音樂から「音樂のため」の音樂に發展した曲の一つで、之は最早や「箏曲」のワクに入れて考へるべき曲ではない、作曲者には古典的手法を守つた曲にも傑作はあり、又箏のための協奏曲などの大曲にも名作はあるが、小品ながら此の曲が最もユニークな作風を示した傑作中の傑作である。

〔演出形式〕 この曲は箏と尺八との二重奏として作曲され、今日も此の形式で演奏されるが、フランスの女流提琴家シュメー女史が尺八の部をヴァイオリンに編曲してからは、ヴァイオリンと箏の二重奏として屢々演じられ、外人の間にも好評を得て居る。曲は三部分形式で作曲されて居る。

第二部 洋樂

一、魔彈の射手序曲 ウェーバー（一七八六—一八二六）

Overture, Freischütz K. M. Weber (1786—1826)

ウェーバーはロマンティック歌劇の創始者である、此のオペラは最もロマンティックなもので一八二一年六月一八日にベルリンで初演されたもので脚本と音樂が獨乙國民的のもので脚本は Friedrich Kind フリードリッヒ・キントの作で、秋の満月の夜獵界の魔王ザーミエルの名を呼んで彈丸を射るときは其六つは必ず標的に命中し第七弾は魔王の思ふ所へ飛ぶと云傳説によつて作られたものである。オペラの序曲中もつとも有名なもので、ホ

ルンの二重奏で獨乙の民謡的の旋律を奏し實にロマンティックな憧憬に満ちたものでこの音色によつて森林の景を想起させる、實に美しいメロディである、突然、弦楽器のトレモロが現はれティンパニとバスのピチカットは森の平和を破り魔界の物語を暗示する。有名な樂劇の作者ワグナーは彼の死の床にあつてもう一度この序曲を自分で指揮したいと云つたと云ふ事が傳はつてゐる、序曲中の傑作である。

二、愛の歌 ブラームス(一八三二—一八九七)

Liebeslieder. Walzer op. 52 愛の歌(圓舞曲) J. Brahms (1833—1897)

ブラームスは古典的の典雅な器樂の特徴を發揮した新ロマン派の作曲者の一人である。彼はロマンティック時代にあつて好んで過去の時代の形式例へば古い教會旋法に基く旋律を書き古樂復興の音樂家とも云へる。音色のごときより沈靜、眞面目で感情の表出はむしろ控目であつて彼の音樂を理解するのはなかなか難しい。彼は多くの器樂も書いたが聲樂の諸作も非常に多い、この「愛の歌」と云ふものを二つ作つてゐる。二つ共に Daumer ダウメルの Polydora ポリドーラと云ふ詩より言葉をとつたもので四手のピアノを伴奏とするワルツの曲である。一八六九年七月にバーデン・バーデンで完成されたもので初演の時はピアノは Clara Schumann クララ・シューマンと Hermann Levi ヘルマン・レヴィによつて奏せられた。一八七〇年一月にはクララ・シューマンと作曲者自身がピアノを弾いた。全曲は十八曲から成り立つてゐるが此度演奏されるのは次の十一曲である。

1. Rede, Mädchen Soprano, Alt, Tenor, Bass.
2. Am Gesteine rauscht S. A. T. B.
3. O die Frauen T. B.
7. Wohl schön bewandt war es S. A.
9. Am Donaustrande S. A. T. B.
10. O wie sanft die Quelle sich S. A. T. B.
11. Nein es ist nicht auszukommen S. A. T. B.
13. Vögelein durchrauscht die Luft S. A.
15. Nachtigall, sie singt so schön S. A. T. B.

17. Nicht wandle mein Licht T.
18. Es bebet das Gesträuche S. A. T. B.

三、ピアノ獨奏

Piano Solo

- (1) Clair de Lune (月光) Debussy (1862—1918)

La fille aux cheveux de lin (亞麻色の髪の少女) Debussy

Jardin sous la pluie (雨の庭) Debussy

ドビュッシーはフランス音樂に於ける印象派の始祖で彼は象徴派の詩人マラルメのサロンで印象派の画家モネー等と交りその影響をうけ音樂に於ける印象派の運動を起した人である。即ち瞬間的の感覺的印象を音で再現するもので茫漠たる夢幻的神秘的の氣分の表出を好んで作曲した。

「月光」は Suite Bergamasque (ベルガマスク組曲) の中の一曲で月光の印象である。「亞麻色の髪の少女」は Douze Préludes (十二の前奏曲) の第一卷の中にある曲である。「雨の庭」は Estampes (版画) の中の一曲で雨の降る花園を寫し出したものであらう。

(2) Waltz op. 64 No. 3 Chopin (1810—1849)

Etude op. 10 No. 3 Chopin

Etude op. 10 No. 5 Chopin

ショパンはピアノの詩人と言はれる人でピアノの歴史に一新時期を劃した。彼の作曲は複雑豊麗な音色をもつて居る。彼れ以前のピアノ音樂者が利用しなかつたペダルを縦横に使ひ、彼獨特の微妙な氣分を出す事に成功した。本年は彼の死後百年にあたる。

「圓舞曲」は一八四七年の作で、小犬の圓舞曲と呼ばれて居るものでショパンの愛人ジョルヂサンドの飼犬が自分の尻尾に戯れてぐるぐる廻る所を即興的に作曲したものと云ふ。

「練習曲」ショパンの練習曲と云ふのは單なる技術的の練習曲でなく演奏會のために書かれたもので、内容はまったく藝術的のものである、彼は練習曲を二十七曲作つてゐる。作品十の十二曲と作品二十五の十二曲及他

に番號なしのものが三曲ある。この曲は實に美しい旋律をもつてゐる、シヨパン自身は生れてからこんな美しい旋律を書いたことはないと言つてゐたと言ふ事である。

「練習曲」この曲は所謂「黒鍵の練習曲」として知られてゐるもので右手は殆んど大部分黒鍵を奏してゐる、勿論白鍵が全然用ひられぬと云ふのではない。シヨパンの手紙の中に「この曲は黒鍵のために書かれてゐると云ふ事を知らないものにとつては少しも面白くない曲です」と書かれてゐるくらいで特に曲そのものが傑作であるとは云へないであらふ。

四、幻想曲 ベートーヴェン（一七七〇—一八二七）

Chor Phantasie op. 80 (合唱幻想曲) Beethoven (1770—1827)

一八〇八年、ベートーヴェン三十八歳の時の作で最も油の乗つた時代で第五、第六の交響曲の作られたのもこの時代である。一八〇八年十二月十二日にウインで初演され指揮はザイフリートでピアノはベートーヴェン自身演奏したものである。しかし曲の一番最初のピアノ獨奏による導入部は一八〇九年に附加されたものと思はれる。この曲はオーケストラの曲に合唱を添へた点で第九交響曲と似てゐると云へる。ピアノは全曲を通じ活潑に使用されてゐるが音楽的には協奏曲とはまったく異り添物である。形式はまったく自由な即興的傾向をもつた幻想曲であるが一種の Variation 變奏曲である。

第一節 Adagio。ピアノの獨奏で即興的の導入でピアノは短調の和音に初まりまったく自由な形をとつてゐる。

第二節 Finale この部分はオーケストラとピアノの主題と變奏である、この部分に「終曲」と云ふ名をつけてゐる意味はよくわからない。バスのスタカートで奏するモティーフに續いてピアノに旋律は移りこの二つの動機は他の樂器に段々と移り變つて進行し第三節に出る合唱の主題がまずピアノの獨奏によつて提示されホルンがこれに伴つて進行する途中ピアノは自由なカデンツを奏する。次で變奏の部に入る「第一變奏」はフルートによつて奏せられ次にオーボエの獨奏で「第二變奏」が奏せられ「第三變奏」はクラリネット、ファゴットとピアノの三重奏である、「第四變

奏」は弦樂の四重奏で「第五變奏」は管弦の總奏となりピアノは愛らしいコーダを奏し一段落となる、「第六變奏」はオーケストラとピアノの對立に作曲され「第七變奏」はピアノは裝飾音的の變奏である。「第八變奏」は勇壯な行進曲となる。

第三節 Allegretto, ma non troppo。ピアノのアルペジオに續いてソプラノの獨唱とアルトの獨唱が出てテノール、バスが順次に加はり合唱の主題を繰り返へす、ピアノは美しい伴奏をなす、曲は全員の合唱とオーケストラの總奏で最後のクライマックスに達する。

この合唱曲の歌詞は誰の作か不明であるが Kriehner クツフナーであるとも Treitschke トライイチュケの作とも考へられてゐる。人生の平和の樂しさを唱つたものである。

昭和二十四年四月二日 研究科修了演奏會

昭和二十四年四月二日（土曜日）午後一時開演

於本校音樂堂

研究科修了演奏曲目

東京音樂學校

- 一、メゾソプラノ獨唱……………池田弘子
- 歌劇「歸れる兒」より 母リアの詠唱……………ドビュッシイ作
- 二、テノール獨唱……………岩崎成章
- イ、歌劇「ラ・ボエーム」より 冷たき手……………プッチーニ作
- ロ、夢……………トステイー作
- 三、ピアノ獨奏……………森繁子
- ソナタ 作品一一一番……………ベートーヴェン作
- 四、ソプラノ獨唱……………柴田喜代子

歌劇「ラムメルムーアのルチア」より
狂亂の場 ドニゼッティ作

五、作品発表……………依田昌忠

第一樂章 アレグロ

第二樂章 ラルゴ

第三樂章 アレグロ ヴィヴァーチェ

演奏者 第一ヴァイオリン 井上延子
第二ヴァイオリン 田中榮一
ヴィオラ 小出妙子
セロ 堀江泰

(休憩 一〇分)

六、ソプラノ獨唱……………矢野ヒロ子

イ、歌劇「ファイガロの結婚」より モーツァルト作
伯爵夫人の詠唱

ロ、小夜曲 ブラームス作

七、ピアノ獨奏……………大江輝子

謝肉祭 シューマン作

八、メゾソプラノ獨唱……………松内和子

イ、「子供の魔笛」より マーラー作
美しきトランペットの鳴るところ

ロ、「第二交響曲」より 原光 //

九、チェロ獨奏……………廣田幸夫

ロココ風の主題と七つの變奏曲 チャイコフスキー作

一〇、作品発表……………芥川也寸志

ピアノ獨奏曲「踊り」 演奏者 田村宏

(休憩 一〇分)

一一、ソプラノ獨唱……………池田綾子

イ、希 望 グリーク作

ロ、歌劇「假面舞踏會」より ヴェルディ作
アメリカの詠唱

一二、フルート獨奏……………川崎優

シャンソン・ダモール ドップラー作
(ヴァリエーション) 作品二〇番

一三、ソプラノ獨唱……………荒牧規子

イ、鳴れ鳴れパンデロー エンゼン作
ロ、森のさゝやき //

一四、ピアノ獨奏……………加藤るり子

ソナタ「作品」一一〇番 ベートーヴェン作

一五、作品発表……………奥村完一

ピアノ獨奏曲 ソナタ 演奏者 菅原 完一
第一樂章 アレグロ ノントロツポ

第二樂章 ペザンテ

第三樂章 アレグロ アッサイ

昭和二十五年三月二十七日～二十九日 卒業演奏會

昭和二十五年三月

第一日 二十七日(月)午後一時 邦樂科
第二日 二十八日(火)午後一時 管樂科・聲樂科・弦樂科
第三日 二十九日(水)午後一時 ピアノ科

於 東京藝術大學音樂學部奏樂堂
卒業演奏會曲目(昭和二十四年度)

東京藝術大學東京音樂學校

第一日 三月二十七日(月) 午後一時

邦楽科

一、能楽

シテ 本科卒業 野村太良
観世流 羽衣 ワキ 野島 信 笛 藤田大五郎
小鼓 三須錦吾
大鼓 安福春雄
太鼓 金春惣一

二、箏曲

生田流 春の曲 箏(替手) 本科卒業 土橋 明
同(本手) 同 石綿範子

三、能楽

シテ 本科卒業 佐野 萌
寶生流 狸々 ワキ 野島 信 笛 藤田大五郎
小鼓 三須錦吾
大鼓 安福春雄
太鼓 金春惣一

四、長唄

胡蝶 唄 本科卒業 富尾 瑠里
同 研究生 芳賀 春子
三味線 本科卒業 山崎みどり
同 研究生 田島 佳子

五、箏曲

山田流 白の聲 箏 本科卒業 小山富美子
同 在校生 小室 智江
三絃 研究生 小山 節子

第二日 三月二十八日(火) 午後一時

管楽科

一、オーボエ獨奏

ヘンデル作・コンチエルト グロツソ 本科卒業 富山 詮
二、クラリネット獨奏
モツアルト作・コンチエルト(イ長調) 同 大森 勇

二、クラリネット獨奏

モツアルト作・コンチエルト(イ長調)
第二樂章 アダヂオ
第三樂章 ロンド アレグロ 同 西川 隆

三、ファゴット獨奏

モツアルト作・コンチエルト(變ロ長調)
第一樂章 アレグロ
第三樂章 ロンド 同 瀧澤 祐次

四、トロンボーン獨奏

山本正人作・コンチエルトステユツク 同
一、テノール獨唱 本科卒業 浦山 弘三
プチニ作・オペラ「トスカ」より 星は輝く

二、バリトン獨唱

プラームス作・五月の夜 同 水谷 堅
三、ソプラノ獨唱 同 池谷 寛子
プチニ作・オペラ「バタフライ」より ある晴れた日に

四、ソプラノ獨唱

ヴォルフ作・郷愁 師範科卒業 川口 絹代
私の卷毛のかげに
私はペンナに愛人がある

五、ソプラノ獨唱

本科卒業 小岩井 幸

ヴェルディ作・オペラ「オテロ」より——柳の歌

アヴェマリア

六、メツオ・ソプラノ獨唱

同 佐川昭子

マーラー作・憶い出

春の朝

七、ソプラノ獨唱

同 樋本 榮

シューベルト作・ズライカの第一の歌

水の上にて歌える

八、ソプラノ獨唱

同 山根美彌子

ヴェルディ作・オペラ「トラヴィアータ」より その人は彼か

弦 樂 科

一、ヴァイオリン獨奏

本科卒業 川田 敦子

ラロ作・サンホニー エスパニヨル作品二一

第一樂章 アレグロ

第四樂章 アンダンテ

二、ヴァイオリン獨奏

同 島 根 育

ウイニアウスキー作・コンチエルト(ニ短調) 第二番作品二二

第一樂章 アレグロ モデラート

第二樂章 ロマンズ

三、ヴァイオリン獨奏

同 武 笠 恭 子

ブルツフ作・コンチエルト(ニ短調) 第二番

第一樂章 アダチオ マノン トロツポ

四、ヴァイオリン獨奏

同 山 崎 明 子

メンデルスゾーン・コンチエルト(ホ短調) 作品六四

第一樂章 アレグロ モルト アパシヨナータ

五、セ ロ 獨 奏

同 上 村 正 雄

ラロ作・コンチエルト(ニ短調)

第二樂章 インテルメツオ アンダンテイノ コン モト

アレグロ プレスト

第三樂章 イントロデュジオ ネアンダンテ アレグロ

ヴァイヴァチエ

第三 日 三月二十九日(水)午後一時

ピ ア ノ 科

一、フリーデマン・バツハ作・コンチエルトフルディオルゲル

本科卒業 上 代 知 夫

二、シヨパン作・スケルツオ 第三番 作品三九

同 高 木 幸 三

三、サン・サーンス作・エチュード 第六番

同 浮 島 朝 子

四、フランク作・プレリユード コーラルとフューグ

同 右 近 たい 子

五、スクリヤビン作・ソナタ 作品二三

同 大 堀 洋 子

六、シヨパン作・アンダンテスピ(ア)ナートとグラランドポロネーズ

ブリヤント 同 金 澤 桂 子

七、バラキレフ作・イスラメイ

同 西 宮 桂 子

八、ブラームス作・パガニーニの主題による變奏曲 作品三五の一と二

同 荻 原 智 子

東京音楽学校卒業演奏会

邦楽と管楽器を除いて全部聴いた、技術的に去年より若干落ちる、それよりも芸術家としての芽生えを感じさせる生徒が皆無に近い、学校教育と

いうものが技術の訓練に終始することは、ある意味では当然のことではあるが、少くとも音楽理論、技術的側面だけでも正しく教えられているとは信じ難い、音楽では川口さんと小岩井さんが抜んでいて、その他では種本さんが特に敏感なリズム感に特色を見せた程度、絃楽では山崎さん、川田さんが良い素質を見せたが十分に伸び切れぬのは学校の責任である、ピアノでは大堀さん、西宮さん、荻原さんがレヴェルに達していたが、西宮さんが音楽的に伸びるのではないだろうか(T)―廿八、九日 芸大奏樂堂

(『毎日新聞』昭和二十五年三月三十一日)

昭和二十五年九月二十三日、二十四日 演奏旅行(静岡―吉原)

管弦樂と大合唱

東京藝術大學音樂學部

東京音樂學校

指揮 金子 登

九月二十三日 午後二時開演

於 静岡市公會堂

(創立廿五週年記念)

主催 静岡女子商業高等學校同窓會
 静岡女子商業高等學校
 後援 静岡女子商業高等學校PTA
 静岡市教育研究所

- 曲目
1. 管 弦 樂 曲 目
 - 藝術大學音樂學部
 - 東京音樂學校管弦樂團
 2. 合 唱
 - 大學祝典序曲……………ブラームス
 - 藝術大學音樂學部合唱團
 - 東京音樂學校合唱團

ジプシーの歌……………ブラームス

1. おゝジプシーよ
2. 浪だつりマ
3. 授かつた戀人
4. 神よ知る
5. を ど り
6. 三つの眞紅なばら
7. ち ぎ り
8. 私 の 明 星
9. 夕 雲

3. ピアノ獨奏

坪 田 昭 三

イ、エチユード 作品一〇ノ四 ショパン

ロ、エチユード 作品二五ノ六

ハ、水の戯れ……………ラベル

ニ、エスパリーナ……………シヤプリエ

4. 交 響 曲

東京藝術大學音樂學部

第五「運命」……………ベートーヴェン

元氣を以て急速に

少々早やめな併歩調

急速に(スケルツォ形式)

5. 合 唱 (管弦樂伴奏)

東京藝術大學音樂學部併管弦樂團

イ、流浪の民……………シューマン

ロ、ハレルヤ……………ヘンデル

(原資料横組)

東京藝術大學

東京音楽學校

管絃樂・合唱 大演奏會

(出演 職員生徒一三〇名)

日時 昭和二十五年九月二十四日(日) 午後二時(學生)
同 六時(一般)

場所 吉原市公會堂

[曲目は二十三日と同じ。]

主催	縣立吉原高等學校同窓會
後援	吉原市
同	富士地方事務所
同	同 教育事務所
同	富士ニユース社

第一 ヴァイオリン 静岡出張演奏旅行

フリユート 管絃樂部

兎東 渡邊 川田 田中
伊達 井上 島根 河村

山口 宇野 長谷川
オーボエ

第二 ヴァイオリン

岩崎 竹内 信清 岡田

クラリネット

宮崎 坂本 黒田 平尾

北爪 大森

ヴァイオラ

フアゴット

井上 安藤 東儀

中田 西川 三原

吉江 赤星 王

トランペット

セロ

中山 持丸 山本

小澤 堀江 宮島

ホルン

廣田 堀内 上村

谷中 秋葉 奥 二俣

バス

トロンボーン

今村 窪田 丹羽 寺田

山本 大石 土橋 長濱

打楽器	今村 大橋	ステージ係	吉江 大橋 長濱
ピアノ	坪田	樂譜係	竹内 坂本
指揮	金子	宿舍教官	
樂器係	石川	男子	山本
演奏係	田中 黒崎 東儀	女子	渡邊 井上(明)

☆日程

○九月廿三日(土)

○六、〇〇 東京驛(乗車口)集合 輸送係
○六、一〇 " " 全員

○六、二〇 乗車

○七、〇〇 發車(島田行)

一、三六 静岡着

一四、〇〇 演奏會(學生)

一八、〇〇 " (一般)

— 静岡宿泊 —

○九月廿四日(日)

一四、〇〇 演奏會(學生)

一八、〇〇 " (一般)

— 吉原宿泊 —

○九月廿五日(月)

○九、〇五 鈴木 發

二二、二五 東京 着

管絃樂部員及びコーラス全員は山本がお世話致します。

細部については其の都度お知らせ致します。

◎注 二十三日晝食携行のこと

インペク 山本

[手書き]

昭和二十五年十月八日 演奏旅行(新潟)

縣立新潟中央高等學校創立五十周年記念
東京藝術大学音楽学部 大演奏會
東京音楽学校

昭和二十五年十月八日(日)午後一時・午後六時

會場 新潟市公會堂
主催 新潟中央高等學校
全 母 校 會
後援 新潟日報社

曲目

1、混聲合唱

- イ、アヴェマリア……………アルカデルト
 - ロ、アヴェベルムコル・ヘス……………モーツァルト
 - ハ、歌劇「カバレリヤルスチカーナ」より……………マスカーニ
- 2、ソプラノ獨唱 教授 淺野千鶴子
- イ、日本歌曲
 - 思 出……………越谷達之助
 - 口 笛……………〃
 - からたちの花……………山田耕筰
 - ロ、フランス十八世紀民謡
 - しだになりたい
 - ジャンヌの戀の歌をうたひませう
 - 私は信じない
 - けちん坊のフィリス
 - 春よ來い

- 3、ヴァイオリン二重奏 第一ヴァイオリン 教授 井上武夫
第二ヴァイオリン 教授 東龍夫
- 協奏曲 二短調 全樂章……………バツハ

4、ピアノ獨奏

- イ、練習曲 作品二五の一……………シヨパン
 - ロ、夜想曲 ハ短調……………シヨパン
 - ハ、交互三度……………ドウビユツシイ
 - ニ、前奏曲 ト短調……………ラハマニノフ
- 5、ソプラノ獨唱 教授 淺野千鶴子
- イ、歌劇「オセロ」より アヴェマリア……………ヴェルディ
 - ロ、歌劇「セビラの理髮師」より 仄かなる聲……………ロッシーニ

6、混聲合唱

- イ、流浪の民……………シューマン
- ロ、ジプシーの歌……………ブラームス

7、絃樂四重奏

- 第一ヴァイオリン 教授 東龍夫
- 第二ヴァイオリン 教授 中榮一
- ヴィオラ 教授 井上武夫
- セロ 教授 小澤弘

8、ソプラノ獨唱

- イ、死と少女變奏曲……………シューベルト
 - ロ、フーガ作品五九の第三番 終樂章……………ベートーヴェン
- 教授 淺野千鶴子

9、セロ獨奏

- 月 光……………フォーレ
 - 讚 歌……………フォーレ
 - 夢を追ひて……………フォーレ
 - 夕 暮……………フォーレ
 - 秋……………フォーレ
- 教授 小澤弘
- 10、混聲合唱
- ハンガリアン狂詩曲……………ポツパー

イ、オラトリオ「四季」より 來よ春……ハイドン
ロ、オラトリオ「メサイア」より ハレルヤ……ヘンデル

合唱 東京藝術大學音樂學部及
東京音樂學校生徒
合唱指揮 教授 城多 又兵衛
〔原資料横組〕

昭和二十五年十月二十一日 演奏旅行(上田)

松尾高校創立 大演奏會
五十周年記念祝賀
十月二十一日(土曜日) 午後二時ヨリ
午後七時ヨリ
於 上田市民館

管絃樂 東京藝術大學音樂學部職員生徒

指揮 金子 登

主催 上田松尾高等學校
後援 松尾高校創立
五十周年記念 協賛會
上田市民館

プログラム

- 1 大學祝典序曲 作品八〇……………ブラームス
- 2 第五交響曲「運命」 作品六七、ハ短調……………ベートーヴェン
第一樂章 アレグロ、コン、プリオ(ハ短調)
第二樂章 アンダンテ(變イ長調)
第三樂章 アレグロ(ハ短調)
第四樂章 アレグロ(ハ長調)
……………休 憩……………
- 3 ソプラノ獨唱 毛利順子

A 1、鐘が鳴ります

山田耕筰

2、カヤの木山

3、カラタチの花

B 十八世紀のフランス民謡

1、私は齒朶になりたい

2、ジヤンの愛を歌おう

3、やさしいよりもけらん坊のフィリス

C 歌劇「オテロ」より 柳の歌

4、ハンガリア舞曲第五、第六

5、碧きドナウの流れ

ヴェルディ
ブラームス
ヨハン・シュトラウス
〔原資料横組〕

日程

十月二十日(金)

二時三〇分 上野驛集合

二時五〇分 上野發(新潟米原行)

十月二十一日(土)

八時五九分 上田着

朝食 (公民館) 食后自由行動

晝食 (〃)

一三時 演奏(小・中學生の爲) 一三時三〇分まで

一四時~一六時 第一演奏

一七時三〇分 夕食

一八時三〇分 第二演奏

演奏終了后バスにて別所温泉に行き三ヶ所に分散宿泊す

宿泊旅館

玉屋(男生徒) 教官二名生徒一九名

柏屋(女子、教官を含む) 一五名

花屋(職員) 二四名

十月二十二日(日) 午前中自由行動

晝食 一時 旅館にて

一時四〇分 上田驛集合

一二時〇六分 // 發車

一七時〇六分 上野着

―注意―

二十一日(土)の朝食は各自持参のこと。

二五・十・一六 インペク山本

十月二十日(金) 上田出張管絃樂部員

○第一ヴァイオリン

兔東、渡邊、山田、川田、田中、伊達、井上、島根、山崎、河村

○第二ヴァイオリン

高角、竹内、黒崎、岡田、岩田、相澤、宮崎、坂本、信清、平尾

○ヴィオラ

井上、安藤、東儀、吉江、赤星、王

○セロ

小澤、堀江、宮島、野々山、廣田、堀内、上村

○バス

今村、窪田 中山、持丸、山本 宇野、長谷川

○ホルン

(谷中)、秋葉、(千葉)、二俣 富山、梅原

○トロンボーン

山本、大石、土橋、長濱 北爪、新井 今村、大橋

○ファゴット

中田、三原 金子 揮

○樂器係 石川 ○ソプラノ 毛利 ○音楽部長 加藤

生徒全員、樂器輸送 ステージ 樂譜係を願います。出張中山本がお
世話致します。()
〔手書きの横書き〕

昭和二十五年十一月十二日～十四日 演奏旅行(熊本―鹿児島―
宮崎)

東京上野藝術大學 大演奏會

日時 昭和二十五年十一月十二日(日) 午後三時 午後七時

場所 熊本市公會堂ホール

主催 熊本市

後援 熊本縣教育委員會 熊本市文化會

熊本日日新聞社 熊本音樂教育連盟

熊本市 婦人會 連絡協議會 同聲會熊本支部

PROGRAM

(1) Orchestra Overture "CORIOLAN" op. 62 (Beethoven)

(2) Chorus "GIPSY SONG" op. 103 (Brahms)

(3) Chorus & Orchestra "SYMPHONY No. 9" D minor op. 125 (Beethoven)

1st move. Allegro non troppo un poco Maestoso.

2nd move. Scherzo.

3rd move. Adagio molto e Cantabile.

4th move. Presto (choral)

Conductor N. Kaneko

Solo M. Sibata.

K. Isizu.

Y. Nakano.

J. Mōri.

曲目

(一) 管絃樂 序曲コリオラン (ベートーヴェン)

(二) 合唱 ジプシーの歌 (ブラームス)

合唱と
管絃樂

第九交響曲ニ短調 (ベートーヴェン)

- 第一樂章 速くしかし過ぎぬように、且やや莊嚴に
- 第二樂章 スケルツォ
- 第三樂章 非常におそく且つ歌うように
- 第四樂章 急速に、合唱(歡喜に寄す)

指揮 金子 登
獨唱 柴田 陸
石津 憲一
中野 陽子
毛利 順子

〔原資料横組〕

東京藝術大學音樂學部教授學生大演奏會

(舊東京音樂學校)

昭和二十五年十一月十三日(月) 晝の部 午後二時開場 午後三時開演
 夜の部 午後六時開場 午後七時開演
 於 鹿兒島市 中央公民館

主催 鹿兒島市・南日本新聞社
 鹿兒島縣音樂同好會

後援 鹿兒島縣・鹿兒島縣教育委員會
 夕刊鹿兒島新聞社・鹿兒島放送局

入場料 指定席 ¥三〇〇圓(前賣券¥二五〇圓)
 一般 ¥二〇〇圓(前賣券¥一五〇圓)
 學生 ¥一〇〇圓(前賣券¥八〇圓)

〔鹿兒島では、晝の部で三曲目にメンデルスゾーン作曲「ヴァイオリン協奏曲ホ短調」(全樂章)、ヴァイオリン独奏——伊達良、四曲目にベートーヴェン作曲「第九交響曲ニ短調」(終樂章のみ)が演奏された。夜の部は十二日(熊本)と同じ。〕

ベートーヴェンの大傑作第九シンフォニーが鹿兒島で演奏されることは始めてのことです。これは優れた獨唱者四名と管絃樂と混聲合唱隊がなければ出来ないのです。日本で始めてこの曲が演奏されたのは大正十三年秋上野音樂學校の職員生徒によつてでありました。人こそ違え今回この

學校の約百五十名から成るオーケストラと合唱隊を當市に迎え得たことは又とない鹿兒島の幸だと思ひます。東京に行かなければ聴けないこの大演奏會をできるだけ多くの方に鑑賞して頂きたいと思ひます。尚メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲が晝の部で演奏されますが此も鹿兒島では始めてのことです。

◆前賣券は市内各樂器店鹿兒島縣音樂同好會(柿本寺信用組合内)で發賣します◆

〔原資料横組〕

管絃樂と大合唱

東京藝術大學音樂學部

東京音樂學校

指揮 金子 登

十一月十四日(火) 午後二時開演
 午後六時開演
 於 宮崎縣公會堂

主催 宮崎大學樂友會
 宮崎縣教育委員會

後援 日向日々新聞社
 ユネスコ宮崎協力會

〔曲目は十二日と同じ。〕

〔原資料横組〕

九州出張管絃樂部員

第一ヴァイオリン… 兎達 伊達 (渡邊 高角)
 第二ヴァイオリン… 相澤 竹内 (坂本 信清)
 ヴィオラ… 井上 吉江 (安藤 東儀)
 セロ… 小澤 廣田 (黒沼 宮島)

四	學年	パート	ソプラノ	アルト	テナー	バス	計
鳥居山井脇	隅酒門	石岩	黒緒	河方	内下	津	
		寺(一名)					
名							

コーラス参加者氏名

インパク 山本

出張中山本教官がお世話致します。

バス.....今村
 フリユート.....山口
 オーボエ.....鈴木
 クラリネット.....北爪
 ファゴット.....中田
 トランペット.....中山
 ホルン.....(奥) 秋葉
 トロンボーン.....山本
 打楽器.....大橋
 指揮.....金子
 楽器係.....石川
 音楽學部長.....加藤
 事務長.....片岡
 連絡係.....清水
 獨唱者.....四名
 山本
 大石
 石川
 オケ
 コーラス
 隅山
 寺谷
 梅原
 楽器輸送係

ステージ係.....長谷川他七名
 樂譜係.....竹内 他五名
 樂器係.....持丸 他十四名

窪田
 宇野
 梅原
 大森
 三原
 山本
 秋葉
 大石
 外山
 小杉
 永濱
 二俣
 安藤
 長谷川

計	一 學	二 學	三 本	三 師	四 本	師
二十三名		磯爲福森齊 (五名 藤田田谷部)	白竹 (三名 林内石)	赤伊井河關 (五名 根村上藤坂)	津中向 (三名 田西村)	福山福 (七名 内田田和昭)
(十八名 P1を含む)		石井 (二名 伴奏)	坂柴 (三名 林田)	今象小柴西 (六名 下本竹島田井)		小佐佐丸 (八名 山見藤林)
十七名	山田内堀遊 (七名 菅楠木 陳沼)	小笠原 (三名 長坂林)	世中 (三名 申西川)	今永村 (三名 杉澤井)		
十九名	立津平 (三名 島田川)	宮梅藤 (四名 村井田原)	竹本 (一名)	神小清水 (九名 渡林西 往鈴木 住木浦水 往鈴木 住木浦水 往鈴木 住木浦水)	安木 (二名 下藤)	
77	10 名	13 名	10 名	23 名	5 名	16

〔手書きの横書き〕

昭和二十五年十一月二十六日 演奏旅行(福山)

日時 十一月二十六日(午後六時)

場所 福山K O劇場

文化祭

東京藝術大學音樂學部演奏會

ピアノ 永井進
メソソプラノ 岡部多喜子
管絃樂 廣大管絃樂部

主催 廣大福山分校音樂科
福山音樂協會
福山市
中國新聞福山支社
山陽新聞福山支社
尾道放送局

— プログラム —

I. 管絃樂

大學祝典序曲.....ブラームス

II. メソソプラノ獨唱

- 1. 四月.....トステイ
 - 2. 最後の歌.....トステイ
 - 3. 汚れちまつた悲しみに.....中原中也詩
石渡日出夫曲
 - 4. 君よ知るや南の國「歌劇ミニヨン」より.....トローマ
 - 5. マザーマクリ.....オルコット
- III. ピアノと管絃樂
ピアノ協奏曲第五番「皇帝」.....ベートーヴェン

IV. 管絃樂

交響曲第五番「運命」.....ベートーヴェン

- 第一樂章.....アレグロ
- 第二樂章.....アダージェオ ウンポコモツソ
- 第三樂章.....ロンドアレグロ
- 第四樂章.....アレグロ

指揮者 金子登
ピアノ獨奏 永井進
獨唱 岡部多喜子

管絃樂部員

1st Violin	○伊達龍夫	○井上俊雄	○寺田和久	○中田泰三
○中村達夫	○赤星昭彦	○江口朝彦	○三原泰三	○中山富士雄
○田内文一	○伊藤昭彦	○川崎美代子	○島村國彦	○谷中甚作
○川田久榮	○佐原精男	○梅原正勝	○佐藤榮二	○山本正人
○岩崎吉三	○小澤弘	○野山祐弘	○藤原榮二	○西村康宏
○岡崎富子	○富澤山	○富田敬之	○新井景三	○山本正人
○長崎路子	○宮崎稔幸	○宮崎稔幸	○宮崎稔幸	○山本正人
○田村英子	○深谷比古	○大谷俊也	○折山俊也	○竹内茂
○宮内南	○折山俊也	○大谷俊也	○折山俊也	○竹内茂
○折山俊也	○大谷俊也	○折山俊也	○折山俊也	○竹内茂

2nd Violin 鈴木三雄

Violon-cello 小澤弘

Viola 井上俊雄

Double Bass 寺田和久

Flute 江口朝彦

Oboe 川崎美代子

Clarinnet 梅原正勝

Bassoon 中田泰三

Trumpet 中山富士雄

French Horn 島村國彦

Trombone 谷中甚作

Tuba 山本正人

Kettle-drums 大石清

○印は職員

○今村征男
○小林秀雄
(ピアノ)

【原資料横組】

昭和二十六年三月二十七日～二十九日 卒業演奏会

昭和二十六年三月
 第一日 二十七日(火) 午後一時 邦楽科・声楽科
 第二日 二十八日(水) 午後一時 作曲科・弦楽科
 第三日 二十九日(木) 午後一時 管楽科・ピアノ科

於 東京芸術大学音楽学部奏樂堂

卒業演奏會曲目(昭和二十五年度)

東京芸術大学東京音楽学校

第一日 三月二十七日(火) 午後一時

邦楽科
一、能楽

シテ 本科卒業 藤波重満

觀世流 經 政

ワキ 野島 信

大鼓 安福 春雄
小鼓 田中 允

笛 一噌 幸政

後見 藤波重和
島沢啓次

地謠 野村 太良
木原 康夫
郷 郭 太郎

浅見 重弘
浅見 重信
武田 四郎

二、箏

八重衣 曲

箏 本科卒業 櫻井 京子

三絃 大橋 康子

同 上木 康江

三、箏

紫式部 曲

箏 本科卒業 小室 智江

同(低音) 野口 ふみ子

四、長唄

石橋

同 菊岡 米子

同 芳賀 春子

同 鈴木 輝子

三味線 本科卒業 竹村 由紀子

同 山崎 みどり

上調子 田島 佳子

五、箏 曲

春の海

箏 本科卒業 大西 道子

ヴァイオリン 渡辺 文江

第二日 三月廿八日(水) 午後一時

作曲科

一、フルートとピアノの為のファンタジー 本科卒業 大橋 博

(フルート 長谷川博・ピアノ 池本純子)

二、ピアノソナタ 同 柳原 徳藏

(ピアノ 及能春江)

アレグレット・アダチオ ソステヌート・アレグロ モルト

三、木管とピアノの為の五重奏曲 外国人特 別入学生 李 顯 雄

(第一フルート 山口平八郎・第二フルート 宇野浩二・クラリ

ネット 北爪利世・ファゴット 中田一次・ピアノ 伊達純)

アレグレット

聲楽科

一、バリトン独唱 本科卒業 安藤 郁夫

(イ) 影法師 シューベルト

- 二、ソプラノ独唱
歌劇「トロバトーレ」より 静けき夜
外国人特 別入学生 王 子 薇
ヴェルデイ
- 三、テノール独唱
(イ) 五月の夜
本科卒業 鈴木 達也
ブラームス
(ロ) 歌劇「トスカ」より 星は光りぬ
同 プッチーニ
津村トシ子
- 四、ソプラノ独唱
歌劇「アイダ」より 勝ちて還れ
外国人特 別入学生 ヴエルデイ
吳 山 京 世
ビ ゼ
- 五、テノール独唱
歌劇「カルメン」より 花の歌
同 向 田 壽 子
デュパルク
デュパルク
- 六、ソプラノ独唱
(イ) 旅への誘ひ
(ロ) フイデイレ
—— 休 憩 ——
- 七、ソプラノ独唱
(イ) 響け我がパンデーロ
(ロ) そよ吹く風
同 山 越 ミネ子
イエエンゼン
イエエンゼン
- 八、テノール独唱
(イ) そは眞実にあらず
(ロ) シルヴィア姫とは誰ぞ
外国人特 別入学生 ダイラミ・ハッサン
マツテイ
シューベルト
- 九、ソプラノ独唱
歌劇「ファウスト」より
(イ) トウレ王の歌
(ロ) 寶石の歌
本科卒業 平井美佐子
グーノ
- 十、ソプラノ独唱
歌劇「フライシユッツ」より アガーテの詠唱
同 中 西 康 子
ウエーバー

- 十一、バリトン独唱
(イ) アナクレオンの墓
(ロ) そを思へかし
(ハ) 音楽学生
同 木 下 武 久
ヴ オ ル フ
ヴ オ ル フ
中 村 浩 子
ヴェルデイ
- 十二、メツオソプラノ独唱
歌劇「ドン・カルロ」より 酷き運命よ
同 中 村 浩 子
ヴェルデイ
- 第三日 三月廿九日(木) 午後一時
- 管 樂 科
一、フルート独奏
協奏曲 ト長調(ケツヘル三一三)
本科卒業 宇 野 浩 二
アレグロ マエストロゾ・ロンド テンポ デイメヌエツト
モーツアルト
- 二、フルート独奏
協奏曲
同 長 谷 川 博
アレグロ・アレグロ スケルツァンド
イ ベ ー ル
- 弦 樂 科
一、ヴァイオリン独奏
コンサート ソナタ
本科卒業 信 清 和 子
ヴェラチーニ
- 二、ヴァイオリン独奏
詩 曲
同 吉 江 澄 夫
- 三、ヴァイオリン独奏
詩 曲
同 河 村 博 子
ク ー ル
- 四、ヴァイオリン独奏
協奏曲 第五番 イ短調 作品三七
同 田 中 榮 一
シ ヨ ー ソ ン
ヴ ユ ー タ ン
- ピ ア ノ 科

- 一、ピアノ独奏 本科卒業 鈴木貴志子
ヘンデルの主題による変奏曲と通走曲 作品二四 ブラームス
- 二、ピアノ独奏 同 小柳芳子
エロイカの主題による十五の変奏曲と通走曲 作品三五
- 三、ピアノ独奏 同 井上二葉
譚詩曲 ヘ短調 作品五二 シヨパン
- 四、ピアノ独奏 同 今堀美智子
エロイカの主題による十五の変奏曲と通走曲 作品三五
- 五、ピアノ独奏 同 池本純子
奏鳴曲 作品一〇一 全樂章 ベートーヴェン

東京音楽學校卒業演奏

園部 三郎

今年はまだ藝術大學音樂學部の卒業演奏會ではなくて、舊來の専門學校としての東京音楽學校のそれである。將來の記録のためにくわしく書くとして、東京藝術大學東京音楽學校卒業演奏會というまことにむずかしいことになる。

今年からは、優秀な學生だけがえらばれるという從來の慣習をやぶつて、全卒業生が晴れのステージにたつことになったのである。

學校としてはそれが公平であり、また學生にとつてもはげみになつて大いによいことだとおもうが、その結果、人にきかせるための音樂會としての内容はとうてい充實できないということにもなる。文字どおり玉石ころころであつて、きく方には大いに忍耐がいるわけである。今後もこういう方針で、おこなわれるのならば、いつそのこと全校のお祝い演奏會とし

て、一人一人が競技會的に熱中しないで、力^{リキ}相應の曲をひいてたのしいふんいきをつくつてほしいものである。力にあまる大曲を背負つて、急坂をのぼるような姿をみせられることは、まことに非藝術的で味氣ないものである。がしかし、これも考えてみれば、あくまできき手の側にたつてのいいぶんである。しかも、全員出演は決して皮肉でもなんでもなく、前述のように事實結構なことでもあるわけだが、それと同時に年一度の卒業會に、これぞ選良という人たちだけをそろえて校外の人間にきかせる、という會もやはり一つはあつた方がよいのではないだろうか。だれでも出るといふことだけでは、一種の惡平等におわつてしまふおそれがありはしないか、などと、これまたきき手の側の注文であらう。

ところで、この會は三月二十八、九兩日、藝大奏樂堂でもよおされたのだが、作曲、聲樂、絃、管、ピアノ各部門を通じて、今年、これはとももう人がほとんどなかつた。中にはこれから受験しても合格がうたがわしいとおもうような人もあつた。しかし、それでこそ藝術の學校だともいえるのだから、この全般的低調さは、大切な時を戰爭でうばわれた終戦直後の入學生だからだ、と某先生のおもいやりのある説明で私も納得したし、また、ここにも數年にわたつたあの戰爭の被害者があることをしつて、卒業後の精進と發展を切望せざるをえなかつた。

第一日は作曲と聲樂。

作曲 昨年度毎日コンクール第一位入賞の白石顯雄(李顯雄)氏の五重奏曲が出演者病氣という理由で休演。

大橋博氏のフリユートとピアノのためのファンタジーは、美しい。だがきわめて平凡なメロディーと、それに比して、ところどころきわめて氣のきいた和聲の流れのある作品だが、まことに個性にとぼしい。この作品のはつたりのない堅實さは、藝術的にも非藝術的にもどちらにも道が通じそうである。フリユートの長谷川博氏がこの曲のメロディーをはなはだおもいやりなく吹きとばしていたのに反して、池本純子さんのピアノは、この曲にある私のいわゆる氣のきいた和聲感をよく出してた。

柳原徳藏氏のピアノ・ソナタ(及能春江さん演奏)は、音樂への感動と

いうよりも、主樂想の展開をもてあましていくように終始晦澁感におわれる作品。もつとすなおに、力侖のままに「歌う」ことが大切だろう。終樂章が多少ともまとまりがあつたのは、一等すなおにかけていたからにはかならない。

聲樂 数名の外國人特別入學生があるが、これは後にして日本人からはじめよう。

安藤郁夫氏（バリトン） シューベルトの「影法師」とメンデルスゾーンの「聖譚曲」の二曲を歌つたが、借りものの歌い方が先に立つて感じられるので、一見おとなびているが、實はこれはいへんよくないことだとおもう。というのは、聲が生まれて生硬なのに歌い方にだけ氣取りがみえるからだ。何よりもまず聲の技巧をねつてほしい。

鈴木達也氏（テノール） ブラームスの「五月の夜」とプッチーニのトスカの「星は光りぬ」。この人は前者にくらべてまじめ一方だが、どうも謹厳すぎる藝術はおもしろくない。それに聲樂的訓練もうんとしてほしい。

津村トシ子さん（ソプラノ） アイダの「勝てて歸れ」。この人の聲はまだまだのびるだろう。まだスケールは小さいし、ドラマチックな力もたらないが、それでも一應オペラのなふんいきをもっている。そして表現がすなおなのがなによりいい。しかし、ことばがとかく口先にこもりがちになるのは、オペラにはとくによくあるまい。すべてが平凡なよさだが、一切がこれを打破することにかかっているとみるべきだろう。

向田壽子さん（ソプラノ） 上野の卒業演奏會にもついに（私の記憶のまらがいであらなければ……）フランスの歌曲が登場した。デュパルクの「旅へのいざない」と「フィダレ」。非常にあらけずりで、チョットめんくらつたがなかなかおもしろい。こういう人は音樂の専門の見方では缺點だらけなのだろうが、私などからみると、「歌」をもつていておもしろい。まだ多分にドイツくさいのとテムボが悪いのでフランスの歌の味が弱い。淺野さんのお弟子さんにちがいないが、一方にフランス歌曲への野望をすてず、他方で淺野先生に聲樂的にも藝術的にもうんとイヂめられることが必

要だ。きつとよくなる、と私はおもうが……？

山越ミネ子さん（ソプラノ） イエンゼンの「ひびけバンデーロ」と「そよ吹く風」。まだ生硬だが聲のある人だ。わりあいしつかりと歌をつかんでいてよいが、リリカルな表情の勉強がたりないようだ。絶對的なみをもつことにはならぬが、聲樂的には前の向田さんよりまとまつているようだ。にもかかわらず創意の弱いところが山越さんの弱點ではないだろうか。

平井美佐子さん（ソプラノ） グウノーのファウストの「トウレ王」と「寶石の歌」。この人も美しい聲でよくまとまつた堅實な歌い方だが、何か内側からつきやぶつて出る力と、とうすいな魅力がない。メロディの表現があまりにも平面的すぎるからだ。器樂でフレージングの一つ一つの理解が必要なと同じように、メロディーの動きをはつきりとつかんで情緒を生かさないと劇的な説得性がうまれない。

中西愛子さん（ソプラノ） フライシュッツの「アガートのアリア」。最初のうち表現が不安定だったが、この不安定さは、技巧のこと以外に、愛情の歌を歌うにはあまりにもお嬢さんらしい表現になることが大きい原因なのだろう。きれいな聲だが、その聲が一貫して生きていない。自分の氣持や表現の力侖でこなせるところだけが綿密に表現されてしまうので、訴える力が散慢になる。だがこの人はまだのびる人だろう。

木下武久氏（バリトン） まだなまな聲だ——というのは、まだまだうるおいをますこともできるし音量も出るといういみだ。しかし、ゆつたりと聲が出るのが第一の強味だ。ヴォルフの「アナクレオンの墓」、「そを想えかし」、「音樂學生」の三曲。少し曲が重すぎたが、よく歌っていた。「音樂學生」が曲として最もよく生かされていたが、これは曲のメロディの動きがかかるのと自分自身で曲をよく理解できていたからだろう。またその反面に、ヴォルフ獨特のせんさいなリリズムには當然のことだが、まだ齒がたたぬことを物語っている。何よりも聲をきたえることに専念してほしい。というのはこの程度の素質のよさはこのままでは決して大きく成長するものではないからだ。

中村浩子さん(メッツォ・ソプラノ)「ドンカルロ」の「きびしき運命」。音量もあり、ドラマチックな表情も一應もっている。聲にもう少しまるみがほしいことと、ピアノの美しさをねらってほしい。この日の限りでは、前の木下氏と二人が一番点数がいいだろう。大いに勉強をのぞみたい。

聲樂では四人の外國人特別學生が卒業した。どの人も日本人とはちがった特色のある聲をもっているのだが、おしいことにきびしい技巧の修練がたりないようだった。但し、「カルメン」の「花の歌」をうたつた 吳山京世氏(テノール)は、表現はなかなか成熟していたが、聲の力がたりない。ということも結局は、技巧の修練の未熟に歸するのだろう。これを征服すれば大いに活躍できるだろう。

王子薇さん(ソプラノ)は、ヴェルディの「トロバトーレ」の「静夜」をうたつたが、歌の性格があまりおとなしすぎた。それと同時に聲の修練がまだ足りない。だが非常にすなおなきれいな聲だから未來の勉強を大いに切望したい。

ダイラミ・ハッサン氏(テノール) この人の聲はちよつと南歐人がかっているし、歌い方も南歐的なもので、マッティの「眞實にあらず」の方が、シューベルトの「シルヴィア姫」よりはるかによく歌えていた。シューベルトが民謡的になつてしまふほどこの人の歌には特長があつた。しかし、小さい聲ではつきりとうたえる訓練をつむことが必要だ。そうすれば、單に聲の大小だけでなく、抒情性をもつとゆたかなニュアンスをもつて表現されるだろう。

以上、第一日は、二人の作曲と十二人による聲樂十九曲。總計二十一曲をきいたわけで、それを十把一からげに寸感を書いたのであるから意をつくしえていない點は諒とされたい。

第二日は管と絃とピアノであつた。

宇野浩二氏(フリユート) モーツアルト、ト長調コンツェルト(K三一三)。音も比較的よく、フリユートの演奏技巧をしらない私には、なかなかのテクニシアンにみうけられたが、技巧にまかせて吹きまくっている

感じで、音樂的な表現が非常にたりない。モーツアルトにはどんな速い音型や走句にも獨特の味わいがあるものだが、この人はそんなことに容捨なく吹きまくる。そこに魅力があつたのか、なかなか拍手があつたが、しかし、表現に「歌」がたりないことは大きな缺點である。

長谷川博氏(フリユート) イベールのコンツェルト。音にしめり氣がたりないでかさかしていることがまず第一の弱點だ。それにこの人もおそろしく吹きまくる。一つ一つのフレーズの終り方が亂暴だ。呼吸法が悪いのかそれとも他の技巧上の缺點なのかもしれないが、この曲も少し荷がかちすぎたのではなからうか。

ヴァイオリンの河村博子さん、ショーンソンの「詩曲」(作品二五)は表現は非常にすなおなのだが音にはばのなのが残念だ。

ことにE線A線の音色に……。曲がこの人の理解を大部オーバーしていることも表現を單調にした原因だろうが、まだ勉強しだいでどうにでも變りうる人だろう。なによりもまずこの人には自分の音をゆたかにすることが先決問題だ。

田中榮一氏(ヴァイタンのコンツェルト・第五番)。なかなかよく勉強してあり、いわゆる秀才型の演奏である。だから藝術味にとほしい。右肩に力がいりすぎるためか運弓がこわばつて音色が少しかたくなる。この人にも音色の變化を工夫することを望みたい。

ピアノ

鈴木貴志子さん(ブラームスのヘンデル・ヴァリエーション作品二四)。部分的な音色は悪くないのだが、ペダルのせいか和聲がにこる。この曲で和聲がにごつては重厚をとおりこしてききづらい。主要なメロディーを浮彫的にはつきりさせることが大切だ。

小柳芳子さん(ベートーヴェンのエロイカ・ヴァリエーション・作品三五)。この人のペダルにも問題があるようだ。スケールのな上昇フィギュールがつねに一律にごつてしまふのが非常に氣になつた。それに主題を少しねばりすぎる。もう少し明快さがほしかつた。總體によくまとまつてい、いわゆる學校的な點數ではいいだろうとおもいますが、秀才型でありすぎる。

出張者メンバー

1st Violin	中 宛 村 東	Viola	井 渡 上 邊	Flute	川 崎	Trombone	山 本
	高 山 角 田	淺 妻	山 口	Oboe	大 石	永 浜	
	山 島 崎 根	伊 武 藤 笠	鈴 木	梅 原	齋 藤		
	河 川 村 田	原 佐 田 野	Clarinet	北 爪			
2nd Violin	岩 竹 内 崎	Violoncello	大 森	Bassoon	中 田		
	岡 坂 本 田	廣 小 田 澤	西 川	Trumpet	中 山		
	宮 黒 崎 崎	野 宮 山 崎	山 本	Horn	谷 中		
	赤 岩 儀 星	丹 寺 羽 田	秋 葉		二 侯		

〔手書きの横書き〕

演奏曲目

☆独唱・合唱・管絃樂

第九交響曲……ベートーヴェン

第四樂章「歡喜に寄す」

指揮

ソプラノ
テナート
バリトン

金 子 登
中 利 順
渡 村 浩
石 津 高 憲 一

☆能 樂 (十四時開演)

☆箏 樂

高 砂……

仕舞
宝生九郎

菱 田 尚
佐 野 俊
當 山 道
淺 見 重
武 田 四 郎

☆箏 樂

松 風……

唄

岸 邊 從
緒 形 美 恵 子
小 澤 美 智 子
小 山 富 江
小 室 智 子

野 口 松 枝
西 山 智 子
鹿 島 三 枝
山 美 八 子

落葉の踊り……宮城道雄作曲

三絃
小山節子

上 木 康
土 橋 梯 明
菊 地 子

☆長 唄

☆長 唄

越後獅子……

三味線

菊 上 木 康
高 田 地 梯 明
田 橋 子
鈴 木 春 子
芳 賀 米 子
鈴 賀 春 子
高 島 佳 輝 子
山 崎 泰 子
崎 橋 泰 子
み 泰 子
ど 子

〔原資料横組〕

昭和二十六年十月四日 東京音楽学校にお別れする会
昭和廿六年十月四日(木)
東京音楽学校にお別れする会

社団法人 東京芸術大学音楽学部同声会

—母校の歩み七〇年—

- 明治二二年一〇月 文部省に音楽取調掛を置く
 一八年 三月 最初の卒業生を出す 全科卒業幸田延子他二名 ほか
 に府縣派出の傳習生二〇名
 二〇年 二月 取調掛卒業式にソープレット指揮でベートーヴェン作
 シンフォニー(第一?)初演
 一〇月 取調掛を東京音楽学校と改稱す
 二三年 二月 上野の現校舎に移る
 二八年 本校教授 上原六四郎著「俗樂旋律考」出版さる オ
 リヂナルな科学的音楽理論書の先驅
 三一年 五月 神田分教場創設
 三六年 本校奏樂堂に於けるグルック作オペラ「オルフオイ
 ス」初演 柴田(後の三浦)環 オイリディーチエを
 演ず 指揮ペリー ピアノ伴奏ケーベル博士 オペラ
 全曲を舞台で演じた最初の記録
 クローン(指揮)シヨルツ(ピアノ)新任シウエルク
 マイステル(チエロ・作曲)ペツオルト夫人(声樂・
 ピアノ)と合せて外人教師陣 空前の充実を見る
 一三年一二月 本校職員生徒によりベートーヴェン作「第九シンフォ
 ニー」の初演行わる 指揮クローン
 日本の空に始めて「歡喜の頌歌」が高らかに響いた
 同声会員三〇〇〇名を突破す
 昭和二〇年 美術学校と合併して東京芸術大学創設され東京音楽学
 二四年 校は大学完成までその一部となる

〔原資料横組〕

昭和二十七年三月二十七日(木)三十日 卒業演奏会

昭和二十七年三月二十七日(木)洋楽 二十八日(金)洋楽
 二十九日(土)洋楽 三十日(日)邦楽・洋楽
 会場 東京芸術大学音楽学部奏樂堂(上野公園)
 卒業演奏會曲目(昭和二十六年度)
 東京藝術大学東京音楽学校

- 第一日 三月二十七日(木) 午後一時 洋 楽
- 一、オルガン独奏
 コラール イ短調
 本科卒業 小林 俊子
 - 二、バリトン独唱
 (イ) 我汝を愛す
 (ロ) 神は薔薇に觸れさせ給ひぬ
 外國人特 別入学生 ムハマド・ユスフ
 下 山 望
 - 三、ピアノ独奏
 「さすらい人」幻想曲
 本科卒業 シューベルト
 - 四、バリトン独唱
 我が薔薇
 同 竹本 正俊
 - 五、ピアノ独奏
 スケルツォ 嬰ハ短調 作品三九
 同 シューマン
 大内喜代子
 - 六、作品発表
 「メロディ オン セヴンス」(ウインドバンドのための作品)
 (演奏 音楽学部附属吹奏樂研究部 指揮 山本 教官)
 本科卒業 鏑 木 創
 - 七、バリトン独唱
 大都市の夕べの歌
 同 北村喜美夫
 コルナウト

- 八、ピアノ独奏
本科卒業 上田 菜々
バラード 作品一七 ショパン
- 九、ソプラノ独唱
同 金子 淑彌
(イ) 捨てられし少女 ヴォルフ
(ロ) 歌劇「ラ・ボエーム」より 私の名はミミ プッチーニ
- 十、ピアノ独奏
同 八木 登代
幻想曲 作品一七 シューマン
- 第二日 三月二十八日(金) 午後一時 洋 樂
- 一、オルガン独奏
本科卒業 島田 麗子
パッサカリア ハ短調 バッハ
- 二、ソプラノ独唱
外國人特 別入学生 陳 貞麗
歌劇「ルクレチア・ボルジア」より 何と麗わしい
- 三、トラムペット独奏
本科卒業 持 丸 榮
協奏曲 第二・第三楽章 ハイドン
- 四、バリトン独唱
同 芦 野 広
牧 人 ピゼッティ
- 五、作品発表
同 室岡 文雄
ヴァイオリンとピアノのための奏鳴曲 第一楽章
(演奏 ヴァイオリン 黒崎邦彦・ピアノ 久本成夫)
- 六、ソプラノ独唱
同 白石 亘子
歌劇「ラ・トラヴィアータ」より あゝ、そは彼の人か ヴェルディ
- 七、ピアノ独奏
同 金森 晴生
奏鳴曲 作品一一一 ベートーヴェン
- 八、ピアノ独奏
本科卒業 柳原 渥子
メフィスト ワルツ リスト
- 九、ソプラノ独唱
同 林 朝子
(イ) 搖籃 フォーレ
(ロ) 歌劇「トスカ」より 歌に生き恋に生き プッチーニ
- 十、ヴァイオリン独奏
同 岡田 富士子
協奏曲 第一番 ト短調 第一楽章・第二楽章 ブルッフ
- 十一、テノール独唱
同 世 川 勇
旅への誘い デュパルク
- 十二、ピアノ独奏
同 莊 和子
奏鳴曲 ロ短調 作品五八 ショパン
- 第三日 三月二十九日(土) 午後一時 洋 樂
- 一、ピアノ独奏
本科卒業 本多 安子
幻想曲と進走曲 ト短調 バッハリスト
- 二、ソプラノ独唱
同 山下 孝子
リラの咲く頃 ショーンソン
- 三、テノール独唱
同 中 西 博
(イ) まことか? テイト・マッティ
(ロ) 汝れた一人のために ヘンリー・ゲール
- 四、ピアノ独奏
同 別宮 純子
幻想曲 作品四九 ショパン
- 五、作品発表
同 間宮 芳生
クラリネット・ヴァイオリン・チェロ及びピアノのための四重奏曲
アレグロ ノン トロツポ・アンダンテ・アレグロ

—— 休 憩 ——

(演奏) クラリネット 大橋幸夫・ヴァイオリン 坂本玉明
チエロ 小沢教官・ピアノ ア 田村教官

——休憩——

六、ピアノ独奏 本科卒業 三谷治子

クライスレリアーナ シューマン

七、アルト独唱 同 江田礼子

永遠の愛 ブラームス

八、ヴァイオリン独奏 同 黒崎邦彦

協奏曲 第一番 ト短調 第二楽章・第三楽章 ブルッフ

九、アルト独唱 同 坂田智璿子

(イ) 祈 ギョルツ

(ロ) 恋人の死を ヴォルフ

(ハ) ひそやかなる恋 ヴォルフ

十、ピアノ独奏 同 及能春江

変奏曲・間奏曲・終曲 デューカ

第四日 三月三十日(日)午前十時三十分 邦楽

シテ 須崎恵子(本科卒業)

一、宝生流 能楽 花 月 ワキ森茂好 大鼓安福教官 笛藤田教官

間 山本則寿

後見 平井澄子 地謡 菱田尚三 佐野萌

朝倉桑太郎 前田忠茂

二、生田流 箏曲 根曳の松 同三 山内喜美子

同三 土橋教明

三、生田流 箏曲 瀨 音 同 同 関民子

四、長唄 連獅子 同 同 鈴木輝子

三味線 本科卒業

田島 紺野 芳賀 菊岡 教子 米子 佳幸 子

同日 午後一時 洋楽

一、ピアノ独奏 本科卒業 田辺緑

奏鳴曲 変ロ短調 作品三五 ショパン

二、ソプラノ独唱 同 伊藤礼子

あふるる涙 マスネー

三、オーボエ独奏 同 梅原美男

協奏曲 ハ長調(ケツヒェル三一四) モーツァルト

四、ソプラノ独唱 同 泉静江

歌劇「オテロ」より 柳の歌 ヴェルディ

五、ヴァイオリン独奏 同 坂本玉明

協奏曲 ホ短調 作品六四 メンデルスゾーン

六、ピアノ独奏 同 伊丹幸子

奏鳴曲 ハ長調 作品一 プラームス

——休憩——

七、作品発表 本科卒業 中尾米子

クラリネット・ヴィオラ及びピアノのための三重奏曲

第一楽章

(演奏) クラリネット 北爪教官・ヴィオラ 河野教官・

ピアノ 内藤芳枝)

八、作品発表 同 山村昭子

ピアノとヴァイオリンのための奏鳴曲

第一楽章 アレグロ モデラート

(演奏) ヴァイオリン 黒崎邦彦・ピアノ 及能春江)

九、作品発表表

本科卒業 外山雄三

バルティタ 第三番より

アレグロ・パストラールアンダンテイーノ

(演奏) フルーツ 吉田雅夫・クラリネット 大橋幸夫
ファゴット 中田教官・ピ ア ノ 外山雄三

十、作品発表表

同 諸井 誠

室内のための音楽 第三番 作品七より

第五楽章(終章) 序奏と遁走曲

(演奏) フルーツ 吉田雅夫・オーボエ 鈴木教官
クラリネット 北爪教官・ホルン 千葉馨
ファゴット 中田教官・ヴィオラ 河野教官

——休憩——

十一、ピアノ独奏

本科卒業 北郷徳子

クープランの墓

ラヴェル

十二、ソプラノ独唱

同 竹内綾子

歌劇「ルチア」より 優しい声が聞える

ドニゼッティ

十三、ヴァイオリン独奏

同 竹内久文

協奏曲 第七番 ニ長調

モーツァルト

第一楽章

十四、ソプラノ独唱

同 平林深汐

「ジャンヌ・ダルク」より さらば故郷

チャイコフスキー

十五、ピアノ独奏

同 三橋絢子

奏鳴曲 第七番 作品八三

プロコフィエフ

十六、ソプラノ独唱

同 柴玲子

(イ) 牢獄より

(ロ) 五月

十七、ピアノ独奏

本科卒業 鳥井聆子

奏鳴曲 ロ短調

リス ト

上野から粒ぞろいの新人

毎年のことだが、春の楽しみの一つは、音楽学校を出る新人。四日間にわたって行われた今年の上野の卒業演奏成績は全体に粒がそろって向上しているといわれている。ピアノは鳥井聆子をはじめ五人出るが、五人とも特色ある曲目で、特色ある演奏を形をくずさず聴かせたといわれる。声楽は音楽的にはピアノに劣ったが、特に目立ったのは、体格の大きな、声量のある人がそろっていたことだった。また作曲の諸井誠(三郎氏二男)、外山雄三(国彦氏三男)、鏑木創(欣作氏長男)ら、音楽人二世が、今年には六名もそろって卒業したが、こういうところからも日本における洋楽が既に相当の歴史をもって来たことが感ぜられる。

(『朝日新聞』昭和二十七年四月十四日)